二　左記品種ハ本表ノ匁附ニ據ラサルコトヲ得但シ最低匁附ヲ下ルコトヲ得ス

イ　金屬絲ヲ使用シタルモノ

ロ　縫取ヲ施シタルモノ

ハ　主ナル地合ト著シク密度ヲ異ニセル部分アルモノ

ニ　其ノ他之ニ準スルモノ

三　間帶明瞭ナラサルモノハ間帶ナキモノト看做ス

四　本表ニ於テ經絲又ハ緯絲ノ一本ト稱スルハ組織上單獨ノ働ヲ爲スモノヲ謂フ

五　織物ノ增量ハ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

六　片甲斐絹ノ經絲ヲ除クノ外原絲ニ生澱粉ヲ施用スルコトヲ得ス

二　印章樣式

（BY THE）ノ次ヘ道府縣名ヲ挿入スヘシ

練絹織物ニ用フル合格印章、第二十五條製織標準ニ據ルモノノ合格印章及檢査濟印章ノ色ハ織物地色ノ關係ニ依リ不明瞭トナル場合ニ限リ赤色トス

（圖略ス）

●輸出綿織物取締規則

（大正八年八月九日農商務省令第二十七號）

改正　大正九年第二號、第三七號、一四年商工省令第八號

輸出綿織物取締規則左ノ通定ム

輸出綿織物取締規則

第一條　左ニ揭クル綿織物ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

綿縮、綿絨、綿フランネル、綿ポプリン、斜綾綿布及變リ綾綿布（三枚若ハ四枚正斜紋織ノモノヲ除ク）、綿小倉織、綿腿帶子、縞綿布、色絲又ハ晒絲ヲ以テ製織シタル綿布

前項ノ規定ハ綿腿帶子以外ノ綿織物ニシテ幅四十五「インチ」以上ノモノ、幅十八「インチ」未滿ノモノ又ハ長十二「ヤード」未滿ノモノニハ之ヲ適用セス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

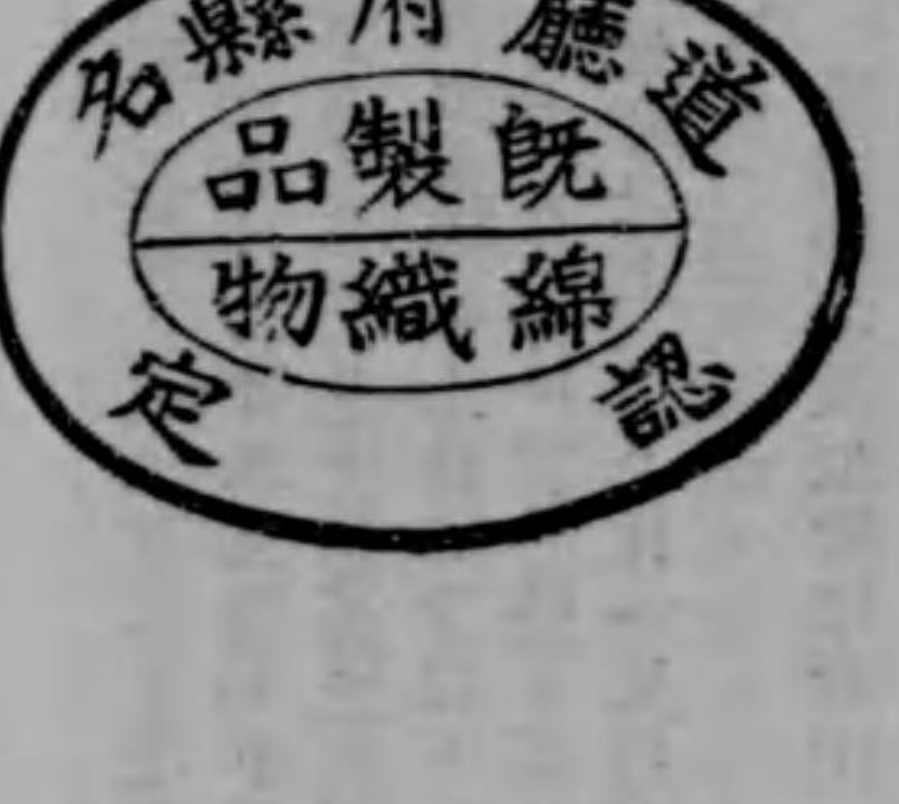
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正八年九月十日迄ニ製織シタル綿織物ニシテ大正八年十月十日迄ニ其ノ種類及數量ヲ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ屆出テ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ於テ左ノ證票又ハ證印ヲ製品又ハ外裝ニ附シタルモノニ限リ大正十年五月十日迄檢査ヲ受ケスシテ輸出スルコトヲ得

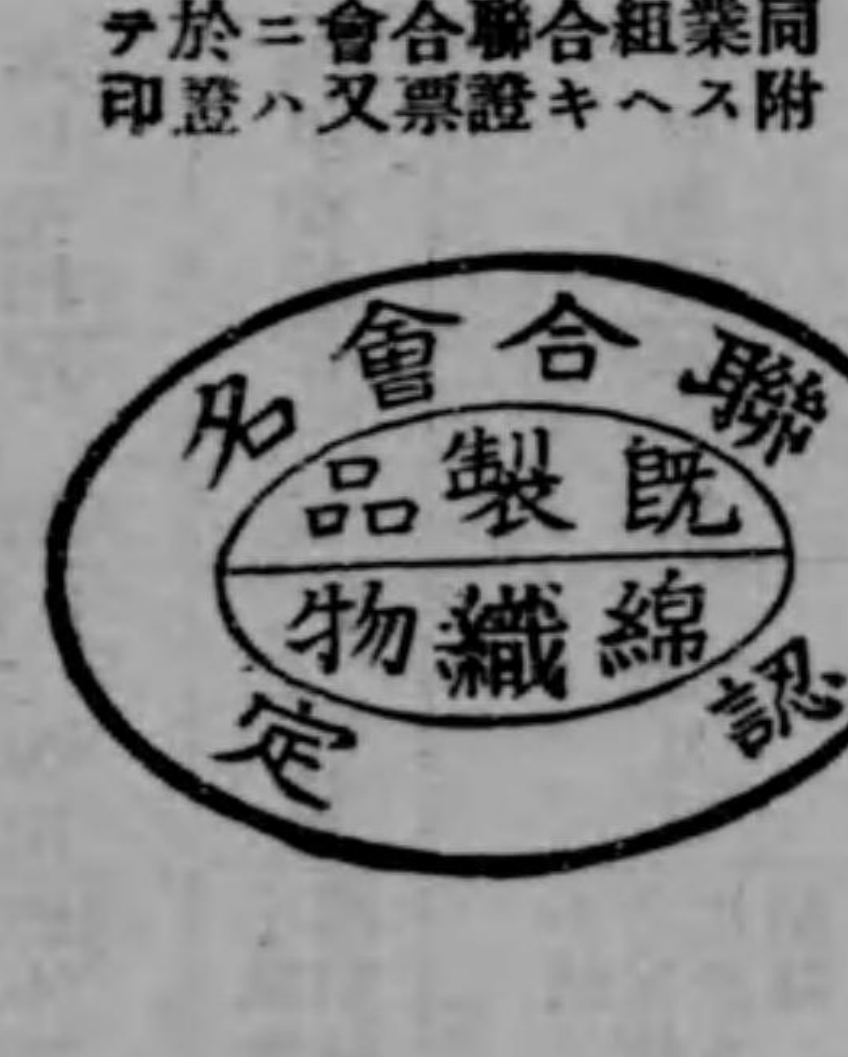
道廳府縣ニ於テ附スヘキ證票又ハ證印

黑色



同業組合聯合會ニ於テ附スヘキ證票又ハ證印

黑色



（大正八年八月九日農商務省訓令第七號）　道廳　府縣

輸出綿織物取締規則ニ依ル同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出綿織物ノ檢査標準左ノ通定ム

同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出綿織物檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル綿織物ハ合格ト爲スコトヲ得ス但シ不合格ノ程度ニ達セサル瑕疵、汚染其ノ他ノ缺點アルモノハ之ヲ表示スルモノトス

一　甚シク地合粗笨ナルモノ

二　地質ノ脆弱ナルモノ

三　製織不良ナルモノ

四　染色不良ナルモノ

五　精練、漂白、整理其ノ他ノ加工不良ナルモノ

六　商慣「」ニ反シ幅、長、量目不足ナルモノ又ハ幅ノ不同著シキモノ但シ特殊ノ場合ニ於テ豫メ之ヲ表示シタルモノニシテ表示ノ數ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

七　瑕疵、汚染其ノ他ノ缺點著シキモノ

八　前各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルモ前各號ヲ參酌シテ不良ト認ムルモノ

●花莚檢査規則

（明治三十八年五月十五日勅令第百六十一號）

改正　明治四三年第一九三號　大正三年第二〇一號、一三年第二五六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ花莚檢査規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（農商務大臣副署）

花莚檢査規則

第一條　花莚檢査所ノ檢査ニ合格シタル花莚及野草莚ニ非サレハ輸出スルコトヲ得ス但シ滿洲ニ輸出スル花莚及野草莚竝主務大臣ノ指定シタル種類ノ花莚及野草莚ハ此ノ限ニ在ラス

檢査後加工シタルトキハ主務大臣ノ定ムル場合ヲ除クノ外檢査ハ其ノ效力ヲ失フ

第二條　花莚又ハ野草莚ノ檢査ヲ請求スル者ハ檢査手數料ヲ納ムヘシ

第三條　檢査證、檢査手數料ノ金額及徵收方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條　第一條第一項ニ該當セサル花莚又ハ野草莚ヲ輸出シ又ハ輸出セムトシタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要物産同業組合法ニ依リテ設置シタル組合及聯合會ノ定款ニ從ヒ本令施行前檢査ヲ受ケ其ノ證アル花莚ニ關シテハ本令ヲ適用セス

附　則（大正三年勅令第二百一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百三十三號ハ朝鮮ニ移出スル花莚ノ檢査ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則（大正十三年勅令第二百五十六號）

本令ハ大正十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ製造シタル野草莚ハ第一條ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ輸出スルコトヲ得

●花莚檢査規則施行細則

（明治三十八年五月十五日農商務省令第十六號）

改正　明治三八年第二一號、四一年第一三號、四三年第一三號、四四年第二八號　大正二年第二一號、三年第一七號、四年第一二號、五年第五號、六年第二號、九年第一四號、一三年第二三號、一四年第一號　昭和二年商工省令第二號、第七號

花莚檢査規則施行細則左ノ通相定ム

花莚檢査規則施行細則

第一條　花莚又ハ野草莚ニシテ商品ノ形體ヲ成ササル見本竝野草莚ニシテ十八平方尺以下ノモノ、經絲ヲ以テ緯條ノ全部ヲ被覆シタルモノ及藁以外ノ草類ヲ主タル緯條ト爲シタルモノハ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ輸出スルコトヲ得

第一條ノ二　輸出花莚及輸出野草莚ノ檢査ハ花莚檢査所ニ於テ之ヲ行フ但シ檢査請求者ノ申請ニ依リ花莚檢査所長特ニ必要アリト認ムルトキハ出張檢査ヲ爲スコトヲ得

第二條　花莚又ハ野草莚ノ檢査ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ請求書ヲ花莚檢査所長ニ差出スヘシ

第三條　花莚又ハ野草莚ノ檢査請求者ヨリ納ムヘキ檢査手數料左ノ如シ

普通花莚（長十二丈一尺幅三尺ノモノ及長幅ニ過不足アルモノト雖普通花莚ト認メ得ヘキモノ）	一本ニ付	金參錢
合格シタル普通花莚ニシテ見本ヲ切リ取リタルカ爲更ニ檢査ヲ受クルモノ	一本ニ付	金貳錢
廣幅花莚	一枚ニ付	金壹錢
短尺花莚（長三丈未滿ノモノ）	一枚ニ付	金壹錢
小物花莚（十八平方尺以下ノモノ）	十枚ニ付	金壹錢
長サ一丈八尺ヲ超ユル野草莚	一本ニ付	金六錢
長一丈二尺以上一丈八尺以下ノ野草莚	一枚ニ付	金貳錢
長一丈二尺未滿ノ野草莚	一枚ニ付	金壹錢

前項ノ檢査手數料ニシテ一回ノ納付總額ニ厘位ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ之ヲ一錢ニ繰上ク

檢査手數料ハ收入印紙ヲ以テ檢査請求書ニ貼附シ之ヲ納ムヘシ

花莚檢査所ニ於テ檢査請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後請求書ノ紙面ト貼附印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

既納ノ檢査手數料及其ノ過剰額ハ之ヲ還付セス

第四條　削除

第五條　試驗又ハ研究ノ目的ヲ以テ花莚又ハ野草莚ヲ製造シタル者ハ其ノ花莚又ハ野草莚ノ鑑査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ鑑査ヲ受ケムトスルトキハ製造ノ目的、方法其ノ他鑑査ヲ要スル事項ヲ詳記シタル請求書ニ花莚又ハ野草莚ヲ添附シ之ヲ花莚檢査所ニ差出スヘシ

第六條　花莚檢査所ニ於テ第二條ノ花莚又ハ野草莚ヲ受理シタルトキハ第二號書式ノ預リ書ヲ檢査請求者ニ交付スヘシ

前項ノ預リ書ハ檢査請求者ニ於テ花莚又ハ野草莚ノ引渡ヲ受ケタルトキ之ヲ花莚檢査所ニ返納スヘシ

第七條　花莚及野草莚ノ檢査ハ修補乾燥ノ完全ナルモノニ就キ之ヲ行フ

花莚檢査所ニ於テ受理シタル花莚又ハ野草莚ニシテ修補乾燥ノ不完全ナルモノアルトキハ檢査請求者ヲシテ之ヲ修補乾燥セシム

第八條　花莚ノ檢査ハ其ノ原料、染色、模樣、地合、經絲數、耳仕上、緣仕上、長幅及量目其ノ他花莚ノ品位、品質ニ付之ヲ行フ但シ花莚檢査所長ニ於テ必要ト認ムル場合ヲ除クノ外三百三十經以上ノ花莚、捺染花莚、廣幅花莚、短尺花莚、小物花莚及七島藺製各種花莚ニ付テハ量目ノ檢査ヲ、耳粗其ノ他ノ耳仕上ヲ爲ササル花莚ニ付テハ量目、長幅及耳ノ檢査ヲ、四百經以上ノ花莚、七島藺製各種花莚及苧經ノ花莚ニ付テハ經絲數ノ檢査ヲ幅二尺五寸以下ノ小物花莚ニ付テハ長幅ノ檢査ヲ、捺染用生地タルヘキ花莚ニ付テハ緣仕上ノ檢査ヲ行ハス

第八條ノ二　野草莚ノ檢査ハ其ノ原料、地合、經絲、緯條、密度其ノ他野草莚ノ品質ニ付之ヲ行フ

前項ノ檢査ノ外檢査請求者ノ申請アルトキハ花莚檢査所長ハ長幅ノ檢査ヲ爲スコトヲ得其ノ表示方法ハ花莚檢査所長之ヲ定ム

第九條　花莚及野草莚ハ之ヲ合格及不合格ニ分ツ但シ捺染用生地タルヘキ花莚ニ付テハ之ヲ生地正品及不合格ニ分ツ

第十條　花莚ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ不合格トス

一　原料藺不良ナルモノ又ハ不齊ナルモノ

二　染色不堅牢ナルモノ、色度不齊ナルモノ、著色不鮮明ナルモノ又ハ飛形ノモノニシテ著色區畫不判明ナルモノ

三　模樣ノ形狀、配置不整ナルモノ又ハ其ノ錯誤著シキモノ

四　地合ノ粗笨ナルモノ若ハ其ノ密度不齊ナルモノ、經絲ノ弛張アルモノ、原料藺彎曲セルモノ又ハ織疵多キモノ

四ノ二　經絲數四百以上、三百六十、三百三十、二百九十、二百六十、二百四十、二百二十、百八十又ハ百五十ニ非サルモノ、小物花莚ニシテ以上ノ外八十ニ非サルモノ但シ經絲規定數ヨリ一經少キモノ又ハ七經以內多キモノハ之ヲ規定數ニ該當スルモノト看做シ幅三尺ヲ超エ又ハ三尺ニ滿タサル花莚ニ在リテハ其ノ三尺ニ對スル比例ニ依リテ規定數ヲ算出ス

耳絲ハ之ヲ經絲トシテ計算ス但シ耳絲總數二十本ヲ超ユルトキハ之ヲ二十本ト看做ス

五　耳仕上若ハ緣仕上不完全ナルモノ、組藺ノ數不齊ナルモノ又ハ敷延ハシテ彎曲狀ヲ爲スモノ

六　特製品ヲ除クノ外普通花莚ニシテ幅員二尺九寸五分ニ滿タス若ハ三尺五分ヲ超ユルモノ

六ノ二　幅三尺ノ小物花莚ニ在リテハ長五尺七寸ニ、幅二尺九寸ノ小物花莚ニ在リテハ長五尺五寸ニ滿タサルモノ

七　幅員ノ廣狹不齊ナルモノ

八　腐敗、汚損若ハ色違ノ甚シキモノ、品位、品質著シク異リタルモノヲ纏合セタルモノ其ノ他瑕瑾ノ甚シキモノ

九　左表各種ノ普通花莚ニ在リテハ左表ノ量目、其ノ他ノ普通花莚及第八條但書ニ依リ量目ノ檢査ヲ行フ花莚ニ在リテ

ハ第十一條ニ依リ花莚檢査所ノ定ムル量目ニ不足アルモノ但シ長幅ニ過不足アル普通花莚ニ在リテハ現品ノ平方尺數ヲ以テ其ノ量目ヲ除シテ得タル商ニ三百六十三平方尺ヲ乘シタルモノヲ其ノ量目ト看做ス

普通花莚標準量目

種類		量目	種類		量目
平地織 機械織	二百九十經	四貫、七〇〇	同	二百四十經	四貫、六〇〇
同	二百六十經	四、九〇〇	同	二百二十經	四、七〇〇
同	二百四十經	五、一〇〇	同	百八十經	四、九〇〇
同	二百二十經	五、二〇〇	同	百五十經	五、一〇〇
同	百八十經	五、三〇〇	綾地織	二百九十經	五、三〇〇
同	百五十經	五、五〇〇	同	二百六十經	五、六〇〇
目迫織 目迫飛込織	二百九十經	四、二〇〇	同	二百四十經	五、八〇〇
同	二百六十經	四、五〇〇	同	二百二十經	五、九〇〇
同	二百四十經	四、七〇〇	同	百八十經	六、〇〇〇
同	二百二十經	四、八〇〇	同	百五十經	六、二〇〇
同	百八十經	五、〇〇〇	袋織	二百九十經	五、二〇〇
同	百五十經	五、二〇〇	同	二百六十經	五、五〇〇
平地飛込織 機械飛込織	百八十經	五、六〇〇	同	二百四十經	五、七〇〇
同	百五十經	五、八〇〇	同	二百二十經	五、八〇〇
目迫機械飛込織	百八十經	五、三〇〇	同	百八十經	五、九〇〇
同	百五十經	五、五〇〇	同	百五十經	六、〇〇〇
紋花莚	二百九十經	四、一〇〇	諸目織	二百九十經	四、八〇〇
同	二百六十經	四、四〇〇	同	二百六十經	五、〇〇〇
同	二百四十經	五、一〇〇	同	百五十經	五、二〇〇
同	二百二十經	五、一〇〇	苧	經八分目、五分目	五、三〇〇
同	百八十經	五、二〇〇			

一、廣島縣ニ生產スル原料ヲ以テ製造シタルモノハ百匁增トス

一、福岡縣ニ生產スル原料ヲ以テ製造シタルモノハ百匁減、其ノ目迫飛込織ハ二百匁減トス

十　綴合シタル廣幅花莚ニシテ綴合目ノ間隔八分ヲ超ユルモノ又ハ綿絲二十番手片絲八本諸撚以上ノ强度ヲ有スル綴絲ヲ使用セサルモノ但シ花莚檢査所長ニ於テ其ノ綴合ニ付合格品ト同等以上ノ耐久力アリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

十一　絲仕上一寸二分ノ間隔內ニ於ケル經絲ヲ以テ眞結ヲ爲シタルモノト同等以上ノ耐久力ナキモノ但シ小物花莚ニ在リテハ一寸二分ノ間隔內ニ於ケル經絲ヲ二十番手四合以上ノ耐久力アル掛結絲ヲ以テ本掛結ヲ爲シタルト同等以上ノ耐久力ナキモノ

第十一條　普通花莚ニシテ前條第九號ニ揭クル種類ノ組織ヲ併有スルモノナルトキハ其ノ主要ナル組織ニ付其ノ種類ヲ定ム

原料ノ性質又ハ其ノ混合ノ狀況ニ依リ前條第九號ニ依リ難キトキハ最モ類似セル原料ヲ以テ製造シタル普通花莚ノ量目ヲ斟酌シテ花莚檢査所之ヲ定ム

前條第九號ニ揭クル種類外ノ普通花莚及第八條但書ニ依リ量目ノ檢査ヲ行フ花莚ノ檢査標準タル量目ハ其ノ最モ類似シタル花莚ノ量目ヲ斟酌シテ花莚檢査所之ヲ定ム

第十二條　野草莚ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ不合格トス但シ綿絲以外ノ經絲ヲ使用シタルモノニ付テハ第三號及第四號ノ規定ヲ適用セス

一　原料ノ不良若ハ不齊ナルモノ又ハ加工粗惡ナルモノ

二　地合粗笨ナルモノ密度不齊ナルモノ、屈折突起及灣曲甚シキモノ、經絲ノ弛張アルモノ又ハ瑕疵多キモノ

三　九尺間ニ於ケル經絲數七百二十ニ滿タサルモノ

四　經絲二本込ノモノニシテ綿絲十六番手三合絲二本引揃ト同等以上ノ强力アル經絲ヲ使用セサルモノ、經絲一本込ノモノニシテ九尺間ニ於ケル經絲數千三百未滿ノモノニ在リテハ綿絲十六番手五合絲以上、九尺間ニ於ケル經絲數千三百以上千六百未滿ノモノニ在リテハ綿絲十六番手四合絲以上、九尺間ニ於ケル經絲數千六百以上二千四百未滿ノモノニ在リテハ綿絲二十番手四合絲以上、九尺間ニ於ケル經絲數二千四百以上ノモノニ在リテハ綿絲十六番手三合絲以上ノ强力アル經絲ヲ使用セサルモノ

前項ノ經絲數ニ付テハ引揃經ハ之ヲ一經ト看做シ規定數ヨリ三本以內少キモノハ之ヲ規定數ニ該當スルモノト看做ス

綿絲以外ノ經絲ヲ使用シタル野草莚ニ付テハ第一項第三號及第四號竝前項ノ規定ヲ斟酌シ其ノ合格不合格ヲ決定ス

第十三條　削除

第十四條　普通花莚ノ合格品ニシテ長十二丈一尺ニ滿タサルトキハ不足ノ尺度ヲ英尺ヲ以テ表示ス但シ不足ノ尺度一碼ニ滿タサル端數ハ之ヲ一碼ニ繰上ク

普通花莚ノ生地正品ハ其ノ尺度ヲ英尺ヲ以テ表示ス但シ一碼ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ツ

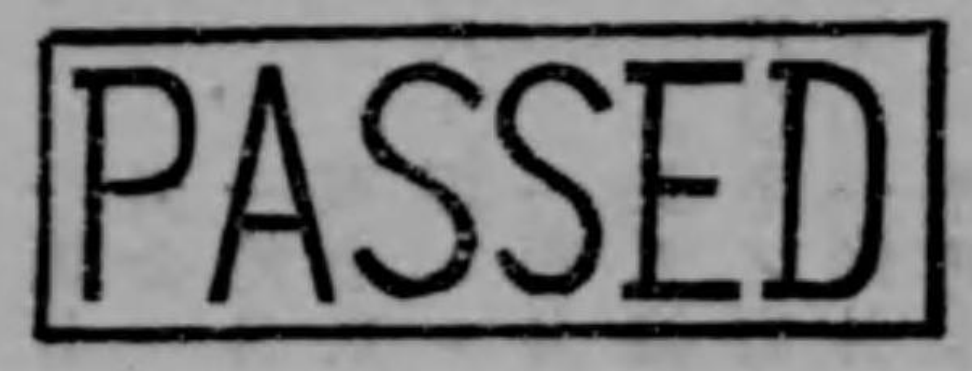
第十五條　削除

第十六條　普通花莚ハ先ツ長幅及量目ヲ檢査シ合格ニ相當セサルトキハ其ノ他ノ項目ヲ檢査セスシテ之ヲ不合格品トス

第十七條　花莚及野草莚ノ長幅竝花莚ノ量目ノ檢査ハ檢査員他ノ檢査員ノ立會ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ他ノ項目ノ檢査ハ檢査員二名以上ニテ之ヲ行フヘシ

第十八條　花莚檢査所ハ第九條ノ區別ニ從ヒ又ハ第十四條ノ規定ニ依リ花莚ニ左ノ記號ヲ烙印スヘシ

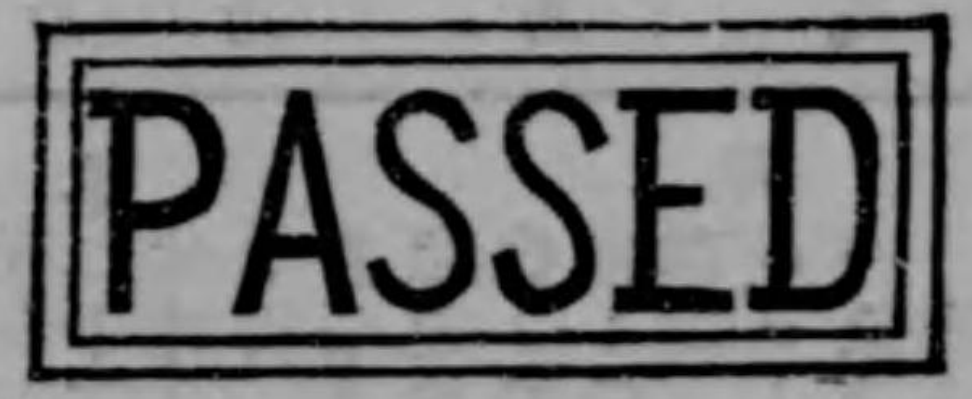
普通花莚ノ合格品



一寸五分

三寸

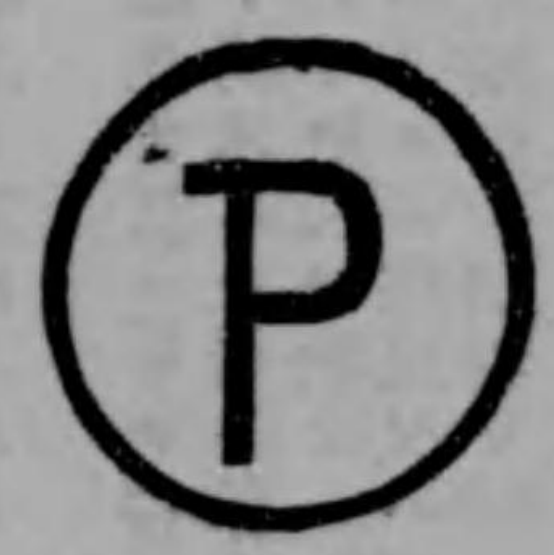
檢査前ニ加工シタル普通花莚ノ合格品



一寸五分

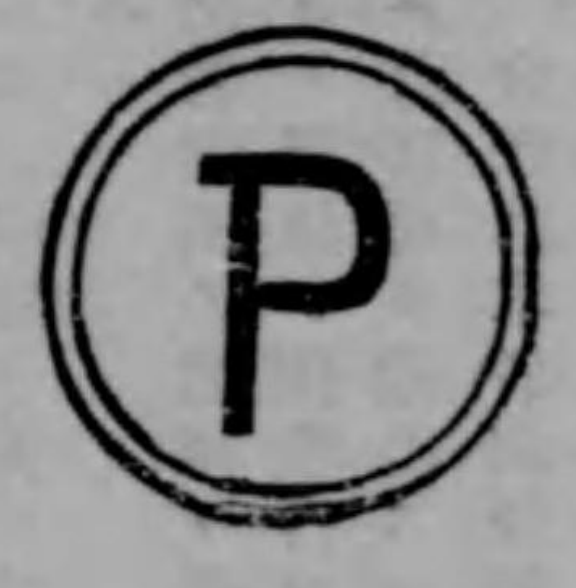
三寸

普通花莚以外ノ花莚合格品



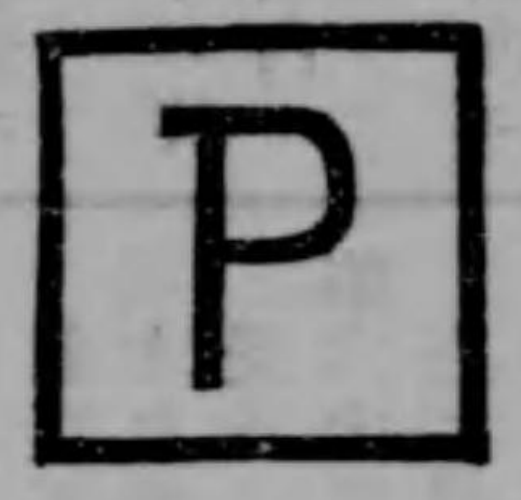
徑一寸二分

檢査前ニ加工シタル普通花莚以外ノ花莚合格品



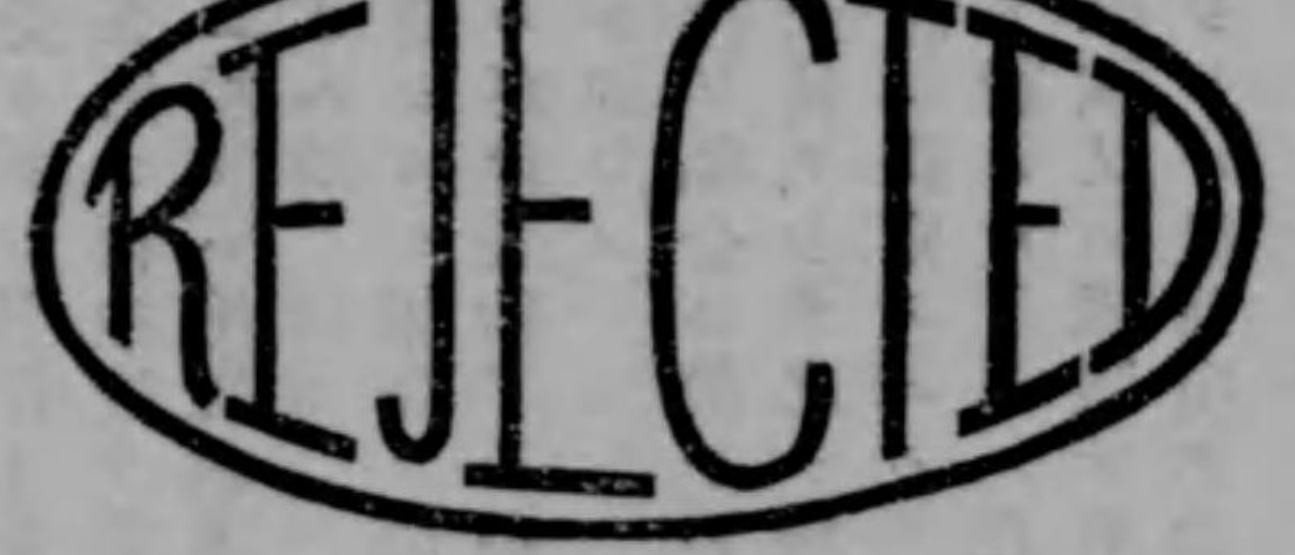
徑一寸二分

檢査後ニ加工シタル各種花莚ノ合格品



方一寸一分

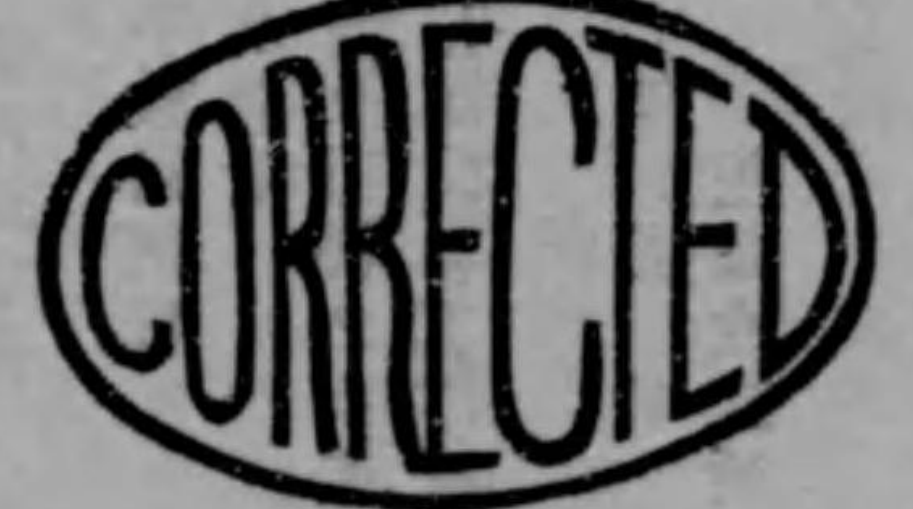
不合格品



一寸八分

三寸四分

正誤

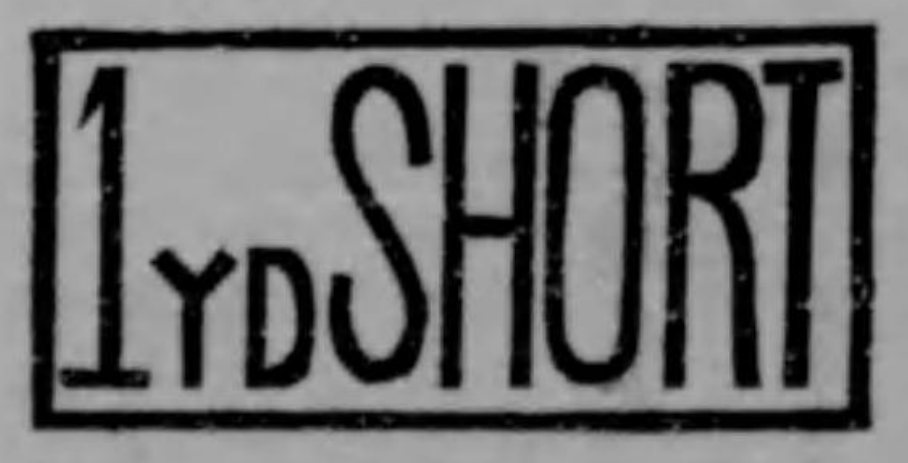


一寸四分

二寸二分

尺不足

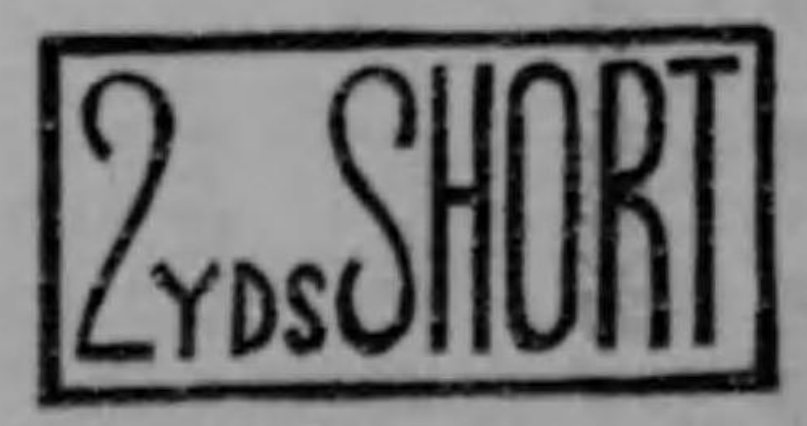
一碼不足



一寸三分

二寸七分

二碼不足

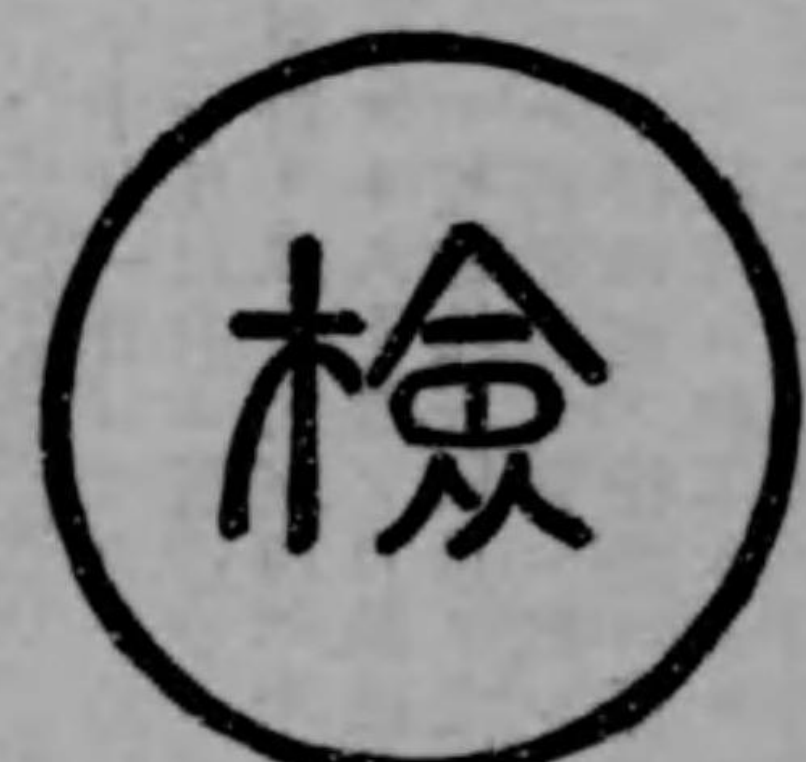


一寸三分

二寸七分

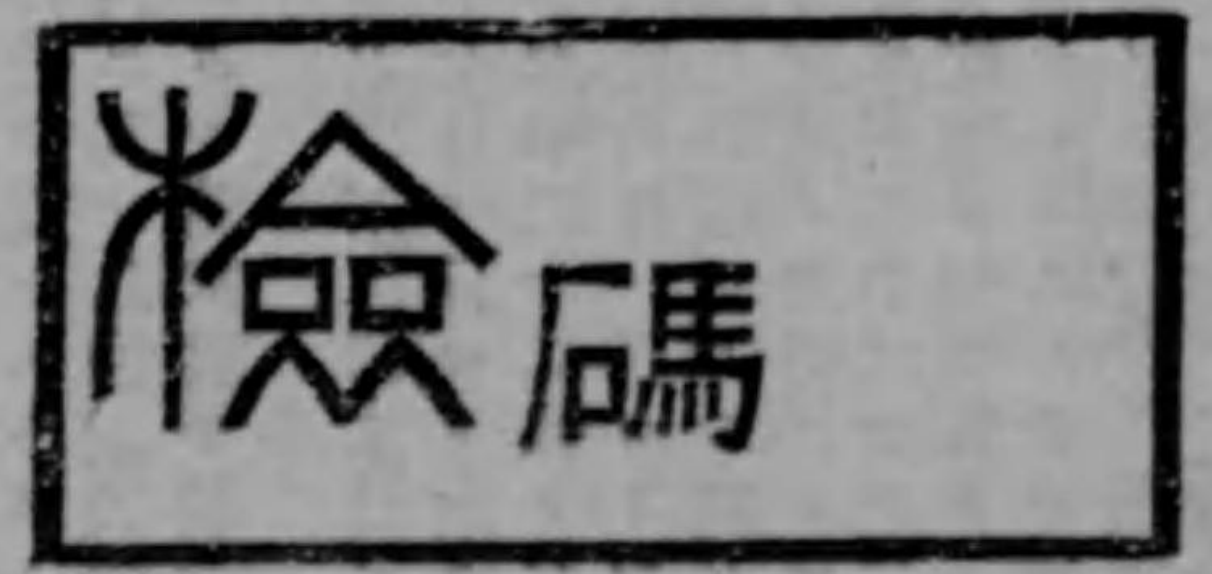
以下準之

普通花莚以外ノ生地正品



徑一寸

普通花莚ノ生地正品



一寸一分

二寸四分

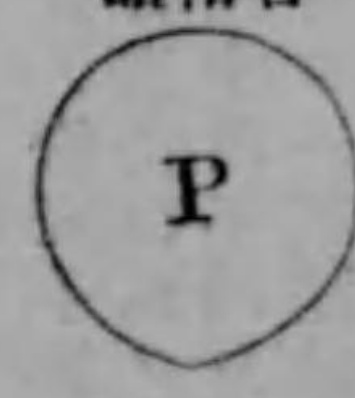
合格品ニ烙印スヘキ記號ハ花莚ノ表面兩端ニ之ヲ施スヘシ但シ廣幅花莚短尺花莚及小物花莚ニハ其ノ裏面一端ニ之ヲ施スコトヲ得

生地正品ニ烙印スヘキ記號ハ普通花莚ニ在リテハ裏面兩端ニ、其ノ他ノ花莚ニ在テハ裏面一端ニ之ヲ施スヘシ

不合格品ニ烙印スヘキ記號ハ其ノ裏面ニ於テ約六尺ヲ隔ツル毎ニ各一箇ヲ施スヘシ但シ綴合廣幅花莚ニ在リテハ其ノ各片裏面ノ兩端ニ、其ノ他ノ廣幅花莚ニ在リテハ其ノ裏面兩端ニ、小物花莚ニ在リテハ其ノ裏面中央ニ之ヲ施スヘシ

第十八條ノ二　野草莚ヲ檢査シタルトキハ花莚檢査所ハ左ノ記號ヲ押捺スヘシ

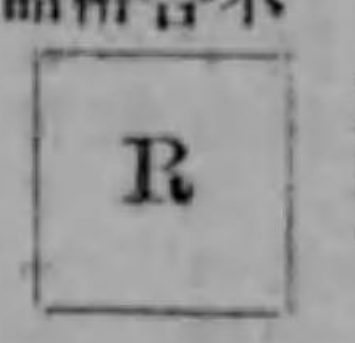
合格品



赤色

經二寸

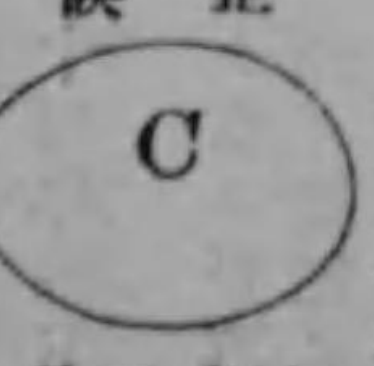
不合格品



黑色

方三寸

正誤



紫色

一寸五分

二寸五分

合格品ニ押捺スヘキ記號ハ野草莚ノ一面一端ニ不合格品ニ押捺スヘキ記號ハ野草莚ノ一面一箇所以上ニ、正誤ノ爲押捺スヘキ記號ハ取消スヘキ記號ノ中央ニ之ヲ押捺スヘシ

第十九條　花莚檢査所ニ於テ檢査ヲ結了シタルトキハ其ノ成績ト共ニ之ヲ檢査請求者ニ通知スヘシ

檢査請求者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ翌日ヨリ起算シ休暇日ヲ除キ五日以內ニ花莚又ハ野草莚ヲ搬出スヘシ

第二十條　檢査請求者前條第二項ノ期間內ニ花莚又ハ野草莚ヲ搬出セサルトキハ左ノ範圍內ニ於テ檢査所長ノ定ムル庫敷料ヲ納ムヘシ但シ在庫期間ハ前條第二項ノ搬出期限後三十日ヲ超ユルコトヲ得ス

普通花莚	一箇月間一本ニ付金二錢五厘乃至金四錢
廣幅花莚	一箇月間一枚ニ付金一錢乃至金二錢五厘
短尺花莚	一箇月間一枚ニ付金五厘乃至金一錢五厘
小物花莚	一箇月間十枚ニ付金壹錢乃至金貳錢五厘
長一丈八尺ヲ超ユル野草莚	一箇月間一本ニ付金參錢乃至五錢
長一丈八尺以下ノ野草莚	一箇月間一枚ニ付金二錢五厘乃至金四錢

前項一箇月ノ計算ハ曆ニ從ヒ毎月一日乃至十五日及十六日乃至末日ヲ以テ各之ヲ半箇月トシ半箇月以內ハ一箇月分ノ半額ヲ徵收ス

檢査請求者第一項但書ノ期間內ニ花莚又ハ野草莚ヲ搬出セサルトキハ前項ノ計算ニ從ヒ第一項庫敷料各最高額ノ五倍ノ庫敷料ヲ納ムヘシ花莚又ハ野草莚ヲ花莚檢査所ニ搬入シタル者搬入ノ翌日ヨリ起算シ休暇日ヲ除キ七日以內ニ檢査ノ請求ヲ爲ササルトキ亦同シ

第二十一條　檢査請求者花莚檢査所ノ爲シタル不合格ノ決定ニ對シ不服アルトキハ第十九條第一項ノ通知ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ五日以內ニ花莚檢査所ニ再檢査ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ檢査請求者ハ更ニ檢査手數料ヲ納ムヘシ

前項再檢査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ第十九條第二項ノ期間ハ再檢査結了ノ通知ヲ受ケタル翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十二條　再檢査ヲ行フ場合ニ於テハ前檢査ニ關與セサリシ檢査員ヲシテ之ヲ檢査セシメ檢査所長其ノ成績ヲ決定スヘシ

檢査所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ花莚業又ハ野草莚業ニ關シ學識又ハ經驗ヲ有スト認ムル者ノ意見ヲ徵シタル後前項ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第二十二條ノ二　第一條ノ二但書ノ規定ニ依ル出張檢査ヲ請求スル者ハ第三條ノ檢査手數料ノ三倍ニ相當スル金額ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三條ノ規定ハ前項ノ手數料ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　檢査請求者ハ花莚又ハ野草莚ニ付特ニ急速ノ檢査又ハ搬出ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ休暇日ト雖之ヲ爲スコトヲ得

急速檢査又ハ急速搬出ヲ請求スル者ハ第三條ノ檢査手數料ノ外左ノ手數料ヲ納ムヘシ但シ急速檢査手數料ヲ納メタル花莚又ハ野草莚ノ搬出ニ付テハ急速搬出手數料ヲ納ムルコトヲ要セス

一　急速檢査手數料

普通花莚	一本ニ付	金十錢
廣幅花莚	一枚ニ付	金五錢
短尺花莚	一枚ニ付	金五錢
小物花莚	一枚ニ付	金壹錢
長一丈八尺ヲ超ユル野草莚	一本ニ付	金貳拾錢
長一丈二尺以上一丈八尺以下ノ野草莚	一枚ニ付	金拾錢
長一丈二尺未滿ノ野草莚	一枚ニ付	金五錢

一　急速搬出手數料

普通花莚	一本ニ付	金八錢
廣幅花莚	一枚ニ付	金四錢
短尺花莚	一枚ニ付	金四錢
小物花莚	二枚ニ付	金壹錢
長一丈八尺ヲ超ユル野草莚	一本ニ付	金拾五錢
長一丈二尺以上一丈八尺以下ノ野草莚	一枚ニ付	金八錢
長一丈二尺未滿ノ野草莚	一枚ニ付	金四錢

第三條ノ規定ハ前項ノ手數料ニ之ヲ準用ス

第二十四條　檢査ヲ受ケタル花莚又ハ野草莚ヲ輸出前ニ於テ切斷其ノ他加工シタルトキハ檢査ハ其ノ效力ヲ失フ但シ野草莚ノ捺染及縁取リヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　不正ニ量目ヲ增加スル目的ヲ以テ輸出花莚ニ水分又ハ粉末ヲ施用シ其ノ他輸出花莚又ハ輸出野草莚ノ檢査ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本則ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正四年農商務省令第十二號）

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年九月三十日以前ニ製造シタル花莚又ハ福岡縣產ノ原料ヲ以テ大正四年十一月三十日以前ニ製造シタル八十經ノ目追織若ハ目追飛込織花莚ニシテ花莚檢査所長ノ定ムル證明アルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正四年九月三十日以前ノ檢査ニ係ル花莚又ハ前項ノ證明アル花莚ニ加工シタルモノニシテ花莚檢査所長ノ定ムル合格ノ證明アルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

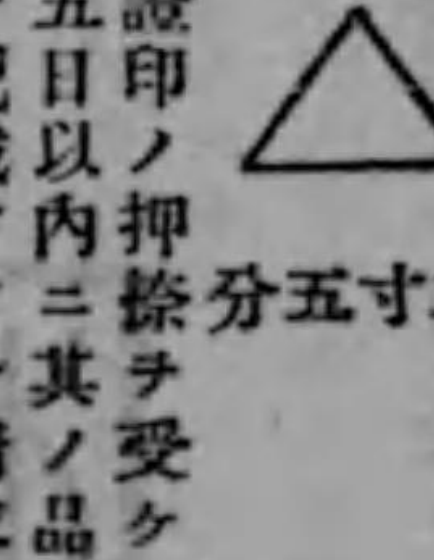
附　則（大正十三年農商務省令第二十三號）

本令ハ大正十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

花莚ノ檢査手數料ニ付テハ大正十四年四月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

大正十四年四月三十日迄ニ檢査ヲ爲ス野草莚ニ付テハ花莚檢査所長ハ第十二條ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

大正十三年十一月十五日以前ニ製造シタル野草莚ニシテ花莚檢査所ノ左記證印アルモノハ大正十五年四月三十日迄檢査ヲ受ケスシテ之ヲ輸出スルコトヲ得



前項ノ證印ノ押捺ヲ受ケムトスル者ハ本令施行後十五日以內ニ其ノ品種、數量、所在地及製造月日ヲ記載シタル請求書ヲ花莚檢査所長ニ差出スヘシ

附　則（昭和二年商工省令第二號）

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ二但書及第二十二條ノ二第一項ノ改正規定ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ日迄ニ製造シタル花莚又ハ野草莚ニシテ花莚檢査所長ノ證明アルモノニ付テハ第一條ノ二但書及第二十二條ノ二第一項ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ本令公布ノ日ヨリ十日內ニ其ノ品種、數量、所在地及製造年月日ヲ記載シタル請求書ヲ花莚檢査所長ニ差出スヘシ

第一號書式

第　號（此ノ番號ハ花莚檢査所ニ於テ本書ヲ受理シタルトキ附スヘキモノトス）

收入印紙

檢査請求書

檢査手數料何程

種別及數量

製造地及原料ノ生產地

前記ノ花莚（野草莚）檢査相成度候也

年　月　日

花莚檢査所長宛

住所

檢査請求者　氏　名（名稱）印

第二號書式

第　號（此ノ番號ハ檢査請求書ニ附シタル番號ヲ用井ルモノトス）

預リ書

一　種別及數量

右檢査ノ爲預リ置候也

年　月　日

檢査請求者　氏　名（名稱）

花莚檢査所　印

●輸出入植物取締法

（大正三年三月二十六日法律第十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル輸出入植物取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

輸出入植物取締法

第一條　植物ヲ輸入移入輸出又ハ移出スル者ハ其ノ植物及其ノ容器包裝ニ使用シタル物ニ付植物檢査官吏ノ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ檢査ハ取締上必要ナシト認ムル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル物ハ之ヲ收受スルコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クヘキ植物ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　植物檢査官吏ハ前條ノ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セル虞アリト認ムルトキハ前條ニ揭ケサル物ニ付テモ檢査ヲ爲スコトヲ得

第三條　病菌又ハ害蟲ハ主務大臣ノ許可ヲ得且植物檢査官吏ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第四條　檢査ハ勅令ヲ以テ指定スル海港ニ於テ之ヲ行フ

檢査ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　植物檢査官吏ハ檢査ノ結果病菌又ハ害蟲附著スト認メタル植物其ノ他ノ物ヲ消毒又ハ燒棄シ、其ノ輸入移入輸出又ハ移出ヲ禁止シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ當事者ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第六條　植物檢査官吏ハ本法ノ檢査ヲ受クヘキ植物其ノ他ノ物ヲ積載シ又ハ積載セル疑アル船舶ニ臨檢スルコトヲ得

植物檢査官吏ハ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ前項ノ物ノ陸揚又ハ轉載ヲ停止スルコトヲ得

第七條　主務大臣ハ病菌又ハ害蟲ノ傳播ヲ防止スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ特定ノ地ヨリ發送シ又ハ之ヲ經由シタル植物又ハ病菌若ハ害蟲ノ附著セル虞アル物ノ輸入移入又ハ收受ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第八條　植物檢査官吏、稅關官吏又ハ警察官吏本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スル者アリト認ムルトキハ臨檢尋問搜索若ハ差押ヲ爲シ又ハ其ノ違反ニ係ル物ヲ消毒若ハ燒棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

臨檢尋問搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セラレタル物ニ付テハ第一條第三項ノ規定ヲ適用セス

第九條　第五條及前條第一項ノ處分ニ必要ナル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當事者ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十條　本法ニ於テ病菌又ハ害蟲ト稱スルハ植物ヲ害スル菌類又ハ蟲類ヲ謂フ

病菌又ハ害蟲ニ非サル動植物ト雖主務大臣ニ於テ植物ヲ害シ又ハ害スル虞アリト認ムルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ病菌又ハ害蟲ト看做ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ檢査ヲ免レタル者

二　檢査ヲ受クルニ當リ詐僞ノ行爲アリタル者

三　第五條但書ノ場合ニ於テ許可ノ條件ニ違反シタル者

四　第六條ノ停止又ハ第七條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタル者

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　許可又ハ檢査ヲ受ケスシテ病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入シタル者

三　第三條ノ許可ノ條件ニ違反シタル者

第十三條　本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ臨檢搜索ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條　輸入者移入者輸出者移出者又ハ收受者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ其ノ業務ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　輸入者移入者輸出者移出者收受者又ハ船長ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十六條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第七條及其ノ罰則ニ關スル規定ハ全部ノ施行ニ先チ之ヲ施行スルコトヲ得

●輸出入植物取締法施行規則

（大正三年勅令第二百十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

（大正三年十一月十三日農商務省令第二十七號　改正 [illegible]）

輸出入植物取締法施行規則左ノ通定ム

輸出入植物取締法施行規則（大藏、遞信大臣連署）

第一條　輸出入植物取締法第一條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クヘキ植物左ノ如シ

一　輸入又ハ移入スル植物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

- 一　植物及其ノ部分ニシテ栽植培養ノ用ニ供スルモノ
- 一　種子、地下莖及根ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ
- 一　柑橘ノ果實
- 一　馬鈴薯
- 一　臺灣產西瓜

二　輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ檢査證明ヲ必要トスルモノ

第二條　前條第一號ノ植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ植物ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滯ナク第一號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ稅關ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ但シ旅客ノ携帶ニ係ルモノニ付テハ口頭ヲ以テ植物檢査官吏、植物檢査官吏現場ニ在ラサルトキハ其ノ他ノ稅關官吏ニ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條 [illegible]

第四條 [illegible]

第五條 [illegible]

第六條 [illegible]

第七條　病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ病菌又ハ害蟲ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滯ナク第四號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ稅關ニ檢查ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ植物檢查官吏期間ヲ指定シテ輸出入植物取締法第三條ノ規定ニ依ル許可書又ハ其ノ寫ノ提出ヲ命シタルトキハ申請人ハ其ノ期間內ニ之ヲ差出スヘシ

第八條　植物檢查官吏ハ第二條又ハ前條第一項ノ申請前ト雖檢查ヲ爲スコトヲ得

第四條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ檢查ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九條　第二條、第三條若ハ第七條第一項ノ申請ヲ爲シタル者又ハ第四條若ハ前條第二項ノ通告ヲ受クヘキ者ハ植物檢查官吏ノ指揮ニ從ヒ檢查ヲ受クヘキ物又ハ受ケタル物ノ運搬、荷造、荷解其ノ他ノ處置ヲ爲スヘシ

第十條　第一條第一號ノ植物ヲ包容スル通常郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク第五號樣式ニ準シタル檢查ノ申請書ト共ニ其ノ郵便物ヲ稅關ニ差出スヘシ但シ第十五條ノ證票又ハ證印アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　輸出入植物取締法ニ依リ檢查ヲ受クヘキ物ハ植物檢查品ナル文字ヲ明瞭ニ表示シタルモノニ非サレハ小包郵便ニ依リ之ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ移入スルコトヲ得ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル小包郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十二條　小包郵便物ノ通關手續ヲ爲スヘキ郵便局又ハ特ニ指定シタル郵便局ハ輸出入植物取締法ニ依リ輸入又ハ移入ニ付檢查ヲ受クヘキ物ヲ包容スル小包郵便物ノ遞送ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ通知スヘシ

前項ノ郵便物ノ檢查ハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第十三條　第七條第二項ノ規定ハ小包郵便ニ依リ病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入スル場合ニ於テ其ノ名宛人ニ付之ヲ準用ス

第十四條　輸出又ハ移出地ノ官憲ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セサルコトヲ證明シタル檢查證ヲ有スル植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出ツヘシ第二條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ檢查證ヲ有スル植物ニ付テハ輸入又ハ移入ノ檢查ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條及第九條ノ規定ハ植物檢查官吏ニ於テ檢查ノ必要アリト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　植物檢查官吏檢查ノ結果取締上支障ナシト認ムルトキハ輸入又ハ移入スルモノニ在リテハ第六號樣式ノ證票又ハ證印ヲ附シ輸出スルモノニ在リテハ第七號樣式ノ證明書ヲ交付スヘシ

植物檢查官吏前條第二項ノ規定ニ依リ檢查ヲ省略シタルトキハ第八號樣式ノ證票又ハ證印ヲ附スヘシ

第十六條　植物檢查官吏植物其ノ他ノ物ヲ燒棄、埋沒若ハ著シク毀損シ又ハ其ノ輸入、移入若ハ輸出ヲ禁止スルトキハ第二條、第三條、第七條第一項若ハ第十條ノ申請ヲ爲シタル者、第四條若ハ第八條第二項ノ通告ヲ受クヘキ者、第十四條第一項ノ屆出ヲ爲シタル者又ハ郵便物ノ名宛人ニ其ノ旨ヲ通告シ且關係アル郵便局ニ之ヲ通知スヘシ

第十七條　削除

第十八條　警務官吏輸出入植物取締法第八條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ通知スヘシ

第十九條　第二條、第六條第二項、第七條第一項、第九條、第十條、第十一條第二項又ハ第十四條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　臨檢、尋問、搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

附則

本則ハ輸出入植物取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太ヨリ移入スル植物ニ付テハ當分ノ內檢查ハ之ヲ省略シ第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第一號樣式

植物輸（移）入檢查申請書

左記ノ通輸（移）入致度候ニ付檢查相成度此段申請候也

住所
職業

年　月　日　　氏　名㊞

何稅關（何稅關支署　何稅關何出張所　何稅關何支署何出張所　何稅關監視署）御中

積載船舶ノ船籍、船種、船名	入港月日	輸（移）出港名	荷送人住所氏名	荷受人住所氏名	捆數	植物 類別	數量	價額	產地	備考

備考

一　植物ノ類別ハ（一）果樹（二）觀賞植物（三）森林植物（以上何レモ苗木ヲ含ム）（四）接穗、接芽、挿木類（五）種子（六）地下莖及根（七）柑橘ノ果實（八）馬鈴薯（九）其ノ他ノ區別ニ依リ記載スルコト

一　價額ハ原價ニ輸（移）入諸掛費ヲ加算シタルモノヲ記載スルコト

第二號樣式

植物輸出檢查申請書

左記ノ通輸出致度候ニ付檢查相成度此段申請候也

住所
職業

年　月　日　　氏　名㊞

何稅關（何稅關支署）御中

積載船舶ノ船籍、船種、船名	出港月日	輸入國政府ノ輸入許可年月日及番號	荷送人住所氏名	荷受人住所氏名	捆數	植物 種類	數量	價額	產地	生產者住所氏名

CUSTOM HOUSE JAPAN

備考

一　種類ハ椿、扁柏等植物ノ種類ノ名稱ヲ記載シ且苗、接穗、種子等ノ如キモノニ付テハ其ノ區別ヲ明ニスルコト

一　價額ハ輸出ノ時ニ於ケル原價ヲ記載スルコト

一　申請ノ際輸入國政府ノ輸入許可ヲ得サルモノ又ハ之ヲ要セサルモノハ許可年月日及番號ノ記載ヲ要セス

第三號樣式

病菌（害蟲）輸（移）入許可申請書

左記ノ通病菌（害蟲）輸（移）入致度候ニ付御許可相成度此段申請候也

住所
職業

年　月　日　　氏　名㊞

農商務大臣　殿

病菌（害蟲）ノ普通名稱及學名	輸（移）入ノ目的	發送人ノ住所職業氏名	輸送方法（小包郵便、小包郵便以外ノ貨物）ノ區別	輸送中培養（飼育）ノ方法	傳播防止ノ設備 輸送中	輸（移）入後	小包郵便以外ノ貨物トシテ輸（移）入スル場合ニ於テハ其ノ輸（移）入港名	其ノ他參考トナルヘキ事項

第四號樣式

病菌（害蟲）輸（移）入檢查申請書

左記ノ通輸（移）入致度候ニ付檢查相成度此段申請候也

住所
職業

年　月　日　　氏　名㊞

何稅關（何稅關支署）御中

農商務大臣ノ輸（移）入許可年月日及番號	病菌（害蟲）ノ普通名稱及學名	捆數	農商務大臣ノ許可ヲ得タル輸（移）入港名	積載船舶ノ船籍、船種、船名及入港月日

第五號樣式

郵便ニ依ル植物輸（移）入檢查申請書

左記ノ通輸（移）入致候ニ付檢查成相度此段申請候也

住所
職業

年　月　日　　氏　名㊞

何稅關（何稅關支署　何稅關何出張所）御中

配達ヲ受ケタル月日	郵便物ノ種類	差出人ノ住所氏名	郵便物ヲ開キタルトキ又ハ郵便物ノ包裝ヲ變更シタルトキハ其ノ事由

第六號樣式

植物檢查合格證票

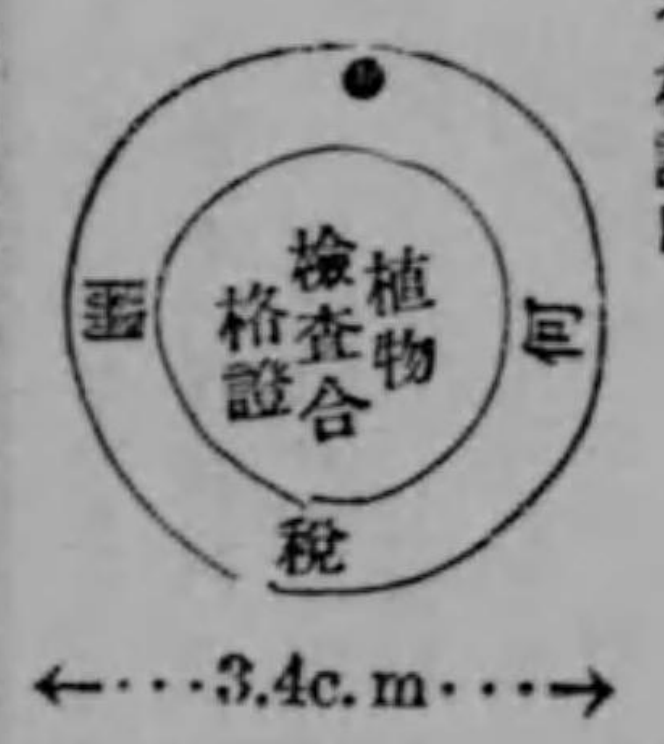
植物檢查合格證票

年　月　日

何稅關

植物檢查官吏印

植物檢查合格證印



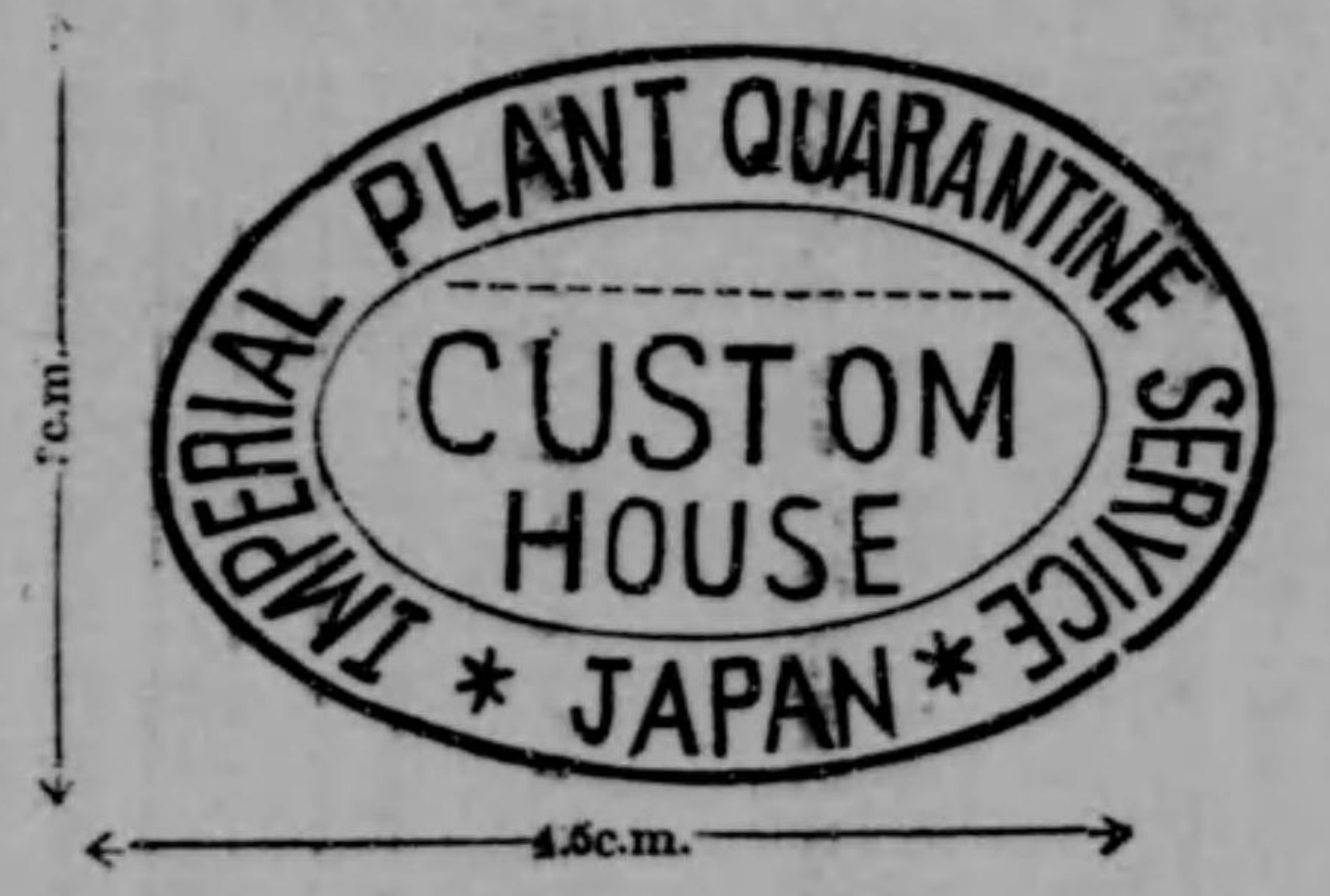
第七號様式

No. ....

ORIGINAL CERTIFICATE OF EXAMINATION OF PLANTS.

To Whom it May concern;

This is to certify that the plants (and packing materials) included in this shipment described below were thoroughly inspected by ...., a duly authorized official of the plant quarantine service, on ....19........, and were found to the best of his knowledge to be healthy and free from dangerous insects and plant diseases. Moreover this is to certify that the above plants (and packing materials) have been found to conform with the requirements of the laws relating to the plant quarantine service of. ....



....

Plant Inspector,

.... Custom House,

Japan.

Issued Date: .... 19 ......

(1) Number of Permit: No. ....
(2) Number and Description of Packages in Consignment: ....
(3) Distinguishing Marks: ....
(4) Description of Plants: ....
(5) District or Locality where grown: ....
(6) Name and Address of Exporter; ....
(7) Name and Address of Consignee: ....
(8) Name of Vessel: ....
(9) Date of Shipment: ....
(10) Port of Shihment: ....
(11) Port ot Landing: ....
(12) Approximate Date of Landing: ....

（船積人署名）

備考　(and packing materials) 及 (1) 乃至 (12) ニ掲クル事項竝（船積人署名）ハ輸入國ノ輸入條件ニ應シ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第八號様式

植物検査省略證票

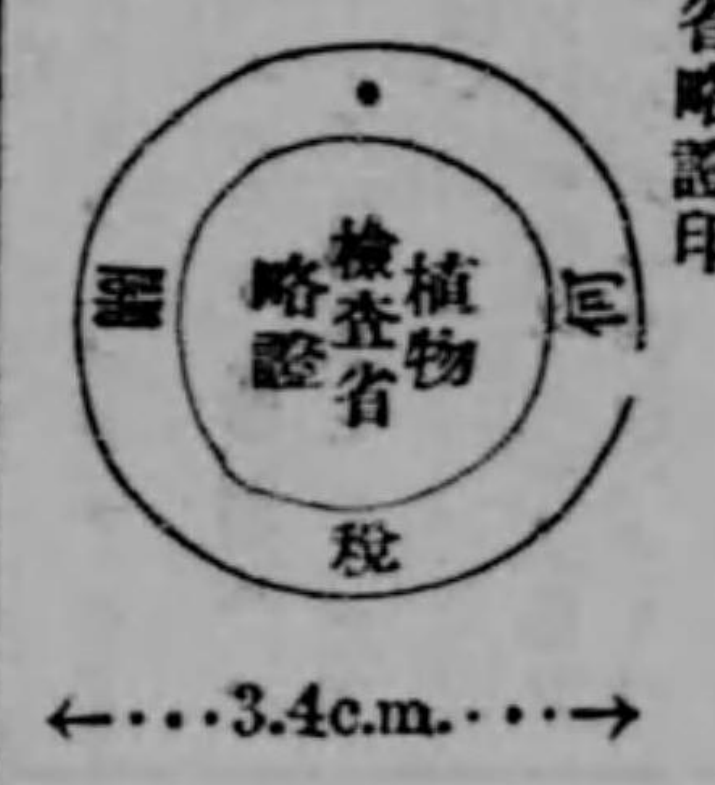
年　月　日

植物検査省略證

何税關

植物検査官印

植物検査省略證印



●輸出入植物取締法ニ依リ検査ヲ行フ海港指定（大正三年十月七日勅令第二百二十號）

改正　大正九年第二一五號、一三年第一四四號
昭和二年第一五二號

朕輸出入植物取締法ニ依リ検査ヲ行フ海港指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

輸出入植物取締法ニ依リ検査ヲ行フ海港別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

海港ノ種別	海港名	検査ニ關スル制限
輸入、移入及輸出ノ検査ヲ行フ海港	神奈川縣横濱 愛知縣名古屋 三重縣四日市 福井縣敦賀 大阪府大阪 兵庫縣神戸 山口縣下關 福岡縣門司 長崎縣長崎 沖繩縣那覇	制限ナシ
	東京府東京	輸入及移入ノ検査ハ郵便物（病菌及害蟲ヲ除ク）ノ外之ヲ行ハズ
	鹿兒島縣鹿兒島	輸入及移入ノ検査ハ旅客携帶品（病菌、害蟲及臺灣産西瓜ヲ除ク）ノ外之ヲ行ハズ
	北海道函館 長崎縣嚴原	旅客携帶品（病菌、害蟲及臺灣産西瓜ヲ除ク）及郵便物（病菌及害蟲ヲ除ク）ノ外輸入及移入ノ検査ヲ行ハズ
輸入及移入ノ検査ヲ行フ海港	北海道小樽 靜岡縣清水 愛知縣武豊 廣島縣宇品 福岡縣博多 福岡縣三池 佐賀縣唐津	旅客携帶品（病菌、害蟲及臺灣産西瓜ヲ除ク）ノ外輸入及移入ノ検査ヲ行ハズ

●輸出入植物取締法第七條ニ依リ植物又ハ其ノ容器包装ニ使用シタル物ノ輸入、移入又ハ收受禁止ノ件（大正九年八月十三日農商務省令第二十一號）

改正　大正九年第三六號、一〇年第四四號、一二年臨第一四號、一三年第九號

輸出入植物取締法第七條ニ依リ植物又ハ其ノ容器包装ニ使用シタル物ノ輸入、移入又ハ收受禁止ノ件左ノ通定ム

左ニ掲クル植物又ハ其ノ容器包装ニ使用シタル物ノ輸入、移入又ハ收受ハ輸出入植物取締法第七條ニ依リ之ヲ禁止ス

一　布哇ヨリ發送シ又ハ之ニ陸揚シタル生果實、生蔬菜

二　臺灣、英領印度、英領海峽殖民地、スマトラ、瓜哇、ボルネオ、セレベス、比律賓群島其ノ他南緯三十度ヨリ北緯三十度ニ至ル間ニシテ東經六十度ヨリ同百七十度ニ至ル間ニ在ル地及支那（揚子江以南）ヨリ發送シ又ハ之ニ陸揚シタル胡瓜、西瓜、甜瓜、南瓜其ノ他葫蘆科植物及蕃茄ノ生果實、莢附生菜豆、莢附生豇豆但シ臺灣産西瓜ニシテ臺灣總督府ノ植物検査濟證ヲ有スルモノハ郵便ニ依リ移入スル場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス

三　歐羅巴、亞米利加合衆國、英領加奈陀、南亞弗利加聯合國、濠太剌利亞、タスマニア、新西蘭又ハ伯剌西爾ヨリ發送シ又ハ之ニ陸揚シタル苹果、梨、榲桲、桃、李及杏ノ生果實、胡桃ノ生果實及核子

四　臺灣、英領印度、錫蘭、瓜哇又ハ比律賓群島ヨリ發送シ又ハ之ニ陸揚シタル柑橘ノ果實、檬果、枇杷、李、桃、蒲桃、蓮霧、蕃石榴、カアシクム　スペシイス(Capsicum Sp.)、ソラヌム　ヴエルバツシホリウム(Solanum verbascifolium Link.)但シ臺灣ヨリ發送シ又ハ之ニ陸揚シタル柑橘ノ果實ニシテ臺灣總督府ノ植物検査濟證ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ大正九年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年農商務省令第十三號及大正六年農商務省令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

●輸出植物ニシテ輸入國政府ニ於テ輸出國ノ検査證明ヲ必要トスルモノ（大正十五年二月八日農林省告示第十八號）

改正　大正一五年第七三號

輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ検査證明ヲ必要トスルモノ左ノ如シ

大正八年六月農商務省告示第百七十三號及大正十一年二月農商務省告示第四十號ハ之ヲ廢止ス

「グレート、ブリテン」及「アイルランド」竝香港

一　多年性木質幹ヲ有スル總テノ生植物及其ノ部分ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ例ヘハ果樹、果樹砧木、果樹母株、森林樹木、觀賞用灌木、接穗、壓條及挿木等但シ種子ヲ除ク

二　馬鈴薯

三　塊莖、鱗莖、根莖、球莖及「ホツプ」株ニシテ栽植ノ用ニ供スルモノ

四　葱頭（タマネギ）及韮葱（ニラネギ）ノ種子ニシテ播種ノ用ニ供スルモノ

五　須具利（スグリ）ノ果實

加奈陀

植物ニシテ觀賞又ハ繁殖ノ用ニ供スルモノ但

シ種子及種子用馬鈴薯ヲ除ク

英領印度

一　馬鈴薯

二　護謨樹

三　甘蔗

濠洲聯邦

馬鈴薯

南濠洲

土壌ニ生育シタル植物

英領海峡植民地、馬來聯邦及「ジョホール」

甘蔗ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ

「ニュー、ジーランド」

一　生果實

二　植物及其ノ部分

北米合衆國

一　左記屬ノ球根類

百合屬（例ヘハ百合）、「コンバラリア」屬（例ヘハ鈴蘭）、「ヒヤシンス」屬（例ヘハ「ヒヤシンス」）、「チューリップ」屬（例ヘハ「チューリップ」）、「クローカス」屬（例ヘハサフラン及花サフラン）、「チオノドキサ」屬（例ヘハ「グローリー　オブ　ザ　スノー」）、「ガランサス」屬（例ヘハ「スノードロップ」）、「シラ」屬（例ヘハツルボノ類）、「フリチラリヤ　イムペリアリス」（貝母（バイモ）ノ一種）、「フリチラリヤ　メレアグリス」（貝母（バイモ）ノ一種）、「ムスカリ」屬（例ヘハ「ムスカリ」）、「イキシア」屬及「エランシス」屬（例ヘハ節分草）

二　薔薇苗ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ但シ「マネッティ」（庚申バラノ一變種）、ノイバラ、「プリアローズ」及玫瑰（ハマナス）ヲ含ム

三　殼果（「ナッツ」）ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ但シ棕櫚科植物ノ種子ヲ含ム

四　左ノ植物ノ種子

果樹、森林樹木、觀賞用樹木、道路樹、落葉性竝常綠性觀賞用灌木及耐冬多年性植物

五　其ノ輸入ニ付農務長官ノ特別許可證ヲ有スルモノ

比律賓群島

一　生植物、果實、繁殖ノ用ニ供シ得ル種子

二　挿木、鱗莖、球莖、接木、接穗、砧木、葉、根及果實ノ核

蘭領印度

植物及其ノ部分（果實及種子ヲ含ム）但シ左ノモノヲ除ク

イ　蔬菜種子

萊菔（ダイコン）、苦苣萵（ニガヂシヤ）（「エンダイア」）、萵苣（チシヤ）（「サラド」）、蕃茄（「トマト」）、和蘭芹（オランダゼリ）（「パーセリー」）、和蘭野蜀葵（オランダミツバ）（「セルリー」）、甜菜（テンサイ）、胡蘿蔔（ニンジン）、馬齒莧（スベリヒユ）（「パースレーン」）、甘藍（カンラン）、韮葱（ニラネギ）、蕪菁（カブラ）、蕓薹（アブラナ）、黃花波羅門參（キバナバラモンジン）及「アスパラガス」

ロ　花卉種子

雁來紅（ハゲイトウ）、金魚草、翠菊（エゾギク）、矢車菊、「コリウス」、石竹、鳳仙花（ホウセンクワ）、天人菊、向日葵（ヒマハリ）、「スヰートピー」、勿忘草（ワスレナグサ）、罌粟（ケシ）、ツクバネ朝顏（「ペチュニア」）、「サルビア」、菫菜（スミレ）及百日草

ハ　菜豆（インゲン）、豌豆、大豆、胡桃（クルミ）、「アメンドウ」、栗及蓮實

二　罐詰果實及蔬菜

●輸出柑橘取締規則

（大正十三年十一月五日農商務省令第二十二號）

輸出柑橘取締規則左ノ通定ム

輸出柑橘取締規則

第一條　柑橘ハ農商務大臣ノ定ムル檢査標準ニ依リ輸出同業組合ノ行フ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ亞米利加合衆國又ハ英領加奈陀ニ輸出スルコトヲ得ス

前項ノ檢査標準ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輸出柑橘取締規則ニ依ル輸出柑橘檢査標準左ノ通定ム（大正十三年十一月五日農商務省告示第二百三十三號）

左ノ各號ノ一ニ該當スル柑橘ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　腐敗シ又ハ腐敗ノ虞アルモノ

二　未熟ナルモノ

三　著色不充分ナルモノ

四　溫州蜜柑又ハ八代蜜柑ニ付テハ一箱ノ顆數ハ輸移出柑橘容器ニ關スル大正二年農商務省令第四號ノ第一項第一號（イ）ニ在リテハ百八十ヲ超ユルモノ（ロ）ニ在リテハ七十ヲ超ユルモノ

●販賣ノ目的ヲ以テ輸出又ハ移出スル蜜柑ノ容器規定

（大正二年五月二十日農商務省令第四號　改正　大正三年第一八號、五年第二八號）

販賣ノ目的ヲ以テ北亞米利加合衆國、英領加奈太、露領亞細亞、支那、又ハ朝鮮ニ輸出又ハ移出スル溫州蜜柑又ハ八代蜜柑ノ容器ハ左ニ規定シタル木箱ヲ用ウヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　北亞米利加合衆國又ハ英領加奈太ニ輸出スルモノ（イ）長外法二尺幅內法九寸深內法四寸六分但シ棲ニ平行シテ中央ニ厚六分ノ中仕切ヲ用ウルコト（ロ）長外法一尺幅內法六寸八分深內法四寸七分

二　削除

三　露領亞細亞ニ輸出スルモノ　長外法九寸　幅內法六寸　深內法四寸三分

四　支那又ハ朝鮮ニ輸出又ハ移出スルモノ　長外法一尺二分　幅內法七寸二分　深內法五寸二分

五　露領亞細亞、支那又ハ朝鮮ニ輸出又ハ移出スルモノ　長外法一尺七寸二分　幅內法八寸　深內法一尺一寸八分但シ一分以內ヲ公差トス

六　木箱用材ノ厚ハ蓋、側及底ハ各三分、棲ハ第一號（イ）及第五號ニ該當スルモノニ在リテハ六分、第一號（ロ）及第四號ニ該當スルモノニ在リテハ四分、第三號ニ該當スルモノニ在リテハ三分トス但シ第五號ニ該當スルモノニ在リテハ蓋、側及底ニ付各五厘以內、棲ニ付一分以內ヲ公差トス

前項ノ規定ニ依ラサル容器ヲ用井テ溫州蜜柑又ハ八代蜜柑ヲ輸出若ハ移出シ又ハ輸出若ハ移出セムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本令ハ大正二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮移出植物檢査規程

（大正八年八月二十七日農商務省告示第二百二十八號　改正　大正一三年第二九五號）

朝鮮移出植物檢査規程左ノ通定ム

朝鮮移出植物檢査規程

第一條　朝鮮ニ植物ヲ移出セムトスルモノハ本規程ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ得

第二條　檢査ハ左ノ植物ニ付之ヲ行フ

栽植又ハ接木用ノ果樹及櫻樹竝ニ其ノ枝、幹及根

第三條　檢査ヲ行フ期間ハ毎年四月一日ヨリ翌年二月十五日迄トス但シ其ノ他ノ期間ト雖檢査ヲ行フコトアルヘシ

第四條　檢査ハ左ノ稅關ニ於テ之ヲ行フ但シ檢査スヘキ植物多量ニシテ病菌害蟲驅除ニ要スル設備完全ナル場合ニ於テハ其ノ所在地ニ就キ檢査ヲ行フコトアルヘシ

一　橫濱、神戶、大阪、長崎及門司各稅關

二　名古屋稅關支署、四日市稅關支署、敎賀稅關支署及門司稅關下關出張所

第五條　檢査ヲ受ケムトスル者ハ其ノ植物發送ノ日ヨリ少クトモ十日前ニ第一號樣式ニ準シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ但シ其ノ後ノ申請ト雖受理スルコトアルヘシ

前項ノ申請ヲ爲シタル者ハ稅關ノ指揮ニ從ヒ其ノ植物ヲ搬入又ハ搬出スヘシ

第六條　檢査ノ結果病菌又ハ害蟲附著セストト認メタルモノニ付テハ第二號樣式ノ植物檢査合格證ヲ交付ス

前項ノ植物檢査合格證ハ毎梱一葉ヲ交付ス

第七條　稅關ハ檢査ノ爲メニ生シタル損害ニ付テハ其ノ責ニ任セス

第八條　植物檢査官吏ノ指揮ニ從ハス又ハ不正ノ行爲ニ因リ檢査ヲ受ケタル者ニ對シテハ檢査ヲ拒絕シ又ハ證明ヲ取消スコトアルヘシ

第一號樣式

朝鮮移出植物檢査申請書

左記ノ通移出致度候ニ付檢査相成度此段申請候也

大正　年　月　日

住所
職業　氏　名（名稱）印

何稅關（何稅關支署　何稅關何出張所）御中

發送月日	
荷送人住所氏名（名稱）	
荷受人住所氏名（名稱）	
梱數	

植物ノ種別	數量	價格	產地	摘要

第二號樣式

第　號

朝鮮移出植物檢査合格證

一　荷送人住所氏名（名稱）
一　荷受人住所氏名（名稱）
一　櫻樹　何本
一　果樹　何本

右ハ檢査ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

何稅關　印

●輸出眞田取締規則

（大正四年六月五日農商務省令第九號　改正　大正六年第二七號、一四年商工省令第八號）

輸出眞田取締規則左ノ通定ム

輸出眞田取締規則

第一條　經木眞田ヲ漂白シ又ハ漂白スル爲之ヲ賣買若ハ授受スルコトヲ得ス但シ內地ニ於テ使用シ若ハ製品ニ仕立テ又ハ試驗其ノ他之ニ類スル目的ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ數量、用途竝製品ニ仕立ツルモノニ在リテハ其ノ製造ノ場所及時期ヲ定メ漂白ヲ爲ス地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條　麥稈眞田、經木眞田、麻眞田其ノ他ノ製帽用眞田ニシテ切斷又ハ假繼ノ箇所アルモノハ之ヲ輸出シ又ハ輸出ノ目的ヲ以テ賣買若ハ授受スルコトヲ得ス但シ麻眞田又ハ麻ヲ主要原料トスル眞田ニシテ一段ノ中ニ二箇所以下ノ假繼アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　麥稈眞田、經木眞田、麻眞田其ノ他ノ製帽用眞田ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　前三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ノ規定ニ違反スル罪ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本令ハ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正六年九月十七日農商務省訓令第十四號　改正　大正六年第一九號）

道廳
府縣

改正輸出眞田取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出眞田ノ檢査標準左ノ通相定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出眞田檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル眞田ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　經木眞田ニシテ漂白シタルモノ

二　切斷又ハ假繼アルモノ但シ麻眞田又ハ麻ヲ主要原料トスル眞田ニシテ一段ノ中ニ二箇所以下ノ假繼アルモノハ之ヲ除ク

三　經木眞田、麥稈眞田又ハ其ノ混成眞田ニシテ腕木ノ厚一分以上幅八分以上兩腕木間ノ外法一尺六寸ノ卷枠ヲ用ヰ六列九重又ハ六列十二重ニ仕立テサルモノ但シ特別ノ註文ニ依ルモノニシテ其ノ旨ヲ明示セルモノハ之ヲ除ク

四　麻眞田又ハ麻ヲ主要原料トスル眞田ニシテ腕木ノ厚二分以上幅一寸五分以上兩腕木間ノ外法九寸五分五厘ノ卷枠ヲ用ヰ七列十七重又ハ七列二十五重ニ仕立テサルモノ但シ特別ノ註文ニ依ルモノニシテ其ノ旨ヲ明示セルモノハ之ヲ除ク

五　眞田ヲ引延ハシテ仕立テタルモノ

六　一段又ハ一括中著シク品質品位ヲ異ニセル部分ノ混在シタルモノ

七　不正ニ品質品位ノ均等ナラサル原料ヲ使用シタルモノ

八　幅員狹小ニシテ商慣習ニ合致セサルモノ又ハ幅員ノ不同甚シキモノ

九　編方著シク粗笨ナルカ又ハ不齊ナルモノ

一〇　朽腐シタルモノ

一一　乾燥不十分ナルモノ

一二　色澤均齊ナラサルモノ又ハ汚染ノ目立ツモノ

一三　麻眞田又ハ麻ヲ主要原料トスル眞田ニシテ商慣習ニ反シ原料絲ノ合絲數ヲ減シタルモノ

一四　[illegible]

●輸出眞田取締規則等ニ依ル工業組合若ハ工業組合聯合會ノ行フ檢査標準適用方

（大正十四年八月二十八日商工省訓令第六號）

道廳
府縣

大正六年農商務省訓令第十一號乃至第十四號及第十八號、大正七年農商務省訓令第十六號乃至第十八號、大正八年農商務省訓令第七號ニ依リ定メタル檢査標準ハ大正十四年九月一日ヨリ大正十四年商工省令第八號ニ依リ工業組合若ハ工業組合聯合會ノ行フ檢査ニ付之ヲ適用ス

●輸出石鹼取締規則

（大正四年六月二十五日農商務省令第十號　改正　大正五年第六號）

輸出石鹼取締規則左ノ通定ム

輸出石鹼取締規則

第一條　澱粉、穀粉、粘土其ノ他農商務大臣ノ指定スル物料ヲ混和シタル石鹼ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル者ニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ本則施行後二年ヲ限リ混和物ノ量百分中二十未滿ノ石鹼ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

混和物ノ量百分中二十以上ノ石鹼ハ本則施行後二年ヲ限リ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ輸出スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ石鹼ノ名稱、商標、混和物料名及其ノ混和步合竝輸出先ヲ記載シ製品見本ヲ添附スヘシ

認可申請書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　第一條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ輸出スル石鹼ニハ別記樣式ニ依リ標章ヲ各小箱ノ蓋ノ內面及外箱ノ表面ニ明瞭ニ表示スヘシ其ノ小箱ヲ用ヰサルモノニ在リテハ各石鹼又ハ其包裝ニ之ヲ明瞭ニ表示スヘシ

第四條　地方長官ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サスシテ石鹼ヲ輸出シ又ハ輸出セムトシタル者ニ對シ第一條第二項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條ノ規定ニ違反シタル者

二　第二條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケス又ハ第三條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サスシテ石鹼ヲ輸出シタル者

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

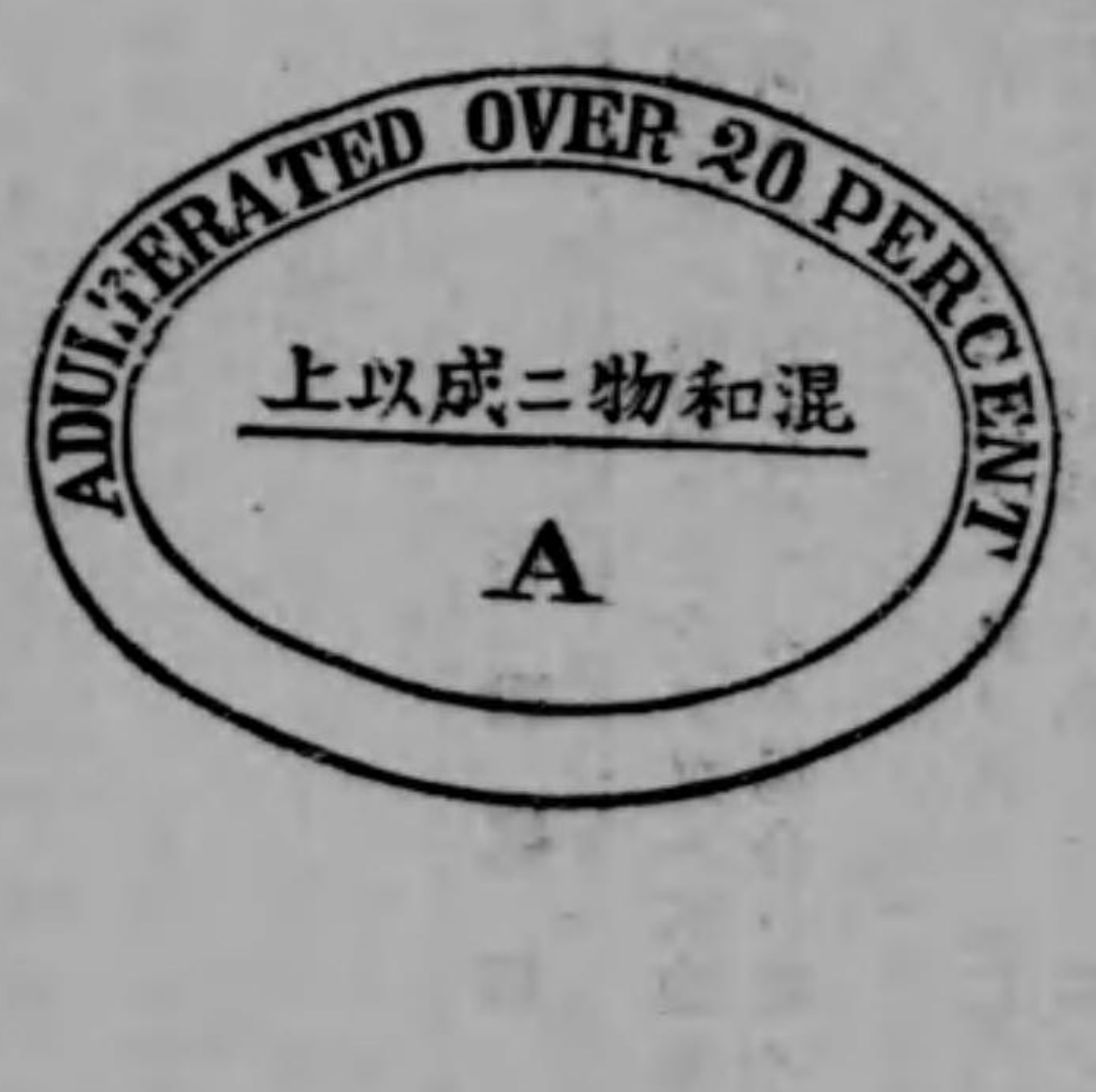
附　則

本則ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

外箱ノ標章	長徑七寸五分以上	短徑五寸以上
小箱其ノ他ノ標章	長徑一寸五分以上	短徑一寸以上

標章圖廓下半部ニ MADE IN JAPAN ノ文字ヲ記入スルコトヲ妨ケス



●輸出飲食物罐詰取締規則

（大正五年一月十三日農商務省令第一號）

輸出飲食物罐詰取締規則左ノ通相定ム

輸出飲食物罐詰取締規則

第一條　飲食物罐詰ハ罐又ハ罐ノ標紙ニ邦語又ハ外國語ヲ以テ內容物ノ品名及正味量ヲ明示シタルモノニ非サレハ之ヲ輸出スルコトヲ得ス

罐詰ノ包裝箱ニハ其ノ品名ヲ明示スヘシ

第二條　鑞附若ハ卷締ノ不完全ナル罐詰又ハ罐ノ膨脹シタルモノニシテ內容物腐敗ノ虞アルモノハ之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第三條　前二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前製造シタル飲食物罐詰ニシテ正味量ヲ明示セサルモノハ本則施行後二年ヲ限リ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸出スルコトヲ得

●輸出燐寸取締規則

（大正六年九月十七日農商務省令第二十四號　改正　大正一四年商工省令第八號）

輸出燐寸取締規則左ノ通相定ム

輸出燐寸取締規則

第一條　燐寸ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出シ又ハ朝鮮若ハ臺灣ヘ移出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正六年十二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（大正六年九月十七日農商務省訓令第十一號）

道廳　府縣

輸出燐寸取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出燐寸ノ檢査標準左ノ通相定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出燐寸檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル燐寸ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　頭藥ノ乾燥不完全ニシテ發火良好ナラサルモノ

二　火登良好ナラサルモノ

三　燃燒ノ際著シク煤煙ヲ發スルモノ

四　發火ノ際爆發スルモノ

五　黃燐燐寸及硫黃燐寸ノ頭藥ニ在リテハ六時間、其ノ他ノ燐寸ノ頭藥及摩擦藥ニ在リテハ三時間攝氏四十度乃至四十一度ニ於テ水蒸氣ヲ飽和セル空氣中ニ放置シタル後完全ニ發火シ得サルモノ

六　黃燐燐寸及硫黃燐寸ノ頭藥ニシテ攝氏七十五度ニ於ケル空氣中ニ一時間放置スルトキ自然ニ發火スルモノ

七　軸木ノ五厘角以下ナルモノ、其ノ齊一ナラサルモノ又ハ汚損セルモノ

八　頭藥ノ附著セサル軸木、頭藥ノ附著不十分ナル軸木又ハ折軸ノ混入數一包（小箱十箇）ニ付百分ノ五以上ナルモノ

但シ輸出燐寸取締規則施行後滿一箇年內ニ在リテハ其ノ混入數百分ノ十以上トス

九　小箱堅固ナラスシテ剝離損傷セルモノ又ハ自然ニ抽斗ノ脫出スルモノ

一〇　小箱素地ノ厚ハ黃燐燐寸ニ在リテハ百枚ニ付外箱ハ一寸三分未滿、抽斗ハ一寸未滿ナルモノ其ノ他ノ燐寸ニ在リテハ百枚ニ付外箱ハ一寸八分未滿、抽斗ハ一寸二分未滿ナルモノ

●輸出硝子製品取締規則

（大正六年九月十七日農商務省令第二十五號　改正　大正一三年第二四號、一四年商工省令第八號）

輸出硝子製品取締規則左ノ通相定ム

輸出硝子製品取締規則

第一條　左ニ揭クル硝子製品ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

罎、食器、食料容器、火屋、ランプ笠、ランプ油壺、模造眞珠、光珠、腕輪、試驗管、ビーカー、フラスコ、漏斗、分液漏斗、U字管

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正六年十二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（大正六年九月十七日農商務省訓令第十二號）

道廳　府縣

輸出硝子製品取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出硝子製品ノ檢査標準左ノ通相定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出硝子製品檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル硝子製品ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　歪形ナルモノ

二　冷シノ不十分ナルモノ

三　泡、筋又ハ節ノ多キモノ

四　素地透明ナラサルモノ

五　仕上不良ナルモノ

六　損傷アルモノ

七　鑛泉罎ニシテ耐壓力一平方吋ニ付四十五封度未滿ノモノ

八　麥酒罎ニシテ攝氏六十五度、日本酒罎ニシテ攝氏百度ノ溫度ニ耐ヘサルモノ

九　曹達罎又ハ「ラムネ」罎ニシテ耐壓力一平方吋ニ付百封度未滿ノモノ

一〇　模造眞珠又ハ光珠ニシテ時日ノ經過又ハ氣候ノ變化ニ因リ褪色又ハ變色スル虞アルモノ

●輸出琺瑯鐵器取締規則

（大正六年九月十七日農商務省令第二十六號　改正　大正一四年商工省令第八號）

輸出琺瑯鐵器取締規則左ノ通相定ム

輸出琺瑯鐵器取締規則

第一條　鐵板ヲ以テ製シタル琺瑯鐵器ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正六年十二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（大正六年九月十七日農商務省訓令第十三號）

道廳　府縣

輸出琺瑯鐵器取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出琺瑯鐵器ノ檢査標準左ノ通相定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出琺瑯鐵器檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル琺瑯鐵器ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　歪形ナルモノ

二　色澤鮮明ナラサルモノ

三　仕上不良ナルモノ

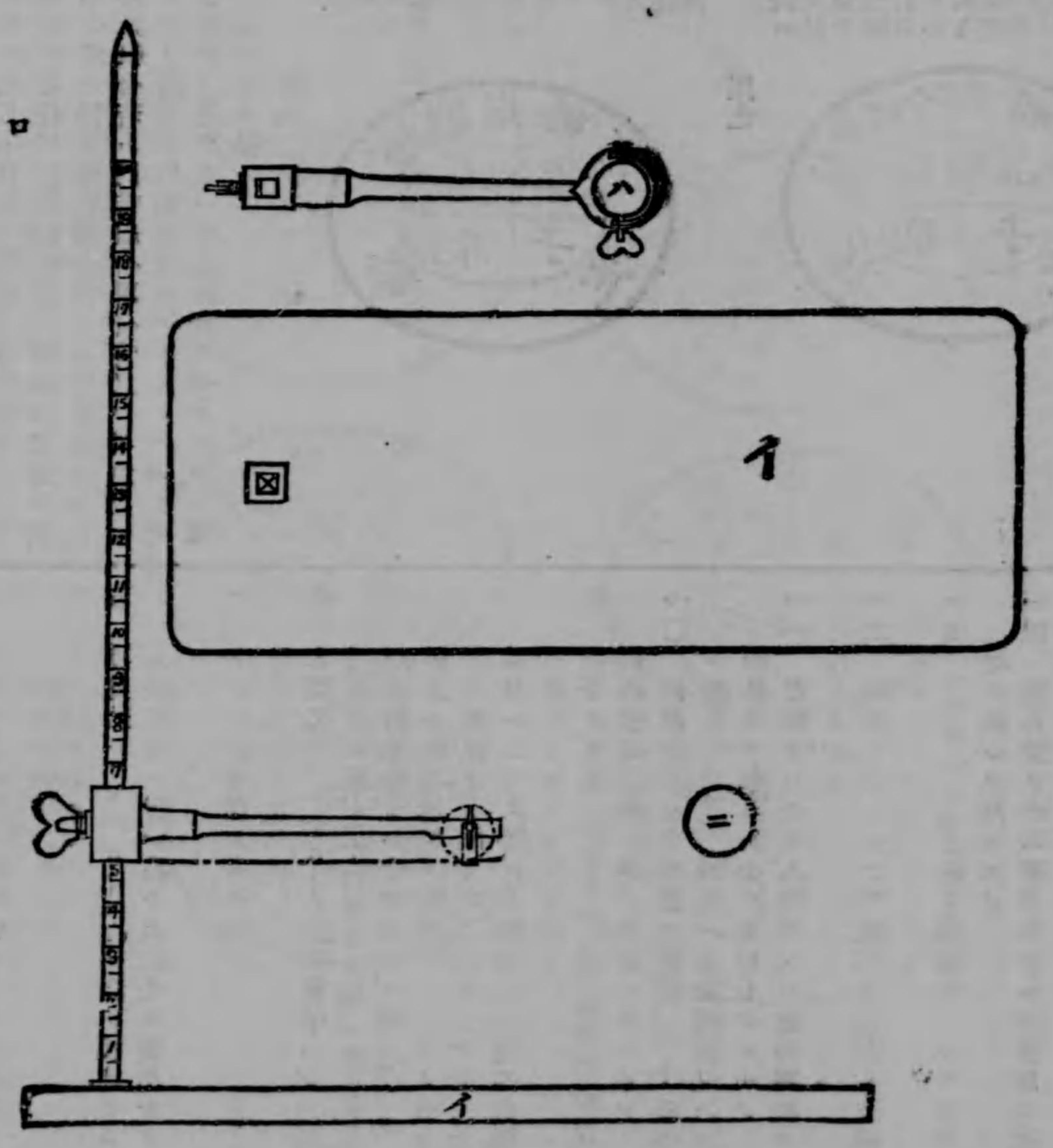
四　別記第一號樣式ノ檢定器ヲ用ヰ一尺五寸ノ高ヨリ重量五十匁ノ鐵球ヲ落下セシムルトキ其ノ破損面ノ下附琺瑯全ク剝落スルモノ

五　胴又ハ底カ鑞附品ナルトキ別記第二號樣式ノ票紙ヲ見易キ箇所ニ貼附セサルモノ

六　胴又ハ底カ接合品ナルトキ別記第三號樣式ノ票紙ヲ見易キ箇所ニ貼附セサルモノ

（別記）

第一號樣式



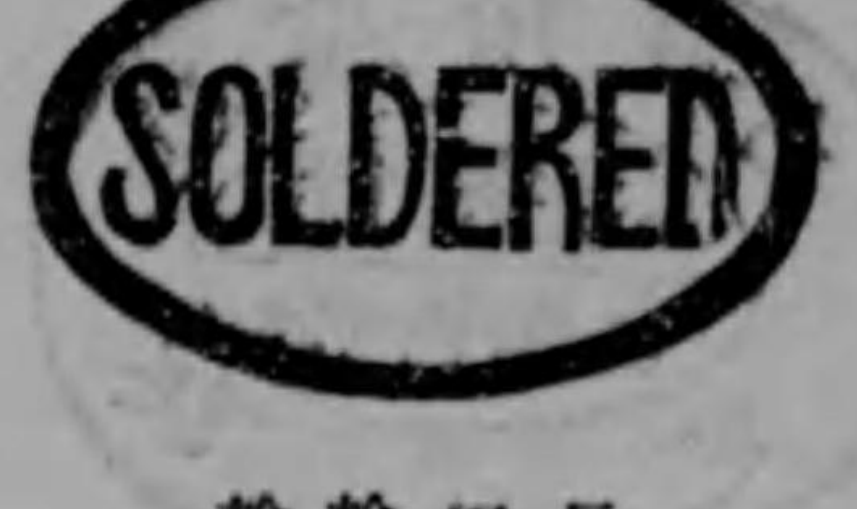
イ　臺板　櫟材厚八分

ロ　目盛棒　二尺迄目盛ヲ有スル鍛鐵棒

ハ　支持環　內徑一寸二分二厘

ニ　鐵球　徑一寸二分ノ鋼鐵球

第二號樣式



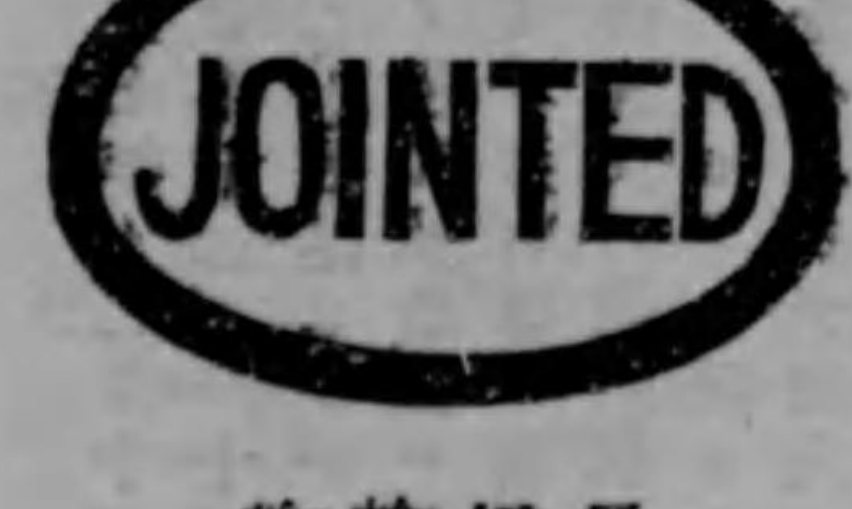
長徑　一寸

短徑　六分五厘

輪ノ幅　五厘

輪及文字ハ赤トス

第三號樣式



長徑　一寸

短徑　六分五厘

輪ノ幅　五厘

輪及文字ハ赤トス

●輸出莫大小製品取締規則

（大正六年十二月三日農商務省令第三十二號　改正　大正七年第三八號、一四年商工省令第八號）

輸出莫大小製品取締規則左ノ通相定ム

輸出莫大小製品取締規則

第一條　左ニ揭クル莫大小製品ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

肌衣、手袋、靴下、首卷、腹卷、ジャケツ

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正六年十二月三日農商務省訓令第十八號）

道廳　府縣

輸出莫大小製品取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出莫大小製品檢査標準左ノ通相定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出莫大小製品檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル莫大小製品ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　商慣習ニ合致セサル寸法ニ仕立テタルモノ但シ正當ノ事由アルモノヲ除ク
二　組合物ニシテ品位、形狀又ハ大サ著シク不同ナルモノ
三　甚シク粗笨ナル生地又ハ不當ニ引延シタル生地ヲ使用シタルモノ
四　厚サ均等ナラサルモノ
五　精練、漂白、染色、起毛若ハ整理著シク不良ナルモノ又ハ容易ニ變色若ハ褪色スルモノ
六　瑕疵、汚染其ノ他ノ缺點目立ツモノ
七　縫目粗雜ナルモノ、纖弱ナル縫絲ヲ使用シタルモノ又ハ生地ノ伸度ニ副ハサル縫合ヲ爲シタルモノ
八　人造絹絲ヲ使用シテ其ノ旨ヲ明示セサルモノ
九　鈕釦其ノ他附屬品ノ品質著シク不良ナルモノ又ハ其ノ附方亂雜ナルモノ
一〇　著シク粗惡ナル原料ヲ使用シタルモノ又ハ不正ノ加工ヲ爲シタルモノ
一一　前各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルモ前各號ヲ參酌シ實用ニ適セスト認ムルモノ

●輸出刷子取締規則

（大正七年八月三十日農商務省令第三十三號　改正　大正一四年商工省令第八號）

輸出刷子取締規則左ノ通相定ム

輸出刷子取締規則

第一條　刷子ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

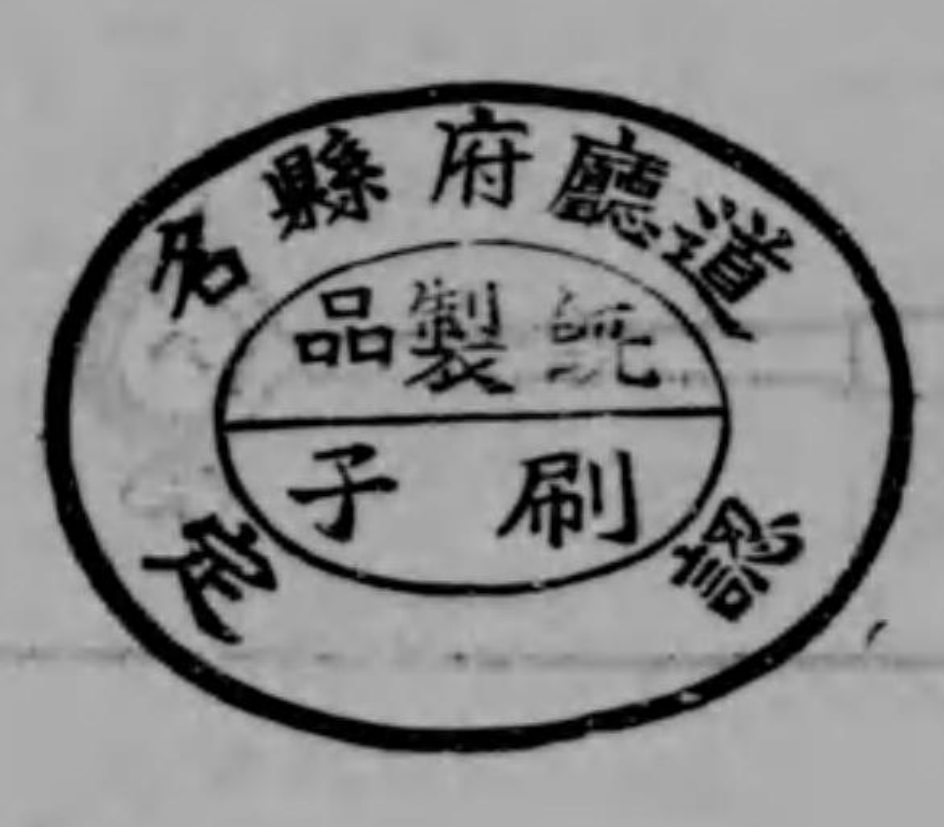
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正七年九月一日迄ニ製造シタル刷子ニシテ大正七年九月三十日迄ニ其ノ種類及數量ヲ同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ届出テ同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ於テ左ノ證票ヲ外裝ニ附シタルモノニ限リ大正七年十二月三十一日迄檢査ヲ受ケスシテ輸出スルコトヲ得

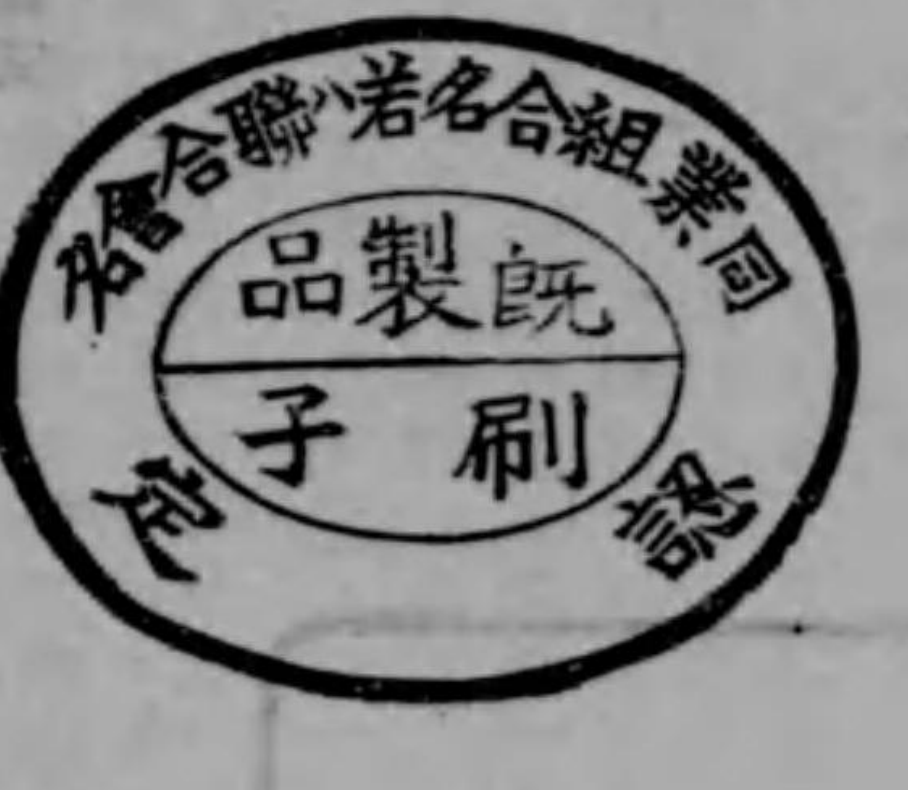
黒色

道廳府縣ニ於テ附スヘキ證票



同業組合若ハ同業組合聯合會ニ於テ附スヘキ證票

黒色



（大正七年八月三十日農商務省訓令第十六號）

道廳府縣

輸出刷子取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出刷子ノ檢査標準左ノ通相定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出刷子檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル刷子ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　生地ニ龜裂アルモノ又ハ毛植穴ニ闕アルモノ
二　生地ノ質ヲ詐リテ記號ヲ附シタルモノ
三　生地ニ生木其ノ他乾燥不十分ナル物ヲ使用シタルモノ
四　毛ノ拔ケ易キモノ
五　獸蹄若ハ「セルロイド」ヲ以テ製造シタル人造毛又ハ折レ易キ人造毛ヲ使用シタルモノ
六　トンボ植ヲ爲シタルモノ
七　仕上不良ナルモノ
八　木製又ハ「セルロイド」柄刷子ニシテ其ノ毛植ニ鐵線、三十四番ヨリ細キ眞鍮線若ハ亞鉛鍍鐵線又ハ十番手ヨリ細キ「カタン」絲若ハ麻諸撚絲ヲ使用シタルモノ但シ直徑三厘以下ノ細キ穴ノ刷子ニシテ三十五番又ハ三十六番ノ眞鍮線若ハ亞鉛鍍鐵線ヲ使用シタルモノヲ除ク
九　刷子ノ毛植ニ「カタン」絲、麻諸撚絲又ハ絹諸撚絲以外ノ絲ヲ使用シタルモノ
一〇　齒刷子ニシテ毛植ニ鐵線、三十番手ヨリ細キ「カタン」絲若ハ麻諸撚絲又ハ三十四番ヨリ細キ針金ヲ使用シタルモノ
一一　齒刷子ニシテ人造毛又ハ植物纖維ヲ使用シタルモノ
一二　齒刷子柄ニシテ毛植部生地甚シク薄キモノ
一三　「セルロイド」柄ノ齒刷子ニシテ頸部生地ノ甚シク薄キモノ
一四　前各號ノ一ニ該當セサルモ實用ニ適セスト認ムルモノ

●輸出獸毛製刷子取締規則

（大正十年八月二日農商務省令第二十六號）

輸出獸毛製刷子取締規則左ノ通定ム

輸出獸毛製刷子取締規則

第一條　獸毛製刷子ハ港務部ニ於テ施行スル消毒又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケタル方法ニ依ル消毒ヲ經タル獸毛ヲ以テ製造シタルモノニ非サレハ之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●輸出「セルロイド」製品取締規則

（大正七年十一月十三日農商務省令第四十二號　改正　大正八年第三號、第二六號、一四年商工省令第八號）

輸出「セルロイド」製品取締規則左ノ通定ム

輸出「セルロイド」製品取締規則

第一條　左ニ掲クル「セルロイド」製品ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

櫛、長サ又ハ直徑四吋ヲ超ユル玩具

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

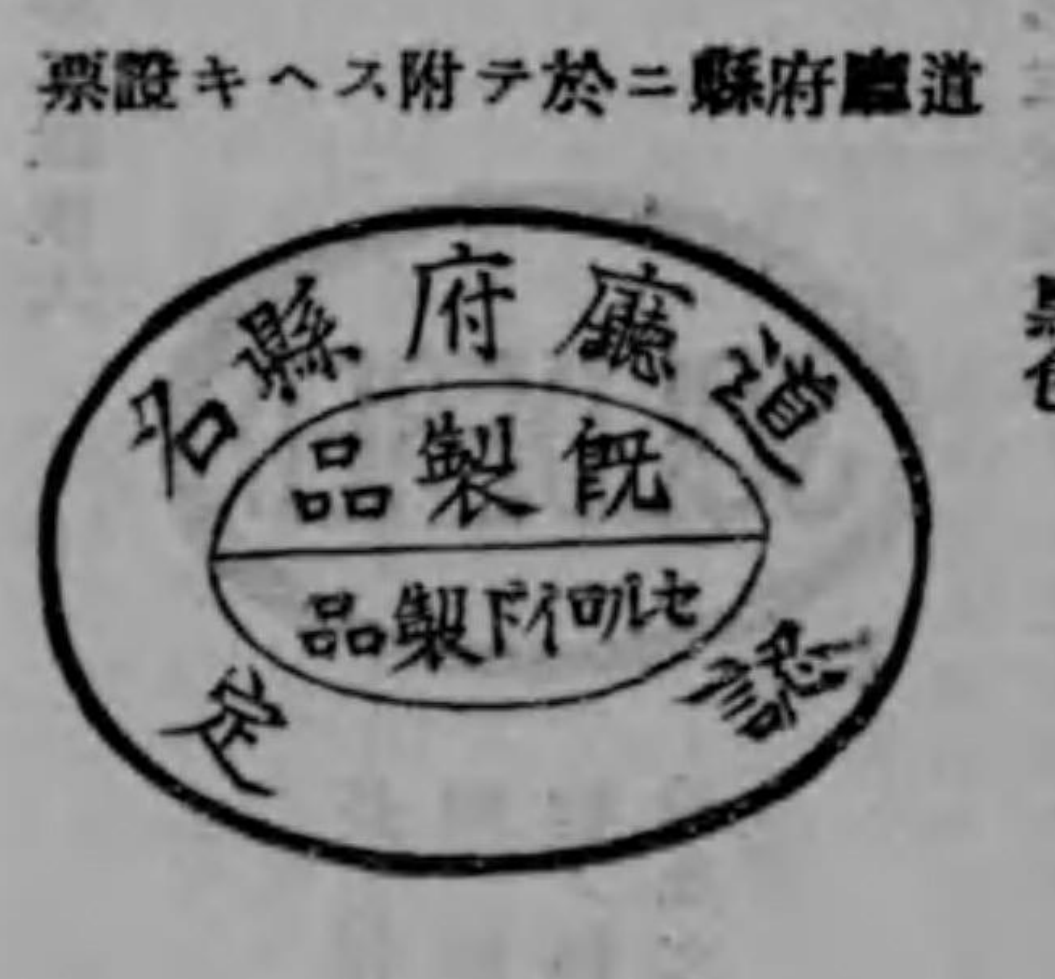
附　則

本則ハ大正七年十二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

但シ大正七年十一月十五日迄ニ製造シタル「セルロイド」製品ニシテ大正七年十二月十五日迄ニ其ノ種類及數量ヲ同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ届出テ同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ於テ左ノ證票ヲ外裝ニ附シタルモノニ限リ大正八年四月三十日迄檢査ヲ受ケスシテ輸出スルコトヲ得

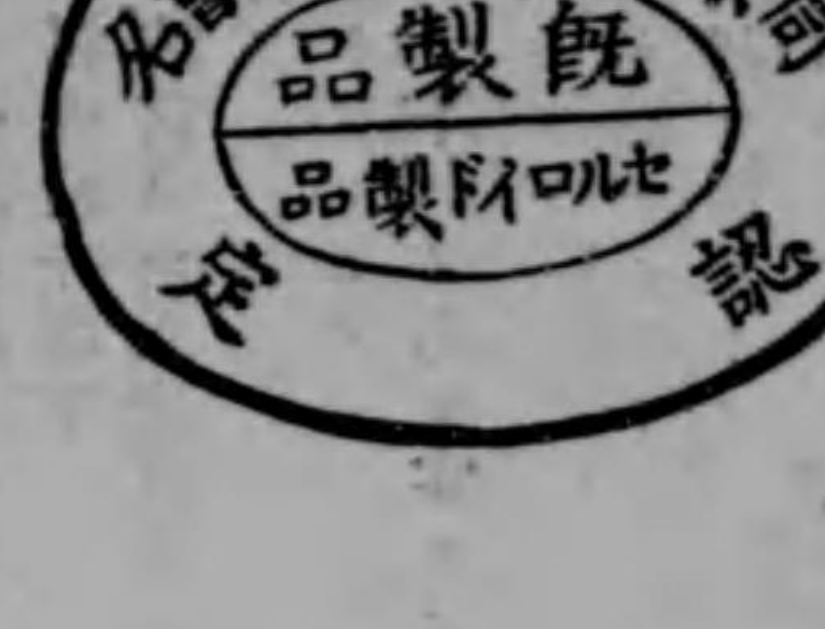
黒色

道廳府縣ニ於テ附スヘキ證票



同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ附スヘキ證票

黒色



（大正七年十一月十三日農商務省訓令第十七號）

道廳府縣

輸出「セルロイド」製品取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出「セルロイド」製品ノ檢査標準左ノ通定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出「セルロイド」製品檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル「セルロイド」製品ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　變形又ハ變色ノ虞アル生地其ノ他不良ノ生地ヲ使用シタルモノ
二　生地カ製品ノ大サニ比シ薄キニ過クルモノ
三　形體正シカラサルモノ
四　甚シク瑕疵アルモノ
五　裝飾物ノ脫落シ易キモノ
六　接合部ノ離レ易キモノ
七　仕上不良ナルモノ
八　離脫シ又ハ溶解シ易キ彩色ヲ施セルモノ
九　輪櫛ニシテ長サ六寸未滿ナルモノ
一〇　櫛ニシテ齒、齒元又ハ齒先ノ甚シク不揃ナルモノ
一一　玩具ニシテ其ノ彩色有毒ナルモノ
一二　玩具ニシテ彈力乏シキ接續用護謨紐又ハ不完全ナル附屬品ヲ使用シタルモノ
一三　前各號ノ一ニ該當セサルモ實用ニ適セスト認ムルモノ

●輸出鉛筆及鉛筆心取締規則

（大正七年十一月二十八日農商務省令第四十八號　改正　大正一四年商工省令第八號）

輸出鉛筆及鉛筆心取締規則左ノ通定ム

輸出鉛筆及鉛筆心取締規則

第一條　鉛筆又ハ鉛筆心ハ工業組合若ハ工業組合聯合會、同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項鉛筆ハ色心ノモノヲ、鉛筆心ハ色心ヲ含ム

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

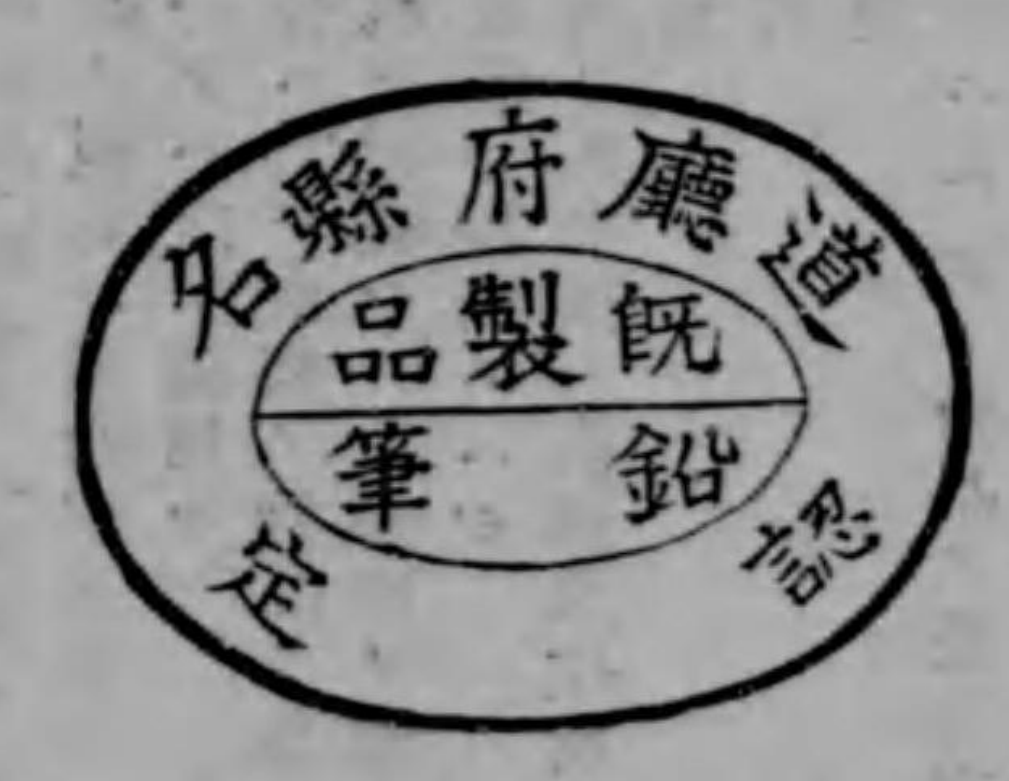
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

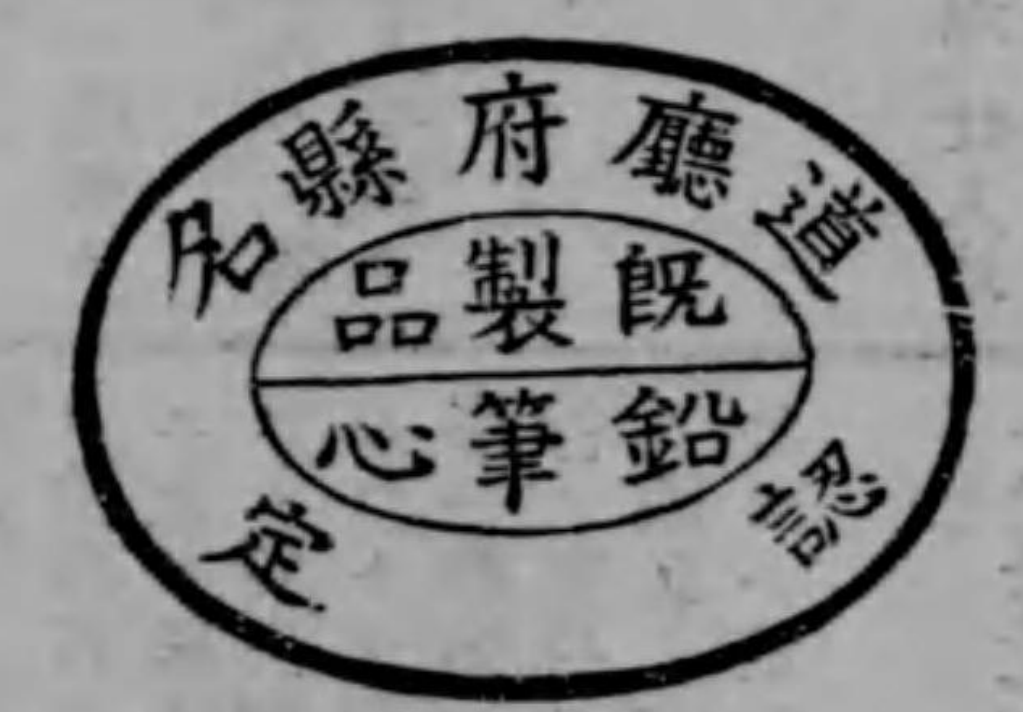
附　則

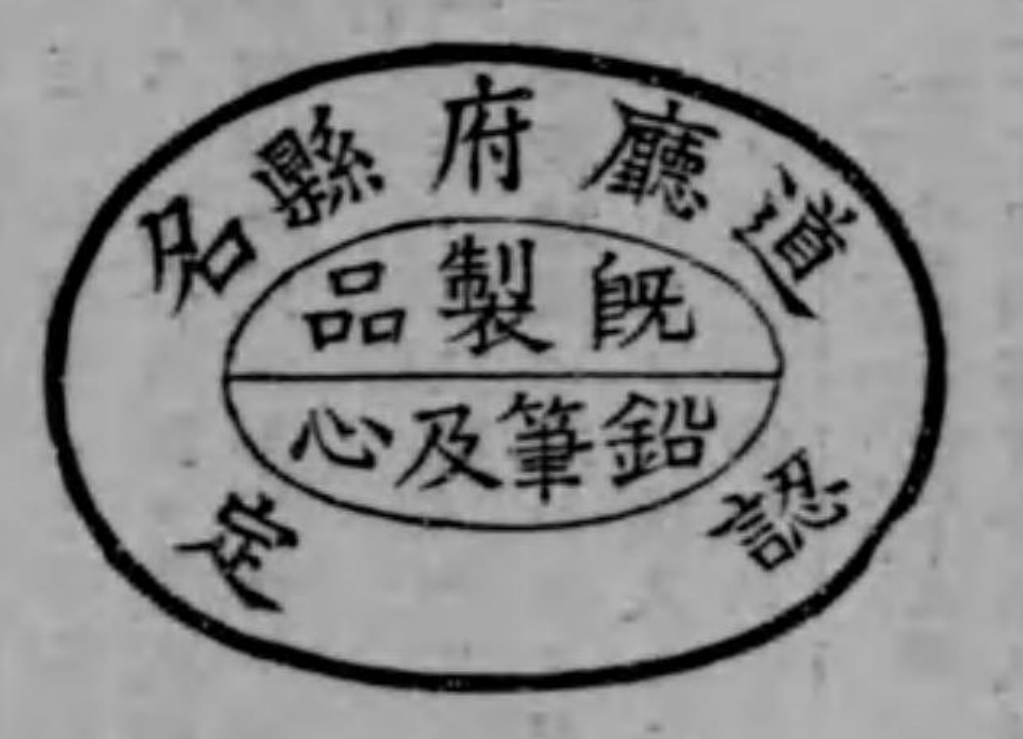
本則ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正七年十一月三十日迄ニ製造シタル鉛筆又ハ鉛筆心ニシテ大正七年十二月三十一日迄ニ其ノ種類及數量ヲ同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ届出テ同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ニ於テ左ノ證票ヲ外裝ニ附シタルモノニ限リ大正八年三月三十一日迄檢査ヲ受ケスシテ輸出スルコトヲ得

道廳府縣ニ於テ附スヘキ證票

黒色

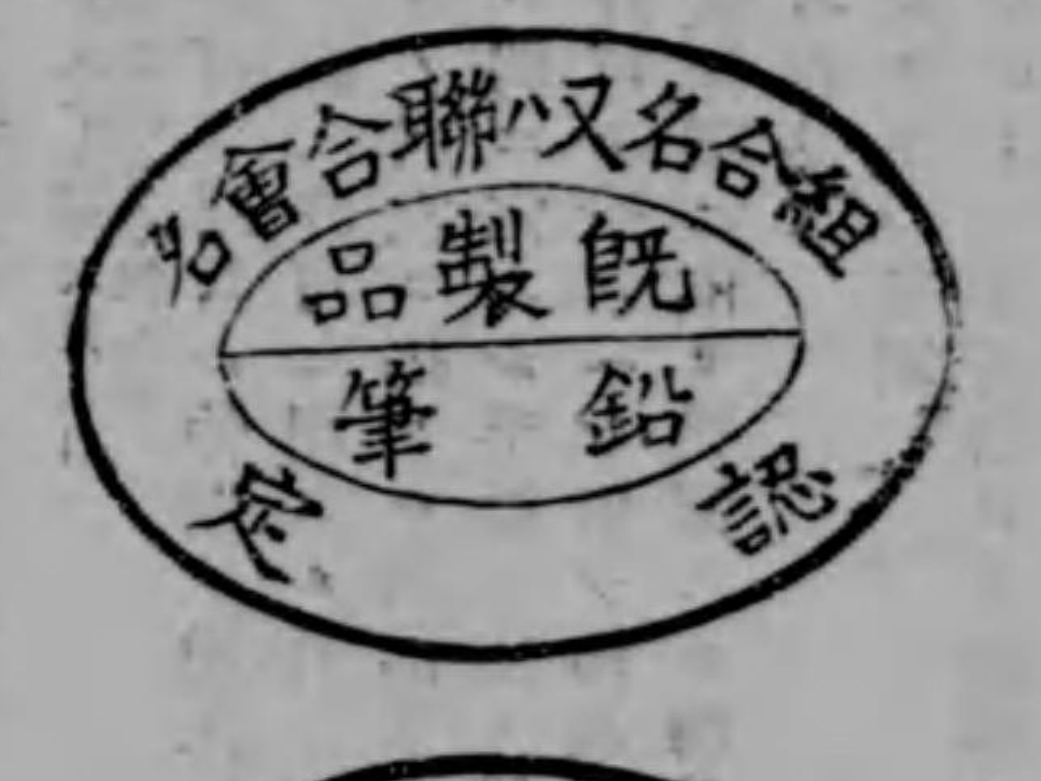


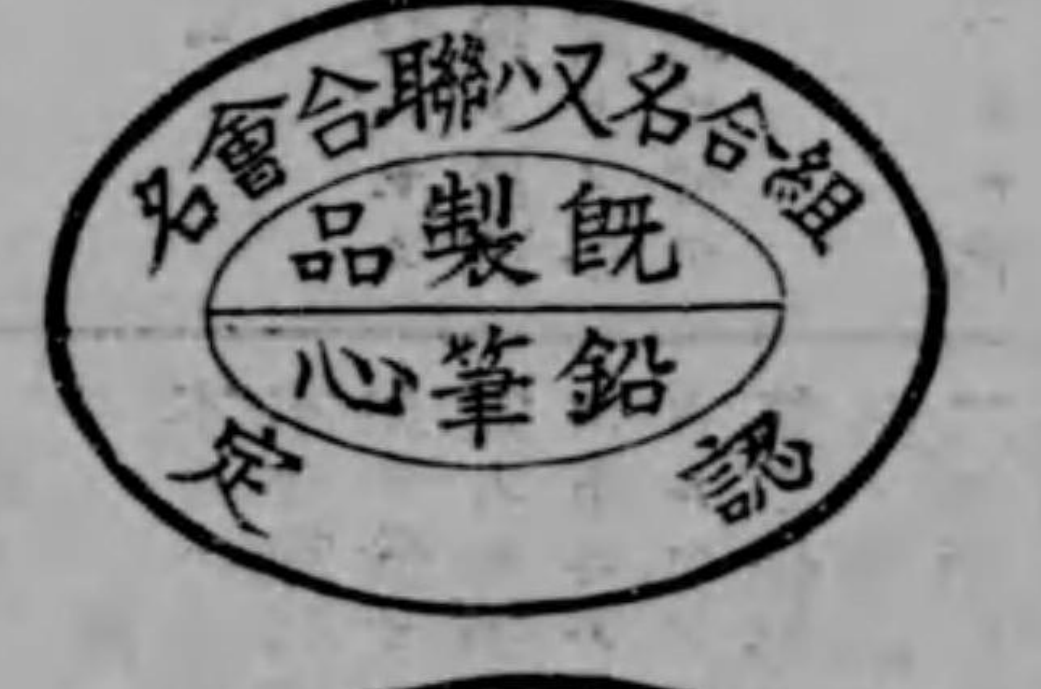


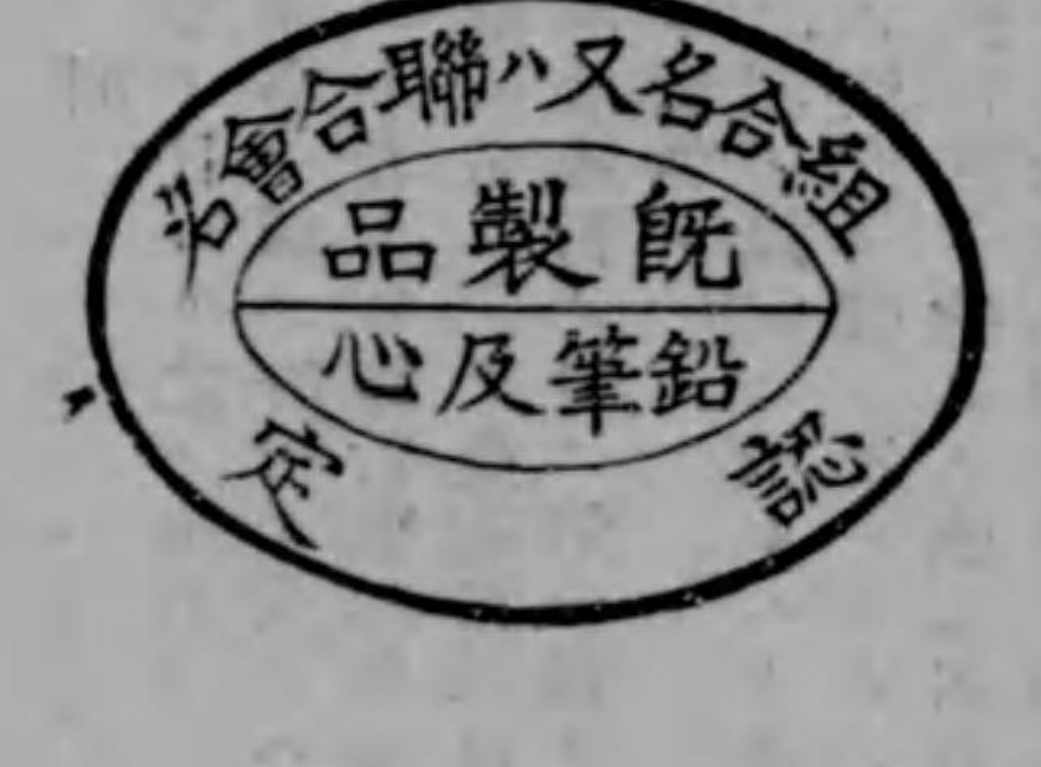


同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ附スヘキ證票

黒色







（大正七年十一月二十八日農商務省訓令第十八號　改正　大正九年第一號）

道廳府縣

輸出鉛筆及鉛筆心取締規則ニ依ル同業組合若ハ同業組合聯合會又ハ道府縣ノ輸出鉛筆及鉛筆心ノ檢査標準左ノ通定ム同則ニ依リ地方長官カ認可ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

輸出鉛筆及鉛筆心檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル鉛筆又ハ鉛筆心ハ合格ト爲スコトヲ得ス

一　心ノ折レタルモノ又ハ折レ易キモノ
二　心ノ素質不均一ナルモノ
三　心ノ硬度實用ニ適セサルモノ
四　心カ軸ノ中心ニ在ラサルモノ
五　心ノ軸ニ膠著セサルモノ
六　軸ノ硬キニ過クルモノ
七　軸ノ曲レルモノ
八　軸ノ木口正シカラサルモノ
九　軸ノ塗カ剝落又ハ變色スル虞アルモノ
一〇　軸ノ塗又ハ軸ノ鍍金カ著シク粗惡ナルモノ
一一　軸ノ仕上不良ナルモノ
一二　軸ニ瑕疵アルモノ其ノ他軸ノ不完全ナルモノ
一三　兩切普通鉛筆ニシテ長五寸六分未滿ナルモノ但シ輸出鉛筆及鉛筆心取締規則施行後二箇年内ニ在リテハ長五寸五分以上五寸六分未滿ナルモノハ Second Quality ノ極印ヲ押捺シテ輸出スルコトヲ得
一四　護謨又ハ金具其ノ他附屬品ノ不完全ナルモノ
一五　前各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルモ實用ニ適セスト認ムルモノ

●輸出人造眞珠取締規則

（大正十五年九月十五日商工省令第八號）

輸出人造眞珠取締規則左ノ通定ム

輸出人造眞珠取締規則

第一條　本則ニ於テ人造眞珠ト稱スルハ硝子又ハ貝殼ノ外部ニ魚鱗ヲ塗布シタルモノヲ謂フ

第二條　人造眞珠ハ工業組合若クハ工業組合聯合會又ハ道廳府縣ノ檢査ニ合格シタルモノニアラザレバ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ檢査ヲ受ケズシテ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

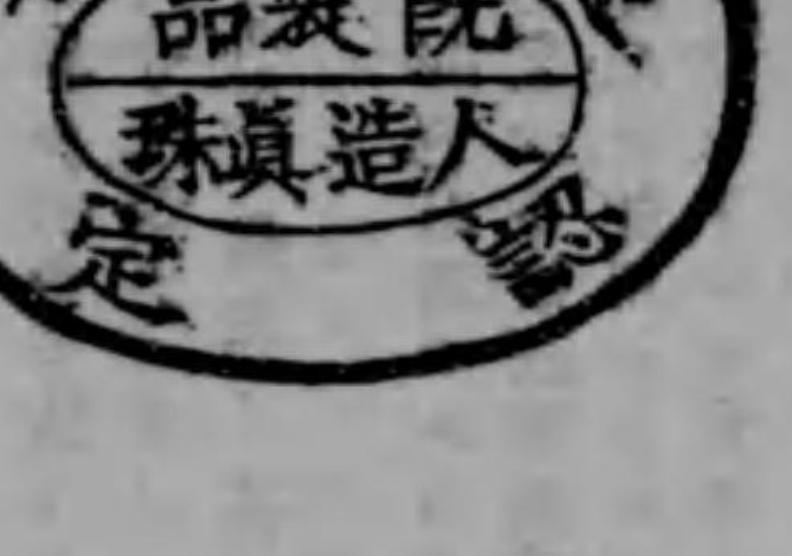
本則ハ大正十五年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

但シ大正十五年九月十七日迄ニ製造シタル人造眞珠ニシテ大正十五年十月十四日迄ニ其ノ數量ヲ工業組合若クハ工業組合聯合會又ハ道廳府縣ニ届出デ且ツ工業組合若クハ工業組合

聯合會又ハ道廳府縣ニ於テ左ノ證票又ハ證印ヲ製品又ハ其ノ外裝ニ附シタルモノニ限リ大正十五年十二月三十一日迄檢査ヲ受ケズシテ輸出スルコトヲ得

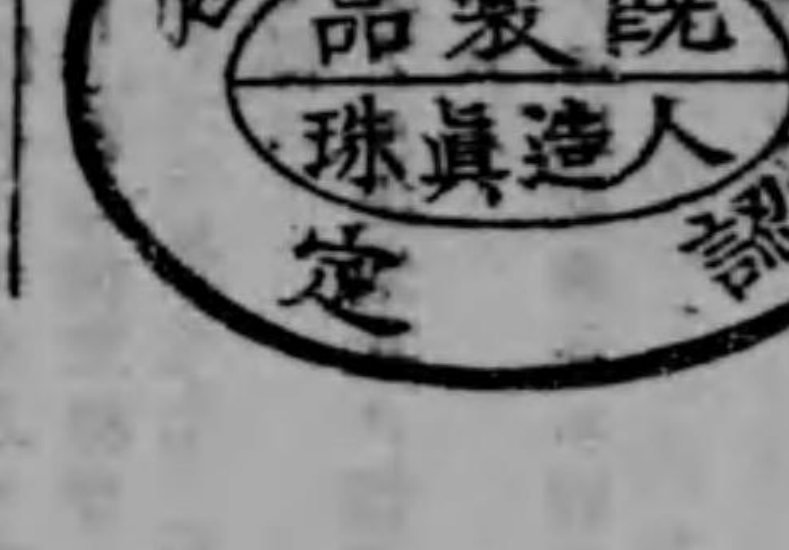
道廳府縣ニ於テ附スベキ證票又ハ證印

黑色



工業組合又ハ工業組合聯合會ニ於テ附スベキ證票又ハ證印

黑色



（大正十五年九月十五日 商工省訓令第一號）

道廳 府縣

輸出人造眞珠取締規則ニ依ル工業組合若クハ工業組合聯合會又ハ道廳府縣ノ輸出人造眞珠ノ檢査標準左ノ通定ム、同則第二條但書ニ依リ認可ヲ爲ストキ亦之ニ據ルベシ

輸出人造眞珠檢査標準

左ノ各號ノ一ニ該當スル人造眞珠ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ズ

一　珠ノ形歪ミタルモノ
二　珠ノ中心ヲ外レテ孔ヲ穿チタルモノ
三　珠ノ質脆キモノ
四　塗布六回未滿ナルモノ
五　珠ノ被膜剝ゲ易キモノ
六　珠ノ被膜薄キモノ又ハ厚サ不同ナルモノ
七　珠ノ表面ニ瑕疵又ハ汚染アルモノ
八　珠ノ色彩光澤鮮明ナラザルモノ又ハ均一ナラザルモノ
九　一連中ニ於ケル珠ノ配列不整ナルモノ
一〇　一連ノ長サ其ノ稱呼ノ長サニ不足ナルモノ
一一　前各號ノ一ニ該當セザルモ不良ト認ムルモノ

●染料ノ輸入許可ニ關スル件

（大正十三年六月七日 農商務省令第八號）

染料ノ輸入許可ニ關スル件左ノ通定ム

染料ノ輸入許可ニ關スル件

第一條　當分ノ內左ニ揭クル物品ヲ輸入セムトスル者ハ別ニ定ムル手續ニ依リ豫メ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ獨逸國トノ平和條約賠償條項ニ依リ受領スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　コールタール染料
二　コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的生成品（醫藥及石炭酸ヲ除ク）

第二條　前條ノ規定ハ通商航海條約ニ牴觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ前條ノ物品ヲ輸入スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關ニ提出スヘシ

一　製造者ノ氏名又ハ商號及住所
二　製造地
三　品名
四　數量

前項ノ書面ニハ其ノ物品ノ製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明アルコトヲ要ス

第三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ物品ヲ輸入シタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第四條　第二條第二項ノ規定ニ依リ輸入シタル者ハ遲滯ナク其ノ物品ノ商品名及通稱又ハ學名、濃度、數量、關稅込到著見込價格竝製造者名ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ三月以內ニ其ノ物品ヲ輸入スヘシ

農商務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第一條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ期間內ニ其ノ物品ヲ輸入セサルトキハ第一條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　第一條ノ規定ニ違反シテ輸入シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第一條ノ許可ヲ受クヘキ物品ノ注文ヲ發シタル者本令施行後二週間以內ニ別ニ定ムル手續ニ依リ之ヲ農商務大臣ニ屆出テタルトキハ本令施行ノ日ニ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條第二項ノ規定ニ依ルヘキ者本令施行前其ノ物品ノ注文ヲ發シタルトキハ本令施行後二週間以內ニ其ノ物品ノ商品名及通稱又ハ學名、濃度、數量、關稅込到著見込價格竝製造者名ヲ農商務大臣ニ屆出テ且本令施行後三月以內ニ之ヲ輸入スル場合ニ限リ農商務大臣ノ交付スル屆出證明書ヲ以テ第二條ノ書面ニ代用スルコトヲ得

第一條第一號若ハ第二號ノ物品ニシテ本令施行ノ際現ニ保稅地域ニ在ルモノ又ハ本邦ニ向ケ輸送ノ途ニ在ルモノヲ輸入セムトスル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

（大正十三年六月七日 農商務省告示第八十八號）

一、大正十三年農商務省令第八號第一條ノ許可ヲ受ケムトスル者又ハ同附則第二項ノ屆出ヲ爲サムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書又ハ屆書四通ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

一　商品名及濃度
二　通稱又ハ學名
三　數量
四　關稅込到著見込價格
五　輸入者ノ氏名又ハ商號及住所
六　製造者ノ氏名又ハ商號及住所
七　買入先ノ氏名又ハ商號及住所
八　積出港
九　輸入手續ヲ爲スヘキ稅關名
十　豫定輸入時期

二、大正十三年農商務省令第八號附則第四項ノ規定ニ依リ準用シタル同第二項ノ規定ニ依ル屆出ニ付亦前項ニ同シ

三、第一項第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

四、農商務大臣ハ第一項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ見本ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

五、許可ヲ受ケタル者又ハ許可ヲ受ケタルモノト看做サレタル者ハ其ノ物品ヲ輸入スル場合ニ於テ輸入許可證ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關ニ提出スヘシ

（大正十三年六月七日 農商務省告示第八十九號 改正 大正一五年商工省告示第六號）

大正十三年農商務省令第八號第一條第一號及第二號ノ物品ハ關稅定率法輸入稅表中別表ノ番號及品名ニ該當ス

（別表）

番號	品名
第一五八番ノ內	サリチール酸
第二〇三番ノ內	サッカリン
第二〇八番	コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的生成品（ベンザルアハイド、ナイトロベンゾール及ナイトロトリユーオル以外ノ香料、石炭酸、サリチール酸、ベークライト及醫藥ヲ除ク）
第二二〇番	人造麝香
第二二一番ノ內	ベタナフトールメチールエーテル（ネロリン）、ベタナフトールエチールエーテル、シンナミックアシッドベンザールエステル、シンナミックアシッドサリチールエステル等ノコールタール分餾物ヨリ誘導シタル薫香性化學藥
第二二九番ノ內	ベンザールアセテート、アミルサリシレート、ベンザトルアルコール等ノコールタール分餾物ヨリ誘導シタル人造香料
第二四二番	人造藍
第二四三番	別號ニ揭ケサル合成染料
第六四七番ノ內	ベークライト

●黃燐燐寸製造禁止法

（大正十年四月十一日 法律第六十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル黃燐燐寸製造禁止法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、內務大臣副署）

黃燐燐寸製造禁止法

第一條　燐寸製造業者ハ燐寸ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條　黃燐ヲ使用シテ製造シタル燐寸ヲ販賣シ、輸入若ハ移入シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルコトヲ得ス

第三條　當該官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ工場、倉庫、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ又ハ檢査ノ爲必要ナル分量ニ限リ無償ニテ燐寸若ハ其ノ製造原料ヲ收去スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五條　正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢若ハ收去ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　燐寸製造業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ燐寸ノ製造ニ黃燐ヲ使用シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第七條　本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定ハ本法施行前ニ製造シ又ハ輸入若ハ移入シタル燐寸ニ付テハ本法施行後一年間之ヲ適用セス

●暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件

（大正六年九月一日 農商務省令第二十號 改正 大正七年第三號、第一九號）

暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件左ノ通定ム（內務大臣連署）

第一條　急激ナル市價ノ變動ヲ誘起シ因テ暴利ヲ得ルノ手段トシテ左ニ揭クル物品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲シ又ハ爲サムトスル者ト認ムルトキハ農商務大臣ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スヘカラサル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトヲ得他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメ又ハ爲サシメムトスル者ト認ムルトキ亦同シ

一　米穀類及穀粉類
二　鐵類
三　石炭
四　綿絲及綿布
五　紙類
六　染料
七　藥品
八　肥料

第二條　前條ノ戒告ニ違反シテ買占若ハ賣惜ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正六年九月一日 農商務省訓令第八號）

道廳 府縣

近時ニ於ケル物價騰貴ハ時局ニ依ル需給關係ノ變調ニ基クモノ多キヲ以テ政府ハ之カ匡救ノ方策ヲ講スルカ爲不斷ノ用意ヲ怠ラスト雖玆ニ其ノ最モ憂フヘキハ此ノ變調ヲ奇貨トシ各種不穩當ナル手段ニ依リ國民生活ノ必需品ニ對シ市價ノ激變ヲ誘致シ因テ以テ暴利ヲ網セントスル者ヲ生スルコトニシテ其ノ國民生活ノ安靜ヲ害シ經濟界ヲ毒スルノ弊實ニ大ナルモノアリ依テ政府ハ閣議ヲ定メ今回暴利ヲ目的トスル賣買取締ニ關スル省令ヲ發シ前述ノ如キ公害ヲ及ホスヘキ擧作ヲ試ミントスル者ニ對シ嚴重ナル取締ヲ行ハントス之レ時局今日ノ場合洵ニ已ムヲ得サルニ出ツ各地方長官宜シク此ノ趣旨ヲ體シ苟モ本令ヲ犯シ又ハ犯サントスル者アルトキハ速ニ相當ノ措置ヲ執リ以テ萬一ノ遺算ナキヲ期スヘシ（內務大臣連署）

●內地產燐寸ノ輸出取締規則

（大正九年十一月二十日 朝鮮總督府令第百八十六號）

內地產燐寸ノ輸出取締規則左ノ通定ム

第一條　內地產燐寸ハ內地ニ於テ重要物產同業組合法ニ依リ設立シタル同業組合若ハ同業組合聯合會、道府縣ノ檢査ニ合格シタルモノ又ハ地方長官ノ輸移出認可ヲ受ケタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本令ハ大正九年十二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●「ヲノヲレカンバ」（檀木）輸移出取締ニ關スル件

（大正十二年二月二十七日 朝鮮總督府令第二十八號）

「ヲノヲレカンバ」（檀木）輸移出取締ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　「ヲノヲレカンバ」（檀木）ノ原木若ハ製材又ハ「ヲノヲレカンバ」ヲ以テ製造セル車輛若ハ其ノ部分品ヲ輸移出セムトスル者ハ其ノ種類（丸材、角材、車輛、部分品等ノ別）、數量、產地及所在地、輸移出地、輸移出ノ豫定期日竝輸移出先ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　輸移出ノ目的ヲ以テ「ヲノヲレカンバ」ヲ伐採シ又ハ其ノ原木ヲ以テ製材、車輛若ハ其ノ部分品ヲ製造シタル者ハ伐木現場又ハ集材土場ヨリ搬出前原木、製材又ハ其ノ製品ニ付政府ノ檢印ヲ受クヘシ

前項ノ檢印ヲ受ケムトスルトキハ國有林ニ在リテハ拂下許可書、寺刹林又ハ私有林ニ在リテハ伐採許可書ヲ添ヘ拂下又ハ伐採ニ付許可ヲ爲シタル官廳ニ申請スヘシ

第三條　前條ノ檢印ハ別記雛形ニ依リ原木、製材又ハ製品ノ切斷面又ハ見易キ箇所ニ之ヲ行フ

第四條　第一條ノ許可申請書ハ第二條ノ檢印ヲ行ヒタル官廳ヲ經由スヘシ

第五條　第一條ノ許可申請書ニ依リ許可スルトキハ許可書ヲ交付ス

前項ノ許可書ハ輸移出申告ノ際稅關ニ提出スヘシ

第六條　第一條ニ揭クル原木、製材又ハ製品ニシテ第二條ノ檢印ナキモノハ輸移出ヲ許可スルコトヲ得ス

第七條　第一條ノ許可ヲ受ケスシテ第一條ニ揭クル原木、製材又ハ製品ヲ輸移出シタル者又ハ輸移出セムトシタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

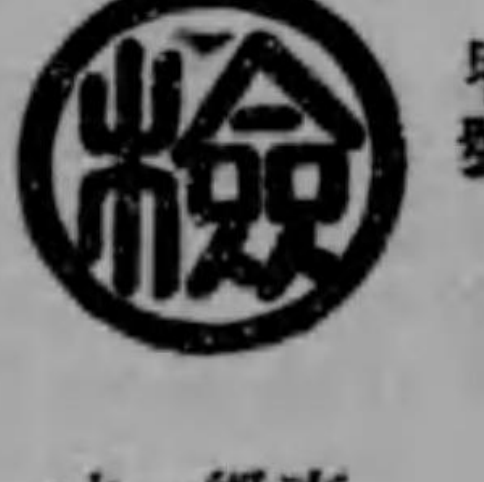
附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

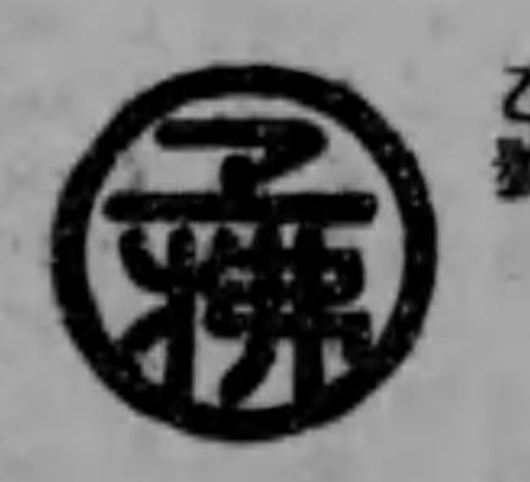
雛　形

甲號



直徑一寸

乙號



直徑一寸二分

備考　甲號ハ朝鮮總督府營林廠所管地以外ノ地ニ於テ、乙號ハ朝鮮總督府營林廠所管地ニ於テ之ヲ使用ス

●植栽又ハ接木用果樹櫻樹竝其ノ枝幹及根ノ輸移入取締ニ關スル件

（大正九年八月二十八日 朝鮮總督府令第百三十四號 改正 大正一二年第五三號、一四年第二號）

植栽又ハ接木用果樹櫻樹竝其ノ枝、幹及根ノ

輸移入取締ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　植栽又ハ接木用果樹櫻樹又ハ其ノ枝、幹若ハ根ヲ輸入又ハ移入セムトスル者ハ本令ニ依リ稅關ノ檢査ヲ受クヘシ但シ內地ニ於ケル稅關ノ植物檢査ニ合格シタル旨ノ證明アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二　前條ノ果樹櫻樹等ニシテ移入スルモノニ付檢査ヲ受ケムトスル者ハ第三條ニ依リ告示スル稅關又ハ稅關支署ニ第一號樣式ノ檢査申請書ヲ提出スヘシ但シ旅客ノ携帶ニ係ルモノニ付テハ口頭ヲ以テ申請スルコトヲ得

前條但書ノ證明アルモノヲ移入セムトスル者ハ其ノ證明書ト共ニ現品ヲ稅關、稅關支署又ハ稅關出張所ニ呈示シ承認ヲ受クヘシ

第二條　檢査ノ結果左ノ一ニ該當スト認メタルモノハ輸入又ハ移入ヲ爲スコトヲ得ス

一　罹病セルモノ

二　害蟲附著セルモノ但シ輸入又ハ移入ノ地ノ稅關ニ於テ消毒ヲ爲シタルモノヲ除ク

第二條ノ二　檢査ノ結果移入シ得ヘキモノト認メタルトキ又ハ消毒ヲ爲シタルトキハ稅關ハ第二號樣式ノ檢査證ヲ交付スヘシ

第三條　檢査又ハ消毒ヲ行フヘキ場所及期間ハ別ニ之ヲ告示ス

第四條　本令ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

樣式(略)

●染料輸入許可ニ關スル件

（大正十三年八月二十五日　朝鮮總督府令第四十五號）

染料ノ輸入許可ニ關スル件左ノ通定ム

染料輸入許可ニ關スル件

第一條　當分ノ內左ニ揭クル物品ヲ輸入セムトスル者ハ別ニ定ムル手續ニ依リ豫メ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ但シ獨逸國トノ平和條約賠償條項ニ依リ受領スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　コールタール染料

二　コールタール分溜物ヨリ誘導シタル化學的生成品(醫藥及石炭酸ヲ除ク)

第二條　前條ノ規定ハ通商航海條約ニ牴觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ前條ノ物品ヲ輸入スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關ニ提出スヘシ

一　製造者ノ氏名又ハ商號及住所

二　製造地

三　品名

四　數量

前項ノ書面ニハ其ノ物品ノ製造地、仕入地又ハ積出地ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他官廳公署又ハ商業會議所ノ證明アルコトヲ要ス

第三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ物品ヲ輸入シタルトキハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第四條　第二條第二項ノ規定ニ依リ輸入シタル者ハ遲滯ナク其ノ物品ノ商品名、通稱又ハ學名、濃度、數量、關稅込到著見込價格及製造者名ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ三月內ニ其ノ物品ヲ輸入スヘシ

朝鮮總督ハ相當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第一條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ期間內ニ其ノ物品ヲ輸入セサルトキハ第一條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　第一條ノ規定ニ違反シテ輸入シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後第一條ノ許可ヲ受クヘキ物品ノ注文ヲ發シタル者本令施行後二週間內ニ別ニ定ムル手續ニ依リ之ヲ朝鮮總督ニ屆出テタルトキハ本令施行ノ日ニ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條第二項ノ規定ニ依ルヘキ者本令施行前其ノ物品ノ注文ヲ發シタルトキハ本令施行後二週間內ニ其ノ物品ノ商品名、通稱又ハ學名、濃度、數量、關稅込到著見込價格及製造者名ヲ朝鮮總督ニ屆出テ且本令施行後三月內ニ之ヲ輸入スル場合ニ限リ朝鮮總督ノ交付スル屆出證明書ヲ以テ第二條ノ書面ニ代用スルコトヲ得

第一條第一號又ハ第二號ノ物品ニシテ本令施行ノ際現ニ保稅地域ニ在ルモノ又ハ朝鮮ニ向テ輸送ノ途ニ在ルモノヲ輸入セムトスル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

（大正十三年八月二十五日　朝鮮總督府告示第百七十五號）

一　大正十三年朝鮮總督府令第四十五號第一條ノ許可ヲ受ケムトスル者又ハ同附則第二項ノ屆出ヲ爲サムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書三通又ハ屆書二通ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

一　商品名

二　通稱又ハ學名

三　濃度

四　數量

五　關稅込到著見込價格

六　輸入者ノ氏名又ハ商號及住所

七　製造者ノ氏名又ハ商號及住所

八　買入先ノ氏名又ハ商號及住所

九　積出港

十　輸入手續ヲ爲スヘキ稅關名

十一　豫定輸入時期

二　大正十三年朝鮮總督府令第四十五號附則第四項ノ規定ニ依リ準用シタル同第二項ノ規定ニ依ル屆出ニ付亦前項ニ同シ

三　第一項第十號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

四　朝鮮總督ハ第一項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ見本ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

五　許可ヲ受ケタル者又ハ許可ヲ受ケタル者ト看做サレタルモノハ其ノ物品ヲ輸入スル場合ニ於テ輸入許可證ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關ニ提出スヘシ

（大正十三年八月二十五日　朝鮮總督府告示第百七十六號　改正　大正一五年第一五〇號）

大正十三年朝鮮總督府令第四十五號第一條第一號及第二號ノ物品ハ關稅定率法輸入稅表中別表ノ番號及品名ニ該當ス

（別表）

番號	品名
第一五八番ノ內	サリチール酸
第二〇三番ノ內	サッカリン
第二〇八番	コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的生成品(ベンザルデハイド、ナイトロベンゾール及ナイトロトリユーオル以外ノ香料、石炭酸、サリチール酸、ベークライト及醫藥ヲ除ク)
第二二〇番	人造麝香
第二二一番ノ內	ベタナフトールメチールエーテル(ネロリン)、ベタナフトールエチールエーテル、シンナミックアシッドベンザールエステル、シンナミックアシッド、サリチールエステル等ノコールタール分餾物ヨリ誘導シタル薰香性化學藥品
第二二九番ノ內	ベンザールアセテート、アミルサリシレート、ベンザールアルコール等ノコールタール分餾物ヨリ誘導シタル人造香料
第二四二番	人造藍
第二四三番	別號ニ揭ケサル合成染料
第六四七番ノ內	ベークライト

●輸出入植物取締法施行規則

（大正十二年一月一日　臺灣總督府令第十七號　改正　大正一二年第八〇號、一三年第三三號、一五年第一一號）

輸出入植物取締法施行規則左ノ通相定ム

輸出入植物取締法施行規則

第一條　輸出入植物取締法第一條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クヘキ植物左ノ如シ

一　輸入又ハ移入スル植物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

一　植物及其ノ部分ニシテ栽植培養ノ用ニ供スルモノ

一　種子、地下莖及根ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ

二　輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ檢査證明ヲ必要トスルモノ

三　內地ニ移出スル柑橘類ノ果實及西瓜

第一條ノ二　內地行船舶ニ積載スル柑橘類ノ果實及西瓜ハ總テ移出ト看做ス

第二條　前條第一號ノ植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ植物ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滯ナク第一號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ植物檢査所又ハ分所ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ但シ旅客ノ携帶ニ係ルモノニ付テハ口頭ヲ以テ植物檢査員ニ、植物檢査員現場ニ在ラサルトキハ稅關官吏ニ申請ヲナスコトヲ得

第三條　第一條第二號又ハ同條第三號ノ植物ヲ輸出又ハ移出スル者ハ第二號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ植物檢査所又ハ分所ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ

第四條　第一條第三號ノ檢査ニ付テハ手數料ヲ徵收ス但シ手數料ノ額ハ別ニ之ヲ定ム

手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第五條　植物檢査員輸出入植物取締法第二條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ檢査ヲ受クヘキ物ノ管理者ニ豫メ其ノ旨ヲ通告スヘシ但シ急施ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　輸出入植物取締法第三條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第三號樣式ニ準シタル申請書ヲ植物檢査所又ハ分所ヲ經由シテ臺灣總督府ニ差出スヘシ

第七條　病菌又ハ害蟲ハ通常郵便ニ依リ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ハ其ノ郵便物ヲ添ヘ遲滯ナク其ノ旨ヲ植物檢査所又ハ分所ニ屆出ツヘシ

第八條　病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ病菌又ハ害蟲ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滯ナク第四號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ植物檢査所又ハ分所ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ

第九條　植物檢査員ハ第二條又ハ前條ノ申請前ト雖モ檢査ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條　第二條、第三條若ハ第八條ノ申請ヲ爲シタル者又ハ第五條若ハ前條第二項ノ通告ヲ受クヘキ者ハ植物檢査員ノ指揮ニ從ヒ檢査ヲ受クヘキ物又ハ受ケタル物ノ運搬、荷造、荷解其ノ他ノ處置ヲ爲スヘシ

第十一條　第一條第一號ノ植物ヲ包容スル通常郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク第五號樣式ニ準シタル檢査ノ申請書ト共ニ其ノ郵便物ヲ植物檢査所又ハ分所ニ差出スヘシ但シ十五條ノ證票又ハ證印アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ受クヘキ物ハ植物檢査品ナル文字ヲ明瞭ニ表示シタルモノニ非サレハ小包郵便ニ依リ之ヲ內地、朝鮮、樺太又ハ南洋諸島ヨリ移入スルコトヲ得ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル小包郵便ノ配達ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十三條　特ニ指定シタル郵便局ハ輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ受クヘキモノヲ包容スル小包郵便ヲ受付又ハ其ノ遞送ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ植物檢査所又ハ分所ニ通知スヘシ

前項ノ郵便物ノ檢査ハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第十四條　輸出地又ハ移出地ノ官憲ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セサルコトヲ證明シタル檢査證ヲ有スル植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ旨ヲ植物檢査所又ハ分所ニ屆出ツヘシ

第二條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ檢査證ヲ有スル植物ニ付テハ輸入又ハ移入ノ檢査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第九條及第十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　植物檢査員檢査ノ結果取締上支障ナシト認ムルトキハ輸入、移入又ハ移出スルモノニ在リテハ第六號樣式甲號ノ證票又ハ證印ヲ附シ輸出スルモノニ在リテハ第七號樣式又ハ第八號樣式ノ證明書ヲ交付スヘシ但シ西瓜ノ移出ニ在リテハ第六號樣式乙號ノ證票及證印ヲ附スヘシ

植物檢査員前條第二項ノ規定ニ依リ檢査ヲ省略シタルトキハ第九號樣式ノ證票又ハ證印ヲ附スヘシ

第十六條　植物檢査員植物其ノ他ノ物ヲ燒棄、埋沒若ハ著シク毀損シ又ハ其ノ輸入、移入若ハ輸出、移出ヲ禁止スルトキハ第二條、第三條、第八條若ハ第十一條ノ申請ヲ爲シタル者、第五條若ハ第九條ノ通告ヲ受クヘキ者、第十四條第一項ノ屆出ヲ爲シタル者又ハ郵便物ノ名宛人ヘ其ノ旨ヲ通告シ且關係アル稅關及郵便局ニ之ヲ通知スヘシ

第十七條　植物檢査員輸出入植物取締法第六條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ通知スヘシ但シ內地、朝鮮、樺太又ハ南洋諸島ヨリ移入スル物ニ係ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　稅關官吏又ハ警察官吏輸出入植物取締法第八條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨植物檢査所又ハ分所ニ通知スヘシ

第十八條ノ二　內地行船舶ニ西瓜ヲ積載セムトスル者ハ植物檢査所基隆分所又ハ高雄分所ニ於テ查證票ノ交付ヲ受ケ之ヲ船長ニ交付スヘシ

第十九條　第二條、第三條、第七條第二項、第八條、第十條、第十一條、第十二條第二項、第十四條第一項又ハ第十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　臨檢、尋問、搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年府令第百四十二號ハ之ヲ廢止ス

（樣式略ス）

●輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ行フ場所

（大正十二年一月一日　臺灣總督府令第十八號　改正　大正一二年第八一號、一四年第三八號）

輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ行フ場所別表ノ通相定ム

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年府令第百四十三號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

種別	地名
輸入、移入、輸出及移出ノ檢査ヲ行フ場所	臺北州臺北市、臺北州基隆市、臺南州臺南市、高雄州高雄市
移出ノ檢査ヲ行フ場所	新竹州新竹街、臺中州員林街

●臺灣帽子檢査規則

（明治四十四年五月二十五日　臺灣總督府令第四十一號　改正　大正二年第四七號、第九一號、五年第六一號、六年第八號、一〇年第一四五號）

臺灣帽子檢査規則左ノ通相定ム

臺灣帽子檢査規則

第一條　本島ニ於テ製造シタル林投帽、紙帽及大甲帽ヲ營利ノ目的ヲ以テ本島外ニ搬出セムトスル者ハ檢査手數料ヲ添ヘ檢査所ニ請求シ檢査ヲ受クヘシ

檢査濟帽子ヲ本島外ニ搬出ノ爲託送セムトスル者ハ檢査所ヨリ檢査濟證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ郵便局、鐵道部又ハ運送受託者ニ提出スヘシ

檢査所ノ名稱、位置、檢査手數料ノ額及檢査證ノ色ハ州知事之ヲ告示ス

第一條ノ二　郵便局、鐵道部及運送受託者ハ檢査濟證明書ノ添附ナキ林投帽、紙帽若ハ大甲帽ノ託送ヲ受クルコトヲ得ス

第二條　檢査ハ檢査所所在地ニ於テ檢査官吏之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ帽子ノ所在地ニ就キ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第三條　檢査ハ請求ノ順序ニ依リ每日晝間之ヲ行フ

第四條　檢査ハ左ノ事項ニ就キ臺灣總督ノ定

ムル標準ニ依リ檢査官吏之ヲ行フ

一　原料

二　漂白又ハ色合

三　形狀

四　編方

五　耳組

第五條　前條ノ檢査ニ於テ合格シタルモノニハ別記第一號雛形ノ合格證ヲ帽體ノ裏面ニ貼附シ不合格ノモノニハ別記第二號雛形ノ不合格證ヲ帽體ノ裏面ニ烙印ス

第五條ノ二　不合格帽子ハ之ヲ島外ニ搬出スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ依リ州知事ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　檢査ヲ結了シタルトキハ檢査請求人ハ檢査官吏立會ノ上包裝シ直ニ現品ヲ引取ルヘシ

第七條　檢査濟ノ帽子ト雖必要ト認メタル場合ニ於テハ再檢査ヲ行フコトアルヘシ

第八條　再檢査ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九條　再檢査ニ於テ前檢査ヲ取消シタルトキハ別記第四號雛形ノ消印ヲ爲シ更ニ第五條ノ手續ヲ行フ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條第一項、第二項及第五條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

二　第七條ノ再檢査ヲ拒ミタル者

三　檢査證ヲ除去シタル林投帽、紙帽及大甲帽ヲ本島外ニ搬出シタル者

四　第一條ノ二ノ規定ニ違反シタル運送受託者

第十一條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ州知事之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記略ス）

●臺灣帽子原料取締規則

（大正十一年十月十四日臺灣總督府令第百六十一號）

臺灣帽子原料取締規則左ノ通相定ム

臺灣帽子原料取締規則

第一條　本島產紙帽ニ用ウル原料ハ臺灣總督府ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ製帽ノ目的ヲ以テ之ヲ移入又ハ輸入スルコトヲ得ス

前項ノ檢査ハ必要ニ應シ同業組合若ハ同業組合聯合會ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●染料輸入ニ關スル件

（大正十三年七月二十二日臺灣總督府令第六十七號）

染料ノ輸入許可ニ關スル件左ノ通定ム

染料輸入ニ關スル件

第一條　當分ノ內左ニ揭クル物品ヲ輸入セムトスル者ハ別ニ定ムル手續ニ依リ豫メ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但シ獨逸國トノ平和條約賠償條項ニ依リ受領スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　コールタール染料

二　コールタール分溜物ヨリ誘導シタル化學的生成品（醫藥及石炭酸ヲ除ク）

第二條　前條ノ規定ハ通商航海條約ニ牴觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ前條ノ物品ヲ輸入スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關ニ提出スヘシ

一　製造者ノ氏名又ハ商號及住所

二　製造地

三　品名

四　數量

前項ノ書面ニハ其ノ物品ノ製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明アルコトヲ要ス

第三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ物品ヲ輸入シタルトキハ遲滯ナク之ヲ臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第四條　第二條第二項ノ規定ニ依リ輸入シタル者ハ遲滯ナク其ノ物品ノ商品名及通稱又ハ學名、濃度、數量、關稅込到着見込價格竝製造者名ヲ臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ三月內ニ其ノ物品ヲ輸入スヘシ

臺灣總督ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第一條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ期間內ニ其ノ物品ヲ輸入セサルトキハ第一條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　第一條ノ規定ニ違反シテ輸入シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第一條ノ許可ヲ受クヘキ物品ノ註文ヲ發シタル者本令施行後二週間內ニ別ニ定ムル手續ニ依リ之ヲ臺灣總督ニ屆出テタルトキハ本令施行ノ日ニ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條第二項ノ規定ニ依ルヘキ者本令施行前其ノ物品ノ註文ヲ發シタルトキハ本令施行後二週間內ニ其ノ物品ノ商品名及通稱又ハ學名、濃度、數量、關稅込到着見込價格竝製造者名ヲ臺灣總督ニ屆出テ且本令施行後三月內ニ之ヲ輸入スル場合ニ限リ臺灣總督ノ交付スル屆出證明書ヲ以テ第二條ノ書面ニ代用スルコトヲ得

第一條第一號若ハ第二號ノ物品ニシテ本令施行ノ際現ニ保稅地域ニ在ルモノ又ハ本邦ニ向テ輸送ノ途ニ在ルモノヲ輸入セムトスル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

（大正十三年七月二十二日臺灣總督府告示第九十四號）

一　大正十三年府令第六十七號第一條ノ許可ヲ受ケムトスル者又ハ同附則第二項ノ屆出ヲ爲サムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書又ハ屆書ヲ臺灣總督ニ提出スヘシ

一　商品名及濃度

二　通稱又ハ學名

三　數量

四　關稅込到着見込價格

五　輸入者ノ氏名又ハ商號及住所

六　製造者ノ氏名又ハ商號及住所

七　買入先ノ氏名又ハ商號及住所

八　積出港

九　輸入手續ヲ爲スヘキ稅關名

十　豫定輸入時期

二　大正十三年府令第六十七號附則第四項ノ規定ニ依リ準用シタル同第二項ノ規定ニ依ル屆出ニ付亦前項ニ同シ

三　第一項第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ臺灣總督ニ屆出ツヘシ

四　臺灣總督ハ第一項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ見本ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

五　許可ヲ受ケタル者又ハ許可ヲ受ケタルモノト看做サレタル者ハ其ノ物品ヲ輸入スル場合ニ於テ輸入許可書ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關ニ提出スヘシ

（大正十三年七月二十二日臺灣總督府告示第九十五號）（改正　大正一五年第七三號）

大正十三年府令第六十七號第一條第一號及第二號ノ物品ハ關稅定率法輸入稅表中別表ノ番號及品名ニ該當ス

（別表）

番號	品名
第一五八番ノ內	サリチール酸
第二〇三番ノ內	サッカリン
第二〇八番	コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的生成品（ベンザルデハイド、ナイトロベンゾール及ナイトロトリユーオル以外ノ香料、石炭酸、サリチール酸、ベークライト及醫藥ヲ除ク）
第二二〇號	人造麝香
第二二一番ノ內	ベタナフトールメチールエーテル（ネロリン）、ベタナフトールエチールエーテル、シンナミツクアシツドベンザールエステル、シンナミツクアシツドサリチールエステル等ノコールタール分餾物ヨリ誘導シタル薰香性化學藥
第二二九番ノ內	ベンザールアセテート、アミルサリシレート、ベンザールアルコール等ノコールタール分餾物ヨリ誘導シタル人造香料
第二四二番	人造藍
第二四三番	別號ニ揭ケサル合成染料
第六四七番ノ內	ベークライト

●木材ノ移出又ハ輸出ニ關スル件

（大正十年十月十六日樺太廳令第四十一號）

木材ノ移出又ハ輸出ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太ニ於テ產出シタル丸太、角材又ハ板類ヲ樺太外ニ移出又ハ輸出セムトスル者ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ樺太外ニ移出又ハ輸出スル目的ヲ以テ賣拂又ハ讓與ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ在リテハ其ノ移出又ハ輸出前之ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第二條　前條ノ願屆書ハ別記樣式ニ依リ其ノ移出又ハ輸出物件所在地支廳出張所ノ管轄ナルトキハ所轄支廳出張所長ニ其ノ他ノ地域ナルトキハ所轄支廳長ニ差出スヘシ

第三條　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處シ同條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四條　本令ニ依リ願出又ハ屆出ノ義務ヲ有スル者未成年者又ハ禁治產者若ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人若ハ法人ノ代表者ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

木材移出（輸出）願（屆）

一　物件ノ所在地

一　物件ノ種類及數量

一　物件ノ出所

一　移出又ハ輸出先

右御許可相成度此段相願候也

右及御屆候也

年　月　日

住　所

氏　名

樺太廳長官氏名殿

●關東州輸入果樹及櫻樹取締規則

（大正十二年一月二十三日關東廳令第三號）（改正　大正一三年第六號）

關東州輸入果樹及櫻樹取締規則左ノ通定ム

關東州輸入果樹及櫻樹取締規則

第一條　左ニ該當スル果樹又ハ櫻樹（接穗及砧木ヲ含ム以下同シ）ハ關東州內ニ輸入スルコトヲ得ス

一　罹病セルモノ

二　害蟲附著セルモノ

第一條ノ二　果樹又ハ櫻樹ヲ輸入シ又ハ送付ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク別記第一號樣式（郵便ニ依リ送付ヲ受ケタル者ハ別記第二號樣式）ノ檢査申請書ト共ニ其ノ樹苗ヲ最寄樹苗檢査場所ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

農商務省植物檢査所ノ病害蟲ナキモノノ證明アルモノハ前項ノ檢査ヲ要セス但シ別記第三號樣式ニ依ル輸入果樹（櫻樹）申告書ヲ最寄樹苗檢査場所ニ差出スヘシ

第二條　樹苗檢査ハ樹苗檢査場所所在地ノ民政署長、民政支署長及關東廳農事試驗場長ノ管理ニ屬ス

樹苗檢査ヲ行フヘキ場所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條ノ二　樹苗檢査官吏ハ第一條ノ二ノ規定ニ依リ檢査施行ノ結果樹苗ニ病菌又ハ害蟲附著スト認ムルトキハ直ニ之ヲ消毒シ、燒棄セシメ又ハ樹苗發送人ニ返送セシムヘシ

樹苗檢査官吏ハ本令ノ規定ニ違反セル樹苗ヲ所持シ又ハ植附シタルモノニシテ病菌又ハ害蟲附著スト認ムルトキハ之ヲ消毒シ又ハ燒棄セシムヘシ

第二條ノ三　本令ニ依ル檢査ノ爲生シタル損害ニ付テハ官ハ其ノ責ニ任セス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條、第一條ノ二及第二條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

二　詐欺ノ行爲ヲ以テ檢査ヲ免レタル者

三　檢査ヲ受クルニ當リ詐欺ノ行爲アリタル者

附　則

本令ハ大正十二年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

第三章　工業

●工場法

（明治四十四年三月二十九日法律第四十六號）（改正　大正一二年第三三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、農商務大臣副署）

工場法

第一條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一　常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二　事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條　削除

第三條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以內延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條　削除

第六條　削除

第七條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間ヲ限リ就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超エルコトヲ得ス

第八條　天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歲以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ屆出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以內延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以內延長スルコトヲ得此[illegible]ル期間內[illegible]

[illegible]ニ腐敗シ[illegible]ノ損失ヲ[illegible]四日以上[illegible]ル限リ行[illegible]

第九條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、檢査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條　工業主ハ十六歲未滿ノ者ヲシテ毒藥、

劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條　前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條　主務大臣ハ病者又ハ産前産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條　當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十五條　工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條　職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條　職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工業管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條　工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齡ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條　主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正五年勅令第百五十六號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

附　則（大正十二年法律第三十三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

●工場法施行令

（大正十五年勅令第百五十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

大正五年八月三日
勅令第百九十三號
改正　大正一一年第四七一號、一五年第一五三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ工場法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

工場法施行令

第一章　通則

第一條　左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麺類又ハ麩ノ製造
二　行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、竹ノ皮、經木、茭、藁又ハ藁ノ手工品ノ製造
三　經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製
四　「アタン」、「パナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製
五　扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造
六　紙、絲、綿、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造
七　形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造
八　手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫
九　手工ニ依ル組紐ノ編製
一〇　刺繡、「レース」、「パテンレース」又ハ「ドローンウォーク」ノ業

第二條　鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條　左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

一　毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
二　動物ノ剝製
三　水銀ヲ用フル計器ノ製造
四　水銀喞筒ヲ用フル魔法罎ノ製造
五　鉛ヲ用フル罐ノ製造
六　琺瑯鐵器又ハ琺瑯藥ノ製造
七　塗料、顏料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
八　亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業
九　硫黄ノ精製
一〇　「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理
一一　「ファクチス」ノ製造
一二　脂肪油ノ精製
一三　「ボイル」油ノ製造
一四　乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造
一五　溶劑ヲ用フル護謨製品ノ製造
一六　溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護謨製品ノ貼合

一七　溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
一八　溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
一九　溶劑ヲ用フル野草莚ノ捺染
二〇　溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
二一　溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」（單ニ拂拭スルモノヲ除ク）
二二　溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造
二三　「タンニン」酸ノ製造
二四　合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
二五　「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
二六　硝化綿ノ製造
二七　「コロヂウム」ヲ用フル紙撚製品ノ製造
二八　「エーテル」ノ製造
二九　酒精ノ製造又ハ變性
三〇　「ヴィスコーズ」ノ製造
三一　「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
三二　鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
三三　「アスファルト」ノ精製
三四　瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
三五　燐寸ノ製造
三六　火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
三七　金屬ノ熔融又ハ精煉
三八　電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
三九　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
四〇　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷
四一　動力ニ依ル製材
四二　電氣業（發電所、變電所、蓄電所及開閉所）
四三　電球ノ製造
四四　硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
四五　金屬、骨、角又ハ貝殼ノ乾燥研磨
四六　動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
四七　動力ニ依ル鑛石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
四八　電氣用「カーボン」ノ製造
四九　石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造
五〇　「カーバイト」ノ製造
五一　石灰ノ製造
五二　「フェルト」又ハ吹付羅紗（粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗）ノ製造
五三　起毛又ハ反毛ノ作業
五四　製綿
五五　麻ノ梳解
五六　古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ繿縷類ノ選別
五七　骨炭又ハ血炭ノ製造
五八　毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
五九　毛髮又ハ羽毛ノ精製
六〇　其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業

第二章　職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條　職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第五條　職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條　職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第七條　職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

一　終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ
　賃金五百四十日分以上
二　終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ
　賃金三百六十日分以上
三　從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ
　賃金百八十日分以上
四　身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ
　賃金四十日分以上

第七條ノ二　職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第八條　職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條　職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分（其ノ金額二十圓ニ滿チサルトキハ二十圓）以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條　遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條　前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一　職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
二　男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
三　直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
四　前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第十二條　第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一　職工ノ家督相續人又ハ戸主
二　職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
三　職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條　第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第十三條ノ二　職工健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條　第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

第十五條　工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一　職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請

求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二　扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條　扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一　職工健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二　職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前）三月間（雇入後三月ニ滿タサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一　業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二　產前又ハ產後ノ女子內務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業シタル期間

三　試ノ雇傭期間

四　工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セラルル手當ニシテ內務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條　前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條　地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ揭クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審查シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條　工業主ハ遲滯ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條　官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章　職工ノ雇入及解雇

第二十一條　工業主ハ遲滯ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條　職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條　工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ內務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滯ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用ヰルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滯ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條　工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

二　職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セラルル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

第二十五條　職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　削除

第二十七條　未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日內ニ歸鄕スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ

第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日內ニ歸鄕スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二　工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ揭クル期間ハ之ヲ算入セス

一　業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス

二　產前又ハ產後ノ女子內務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

三　工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付之ヲ適用セス但シ雇入後十四日（工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日）ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三　職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滯ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滯ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

一　始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項

二　賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

三　職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

四　制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五　解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章　徒弟

第二十八條　工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト

二　一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト

三　品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト

四　地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラルルコト

第二十九條　工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一　徒弟ノ員數

二　徒弟ノ年齡

三　指導者ノ資格

四　教習ノ事項及期間

五　就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間

六　休日及休憩ニ關スル事項

七　品性修養ニ關スル監督ノ方法

八　給與ノ方法

九　第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程

十　徒弟契約ノ條項

第三十條　徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歲未滿ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危險ヲ避ケ及衞生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第三十一條　地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條　第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用ヰルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章　罰則

第三十三條　工業主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ者ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　削除

附　則

第三十七條　本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年內其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月內ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間內ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第四十條　現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セサル限リ本令施行ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十一條　本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條　本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附　則（大正十五年勅令第百五十三號）

第一條　本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

第三條　本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年以內其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條　尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ遲滯ナク就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以內ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間內ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間內ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　本令中十六歲トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歲トス

●工場法施行規則（大正五年八月三日農商務省令第十九號）

改正　大正一五年內務省令第一三號

工場法施行規則左ノ通定ム

工場法施行規則

第一條　工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ペルトン水車及電動機トス

第二條　工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ屆出ニ付亦同シ

第三條　器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歲未滿ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　工場法第八條第二項ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ又ハ休日ニ就業セシメタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第五條　工場法第九條ニ揭クル業務ノ範圍左ノ如シ

一　原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル軸輪、曲柄、連接桿、聯桿、滑子桿、發電機ノ「コンミュテーター」、轉子、[illegible]ノ突出物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危險ナル部分ノ運轉中ニ掃除、注油、檢査又ハ修繕ヲ爲ス業務

二　[illegible]

三　汽罐ノ焚火[illegible]安全弁ノ取扱

四　發電機、變電機、電動機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續

五　鋸機ニ木材ヲ送給スル業務

六　[illegible]近シテ行フ業務

七　完全ナル[illegible]キ車軌道及其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條　工場法第十條ニ揭クル業務ノ範圍左ノ如シ

一　砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃燐、硫化燐、「チアン水素酸」、「チアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務

二　「カーリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンジン、「ア

ルコホル」、「二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務

三　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務

四　火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

五　金屬、鑛物、土石、骨、角、襤褸、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

六　砒素、水銀、黃燐、鉛、チアン水素酸「フルオール」、「アニリン」、「クローム」、若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七　多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煆燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條　工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ揭クル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第八條　工業主ハ左ニ揭クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ揭タル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　精神病

二　癩、肺結核、喉頭結核

三　丹毒、再歸熱、痲疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五　膿漏性結膜炎、トラホーム（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　工業主ハ四週日以內ニ出產スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ產後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ產後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第九條ノ二　生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以內ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第十條　地方長官ハ前二條ニ揭クル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ產婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十一條　工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ樣式第一號ニ依ル

第十二條　工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻竝休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條ノ二　工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ準及計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條　工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條　職工就業中又ハ工場及附屬建設物內ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二　工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ

一　三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與

二　發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

第十五條　工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テハ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條　職工名簿ノ記載ハ樣式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十七條　職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條　職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條　工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一　職工カ一月以上ニ涉リテ歸鄕スルトキ

二　職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ

三　其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條　工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條　工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

一　工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ

二　工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ

三　第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條　削除

第二十四條　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ樣式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十五條　職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物內ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滯ナク樣式第四號ニ依リ地方長官ニ屆出ツヘシ事故發生當時休業三日以內ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條　工場又ハ附屬建設物內ニ於テ左ニ揭クル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滯ナク樣式第五號ニ依リ地方長官ニ屆出ツヘシ

一　火災又ハ爆發

二　汽罐其ノ他內壓力ヲ有スル容器ノ破裂

三　勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂

四　起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損

五　工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壞

六　其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十七條　削除

附　則

第二十八條　本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條　本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月內ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條　工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ怠リタル者又ハ其ノ屆書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附　則（大正十五年內務省令第十三號）

本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令（樣式第二號ノ改正規定ヲ除ク）中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ十五歳トス

（樣式第一號）

第　　號

大正　年　月　日交付

官　職　氏　名

社會局又ハ廳府縣印

工場法第十四條　當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

工場法第二十一條　正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

竪八センチメートル橫十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工場臨檢票」ト記ス

（樣式第二號）

男	女	住所	履歷	雇入	解雇	雜
氏名	生年月日					
本籍						

職工名簿記載心得

一　職工名簿ハ職工毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ體裁ハカード式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

二　工業主ノ都合ニ依リ本樣式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄內ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス

・各欄ノ位置ハ本樣式ニ揭クル順序ニ依ルヘシ但シ本則施行ノ際使用スル職工名簿ニ付テハ新名簿調製ニ至ル迄ノ間從前ノ順序ニ依ルコトヲ得

三　職工名簿ハ職工ノ業務別、男女別又ハ女工及十六歳未滿ノ男工ト其ノ他ノ職工トヲ區別スル等便宜ニ從ヒ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ妨ケス

四　履歷欄ニハ職工ノ學業及業務上ノ履歷ノ概略ヲ記載スヘシ職工十六歳未滿ノ者ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

五　雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定アルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

六　解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ職工死亡シタルトキハ本欄ニ其ノ年月日、死亡ノ原因、死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スヘシ

七　雜欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ　女工及十六歳未滿ノ男工カ同一日ニ於テ他工場ニモ就業スル場合ニ於テハ他工場ニ於ケル就業時間（工場法第三條第三項）

ロ　職工カ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ヲ豫告シタルトキハ其ノ氏名、住所、職工トノ關係及豫告ノ年月日（工場法施行令第十二條但書）

尙本欄ニハ工業主ニ於テ必要ト認ムル雜件ヲ記載スルモノトス

八　各票作成ノ當務者ハ雜欄其ノ他便宜ノ場所ニ作成ノ年月日ヲ記載シ署名又ハ捺印スヘシ

（樣式第三號）

大正　年　月分職工負傷疾病月報

工場名

職工總數	內譯	
	男工	女工

氏名	生年月	業務別 男女別	休業日數	病名又ハ負傷ノ種類	發病又ハ負傷ノ日附	結末			
						治癒ノ日	死亡ノ日	解雇ノ日	未治癒ノ爲翌月ヘ繰越

職工負傷疾病月報記載心得

一　本月報用紙ハ一頁ハ半紙半折大トス

二　本月報ニハ業務上ト否トヲ問ハス負傷又ハ疾病ノ爲引續キ三日又ハ夫レ以上休業シタル者ニ限リ記載スヘシ但シ死亡シタル者ニ付テハ休業三日ニ滿タサルトキト雖之ヲ記載スヘシ

同一職工ニ付同一月内ニ二回以上月報ニ記載スヘキ事由ヲ生シタルトキハ各別ニ記載スヘシ

三　負傷及疾病ハ各別ニ取纏メテ記載スヘシ負傷ト疾病ト用紙ヲ別ニスルモ妨ナシ

四　職工總數欄ニハ其ノ月ノ末日ニ使用スル職工ノ總數ヲ記載スヘシ

五　業務別男女別欄ニハ例ヘハ紡績工場ニ於テハ混棉部男工、精紡部女工、製紙工場ニ於テハ紙料部男工、織布工場ニ於テハ整經部女工等ニ準シ記載スヘシ

六　休業日數欄ニハ其ノ月ニ於ケル休業日數ヲ記載スヘシ

月末ノ休業日數カ三日ニ滿タサルモ翌月ノ分ト合算シテ三日又ハ夫レ以上トナリタル場合ニ於テハ之ヲ通算シテ翌月ノ月報ニ記載スヘシ

未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ記載シタルモノニシテ翌月ニ入リ治癒シタルトキハ翌月ニ於ケル休業三日ニ滿タスト雖仍之ヲ翌月ノ月報ニ記載スヘシ

七　病名又ハ負傷ノ種類、發病又ハ負傷ノ日附判明セサルトキハ「不明」ト記載スヘシ

八　結末欄ニ於テハ其ノ月内ニ治癒シタル者ハ治癒ノ日附、其ノ月内ニ死亡シ又ハ治癒ニ至ラスシテ解雇シタル者ハ死亡又ハ解雇ノ日附ヲ記載シ其ノ月内ニ治癒セサル者ニ付テハ未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ〇印ヲ附スヘシ

（様式第四號）

職工死傷報告

工場名			
工場所在地			
工業主又ハ工場管理人			
事業ノ種類			
職工數	男	女	計
事故發生日時	年　月　日　午前 午後　時　分		
事故發生場所			
當日被害者ノ作業開始時刻	年　月　日　午前 午後　時　分		
死傷者	氏名		
	性		
	生年月		
	業務又ハ職名		
	雇入年月		
	賃金		
	被害ノ部位及症狀		
	死亡ノ日時又ハ休業見込日數		
災害ノ原因及發生狀況			
動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ傳導裝置ニ依リ災害ノ發生シタルトキ記入スヘキ事項	名稱		
	大サ又ハ能力		
	災害ヲ生シタル部分		
	其ノ部分ノ速度、大サ等		
危害豫防裝置ノ狀況			

（　年　月　日屆出）

職工死傷報告記載心得

一　本報告用紙ハ一頁ハ美濃紙半折大トス

二　本報告ハ職工死亡シ又ハ療養ノ爲休業二週日以上ヲ要スヘキ見込ノ場合ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スヘシ

三　本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ屆出後五年間之ヲ保存スヘシ

四　本報告ハ死傷者一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ中一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得

五　工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス

六　工業主又ハ工場管理人欄ニハ屆出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ

七　事業ノ種類欄ニハ例ヘハ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製鑵業、菓子製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ

八　職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ

九　事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱（例ヘハ機關室、鍛工場、木工場、乾燥室、原料粉碎室、苛性曹達煮詰釜場、叩解作業室、機關室ト貯炭所トノ間ノ軌道、入渠中ノ修理船何丸ノ足場等）ヲ記入スヘシ

十　當日被害者ノ作業開始時刻欄ニハ被害者ノ當日作業ヲ開始シタル時刻ヲ記入スヘシ前日ヨリ引續キ夜業ヲ爲セル場合ニ於テハ前日ノ開始時刻ヲ記入スヘシ

十一　死傷者欄中

（一）業務又ハ職名欄ニハ被害者ノ擔當業務又ハ職名（例ヘハ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等）ヲ記入スヘシ

（二）雇入年月欄ニハ當該工場ニ於テ被害者ヲ雇入レタル年月ヲ記入スヘシ

（三）賃金欄ニハ被害者ノ日給（稼高ノ場合其ノ他收入一定セサル場合ニ於テハ最近ニ於ケル通常一日ノ賃金額）ヲ記入スヘシ

（四）被害ノ部位及症狀欄ニハ例ヘハ頭部打撲、右上膊骨折、左第三指及第四指挫傷、電擊、腹部火傷、瓦斯中毒、窒息等ヲ記載スヘシ

（五）死亡日時又ハ休業見込日數欄ニハ死亡シタル者ニ付テハ死亡ノ日時、生命危篤ノ者ニ付テハ其ノ旨、其ノ他ノ者ニ付テハ治療ノ爲休業シタル日數ト其ノ後ノ休業見込日數トノ合算日數ヲ記入スヘシ

十二　災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害カ機械又ハ設備ニ依リテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ケテ其ノ顛末ヲ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡略ニ記載スヘシ

第二十六條ニ規定セル事故ニ因リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ様式第五號ノ工場災害事故報告トノ關係ヲ明ニスヘシ

十三　動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中

（一）名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱（例ヘハ蒸汽機關、旋盤、圓鋸機、車軸、調帶等）ヲ記入スヘシ

（二）大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力（例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何糎、幅何糎、厚サ何糎等）ヲ記入スヘシ

（三）災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄（クランク）、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帶、調帶車等ヲ記入スヘシ

（四）其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ廻轉數何程、輪周速度何米、長サ何米、幅何糎、厚サ何糎等ヲ記入スヘシ

十四　危害豫防裝置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防裝置（例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何糎ノ眞鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル樣爲シタル危險部ヲ蔽ヘル戶等）アルトキハ之ヲ記入スヘシ

十五　災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

十六　災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

（様式第五號）

工場災害事故報告

工場名				
工場所在地				
工業主又ハ工場管理人				
事業ノ種類				
職工數	男	女	計	
事故發生日時	年　月　日　午前 午後　時　分			
事故發生場所				
災害ノ原因及發生狀況				
被害ノ狀況	死傷者數	性	男	女
		死亡者		
		二週日以上ノ休業ヲ要スル者		
		其ノ他ノ負傷者		
		計		
	災害ニ因ル損害	被害建物ノ種類		
		坪數		
		損害見積金額	圓	
		機械、設備等ノ損害	圓	
		原料、材料、製品等ノ損害	圓	
		災害ニ因ル作業休止ノ損害	圓	
豫防施設狀況				
避難施設狀況				

（　年　月　日屆出）

工場災害事故報告記載心得

一　本報告用紙ハ一頁ハ美濃紙半折大トス

二　本報告ハ二通差出スヘシ

三　本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ屆出後五年間之ヲ保存スヘシ

四　本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ

五　工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルヲ妨ケス

六　工業主又ハ工場管理人欄ニハ屆出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ

七　事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械類修理業、煙火製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ

八　職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ

九　事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱（例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前、熔接作業場、硝化作業室、原料煮熟罐室、鑄込場、脫水作業場等）ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ倉庫ニ格納セラルル物品ヲ明示シ得ル名稱（例ヘハ綿花倉庫、石油貯藏庫等）ヲ記入スヘシ

十　災害ノ原因及發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ

（一）火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル料品ノ名稱、數量、狀態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ尙消火喞筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル料品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

（二）汽罐其ノ他內壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式、使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力、附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類及口徑、破裂當時ノ使用壓力、水壓試驗ヲ行ヒタルモノニ付テハ其ノ年月及試驗壓力、災害事故ニ關係アル作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

（三）勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場合ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類、其ノ使用ノ目的、構成材料、大サ（直徑、厚サ等）、常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

（四）起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分（鎖、索、梁又ハ支柱）ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

（五）工場、附屬建設物、煙突、高架槽ノ倒壞ノ場合ニ於テハ倒壞ノ直接原因（風、地震等）、被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナ

ル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

（六）五人以上ノ負傷者（職工以外ヲ含ム）ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ倣ヒ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

十一　前項ノ記載ニハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

十二　死傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ

十三　災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其ノ種類別ニ（例ヘハ木造二階建、石造平家建、木骨亞鉛引鐵板張平家建等）、坪數（延坪）及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ因ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四　豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消火防火ノ施設（例ヘハ自働撒水（オートマチックスプリンクラー）裝置、消火喞筒、消火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造、防火戸等）ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスヘシ爆發ニ在リテハ爆發ヲ起シタル場所特ニ墻壁、圍壁其ノ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ他ノ場合ニ於テモ其ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ

十五　避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉等ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ

十六　災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

●工場附屬寄宿舍規則

昭和二年四月六日
內務省令第二十六號

工場附屬寄宿舍規則左記ノ通相定ム

工場附屬寄宿舍規則

第一條　本令ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ附屬スル寄宿舍ニ之ヲ適用ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衞生上ノ害ヲ避クル爲寄宿舍ノ寢室ハ之ト別建物ト爲スベシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スコトヲ要セズ

一　爆發性、發火性若ハ引火性料品又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二　窯爐ヲ使用スル作業場

三　瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衞生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衞生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命ジ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第三條　寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　寄宿舍ノ廊下ヨリ屋外ニ通ズル出入口ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スベシ

寄宿舍ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル樣ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條　寢室、食堂、病室其ノ他職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セザル樣天井ヲ設クベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ防鼠ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　寢室及病室ノ外窻ニハ少クトモ雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窻掛ヲ設クベシ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ戸、障子、壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窻ニ付亦同ジ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設クル場合ニ於テハ其ノ廊下ノ外窻ニ雨戸又ハ硝子戸ヲ設クベシ

第八條　食堂及炊事場ノ床ハ土間（石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マズ）ト爲スコトヲ得ズ

第九條　寢室ハ收容人員一人ニ付室面積（押入及床ノ間ヲ除ク）〇・七五坪ヲ下ルコトヲ得ズ但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　寢室ノ收容定員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ構造上間仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ揭グベシ

第十一條　交替就業ノ爲就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿職工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得ズ但シ十六歲未滿ノ者及女子ヲ收容セザルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　寄宿舍ニハ職工每ニ專用セシムル爲必要ナル寢具ヲ備附クベシ

寢具ハ少クトモ其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フベシ

寢具ハ常ニ淸潔ニ保チ時時之ヲ日光ニ曝シ且其ノ白布及敷布ハ時時之ヲ洗濯スベシ

第十三條　食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備附クベシ

第十四條　寄宿舍ニ於テ使用スル食器ハ常ニ淸潔ヲ保チ時時消毒スベシ

第十五條　寄宿舍ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條　寄宿舍ニ收容スル職工及寄宿舍ニ使用スル者ニ對シテハ少クトモ一年二回健康診斷ヲ施行スベシ

前項ノ健康診斷ニ關スル記錄ハ其ノ施行後三年間之ヲ保存スベシ

第十七條　寄宿舍ニハ液體ヲ入レタル適當個數ノ唾壺ヲ配置スベシ

唾壺內ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非ザレバ之ヲ投棄スルコトヲ得ズ

寄宿舍ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ズ

第十八條　寄宿舍ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ズ

「トラホーム」患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ズ

手洗水ハ流出裝置ト爲スベシ

第十九條　工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號（流行性腦脊髓膜炎ヲ除ク）ノ患者ノ使用シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非ザレバ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ズ第二號ノ患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同ジ

前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルベシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用スベシ

第二十條　寄宿舍ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應ジ適當且十分ナル便所及洗面裝置ヲ設クベシ

地方長官前項ノ便所又ハ洗面裝置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ增設ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　寄宿舍ノ管理ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條　本令並寄宿舍ノ管理ニ關スル規程ハ之ヲ見易キ場所ニ揭示スベシ

第二十三條　本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條及第十六條ノ規定ハ常時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舍ニ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條及第十三條ノ規定ハ本令施行後一年間、第二條、第七條、第八條及第十二條ノ規定ハ本令施行後二年間、第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ二月以內ニ之ヲ爲スベシ

●工業勞働者最低年齡法

大正十二年三月三十日
法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工業勞働者最低年齡法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務、農商務、遞信大臣副署）

工業勞働者最低年齡法

第一條　本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ揭クル事業ヲ謂フ

一　鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二　物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壞若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）

三　土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事

四　道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五　船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條　十四歲未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歲以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ敎科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條　十六歲未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備附クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第五條　工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條　使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條　本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條　本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十二歲以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

（大正十五年勅令第百五十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●工業勞働者最低年齡法施行規則

大正十五年六月七日
內務省令第十四號

工業勞働者最低年齡法施行規則左ノ通定ム

工業勞働者最低年齡法施行規則

第一條　工業勞働者最低年齡法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條　工業勞働者最低年齡法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歷ニ付テハ尋常小學校ノ敎科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條　工業勞働者最低年齡法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ工業勞働者最低年齡法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業勞働者最低年齡法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歲以上十四歲未滿ノ者ニシテ尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月內ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ怠リタル者又ハ其ノ屆書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ科料ニ處ス

（別記樣式）

第　　號

大正　年　月　日交付

社會局、廳府縣又ハ鑛山監督局印

官　職　氏　名

工業勞働者最低年齡法第四條　當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

工業勞働者最低年齡法第七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

竪八センチメートル橫十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工業臨檢票」ト記ス

●工業試驗場分析、試驗及鑑定規則

大正七年七月二十九日
農商務省令第二十八號

改正　大正九年第二七號、一〇年第六號
昭和二年商工省令第六號

工業試驗所分析、試驗及鑑定規則左ノ通改正ス

工業試驗所分析、試驗及鑑定規則

第一條　工業試驗所ニ分析、試驗又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲ス者ハ第一號樣式又ハ第二號樣式ノ依賴書ニ現品ヲ添ヘテ之ヲ差出スヘシ

第二條　分析又ハ試驗一件每ニ差出スヘキ現品ノ分量左ノ如シ

一　分析

定性又ハ定量分析	百「グラム」以上

二　土石及其ノ製品

土石又ハ其ノ製品ノ耐火度、收縮度又ハ膨脹度ノ試驗	四百「グラム」又ハ二個以上
粘土ノ器械分析	八百「グラム」以上
陶磁器、硝子、琺瑯、煉瓦、瓦又ハ「セメント」ノ原料ノ應用試驗	十「キログラム」以上
琺瑯ノ應用試驗	二「キログラム」以上

「セメント」ノ比重、一定容量ノ重量、凝結時間、粉末ノ細度、膨脹又ハ龜裂ノ試驗
　一「キログラム」以上
「セメント」ノ耐伸強、耐壓強又ハ滲透力ノ試驗　二十「キログラム」以上
石材、煉瓦又ハ瓦ノ吸水量、耐伸強、耐壓強、耐撓強又ハ凍寒作用
　八箇以上（石材ハ五「センチメートル」立方以上ノモノ）
土管ノ耐壓強ノ試驗
　八箇以上

三　油脂、蠟、精油及鑛油
油脂、蠟、精油又ハ鑛油ノ比重、粘度、凝點、融點、沸點、引火點、燃燒點、光度、沃度價、酸價、鹼化價、酸若ハ「アルカリ」ノ作用又ハ金屬ニ對スル作用ノ試驗
　五十「センチリットル」又ハ四百「グラム」以上
油脂、蠟、精油又ハ鑛油ノ應用試驗
　二「リットル」又ハ一「キログラム」以上

四　塗料及顏料
塗料ノ比重、粘度、乾燥度、色澤又ハ透明度ノ試驗　二百「グラム」以上
顏料ノ細度又ハ被覆度ノ試驗
　二百「グラム」以上
塗料又ハ顏料ノ應用試驗
　四百「グラム」以上

五　紙
紙ノ耐揉度又ハ強度伸度ノ試驗
　十枚以上（二十五「センチメートル」平方以上ノモノ）
紙ノ原料ノ應用試驗
　四「キログラム」以上

六　纖維、絲及織布
纖維又ハ絲ノ練減、強度伸度、漂白又ハ染色ノ試驗
　二百「グラム」以上
織布ノ練減、強度伸度、漂白、染色又ハ仕上ノ試驗
　幅三十「センチメートル」長二「メートル」以上

七　染料及媒染劑
染料又ハ媒染劑ノ應用試驗
　四百「グラム」以上

八　前各號ニ掲ケサル分析又ハ試驗
　前各號ノ規定ニ準ス

第三條　鑑定一件毎ニ差出スヘキ現品ノ分量ハ前條ノ割合ニ準シ工業試驗所長之ヲ指定ス

第四條　工業試驗所長必要ト認ムルトキハ更ニ相當分量ノ現品ヲ差出サシムルコトヲ得

第五條　分析、試驗又ハ鑑定ノ爲差出シタル現品ハ之ヲ還付セス但シ差出ノ際豫メ申出アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ現品還付ニ要スル費用ハ依頼者之ヲ負擔スヘシ

第六條　工業試驗所ニ分析、試驗又ハ鑑定ヲ通常ノ依頼ニ先チ急速ニ又ハ日時ヲ限リ施行スルコトヲ依頼スル者ハ依頼書ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ但シ工業試驗所ノ都合ニ依リ遲延スルコトアルモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條　削除

第七條ノ二　工業試驗所長分析、試驗又ハ鑑定ノ爲必要ト認ムルトキハ依頼者ヲシテ器具、機械、材料又ハ勞務ヲ提供セシムルコトヲ得

第八條　工業試驗所ニ其ノ分析、試驗又ハ鑑定ヲ受ケタル物品ニ對シ所定ノ封緘又ハ證印ヲ依頼スル者ハ第四號樣式ノ依頼書ヲ差出スヘシ

第九條　工業ニ關スル分析又ハ試驗ノ爲開放研究室以外ノ工業試驗所ノ設備ヲ使用セムトスル者ハ其ノ履歷書ヲ添ヘ第五號樣式ノ願書ヲ差出スヘシ

第十條　當該官吏ハ貼付印紙ノ手數料金額ニ相當スルコトヲ確認シタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黑肉ヲ用ヰ消印ヲ押捺スヘシ但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本則ハ大正七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

分析依頼書

收入印紙　貼附シタル收入印紙ノ額

一　品名
二　產地又ハ製造地名及製造者名
三　定性又ハ定量スヘキ物質名

右分析及依頼候也

年　月　日

住所
依頼者　氏　名㊞

何工業試驗所長宛

第二號樣式

試驗（鑑定）依頼書

收入印紙　貼附シタル收入印紙ノ額

一　品名
二　產地又ハ製造地名及製造者名
三　試驗（鑑定）ノ項目

右試驗（鑑定）及依頼候也

年　月　日

住所
依頼者　氏　名㊞

何工業試驗所長宛

第三號樣式　削除

第四號樣式

封緘（證印）依頼書

收入印紙　貼附シタル收入印紙ノ額

一　品名
二　封緘（證印）ノ個數

右封緘（證印）及依頼候也

年　月　日

住所
依頼者　氏　名㊞

何工業試驗所長宛

第五號樣式

使用願書

一　設備名
二　使用期間

右分析（試驗、鑑定）ノ爲使用致度別紙履歷書相添及願候也

年　月　日

住所
使用者　氏　名㊞

何工業試驗所長宛

●工業試驗所開放研究室使用規則

昭和二年五月十一日
商工省令第六號

工業試驗所開放研究室使用規則左ノ通定ム

工業試驗所開放研究室使用規則

第一條　大阪工業試驗所ニ開放研究室ヲ置キ工業ニ關スル試驗ヲ爲ス爲メ公衆ニ之ヲ利用セシム

第二條　開放研究室ヲ使用セントスル者ハ別記樣式ノ願書ヲ差出スベシ

願人會社其ノ他ノ團體ノ推薦ニ係ル場合ニ於テハ其ノ團體ヲ身元保證人ト爲スベシ

第三條　開放研究室使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ研究ニ關シ工業試驗所職員ノ指導ヲ受クルコトヲ得

第四條　開放研究室使用ノ許可ヲ受ケタル者使用期間內ニ其ノ研究ヲ完了スルコト能ハザルトキハ少クトモ期間滿了一週間前ニ其ノ事由ヲ具シ工業試驗所長ニ對シ使用期間ノ延長ヲ申請スルコトヲ得

第五條　開放研究室ノ使用料ノ納付ヲ怠リタルトキハ工業試驗所長ハ開放研究室ノ使用ヲ停止スルコトアルベシ

第六條　開放研究室使用ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ研究ヲ遂行スル見込ナキモノト認メタルトキハ工業試驗所長ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條　開放研究室使用ノ許可ヲ受ケタル者其ノ研究ヲ完了シタルトキハ其ノ旨工業試驗所長ニ屆出ヅベシ、使用期間滿了前ニ研究ヲ廢止シタルトキ亦同ジ

第八條　本則ニ規定スルモノノ外開放研究室ノ使用ニ關シ必要ナル事項ノ細目ハ工業試驗所長之ヲ定ム

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業試驗所分析、試驗及鑑定規則第九條中「工業試驗所ノ設備」ヲ「開放研究室以外ノ工業試驗所ノ設備」ニ改メ同則第五號樣式中「收入印紙　貼附シタル收入印紙ノ額」ヲ削ル

「別記樣式」

開放研究室使用願書

一　研究ノ目的
二　使用期間

右研究ノ爲メ貴所開放研究室使用致度候條許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

住所
使用者　氏　名㊞
住所
身元保證人　氏　名㊞
住所
推薦人　氏　名㊞

工業試驗所長宛

（備考）身元保證人又ハ推薦人カ會社其ノ他ノ團體ナルトキハ其ノ商號又ハ名稱並其ノ代表者ノ氏名ヲ記入スベシ

●工業試驗所手數料及使用料令

大正七年七月二十九日
勅令第三百號
改正　大正一一年第二一七號
昭和二年第一一二號

朕明治三十六年勅令第百十四號工業試驗所ニ於テ行フ分析、試驗及鑑定ニ關スル手數料徵收ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務大臣副署）

工業試驗所手數料及使用料令

第一條　工業試驗所ニ分析又ハ試驗ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　定性分析
指定成分ノ定性分析
　每一件一成分二圓一成分ヲ增ス每ニ一圓ヲ加フ
全成分又ハ主要成分ノ定性分析
　每一件五圓以上十五圓以下

二　定量分析
指定成分ノ定量分析
　每一件一成分三圓一成分ヲ增ス每ニ二圓ヲ加フ
全成分又ハ主要成分ノ定量分析
　每一件十圓以上三十圓以下

三　一般ノ試驗
金屬材及木材
金屬材又ハ木材ノ強弱試驗
　每一件二圓以上六十圓以下
土石及其ノ製品
土石又ハ其ノ製品ノ耐火度ノ試驗
　每一件三圓
土石又ハ其ノ製品ノ收縮度又ハ膨脹度ノ試驗
　每一件三圓以上二十圓以下
粘土ノ機械的分析試驗
　每一件三圓以上二十圓以下
陶磁器、硝子、琺瑯、煉瓦、瓦又ハ「セメント」ノ原料ノ應用試驗
　每一件五圓以上百圓以下
「セメント」ノ比重、一定容量ノ重量、凝結時間、粉末ノ細度、膨脹又ハ龜裂ノ試驗
　每一件二圓
「セメント」ノ耐伸強、耐壓強又ハ滲透力ノ試驗
　每一件三圓
石材、煉瓦又ハ瓦ノ吸水量ノ試驗
　每一件二圓
石材、煉瓦又ハ瓦ノ耐伸強、耐壓強又ハ耐撓強ノ試驗
　每一件三圓
石材、煉瓦又ハ瓦ノ凍寒作用ノ試驗
　每一件十圓以上五十圓以下
土管ノ耐壓強ノ試驗
　每一件三圓以上四十圓以下
油脂、蠟、精油及鑛油
油脂、蠟、精油又ハ鑛油ノ比重、粘度、凝點、融點、沸點、引火點、燃燒點又ハ光度ノ試驗
　每一件二圓
油脂、蠟、精油又ハ鑛油ノ沃素價、酸價、鹼化價、酸若ハ「アルカリ」ノ作用又ハ金屬ニ對スル作用ノ試驗
　每一件三圓
油脂、蠟、精油又ハ鑛油ノ應用試驗
　每一件五圓以上四十圓以下
塗料及顏料
塗料ノ比重、粘度、乾燥度、色澤又ハ透明度ノ試驗
　每一件二圓
顏料ノ細度又ハ被覆度ノ試驗
　每一件二圓
塗料又ハ顏料ノ應用試驗
　每一件五圓以上四十圓以下
紙
紙ノ耐揉度又ハ強度伸度ノ試驗
　每一件二圓
紙ノ原料ノ應用試驗
　每一件五圓以上四十圓以下
纖維、絲及織布
纖維、絲又ハ織布ノ練減ノ試驗
　每一件三圓
纖維、絲又ハ織布ノ強度伸度ノ試驗
　每一件二圓
纖維、絲又ハ織布ノ染色ニ對スル日光、摩擦、石鹼、酸又ハ「アルカリ」ノ作用ノ試驗　每一件二圓
纖維、絲又ハ織布ノ精練、漂白、染色又ハ仕上ノ試驗
　每一件五圓以上四十圓以下
染料及媒染劑
染料又ハ媒染劑ノ應用試驗
　每一件五圓以上四十圓以下

四　電氣化學試驗
溶液電解試驗
　每一件五圓以上四十圓以下
熔融物電解試驗
　每一件十圓以上百圓以下
電鍍試驗
　每一件五圓以上四十圓以下
電熱應用試驗
　每一件十圓以上百圓以下

五　前各號ニ揭クルモノノ外工業ニ關係アル物料ノ分析又ハ試驗ニ關スル手數料ノ額ハ前各號ノ規定ニ準シ工業試驗所長之ヲ定ム

第二條　工業試驗所ニ鑑定ノ依頼ヲ爲ス者ハ前條ノ規定ニ準シ工業試驗所長ノ定ムル額ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三條　工業試驗所ニ分析、試驗又ハ鑑定ヲ通常ノ依頼ニ先チ急速ニ施行スルコトヲ依頼スル者ハ前二條ノ規定ニ依ル額ノ二倍、日時ヲ限リ施行スルコトヲ依頼スル者ハ三倍ノ手數料ヲ納ムヘシ

第四條　工業試驗所ニ分析、試驗又ハ鑑定ノ依頼ヲ爲ス者其ノ分析、試驗又ハ鑑定ノ報告書ノ複本ヲ請求スルトキハ紙數一枚每ニ二十錢、其ノ報告書ノ外國語ニ依ル複本ヲ請求スルトキハ一件每ニ五十錢以上十圓以下ノ手數料ヲ納ムヘシ

第五條　工業試驗所ニ其ノ分析、試驗又ハ鑑定ヲ受ケタル物品ニ對シ所定ノ封緘又ハ證印ヲ依頼スル者ハ一箇每ニ三錢以上五十錢以下ノ手數料ヲ納ムヘシ

第六條　工業試驗所ノ開放研究室ヲ使用セントスル者ハ每月六十圓ノ使用料ヲ前納スベシ一月ニ滿タザルトキ亦同ジ

開放研究室以外ノ工業試驗所ノ設備ヲ使用セントスル者ハ七日又ハ其ノ端數每ニ十圓以上百圓以下ノ使用料ヲ前納スベシ

第七條　手數料及使用料中最高及最低ノ限度ヲ定メタルモノニ付テハ工業試驗所長其ノ額ヲ定ム

第八條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣郡市工業試驗場及府縣郡市工業講習所規程

明治三十四年二月四日
農商務省令第一號
改正　明治三四年第一一號、四五年第一六號
大正元年第一四號、九年第三〇號、一一年第一八號

府縣郡市工業試驗場及ヒ府縣郡市工業講習所規程左ノ通相定ム

府縣郡市工業試驗場及ヒ府縣郡市工業講習所規程

第一條　本規程ニ於テ工業試驗場又ハ工業講習所ト稱スルハ府縣費又ハ郡市費ヲ以テ設立スルモノヲ謂フ

第二條　府縣郡市工業試驗場ハ工業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ製作技術ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フモノトス

第二條ノ二　府縣郡市工業試驗場又ハ府縣郡市工業講習所ノ產業職員左ノ如シ

場長又ハ所長
技師
技手
主事補

場長又ハ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條　府縣郡市工業試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

一　巡回講話
二　工業見本品ノ配付
三　原料及ヒ製品等ノ分析、試驗、鑑定
四　工業用機械器具ノ檢定
五　製作技術ニ關スル質問應答

第四條　府縣郡市工業試驗場ハ試驗ノ成績ニ付キ當業者ニ傳習スルコトヲ得

第五條　府縣郡市工業講習所ハ工業ニ從事スル者ヲシテ工業ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣郡市工業講習所ハ數學、物理、化學、圖畫等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

第六條　府縣郡市工業講習所ハ職員ヲシテ工業ニ關スル巡回講話、試驗又ハ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條　府縣郡市工業講習所ノ修業年限ハ二年以內トス

第八條　府縣工業試驗場又ハ府縣工業講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一　名稱及ヒ位置
二　業務ノ項目又ハ講習所規則
三　建物ノ種別及ヒ其坪數
四　職員ノ履歷及ヒ其擔任事業
五　收支豫算書

第九條　前條ノ規定ハ郡市工業試驗場及ヒ郡市工業講習所ニ之ヲ準用ス但郡市長ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第十條　地方長官ハ府縣工業試驗場及ヒ府縣工業講習所ノ業務功程ヲ調査シ每年五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

郡市工業試驗場又ハ郡市工業講習所ノ業務功程ハ前項ノ規定ニ準シ郡市長ヨリ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

附　則

第十一條　本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本規程施行前ニ設立シタル府縣郡工業試驗場又ハ府縣郡工業講習所ハ本規程施行ノ日ヨリ一年內ニ第八條及ヒ第九條ノ規定ニ準シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

（明治三十七年一月八日農商務省令第一號）

明治三十四年農商務省令第一號ハ北海道地方費ヲ以テ設立スル工業試驗場及工業講習所ニ之ヲ適用ス

●造幣局合金製造規則

（大正十五年五月四日大藏省令第二十一號）

造幣局合金製造規則左ノ通定ム

造幣局合金製造規則

第一條　精製金（品位一千分中金分九百九十位以上ノモノヲ謂フ）若ハ精製銀（品位一千分中銀分九百九十位以上ノモノヲ謂フ）ヲ提出シテ金合金若ハ銀合金ノ製造ヲ請フ者アルトキ又ハ其ノ他ノ金地金若ハ銀地金ヲ提出シテ之ト性合ヲ異ニスル金合金若ハ銀合金ノ製造ヲ請フ者アルトキハ造幣局ハ其ノ依賴ニ應シ之カ製造ヲ爲スコトヲ得

第二條　合金ノ製造ヲ請ハムトスル者ハ材料地金（參和地金ヲ除ク）ニ別紙樣式ニ依ル依賴書ヲ添付シテ之ヲ造幣局ニ提出スヘシ

第三條　依賴ニ依リ製造スル合金ノ品位、形狀及色相左ノ如シ

一　品位
　イ　金　七百五十位、五百八十五位、五百位及三百七十五位
　ロ　銀　九百五十位、九百位及八百位
二　形狀
　イ　塊
　ロ　鑄棒　厚十五ミリメートル　幅三センチメートル、五センチメートル又ハ七センチメートル
三　色相
　イ　七百五十位金及五百八十五位金　白色、黃色及赤色
　ロ　五百位金及三百七十五位金　黃色及赤色

第四條　材料トシテ提出スル地金ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一　金地金ハ品位一千分中純分五百以上總量四百グラム以上ニシテ銀又ハ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以內ノモノ
二　銀地金ハ品位一千分中純分五百以上總量二キログラム以上ニシテ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以內ノモノ

第五條　材料トシテ提出スル地金ハ依賴者又ハ其ノ代理人ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ但シ依賴者ニ於テ立會ノ必要ナキ旨申出テタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條　試金ノ爲生スル鎔解減及分析減ハ依賴者ノ負擔トス

第七條　材料トシテ提出シタル地金試金ノ結果第四條ノ規定ニ該當セサルトキハ合金ノ製造ヲ爲サスシテ之ヲ依賴者ニ返付ス

前項ノ場合ニ於テハ依賴者ハ返付ニ要スル費用ヲ負擔シ尙左ノ手數料ヲ納付スヘシ

金、銀又ハ銅　一成分ニ付　二圓

第八條　合金製造手數料ハ製造濟合金引渡ノ際之ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ製造濟合金一百グラムニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル額トス

一　金		
イ　七百五十位金	白色金	四十五錢
	黃色金又ハ赤色金	三十錢
ロ　五百八十五位金	白色金	四十錢
	黃色金又ハ赤色金	三十錢
ハ　五百位金		二十五錢
ニ　三百七十五位金		二十錢
二　銀		十二錢

材料トシテ提出シタル地金ニシテ精製ヲ要スルモノニ在リテハ前項ノ手數料ノ外金銀地金精製及品位證明規則ニ依ル手數料ヲ納付スヘシ

第九條　合金製造ノ爲必要ナル參和地金ノ代金ハ前條ノ手數料ト共ニ納付スヘシ

第十條　製造シタル合金ノ純分公差ハ金ニ在リテハ一千分ノ二銀ニ在リテハ一千分ノ三トス

第十一條　合金製造ノ爲生シタル雜物ハ金又ハ銀ニ限リ之ヲ依賴者ニ返付ス

第十二條　製造濟合金其ノ他依賴者ニ返付スヘキ物ハ造幣局ニ於テ之カ引渡ヲ爲スモノトス但シ依賴者ノ請求アルトキハ其ノ指定スル場所ニ之ヲ送付ス此ノ場合ニ於テハ依賴者ハ運送方法ヲ指定シ且運送ニ關スル費用及危險ヲ負擔スルコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別紙樣式）

合金製造依賴書

材料地金、種類及量目　金地金（又ハ銀地金）、、、、瓦
秤量ニ立會ノ要否　要（又ハ否）
合金ノ品位及色相　何位　何色金（又ハ何位銀）
合金ノ形狀　塊（又ハ幅何センチメートル鑄棒）
運送方法ノ指定　何々會社托送　何扱

右製造被成下度及御依賴候也

大正　年　月　日

住所
依賴者　氏　名

造幣局長　殿

備考　造幣局ニ於テ引渡ヲ受クル場合ハ運送方法ノ指定欄ノ記載ヲ要セス

●燃料研究所受託試驗規則

（大正十五年五月八日商工省令第五號）

燃料研究所受託試驗規則左ノ通定ム

燃料研究所受託試驗規則

第一條　燃料研究所ニ試驗ノ依賴ヲ爲ス者ハ別記樣式ノ依賴書ヲ差出スヘシ

第二條　依賴者ハ試驗一件每ニ左表ニ依リ現品ヲ差出シ且手數料ヲ納ムヘシ

試驗ノ種類	現品ノ數量	手數料額
一「バブコックエンドウイルコックス」式水管型汽罐又ハ「ランカシヤ」型汽罐ニ依ル炭粉燃燒試驗	三十瓲	百圓
二瓦斯發生爐ニ依ル瓦斯發生試驗	三十瓲	百圓
三「タリー」式瓦斯發生爐ニ依ル瓦斯發生試驗	三十瓲	百圓
四劣質炭炭化爐ニ依ル炭化試驗	三十瓲	百圓
五直立式低溫乾餾爐ニ依ル石炭低溫乾餾試驗	三十瓲	百圓
六廻轉式低溫乾餾爐ニ依ル石炭低溫乾餾簡易試驗	二百瓩	四十圓
七石炭骸炭化簡易試驗	二百瓩	三十圓
八「バブコックエンドウイルコックス」式水管型汽罐又ハ「ランカシヤ」型汽罐ニ依ル石炭燃燒簡易試驗	十瓲	三十圓
九燃燒器具效率試驗	一箇	四十圓

燃料研究所長必要ト認ムルトキハ前表ノ數量ノ外更ニ相當數量ノ現品ヲ差出サシムルコトヲ得

現品ノ差出ニ付テハ燃料研究所長ノ指揮ヲ待ツヘシ

手數料ハ依賴書ニ添ヘテ之ヲ納ムヘシ

第三條　試驗ノ爲差出シタル現品ハ之ヲ還付セス但シ燃料研究所長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムルトキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四條　依賴者其ノ試驗報告書ノ複本ヲ請求スルトキハ紙數一枚每ニ二十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

試驗依賴書

一　試驗ノ種類
二　現品ノ種類、數量及產地（鑛山名、坑名及層名ヲ記載スヘシ）又ハ製造所

手數料金　圓ヲ添ヘ右試驗及依賴候也

年　月　日

住所
依賴者　氏　名㊞

燃料研究所長宛

●分析、試驗、檢查、檢定、鑑定及藥品小分封緘規則

（大正十一年十月一日臺灣總督府令第百五十八號　改正　大正一三年第一九號）

分析、試驗、檢查、檢定、鑑定及藥品小分封緘規則左ノ通相定ム

分析、試驗、檢查、檢定、鑑定及藥品小分封緘規則

第一條　產業及衞生ニ關スル物件ニ付臺灣總督府中央研究所ノ分析、試驗、檢查又ハ鑑定ヲ出願セムトスル者ハ別記第一號書式ノ願書ニ供試品ヲ添ヘ提出シ第二條ノ規定ニ依ル手數料ヲ納付スヘシ

砂糖ニ關係アル光學器械類ニ付臺灣總督府中央研究所ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號書式ノ願書ニ現物ヲ添ヘ提出シ第二條ノ二ノ規定ニ依ル手數料ヲ納付スヘシ

藥品ニ付臺灣總督府中央研究所ノ試驗又ハ小分封緘ヲ受ケムトスル者ハ別記第二號書式ノ願書ニ現品ヲ添ヘ提出シ第三條ノ規定ニ依ル手數料ヲ納付スヘシ

第二條　前條第一項ノ供試品ノ分量及手數料ハ左ノ區別ニ依ルモノトス但シ供試品ハ必要ノ場合更ニ相當分量ヲ提出セシムルコトアルヘシ

一　鑛物、土壤、鑛產品及肥料

定性分析	百「グラム」以上	每一件	一成分金一圓一成分ヲ增ス每ニ金五十錢ヲ加フ
定量分析	三百「グラム」以上	每一件	一成分金二圓一成分ヲ增ス每ニ金一圓ヲ加フ
主要成分又ハ全成分ノ定量分析	三百「グラム」以上	每一件	金五圓以上十五圓以內
金屬ノ乾式定量分析	五百「グラム」以上	每一件	一成分金二圓一成分ヲ增ス每ニ金一圓ヲ加フ
土壤ノ器械分析	二「キログラム」以上	每一件	金十圓
土壤ノ理學的性質ノ試驗、檢定	二「キログラム」以上	每一件	金二圓以上十圓以內

一ノ二　農產物農產製造品及飼料

定量分析	三百「グラム」以上	每一件	一成分金二圓一成分ヲ增ス每ニ金一圓ヲ加フ
主要成分又ハ全成分ノ定量分析	三百「グラム」以上	每一件	金五圓以上十五圓以內

一ノ三　砂糖及砂糖關係物料

砂糖	三百「グラム」以上	每一件	金一圓
糖蜜及糖水	二「キログラム」以上	每一件	金一圓
砂糖關係物料			
定性分析	百「グラム」以上	每一件	一成分金一圓一成分ヲ增ス每ニ金五十錢ヲ加フ
定量分析	相當分量	每一件	一成分金二圓一成分ヲ增ス每ニ金一圓ヲ加フ

二　土石及其ノ製品

土石若ハ其ノ製品ノ耐火度、收縮度又ハ膨脹度ノ試驗	五百「グラム」又ハ二箇以上	每一件	金三圓
石材、煉瓦又ハ瓦ノ吸水量ノ試驗	八箇以上（石材ハ五「センチメートル」立方以上ノモノ）	每一件	金一圓
石材、煉瓦又ハ瓦ノ耐伸張又ハ耐壓強ノ試驗	八箇以上（石材ハ五「センチメートル」立方以上ノモノ）	每一件	金二圓以上二十圓以內
「セメント」ノ比重、一定容量ノ重量、粉末ノ程度、凝結ノ時間又ハ膨脹性龜裂ノ試驗	一「キログラム」以上	每一件	金一圓
「セメント」ノ耐伸張強ノ試驗	三「キログラム」以上	每一件	金一圓
「セメント」ノ耐壓強ノ試驗	十「キログラム」以上	每一件	金二圓

三　油脂、蠟、精油及鑛油類

油脂、蠟、精油若ハ鑛油ノ比重、粘度、凝點、融點、沸點、引火點、燃燒點又ハ光度ノ試驗	一「リットル」又ハ五百「グラム」以上	每一件	金一圓
油脂、蠟、精油若ハ鑛油ノ沃度價、酸價、鹼化價又ハ「アルカリ」ノ作用若ハ金屬ニ對スル作用ノ試驗	百立方「センチメートル」又ハ五百「グラム」以上		

毎一件　金二圓

油脂、蠟、精油等ノ含量檢定試驗
一「キログラム」以上　毎一件　金三圓以上三十圓以內

四　塗料及顏料
塗料又ハ顏料ノ各種檢定試驗
五百「グラム」以上　毎一件　金一圓

五　紙、纖維、絲及織布類
紙ノ各種檢定試驗
十枚以上（二十五「センチメートル」平方以上ノモノ）　毎一件　金一圓
纖維、絲又ハ織布ノ練減ノ試驗
二百「グラム」以上又ハ幅三十「センチメートル」長二「メートル」以上ノモノ　毎一件　金二圓
纖維、絲若ハ織布材料ノ組織、強度、伸度又ハ染色ニ對スル日光、摩擦、水、石鹼、酸若ハ「アルカリ」ノ作用ノ試驗
二百「グラム」以上又ハ幅三十「センチメートル」長二「メートル」以上ノモノ　毎一件　金一圓

六　水、氷及鑛泉
定性分析
二「リットル」又ハ二「キログラム」以上　毎一件　金五圓
定量分析
十「リットル」又ハ十「キログラム」以上　毎一件　金十圓
一成分以上ヲ指定シ試驗ヲ出願スル場合定性分析ハ一成分金一圓一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加ヘ定量分析ハ一成分金二圓一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
飲料適否試驗
一「リットル」又ハ五「キログラム」以上　毎一件　金一圓
工業用水ノ試驗
十「リットル」以上　毎一件　金二圓以上二十圓以內
灌漑用水ノ試驗
十「リットル」以上　毎一件　金二圓以上二十圓以內

七　飲食物、化粧品、著色料及飲食物器具類
飲食物又ハ化粧品類ノ定量分析
酒類、醬油又ハ清涼飲料水類ハ一「リットル」以上
乳汁類ハ六百立方「センチメートル」人乳ハ百立方「センチメートル」以上
其ノ他食料品類ハ三百「グラム」以上
毎一件　一成分金二圓一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
飲食物又ハ化粧品類ノ主要成分又ハ全成分ノ定量分析
前同量　毎一件　金五圓以上十圓以內
飲食物中毒物ノ試驗
三百「グラム」以上　毎一件　金十圓
飲食物ノ衛生上ノ害否試驗
三百「グラム」以上　毎一件　金五圓以上十圓以內
飲食物中防腐劑、人工甘味質又ハ有害金屬有無ノ試驗
一「リットル」又ハ三百「グラム」以上　毎一件　金二圓
著色料、化粧品又ハ飲食物用器具類ノ衛生上ノ適否試驗
二百「グラム」又ハ三箇以上　毎一件　金二圓

八　細菌又ハ寄生蟲ノ顯微鏡檢查
相當分量　毎一件　金五十錢

九　血淸反應檢查「ウイダール」反應檢查又ハ類似ノモノ
相當分量　毎一件　金五十錢

十　「ワッセルマン」反應檢查又ハ類似ノモノ
相當分量　毎一件　金一圓五十錢

十一　細菌ノ培養檢查
相當分量　毎一種一件　金一圓

十二　消毒藥ノ殺菌效力試驗
相當分量　毎一種一件　金一圓

期日ヲ限ル分析、試驗及檢查出願ニ對スル手數料ハ前項手數料ノ五倍以內ニ於テ臺灣總督府中央研究所長之ヲ定ム

第一項中手數料ノ最高額及最低額ノミヲ定メ其ノ定額ヲ示ササルモノニ付テハ事件ノ難易ニ從ヒ臺灣總督府中央研究所長之ヲ定ム

第一項ニ揭ケサルモノニ對スル供試品ノ分量及手數料ハ臺灣總督府中央研究所長之ヲ定ム鑑定ニ要スル供試品ノ分量及手數料ニ付亦同シ

第二條ノ二　第一條第二項ノ手數料ハ左ノ區別ニ依ル
一　檢糖機ノ檢定　毎一件　金三圓以上七圓以內
二　石英標準板、蓋硝子又ハ觀測管ノ檢定　毎一件　金十錢以上一圓以內

前條第二項、第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條　第一條第二項ノ手數料ハ左ノ區別ニ依ルモノトス
一　藥品ノ藥局方適否試驗　毎一口　金五十錢
　右ノ成績書正本　一通　金五十錢
　右ノ合格封緘　一藥　金二錢
二　內務省所管衛生試驗所又ハ臺灣總督府中央研究所ノ封緘シタル藥品ノ小分封緘
　小分　毎一口　金五十錢
　封緘　一藥　金二錢

前項一口ノ範圍ハ臺灣總督府中央研究所長之ヲ定ム

期日ヲ限ル藥品ノ試驗及小分封緘ノ出願ニ對スル手數料ハ第一項手數料ノ五倍以內ニ於テ臺灣總督府中央研究所長之ヲ定ム

第四條　供試品ハ之ヲ還付セス但シ出願ノ際豫メ申出アリタルモノハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第五條　分析、試驗、檢查、檢定、鑑定又ハ藥品小分封緘ノ爲吏員ノ出張ヲ依賴スル者ハ官職相當ノ旅費及試驗器具運搬費ヲ負擔スヘシ

第六條　第一條第一項ノ出願者ハ成績書正本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第一條ノ出願者ハ手數料ヲ納付シテ檢定書、成績書謄本又ハ翻譯文ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第七條　前條第二項ノ手數料ハ檢定書又ハ謄本一通ニ付金十錢、翻譯文一通ニ付金五十錢以上五圓以內トス

第八條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第九條　第二條、第二條ノ二、第三條及第七條ノ手數料ハ官廳ノ請求ニ係ルモノニ付テハ之ヲ徵收セス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年府令第三十六號ハ之ヲ廢止ス

（別記）

第一號書式

分析（試驗 檢查 檢定 鑑定）願

印紙貼附面

手數料　金

一　供試品名
二　生產地又ハ製造地
　生產人又ハ製造人
三　供用目的
四　分析ヲ要スル成分

右分析（試驗 檢查 檢定 鑑定）相成度此段相願候也

年　月　日

現住所
出願人

臺灣總督府中央研究所長　殿

第二號書式

藥品試驗（小分封緘）願

印紙貼附面

手數料　金

藥名
價格
取引先
口數

右試驗（小分封緘）相成度此段相願候也

年　月　日

現住所
出願人

臺灣總督府中央研究所長　殿

●工場取締規則

（大正十年十月七日　樺太廳令第四十號）

工場取締規則左ノ通改正ス

工場取締規則

第一條　本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス
一　常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ
二　事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ
三　本令中特別ノ規定アルモノ

季節ニ依リ營ム事業ニ付テハ其ノ期間六十日ニ亘ルトキハ常時ト看做ス

本令ノ適用ヲ必要トセサル工場及第一項第二號ニ該當スルモノハ樺太廳長官之ヲ告示ス

第二條　工業主工場ヲ設置シ又ハ既設ノ工場ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキ事由ヲ生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ十日以內ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ
一　工場主ノ本籍、住所、氏名、生年月（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、生年月及定款）
二　工場ノ位置、名稱及敷地竝四隣二町以內ノ見取圖
三　工場建物ノ坪數、構造仕樣書及圖面
四　非常時ニ於ケル避難ノ設備
五　作業ノ種類及方法
六　職工數（男女別）
七　作業時間

工業主ト工場主ト異ナル場合ニ於テハ前項ノ屆出ハ工業主、工場主連署ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三條　工業主ハ職工ニ關スル左ノ事項ニ付規定ヲ定メ前條ノ屆書ニ之ヲ添付スヘシ
一　就業方法及一日ニ於ケル實際就業ノ時間（滿十四歲以上ノ者及十四歲未滿ノ者竝女子等ニ區別スヘシ）
二　休養ニ關スル事項休日、休憩ノ（時間竝同休日ノ利用方法及嬰兒携行者ニ付テハ其ノ哺育時間等ヲ詳記スヘシ）
三　給與竝貯蓄ノ方法（賃金ノ計算方法及支拂日竝義務貯金其ノ他貯蓄ノ方法ヲ記載スヘシ）
四　住宅及寄宿舍ニ關スル事項
五　賞與及懲戒ニ關スル事項
六　扶助ニ關スル事項（業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキノ療養費ノ負擔、療養中ニ於ケル賃金ノ給與及葬祭料給與ノ方法其ノ他一般傷病ノ治療設備竝方法等ヲ詳記スヘシ）

前項ノ規定ヲ變更シタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ

第四條　樺太廳長官ハ必用ト認ムルトキハ工業主ニ對シ前條ノ規定ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　有害瓦斯ヲ發散シ煤烟塵埃又ハ粉末ヲ飛散シ喧噪若ハ震動シ又ハ騷響ヲ發スル工場ハ學校、病院、社寺、公園又ハ火藥類貯藏所ヨリ六十間以上ノ距離ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第六條　有害性料品ヲ取扱ヒ又ハ甚シク身體ヲ汚染スル業務ヲ行フ工場ニ於テハ其ノ工業主ハ職工ノ數ニ應シ相當ノ洗場又ハ浴場ヲ設クヘシ

第七條　樺太廳長官ハ衛生上必要アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ工場ニ食事場、更衣場、休憩場及嬰兒哺育場ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　工場ニハ職工ノ數ニ應シ相當ノ便所ヲ設ケ常ニ淸潔ニ掃除シ消毒藥又ハ防臭劑ヲ撒布スヘシ

第九條　工場主自ラ工場ヲ管理セサルトキハ管理人ヲ選定シ本籍、住所、氏名、生年月ヲ具シ連署ヲ以テ五日以內ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ管理人ヲ解任、變更シタルトキ亦同シ

管理人ハ工業主ニ代リ其ノ責ニ任ス

樺太廳長官ハ前項ノ工場管理人其ノ職務ヲ行フニ不適當ト認メタルトキハ工業主ニ對シ之カ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　工業主ハ工場內樞要ノ個所ニ消火器又ハ消火劑ヲ設備シ且火災豫防ニ關スル注意事項ヲ揭示スヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ喞筒ノ設備ヲ命スルコトヲ得

第十一條　工業主ハ左ノ場合ニ於テハ十日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ新舊當事者連署ヲ以テ第四號ノ場合ニ於テハ管理人又ハ相續人若ハ配偶者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
一　廢業シタルトキ
二　三十日以上休業シタルトキ
三　工業主、工場主ニ異動アリタルトキ
四　工業主、工場主死亡若ハ所在不明ト爲リタルトキ
五　第一條第一項第一號ニ該當セサルニ到リタルトキ

相續ニ依リ工場又ハ工業ヲ承繼シタル者ハ三十日以內ニ戶籍謄本ヲ添ヘ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十二條　前條第二號ノ休業ニシテ一年ヲ經過スルモ尙著業セサル場合ハ之ヲ廢業ト看做ス

第十三條　工業主ハ災害其ノ他ノ事故ニ依リ工場其ノ他附屬工作物滅失、損壞シ又ハ職工死亡若ハ負傷シタルトキハ五日以內ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ
一　事故發生ノ日時、場所、原因及其ノ狀況竝損害ノ程度
二　死傷者ノ住所、業務種別、氏名、生年月日及家族ノ數
三　死亡者ニ付テハ致死ノ原因、負傷者ニ付テハ其ノ負傷ノ部位、症狀及經過
四　救護ノ顚末（死亡者ニ付テハ葬祭料ノ給否、負傷者ニ付テハ醫藥費及療養中ニ於ケル賃金ノ給否）

第十四條　工業主ハ職工名簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　職工ノ本籍、住所、氏名、生年月日
二　業務ノ種別及給料
三　雇入、解雇年月日

第十五條　工業主ハ工場每ニ第一號樣式ノ療養者名簿ヲ調製シ療養扶助ノ顚末ヲ記載スヘシ

第十六條　工業主ハ常時職工十人以上ヲ使用スル工場ニ於ケル六月十二月ニ於ケル各末日現在ノ職工數其ノ他ヲ第二號樣式ニ依リ其ノ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十七條　原動機ヲ使用セス及第一條第一項第一號及第二號ニ該當セサル火工場ヲ設置シタル者ハ第二條第一項第一號、第二號及第四號乃至第七號ノ事項ヲ具シ十日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十八條　火工場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ人家遠隔ノ場所ニ在リテハ此ノ制限ニ據ラサルコトヲ得
一　火焚場ノ周圍及天井裏ハ石、煉瓦、陶器、金屬製板、漆喰、壁土等ノ不燃質物ヲ以テ包圍スルコト
二　煙筒ヲ貫出スル屋根ハ其ノ周圍ヲ煙筒ヨリ十尺以上瓦、鐵板其ノ他不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
三　煙筒ノ構造其ノ他ハ煙筒取締規則ニ依ルコト

煙筒ヲ距ルコト十尺以內ニ燃質物ノ建物其ノ他工作物アルトキハ其ノ狀況ニ依リ所轄警察官署ハ燃質物ノ部分ヲ不燃質物ヲ以テ覆ハシムルコトアルヘシ

第十九條　樺太廳長官ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏又ハ其ノ他ノ吏員ヲシテ工場及附屬工作物又ハ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械器具其ノ他ノ設備ヲ檢查セシムルコトアルヘシ

第二十條　樺太廳長官ハ工業主ニ對シ其ノ工場及附屬工作物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ之カ豫防若ハ除害ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條　本令ニ依リ樺太廳長官ニ提出スヘキ書類ハ工場所在地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十二條　第五條、第六條、第九條乃至第十一條、第十三條、第十九條、第二十條及其ノ罰則ノ規定ハ之ヲ火工場設置者ニ準用ス

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第二條、第五條、第六條及第八條ノ規定ニ違反シタル者
二　第四條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第十八條第二項及第二十條ノ命令ニ違反シタル者
三　第十九條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミタル者
四　屆書又ハ帳簿ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

第二十四條　第九條第一項、第十條第一項、第十一條、第十三條、第十四條、第十五條、第十六條、第十七條、第十八條第一號、第二號ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十五條　工業主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　工業主ノ雇人其ノ他ノ從業者其

ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ工業主ヲ處罰ス

第二十七條　法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス

前項ノ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ被告人トス

附　則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（用紙美濃紙）

發病診斷又ハ負傷年月日	病名又ハ負傷種別	休業日數	業務別	給料別	扶助料支給金額	療養費支給金額	氏名	生年月	備考

記載例

一、同一ノ職工ニシテ二回以上ニ涉ル者ハ各別ニ記載スルコト

二、引續キ扶助料ヲ支給スヘキ者ハ支拂每ニ各別ニ記載シ支拂二回以上ニ涉ルモノハ朱書スルコト

三、休業日數欄ニハ職工ノ疾病又ハ負傷ノ爲メ休業シタル日數ヲ記載スルコト

第二號樣式（用紙美濃紙）

大正　年
自　月至　月
職工數及療養扶助半年報

工場名

氏名	生年月	業務別男女別	病名又ハ負傷種別	發病診斷又ハ負傷年月日	轉歸ノ年月日及種別	療養費支給金額	扶助費支給金額	備考

職工數	
男	
女	
計	
扶助職工數	
前期末現在	
本期疾病負傷	
本期轉歸	
本期末現在	

記載例

一、職工數欄ニハ其ノ期ノ末日現在職工數ヲ記載スルコト

二、同一職工ニ付同期內ニ二回以上半年報ニ記載スヘキ事由生シタルトキハ各別ニ記載スルコト

三、業務別男女別欄ニハ調木男工抄紙女工等ト記載スルコト

四、轉歸ハ治癒又ハ死亡ト記載シ轉歸ニ至ラスシテ解雇シタルトキハ其ノ旨備考欄ニ記載スルコト

五、備考欄ニハ參考事項ヲ記載スルコト

●【樺太廳工業調査所】分析、檢定及鑑定規則

（大正二年十月樺太廳令第三十九號）

【樺太廳工業調査所】分析、檢定及鑑定規則

第一條　【工業調査所】ニ分析、檢定及鑑定ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　一成分ノ定性分析ハ金壹圓トシ一定性ヲ增ス每ニ金五拾錢ヲ加フ

二　一成分ノ定量分析ハ金貳圓トシ一定量ヲ增ス每ニ金壹圓ヲ加フ

三　一金屬ノ乾式定量分析ハ金參圓トシ一定量ヲ增ス每ニ金壹圓ヲ加フ

四　石炭類ノ比重發熱量ノ檢定ハ一件每ニ金壹圓トシ同分析ハ金參圓トス

五　脂肪、蠟又ハ油類ノ比重、粘度、凝點、融點、沸點、引火點、沃度價、酸價、鹼化價若ハ光學的檢定ハ一件ニ付金壹圓以上金貳圓以下トス

六　水ノ硬度測定ハ一件ニ付金五拾錢全部定量分析ハ金參圓トス

七　汽機、汽罐、諸機械類之ニ等シキ鑑定ハ一件ニ付金壹圓以上拾圓以下トス

前各號ニ揭ケサル分析、檢定又ハ鑑定ノ手數料ハ其ノ都度之ヲ定ム

第二條　前條ノ依頼ヲ爲ス者ニシテ急速施行ヲ要スルトキハ前條ニ揭ケタル額ノ二倍ノ手數料ヲ納付スヘシ

第三條　分析、檢定又ハ鑑定ノ依頼者ニシテ其ノ報告書複本ヲ請求スルトキハ紙數一枚ニ付金拾錢ノ手數料ヲ納付スヘシ

第四條　第一條ノ依頼ヲ爲ストキハ現品ト共ニ第一號及第二號樣式ノ依頼書ヲ差出スヘシ

第五條　分析、檢定又ハ鑑定ノ爲差出スヘキ現品ノ分量左ノ如シ

一　定性及定量分析　十匁以上

二　金屬ノ乾式定量分析　四十匁以上

三　脂肪、蠟又ハ油類ノ比重、粘度、凝點、融點、沸點、引火點、沃度價、酸價、鹼化價若ハ光學的試驗　五合又ハ二斤以上

四　水ノ硬度測定　五合以上

五　水ノ分析　五升以上

六　石炭類　三斤以上

第六條　前條提出物品ハ之ヲ還付セサルモノトス

第七條　分析、檢定又ハ鑑定ノ急速施行ヲ依頼スル者ハ其ノ時日ヲ明記スヘシ但シ【工業調査所】ノ都合ニ依リ之ニ應セサルコトアルヘシ

第八條　依頼人ノ請求ニ應シ【工業調査所員】ノ出張ヲ要スルトキハ依頼人ハ樺太廳職員旅費規則ニ依ル相當ノ旅費及器具ノ運搬費ヲ負擔スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年八月樺太廳令第六十六號鑛物ノ分析及鑑定規則ヲ廢止ス

（第一號樣式）

分析（檢定）依頼書

一　品　名　何々
二　產　地　何々
三　定　性　（定量）分析スヘキ成分
（檢定目的）
四　何　々

右分析及御依頼候也

年　月　日

住所
依頼者　氏　名印

【樺太廳工業調査所】御中

（第二號樣式）

鑑定依頼書

一　依頼品　何々
二　產　地　何々（又ハ所在地何々）
三　鑑定目的　何々
四　何　々

右鑑定及御依頼候也

年　月　日

住　所
依頼者　氏　名印

【樺太廳工業調査所】御中

第四章　鑛業

●鑛業法

（明治三十八年三月八日法律第四十五號　改正　明治四〇年第四[illegible]號、四四年第九號　大正一三年第二二號　昭和二年第三六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業[illegible]ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

鑛業法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ鑛業ト稱ス[illegible]掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ[illegible]

第二條　本法ニ於テ鑛物ト稱ス[illegible]鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安[illegible]銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格[illegible]滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、[illegible]炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ[illegible]鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃[illegible]之ヲ石油ト看做ス但シ工業用[illegible]ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ[illegible]モノニハ本法ヲ適用セス

第三條　未タ掘採セサル鑛物（廢[illegible]含ム）ハ國ノ所有トス

第四條　本法ニ於テ鑛業權ト稱[illegible]及採掘權ヲ謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許[illegible]鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル[illegible]シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於[illegible]ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル[illegible]

第五條　帝國臣民又ハ帝國法律[illegible]タル法人ニ非サレハ鑛業權者[illegible]得ス

第六條　本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ內一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ其ノ屆出ナキトキハ【鑛山監督署長】之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條　本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ

第九條　本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以內竝要塞地帶第一區內ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以內竝要塞地帶第二區及第三區內ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ揭ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條　鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境內地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條　本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條　本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十四條ノ二　農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ【鑛山監督署長】ニ委任スルコトヲ得

第二章　鑛業權

第十五條　鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　鑛業權ハ不可分トス

第十七條　鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ採掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條　試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ增減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條　鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅竝處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脫退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　前條第一項ニ揭ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅竝第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條　鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ【鑛山監督署長】採掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條　鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ【鑛山監督署長】、採掘ニ付テハ農商務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條　採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條　農商務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルトキハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ採掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條　採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條　鑛業出願人ハ出願地ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條　採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ【鑛山監督署長】ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セス

第三十二條　公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價値ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條　試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分[illegible]發送ノ日時ノ先ナル者優先權[illegible]送ノ日時同一ナルトキハ【鑛[illegible]之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此[illegible]ハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ[illegible]以內ニ協議ヲ調ヘ之ヲ屆出ヘ[illegible]

出願人前項ノ屆出ヲ爲ササル[illegible]依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第[illegible]三十一條第二項及第三十五條[illegible]ヲ適用セス

試掘出願地ト採掘出願地ト重複[illegible]テ願書發送ノ日時同一ナルトキ[illegible]スル部分ニ付テハ採掘出願人[illegible]ス

第三十三條ノ二　試掘權者試[illegible]滿了後十日以內ニ同種ノ鑛物[illegible]ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘[illegible]部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對[illegible]ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願[illegible]鑛物ナルトキハ第三十一條ノ[illegible]此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願[illegible]ヲ以テ鑛業權者ト看做ス

第三十四條　[illegible]採掘ノ出願ヲ爲シタル場合[illegible]複スルトキハ其ノ重複スル部[illegible]掘ノ出願ハ試掘ノ願書發送ノ[illegible]ノ出願ニ代リタルモノト看[illegible]三條第四項ノ場合ハ此ノ限[illegible]

前項本文ノ規定ハ採掘出願[illegible]付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル[illegible]用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條[illegible]場合ニ於ケル期限經過後ノ出[illegible]セス

第三十五條　採掘權者ハ鑛區ノ[illegible]ヲ農商務大臣ニ出願[illegible]部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ[illegible]ルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ[illegible]爲サムトスルトキハ抵當權者[illegible]權ノ順位ニ關スル協定ヲ經[illegible]

第三十六條　鑛業權者[illegible]及抵當權者ノ承諾ヲ得タル[illegible]ニ掘進スル爲增區ヲ出願ス[illegible]鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接鑛[illegible]

ニ非サレハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ出願ヲ爲サヽルトキハ農商務大臣ハ採掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ出願ヲ爲サヽルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以內ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ採掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ【鑛山監督署長】ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ採掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

採掘權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ採掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

採掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 【鑛山監督署長】ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑內實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條 鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付【鑛山監督署長】ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章 土地使用

第五十條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入ラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査ノ爲必要アルトキハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ障碍物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障碍物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條 鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鑛業權者ハ左ニ揭クル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 錐鑛孔又ハ坑口ノ開穿
二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置
三 選鑛場又ハ製鍊場ノ建設
四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管、樋、池井、索道又ハ電線ノ開設
五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ

【鑛山監督署長】前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及【鑛山監督署長】之ヲ行フ

一 建設物及工作物ノ保安
二 生命及衞生ノ保護
三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

第七十二條 鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ【鑛山監督署長】ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及【鑛山監督署長】ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍內ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛夫

第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ每月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齡及就業時間竝婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及錫鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪每ニ每年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ每年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ每年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、採掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝【間切島】其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴願、訴訟及裁決

第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ【鑛山監督署長】ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ【重禁錮】又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障碍物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條 詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、【再犯加重及數罪俱發】ノ例ヲ用井ス

第百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第百五條 前二條ノ場合ニ於テハ【禁錮】又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第百八條　鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

第百九條　日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル採掘ノ特許ハ採掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第百十條　本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘鑛區ハ採掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第百十一條　鑛業條例ニ依ル採掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第百十二條　第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百十三條　日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第百十四條　明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第百十五條　第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リ之ヲ適用セス

第百十六條　鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百十七條　本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第百十八條　鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第百十九條　明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ掘採スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ掘採者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第百二十條　明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採掘スル者ハ同條同項但書ニ該當セサル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛山監督署長ニ屆出ルトキハ其ノ屆出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス

附　則（大正十三年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年勅令第百九十九號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●鑛業法施行細則

（明治三十八年六月十五日農商務省令第十七號）

改正　明治三九年第一五號、四〇年第八號、四二年第二四號、四四年第一〇號、大正元年第二一號、五年第二〇號、一〇年第二七號、一三年第一八號

鑛業法施行細則左ノ通定ム

鑛業法施行細則

第一條　願書、申請書、屆書及圖面ハ一件每ニ之ヲ調製シ樣式ノ定アルモノニ付テハ其ノ樣式ニ準スヘシ

第二條　農商務大臣又ハ【鑛山監督署長】ニ差出シタル書面、圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第三條　鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ發スル場合ニ於テ受信人ノ住所不分明ナルトキハ十日間其ノ要旨ヲ【鑛山監督署】ノ揭示場ニ揭示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ニ命令又ハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條　本則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條　本則中鑛業ノ出願ニ關スル規定ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出願ニ付之ヲ準用ス

第六條　書面又ハ圖面不完備ナルトキハ【鑛山監督署長】ハ相當ノ期限ヲ附シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

第七條　書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ消印記號ニ記載シタル最終ノ時ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物受取證ニ依リテ前項ノ規定ニ依ル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ消印記號ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第八條　農商務大臣ニ差出スヘキ書面又ハ圖面ハ【鑛山監督署長】ヲ經由スヘシ此ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ニ差出シタル日時ヲ以テ差出ノ日時ト看做ス

第九條　同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物每ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添附シテ差出スヘシ

第十一條　共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ

共同鑛業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ屆出ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ因リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス但シ鑛業權設定ノ場合ニ於テハ登錄稅納付書ニ代表者ヲ表示シタルトキハ之ヲ以テ代表者ノ屆出ト看做ス

第十二條　共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ改定シタルトキハ遲滯ナク連署シテ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第十三條　鑛業法第七條第一項ノ規定ニ依リ【鑛山監督署長】代表者ヲ指定シタルトキハ之ヲ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ通知スヘシ

第十四條　鑛業出願人代表者ニ依リテ鑛業出願ノ取下、區域增減ノ出願又ハ出願人變更ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ屆書ニ其ノ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ依リテ鑛區ノ增減、合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　鑛業ニ關スル出願ニシテ鑛利保護上又ハ鑛區分合上出願地及鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユル場合ニ於テハ願書ニ其ノ理由書ヲ添附スヘシ

第十六條　鑛業ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以內ニ所轄官廳ノ許可書若ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

鑛業出願後其ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所トナリタルトキハ其ノ公示ノ日ヨリ三十日以內ニ前項ノ書面ヲ差出スヘシ

第十六條ノ二　鑛業出願地カ實地調查ニ因リテ鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ【鑛山監督署長】ハ前條ノ規定ニ拘ラス相當ノ期限ヲ附シ其ノ差出スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトヲ得錯誤ニ因リ其ノ書面ノ添附ヲ遺漏シタルモノト認メタルトキ亦同シ

第十七條　鑛業出願地ノ形狀鑛業ヲ爲スニ不適當ナリト認ムルトキハ【鑛山監督署長】ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ增減ヲ命スルコトヲ得

第十八條　鑛業出願人他人ノ鑛區ニ鄰接シテ鑛區ヲ定メムトスルトキハ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ、試掘鑛區ノ範圍內ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲ストキ又ハ鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依リ鑛業ノ出願ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

前項鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ願書ニ承諾書ヲ添附シテ差出スヘシ之ヲ添附セサルトキハ承諾ナキモノト看做ス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲前項ノ距離ノ延長又ハ減縮ヲ必要ナリト認ムルトキハ【鑛山監督署長】ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ增減ヲ命スルコトヲ得

第十九條　鑛業願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第十四號ニ準シテ調製シ左ニ揭タル事項ヲ明示スヘシ

一　出願地ノ名稱及種目
二　出願地ノ面積
三　南北線
四　縮尺
五　二箇以上ノ不動基點竝其ノ名稱及特徵
六　出願地ノ各隅トナルヘキ測點竝其ノ番號
七　境界線竝基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數
八　出願地ヨリ五十間以內ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係
九　出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向、傾斜
十　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條又ハ第十一條ニ記載シタルモノ

第二十條　採掘出願人ハ其ノ願書ニ採掘セムトスル鑛物ノ鑛床ニ關スル說明書ヲ添附スヘシ

第二十一條　試掘又ハ採掘ノ願書及出願地又ハ鑛區ノ增減ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ受附ノ年月日及時刻ヲ記載シタル受取證ヲ請置クヘシ

第二十二條　【鑛山監督署長】ハ相當ノ期限ヲ附シ出願人ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リテ設計書ヲ提出シタル試掘出願人カ出願ノ許可後其ノ設計ヲ變更シテ作業セムトスルトキハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條ノ二　【鑛山監督署長】ハ相當ノ期限ヲ附シ試掘權者ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命シ若ハ理由ヲ示シテ設計書ノ變更ヲ命スルコトヲ得

試掘權者カ前項ノ命令ニ依リテ提出シタル設計書ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　削除

第二十四條　【鑛山監督署長】ハ鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ付實地調查ヲ必要ト認ムルトキハ調查事項及調查期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命スルコトヲ得若シ調查期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ

出張吏員カ確定期日ヲ指定スルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ但シ出願人又ハ鑛業權者ニ於テ異議ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　鑛業出願人變更ノ屆書ニハ新舊出願人連署スヘシ

第二十五條ノ二　試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後出願人ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十五條ノ三　試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後試掘權ヲ移轉シタルトキハ出願人變更ノ屆出アリタルモノト看做ス

第二十六條　相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ【戶籍吏】ニ屆出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十七條　共同鑛業出願人脫退シタルトキハ代表者若シ代表者ナキニ至リタルトキハ共同出願人ハ脫退ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ原由ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

第二十八條　採掘出願地ノ訂正願書ニハ訂正理由書ヲ添附スヘシ

第二十九條　採掘出願地ノ訂正又ハ鑛業出願地ノ增減ノ願書ニ添附スヘキ圖面ニハ新舊出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第二十九條ノ二　第三十六條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ出願人ハ出願地ノ增減竝鑛種名ノ更正ヲ出願スルコトヲ得ス

第三十條　鑛業法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係鑛業出願人立會ノ上【鑛山監督署長】之ヲ行フ

【鑛山監督署長】ハ抽籤ノ日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關係鑛業出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出頭セサルトキハ【鑛山監督署長】ハ二名以上ノ【鑛山監督署】職員立會ノ上之ヲ行フ

第三十一條　鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域每ニ之ヲ調製スヘシ

鑛業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ハ合併又ハ分割ノ願書ニ之ヲ添附スヘシ

第三十一條ノ二　鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依ル鑛業ノ願書ニハ其ノ旨ヲ記載シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ新區域カ舊區域ト異ナルトキハ其ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十二條　鑛業法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル鑛區增區ノ願書ニハ鑛床圖ノ說明書、鄰接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

鑛業法第三十六條第二項ノ規定ニ依ル鑛區訂正ノ願書ニハ鑛床圖ノ說明書、鄰接鑛業權者ノ承諾書又ハ鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ願書ニ添附スヘキ鑛床圖ハ平面圖及截面圖ノ二種ニ分チテ之ヲ調製スヘシ

第三十三條　鑛區訂正ノ願書ニ關シテハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條　鑛區ノ訂正、增減又ハ改正ノ願書ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第三十五條　鑛業法第三十七條第三項ノ規定ニ依ル減區又ハ增減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第三十六條　鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ【鑛山監督署長】ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人ハ前項ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ登錄稅ヲ納付スヘシ此ノ期間內ニ登錄稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ在リテハ期間後ト雖更ニ登錄稅ヲ納付スルコトヲ得

登錄稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ郵便ヲ以テ納付スル場合ニ關シテハ第七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ登錄稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前四項ノ規定ハ第十條ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第三十六條ノ二　鑛區ノ合併、分割、減區又ハ增減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ登錄稅納付書ニ添附シテ差出スヘシ但シ鑛區ノ分合又ハ增減ノ願書ト共ニ承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ納付書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十七條　鑛區所在地ノ名稱、種目、境界、基點又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ【鑛山監督署長】ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調查圖ヲ添附スヘシ

【鑛山監督署長】カ鑛業ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ要セサルモノト認メタルトキ又ハ前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖ヲ調査シ完備シタルモノト認メタルトキハ第三十六條第一項ニ準シ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

第三十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　左ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ハ願書、申請書又ハ屆書ヲ受理セス

一　試掘又ハ採掘出願地ノ全部カ所轄【鑛山監督署】ノ管轄區域內ニ在ラサルトキ
二　出願ノ鑛物カ鑛業法第二條ノ規定ニ該當セサルトキ
三　圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ之ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
四　手數料ヲ納付セサルトキ
五　削除
六　第十四條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ
七　第二十一條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
八　第二十五條ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
八ノ二　第二十五條ノ二ノ規定ニ違背シ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添附セサルトキ
九　第三十一條第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
十　第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ

第三十八條ノ二　左ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ハ登錄稅納付書ヲ受理セス

一　第三十六條第四項又ハ第三十七條第三項ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ
二　第三十六條ノ二ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ハ願書又ハ屆書ヲ却下ス

一　實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ指定シタル調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ
二　願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
三　第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
四　第十六條ニ規定シタル期間內又ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ
五　第十七條又ハ第十八條第三項ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ區域增減ノ願書ヲ差出ササルトキ
六　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ設計書ヲ差出ササルトキ
七　削除
八　第二十四條ノ規定ニ依リテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
九　第三十六條ニ規定シタル期間內ニ登錄稅納付書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ
十　第七十九條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ協定書ヲ差出ササルトキ

第四十條　相續ニ因リテ鑛業權者若ハ抵當權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者若ハ抵當權者ハ【戶籍吏】ニ屆出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ登錄ヲ申請スヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ之ニ準シテ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

第四十一條　鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

第四十二條　試掘權者ハ試掘鑛區圖及試掘工程表ヲ、採掘權者ハ坑內實測圖及鑛業簿ノ外採掘鑛區圖及鑛業施業案ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第四十三條　鑛業權者ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ノ登錄アリタル日ヨリ六箇月以內ニ事業ニ著手セス又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ其ノ期間ヲ附シ理由ヲ詳記シテ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

休業期間內ニ事業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

第四十四條　鑛業施業案ハ樣式第十九號ニ準シテ之ヲ調製シ之ヲ說明スヘキ圖面ヲ添ヘ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出スヘシ

鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ理由ヲ明示シ樣式ノ記載事項ヲ增減スルコトヲ得

第四十五條　【鑛山監督署長】ハ鑛業法第四十五條第一項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命スルニハ少クトモ三十日以上ノ期限ヲ附スヘシ

第四十六條　鑛業法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ新ナル施業案及變更ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條　坑內實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ每月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ

坑內實測圖ノ複本ハ石炭坑ニ在リテハ每年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ其ノ他ニ在リテハ每年十二月末日迄ノ分ヲ二月末日迄ニ差出スヘシ但シ鑛山ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ【鑛山監督署長】ハ何時ニテモ坑內實測圖ノ複本ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ提出期若ハ提出回數ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ差出シタル前期ノ坑內實測圖複本ハ請求ニ因リ之ヲ下付ス

第四十八條　鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛業簿ノ複本ハ每年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各七月末日及一月末日迄ニ差出スヘシ

第四十九條　前二條ノ規定ニ依リテ調製シ若ハ差出スヘキ書類又ハ圖面ハ採掘權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ採掘權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ調製シ若ハ差出スヘシ

第五十條　鑛業明細表ハ樣式第十八號ニ準シテ之ヲ調製シ每年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ差出スヘシ

第五十一條　前條ノ規定ニ依リテ差出スヘキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ差出スヘシ

第五十二條　前五條ノ規定ニ依リ坑內實測圖若ハ鑛業簿ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第五十三條　二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ第四十四條及第四十六條乃至第五十一條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十四條　鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及鑛業法ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第五十五條　試掘權者ハ試掘工程表ヲ調製シテ一箇月每ニ開坑ニ關スル狀況、鑛產物ノ數量、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

第五十六條　試掘ニ依リテ得タル鑛產物ヲ處分セムトスルトキハ其ノ方法及數量ヲ記載シ【鑛山監督署長】ニ出願スヘシ

第五十七條　鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査ノ願書ニハ調査區域及其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

【鑛山監督署長】調査ヲ要スルモノト認メタルトキハ調査日數竝之ニ要スル人夫及物品ノ豫定書ヲ調製シ出願人ニ交付スヘシ

出願人ハ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會フヘシ

第五十八條　鑛業法第五十二條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲サムトスル者ハ土地ノ名稱、種目及其ノ目的ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第五十九條　鑛業法第五十三條ノ規定ニ依リテ障碍物ヲ除卻セムトスル者ハ障碍物ノ種類、名稱、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱竝豫定價額ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十條　鑛業法第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及其ノ目的ヲ記載シテ出願スヘシ

前項ノ出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ出願ニ對シ電信ヲ以テ指令ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及立入リ又ハ使用ノ目的ヲ記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第六十一條　鑛業法第五十二條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ、之ヲ使用シ又ハ障碍物ヲ除卻セムトスル者ハ【鑛山監督署長】ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第六十二條　鑛業法第五十六條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ土地登記謄本、未登記ノ土地ニ付テハ土地臺帳謄本、關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十三條　鑛業權者鑛業法ノ規定ニ基キテ他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ、使用ヲ終リタルトキ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ直ニ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル屆書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間竝補償金及擔保ヲ記載スヘシ

第六十四條乃至第六十七條　削除

第六十八條　鑛業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖竝所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ト交涉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交涉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所
三　鑛業權ノ登錄番號
四　申請ノ目的及理由

【鑛山監督署長】前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ニ交付スヘシ

所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ答辯書ヲ差出スヘシ

所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者前項ノ期間內ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ【鑛山監督署長】ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

申請人第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ【鑛山監督署長】之ヲ申請人、所有者及關係人、鄰接鑛業權者ニ交付スヘシ

第六十九條　鑛業法第九十條第二項又ハ第九十二條第二項ノ規定ニ依ル訴願ニハ【鑛山監督署長】ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條　鑛業法第八十九條、第九十條第二項、第九十一條及第九十二條第二項ノ規定ニ依リテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シタル者ハ七日以內ニ其ノ旨ヲ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

第七十一條　鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第三十九條ノ規定ニ依ル却下ニ付テハ【鑛山監督署】ノ揭示場ニ揭示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

第七十二條　第二十六條、第二十七條、第四十條乃至第四十三條、第四十九條、第五十一條、第五十二條、第五十五條、第六十一條、第六十三條、第七十條、第八十一條、第八十六條及第八十七條ノ規定ニ違背シタル者第二十二條ノ二第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間內ニ設計書ヲ差出ササルトキ若ハ第二十二條第二項及第二十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者、第二十四條ノ規定ニ基ク指定ノ期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ說明ヲ爲ササル者、第三十七條第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間內ニ鑛區圖ヲ差出ササルトキ若ハ第三項ノ規定ニ違背シ期間內ニ登錄稅ヲ納メサル者又ハ第九十條ノ規定ニ依ル扶助規則ヲ差出ササル者若ハ第八十九條ノ規定ニ依リ扶助規則ヲ改定セサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條　第五十四條ノ規定ニ依リテ鑛業代理人ヲ定メタル場合ニハ鑛業權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　本則ハ第七十二條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

附　則

第七十五條　本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條　鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條　鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本則中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條　本則施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ鑛業法及本則中ニ別段ノ定ナキモノニ付テハ鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ノ規定ヲ適用ス

第七十九條　鑛業條例第四十六條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル出願ニシテ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘタルモノニ付テハ【鑛山監督署長】ハ相當ノ期限ヲ附シテ抵當權[illegible]ニ關スル協定書ヲ差出サシムルコトヲ得

第八十條　本則施行前ニ明治三十二年農商務省令第三號ニ依リ鑛業總代人ト看做サレタル者ハ本則ノ規定ニ依リテ定メタル代表者ト看做ス

第八十一條　本則施行前ヨリ引續キ鑛業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以內ニ鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ【鑛山監督署長】ニ屆出ヘシ

第八十二條　本則施行前試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ニ付テハ第四十三條ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八十三條　本則施行前ヨリ引續キ採掘ヲ爲ス者ハ明治三十八年十一月末日迄ニ第四十四條ノ規定ニ依リ調製シタル施業案ヲ差出スヘシ

第八十四條　明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依ル鑛業代理人ハ本則ノ規定ニ依ル鑛業代理人ト同一ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第八十五條　鑛業條例第四十八條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用スル者ハ本則施行ノ日ヨリ九十日以內ニ土地ノ名稱、種目及使用ノ目的ヲ記載シタル屆書ニ關係地實測圖、工事設計書及使用ノ權利ヲ證スル書面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第八十六條　鑛業條例第六十四條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫使役規則中第六十四條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノハ本則施行ノ日ヨリ三十日以內ニ之ヲ改定シテ許可ヲ受クヘシ

第八十七條　鑛業條例第七十條ノ規定ニ依リテ調製シタル鑛夫名簿中第七十四條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ本則施行ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ改定スヘシ

第八十八條　本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第五十五條ノ規定ニ依リ試掘工程表ヲ調製スヘシ

第八十九條　鑛業條例第七十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫救恤規則中第六十六條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ採掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以內ニ之ヲ改定シテ許可ヲ受クヘシ但シ改定前ニ扶助ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ給與金額ハ第六十六條ニ定メタル最低額ヲ下ルコトヲ得ス

第九十條　本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第六十六條ノ規定ニ依リテ扶助規則ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第九十一條　鑛業法第百十九條ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　事業ノ現狀ヲ詳記セル書類

二　明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ出願鑛物ヲ採取スルコトヲ證スル書類

第九十二條　鑛業法第百二十條ノ規定ニ依ル屆書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　事業ノ現狀ヲ詳記セル書類

二　明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ鑛業法第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採取スルコトヲ證スル書類

三　坑井ノ所在ヲ認知シ得ヘキ圖面

前項第三號ノ圖面ニハ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一　所在地ノ名稱及種目

二　不動基點並其ノ名稱及特徵

三　坑井ト不動基點ト連結シタル測點間ノ方位及間數

樣式第一號

何鑛試掘許可願

何府縣郡市町村大字何
面積何坪

右箇所ニ於テ何鑛試掘許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日
住所
出願人　氏　名（名稱）印
何【鑛山監督署長】氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

樣式第二號（採掘ニ在リテハ正副二通）

何鑛試掘（採掘）出願地增減區（增區、減區）願

何年何月何日出願
何府縣郡市町村內何鑛試掘（採掘）出願地何坪
增區　何郡市町村大字何
面積何坪
減區　何郡市町村大字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪

右試掘（採掘）出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日
住所
出願人　氏　名（名稱）印
何【鑛山監督署長】（農商務大臣）氏名殿

注意
一　圖面ハ試掘ニ關シテハ四葉採掘ニ關シテハ五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號（採掘ニ在リテハ正副二通）

何鑛試掘（採掘）鑛區增減區（增區、減區）願

何府縣（郡）試掘（採掘）權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛試掘（採掘）鑛區
何坪
增區　何郡市町村大字何
面積何坪
減區　何郡市町村大字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪

右試掘（採掘）鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日
住所
試掘（採掘）權者　氏名（名稱）印
何【鑛山監督署長】（農商務大臣）氏名殿

注意　事項樣式第二號ニ同シ

樣式第四號（採掘ニ在リテハ正副二通）

何鑛試掘（採掘）鑛區改正願

何府縣（郡）試掘（採掘）權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛試掘（採掘）鑛區
何坪
增區　何郡市町村大字何
面積何坪
減區　何郡市町村大字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪

右試掘（採掘）鑛區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日
住所
試掘（採掘）權者　氏名（名稱）印
何【鑛山監督署長】（農商務大臣）氏名殿

注意　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

樣式第五號（採掘ニ在リテハ正副二通）

試掘（採掘）鑛種名更正願

何府縣（郡）試掘（採掘）權登錄第何號

右試掘（採掘）權ノ鑛種ハ何鑛トシテ登錄相成候處何鑛ト更正許可相成度別紙理由書相添此段相願候也

年月日
住所
試掘（採掘）權者　氏名（名稱）印
何【鑛山監督署長】（農商務大臣）氏名殿

樣式第六號（採掘ニ在リテハ正副二通）

試掘（採掘）出願人變更屆

何年何月何日出願
何府縣郡市町村內何鑛試掘（採掘）出願地何坪

右試掘（採掘）出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也

年月日
住所
舊出願人　氏　名（名稱）印
住所
新出願人　氏　名（名稱）印
何【鑛山監督署長】（農商務大臣）氏名殿

注意
一　新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得
二　舊出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第七號（採掘ニ在リテハ正副二通）

試掘（採掘）出願相續屆

何年何月何日出願
何府縣郡市町村內何鑛試掘（採掘）出願地何坪

右試掘（採掘）出願人何某死亡（其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス）ニ因リ相續致候間戶籍抄本（又ハ相續ニ關スル證明書）相添此段屆出候也

年月日
住所
相續人　氏　名　印
何【鑛山監督署長】氏名殿

樣式第八號（採掘ニ在リテハ正副二通）

共同試掘（採掘）出願人脫退屆

何年何月何日出願
何府縣郡市町村內何鑛試掘（採掘）出願地何坪

右共同出願人何某何（脫退ノ原因ヲ記載ス）ノ爲脫退致候間別紙何（脫退ノ原因ヲ證スル書面）相添此段屆出候也

年月日
住所
代表者　氏　名（名稱）印
何【鑛山監督署長】氏名殿

樣式第九號（正副二通）

何鑛採掘許可願

何府縣郡市町村大字何
面積何坪

右箇所ニ於テ何鑛採掘許可相成度圖面並鑛床說明書相添此段相願候也

年月日
住所
出願人　氏　名（名稱）印
農商務大臣氏名殿

（注意事項樣式第一號ニ同シ）

樣式第十號（正副二通）

何鑛採掘出願地（鑛區）訂正願

何年何月何日出願（何府縣（郡）採掘權登錄第何號）
何府縣郡市町村內何鑛採掘出願地（鑛區）何坪
增區　何郡市町村大字何
面積何坪
減區　何郡市町村大字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪

右採掘出願地（鑛區）訂正許可相成度圖面並訂正理由書相添此段相願候也

年月日
住所
出願人（採掘權者）氏名（名稱）印
農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　鑛業法第二十五條ニ依ル出願ノ場合ハ理由書ヲ要セス但シ此ノ場合ニ於テハ命令何號ニ依ルモノナルコトヲ記載スヘシ

樣式第十一號（正副二通）

何鑛採掘鑛區合併願

一　何府縣（郡）採掘權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛採掘鑛區何坪
一　何府縣（郡）採掘權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛採掘鑛區何坪
合計　何坪

右鑛區合併許可相成度圖面並合併理由書相添此段相願候也

年月日
住所
採掘權者　氏　名（名稱）印
農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
三　二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ニハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
四　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第十二號（正副二通）

何鑛採掘鑛區分割願

何府縣（郡）採掘權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛採掘鑛區何坪
此分割
何府縣郡市町村內
面積何坪
何府縣郡市町村內
面積何坪

右鑛區分割許可相成度分割圖面並分割理由書相添此段相願候也

年月日
住所
採掘權者　氏　名（名稱）印
農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面ハ分割區域每ニ各四葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ
二　其ノ他ノ注意事項ハ樣式第十一號中二、三、四號ニ同シ

樣式第十三號（正副二通）

鑛業法第三十六條ニ依ル何鑛採掘鑛區訂正願

何府縣（郡）採掘權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛採掘鑛區何坪
增區　何府縣郡市町村內
面積何坪
合計　何坪

右鑛區ノ鑛床ハ何府縣（郡）採（試）掘權登錄第何號何鑛採（試）掘鑛區ノ未採掘鑛床ト聯絡シ且該鑛區ノ目的タル鑛床ト異ナルニ依リ訂正許可相成度別紙圖面、鑛床圖、鑛床說明書及訂正區域內鑛業權者ノ承諾書（鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本）並訂正理由書相添此段相願候也

年月日
住所
採掘權者　氏　名（名稱）印
農商務大臣氏名殿

注意
一　鑛區圖、鑛床圖各四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　鄰接鑛業權者ノ連署アルトキハ承諾書ノ提出ヲ要セス

樣式第十三號ノ二（正副二通）

鑛業法第三十六條ニ依ル何鑛採掘鑛區增區願

何府縣（郡）採掘權登錄第何號
何府縣郡市町村內何鑛採掘鑛區何坪
增區　何府縣郡市町村內
面積何坪
合計　何坪

右鑛區ヨリ何府縣（郡）採（試）掘權登錄第何號何鑛採（試）掘鑛區ヘ掘進致度ニ付增區許可相成度別紙圖面、鑛床圖、鑛床說明書並鄰接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書相添此段相願候也

年月日
住所
採掘權者　氏　名（名稱）印
農商務大臣氏名殿

注意事項（樣式第十三號ニ同シ）

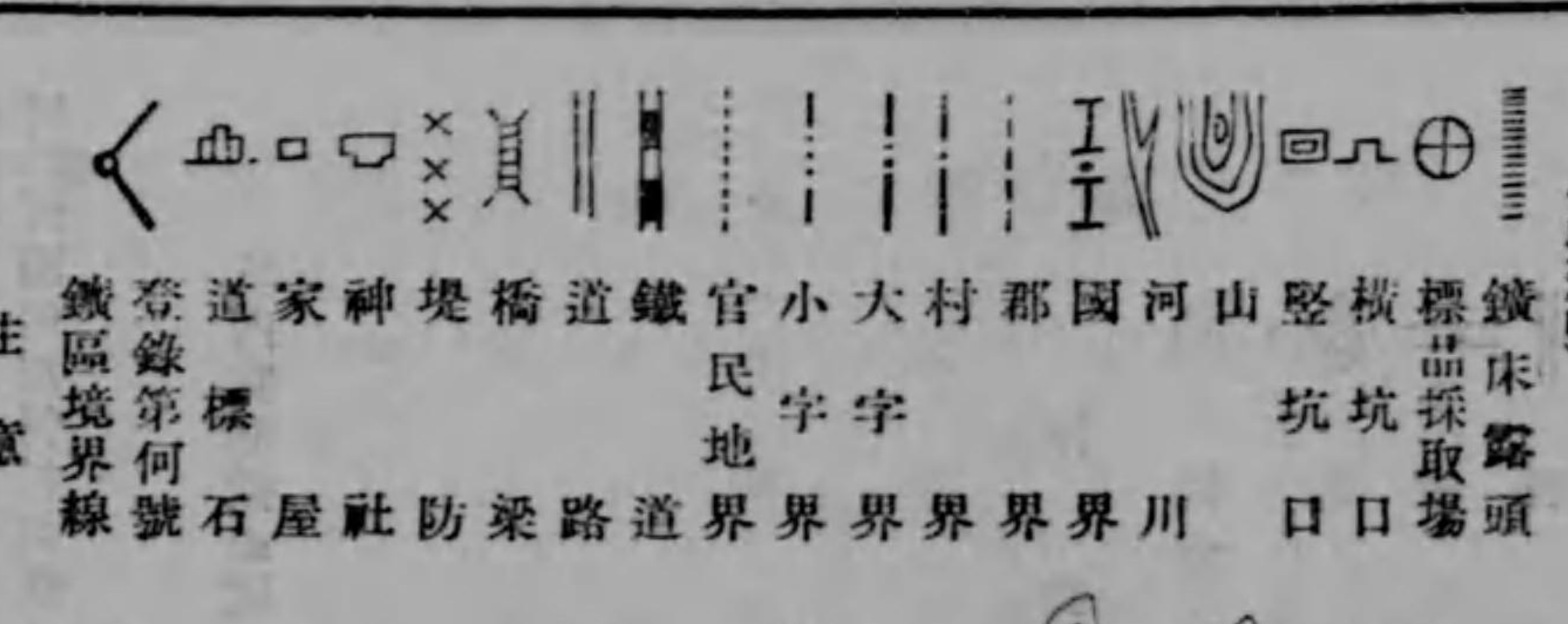
樣式第十四號（五通）

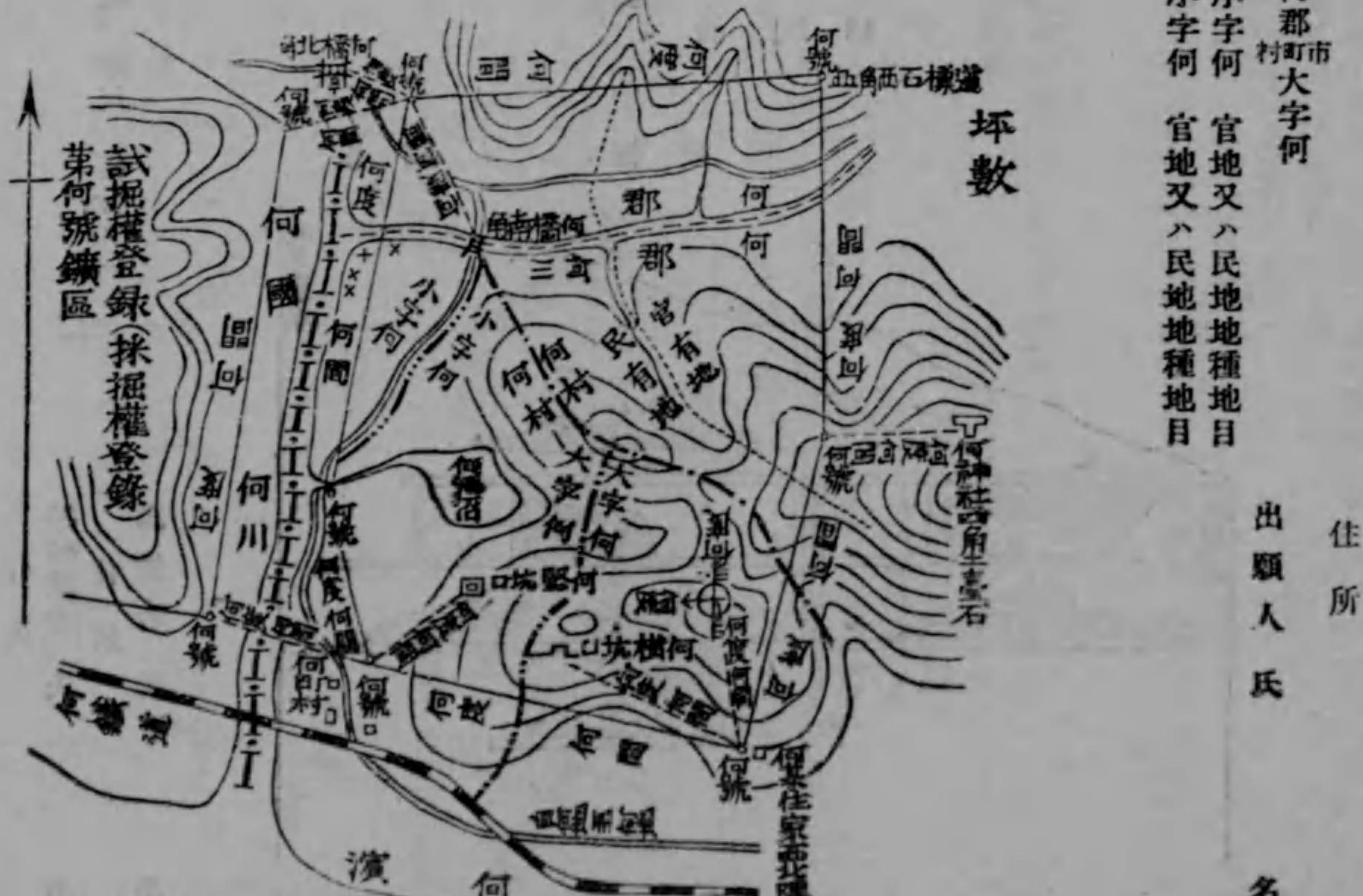
何鑛（試掘採掘）鑛區圖　縮尺　何分ノ一

何（府縣）何國何郡（市町村）大字何
小字何　官地又ハ民地地種地目
小字何　官地又ハ民地地種地目

【明治】年　月　日出願
住所
出願人　氏　名　印

符號





注意
一　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用フヘシ
二　圖面ニ地目別ヲ顯スニハ左記ノ諸色ヲ用フヘシ
山林（綠色）　原野（鼠色）　田（淡藍色）　畑（黃色）　宅地（褐色）　水（濃藍色）
三　基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石、其ノ他近傍ニ在ル顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定スヘシ
四　基點及測點附近ノ地形及地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若シ記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル說明ヲ附記スヘシ
五　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス

六　縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ但シ鑛務署長ノ公告シタル地域ニ在リテハ二千五百分ノ一又ハ五千分ノ一ニ調製スヘシ

様式第十五號甲

何縣(何郡)採掘權登錄第何號(又ハ特許第何號)

何（府縣）何國何郡何村何鑛山

坑內實測平面圖　縮尺　何分ノ一

符號

∠　鑛區境界線

入　坑口

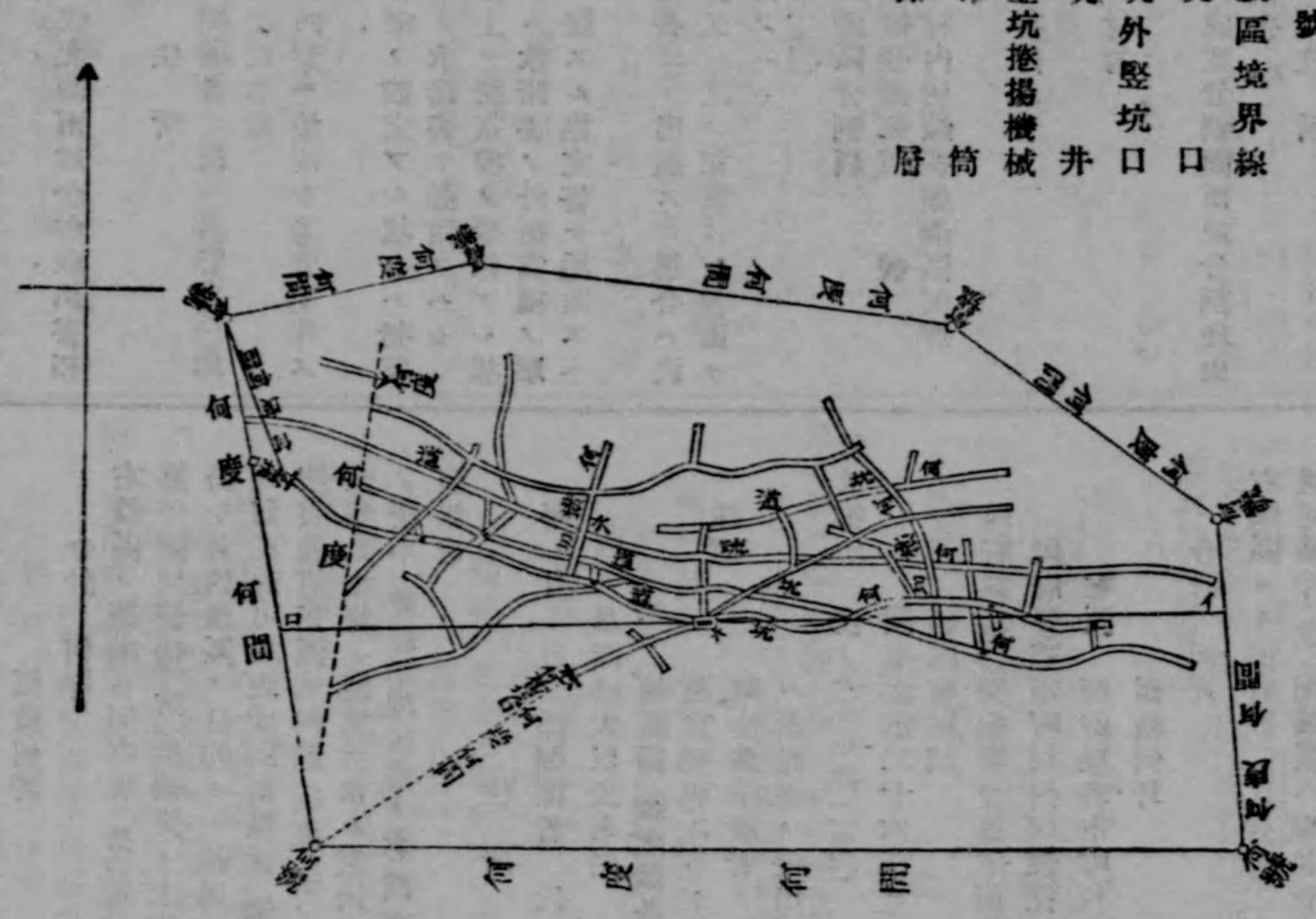
▣　坑外竪坑口

■　坑井

×　竪坑捲揚機械

乜　喞筒

┅　斷層


何號
何間
何度
何號
何間
何度
何號
何間
何度
何號
何間
何度
何號
何度
何間
何度
何號
道
坑
何
イ
ロ
何度

住所
採掘權者　氏名印
住所
測量者　氏名印

注意

一　坑道ノ上下段ハ色分チ以テ區別スヘシ

二　軌道チ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度チ用フヘシ

三　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

四　木造堰ハ黃色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分チナスヘシ

様式第十五號乙

何縣(何郡)採掘權登錄第何號(又ハ特許第何號)

何（府縣）何國何郡何村何鑛山

坑內實測截面圖　縮尺　何分ノ一

符號

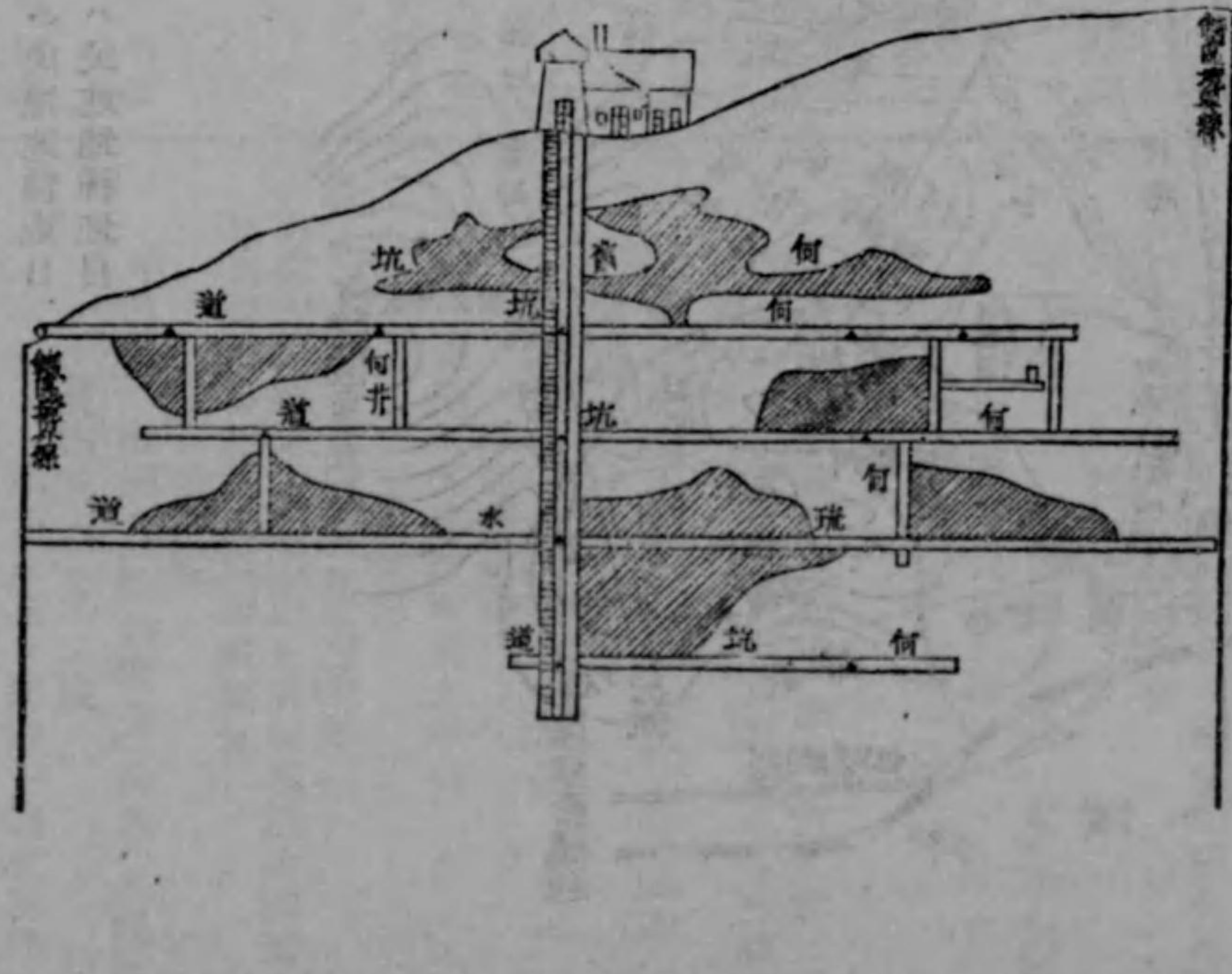
◺　採鑛場

●　舊坑

工　横切

‖　梯子

甲圖（イロ）線截面


鑛區境界線
鑛區境界線
坑
舊
何
坑
何
道
何井
道
坑
何
道
水
坑
何
道
坑
何

住所
採掘權者　氏名印
住所
測量者　氏名印

注意

一　坑道ノ上下段ハ色分チ以テ區畫スヘシ

二　軌道チ敷設シタル坑道又ハ機械等ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度チ用フヘシ

三　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

四　木造堰ハ黃色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分チナスヘシ

様式第十六號(石炭鑛ノ分)

何縣(何郡)採掘權登錄第何號(又ハ特許第何號)

何（府縣）何國何郡何村何炭鑛

坑內實測圖　縮尺　何分ノ一

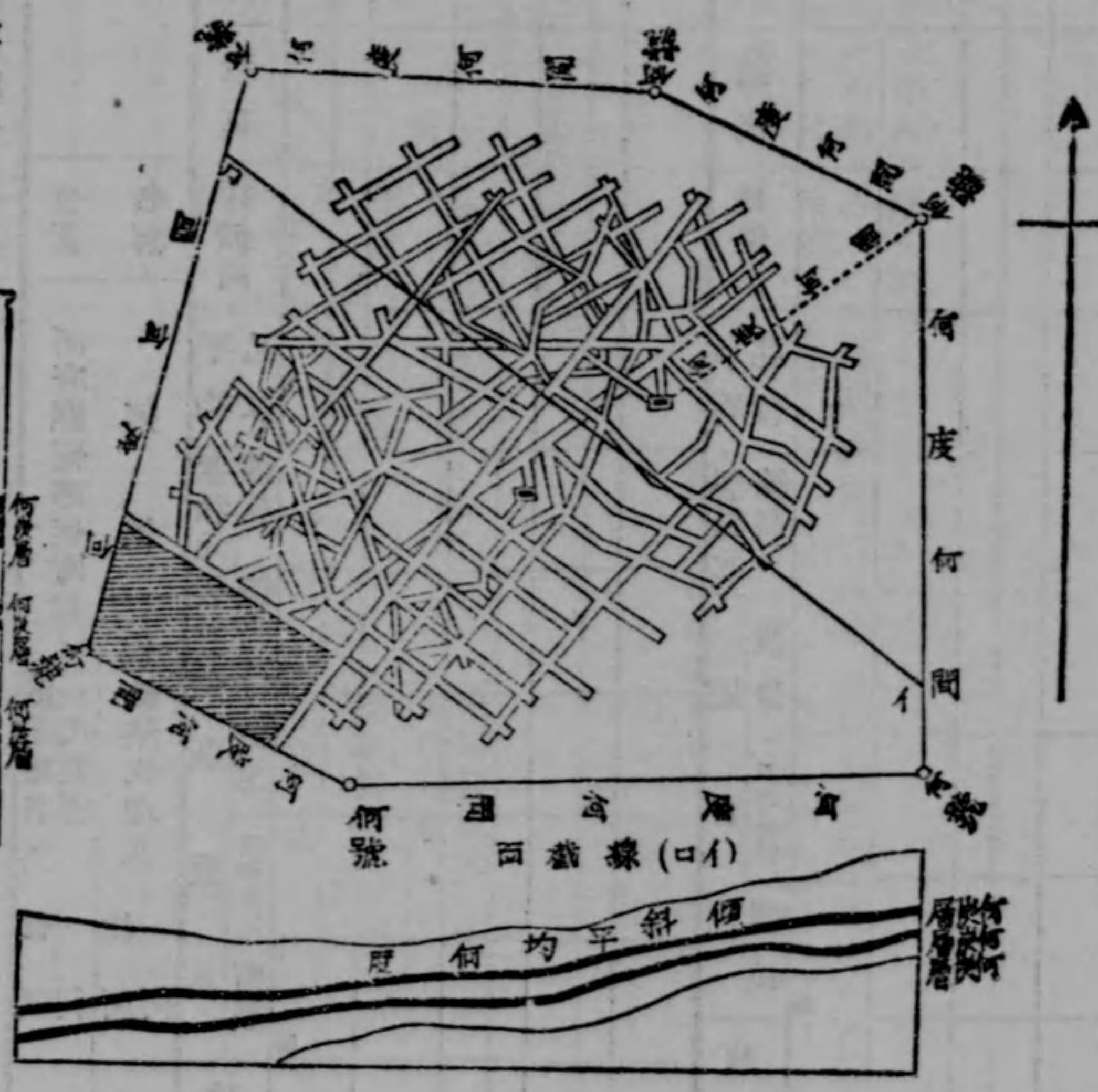
符號

∠　鑛區境界線

▣　坑外竪坑口

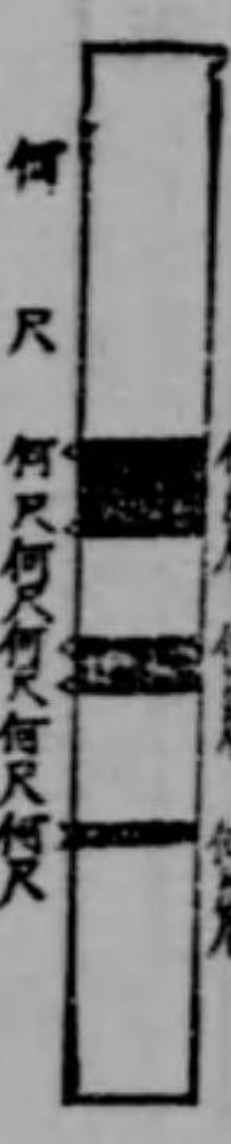
■　坑井

⇐　採炭跡


何號
何度
何間
何號
何度
何間
何號
何度
何間
何號
何度
何間
何號
イ
ロ
(イロ)線截面
傾斜平均何度
何層
何層
何層

炭層柱狀圖

尺度二百分ノ一


何尺
何尺
何尺
何尺
何尺
何尺
何炭層
何炭層
何炭層

住所
採掘權者　氏名印
住所
測量者　氏名印

注意

一　平面圖ニハ坑道チ著色シテ各炭層チ區別スヘシ

二　採炭セシ部分ハ坑道ト同色ノ平行線チ以テ顯スヘシ

三　炭層中ニハサミ物アラハ柱狀圖ニ之チ顯スヘシ

四　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

五　木造堰ハ黃色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分チナスヘシ

六　捲揚機械、喞筒、煽風器及軌道其ノ他特種ノモノチ設置セル場合ニハ適宜ノ符號チ用ヒテ之チ明示スヘシ

様式第十七號

何縣(何郡)採掘權登錄第何號(又ハ特許第何號)

何（府縣）何國何郡何村何石油鑛

坑內實測圖　縮尺何分ノ一

符號

∠　鑛區境界線

○　機械掘油井

●　同廢井

□　手掘油井

■　同廢井

△　カヅサ掘油井

▲　同廢井

XXX　火山岩

☰　頁岩

▨　頁岩ニ薄キ砂ヲ交フルモノ

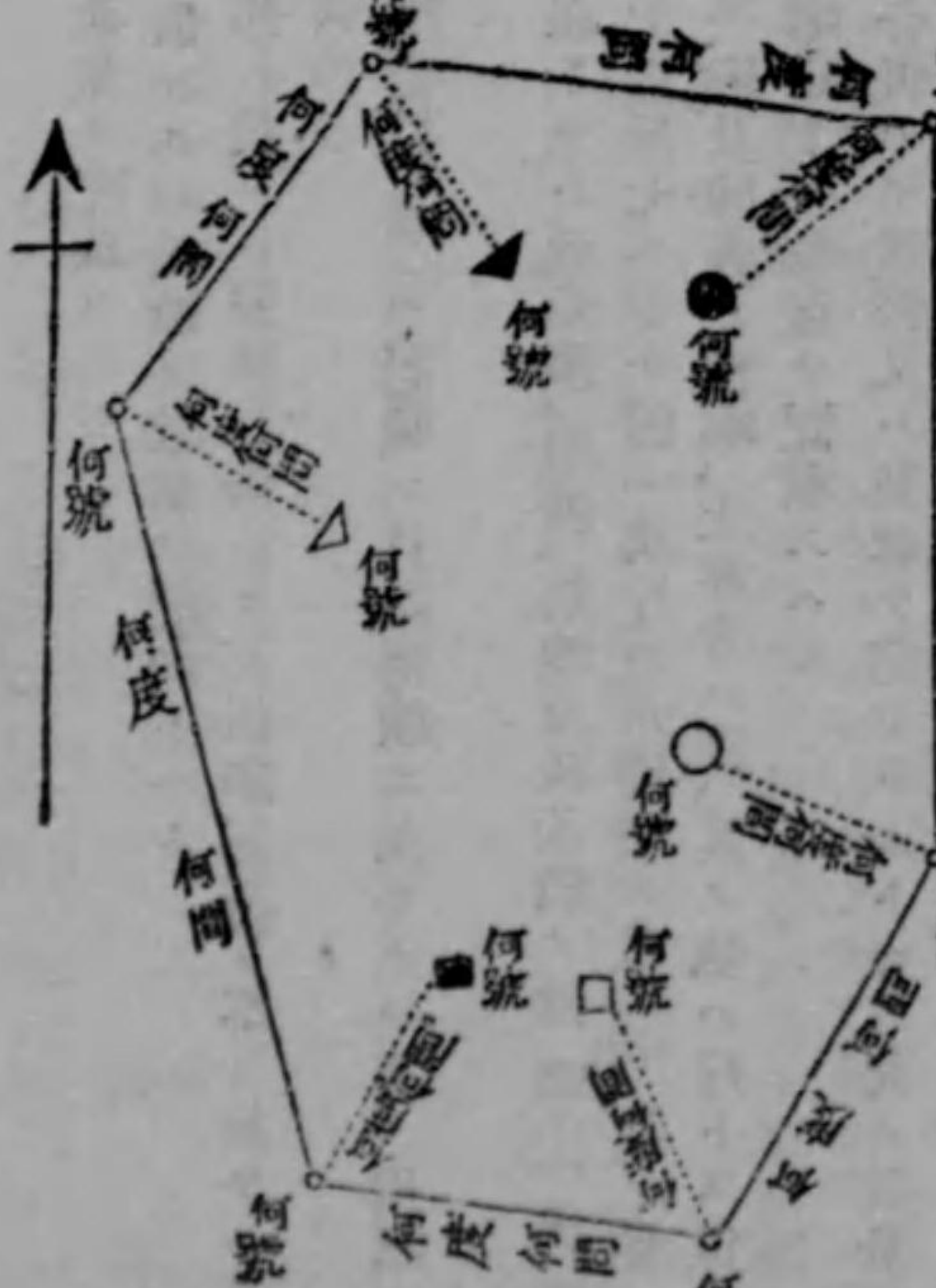
▤　砂及頁岩ノ交層

▥　砂ニ薄キ頁岩ヲ交フルモノ

▦　砂

平面圖

縮尺一万二千分ノ一


何號
何號
何號
何號
何號
何號
何號
何號
何號
何號
何號
何度
何間
何度
何間
何度
何間

住所
採掘權者　氏名印
住所
測量者　氏名印

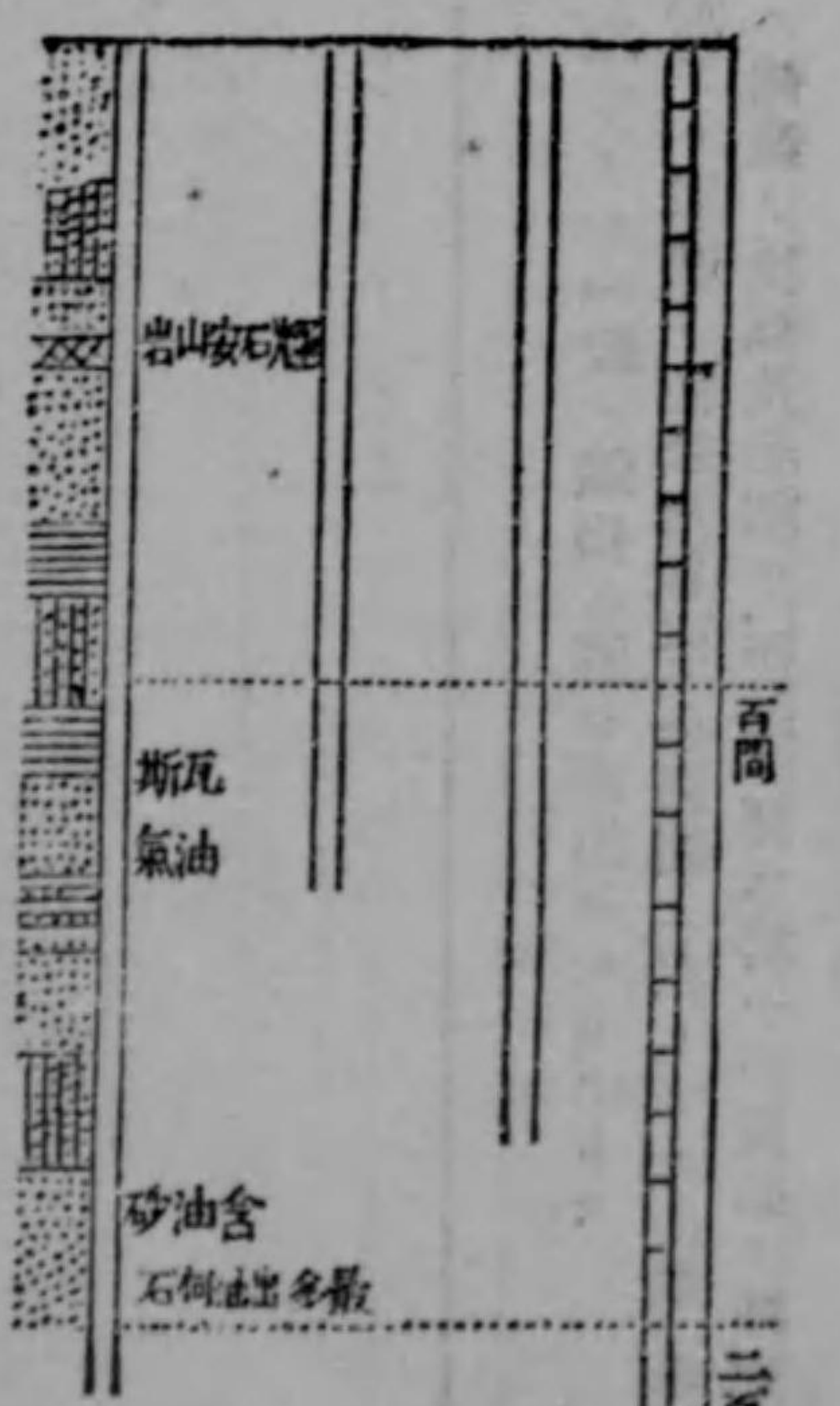
油井柱狀圖

縮尺六十分ノ一

何號井口徑何吋

何號井口徑何吋

何號井口徑何吋


石英粗面岩
瓦斯
油氣
含油砂
最下部何石油層
百間
二百間

注意

一　油井ノ位置ハ最近標杭若クハ基點ヲ結測シ其ノ方位間數ヲ記スヘシ

二　油井地質ハ之ヲ柱狀圖ニ記スヘシ

三　油井柱狀圖中出油ノ箇所ハ必ラス明示スヘシ

四　出油量ハ最多量ノ時ノ一日分及ヒ現在ノ一日分ヲ記載スヘシ

五　本圖ノ縮尺ニテ現シ難キモノハ適宜ノ縮尺ヲ用ヒテ調製スヘシ

様式第十八號甲ノ一（三通）

大正　年鑛業明細表

鑛種	位置	名稱	鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人
	何府縣何郡何町村	何鑛山	住所 何 某印	住所 何 某印

採鑛

種別	越高	採鑛高	平均品位	選鑛元鑛高	製錬元鑛高	販賣高 數量	販賣高 平均品位	販賣高 價額 圓	殘高

選鑛

種別	越高	精鑛高	平均品位	製錬元鑛高	販賣高 數量	販賣高 平均品位	販賣高 價額 圓	殘高

製錬

種別	越高	製出高	平均品位	販賣高 數量	販賣高 價額 圓	殘高

縣登錄第　號

記事

備考

一　本表ハ石炭、亞炭及石油ヲ除キタル一般ノ鑛物ニ關シ適用スルモノトス

二　種別ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ粗鑛ノ種類及名稱（金屬鑛ニ在リテハ金鑛、銀鑛等ノ如シ）ヲ、選鑛ノ部ニ於テハ精鑛ノ種類及名稱ヲ、製錬ノ部ニ於テハ製品ノ種類及名稱ヲ記載スヘシ

三　採鑛高ノ欄ニハ採掘粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

四　選鑛元鑛高ノ欄ニハ選鑛ニ供シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

五　製錬元鑛高ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ製錬ニ供シタル粗鑛、選鑛ノ部ニ於テハ製錬ニ供シタル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

六　平均品位ノ欄ニハ平均含有率（百分率）ヲ記載シ且滿俺鑛ニ在リテハ其ノ用途ニ依リ金屬及二酸化ノ別ヲ記載スヘシ

七　數量ノ單位ハ粗鑛及精鑛ニ在リテハ亞鉛鑛、鐵鑛、燐鑛及硫黃鑛ノ佛噸（一佛噸ハ二百六十六貫七又ハ千六百六十六斤七ニシテ卽一萬斤ハ六佛噸ニ當ル）、其ノ他ハ貫トシ製品ニ在リテハ金及銀ハ匁、鐵及硫黃ハ佛噸、土瀝靑ハ貫、其ノ他ハ斤トス但シ佛噸ヲ單位トスルモノニ付テハ噸以下一位迄ヲ記載スヘシ

八　自己所屬ノ他鑛山ニ輸送シ合併シテ選鑛又ハ製錬ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ヲ選鑛元鑛高又ハ製錬元鑛高ノ欄ニ記載シ合併シテ選鑛又ハ製錬ヲ爲シタル鑛山ニ在リテハ該當欄ニ夫々區別シテ記載シ且輸送先及產出鑛山ヲ明ニスヘシ

九　鑛物ヲ買入レ自己掘採ニ係ル鑛物ト合併シテ製錬ヲ爲シタルトキハ該當欄ニ夫々區別シテ記載シ尙其ノ產出鑛山名又ハ登錄番號、所在府縣郡名、數量及平均品位ヲ記事欄ニ各別ニ記載スヘシ

十　金屬鑛ヲ他ノ鑛山又ハ製錬所ニ販賣シタルトキハ其ノ賣先、數量及平均品位ヲ記事欄ニ各別ニ記載スヘシ

十一　販賣セサル鑛物ニ付テハ記事欄ニ其ノ見積價額ヲ記載スヘシ

十二　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

様式第十八號甲ノ二（三通）

大正　年鑛業明細表

鑛種	位置	名稱	鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人
	何府縣何郡何町村	何	住所 何 某印	住所 何 某印

種別	越高	產出高	販賣高 數量	販賣高 價額 圓	自家用	殘高
計						

縣

登錄第　號

記事

備考

一　本表ハ石炭及亞炭ニ關シ適用スルモノトス

二　種別ノ欄ニハ石炭ニ在リテハ塊炭、粉炭、切込炭、粗炭及煽石ニ區別シテ記載スヘシ

三　數量ノ單位ハ石炭ハ佛噸（一佛噸ハ二百六十六貫七又ハ千六百六十六斤七ニシテ卽一萬斤ハ六佛噸ニ當ル）、亞炭ハ斤トス

四　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

様式第十八號甲ノ三（三通）

大正　年鑛業明細表

鑛種	位置	名稱	鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人
石油	何府縣何郡何町村	何	住所 何 某印	住所 何 某印

採油

種別	越高	採油高	比重	精製元高	販賣高 數量	販賣高 價額 圓	自家用	殘高

精油

種別	越高	製出高	販賣高 數量	販賣高 價額 圓	自家用	殘高

縣登錄第

號

製	記事

備考

一　本表ハ石油（可燃質天然瓦斯ヲ含ム）ニ關シ適用スルモノトス

二　比重ノ欄ニハ「ボーメ」比重計ニ依ル比重ヲ記載スヘシ

三　數量ノ單位ハ油ハ石、「ヒッチ」ハ貫、可燃質瓦斯ハ千立方尺トス

四　精製ノ部種別ノ欄ニハ揮發油、燈油、輕油、重油、機械油、「ヒッチ」等製品ノ普通名稱ニ依リ區別シテ記載スヘシ

五　自己所屬ノ他鑛山ニ輸送シ合併シテ精製ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ヲ精製元高ノ欄ニ記載シ合併シテ精製シタル鑛山ニ在リテハ該當欄ニ夫々區別シテ記載シ且輸送先及產出鑛山ヲ明ニスヘシ

六　原油ヲ買入レ自己掘採ニ係ル原油ト合併シテ精製シタルトキハ該當欄ニ夫々區別シテ記載シ尙其ノ產出鑛山名又ハ登錄番號、所在府縣郡名、數量及比重ヲ記事欄ニ各別ニ記載スヘシ

七　原油ヲ販賣シタルトキハ其ノ賣先、數量及比重ヲ記事欄ニ各別ニ記載スヘシ

八　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

様式第十八號乙ノ一（二通）

大正　年鑛業明細表

鑛種	位置	名稱	鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人
	何府縣何郡何町村	何鑛山	住所 何 某印	住所 何 某印

區別		種別	鑛夫 坑 採鑛夫	支柱夫	手子	運搬夫
員數	十四歲未滿	男				
		女				
	十五歲未滿	男				
		女				
	二十歲未滿	男				
		女				
	二十歲以上	男				
		女				
	合計	男				
		女				
延工數		男				
		女				
		計				

縣登錄

第　號

ノ員數及工數														合計	行業日數		記事
內					坑外												
機械夫	工作夫		雜夫其ノ他	計	採鑛夫	選鑛夫	製錬夫	運搬夫	機械夫	工作夫		雜夫其ノ他	計				
															採鑛		
															選鑛		
															製錬		

備考

一　本表ハ石炭、亞炭及石油ヲ除キタル一般ノ鑛物ニ關シ適用スルモノトス

二　鑛夫ノ員數ハ六月三十日現在ニ依リ記載スヘシ但シ休業中ノ鑛山又ハ七月一日以後事業ヲ開始シタル鑛山ニ於テハ休業ノ際又ハ十二月三十一日現在ニ依リ記載シ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ

三　坑ノ內外ニ跨ル作業ニ從事スル者又ハ二以上ノ作業ニ從事スル者ニ付テハ其ノ主ナル一方ニ記載スヘシ

四　本表ノ種別ニ該當セサル特殊ノ作業ニ從事スル者アルトキハ其ノ名稱ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

樣式第十八號乙ノ二（二通）

大正　年鑛業明細表

縣登錄第　號

鑛種	
位置	何府縣何郡何町村
名稱	何
鑛業權者又ハ代表者	住所　何　某印
鑛業代理人	住所　何　某印

區別		鑛夫ノ員數及工數																	合計	行業
種別		坑內									坑外									
		採炭夫	支柱夫	後山	運搬夫	機械夫	工作夫		雜夫其ノ他	計	採炭夫	選炭夫	運搬夫	機械夫	工作夫		雜夫其ノ他	計		
員數　十四歲未滿	男																			採炭
	女																			
十五歲未滿	男																			
	女																			
二十歲未滿	男																			選炭
	女																			
二十歲以上	男																			
	女																			
合計	男																			
	女																			
延工數	男																			
	女																			
	計																			炭

日數	記事

備考

一　本表ハ石炭及亞炭ニ關シ適用スルモノトス

二　鑛夫ノ員數ハ六月三十日現在ニ依リ記載スヘシ但シ休業中ノ鑛山又ハ七月一日以後事業ヲ開始シタル鑛山ニ於テハ休業ノ際又ハ十二月三十一日現在ニ依リ記載シ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ

三　坑ノ內外ニ跨ル作業ニ從事スル者又ハ二以上ノ作業ニ從事スル者ニ付テハ其ノ主ナル一方ニ記載スヘシ

四　本表ノ種別ニ該當セサル特種ノ作業ニ從事スル者アルトキハ其ノ名稱ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

樣式第十八號乙ノ三（二通）

大正　年鑛業明細表

縣登錄第　號

鑛種	石油
位置	何府縣何郡何町村
名稱	何
鑛業權者又ハ代表者	住所　何　某印
鑛業代理人	住所　何　某印

種別		鑛夫ノ員數及工數								合計
		鑿井夫	汲油夫	製油夫	運搬夫	機械夫	工作夫		雜夫其ノ他	
員數　十四歲未滿	男									
	女									
十五歲未滿	男									
	女									
二十歲未滿	男									
	女									
二十歲以上	男									
	女									
合計	男									
	女									
延工數	男									
	女									
	計									

行業日數		記事
採油		
精製		

備考

一　本表ハ石油（可燃質天然瓦斯ヲ含ム）ニ關シ適用スルモノトス

二　鑛夫ノ員數ハ六月三十日現在ニ依リ記載スヘシ但シ休業中ノ鑛山又ハ七月一日以後事業ヲ開始シタル鑛山ニ於テハ休業ノ際又ハ十二月三十一日現在ニ依リ記載シ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ

三　二以上ノ作業ニ從事スル者ニ付テハ其ノ主ナル一方ニ記載スヘシ

四　本表ノ種別ニ該當セサル特殊ノ作業ニ從事スル者アルトキハ其ノ名稱ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

樣式第十八號丙（二通）

大正　年鑛業明細表

縣登錄第　號

鑛種	
位置	何府縣何郡何町村
名稱	何
鑛業權者又ハ代表者	住所　何　某印
鑛業代理人	住所　何　某印

種別	原動機									
	蒸汽機關		瓦斯發動機	石油發動機	水車			發電機	電動機	
	往復動汽機	蒸汽タービン			西洋形		日本形水車		自家發電	他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノ
					タービン式水車	ペルトン式水車				
方式										
箇數										
實馬力										
設置場所使用目的摘要										

其ノ他	
石炭消費高	

備考

一　電氣機械ニ付テハ實馬力ノ欄ニ「キロワット」又ハ「キロヴォルト、アンペア」數ヲ記載スヘシ

二　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

樣式第十九號甲

鑛業施業案

鑛業權者(又ハ鑛業代理人)何　某印

登錄(又ハ特許)番號…………

鑛區ノ所在地…………

鑛山ノ名稱…………

鑛種名…………

一　採鑛ニ關スル事項

（イ）主要ナル鑛床ノ位置、走向、傾斜及厚サ

（ロ）採掘方法

（ハ）一箇年間ニ於ケル粗鑛採掘豫定高

二　選鑛及製錬ニ關スル事項

（イ）選鑛及製錬ノ方法

（ロ）一箇年間ニ於ケル鑛産物産出豫定高

三　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項

（イ）捨石及鑛滓堆積場ノ位置

（ロ）捨石、鑛滓、坑水、廢水等ノ處置ニ關シ特別ノ設備ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ設備ニ關スル事項

（ハ）地表又ハ坑内ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

樣式第十九號乙

鑛業施業案

鑛業權者(又ハ鑛業代理人)何　某印

登錄(又ハ特許)番號…………

鑛區ノ所在地…………

鑛山ノ名稱…………

鑛種名　石炭(又ハ亞炭)

一　採炭ニ關スル事項

（イ）主要ナル炭層ノ位置、名稱、走向、傾斜及厚サ

（ロ）採炭ノ方法

（ハ）一箇年間ニ於ケル豫定出炭高

二　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項

（イ）坑内ノ通氣ニ關スル方法又ハ設備

（ロ）地表又ハ坑内ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

樣式第十九號丙

鑛業施業案

鑛業權者(又ハ鑛業代理人)何　某印

登錄(又ハ特許)番號…………

鑛區ノ所在地…………

鑛山ノ名稱…………

鑛種名　石油

一　採油ニ關スル事項

（イ）鑿井方法

（ロ）原油ノ處分方法

二　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項

（イ）汲油又ハ製油ノ爲發生スル汚水又ハ廢物ノ處理方法

（ロ）前號ノ外危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設ニ關スル事項

備考

一　甲ハ金銀銅其ノ他一般ノ鑛物ニ關シ、乙ハ石炭又ハ亞炭ニ關シ、丙ハ石油ニ關シ適用スルモノトス

二　農商務大臣又ハ【鑛山監督署長】ノ發シタル豫防命令ニ基キ施行スヘキ事項ハ施業案ニ記載スルコトヲ要セス

●【鑛山監督署】分析、檢定及鑑定規則

（明治四十年六月十五日農商務省令第十六號）

【鑛山監督署】分析、檢定及鑑定規則左ノ通相定ム

第一條　【鑛山監督署】ニ鑛物及鑛産物ノ分析、檢定又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲ス者ハ第一號乃至第三號樣式ノ依賴書ニ現品ヲ添ヘテ之ヲ差出スヘシ

第二條　鑛物又ハ鑛産物ノ分析ノ爲差出スヘキ現品ノ分量ハ四十匁以上一貫目以下トス但シ石炭類ニ付テハ一斤以上十斤以下、鑛油類ニ付テハ五合以上トス

石炭類及鑛油類ノ檢定ノ爲差出スヘキ現品ノ分量ハ其ノ分析ノ爲差出スヘキモノト同一トス

前二項ノ分量ハ特ニ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ之ヲ增減スルコトヲ得

第三條　【鑛山監督署長】ハ必要アリト認ムルトキハ依賴者ニ對シテ更ニ相當分量ノ差出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　分析又ハ檢定ノ爲差出シタル現品ハ之ヲ還付セス

鑑定ノ依賴ノ爲差出シタル現品ハ差出ノ際豫メ申出アリタルモノニ限リ之ヲ還付スヘシ

前項ノ還付ニ要スル費用ハ依賴者ノ負擔トス

附　則

第五條　本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

分析依賴書

收入印紙

一　品名　何々

二　産地　何々

三　分析スヘキ成分

定性(又ハ定量)

一何々

一何々

一何々

右分析及御依賴候也

年　月　日　現住所

依賴者　氏　名印

何【鑛山監督署長】氏名殿

備考

一　品名ノ項ニハ分析依賴品ノ名稱ヲ記スヘシ

二　産地ノ項ニハ鑛物ニ付テハ市町村字又ハ鑛山名ヲ記シ鑛産物ニ付テハ市町村字、鑛山名、製錬場又ハ製造場名ヲ記スヘシ

三　一依賴書ニ依リテ數品ノ分析ノ依賴ヲ爲ス場合ニ於テハ品名ヲ列記シ且ツ品名每ニ産地及分析スヘキ成分ヲ順次列記スヘシ

各現品又ハ其ノ包裝ニハ符號又ハ番號例之い、ろ又ハ第一號、第二號等ヲ標記シ且ツ品名ニ該符號又ハ番號ヲ附記スヘシ

第二號樣式

檢定依賴書

收入印紙

一　品名　何々

二　産地　何々

三　檢定ノ目的

一何々

一何々

一何々

右檢定及御依賴候也

年　月　日　現住所

依賴者　氏　名印

何【鑛山監督署長】氏名殿

備考

一　品名ノ項ニハ檢定依賴品ノ名稱ヲ記スヘシ

二　産地ノ項ニハ鑛物ニ付テハ市町村字又ハ鑛山名ヲ記シ鑛産物ニ付テハ市町村字、鑛山名、製錬場又ハ製造場名ヲ記スヘシ

三　一依賴書ニ依リテ數品ノ檢定ノ依賴ヲ爲ス場合ニ於テハ品名ヲ列記シ且ツ品名每ニ産地及檢定スヘキ成分ヲ順次列記スヘシ

各現品又ハ其ノ包裝ニハ符號又ハ番號例之い、ろ又ハ第一號、第二號等ヲ標記シ且ツ品名ニ該符號又ハ番號ヲ附記スヘシ

第三號樣式

鑑定依賴書

收入印紙

一　依賴品　何種

二　産地　何々

右鑑定及御依賴候也

年　月　日　現住所

依賴者　氏　名印

何【鑛山監督署長】氏名殿

備考

一　産地ノ項ニハ鑛物ニ付テハ市町村字又ハ鑛山名ヲ記シ鑛産物ニ付テハ市町村字、鑛山名、製錬場又ハ製造場名ヲ記スヘシ

二　一依賴書ニ依リ數品ノ鑑定ノ依賴ヲ爲ス場合ニ於テハ各現品又ハ其ノ包裝ニ符號又ハ番號例之い、ろ又ハ第一號、第二號等ヲ標記シ且ツ依賴品ノ項ニ其ノ符號又ハ番號ヲ列記スヘシ

●【鑛務署】ニ於テ行フ分析、檢定及鑑定ニ關スル手數料ノ件

（大正十一年四月十九日勅令第二百十八號）

朕明治四十年勅令第二百二十九號鑛務署ニ於テ行フ分析、檢定及鑑定ニ關スル手數料ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務大臣副署）

第一條　【鑛務署】ニ鑛物又ハ鑛産物ノ分析、檢定又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　定性分析　每一件一成分二圓一成分ヲ增ス每ニ一圓ヲ加フ

二　定量分析　每一件一成分三圓一成分ヲ增ス每ニ二圓ヲ加フ

三　石炭類ノ比重若ハ發熱量又ハ鑛油ノ比重、粘度、凝點、沸點、引火點若ハ燃燒點ノ檢定　每一件二圓

四　鑑定　每一件二圓

第二條　【鑛務署】ニ分析、檢定又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲ス者分析、檢定又ハ鑑定ノ報告書ノ複本ヲ請求スルトキハ一通每ニ二十錢、英文ニ依ル複本ヲ請求スルトキハ一通每ニ五十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●造幣局鑛物分析試驗規則

（大正十三年七月二日大藏省令第十八號）

造幣局鑛物分析試驗規則左ノ通定ム

第一條　造幣局ニ鑛物類ノ分析又ハ試驗ヲ請ハムトスル者ハ其ノ試料及別紙樣式ニ依ル依賴書ヲ造幣局長ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依ル試料ノ分量ハ左ノ區別ニ依ル

一　金、銀其ノ他ノ貴金屬地金　二十グラム以上

二　其ノ他ノ地金　五十グラム以上

三　鑛石類　百グラム以上

四　石炭類　三百グラム以上

五　セメント

甲　比重、凝結時間、粉末程度、膨脹、龜裂ノ試驗ノ場合　二キログラム以上

乙　耐伸强又ハ耐壓强ノ試驗ノ場合　十五キログラム以上

分析又ハ試驗ノ爲特ニ多量ノ試料ヲ要スルトキハ造幣局長ハ前項ノ規定ニ拘ラス相當分量ノ試料ヲ差出サシムルコトヲ得

第三條　分析又ハ試驗ノ結果ニ付テハ其ノ報告書ヲ依賴者ニ交付ス

定量分析ノ報告ハ金銀地金ニ付テハ千分率其ノ他ノモノニ付テハ百分率ニ依ル

第四條　分析又ハ試驗ノ爲差出シタル試料ハ之ヲ還付セス但シ金銀其ノ他貴金屬地金ニシテ豫メ申出アリタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ分析又ハ試驗ノ爲生スル減量及還付ニ要スル費用ハ依賴者ノ負擔トス

第五條　鑛物類ノ分析又ハ試驗ヲ請ハムトスル者ハ左ノ區別ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ

一　定性分析　每一件一成分ニ付　一圓

二　定量分析

金、銀又ハ銅　每一件一成分ニ付　二圓

其ノ他　每一件一成分ニ付　三圓

三　試驗

甲　石炭類

發熱量　每一件　三圓

比重又ハ粘結力　每一件　二圓

乙　セメント

耐伸强又ハ耐壓强　每一件　三圓

比重、凝結時間、粉末ノ程度又ハ膨脹龜裂ノ試驗　每一件　二圓

前項第三號ニ揭クルモノ以外ノ試驗ノ手數料ハ造幣局長前項ノ規定ニ準シテ之ヲ定ム

第六條　特別ノ裝置又ハ手數ヲ要スル分析又ハ試驗ノ手數料ハ其ノ都度造幣局長之ヲ定ム

第七條　通常ノ依賴ニ先チ急速ニ分析又ハ試驗ノ報告ヲ請ハムトスル者ハ前各條ノ規定ニ依ル額ノ二倍ノ手數料ヲ日時ヲ限リ報告ヲ請ハムトスル者ハ三倍ノ手數料ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ依賴書ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ

第八條　分析又ハ試驗ヲ請フ者其ノ分析又ハ試驗ノ報告書ノ複本ノ交付ヲ請ハムトスルトキハ一枚ニ付十錢ノ手數料ヲ英文ニ依ル複本ノ交付ヲ請ハムトスルトキハ一枚ニ付二十錢ノ手數料ヲ納付スヘシ

第九條　本令ニ依ル手數料ハ之ヲ前納スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙)

第一號

分析依賴書

産地

一試料　種

檢定(出)スヘキ成分

右分析被成下度及御依賴候也

大正　年　月　日

住　所

依賴者

造幣局長　殿

備考　定性及定量分析ニ付テハ本樣式ニ依ルヘシ

第二號

分析、試驗依賴書

産地

一試料　種

分析試驗ノ項目

右分析、試驗被成下度及御依賴候也

大正　年　月　日

住　所

依賴者

造幣局長　殿

備考　石炭類ノ分析及試驗ニ付テハ本樣式ニ依ルヘシ

第三號

セメント試驗依賴書

製造所

一試料　種

一試驗ノ項目

右試驗被成下度及御依賴候也

大正　年　月　日

住　所

依賴者

造幣局長　殿

●鑛業登錄令

（明治三十八年六月二十日勅令第百八十三號）
（改正　明治四二年第一六三號　大正一一年第五一四號）

朕鑛業登錄令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（農商務、司法大臣副署）

鑛業登錄令

第一章　總則

第一條　鑛業ニ關スル登錄ハ鑛務署ニ於テ之ヲ爲ス

第二條　同一ノ鑛業權ニ關シテ登錄シタル權利ノ順位ニ付法令ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第三條　附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依ル但シ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第四條　假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第二章　鑛業原簿

第五條　鑛業原簿ハ試掘原簿、採掘原簿ノ二種トス

共同鑛業權者ニ付テハ共同人名簿、鑛區圖ニ付テハ鑛區圖綴込帳、信託ニ付テハ鑛業信託原簿ヲ設ケ鑛業原簿ノ一部トス

第六條　何人ト雖手數料ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ其ノ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵便切手ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第七條　鑛業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ調製ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

前項ニ依リテ調製シタル原簿ハ滅失前ノ鑛業原簿ト看做ス

第八條　前條鑛業原簿ノ調製ヲ終リタルトキハ其ノ登錄ノ謄本又ハ抄本ヲ登錄名義人ニ交付スルコトヲ要ス

第三章　登錄手續

第一節　通則

第九條　登錄ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請、囑託又ハ命令アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託又ハ命令ニ因ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ因ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　登錄ハ登錄權利者及登錄義務者又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ申請スルコトヲ要ス

第十一條　判決又ハ相續ニ因ル登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十三條　左ノ登錄ニ付テハ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

一　處分ノ制限ノ登錄

二　公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄

第十四條　鑛業權ヲ取消シタルトキ又ハ取消處分ノ取消ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ登錄ヲ命スルコトヲ要ス

第十五條　登錄ヲ申請スルニハ左ノ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登錄原因ヲ證スル書面

三　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四　代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

採掘權ノ設定、變更ニ關スル試掘權ノ抹消登錄ノ申請又ハ共同鑛業ノ場合ヲ除クノ外廢業登錄ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

國、法人ノ代表者又ハ共同鑛業ノ代表者ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ第一項第四號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　鑛區所在地

二　鑛業權ノ登錄番號

三　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

四　代理人又ハ代表者ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

五　登錄原因及其ノ日附

六　登錄ノ目的

七　年月日

第三十條第二項ノ規定ニ依ル抵當權設定ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ記載ヲ要セス

前條第二項ノ申請ニ付テハ第一項第五號ノ記載ヲ要セス

第十六條ノ二　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スルニハ第十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ提出シ且申請書ニ第十六條第一項ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第十七條　左ノ場合ニ於テハ申請人ハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戶籍ノ謄本又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一　申請人カ相續人ナルトキ

二　登錄名義人カ其ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ヲ申請スルトキ

三　死亡ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ヲ申請スルトキ

第十八條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメ其ノ書面ニ代フルコトヲ得

第十九條　同一鑛務署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　登錄ハ受附ノ順序ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ受理セス

一　事件カ管轄ニ屬セサルトキ

二　事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ

三　當事者カ出頭セス又ハ申請書ヲ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

五　申請書ニ掲ケタル鑛業權又ハ抵當權ノ表示カ鑛業原簿ト抵觸スルトキ

六　第十七條第一號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄義務者及共同鑛業代表者ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ又ハ申請人タル者カ登錄名義人タル場合ニ於テ其ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ

七　申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

八　申請ニ必要ナル書面ヲ提出セサルトキ

九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第二十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄又ハ共同鑛業權者脫退及其ノ代表者改定ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十三條　行政區畫又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ鑛業原簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

前項ノ變更アリタルトキハ鑛務署長ハ鑛業權ノ表示ニ付テハ其ノ變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スルコトヲ要ス第十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ鑛業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ更正ノ登錄ヲ爲シタル後前項ノ通知ヲナスコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ前項以外ノ登錄ニ係ルトキハ登錄更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ更正ノ登錄ヲ爲ス

第二十五條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十六條　申請書其ノ他登錄ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス

金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二節　鑛業權ニ關スル登錄手續

第二十七條　鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタル場合ニ於テ登錄稅ノ納付アリタルトキハ鑛務署長ハ鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス鑛業權ノ表示ノ變更又ハ鑛種名更正ニ依ル表示ノ更正ノ場合亦同シ

第二十八條　死亡、破產又ハ禁治產ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ハ登錄權利者又ハ登錄義務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條　削除

第三十條　鑛業法第三十五條第二項ノ場合ニ於テ採掘權設定ノ登錄ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ抵當權者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ抵當權者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抵當權設定ノ登錄ヲ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ抵當權ノ順位ハ協定ノ順位ニ依ル

前項ノ申請ニ付テハ最後ニ通知ヲ受ケタル者ニ對スル前項ノ期間滿了ノ日ノ翌日ニ於テ採掘權設定ノ登錄ト共ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

期間滿了前ト雖總抵當權者ノ申請アリタルトキハ直ニ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　抵當權ニ關スル登錄手續

第三十一條　鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル抵當權設定ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第三十二條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十三條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十五條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條　抵當權變更ノ登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ變更ノ登錄ヲ爲ス

第三十七條　抵當權ノ移轉、順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更及其ノ處分ノ制限ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第三十八條　期限ノ滿了ニ因リ鑛業權カ消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條　廢業ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十條　鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權設定ノ登錄ヲ爲シタルニ因リ其ノ合併又ハ分割前ノ採掘權消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シテ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條　抵當權ノ登錄アル採掘權ニ關シ廢業ニ因ル抹消ノ申請アリタルトキハ抹消ノ登錄ヲ爲スト同時ニ競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

抵當權者競賣ノ請求ヲ爲ササルトキ又ハ競賣申立ノ登錄アリタル場合ニ於テ其ノ登錄抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登錄シタル後存續ニ關スル記載ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四十二條　前條ノ規定ハ鑛業法第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外抵當權ノ登錄アル採掘權取消ニ因ル抹消ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　抵當權カ人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戶籍ノ謄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十四條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登錄ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書、債權ノ受取證書竝民法第三百七十四條ノ規定ニ依リ抵當權ヲ行フコトヲ得ル定期金及損害賠償ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ抵當權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十五條　廢業ニ因ル場合ヲ除クノ外登錄

ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

廢業ニ依ル登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ假登錄又ハ豫告登錄ヲ爲シタル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十六條　第十三條ノ規定ニ依リ公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ若シ抵當權ノ登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五節　信託ニ關スル登錄手續

第四十七條　鑛業權ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

第四十八條　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル鑛業權ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財產ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ尙登錄ノ目的タル鑛業權カ信託財產タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十條　信託ノ登錄ノ申請ハ信託ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ前條ノ規定ニ依リテ受益者又ハ委託者カ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル鑛業權ノ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條　受託者更迭ノ場合ニ於テ鑛業權移轉ノ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第五十二條　受託者ノ任務カ死亡、破產、禁治產、準禁治產又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第五十三條　信託ノ登錄ノ申請書ニハ第十六條ニ掲クル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　信託ノ目的
三　信託財產ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其ノ他信託ノ條項

前項ニ掲クル事項ハ職權ヲ以テ鑛業信託原簿ニ之ヲ登錄スルコトヲ要ス

第五十四條　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク鑛業信託原簿ノ登錄ヲ鑛務署長ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第五十五條　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　裁判所カ信託財產ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク鑛業信託原簿ノ登錄ヲ鑛務署長ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　第五十一條又ハ第五十二條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛務署長ハ職權ヲ以テ鑛業信託原簿ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條　第五十一條、第五十二條及第五十四條乃至第五十六條ノ場合ヲ除クノ外第五十三條第一項ニ掲ケタル事項ノ變更ニ關スル鑛業信託原簿ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

第五十九條　第五十五條ニ規定スル登錄ヲ爲シタルトキハ鑛務署長ハ職權ヲ以テ鑛業原簿ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第六十條　信託財產ニ屬スル鑛業權カ移轉ニ因リテ信託財產ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財產ニ屬スル鑛業權カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　第五條第二項及第四十七條乃至前條ノ規定ハ採掘權ヲ目的トスル抵當權ノ信託ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第四章　假登錄及豫告登錄

第六十二條　假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ノ登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
二　前號ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セムトスルトキ

第六十三條　假登錄ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ卽時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第六十四條　假登錄ハ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第六十五條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上ノ利害關係人ヨリ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第六十六條　豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　登錄原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ無效又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル
二　鑛業法第八十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ニ關スル出願ノ許可ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第六十七條　豫告登錄ハ前條ニ掲ケタル訴訟又ハ訴願ヲ受理シタル官廳ヨリ囑託書又ハ命令書ニ訴狀若ハ訴願書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託又ハ命令スルコトヲ要ス

第六十八條　第五十一條第一號ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第六十九條　第五十一條第二號ニ掲ケタル訴願又ハ行政訴訟ヲ却下シ、請求ヲ否認シ若ハ其ノ取下アリタルトキハ農商務大臣ハ豫告登錄ノ抹消ヲ命シ行政裁判所ハ之ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五章　異議

第七十條　登錄ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以內ニ農商務大臣ニ異議ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　異議ハ鑛務署長ニ異議狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第七十二條　異議ハ新ナル事實及證據方法ヲ以テ其ノ憑據ト爲スコトヲ得ス

第七十三條　鑛務署長異議ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ事件ヲ農商務大臣ニ送付スルコトヲ要ス

鑛務署長異議ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登錄完了ノ後ナルトキハ假登錄ヲ爲シ之ヲ登錄上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

異議ノ取下アリタルトキハ鑛務署長ハ前項ノ假登錄ヲ抹消シ之ヲ登錄上ノ利害關係人ニ通知スルコトヲ要ス

第七十四條　異議ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

第七十五條　農商務大臣ハ登錄上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

農商務大臣異議ヲ理由アリトスルトキハ鑛務署長ニ相當ノ處分ヲ命シ異議ヲ理由ナシトスルトキハ假登錄ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ抹消ヲ命スルコトヲ要ス

附　則

第七十六條　本令施行前ニ鑛山監督署ニ備付タル鑛業ニ關スル原簿及書入登錄簿ヲ以テ舊鑛業原簿トス

第七十七條　本令施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ採掘權設定ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　本令施行前ニ認可若ハ特許ノ鑛業權又ハ登錄ノ抵當權ニ付鑛業權ノ抹消ヲ除クノ外登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ鑛業原簿ニ舊鑛業原簿中抹消ニ係ラサル登錄ヲ移シ舊鑛業原簿中鑛業原簿ニ移シタル登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第七十九條　舊鑛業原簿ニ記載シアル鑛業權ニ付其ノ抹消登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス期限滿了ニ因ル抹消ノ登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第八十條　鑛業條例ニ依リ差出シタル廢業屆ニ付テハ舊鑛業原簿ニ郵便差出ノ日時ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第八十一條　鑛業條例ニ依リ差出シタル鑛業特許證書換願、採掘權書入登錄願又ハ登錄シタル抵當權ノ變更、移轉若ハ取消願ニ付テハ舊鑛業原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第八十二條　本令施行前ニ相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業人ハ本令中相續又ハ變更ノ申請ニ關スル規定ニ準シテ調製シタル屆書ヲ差出スコトヲ要ス

前項ノ屆出アリタルトキハ舊鑛業原簿ニ相續又ハ變更ノ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條　本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●鑛業登錄令施行細則

（明治三十八年六月二十一日
農商務省令第十八號
改正　明治三九年第一六號、四二年第二五號
大正一一年第二六號
昭和二年商工省令第五號）

鑛業登錄令施行細則左ノ通定ム

鑛業登錄令施行細則

第一章　登錄ニ關スル帳簿

第一條　鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　鑛業原簿ハ府縣ノ區畫ニ依リ北海道ニ付テハ國ノ區畫ニ依リ別冊ト爲スヘシ但シ登錄事件夥多ナル府縣又ハ國ニ付テハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ二箇以上ノ別冊ト爲スコトヲ得

第三條　鑛業原簿ハ一鑛區ニ付一用紙ヲ備フ

鑛區カ鑛業原簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨ルトキハ其ノ一箇ノ區畫ノ鑛業原簿ニノミ其ノ鑛區ニ關スル用紙ヲ備フ

第四條　共同人名簿ハ第三號及第四號ノ樣式ニ、鑛業信託原簿ハ第八號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　共同人名簿ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ分設シタル區畫每ニ見出ヲ附スヘシ

第六條　鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ登錄番號並登錄年月日ヲ記載シ登錄番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第七條乃至第十條　削除

第十一條　登錄受附帳ハ第七號樣式ニ依リ每年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第十二條　鑛務署ニハ登錄事務ニ關シ鑛業原簿、共同人名簿、鑛業信託原簿、鑛區圖綴込帳及登錄受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　申請書囑託書附屬書類綴込帳
二　通知書綴込帳
三　通知簿
四　鑛業原簿謄本綴込帳
五　鑛業權抵當權登錄濟通知簿
六　異議書類決定原本綴込帳
七　謄本抄本交付閱覽申請事件簿
八　謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳

第十三條　前條第三號及第五號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第十四條　鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　鑛區所在地及登錄番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
三　申請ノ範圍
四　年月日

第十五條　前條ノ申請アリタルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ請求ノ範圍、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十六條　鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ鑛務署長之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

　此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　鑛業原簿ノ謄本、抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ交付ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ鑛業原簿ノ謄本ヲ他ノ鑛務署ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　鑛業原簿ヲ分設シタル區畫カ他ノ鑛務署ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ全部ノ場合ニ在リテハ其ノ區畫ニ關スル鑛業原簿及其ノ附屬書類ヲ、一部ノ場合ニ在リテハ其ノ部分ニ於ケル鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ移送スヘシ

第二章　申請手續

第十九條　登錄申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登錄權

利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ

第十九條ノ二　抵當權設定ノ新規登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　數箇ノ鑛務署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ同一ノ登錄原因ニ因ル抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニハ最初ニ登錄ヲ申請スル鑛務署ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ擔當職員ハ登錄ヲ申請スヘキ鑛務署ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ鑛務署ニ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

前三項ノ規定ハ同一ノ登錄原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條ノ二　登錄稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ擔當職員ハ後ニ登記又ハ登錄ヲ申請スヘキ登記所又ハ登錄官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登錄稅法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ其ノ登記所又ハ登錄官廳ノ交付シタル受領證ヲ添附スヘシ

第三章　登錄手續

第二十一條　申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受附帳ニ登錄ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ、申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登錄申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限リ其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス

前項受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第一項ニ依リ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

前三項ノ規定ハ登錄稅納付書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　登錄番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ採掘原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更消滅及鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ鑛區ノ重複シタル場合ニ於ケル鑛業權ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ、採掘原簿ニ在リテハ甲區事項欄ニ採掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

鑛業原簿ニ信託ニ因ル鑛業權ノ移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ登錄ノ末尾ニ鑛業信託原簿ノ信託番號ヲ記載スヘシ抵當權ノ信託ニ付亦同シ

鑛業權ノ消滅ヲ鑛業原簿ニ登錄シタルトキハ鑛業信託原簿ニ抹消原因ヲ記載シ信託番號及信託權利ヲ朱抹スヘシ

第二十三條　表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登錄ノ目的其ノ他鑛業權ノ表示ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱、住所、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他登錄スヘキ權利ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

鑛業登錄令第十六條ノ二及第四十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ前項ニ依ルノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

鑛業信託原簿ニ登錄ヲ爲スニハ各信託鑛業權毎ニ信託番號欄ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載シ信託權利欄ニ信託權利及受附年月日番號ヲ記載シ委託者、受託者、受益者、信託管理人ノ住所氏名ヲ各相當欄ニ記載シ且要目欄ニハ信託條項、變更、更正其ノ他登錄事項ノ要目ヲ、事項欄ニハ信託條項ノ事項其ノ他記載スヘキ事項、受附年月日番號ヲ記載シ擔當職員捺印ヲ爲シ要目欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第三項ノ規定ハ鑛業登錄令第五十八條第二項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第二十五條　表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第二十六條　附記登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ番號ヲ用キ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號ヲ記載スヘシ

第二十七條　假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第二十八條　假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第二十九條　假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第三十條　豫告登錄ハ鑛業登錄令第五十一條第一號ニ關スルモノニ付テハ登錄用紙中相當區事項欄ニ、同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十一條　變更又ハ更正ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ登錄ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第三十二條　登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、順位番號登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ鑛務署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付シ且登錄義務者ニハ登錄番號、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ鑛務署ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ交付スヘシ信託ニ關スル登錄ヲ完了シタルトキハ受益者ニモ亦之ヲ交付スヘシ

法令ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ爲ス登錄又ハ申請ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ要セサルモノノ登錄ノ場合ニ於テハ前項ニ準シ作成シタル登錄濟通知書ニ鑛務署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ但シ鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ鑛區圖ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付スルヲ以テ足ル

第三十二條ノ二　鑛業登錄令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ揭ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且前條第一項ニ準シ作成シタル登錄濟通知書ニ鑛務署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

前項ノ規定ハ鑛業登錄令第四十九條、第五十八條第二項ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　鑛業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタルトキ登錄ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルトキハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シ若シ登錄事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登錄スヘシ

第三十五條　第十八條ニ依リ鑛業原簿謄本ノ

移送ヲ受ケタルトキハ鑛務署長ハ其ノ謄本ニ依リ相當鑛業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

鑛業原簿ヲ移ストキハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄區畫及前登錄番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ鑛業原簿ノ謄本ニ依リ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

他ノ鑛業原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ前登錄用紙中表示欄及事項欄ニ他ノ鑛務署ノ鑛業原簿ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第三十六條　同一鑛務署ノ管轄ニ屬スル鑛區カ他ノ登錄區畫ニ轉屬シタルトキハ其ノ鑛業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　登錄用紙中部又ハ區カ登錄ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登錄番號欄ニ前用紙ノ登錄番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登錄番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

鑛業信託原簿ノ登錄用紙中要目欄及事項欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ第八號樣式ノ二ノ用紙ヲ編綴シ丁數ヲ附シ前用紙ト契印ヲ爲スヘシ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケタルトキ亦同シ

第三十八條　鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄用紙中表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第三十九條　鑛業權ノ設定又ハ移轉ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ登錄權利者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所竝其ノ代表者ナルコトヲ登錄用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ

共同鑛業代表者改定ノ屆出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登錄ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ朱抹スヘシ

第四十條　前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ屆出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ、備考欄ニ登錄番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第四十一條　共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脫退ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第四十二條　前三條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前用紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛業原簿ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第四十四條　共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名欄ニ於ケル末尾ノ縱線ヲ番號欄、代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第四十四條ノ二　鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シテ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載シ他ノ鑛業權ニ付テハ其ノ登錄用紙中表示欄ニ鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權消滅シタルトキハ之ト重複ノ關係ヲ有スル他ノ鑛業權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ鑛業權ノ消滅シタル旨ヲ記載シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權消滅ノ登錄ヲ爲ストキハ前項ノ手續ヲ爲スノ外合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル新ナル鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係アルコトヲ記載スヘシ

第四十五條　數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權ニ付抵當權設定ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ他ノ採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十五條ノ二　追加抵當權設定ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第四十五條ノ三　抵當權ノ目的タル採掘權カ追加抵當權ノ目的タル採掘權ト同一鑛務署ノ管轄ニ屬セサルトキハ追加抵當權ノ登錄ヲ爲シタル鑛務署ハ他ノ鑛務署ニ追加抵當權ノ設定ノ事由及登錄年月日竝採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條　數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第四十六條ノ二　前條ノ場合ニ於テ採掘權ノ消滅カ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外鑛業登錄令第三十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ三　第四十五條ノ三ノ規定ハ登錄令第三十條ニ依リ新ニ設定セラレタル抵當權ニ關シ之ヲ準用ス

第四十七條　數箇ノ鑛務署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛務署長ハ關係鑛務署長ニ消滅ノ事由及登錄ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第四十六條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十八條　登錄ヲ抹消スルニハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル後抹消スヘキ登錄ヲ朱抹スヘシ

第四十九條　鑛業法第四十二條及第四十三條ノ規定ニ基キテ爲シタル競賣ニ因ル採掘權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第三十三條ノ規定ニ準シ登錄ヲ爲シタル後移轉ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十條　第十八條又ハ鑛業登錄令第二十三條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ表紙ニ記載シタル鑛務署又ハ行政區畫ノ名稱ノ變更アリタルトキハ其ノ表紙ニ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ且其ノ名稱ヲ變更スヘシ

附　則

第五十一條　本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條　鑛業登錄令第六十三條ノ規定ニ依リ舊鑛業原簿ヨリ登錄ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ舊鑛業原簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊鑛業原簿ニ

鑛業原簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、其ノ登録番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第一號様式

何府縣（國、郡）

試掘原簿　第何冊

何鑛務署

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日　何鑛務署長　何　某　印

登録番號		
表題部		
表示番號		
表示欄		
表示番號		
表示欄		
表示番號		
表示欄		

試掘原簿　丁

事項區	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

第二號様式

何府縣（國、郡）

採掘原簿　第何冊

何鑛務署

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日　何鑛務署長　何　某　印

登録番號		
表題部		
表示番號		
表示欄		
表示番號		
表示欄		
表示番號		
表示欄		

採掘原簿　丁

甲區	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

區

採掘原簿　丁

乙區	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

第三號様式

何府縣（國、郡）
何府縣（國、郡）
何府縣（國、郡）

試掘共同人名簿　第何冊

何鑛務署

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日　何鑛務署長　何　某　印

第四號様式

何府縣（國、郡）
何府縣（國、郡）
何府縣（國、郡）

採掘共同人名簿　第何冊

何鑛務署

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日　何鑛務署長　何　某　印

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

試掘共同人名簿　丁

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

採掘共同人名簿　丁

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

第五號及第六號様式　削除

第七號様式

何年分登録受附帳

何鑛務署

受附ノ年月日	受附番號	登録ノ目的	申請人ノ氏名	備考

登録受附帳　丁

受附ノ年月日	受附番號	登録ノ目的	申請人ノ氏名	備考

第八號様式ノ一

信託番號	第　　號

信託權利	
委託者ノ住所氏名	受託者ノ住所氏名
受益者ノ住所氏名	信託ノ管理人住所氏名

鑛業信託原簿　壹丁ノ壹

要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	

第八號様式ノ二

要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	

鑛業信託原簿　壹丁ノ貳

要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	

●滅失鑛業原簿調製規則

（大正十二年十月二十三日農商務省令臨第三號）

鑛業登録令第七條ノ規定ニ依リ滅失鑛業原簿調製規則左ノ通定ム

滅失鑛業原簿調製規則

第一條　鑛業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ農商務大臣ハ三月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其ノ期間內ニ鑛業原簿調製ノ申請ヲ爲ス者ハ仍其ノ鑛業原簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示ス

第二條　鑛務署長ハ前條ノ期間內ニ其ノ手續ヲ爲サレサル鑛業權ニ關スル登録事項ニ付第九條ノ告示ヲ爲ス以前ニ於テハ職權ヲ以テ鑛業原簿ノ調製ヲ爲スコトヲ得

第三條　鑛業原簿調製ノ申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　鑛業登録令ニ依リ申請書ニ記載ヲ要スル事項
二　登録年月日
三　順位番號
四　受付年月日

第四條　前條ノ申請書ニハ鑛業權ノ設定、變更又ハ表示變更ノ際交付セラレタル書面及鑛區圖又ハ登録濟證ヲ添附スヘシ

滅失、紛失其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ前項ノ書類ヲ添附スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本其ノ他證憑トナルヘキ書面又ハ圖面ヲ添附スヘシ

第五條　豫告登録又ハ法令ノ規定ニ依ル命令若ハ通知ニ基キ鑛業原簿ニ記載ヲ爲スモノニ付テハ命令官廳又ハ通知官廳ニ於テ更ニ命令又ハ通知ヲ爲スヘシ

第六條　鑛業原簿調製ノ記載ヲ爲スニハ表題部ニ在リテハ登録番號欄ニ前登録番號ノ順序ニ依リテ其ノ番號ヲ記載シ表示欄ニ現在ノ鑛業權ノ表示事項ヲ記載シ縱線ヲ劃シ鑛業權ノ制限ニ關スル事項其ノ他前鑛業原簿ノ登録中抹消ニ係ラサルモノヲ記載シ末尾ニ鑛業原簿滅失ノ原因、調製シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印シ表示番號欄及

表示欄ニ縱線ヲ劃シ表示番號欄ニ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

事項區ニ在リテハ事項欄ニ前鑛業原簿ノ順位番號ニ依リテ現在ノ權利者ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ順位ヲ記載シ各記載ノ末尾ニ鑛業原簿滅失ノ原因、調製シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第七條　共同人名簿、鑛區圖綴込帳及鑛業信託原簿ノミノ調製ニ係ルトキハ調製終了ト同時ニ鑛業原簿中各相當ノ記載ヲ訂正シ餘白ニ滅失原因、調製シタル旨及年月日ヲ附記ニ依リ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第八條　鑛業原簿ノ調製完了シタルトキハ鑛務署長ハ鑛業原簿ノ前書中ニ滅失ノ原因及年月日竝調製完了ノ年月日ヲ記入スヘシ

第九條　鑛業原簿ノ調製完了シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス

第十條　鑛業原簿ノ調製完了セサル間ニ於テ滅失シタル鑛業原簿ニ登錄アリタル鑛業權又ハ之ヲ目的トスル抵當權ニ關シ新ニ登錄ヲ爲スヘキトキハ假設鑛業原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ登錄濟證ニ假設鑛業登錄簿ニ登錄ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第十一條　假設鑛業原簿ニ爲シタル登錄ハ鑛業原簿ノ調製完了後遲滯ナク之ヲ鑛業原簿ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ調製ニ依ル登錄ノ記載アルトキハ新登錄ノ順位番號欄ニハ記載ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニ假設鑛業原簿ニ於ケル順位番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ假設鑛業原簿第何冊何丁ヨリ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

鑛業原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ假設鑛業原簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十二條　假設鑛業原簿ノ登錄ヲ鑛業原簿ニ移シタルトキハ登錄權利者ニ對シ之ヲ本登錄濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ鑛業原簿調製ノ登錄記載ト假設鑛業原簿ヨリ移シタル登錄ト抵觸スルトキハ當事者ニ對シ同時ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

登錄權利者カ前項ノ登錄濟證交付ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ假設鑛業原簿ニ於ケル登錄ノ登錄濟證ヲ提出スヘシ

前項ノ申請アリタルトキハ鑛業登錄令施行細則第三十二條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　鑛業原簿登錄用紙中ノ一部カ磨滅、汚損其ノ他ノ事由ニ因リテ滅失シ又ハ滅失ノ虞アルトキハ鑛務署長ハ之ヲ補完シ又ハ他ノ用紙ニ登錄ヲ移記スヘシ

前項ノ移記登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ鑛業登錄令施行細則第五十二條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　囑託ニ依リテ爲シタル登錄ニ關スル鑛業原簿ノ調製手續ニ付テハ申請ニ依ル鑛業原簿ノ調製ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業登錄令第七十六條ノ舊鑛業原簿ニ登錄セラレタル鑛業權及之ヲ目的トスル抵當權ハ鑛業原簿滅失ノ日ニ於テ舊鑛業原簿ヨリ前鑛業原簿ニ移記セラレタルモノト看做シ調製シタル鑛業原簿ニ登錄ヲ記載スヘシ

●海軍省所管鑛區登錄官吏指定

（大正十二年十月二十三日農商務省告示第二百四十一號參看）

大正十一年四月一日
海軍省令第十號

改正　大正一二年第四號

當省所管ニ係ル炭鑛鑛區登錄ニ就テハ新原炭鑛ハ海軍燃料廠長ヲ、平壤炭鑛ハ海軍燃料廠平壤鑛業部長ヲ指定ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年十二月海軍省令第六號ハ之ヲ廢止ス

●鑛業ニ關スル登錄申請ニ就キ官吏指定

大正六年十二月二十九日
農商務省訓令第二十三號

製鐵所

其ノ所鑛業ニ關スル登錄申請ニ就キ本官ノ代理トシテ製鐵所長官ヲ指定ス

●鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件

明治三十八年六月二十日
勅令第百八十四號

改正　明治四二年第一六五號

朕鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（農商務大臣副署）

第一條　鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一	試掘願	毎一件	金五十圓
二	試掘出願地ノ變更願		
	增區又ハ增減區	毎一件	金三十圓
	減區	毎一件	金五圓
三	試掘鑛區ノ變更願		
	增區又ハ增減區	毎一件	金三十圓
	減區	毎一件	金五圓
	改正	毎一件	金五圓
四	試掘出願人ノ變更屆		
	相續	毎一件	金五圓
	相續以外ノ原因ニ因ル變更	毎一件	金二十五圓
五	採掘願	毎一件	金七十五圓
六	採掘出願地ノ變更願		
	增區又ハ增減區	毎一件	金五十圓
	減區	毎一件	金五圓
七	採掘鑛區變更願		
	增區又ハ增減區	毎一件	金五十圓
	減區	毎一件	金五圓
	鑛區訂正	毎一件	金三十圓
	改正	毎一件	金五圓
八	採掘鑛區ノ合併又ハ分割願	毎一件	金三十圓
九	採掘鑛區ノ分合願	毎一件	金五十圓
十	採掘出願人ノ變更屆		
	相續	毎一件	金五圓
	相續以外ノ原因ニ因ル變更	毎一件	金五十圓
十一	共同鑛業出願人ノ脫退屆	毎一件	金五圓
十二	鑛種名更正願	毎一件	金十圓
十三	鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査願	毎一件	金五十圓
十四	鑛業法第五十二條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査願	毎一件	金十圓
十五	鑛業法第五十三條ノ規定ニ依ル障碍物除却願	毎一件	金十五圓
十六	鑛業法第五十六條ノ規定ニ依ル鑛業用地使用願	毎一件	金二十五圓
十七	裁決申請	毎一件	金二十五圓

第二條　鑛業登錄令第六條ノ規定ニ依リテ鑛業原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一	鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請	用紙毎一枚	金五十錢
二	鑛區圖謄本交付ノ申請	鑛區毎十萬坪	金二圓五十錢
三	鑛業原簿又ハ附屬書類ノ閲覽申請	毎鑛區毎一時間	金二十五錢

紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖一枚、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第三條　砂鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一	砂鑛採取願	毎一件	金十圓
二	砂鑛出願地ノ增區又ハ增減區願	毎一件	金十圓
三	砂鑛出願地ノ減區願	毎一件	金一圓
四	砂鑛區ノ增區又ハ增減區願	毎一件	金十圓
五	砂鑛區ノ減區願	毎一件	金一圓
六	砂鑛區ノ合併又ハ分割願	毎一件	金二圓
七	砂鑛出願人ノ變更屆		
	相續	毎一件	金五圓
	相續以外ノ原因ニ因ル變更	毎一件	金十圓
八	砂鑛區實地調査願	毎一件	金三十圓
九	測量又ハ檢査許可願	毎一件	金十圓
十	障碍物除却許可願	毎一件	金十五圓
十一	砂鑛業用地使用許可願	毎一件	金二十五圓
十二	裁決申請	毎一件	金二十五圓

前項第一號ノ出願ニ付テハ河床ニ在リテハ二里毎ニ、其ノ他ニ在リテハ十萬坪毎ニ一件分ノ手數料ヲ納ムヘシ

第一項第二號及第四號ノ出願ニ付テハ其ノ增區部分ノミニ付前二項ニ依ル手數料ヲ納ムヘシ

第四條　砂鑛登錄令ニ依リテ砂鑛原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ砂鑛原簿若ハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一	砂鑛原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請	用紙毎一枚	金五十錢
二	砂鑛區圖謄本交付ノ申請	砂鑛區毎二里又ハ毎十萬坪	金二圓五十錢
三	砂鑛原簿又ハ附屬書類ノ閲覽申請	毎鑛區毎一時間	金二十五錢

第五條　砂鑛業ニ關シ紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、二里、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖一枚、二里、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第六條　手數料ハ收入印紙ヲ願書、申請書又ハ屆書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第百五十號ハ之ヲ廢止ス

●採掘ノ出願及鑛産物ノ價格ノ檢定ニ關シ【鑛山監督署長】ヘ委任ノ件

明治四十四年三月二十七日
農商務省令第十二號

採掘ノ出願及鑛産物ノ價格ノ檢定ニ關シ【鑛山監督署長】ヘ委任ノ件左ノ通定ム

第一條　採掘ノ出願ニ關シ左ニ揭クル事項ハ之ヲ【鑛山監督署長】ニ委任ス

一　出願地カ鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分ノ出願ノ不許可ニ關スル件

二　出願地カ他ノ出願地ト重複スル場合ニ於テ鑛業法第三十三條及第三十三條ノ二ニ依リ優先權ヲ有セサル部分ノ出願ノ不許可ニ關スル件

三　採掘鑛區ノ減區、分割、合併及分合願竝競願ナキ場合ニ於ケル合併ニ伴フ間隔地ノ增區願許可ニ關スル件

四　出願地カ他人ノ鑛區ト十間以上ノ距離ヲ置カサル場合ニ於テ其ノ間隔ニ必要ナル部分ノ出願ノ不許可ニ關スル件

五　出願地カ鑛區ト重複シ其ノ重複部分又ハ十間ノ間隔地除去ノ爲殘餘ノ區域カ鑛業法第九條ノ面積ニ滿タサル場合ノ出願ノ不許可ニ關スル件

第二條　鑛産物ノ價格ノ檢定ニ付テハ特ニ指示シタルモノヲ除クノ外之ヲ【鑛山監督署長】ニ委任ス

第三條　【鑛山監督署長】ハ第一條ニ依リ處理シタルモノヲ毎一箇月取纏メ翌月十日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第四條　【鑛山監督署長】ハ第二條ニ依リ鑛産物ノ價格ヲ檢定シタルトキハ檢定後三十日以內ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●鑛夫勞役扶助規則

大正五年八月三日
農商務省令第二十一號

改正　大正五年第二九號、一五年內務省令第一七號
昭和二年第三〇號

鑛夫勞役扶助規則左ノ通定ム

鑛夫勞役扶助規則

第一條　鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル雇傭勞役規則ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ鑛業著手前鑛山監督局長ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

一　業務ノ種類

二　雇入ノ手續

三　解雇ノ事由及手續

四　解雇ノ場合ニ於ケル歸鄕旅費支給ニ關スル事項

五　賃金ノ支拂方法及支拂期日

六　石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項

七　鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戾ノ事由及手續

八　鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目

九　業務別就業時間及就業時ノ轉換方法

十　休日

十一　尋常小學校ノ教科ヲ終了セサル學齡兒童ヲ雇傭スルトキハ就學ニ關シ必要ナル事項

十二　賞與及制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

雇傭勞役規則ヲ變更セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　採掘權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休日ニ關スル事項ニ付雇傭勞役規則ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三條　鑛業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　氏名

二　生年月日

三　本籍

四　履歷ノ要領

五　鑛夫十六歲未滿ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨

六　業務ノ種類

七　雇入ノ年月日

八　雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間

前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第四條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ揭クル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

一　解雇又ハ死亡ノ年月日

二　解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條　削除

第六條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ選炭作業ニ從事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二　鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑內ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑內ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間每ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ

第十條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ每月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條　鑛業權者ハ變災又ハ變災ノ虞アル爲急迫ノ必要アル場合ニ於テハ第六條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

鑛業權者ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第六條、第六條ノ二第一項及第七條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第十二條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ左ニ揭クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、檢査又ハ修理
二　機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危險ナル方法ニ依ル取附又ハ取外
三　汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
四　發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コットレル」集塵裝置ニ屬スル整流機ノ取扱
五　高壓電線ノ接續
六　機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱
七　運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離
八　鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿
九　爆發藥ノ裝塡又ハ點火
十　支柱ノ取附又ハ取外
十一　製鍊作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱
十二　有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除
十三　砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸汽又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務
十四　電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務
十五　礦石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ左ニ揭クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱
二　揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱
三　土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條　鑛業權者ハ左ニ揭クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ揭クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　精神病
二　癩、肺結核、喉頭結核
三　丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
四　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
五　膿漏性結膜炎、「トラホーム」（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　鑛業權者ハ四週日以內ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條　生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑內事業ニ從事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑內作業ニ從事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條　鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第十八條　鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第十九條　鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第二十條　鑛夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ鑛業權者ハ左ニ揭クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

一　終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ　賃金五百四十日分以上
二　終身勞役ニ從事スルコト能ハサルモノ　賃金三百六十日分以上
三　從來ノ勞役ニ從事スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ　賃金百八十日分以上
四　身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞役ニ從事スルコトヲ得ルモノ　賃金四十日分以上

第二十號ノ二　鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分（其ノ金額二十圓ニ滿チサルトキハ二十圓）以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十三條　遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條　前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戶主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
二　男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
三　直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
四　前二號ニ揭クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條　第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ揭クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ揭クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戶主
二　鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者
三　鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル指定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條　第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ每月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二　鑛夫健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條　第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第二十八條　鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

一　鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一箇年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
二　扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第二十九條　扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一　鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額
二　鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ卽死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前日（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日）以前三月間（雇入後三月ニ滿タサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ期間及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一　業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間
二　産前又ハ産後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間
三　試ノ雇傭期間
四　鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間每ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長ノ之

チ定ム

第三十條　鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、第二十條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條　鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條　鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキハ樣式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十四條　鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二　採掘權者ハ樣式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸郷旅費支給ノ狀況ヲ、樣式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十五條　鑛業權者ハ始業及終業ノ時刻竝休憩及休日ニ關スル事項ヲ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第三十六條　鑛業權者ハ雇傭勞役規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條　鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、勞役又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十七條ノ二　鑛山監督局長ハ鑛業權者ニ對シ本則施行上必要ナル報告ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　雇傭勞役規則ニ違背シタル採掘權者、第十四條、第十五條、第十六條第一項、第三十一條第一項第二項若ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者、正當ノ事由ナクシテ第三十四條ノ診斷若ハ檢案ヲ爲サシメサリシ者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條　鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條　第二條第二項、第三十三條若ハ第三十四條ノ二乃至第三十七條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條　鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　本則ハ第十七條乃至第三十一條、第三十八條乃至第四十一條及第四十七條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

附　則

第四十三條　本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條　第五條ノ規定ハ本則施行前ヨリ十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ鑛夫ノ氏名及生年月日ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第四十五條　第八條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年六箇月間、第十四條、第十五條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間之ヲ適用セス

第四十六條　鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則竝扶助規則ニシテ本則施行前ニ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得但シ本則ノ規定ニ違背スルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條　第四十四條第二項又ハ前條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則（大正十五年内務省令第十七號）

本令ハ大正十三年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ許可ヲ受ケタル雇傭勞役規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令ノ施行ノ日ヨリ二月内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令（第三條ノ改正規定ヲ除ク）中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

（別記）

（樣式第一號甲）

扶助月報　大正　年　月分

鑛種

位置名稱

鑛業權者又ハ代表者　住所　何　某印

鑛業代理人　住所　何　某印

登錄第　號

男女別	氏名年齢	業務ノ種類	事故發生及終了年月日	事故ノ要領	扶助終了年月日	賃金	療養費	休業扶助料		障害扶助料、遺族扶助料又ハ打切扶助料		葬祭料	計	備考
								日數	金額	種別	金額			

記事

備考

一　本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ

二　本表ニハ扶助ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ記載スヘシ

（一）死者

（二）障害扶助料ヲ受ケタル者

（三）三十日以上休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受クル者ヲ除ク

（四）健康保險法ノ保險給付期間ヲ超エ療養ノ爲休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受クル者ヲ除ク

三　事故ノ要領ハ死亡ノ原因、第二十條ノ身體障害ノ程度、身體障害ナキトキハ負傷ノ程度、病名等ヲ記載スヘシ

四　賃金ハ第二十九條ノ規定ニ依ル扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金トス

五　療養費ハ第十八條ノ費用トス

六　障害扶助料ニ付テハ第二十條各號ノ種別ヲ記載スヘシ

七　健康保險法ノ保險給付期間ヲ超エ休業扶助料ヲ受ケタル者ニ付テハ備考欄ニ「保險給付超過」、健康保險ノ給付ヲ受ケ且休業扶助料ノ補給ヲ受クルモノニ付テハ「保險給付補給」ト記載スヘシ

八　法令ノ規定スル場合以外ニ扶助ヲ爲シタルトキハ記事欄ニ之ヲ記載スルヲ妨ケス

九　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（樣式第一號乙）

扶助半年報　自昭和　年　月　至昭和　年　月分

鑛種

位置名稱

鑛業權者又ハ代表者　住所　何　某印

鑛業代理人　住所　何　某印

登錄第　號

種別		健康保險ノ被保險者ニ非サル者ニ對スル扶助				健康保險ノ被保險者ニ對スル扶助				記事
		扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	
負傷	男									
	女									
	計									
疾病	男									
	女									
	計									
總計										

備考

一　本表ハ一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分ヲ七月三十一日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

二　本表ニハ扶助月報ニテ報告シタルモノヲ除ク

三　療養中ノ者ハ治癒後ニ報告スヘシ

四　療養費ハ第十八條ノ費用トス

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（樣式第二號）

鑛夫歸郷旅費年報　大正　年分

鑛種

位置名稱

鑛業權者又ハ代表者　住所　何　某印

鑛業代理人　住所　何　某印

登錄第　號

種別	件數	金額
業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ解雇セラレ歸郷スル場合		
未成年者又ハ女子鑛業權者ノ都合ニ依リ解雇セラレ歸郷スル場合		
其ノ他ノ場合		
記事		

備考

一　本表ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

二　「其ノ他ノ場合」ニ包含スル事由ノ概略ヲ記事欄ニ記載スヘシ

三　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（樣式第三號）

登錄第　號

鑛夫貯蓄金年報　大正　年分

鑛種	
位置名稱	
鑛業權者又ハ代表者	住所　何　某印
鑛業代理人	住所　何　某印

種別	員數	金額	記事
男			
女			
計			

備考

一　本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ十二月三十一日前ニ休業シタル鑛業ニ在リテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ

二　本表ニハ信認金、積立金其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スヘシ

三　既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハサルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スヘシ

四　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

●鑛業警察規則（大正五年八月三日農商務省令第二十二號）

鑛業警察規則左ノ通改正ス

鑛業警察規則

第一條　採掘權者技術管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

技術管理者ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第二條　鑛務署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ採掘權者ニ技術管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第三條　左ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ技術管理者タルコトヲ得ス

一　帝國大學ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　實業專門學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ一箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者

三　工業學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ三箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者

四　前各號ノ一ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者又ハ七箇年以上鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者

第四條　技術管理者ハ鑛業ノ技術ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス

第五條　採掘權者二人以上ノ技術管理者ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ區別シ之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第六條　技術管理者ハ鑛務署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ鑛山ノ技術管理者ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第七條　採掘權者ハ技術管理者旅行其ノ他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ第三條ノ資格ヲ有スル特定ノ代理者ヲシテ技術管理者ノ爲スヘキ一切ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第八條　鑛業權者本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

前項ノ係員ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第九條　鑛務署長ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ノ選任、解任又ハ其ノ增員ヲ命スルコトヲ得

第十條　本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ハ左ノ資格ヲ有スル二十歲以上ノ者ヨリ之ヲ選任スヘシ

一　帝國大學又ハ實業專門學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　工業學校、徒弟學校、實業補習學校又ハ實業學校ニ類スル各種學校ニ於テ一箇年以上擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ一箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者

三　中學校ヲ卒業シ二箇年以上擔任ノ作業ニ從事シタル者

四　尋常小學校ヲ卒業シ三箇年以上擔任ノ作業ニ從事シタル者

五　前各號ノ一ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者

第十一條　採掘權者ハ保安係員ヲ置キ坑內ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ

鑛務署長必要ト認ムルトキハ試掘權者ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十二條　保安係員ハ毎日一回以上鑛夫ノ就業場所及通行場所並危險ノ虞アル場所ヲ巡視シ危險ノ有無ヲ檢査スヘシ但シ瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛夫入坑時前ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　保安係員ハ保安日誌ヲ作リ巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及危害豫防ニ付爲シタル處置ヲ記入スヘシ

保安係員危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ作業ノ中止、通行ノ遮斷其ノ他適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ作業ヲ中止シ又ハ通行ヲ遮斷シタル場合ニ於テハ鑛業權者又ハ技術管理者ハ檢査ヲ爲シ危險ナシト認メタル後ニ非サレハ再ヒ作業ヲ開始セシメ又ハ遮斷ヲ解クコトヲ得ス但シ危害豫防ノ爲已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　鑛業權者ハ機械係員ヲ置キ汽罐、汽機、主要扇風機、捲揚裝置其ノ他特別ノ注意ヲ要スル機械及其ノ附屬裝置ヲ管守セシムヘシ

機械係員ハ毎日一回以上前項ノ機械及裝置ヲ監視シ異常アリト認メタルトキハ適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スヘシ

機械係員ハ機械日誌ヲ作リ監視ノ狀況、危害豫防ニ付爲シタル處置、機械ノ修理及休止其ノ他重要ナル事項ヲ記入スヘシ

第十五條　同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑內ニ於テハ其ノ奧部ニ於テ連絡シ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ各坑口間適當ナル距離ヲ有スル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ

鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑內ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十六條　坑道ノ掘進其ノ他掘鑿ヲ爲ス場合ニ於テ多量ノ水又ハ有害瓦斯ノ噴出ニ因リ危害發生ノ虞アルトキハ先進鑽孔ノ穿鑿其ノ他適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第十七條　竪坑ヲ開鑿スル場合ニ於テハ土石其ノ他物ノ墜落ニ因ル危害ヲ豫防スル爲適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第十八條　落磐ノ虞アル場所ニ於テハ危害豫防ノ爲適當ナル支柱其ノ他ノ設備ヲ爲スヘシ

第十九條　採炭中支柱ヲ要スル石炭坑ニ於テハ支柱方法ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

採鑛又ハ掘進中特ニ落磐ノ虞アル場所ニ於テハ支柱材其ノ他坑內支持ニ必要ナル材料ヲ作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スヘシ

第二十條　竪坑、坑井又ハ四十度以上ノ斜坑ノ坑口及其ノ坑道ト交叉スル箇所ニハ墜落豫防ノ爲蓋、柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十一條　坑內ニハ衞生及危害豫防ノ爲必要ナル分量ノ空氣ヲ給送スヘシ

第二十二條　石炭坑內ニ於テ新ニ瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第二十三條　同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ於テハ氣壓計及寒暖計ヲ坑口附近適當ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ毎日一回以上其ノ示度ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十四條　前條ノ石炭坑ニ於テハ氣流ノ通路及方向、通氣裝置並通氣觀測點ノ位置ヲ坑內實測圖又ハ坑內通氣圖ニ記入スヘシ

第二十五條　第二十三條ノ石炭坑ニ於テハ保安係員ハ毎月一回以上測風器及安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ通氣量ノ測定及瓦斯ノ檢査ヲ爲スヘシ通氣ニ異常アリト認メタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スヘシ

保安係員ハ前項ノ測定及檢査ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十六條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ前三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十七條　瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ保安係員ハ毎日一回以上安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ其ノ分量ヲ檢定シ其ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十八條　前條ノ石炭坑ニ於テハ扇風機ニ依リ坑內全部ニ亙ル通氣ヲ爲ス場合ニハ水壓計ヲ坑內適當ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ毎日一回以上其ノ觀測ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十九條　竪坑及坑井ニ架設スル梯子道ニシテ常時通行ニ供スルモノハ傾斜八十度以內ト爲シ少クトモ三十尺每ニ踏棚ヲ設ケ梯子ノ上端ハ二尺以上之ヲ突出セシメ又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル設備ヲ爲スヘシ但シ深百尺以內ノ竪坑又ハ坑井ニ架設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ梯子ト坑壁トノ間ニ相當ノ間隔ヲ置クヘシ

第三十條　捲揚裝置ニ依リ人ヲ昇降セシムル竪坑ニハ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル他ノ坑口ヲ有スル場合ノ外梯子道ヲ架設スヘシ

第三十一條　捲揚裝置ヲ設クル竪坑ニ於テ常時通行ニ供スル梯子道ヲ架設スルトキハ其ノ間ニ板仕切其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第三十二條　人ヲ昇降セシムル竪坑捲揚裝置ニハ制動機及深度指示器ヲ備ヘ並捲揚超過ヨリ生スル危害豫防ノ設備ヲ爲シ其ノ捲揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ捲揚臺ヲ支持スル捲綱及附屬金具ハ少クトモ最大荷重ノ十倍ニ耐ユルモノヲ用ウヘシ

繼合セタル捲綱ハ人ヲ昇降セシムル捲揚臺ノ支持ニ用ウルコトヲ得ス

第三十三條　自動車道又ハ捲揚車道ニ使用スル車輛ニハ當該係員又ハ係鑛夫ノ外乘車スルコトヲ得ス但シ前條ノ規定ニ準シ施設ヲ爲スノ外特ニ適當ナル危害豫防ノ方法ヲ設ケ鑛務署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　自動車道又ハ捲揚車道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ逸走豫防ノ爲適當ナル裝置ヲ爲スヘシ

第三十五條　自動車道又ハ捲揚車道ニ敷設スル坑道ヲ通行ニ供スル場合ニ於テハ軌道ノ傍側ニ步道又ハ白色ノ標示ヲ爲シタル回避所ヲ設クヘシ

前項ノ場合ニ於テ鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ步道又ハ專用通行坑道ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三十六條　主要通行坑道ノ分岐點其ノ他必要ナル箇所ニハ其ノ名稱ヲ揭示シ出口ノ方向ヲ指示スヘシ

第三十七條　捲揚用ノ竪坑及坑井並坑內ノ自動車道及捲揚車道ニハ信號裝置ヲ設クヘシ但シ人聲ヲ以テ合圖ヲ爲シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ坑ノ內外及坑內主要箇所間ニ電話其ノ他ノ通信裝置ヲ設ケシムルコトヲ得

第三十九條　石炭坑內ニ於テ瓦斯存在ノ虞アル場所ニ在リテハ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ運搬又ハ通氣ノ關係上同一區域ト認メ得ヘキ區域全部ニ亙リ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス但シ火番所又ハ特ニ鑛務署長ノ許可ヲ受ケタル區域ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十條　瓦斯ノ存在スル石炭坑內ニ於テハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ス但シ鑛業權者ノ特ニ設ケタル喫煙所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ石炭坑內ニ於テハ當該係員ノ指揮ニ依ル場合ノ外發火具、喫煙具及煙草ヲ携帶スルコトヲ得ス

第四十一條　石油坑口又ハ貯油場ノ周圍五間以內ニ於テハ發火具、裸火其ノ他危險ナル燈火ヲ使用シ又ハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ス製油場又ハ可燃質瓦斯ノ精製場ニ於ケル油類又ハ可燃質瓦斯ノ貯藏又ハ取扱ヲ爲ス場所ノ周圍五間以內亦同シ

第四十二條　安全燈ノ使用ヲ必要トスル石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　安全燈係員ヲ置キ安全燈ノ授受、檢査及掃除ヲ爲サシムヘシ

二　安全燈室ハ採光ニ注意シ成ルヘク不燃質ノ物ヲ以テ建築スヘシ

三　坑內ニ於テ使用中ノ安全燈毀損シ若ハ故障ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ交換シ又ハ一定ノ場所ニ於テ點火スル爲適當ナル方法ヲ設クヘシ

第四十三條　前條ノ石炭坑ニ於テハ安全燈係員ハ安全燈ノ解體及掃除ヲ爲シ金網、硝子、燈芯、油壺、油量、鎖鑰、各接合部其ノ他必要ナル部分ヲ檢査シ完全ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ鑛夫ニ交付スルコトヲ得ス

第四十四條　第四十二條ノ石炭坑ニ於テハ鑛夫ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　安全燈ヲ開キ又ハ之ヲ開クニ用ウヘキ器具ヲ携帶スルコトヲ得ス

二　安全燈ハ天井ニ接近シ又ハ顚倒若ハ破壞ノ虞アル箇所ニ之ヲ置クコトヲ得ス

三　安全燈ハ濫ニ之ヲ振動シ又ハ傾斜セシムルコトヲ得ス

四　安全燈ハ點火シタル儘之ヲ坑内ニ置去ルコトヲ得ス

五　安全燈ノ火焔ハ濫ニ之ヲ伸大スルコトヲ得ス

六　安全燈ノ火焔伸大シ消火ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ放棄シ又ハ吹消スコトヲ得ス

七　安全燈ノ毀損又ハ故障ヲ發見シタル場合ニ於テハ遲滯ナク消火シ當該係員ノ指揮ヲ受クヘシ

安全燈ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ掲クル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第四十五條　坑内ニ於テハ燈火用トシテ石油其ノ他揮發性燈油及魚油ヲ使用スルコトヲ得ス但シ特種ノ安全燈ニ使用シ又ハ他ノ油ニ混シテ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　爆發藥ノ裝塡用込物ハ鑛業權者之ヲ鑛夫ニ給與スヘシ

前項ノ込物ハ粘土其ノ他發火ヲ誘起スルノ虞ナキ物ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條　爆發藥ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　「ダイナマイト」其ノ他「ナイトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火若ハ汽罐ニ近ケ又ハ直接蒸汽ト接觸セシムル等危險ナル方法ヲ以テ融解スルコトヲ得ス

二　裝塡ハ鐵製込棒ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ「ナイトログリセリン」爆發藥又ハ綿火藥ノ裝塡ニ込棒ヲ使用スル場合ニ於テハ木製ノモノニ限ル

三　點火ハ豫メ附近ノ鑛夫ニ警告シ安全ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

四　點火後爆發セサルトキハ少クトモ十五分間ハ其ノ場所ニ近寄ルコトヲ得ス

五　不發ノ裝藥及其ノ込物ハ鑛夫之ヲ掘出スコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受クヘシ

爆發藥ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ掲クル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第四十八條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ石炭坑ニ對シ發破係員ノ選任ヲ命スルコトヲ得

前項ノ石炭坑ニ於テ發破ヲ行フ場合ニハ點火前發破係員ヲシテ點檢ヲ爲サシムヘシ

第四十九條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ一定種類ノ爆發藥、雷管、導火線及電氣點火器ノ坑内ニ於ケル使用ヲ禁止スルコトヲ得

第五十條　不用ニ歸シタル豎坑及四十度以上ノ斜坑ノ坑口ハ之ヲ閉塞シ又ハ堅牢ナル柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第五十一條　不用ニ歸シタル坑道又ハ坑内採掘跡ニハ通行遮斷ノ標示ヲ爲シ又ハ柵圍ヲ設クヘシ

第五十二條　原動機、動力傳導裝置其ノ他ノ機械又ハ裝置ノ危險ナル部分ニハ金網、柵圍其ノ他適當ナル豫防設備ヲ爲スヘシ

第五十三條　硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ劇性又ハ毒性料品ヲ多量ニ取扱フ場所ニハ傷害又ハ中毒豫防ノ爲適當ナル施設ヲ爲スヘシ

第五十四條　粉塵ヲ多量ニ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製錬場ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　作業場ハ之ヲ清潔ニシ通氣ヲ十分ナラシムヘシ

二　飲料水ヲ多量ニ備置キ粉塵ノ混入セサル設備ヲ爲スヘシ

三　喫飯所及洗面所ハ作業場ト離レタル場所ニ之ヲ設クヘシ

有害ナル瓦斯又ハ粉塵ヲ發散若ハ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製錬場ニ於テハ前項各號ノ外洗面所ニハ石鹼又ハ其ノ代用品其ノ他ノ必要品ヲ備ヘ鑛夫ヲシテ食事前顏及手ヲ洗ヒ含嗽セシムヘシ

第五十五條　汽罐、坑内通氣用主要扇風機、架空索道、豎坑若ハ斜坑ノ捲揚裝置又ハ機關車ヲ運轉スル軌道ヲ設置セムトスルトキハ工作物ノ種類ニ從ヒ左ニ掲クル事項ヲ具シ鑛務署長ニ屆出ツヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　汽罐

(一)使用目的
(二)種類
(三)主要部分ノ構造
(四)爐格面積及傳熱面積
(五)安全弁ノ種類、直徑、面積及箇數
(六)水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績
(七)最大常用壓力
(八)製作所名、製作年月及修繕其ノ他履歷ノ概要
(九)煙突ノ直徑、高及材料
(十)汽罐ノ正面圖、平面圖、縱斷面圖及各接合部ノ圖面
(十一)設置場所及建設物、道路、石油坑井等ノ關係ヲ示セル圖面
(十二)工事完成豫定期日

二　坑内通氣用主要扇風機

(一)設置場所
(二)種類及大
(三)廻轉數及風量
(四)最大負壓又ハ正壓
(五)原動機ノ種類及實馬力
(六)原動機トノ接續方法
(七)豫備扇風機及豫備原動機ノ有無
(八)排氣口ノ構造
(九)工事完成豫定期日

三　架空索道

(一)使用目的
(二)方式
(三)兩極ノ位置及延長
(四)最大運搬量
(五)綱索ノ種類、直徑及最大抗張力
(六)搬器ノ自重及最大積載重量竝搬器相互ノ間隔
(七)原動機ノ種類及實馬力
(八)綱索ノ最大運轉速度
(九)荷物ノ積卸方法
(十)通路、建設物等ニ對スル危害豫防設備
(十一)線路地形圖
(十二)工事完成豫定期日

四　豎坑若ハ斜坑ノ捲揚裝置

(一)設置場所
(二)使用目的
(三)捲揚機ノ種類及主要部分ノ大
(四)鼓胴ノ形狀及大
(五)制動機及深度指示器ノ種類及構造
(六)捲揚櫓ノ構造及大
(七)櫓滑車ノ構造及大
(八)捲揚臺ノ重量及最大積載重量
(九)鑛車ノ重量及積載重量
(十)同時ニ捲揚臺ニ搭載シ又ハ捲揚車道ニ於テ連結スル鑛車ノ數
(十一)捲揚臺承ノ構造
(十二)捲綱ノ種類、構造、大、延長、最大抗張力及製作所名
(十三)捲綱緊張ノ角度
(十四)最大捲揚速度
(十五)豎坑ニ在リテハ其ノ大、深及區劃竝爲措ノ種類及構造
(十六)斜坑ニ在リテハ捲揚車道ノ大、長、最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
(十七)人ヲ昇降セシムルモノニ在リテハ安全裝置ノ構造及搭載定員

(十八)豎坑口又ハ斜坑口ニ於ケル裝置ノ配置圖
(十九)捲揚櫓、捲揚臺及車輛ノ正面圖、側面圖及平面圖
(二十)豎坑ノ構造及區劃ノ說明圖
(二十一)捲揚臺及捲綱ノ連接說明圖
(二十二)工事完成豫定期日

五　機關車ヲ運轉スル軌道

(一)使用目的
(二)兩極ノ位置及延長
(三)最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
(四)橋梁ノ長及構造
(五)機關車ノ種類及重量
(六)制動機ノ種類
(七)車輛ノ自重及最大積載重量又ハ搭載定員
(八)車輛ノ最大連結數及連結方法
(九)線路地形圖
(十)工事完成豫定期日

前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨鑛務署長ニ屆出テ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十六條　選鑛場（手選鑛場ヲ除ク）、燒鑛場、製錬場又ハ製油場ヲ設置セムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ具シ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

一　設置場所
二　取扱元鑛ノ種類及産出鑛山
三　一箇月間ノ取扱元鑛數量
四　一箇月間ノ製品ノ種類及數量
五　操業方法ノ概要
六　原動機ノ種類及實馬力
七　捨石又ハ鑛滓ノ量及處理方法
八　捨石又ハ鑛滓ノ堆積場ノ位置、構造及堆積量
九　廢水ノ量及處理方法
十　燒鑛又ハ製錬ニ因リ生スル煙ノ煙道、煙塵室竝煙突ノ構造、大及材料
十一　燒鑛若ハ製錬用ノ爐又ハ蒸溜釜ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
十二　建設物ノ設計概要竝略圖及配置圖
十三　附近ノ地形及地種目ヲ示セル地圖

前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨鑛務署長ニ屆出テ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十七條　前條第一項ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ鑛務署長ニ屆出ツヘシ但シ鑛務署長ニ於テ豫メ變更ノ認可ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第五十八條　第五十五條及第五十六條ノ工作物ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第五十九條　鑛務署長ヨリ汽罐其ノ他機械又ハ裝置ニ付檢査ノ通知ヲ受ケタルトキハ豫メ檢査ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第六十條　現ニ入坑セル鑛夫ノ員數、氏名及就業場所ハ之ヲ坑外ニ於テ知リ得ヘキ方法ヲ設クヘシ

第六十一條　採掘權者ハ業務上ノ傷病者ノ救護ニ必要ナル救急治療用具及材料ヲ備フヘシ

第六十二條　鑛夫ハ濫ニ危害豫防ノ爲就業若ハ通行ヲ禁止セラレタル場所ニ立入リ又ハ衛生若ハ危害豫防ニ關スル設備、裝置ヲ毀損シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第六十三條　鑛業權者又ハ技術管理者危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ遲滯ナク應急又ハ豫防ノ處置ヲ爲スヘシ

第六十四條　瓦斯又ハ炭塵ノ爆發、火災、水害其ノ他ノ變災ニ因リ死者又ハ重傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ事由及狀況ヲ鑛務署長ニ急報スヘシ死者又ハ重傷者ヲ生セサル場合ト雖事業ノ全部若ハ一部ヲ休止スルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ變災ノ經過及之ニ對スル處置ヲ遲滯ナク鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第六十五條　死傷病者ニ付テハ別記樣式ニ依リ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第六十六條　本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令中鑛夫ノ遵守スヘキ規定ハ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ之ヲ周知セシムヘシ

第六十七條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ坑内ノ全部又ハ一部ヲ封鎖スルコトヲ得

第六十八條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ建設物、工作物其ノ他ノ設備ニ付改造、修理其ノ他適當ナル處置ヲ命スルコトヲ得

第六十九條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ鑛業法第七十二條第一項若ハ第七十四條ニ基ク農商務大臣ノ命令又ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ヲ執行スル爲又ハ衛生上ノ施設、坑口ノ開鑿、坑道ノ掘進若ハ捨石、鑛滓、坑水、廢水ノ處理ニ付一定ノ行爲ヲ命シ又ハ禁止若ハ制限スルコトヲ得

第七十條　鑛務署長ハ實地ノ狀況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ本則ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第七十一條　本則ノ規定ニ違反シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十二條　本則ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ直接ノ監督者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條　鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　技術管理者ヲ置キタルトキハ技術ニ關スル事項ニ付採掘權者、法定代理人又ハ鑛業代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ技術管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條第一項ノ規定ニ依リ特定ノ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ技術管理者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ其ノ代理者ニ適用ス

第七十五條　本則ハ第七十一條乃至第七十四條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附　則

第七十六條　本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十七條　第六條、第三十條、第三十四條、第三十九條第二項、第五十三條及第五十四條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一箇年間、第十條ノ規定ハ三箇年間之ヲ適用セス

樣式甲

（別記）

鑛夫死傷者月報

大正　年　月分

鑛種	
位置 名稱	
鑛業權者又ハ代表者	住所 何　某　印
鑛業代理人	住所 何　某　印

種別 事由	死亡						重傷						輕傷						合計					
	十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上		十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上		十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上		死亡		重傷		輕傷	
員數	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
落盤																								
瓦斯又ハ炭塵ノ爆發																								
捲揚　捲揚超過																								

坑内													地表									總計	月末現在鑛夫員數	備考
竪坑ニ於テ		自働車道又ハ捲揚車道ニ於テ																						
鎖又ハ綱ノ切斷	捲揚臺ニ依リ昇降中	鎖索ノ切斷	鑛車ノ逸走又ハ脫線	其ノ他	坑車ノ爲（前項以外ノ）	發破又ハ爆發藥ノ爲	瓦斯ノ中毒又ハ窒息	出水	器械ノ爲	電氣ノ爲	其ノ他	計	器械ノ爲	汽罐ノ破裂	爆發藥ノ爲	鑛車又ハ架空索道ノ爲	熱灼融熔物ノ爲	劇物ノ爲	電氣ノ爲	其ノ他	計	計	男女計	一　本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ
																							記事	

二　本表ニハ過失ニ因ルト否トヲ問ハス業務上ノ死傷者ヲ記載スヘシ

三　重傷トハ頭、四肢、視器、聽器其ノ他ノ部分ノ負傷ニシテ從來ノ勞役ニ從事スルコト能ハサルモノ及其ノ見込ノモノ並三十日以上醫療ヲ受ケ休業シタルモノ及其ノ見込ノモノヲ謂フ

四　輕傷トハ三日以上醫療ヲ受ケ休業シタルモノ及其ノ見込ノモノヲ謂フ

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

様式乙

鑛種	
位置名稱	
鑛業權者又ハ代表者	住所　何　某印
鑛業代理人	住所　何　某印

鑛夫死傷病者月報

大正　年　月分

男女別		
氏名年齡		
業務ノ種類		
負傷又ハ疾病ノ種類		
負傷又ハ發病ノ月日		
轉歸ノ日（解雇　治癒　死亡）		
備考		
月末現在鑛夫員數　男女計		
記事		

備考

一　本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ

二　本表ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ記載スヘシ

（一）死者

（二）負傷又ハ疾病ノ爲解雇セラレタル者

（三）負傷又ハ疾病ノ爲三十日以上醫療ヲ受ケ休業シタル者

（四）傳染病豫防法第一條ノ傳染病者但シ病名別患者數ノミヲ記事欄ニ記載スヘシ

三　負傷又ハ疾病ノ爲休業三十日以上ニ亙ル者ニシテ未タ轉歸ニ至ラサルモノハ「治癒」欄ニ未治ト記入シ轉歸ニ至リタルトキ其ノ月ノ月報ニ再記スヘシ

四　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

様式丙

鑛種	
位置名稱	
鑛業權者又ハ代表者	住所　何　某印
鑛業代理人	住所　何　某印

鑛夫死傷病者半年報

自大正　年　月
至大正　年　月分

病名		傳染性病及全身病									神經系ノ疾患		血行器ノ疾患	呼吸器ノ疾患			消化器ノ疾患		泌尿生殖器ノ疾患				皮膚及運動器ノ疾患			外因ニヨル疾患			其ノ他	計	鑛夫員數
		傳染病豫防法第一條傳染病																													
		チフス、パラチフス	赤痢	其ノ他	結核	黴毒	脚氣	蒼白症	寄生蟲病	其ノ他	腦出血、腦軟化	其ノ他		肋膜炎	肺氣腫	其ノ他	十二指腸蟲病	其ノ他	淋疾	腎臟炎	子宮疾患	其ノ他	皮膚病	ロイマチス	其ノ他	負傷	中毒	其ノ他			男女計
十五歳未滿	男																														
	女																														
二十歳未滿	男																														
	女																														
二十歳以上	男																														
	女																														
合計	男																														
	女																														

備考

一　本表ハ石炭坑ニ在リテハ常時鑛夫五百人以上、其ノ他ノ鑛山ニ在リテハ常時鑛夫三百人以上ヲ雇傭スルモノ及鑛務署長ノ指定シタル鑛山ニ之ヲ適用ス

二　本表ハ一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分ヲ七月三十一日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

三　本表ニハ死亡シ又ハ三日以上醫療ヲ受ケ休業シタル者ヲ記載スヘシ

四　同時ニ二種以上ノ負傷又ハ疾病ヲ有スル者アルトキハ重ナルモノ一種ノミニ付記載スヘシ

五　負傷欄ニハ鑛夫死傷者月報ニテ報告シタル者ヲ除ク

六　鑛夫員數ハ六月三十日又ハ十二月三十一日現在ノ員數ヲ記載スヘシ

七　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

●石炭坑爆發取締規則

（大正四年十二月二日農商務省令第二十五號）
（改正　大正五年第二三號）

石炭坑爆發取締規則左ノ通定ム

石炭坑爆發取締規則

第一條　本則ハ瓦斯又ハ炭塵ノ存在スル石炭坑ニシテ農商務大臣ノ指定シタルモノニ之ヲ適用ス

第二條　入氣坑口ニ於ケル通氣量ハ一日中ノ最大入坑鑛夫數ヲ標準トシ一人ニ付一分間百立方尺ヲ下ルコトヲ得ス

第三條　通氣速度ハ一分間千五百尺ヲ超ユルコトヲ得ス但シ竪坑及通氣專用坑道ニ於テハ一分間二千尺ヲ超エサル範圍内ニ於テ之ヲ增加スルコトヲ得

第四條　排氣坑口ニ於ケル排氣中ノ瓦斯量ハ千分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　坑内全部ニ亙ル通氣ニハ扇風機ヲ使用シ入氣坑及排氣坑ハ各別ニ之ヲ設クヘシ但シ新ニ開坑ニ著手スル場合ニ於テ鑛務署長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ扇風機ニハ自記回轉計及自記水壓計ヲ備付ケ其ノ指數ニ異常アリタルトキハ直ニ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第六條　主要扇風機ハ坑内ニ設置スルコトヲ得ス

第七條　主要風橋及入排氣竪坑間又ハ主要入排氣坑道間ヲ連絡スル坑道ニ設ケタル遮斷用ノ壁若ハ戸ハ堅牢ニシテ燃燒ノ虞ナキ構造ト爲シ戸ハ二箇以上ヲ設クヘシ

第八條　交通頻繁ナル坑道及主要通氣坑道ニ設ケタル通氣戸ハ相當ノ間隔ヲ置キ二重以上トシ自働裝置ヲ備ヘサルモノニハ番人ヲ附スヘシ

第九條　石炭層中ニ坑道ヲ掘進スル場合ニ於テハ張出其ノ他之ニ類スル通氣裝置ハ長五十間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　瓦斯若ハ炭塵多量ニ存在シ又ハ自然發火ノ虞アル採炭跡ハ充塡若ハ密閉シ又ハ氣流ヲ通スヘシ

前項ノ規定ニ依リ氣流ヲ通スル場合ニ於テ

ハ其ノ排氣ハ切端又ハ交通頻繁ナル坑道ヲ通過セシムルコトヲ得ス

第十一條　坑內空氣中ノ瓦斯量百分ノ二以上ノ箇所ニ於テハ鑛夫ノ就業ヲ禁止シ百分ノ三以上ノ箇所ニ於テハ其ノ通行ヲ禁止スヘシ但シ特ニ安全ナル方法ニ依リ通氣改良ニ關スル作業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ箇所ニハ遲滯ナク柵其ノ他適當ナル設備ヲ爲シ一定ノ警標ヲ揭クヘシ

第十二條　保安係員ハ鑛夫入坑時前三時間以內ニ瓦斯ノ檢定ヲ爲スヘシ

第十三條　保安係員ハ一箇月二回以上通氣ノ觀測ヲ爲スヘシ但シ氣流ノ方向又ハ分配ニ著シキ變化アリト認メタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スヘシ

第十四條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ一分流通氣區ニ於ケル切端數又ハ就業鑛夫數ヲ制限スルコトヲ得

第十五條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ通氣ノ獨立、分流方法ノ變更、通氣坑道ノ開鑿又ハ扇風機用豫備原動機若ハ豫備扇風機ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十六條　乾燥炭塵發生シ易キ石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　乾燥炭塵存在スル坑道ニハ撒水又ハ岩粉ノ撒布ヲ爲スヘシ乾燥炭塵發生シ易キ切端ニ於テ採炭ヲ爲ス場合亦同シ

二　坑道ニ存在スル炭塵ハ之ヲ掃除スヘシ

三　切端ヨリ車道ニ石炭ヲ搬出スル器具、裝置又ハ方法ニシテ石炭ヲ散逸セシメ又ハ多量ニ炭塵ヲ飛散セシムルモノハ適當ナル豫防方法ヲ施シタルモノノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス坑內ニ於テ使用スル炭車ニ付亦同シ

四　扉附炭車ハ坑內ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

五　炭車ニ積載セル石炭ニハ坑內適當ナル箇所ニ於テ其ノ全面ニ撒水スヘシ

六　選炭場ハ入氣坑口ニ接近シテ之ヲ設置スルコトヲ得ス

前項第一號及第二號ニ揭クル事項ノ施行方法ハ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ爆發ノ傳播ヲ防ク爲濕潤地帶ノ設置其ノ他適當ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十八條　黑色火藥其ノ他之ニ類スル爆發藥ハ坑內ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ石炭層ニ接近セサル岩石掘鑿ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　坑內ニ於ケル爆發藥ノ携帶、裝塡及點火ハ發破係員ヲ置キ之ヲ爲サシムヘシ但シ携帶及裝塡ニ付テハ特定ノ助手ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得

第二十條　發破係員ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　發破ヲ行ハムトスルトキハ瓦斯及炭塵ニ付三間以上ノ區域內ニ於テ危險ノ有無ヲ檢査スヘシ同一箇所ニ於テ引續キ發破ヲ行フ場合亦同シ

二　石炭層中ニ於テ發破ヲ行フ場合ニ於テハ空發其ノ他危險ノ虞ナカラシムル爲雷孔ノ位置、狀態及深ニ付檢査スヘシ

三　炭粉其ノ他可燃性ノ物ハ込物トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

四　空氣中ノ瓦斯量百分ノ一以上ノ箇所ニ於テハ發破ヲ行フコトヲ得ス但シ瓦斯量百分ノ二ニ達セサル箇所ニ於テ電氣點火法ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

五　乾燥炭塵存在スル場合ニ於テハ電氣點火法ニ依ルニ非サレハ同一箇所ニ於テ同時ニ二發以上ノ發破ヲ行フコトヲ得ス

六　石炭層中鄰接箇所ニ於テ引續キ數回ノ發破ヲ行フ場合ニ於テハ風下ヨリ順次ニ之ヲ行フヘシ

第二十一條　坑內ニ於テハ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

安全燈ハ完全ナル鎖鑰ヲ有シ一吋二十八目以上ノ金屬製網筒二重ヲ備ヘ其ノ內部ノモノハ鐵製又ハ鋼製トシ硝子筒ハ堅牢ニシテ冷熱ノ激變ニ堪フルモノヲ用井其ノ接合部ヨリ空氣ノ侵入セサル構造ト爲スヘシ

瓦斯ノ存在スル場所ニ於テ使用スル電燈ハ安全裝置ヲ施スヘシ

第二十二條　保安係員及發破係員ニハ揮發油安全燈又ハ瓦斯檢定燈ヲ使用セシムヘシ但シ鑛務署長ノ認可ヲ受ケ他ノ種類ノ安全燈ヲ使用セシムルコトヲ得

第二十三條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ一定種類ノ安全燈又ハ携帶用電燈ノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條　安全燈ハ一晝夜ニ入坑スヘキ鑛夫總數以上ノ數ヲ備フヘシ

第二十五條　鑛夫ハ一定ノ坑口ヨリ出入セシムヘシ但シ特別ノ事由ニ因ル臨時ノ出入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

發火具、喫煙具及煙草ノ携帶ヲ防ク爲適當ナル設備ヲ爲シ鑛夫入坑ノ都度檢査スヘシ

第二十六條　新ニ採用シタル鑛夫ニハ瓦斯及炭塵ニ關スル事項ヲ說示スヘシ

石炭坑ノ坑內作業ニ經驗ナキ鑛夫ハ熟練シタル者ノ指導ヲ受ケ一箇月以上坑內作業ヲ實習シタル後ニ非サレハ單獨ニ坑內ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

第二十七條　保安係員一人ノ監督スヘキ鑛夫數ハ七十人ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ鑛務署長ノ認可ヲ受ケ百人ヲ超エサル範圍內ニ於テ之ヲ增加スルコトヲ得

第二十八條　瓦斯又ハ炭塵ノ爆發其ノ他ノ變災ニ備フル爲單獨又ハ共同ニ救護隊ヲ設置スヘシ

救護隊ノ組織及主要ナル器具、機械竝用品ノ種類及數量ニ付テハ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條　削除

第三十條　鑛務署長ハ實地ノ狀況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ本則ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第三十一條　鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ通氣量、瓦斯量又ハ鑛夫數ニ付第二條、第四條、第十一條第一項、第二十條第四號及第二十七條ノ規定ニ拘ラス必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　削除

第三十三條　鑛務署長已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ第二條乃至第十條、第十二條、第十六條、第十八條第一項、第十九條乃至第二十二條、第二十四條、第二十五條、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ第一條ノ規定ニ依ル指定後一箇年ヲ超エサル範圍內ニ於テ期間ヲ定メ其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

前項ノ斟酌ヲ受ケムトスル者ハ指定ヲ受ケタル後二十日以內ニ願出ツヘシ

第三十四條　本則ノ規定ニ違反シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條　本則ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ直接ノ監督者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條ノ二　鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　鑛業警察規則ニ依リ技術管理者ヲ置キタルトキハ技術ニ關スル事項ニ付採掘權者、法定代理人又ハ鑛業代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ技術管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

鑛業警察規則第七條第一項ノ規定ニ依リ特定ノ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ技術管理者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ其ノ代理者ニ適用ス

第三十七條　本則ハ第三十四條乃至第三十六條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附　則

第十六條第四號、第二十一條第二項及第二十四條ノ規定ハ本則施行後三箇年間、第二十八條ノ規定ハ五箇年間之ヲ適用セス

●砂鑛法

（明治四十二年三月二十五日法律第十三號）

改正　大正[illegible]年法三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

砂鑛法

第一條　本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ

金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條　本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條　本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條　砂鑛權者ハ砂鑛區內ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條　金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ採掘鑛區內ニ存スル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區內ニ既ニ存スル砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條　砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ强制執行ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條　砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願スヘシ

第九條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者ハ命令ノ定ムル期間內ニ於テ自ラ砂鑛權ノ出願ヲ爲ストキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條　砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條　砂鑛權者ハ砂鑛區ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條　土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第十四條　砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條　補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ【鑛山監督署長】ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條　前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セサルトキト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第十七條　鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一　洗鑛

二　製鍊所ノ建設

三　洗滌用水路及溜池ノ開設

四　砂鑛原料ノ置場

第十八條　當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條　權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入リテ測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條　鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、[illegible]乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第百三條及第百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第二十四條　本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　砂鑛採取法ニ依リ砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ト看做ス

第二十六條　本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ命令ノ定ムル期間內ニ之ヲ【鑛山監督署長】ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十七條　本法施行前設定シタル鑛業權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間內ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ出願ヲ爲スヘシ其ノ登錄アリタルトキハ[illegible]ル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存在ス

前項ノ[illegible]迄仍鑛業[illegible]

第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ[illegible]其ノ財團ノ關係ニ於テハ[illegible]

第二十八條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴願、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

●砂鑛法施行細則

（明治四十二年六月二十一日農商務省令第十六號）

改正　[illegible]

砂鑛法施行細則左ノ通相定ム

第一條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ出願後三十日以內ニ土地所有者ノ承諾書若ハ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

出願地ニ付前項ノ規定ニ依リ提出スヘキ書面ノ[illegible]

第二條　土地所有者[illegible]

第三條　砂鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ[illegible]

但シ河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスルモノ又ハ河岸ニ沿フテ境界ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　直線ヲ以テ砂鑛區ノ境界ヲ定ムル場合ニ於テハ砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第九號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一　出願地ノ名稱及種目
二　出願地ノ面積
三　南北線
四　縮尺
五　二箇以上ノ不動基點竝其ノ名稱及特徵
六　出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點竝其ノ番號
七　境界線竝基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數
八　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ

河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスル砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第十號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一　出願河川ノ名稱及河川ニ沿ヘル土地ノ名稱種目
二　出願區域ノ總延長竝幹流及支流ノ各延長
三　南北線
四　縮尺
五　出願區域ノ各端
六　各端ニ關スル不動基點竝其ノ特徵及名稱
七　基點ト各端ノ測點トノ間ノ間數及其ノ方位
八　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
九　河床ノ全幅ヲ出願區域ト爲ササルモノニ付テハ河床中ノ境界線

第五條　砂鑛法第十一條第二項ノ規定ニ依ル減區又ハ增減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條　砂鑛出願ニ付手數料不足ナルトキハ鑛務署長ハ其ノ追納ヲ命スヘシ

出願人ハ前項ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ手數料ヲ納付スヘシ

第六條ノ二　砂鑛出願地カ實地調査ニ因リテ他人ノ所有地ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ【鑛山監督署長】ハ相當ノ期限ヲ附シ第一條ノ規定ニ依リ差出スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第七條　砂鑛ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ【鑛山監督署長】ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録稅ヲ納付スヘシ此ノ期間内ニ登録稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ在リテハ期間後ト雖モ更ニ登録稅ヲ納付スルコトヲ得

登録稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ郵便ヲ以テ納付スル場合ニ關シテハ鑛業法施行細則第七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ登録稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ハ願書、申請書又ハ屆書ヲ受理セス

一　砂鑛出願地ノ全部カ所轄【鑛山監督署】ノ管轄區域内ニ在ラサルトキ
二　出願ノ砂鑛カ砂鑛法第一條ノ規定ニ該當セサルトキ
三　圖面ヲ添附スヘキ砂鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
四　手數料ヲ納付セサルトキ
五　鑛業法施行細則第十四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ
六　鑛業法施行細則第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
七　鑛業法施行細則第二十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
八　鑛業法施行細則第三十一條第二項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
九　削除
十　第五條ノ規定ニ違背シ承諾書ヲ添附セサルトキ

第九條　左ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ハ登録稅納付書ヲ受理セス

一　第七條第四項又ハ鑛業法施行細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ
二　鑛業法施行細則第三十六條ノ二ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

第十條　左ノ場合ニ於テハ【鑛山監督署長】ハ願書又ハ屆書ヲ却下ス

一　實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ鑛業法施行細則第二十四條第一項ノ規定ニ準シテ指定シタル調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ
二　願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
三　鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
四　鑛業法施行細則第十六條若ハ第十六條ノ二ノ規定ヲ準用スル場合ニ期限内ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面ヲ差出ササルトキ
五　鑛業法施行細則第十七條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ區域增減ノ願書ヲ差出ササルトキ
六　鑛業法施行細則第二十二條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ設計書ヲ差出ササルトキ
七　削除
八　鑛業法施行細則第二十四條ノ規定ニ準シテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
九　第六條ニ規定シタル期限内ニ手數料ヲ納付セサルトキ
十　第七條ニ規定シタル期限内ニ登録稅納付書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ
十一　第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ書面ノ提出又ハ減區出願ヲ爲ササルトキ

第十一條　砂鑛權者其ノ砂鑛區内ニ於テ許可ヲ得タル砂鑛以外ノ砂鑛ヲ採取セムトスルトキハ豫メ砂鑛權ノ表示變更ノ登録ヲ申請スヘシ

第十二條　削除

第十三條　砂鑛權者ハ砂鑛區圖ヲ砂鑛業事務所ニ備置クヘシ

第十四條　砂鑛權者ハ每年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シタル砂鑛業明細表ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ

砂鑛權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ砂鑛權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ砂鑛業明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ砂鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十五條　二箇以上ノ砂鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ砂鑛業明細表ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第十六條　砂鑛法第五條第二項ノ規定ニ依ル裁決申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル鑛床ノ關係圖及鑛業權者又ハ砂鑛權者ト交涉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交涉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　鑛業權者又ハ砂鑛權者ノ氏名又ハ名稱及住所
三　砂鑛權及鑛業權ノ登録番號
四　申請ノ目的及理由

【鑛山監督署長】前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ鑛業權者又ハ砂鑛權者ニ交付スヘシ

鑛業權者又ハ砂鑛權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ

鑛業權者又ハ砂鑛權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ【鑛山監督署長】ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得申請書ヲ交付スルコト能ハサルトキ亦同シ

申請人鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令期間内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ【鑛山監督署長】之ヲ當事者雙方ニ交付スヘシ

第十七條　砂鑛法第五條第三項ノ規定ニ依ル訴願ニハ【鑛山監督署長】ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　砂鑛法第十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

第十九條　鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ準シテ爲ス處分又ハ裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十條ノ規定ニ依ル却下ニ付テハ【鑛山監督署】ノ掲示場ニ掲示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

第二十條　第十一條、第十三條、第十四條ノ規定ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第二十六條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第六十一條、第六十三條、第七十條、第八十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ砂鑛區圖ヲ差出ササルトキ又ハ第三項ノ規定ニ違背シ期間内ニ登録稅ヲ納メサル者、鑛業法施行細則第二十二條ノ二ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者又ハ第二十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ設計書ヲ提出セサル者又ハ鑛業警察規則第五十五條乃至第五十九條、第六十四條、第六十九條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條　鑛業法施行細則第一條乃至第八條、第十一條乃至第十四條、第十六條、第十六條ノ二、第十七條、第二十一條乃至第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一條、第三十四條、第三十六條ノ二、第三十七條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第五十四條、第五十七條乃至第六十三條、第六十八條乃至第七十條、第七十三條鑛業警察規則第五十五條乃至第五十九條、第六十四條、第六十九條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第二十二條　本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　本則施行前砂鑛採取法施行細則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十四條　本則施行前ニ二人以上共同シテ砂鑛採取ノ出願ヲ爲シタルトキ又ハ本則施行前ヨリ二人以上共同シテ砂鑛採取業ヲ爲ストキハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ連署シタル代表者選定ノ屆出ヲ爲スヘシ

第二十五條　砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛採取地ノ合併、分割、減區又ハ增減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ合併、分割又ハ減少前ノ砂鑛權ニ付登録上利害關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出スヘシ

前項ノ期限内ニ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出ササルトキハ出願ハ之ヲ却下ス

第二十六條　本則施行前砂鑛採取ノ許可ヲ得タル者ニ付鑛業法施行細則第四十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ該條ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條　砂鑛法第二十六條ノ規定ニ依ル屆書ニハ鑛業願書ヲ發送シタル年月日、出願人ノ氏名又ハ名稱及住所、出願地ノ名稱及屆出ノ目的ヲ記載シテ屆出人之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ハ本法施行後六十日以内ニ差出ササルトキハ之ヲ受理セス

鑛業法施行細則第十四條ノ規定ハ第一項ノ屆書ニ付之ヲ準用ス

第二十八條　砂鑛法第二十七條ノ規定ニ依ル砂鑛權設定ノ登録申請ハ本法施行後九十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條　鑛業法施行細則第八十一條及鑛業警察規則第四十一條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

樣式第一號（正副二通）

砂（金、鐵、錫）採取願

何府縣郡市町村大字何（何川筋）
面積何坪（延長何里）

右箇所ニ於テ砂（金、鐵、錫）存在候ニ付採取致度候間許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日
住所
出願人　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

樣式第二號（正副二通）

砂鑛出願地增減區（增區、減區）願

何年何月何日出願
何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）採取出願地何坪（延長何里）
增區　何府縣郡市町村大字何（何川筋）
面積何坪（延長何里）
減區　何府縣郡市町村大字何（何川筋）
面積何坪（延長何里）
合計（又ハ差引）何坪（延長何里）

右砂鑛出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日
住所
出願人　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號（正副二通）

砂鑛區增減區（增區、減區）願

何府縣砂鑛權登録第何號
何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
增區　何郡市町村大字何（何川筋）
面積何坪（延長何里）

減區　何郡市町村大字何（何川筋）
　面積何坪（延長何里）
　合計（又ハ差引）何坪（延長何里）

右砂鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日　住所　砂鑛權者　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

注意事項（樣式第二號ニ同シ）

樣式第四號（正副二通）

砂鑛區改正願

何府縣砂鑛權登錄第何號
何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
增區　何郡市町村大字何（何川筋）
　面積何坪（延長何里）
減區　何郡市町村大字何（何川筋）
　面積何坪（延長何里）
　合計（又ハ差引）何坪（延長何里）

右砂鑛區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日　住所　砂鑛權者　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

注意　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

樣式第五號（正副二通）

砂鑛區合併願

一何府縣砂鑛權登錄第何號
　何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
一何府縣砂鑛權登錄第何號
　何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
　合計何坪（延長何里）

右砂鑛區合併許可相成度圖面竝合併理由書相添此段相願候也

年　月　日　住所　砂鑛權者　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
三　二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ニハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
四　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第六號（正副二通）

砂鑛區分割願

何府縣砂鑛權登錄第何號
何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
此ノ分割
何府縣郡市町村大字何（何川筋）
　面積何坪（延長何里）
何府縣郡市町村大字何（何川筋）
　面積何坪（延長何里）

右砂鑛區分割許可相成度圖面并分割理由書相添此段相願候也

年　月　日　住所　砂鑛權者　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

注意
一　圖面ハ分割區域每ニ各四葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ
二　其ノ他ノ注意事項ハ樣式第五號中二、三、四號ニ同シ

樣式第七號（正副二通）

砂鑛出願人相續屆

何年何月何日出願
何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）採取出願地何坪（延長何里）

右採取出願人何某死亡（其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス）ニ因リ相續致候間戶籍謄本（又ハ相續ニ關スル證明書）相添此段屆出候也

年　月　日　住所　相續人　氏　名印

何【鑛山監督署長】氏名殿

樣式第八號（正副二通）

砂鑛出願人變更屆

何年何月何日出願
何府縣郡市町村（何川筋）砂（金、鐵、錫）採取出願地何坪（延長何里）

右採取出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也

年　月　日
住所　舊出願人　氏　名（名稱）印
住所　新出願人　氏　名（名稱）印

農商務大臣氏名殿

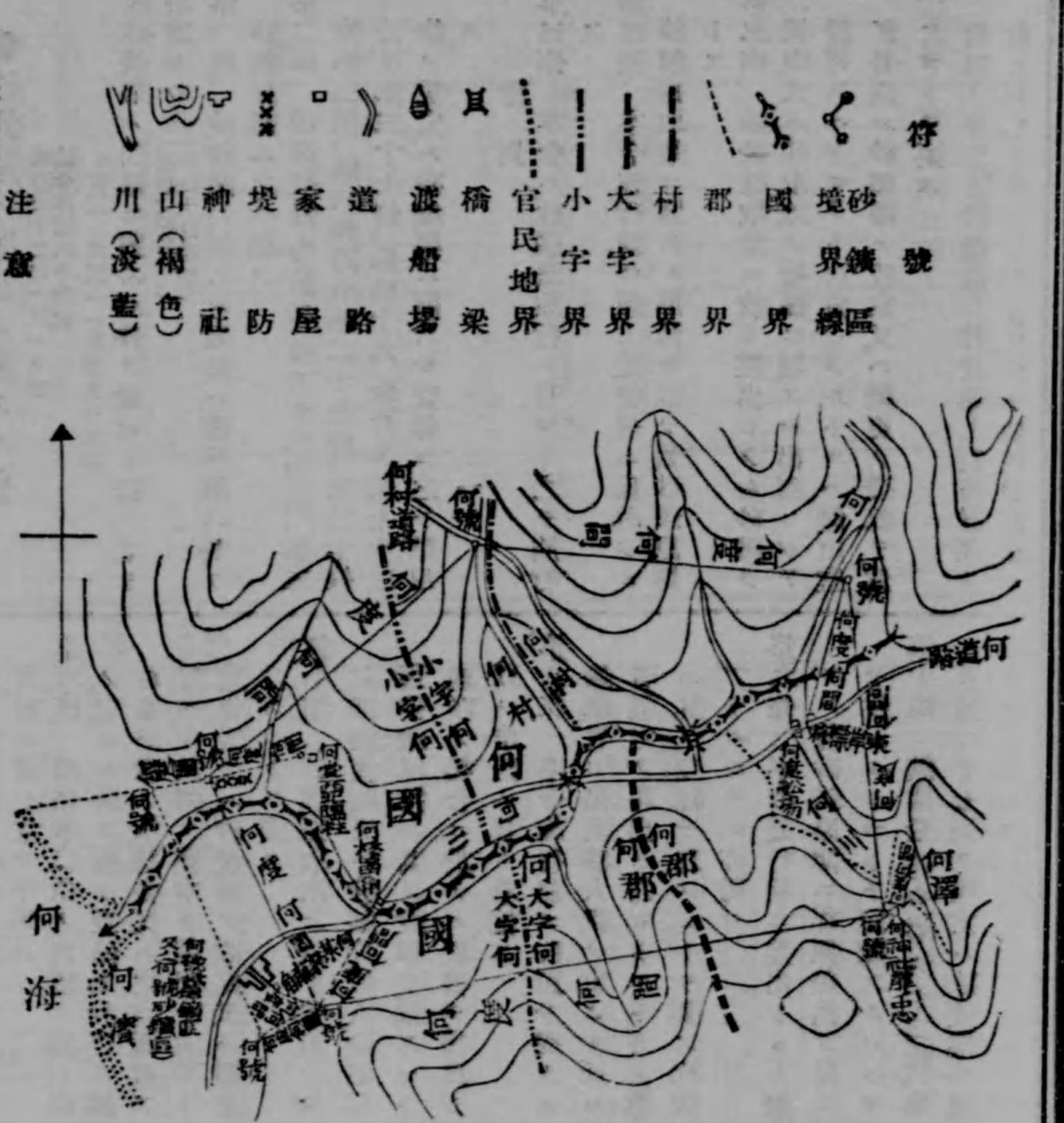
注意
一　新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ本願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得
二　舊出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第九號（五通）

何府縣何國何郡何市町村大字何砂（金）（錫）（鐵）鑛區圖　縮尺　何分ノ一

【明治】年　月　日出願　住所族籍　氏　名印

小字何　官地又ハ民地　地種地目
小字何　官地又ハ民地　地種地目
何　坪



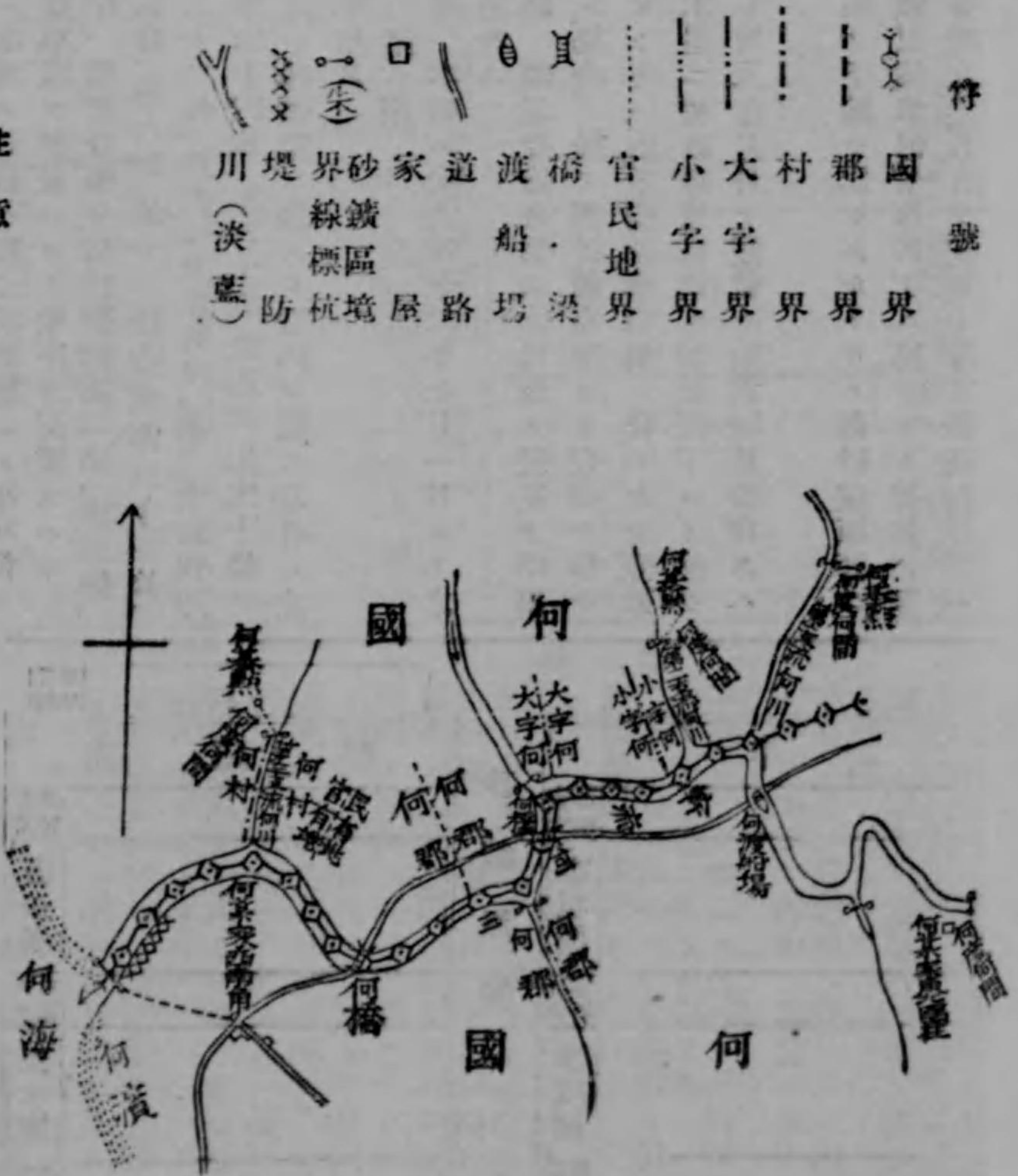
注意
一　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ユヘシ
二　基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石、其ノ他近傍ニ在ル顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定スヘシ
三　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス
四　基點及測點附近ノ地形及地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若シ記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル說明ヲ附記スヘシ
五　縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ユヘシ但シ鑛山監督局長ノ公告シタル地域ニ在リテハ二千五百分ノ一又ハ五千分ノ一ヲ用ユヘシ

樣式第十號（五通）

何砂（金）（錫）（鐵）鑛區圖　縮尺　何分ノ一

【明治】年　月　日出願　住所族籍　氏　名印

何府縣何國何郡何市町村大字何
何河筋
何府縣何國何郡何市町村大字何
延長何里何町何間
內幹流何河何里何町何間
第一支流何川何里何町何間
第二支流何川何里何町何間
第三支流何川何里何町何間



注意
一　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ユヘシ
二　基點ハ幹流ノ上流下流及各支流ノ上流ニ各一箇所ツヽ、設ケ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其ノ他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
三　基點附近ノ地形及地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若シ記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル說明ヲ附記スヘシ
四　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス
五　縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ユヘシ但シ鑛山監督局長ノ公告シタル地域ニ在リテハ二千五百分ノ一又ハ五千分ノ一ヲ用ユヘシ
六　支流ノ番號ハ出願ニ係ルモノノミヲ揭クヘシ
七　圖面ニ肩書スル府縣國郡市町村大字小字ハ砂鑛區ノ兩岸ニ接スル分ヲ記載スヘシ

樣式第十一號

何府縣登錄

【明治】年砂鑛業明細表

鑛種	位置			砂鑛權者又ハ代表者
	府縣	郡（又ハ何川筋）	村大字	住所 何　某印

採取ノ部										
種別	越高	採取高	平均品位	製錬元鑛高	販賣高		殘高	工數	工業日數	月末日現在使役人員
					數量	價額				

第　號

製鍊ノ部

種別	越高	製出高	平均品位	販賣高		殘高
				數量	價額	

工數	工業日數		月末日現在使役人員	

記事

注意

一　種別ノ欄ニハ採取ノ部ニ於テハ砂鑛ノ種類、製鍊ノ部ニ於テハ製品ノ種類（例ヘハ金、錫、銑鐵、鋼鐵等ノ如シ）ヲ記載スヘシ

二　採取ノ部砂金ハ匁其他ハ貫ヲ單位トシ製鍊ノ部金ハ匁、錫ハ斤、鐵ハ貫ヲ單位トス

三　使役人員ハ十二月末日現在數、土地ノ狀況ニ依リ冬季間事業ヲ休止スルモノニ在リテハ六月末日現在數ヲ記入スヘシ

●砂鑛業ノ登錄ニ關スル件

（明治四十二年六月十九日　勅令第百六十四號）
改正　大正一一年第五一五號

朕砂鑛業ノ登錄ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

第一條　砂鑛業ニ關スル登錄ハ鑛務署ニ於テ砂鑛原簿ニ之ヲ爲ス

第二條　鑛業登錄令第二條乃至第四條、第五條第二項、第六條乃至第二十七條、第三十條乃至第三十七條、第三十九條乃至第七十五條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登錄ニ之ヲ準用ス

附　則

第三條　本令ハ砂鑛法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　本令施行前ニ鑛山監督署ニ備付タル砂鑛採取業ニ關スル原簿ヲ以テ舊砂鑛原簿トス

第五條　砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛ノ採取又ハ採取地ノ增區ニ關スル出願ニシテ許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ砂鑛權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ砂鑛權ニ付登錄上利害關係ヲ有スル第三者ナキ場合ニ於テ砂鑛採取法ニ依ル採取地ノ合併、分割、減區又ハ增減區ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第六條　前條第二項ノ出願ニ關シ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ鑛山監督署長ハ砂鑛權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第七條　砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛採取業讓渡願又ハ砂鑛採取人除名屆ニ付テハ舊砂鑛原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第八條　本令施行前ニ許可ヲ受ケタル共同砂鑛權者カ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ代表者選定ノ屆出ヲ爲シタルトキハ舊砂鑛原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス代表者ノ指定アリタルトキ亦同シ

第九條　本令施行前ニ差出シタル廢業屆ニ付テハ舊砂鑛原簿ニ郵便差出ノ日ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第十條　鑛業登錄令第六十三條、第六十四條及第六十七條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登錄ニ之ヲ準用ス

●砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則

（明治四十二年六月二十一日　農商務省令第二十七號）
改正　大正一一年第二七號

砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則左ノ通相定ム

砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則

第一條　砂鑛原簿ハ第一號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　砂鑛業共同人名簿ハ第二號ノ樣式ニ、砂鑛業信託原簿ハ第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登錄番號欄ニハ各砂鑛區ニ付砂鑛原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ砂鑛權ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

甲區事項欄ニハ砂鑛權ノ設定、移轉、處分ノ制限ニ關スル事項ヲ乙區事項欄ニハ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第四條　鑛業登錄令施行細則第二條、第三條、第五條、第六條、第十一條乃至第二十一條、第二十二條、第四項及第五項、第二十三條乃至第四十四條、第四十五條乃至第五十條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登錄ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第五條　本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　鑛業登錄令第六十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ舊砂鑛原簿ヨリ登錄ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ舊砂鑛原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊砂鑛原簿ニ砂鑛原簿第何册第何丁ニ移シタル旨其ノ登錄番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

樣式第一號

何府縣（國、郡）
砂鑛原簿　第何册
何【鑛山監督署】

紙數表紙ヲ除キ　枚
年　月　日
何【鑛山監督署長】何　某　印

登錄番號

表題部

表示番號	
表示欄	
表示番號	
表示欄	
表示番號	
表示欄	

砂鑛原簿

甲

順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

區

砂鑛原簿

乙　區

順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

樣式第二號

何府縣（國、郡）
何府縣（國、郡）
何府縣（國、郡）
砂鑛業共同人名簿　第何册
何【鑛山監督署】

紙數表紙ヲ除キ　枚
年　月　日
何【鑛山監督署長】何　某　印

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

砂鑛業共同人名簿
丁

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

第三號樣式ノ一

信託番號　第　號

信託權利

委託者ノ住所氏名	受託者ノ住所氏名
受益者ノ住所氏名	信託管理人ノ住所氏名

砂鑛業信託原簿
壹丁ノ壹

要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	

第三號樣式ノ二

要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	

砂鑛業信託原簿
壹丁ノ貳

要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	
要目欄	
事項欄	

●滅失シタル砂鑛原簿調製ニ關スル件

（大正十二年十月二十三日　農商務省令臨第四號）

滅失シタル砂鑛原簿調製ニ關スル件左ノ通定ム

滅失シタル砂鑛原簿調製ニ關スル手續ニ付テハ滅失鑛業原簿調製規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮鑛業令

（大正四年十二月二十四日　制令第八號）
改正　大正七年第一七號、一〇年第一六號、一五年第八號

朝鮮鑛業令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮鑛業令

第一條　本令ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、タングステン鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、石油、土瀝青、硫黃、雲母、石綿、高嶺土、蠟石、明礬石、重晶石、螢石、硅砂、砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛業權ト稱スルハ鑛區ニ於テ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第二條　未タ採掘セサル鑛物ハ國ノ所有トス

廢鑛及鑛滓亦同シ

第三條　鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス但シ砂金、砂錫又ハ砂鐵ノ採掘ヲ目的トスル場合ニ在リテハ河床ノ延長ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

鑛區ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

河床ノ延長ヲ以テ定メタル鑛區ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ延長ハ二里ヲ超ユルコトヲ得ス

鑛利保護上又ハ鑛區ノ分合上已ムヲ得サル場合ニ於テハ鑛區ハ百萬坪又ハ二里ヲ超ユルコトヲ得

第四條　要塞地帶第一區內ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫若ハ彈藥庫ノ周圍三百間內又ハ要塞地帶第二區及第三區內ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ揭クル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　鐵道、軌道、道路、水道、運河、隄塘、社寺境內地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物又ハ建物ノ地表地下トモ其ノ周圍高嶺土、硅砂、砂金、砂錫又ハ砂鐵ニ付テハ五間內其ノ他ノ鑛物ニ付テハ三十間內ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可又ハ營造物若ハ建物ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス

所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　帝國臣民又ハ帝國法令ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權ヲ享有スルコトヲ得ス

第七條　鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區

圖ヲ添ヘ朝鮮總督ニ出願シ其ノ許可ヲ受クヘシ

鑛業出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ但シ砂金砂錫又ハ砂鐵ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　二人以上共同シテ鑛業ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ內一人ヲ代表者ト爲シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ其ノ屆出ナキトキハ朝鮮總督之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人ヲ代表ス

第九條　同一ノ鑛物ニ付鑛業出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書到達ノ日ノ先ナル者ニ鑛業ノ出願ヲ許可ス同日ニ願書到達シタルトキハ朝鮮總督ニ於テ適當ト認ムル者ニ之ヲ許可ス

前項ノ規定ハ第十二條、第十三條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル出願アリタル場合ニ於テ其ノ訂正ニ依リ增加スル地區ニ付テハ之ヲ適用セス

第十條　公益ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ鑛業ノ價値ナシト認ムルトキハ鑛業ノ出願ハ之ヲ許可セス

第十一條　鑛業出願人ハ鑛業出願地ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

第十二條　鑛業出願地ノ位置形狀ト鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認ムルトキハ朝鮮總督ハ期限ヲ指定シテ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ指定ノ期限迄ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ鑛業ノ出願ハ之ヲ許可セス

第十三條　鑛業出願地ノ位置形狀ト鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認ムルトキハ鑛業出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第十四條　鑛業出願地他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ他人ノ鑛業ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ許可セス

第十五條　鑛業出願人ノ名義ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更シ又ハ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルコトヲ得

第十六條　金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ鑛區內ニ存スル砂金ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區ニ既ニ存スル砂金ノ鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

鑛業權ハ相續、讓渡、抵當、滯納處分及强制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス

本令ニ規定スル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第十八條　共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做ス

共同鑛業權者ノ有スル鑛業權ノ持分ハ他ノ共同鑛業權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

共同鑛業權者ノ有スル鑛業權ノ持分ニ付滯納處分又ハ强制執行アリタルトキハ二月內ニ他ノ共同鑛業權者ハ一致ヲ以テ其ノ持分ノ競買人又ハ買受人ニ通知シ之ヲ組合ヨリ除名スルコトヲ得

第八條ノ規定ハ共同鑛業權者ニ之ヲ準用ス

第十九條　鑛業權又ハ抵當權ノ設定、變更、移轉若ハ消滅又ハ處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脫退ニ付亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ不動產ニ關スル規定ノ準用ニ付テハ登記ニ代ハルモノトス

登錄ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十條　前條第一項ニ揭クル事項ハ相續及第三十一條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條　鑛業權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第二十二條　第十一條、第十二條第一項及第十三條ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第二十三條　鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正又ハ增減ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十四條　朝鮮總督ハ鑛業權者ヲシテ施業案又ハ鑛夫ノ保護取締ニ關スル規程ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

朝鮮總督必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ル施業案又ハ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

鑛業權者第一項ノ規定ニ依ル施業案又ハ規程ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

第二十六條　朝鮮總督ハ鑛業權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ解任ヲ命スルコトヲ得

管理者ノ資格及職務ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十七條　朝鮮總督ハ部下ノ官吏ヲシテ鑛業ニ關スル書類、物件ヲ檢査シ又ハ坑內其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第二十八條　錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ朝鮮總督ハ鑛業權ヲ取消シ又ハ期限ヲ指定シテ鑛區ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

第二十九條　朝鮮總督ハ左ノ場合ニ於テ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

一　鑛業公益ヲ害スルモノト認ムルトキ
二　正當ノ理由ナクシテ鑛業權設定ノ登錄ノ日ヨリ一年內ニ事業ニ著手セス又ハ著手後一年以上休業シタルトキ
三　第二十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ命セラレタル鑛區ノ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキ
四　第二十四條ノ規定ニ依リ施業案ヲ定メタル場合ニ於テ之ニ依ラスシテ鑛業ヲ爲シタルトキ
五　第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキ
六　鑛產稅又ハ鑛區稅ヲ納付セサルトキ

第三十條　鑛業權消滅シタル後ト雖一年內ハ朝鮮總督ハ其ノ鑛業權ヲ有シタル者ニ對シ危害豫防ニ關スル施設ヲ爲スコトヲ命スルコトヲ得

危害豫防ノ目的ノ範圍內ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ハ之ヲ鑛業權者、其ノ施設ヲ爲スハ之ヲ鑛業ヲ爲スモノト看做ス

第三十一條　鑛業權ヲ取消シタルトキハ朝鮮總督ハ直ニ抵當權者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ抵當權者ハ朝鮮總督ノ定ムル期間內ニ鑛業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十八條又ハ第二十九條第一號ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

鑛業權ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ鑛業權ノ取消ノ登錄アリタル時ニ於テ鑛業權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

前五項ノ規定ハ鑛業權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　鑛業ノ爲必要アルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ使用又ハ收用スヘキ土地及許可ノ年月日ヲ直ニ關係人ニ通知スヘシ

第一項ノ使用又ハ收用ニ付テハ土地收用令第七條乃至第二十六條ノ規定ニ依ル但シ同令中起業者トアルハ鑛業權者、同令中事業ノ認定又ハ朝鮮總督ノ認定トアルハ第一項ノ許可、同令第八條第十三條及第二十一條中第四條ノ公告トアルハ第一項ノ許可、同令第十六條中第四條ノ公告トアルハ前項ノ通知トス

第三十三條　鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ直ニ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル使用ニ因リ關係人ノ受ケタル損失ハ鑛業權者之ヲ補償スヘシ

第三十四條　前二條ニ規定スル關係人トハ使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第三十二條第二項ノ通知アリタル後其ノ土地ニ關シ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　鑛業權者ハ土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原狀ニ回復シ又ハ原狀ニ回復セサルニ因リ生スル損失ヲ補償スヘシ

朝鮮總督ハ鑛業權者ニ對シ前項ノ規定ニ依ル補償金ニ付相當ノ擔保ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタルトキハ擔保ヲ提供スルニ非サレハ土地ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十六條　第五條第二項ノ承諾ヲ拒ミタルトキ若ハ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキ又ハ第三十三條若ハ前條ノ規定ニ依ル補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用令第九條、第十一條、第十二條、第十七條及第二十四條乃至第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　二道以上ニ涉ル土地ノ使用又ハ收用ニ關スル地方長官ノ許可、裁決又ハ決定ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十八條　鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲他人ノ土地ニ立入リ又ハ障碍物ヲ除却スル場合ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十九條　本令ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第四十條　本令中土地ノ使用又ハ收用ニ關スル規定及其ノ罰則ニ關スル規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利、水ノ使用ニ關スル權利又ハ工作物其ノ他ノ土地ノ定著物ノ使用又ハ收用ニ關シ之ヲ準用ス

第四十一條　鑛業權者ニハ鑛產稅及鑛區稅ヲ課ス但シ金鑛、銀鑛、鉛鑛、鐵鑛、砂金及砂鐵ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

鑛產稅ハ鑛產物ノ價格百分ノ一トシ鑛區稅ハ鑛區千坪又ハ河床延長一町每ニ一年六十錢トス但シ千坪又ハ一町未滿ノ端數ハ之ヲ千坪又ハ一町トシテ計算ス

鑛區ノ分合ニ因ル場合ヲ除クノ外鑛業權設定ノ登錄アリタル月ヨリ起算シ三年間ノ鑛區稅ハ前項ノ金額ノ半額トス其ノ期間滿了ノ年ニ係ル鑛區稅ニ付テハ月割ヲ以テ計算ス

鑛產物ノ價格ハ朝鮮總督ノ認定ニ依ル

第四十二條　鑛產稅ハ每年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ卽納スヘシ

鑛區稅ハ每年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

鑛區ノ分合ニ因ル場合ヲ除クノ外鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足スル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ卽納スヘシ此ノ場合ニ於テハ月割ヲ以テ計算ス

既納ノ鑛區稅ハ之ヲ還付セス

第四十三條　本令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ第五條第一項ニ揭クル者、鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者又ハ關係人ノ承繼人ニ付テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十四條　鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テハ採掘シタル鑛物ハ之ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第四條第三項、第五條第一項、第二十四條第三項又ハ第三十五條第三項ノ規定ニ違反シタル者
二　第二十四條第一項第二項、第二十五條、第二十六條第一項又ハ第三十條第一項ノ命令ニ從ハサル者
三　當該官吏ニ對シ第二十七條ノ規定ニ依ル檢查若ハ臨檢ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ檢查若ハ臨檢ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者
四　第二十四條ノ規定ニ依リ施業案ヲ定メタル場合ニ於テ之ニ依ラスシテ鑛業ヲ爲シタル者

第四十六條　鑛產稅又ハ鑛區稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第四十七條　鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條　鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ規定スル罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

本令ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定スル罰則ニ付亦前項ニ同シ

第四十九條　法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者本令ニ規定スル罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

本令ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定スル罰則ニ付亦前項ニ同シ

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ被告人トス

第五十條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外鑛業警察ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五十一條　朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第五十二條　本令ハ罰則ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ國ノ鑛業ニ適用ス但シ第四十一條及第四十二條ノ規定ハ朝鮮總督ノ管理スル鑛業ニ之ヲ適用セス

附　則

第五十三條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五十四條　光武十年法律第三號鑛業法及同年法律第四號砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第五十五條　從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十六條　本令施行ノ際現ニ存スル國ノ鑛業區域ニ付テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ區域ヲ鑛區トシ鑛業權設定ノ登錄ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十七條　本令施行ノ際現ニ存スル砂金ノ鑛區ニ付テハ第三條第二項及第三項ノ規定ヲ適用セス

第五十八條　本令施行前鑛物ノ種類ニ依リ光武十年法律第三號鑛業法第七條ノ規定ニ依リ鑛業ノ出願ヲ許可セサル地域ニ於テハ其ノ鑛物ニ付鑛業ノ出願ヲ許可セス又ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス鑛業ノ出願ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ鑛業ノ出願ヲ許否スル地域及鑛物ノ種類ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第五十九條　本令施行ノ際外國人又ハ外國法人カ享有スル鑛業權ニ付テハ第六條ノ規定ヲ適用セス但シ帝國臣民又ハ帝國法令ニ從ヒ成立シタル法人カ其ノ鑛業權ヲ承繼シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

朝鮮ニ於テ鑛業ヲ營ムコトヲ主タル目的トスル外國法人ハ朝鮮內ニ本店ヲ設クルニ非サレハ前項ノ鑛業權ヲ承繼スルコトヲ得ス

第六十條　光武十年法律第三號鑛業法第三十條及同年法律第四號砂鑛採取法第十六條ニ規定シタル特許鑛業ニ關シテハ特許條件ニ牴觸スルモノ及第四十一條第一項但書ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用ス

第六十一條　從前ノ規定ニ依リ鑛業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日內ニ大正五年分ノ鑛區稅不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ本令施行ノ月ヨリ月割ヲ以テ計算ス

砂金、砂錫又ハ砂鐵ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シテハ大正四年分ノ鑛產稅ヲ課セス

第六十二條　本令施行前爲シタル國有地ノタ

ングステン鑛、水鉛鑛、燐鑛、雲母、石綿、高嶺土又ハ硅砂ノ採取ノ許可ハ本令ニ依リ爲シタル鑛業ノ出願ノ許可ト看做ス但シ其ノ面積及期限ハ從前ノ例ニ依ル

第六十三條　本令公布ノ際國有ニ非サル土地ニ於テ蒼鉛鑛、タングステン鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、土瀝青、雲母、石綿、高嶺土又ハ硅砂ヲ採掘スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月間從前ノ例ニ依リ其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ期間內ニ本令ニ依リ鑛業ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ鑛業權設定ノ登錄ノ日迄、之ヲ許可セサルトキハ其ノ指令ノ日迄トス

前項ノ規定ニ依ル出願地ニ付テハ第九條第一項ノ規定ヲ適用セス

第六十四條　第六十條及第六十二條ニ規定スル鑛業權ノ期限ノ到來ニ因ル消滅ニ付テハ第二十條ノ規定ヲ適用セス

（大正五年朝鮮總督府令第八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

附　則（大正十五年制令第八號）

本令ハ大正十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル土石採取權ニシテ鑛石、明礬石、重晶石又ハ螢石ニ關スルモノニ付テハ其ノ權利ノ存續期間滿了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際國有ニ非サル土地ニ於テ鑛石、明礬石、重晶石又ハ螢石ヲ採掘スル者又ハ其ノ承繼人ハ本令施行ノ日ヨリ六月間其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得

但シ其ノ期間內ニ當該採掘者又ハ其ノ承繼人カ朝鮮鑛業令ニ依リ鑛業ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ鑛業權設定ノ登錄ノ日迄、之ヲ許可セサルトキハ其ノ指令ノ日迄其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得

第二項ノ土石採取權ノ存スル土地ニ付其ノ權利ノ存續期間內ニ當該土石採取權者又ハ其ノ承繼人カ鑛業ノ出願ヲ爲シタル場合及前項ノ規定ニ依リ採掘ヲ繼續スルコトヲ得ル土地ニ付前項ノ期間內ニ當該採掘者又ハ其ノ承繼人カ鑛業ノ出願ヲ爲シタル場合ハ朝鮮鑛業令第九條第一項ノ規定ヲ適用セス

●朝鮮鑛業令施行規則

（大正五年二月二十九日　朝鮮總督府令第九號）
（改正　大正一〇年第一一五號、一二年第九號）

朝鮮鑛業令施行規則左ノ通定ム

朝鮮鑛業令施行規則

第一條　鑛業ニ關スル願書、申請書、屆書又ハ圖面ハ一件每ニ之ヲ調製シ樣式ノ定アルモノハ其ノ樣式ニ準スヘシ

前項ノ書面又ハ圖面ハ地方官廳ヲ經由スルコトナク直ニ朝鮮總督府ニ差出スヘシ但シ本令中地方長官ヲ經由シ差出スヘキ旨若ハ地方長官ニ屆出ツヘキ旨ヲ定メタルモノ又ハ地方長官ノ許可、裁決若ハ決定ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

書面又ハ圖面ノ差出期限ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ期限迄ニ到達スルコトヲ要ス

第二條　朝鮮內ニ住所ヲ有セサル鑛業出願人又ハ其ノ代理人ハ朝鮮內ニ假住所ヲ定メ屆出ツヘシ但シ願書ニ假住所ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ハ共同鑛業出願人ニ付テハ其ノ代表者カ朝鮮內ニ住所ヲ有セサルトキニ限リ之ヲ適用ス

第三條　鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ送達スヘキ場合ニ於テ受信人ノ住所不分明ナルトキハ送達スヘキ書類ノ全文又ハ其ノ要旨ヲ三日間朝鮮總督府官報ニ揭載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ揭載ヲ了リタル日ヨリ十四日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

前條ノ假住所ノ屆出ナキトキ、其ノ變更ノ屆出ナキトキ又ハ假住所ニ於テ書類ヲ送達スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第四條　本令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ朝鮮鑛業令第五條第一項ニ揭クル者、鑛業出願ヲ爲サムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

本令ニ於テ關係人ト稱スルハ朝鮮鑛業令第三十二條、第三十三條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ使用又ハ收用スヘキ物又ハ權利ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第三十五條第二項又ハ第三十六條第三項ノ通知アリタル後使用又ハ收用スヘキ物又ハ權利ニ關シ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　書面又ハ圖面不完備ナルトキハ朝鮮總督ハ期限ヲ附シテ之ヲ修正又ハ補充セシム

第六條　鑛業出願地カ百萬坪又ハ二里ヲ超ユルトキハ願書ニ理由書ヲ添附スヘシ

第七條　鑛業出願地朝鮮鑛業令第四條第二項ニ規定スル場所ニ係ルトキハ願書ニ所轄官廳ノ許可ヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八條　鑛業出願人ハ其ノ願書ニ採掘セムトスル鑛床ニ關スル說明書ヲ添附スヘシ但シ砂金、砂錫及砂鐵ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ說明書ハ鑛物ノ標品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出願後十日內ニ之ヲ差出スヘシ

第九條　同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物每ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　朝鮮鑛業令第八條第一項ノ代表者屆ハ願書ニ添附シテ之ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ハ鑛業出願人ノ變更又ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ニ依リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス但シ鑛業權設定又ハ移轉ノ場合ニ於テハ登錄申請書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ改定シタルトキハ連署シテ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

朝鮮總督代表者ヲ指定シタルトキハ之ヲ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ通知スヘシ

第十一條　共同鑛業出願人代表者ニ依リテ出願人ノ名義變更ノ屆出、鑛業出願ノ取下、鑛業出願地ノ增減若ハ訂正ノ出願又ハ其ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ願書又ハ屆書ニ共同鑛業出願人ノ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ共同鑛業權者代表者ニ依リテ鑛區ノ增減、訂正、合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

朝鮮總督ノ命令ニ依リ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ヲ出願スル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第十二條　鑛業出願人又ハ鑛業權者實地調査ノ爲立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會シ調査事項ニ付說明ヲ爲スヘシ代理人ヲシテ立會セシムルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ携帶セシムヘシ

第十三條　公安保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ他人ノ鑛區ニ接近シテ鑛區ヲ定ムル鑛業ノ出願人ニ對シ鑛區間ニ相當ノ距離ヲ置カシムルコトアルヘシ

第十四條　鑛業出願人ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ新舊出願人連署シテ屆出ツヘシ

鑛業出願人ノ相續人ハ戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ屆出ノ日ヨリ三十日內ニ屆出テ其ノ名義ヲ承繼スルコトヲ得其ノ屆出アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ名義ヲ承繼シタルモノト看做ス

前項ノ屆書ニハ相續開始ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人ノ名義ト爲サムトスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

鑛業出願人又ハ其ノ代理人氏名、名稱、住所又ハ假住所ヲ變更シタルトキハ三十日內ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ法人ノ代表者又ハ代表者ノ氏名ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ氏名、名稱又ハ法人ノ代表者ノ變更屆ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十五條　朝鮮總督ハ期限ヲ附シ鑛業出願人ニ鑛業ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條　鑛業出願地又ハ鑛區ノ增減ヲ出願スル場合ニ於テハ鑛區圖ニ增減スヘキ區域ヲ明示スヘシ

鑛業出願地又ハ鑛區ノ增加ノ出願ニ付テハ第六條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

鑛區ノ減少ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第十七條　鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ヲ出願スル場合ニハ其ノ願書ニ理由書ヲ添附スヘシ但シ朝鮮總督ノ命令ニ依リ訂正ヲ出願スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ヲ出願スル場合ニ於テハ鑛區圖ニ訂正スヘキ區域ヲ明示スヘシ

鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ニ依リ增加スヘキ區域朝鮮鑛業令第四條第二項ニ規定スル場所ニ係ルトキハ第七條ノ規定ヲ準用ス

第十八條　鑛區ノ合併又ハ分割ヲ爲サムトスル者ハ合併又ハ分割スヘキ區域ヲ明示スル圖面ヲ添附スヘシ鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附スヘシ

鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ

第六條ノ規定ハ鑛區ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ鑛業權者ハ願書ニ理由書ヲ添附シ出願スヘシ

第二十條　鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ鑛業出願人ニ通知スヘシ

鑛業出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期限迄ニ鑛業權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ指定ノ期限內ニ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキハ出願ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ鑛區ノ訂正、增減、合併、分割又ハ鑛種名更正ノ出願ノ許可ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　鑛區ノ境界、基點、面積又ハ所在地ノ名稱若ハ地目カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ鑛區圖ノ修正ヲ要スルモノト認メタルトキハ期限ヲ附シテ修正鑛區圖ノ提出ヲ命スヘシ

前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖完備シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ第一項又ハ第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期限迄ニ鑛業權ノ表示ノ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

第二十二條　左ノ場合ニ於テハ願書又ハ屆書ヲ受理セス

一　出願ノ鑛物カ朝鮮鑛業令第一條第二項ノ規定ニ該當セサルトキ
二　圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
三　手數料ヲ納付セサルトキ
四　第十一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ
五　第十四條第一項ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
六　第十四條第三項、第十六條第三項又ハ第十八條第三項ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ協定書ヲ添附セサルトキ

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ願書又ハ屆書ヲ却下ス

一　第五條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
二　第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル期日ニ立會ヲ爲ササルトキ又ハ實地調査ノ際其ノ出願區域ヲ明示スルコト能ハス若ハ調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ
三　願書ニ添附シタル圖面カ實地ト著シク相違シ其ノ區域ヲ確認スルコト能ハサルトキ
四　第十五條ノ規定ニ依リ指定シタル期限內ニ設計書ヲ提出セサルトキ

第二十四條　相續ニ因リ鑛業權者又ハ抵當權者ト爲リタル者ハ戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ屆出ノ日ヨリ三十日內ニ其ノ登錄ヲ申請スヘシ

鑛業權者又ハ抵當權者氏名、名稱、住所又ハ假住所ヲ變更シタルトキハ三十日內ニ其ノ登錄ヲ申請スヘシ

鑛業權者又ハ抵當權者法人ナル場合ニ於テ其ノ代表者又ハ代表者ノ氏名ヲ變更シタルトキハ三十日內ニ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ屆出ツヘシ

鑛業權者ノ代理人氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ三十日內ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ氏名變更ノ屆出ヲ爲ス場合ニハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十五條　鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ十日內ニ其ノ所在地、名稱及著手ノ年月日ヲ記載シタル屆書ヲ差出スヘシ鑛業事務所ヲ移轉シタルトキ亦同シ

第二十六條　鑛業權者其ノ他ノ利害關係人鄰接セル他人ノ鑛區ニ付實地調査ヲ必要トスルトキハ願書ニ調査區域及其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添附シ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供給スヘシ

第二十七條　鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ定メ連署シテ屆出ツヘシ

前項ノ代理人ハ朝鮮鑛業令及本令ノ規定ニ依リ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第二十八條　鑛業權者ハ鑛區圖、坑內實測圖、鑛業簿及鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ施業案又ハ鑛夫ノ保護取締ニ關スル規定ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ施業案又ハ規定ニ付亦同シ

第二十九條　坑內實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ每月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ

坑內實測圖ノ複本ハ每年末日迄ノ分ヲ翌年二月迄ニ差出スヘシ

第三十條　鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、販賣數量、販賣價額、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

第三十一條　鑛業明細表ハ每年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ差出スヘシ

第三十二條　鑛夫名簿ニハ鑛夫ノ氏名、生年月日、本籍、履歷ノ要領、業務ノ種類、賃金、雇傭及解傭年月日並雇傭期間ヲ記載スヘシ其ノ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ記入スヘシ

第三十三條　坑內實測圖ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

坑內實測圖ノ複本、鑛業明細表又ハ前項ノ屆書ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ登錄ノ日ヨリ三十日內ニ之ヲ差出スヘシ

第三十四條　二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前五條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第三十五條　朝鮮鑛業令第三十二條ノ規定ニ依リ土地ノ使用又ハ收用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱、地番、地目、面積、關係人ノ氏名又ハ名稱、住所、使用又ハ收用ノ目的及時期、使用又ハ收用ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル申請書ニ關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ申請スヘシ土地使用ノ許可ヲ申請スル場合ニハ使用ノ期間ヲモ記載スヘシ

土地ノ使用又ハ收用ノ許可ヲ受ケタル者ハ朝鮮鑛業令第三十二條第二項ニ規定スル事項ト共ニ事業ノ種類及使用又ハ收用ニ關スル協議ノ方法ヲ關係人ニ通知スヘシ土地ノ使用ノ場合ニ於テハ使用ノ期間ヲモ通知スヘシ

第三十六條　朝鮮鑛業令第三十三條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ使用ノ目的、使用ヲ必要トスル事由、土地ノ名稱、區域及占有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シテ地方長官ニ申請スヘシ

前項ノ申請ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ土地ノ使用ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ直ニ使用ノ區域、使用ノ目的及許可ノ年月日ヲ關係人ニ通知スヘシ

第三十七條　朝鮮鑛業令第三十二條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ收用ノ許可アリタル後土地ヲ使用若ハ收用スル必要ナキニ至リタルトキハ直ニ地方長官ヲ經由シテ屆出テ同時ニ關係人ニ通知スヘシ

朝鮮鑛業令第三十三條ノ規定ニ依ル土地ノ使用ノ許可アリタル後土地ヲ使用スル必要ナキニ至リタルトキハ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十八條　土地ノ使用若ハ收用又ハ之ニ關スル補償ニ付協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル爲地方長官ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ裁決申請書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　鑛業權ノ登錄番號
三　使用又ハ收用ニ係ル土地ノ名稱、地目、面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量及關係人ノ氏名又ハ名稱、住所但シ土地、物件カ分割ヲ來ス場合ニ於テハ

其ノ全部ノ面積、建坪ヲモ記載スルコト

四　損失補償ノ見積額及其ノ內譯

五　使用若ハ收用ノ時期、使用ノ期間

六　申請ノ目的及理由

前項ノ申請書ニハ事業計畫書及圖面、關係人ト交渉シタル始末書若ハ交渉ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面竝對手人ノ數ニ相當スル裁決申請書ノ副本ヲ添附スヘシ

朝鮮鑛業令第三十五條ノ規定ニ依ル補償ニ關スル裁決申請書ニハ土地ノ現狀ヲ記載シタル書面及圖面ヲ添附スヘシ此ノ場合ニハ事業計畫書及其ノ圖面ノ添附ヲ要セス

地方長官第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ關係人ニ交付スヘシ

關係人ハ申請書ノ副本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

地方長官ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後十四日內ニ裁決ヲ爲スヘシ

前項ノ期間內ニ裁決ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ朝鮮總督ハ地方長官ノ申請ニ依リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

朝鮮鑛業令第五條第二項ノ承諾ヲ拒ミ又ハ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル爲地方長官ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ裁決申請書ニ申請人ノ氏名又ハ名稱及住所、朝鮮鑛業令第五條第一項ニ揭クル者ノ氏名又ハ名稱及住所、申請ノ目的及理由ヲ記載スヘシ

第二項、第四項乃至第七項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲ス必要アルトキハ立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

測量又ハ調査ノ爲障碍物ヲ除却スル必要アルトキハ障碍物ノ種類、存在ノ場所、豫定價格、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱ヲ具シ地方長官ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲サムトスルトキハ豫メ占有者ニ立入ルヘキ日時及場所ヲ通知スヘシ

第一項ノ許可ヲ受ケタル者障碍物ヲ除却スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ障碍物ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

他人ノ土地ニ立入リ測量若ハ調査ヲ爲シ又ハ障碍物ヲ除却スル場合ニ於テハ地方長官ヨリ受ケタル許可證ヲ携帶スヘシ

前項ニ規定スル行爲ニ因リ土地ノ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ニ及ホシタル損失ハ鑛業出願人又ハ鑛業權者之ヲ補償スヘシ補償ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第一項ニ規定スル土地、物件ノ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第四十條　地方長官ノ裁決又ハ決定ニ付テハ土地收用令施行規則第十三條乃至第十六條ノ規定ヲ準用ス

第四十一條　本令中土地ノ使用又ハ收用ニ關スル規定及其ノ罰則ニ關スル規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利、水ノ使用ニ關スル權利又ハ工作物其ノ他ノ定著物ノ使用又ハ收用ニ關シ之ヲ準用ス

第四十二條　朝鮮鑛業令第三十七條ニ規定スル事項ハ關係地方長官協議ノ上之ヲ處分スヘシ協議調ハサルトキハ朝鮮總督ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十三條　鑛業ニ關スル出願、請求又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　鑛業ノ出願	每一件	百圓
二　鑛業出願人ノ名義變更屆	每一件	五十圓
三　相續ニ因ル鑛業出願人ノ名義承繼屆	每一件	十圓
四　鑛業出願地又ハ鑛區ノ增區又ハ增區ト減區トヲ包含スル出願	每一件	五十圓
五　鑛業出願地又ハ鑛區ノ減區ノ出願	每一件	五圓
六　朝鮮鑛業令第十二條、第十三條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル訂正ノ出願	每一件	三十圓
七　鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願	每一件	五十圓
八　鑛種名更正ノ出願	每一件	五圓
九　第二十六條ノ規定ニ依ル實地調査ノ出願	每一件	百圓
十　朝鮮鑛業令第三十二條又ハ第四十條ノ規定ニ依ル使用又ハ收用ノ出願	每一件	二十圓
十一　第三十九條ノ規定ニ依ル土地ノ立入又ハ障碍物除却ノ出願	每一件	十五圓
十二　鑛業出願地及鑛區地名臺帳閱覽ノ請求	一部ニ付每一時間	五圓
十三　鑛業出願圖面閱覽ノ請求	一件ニ付每一時間	二圓

手數料ハ收入印紙ヲ願書、請求書又ハ屆書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ヲ貼附シタル願書、請求書又ハ屆書ハ郵便ヲ以テ差出ス場合ニハ郵便物ノ表面ニ鑛業書類ナルコトヲ朱書シ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

第四十四條　第十四條第四項、第二十一條第四項、第二十四條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第二十九條第二項、第三十一條、第三十三條、第三十六條第三項、第三十七條又ハ第三十九條第二項第三項第四項ノ規定ニ違背シタル者、第十二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ說明ヲ爲ササル鑛業權者、第二十一條第二項ノ規定ニ依リ命セラレタル期間內ニ鑛區圖ヲ差出ササル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條　本令ハ前二條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十六條　本令ハ朝鮮鑛業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條　本令施行前光武十年農商工部令第四十三號鑛業法施行細則及同年農商工部令第四十六號砂鑛採取法施行細則ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十八條　朝鮮鑛業令第六十三條ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　事業ノ現狀ヲ詳記セル書類

二　朝鮮鑛業令公布前ヨリ出願鑛物ヲ採掘シタルコトヲ證スル書類

樣式第一號

何鑛鑛業願

何道何郡何面
面積何坪（何川筋延長何里）

右箇所ニ於テ何鑛鑛業許可相成度鑛區圖面竝鑛床說明書（鑛物標品）相添此段相願候也

年　月　日
住所
出願人　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　願書ハ一通トシ圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　共同鑛業出願ノ場合ニハ願書ト共ニ代表者屆ヲ差出スカ又ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フヘシ
三　朝鮮內ニ住所ヲ有セサルトキハ願書ト共ニ朝鮮內ニ於ケル假住所屆ヲ差出スカ又ハ願書ニ假住所ヲ表示シテ屆出ニ代フヘシ
四　手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
五　砂金、砂錫又ハ砂鐵ノ出願ノ場合ニ於テハ鑛床說明書又ハ鑛物標品ノ添附ヲ要セス

樣式第二號

何鑛鑛業出願地增減區（增區）（減區）願

何年何月何日出願
何道何郡何面何鑛鑛業出願地何坪（何川筋延長何里）
增區　何郡何面何坪（延長何里）
減區　何郡何面何坪（延長何里）
差引（合計）何坪（延長何里）

右鑛業出願地增減區（增區）（減區）許可相成度圖面竝鑛床說明書（鑛物標品）相添此段相願候也

年　月　日
住所
出願人　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　願書ハ一通トシ圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ニハ共同出願人ノ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
三　手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
四　減區出願又ハ砂金、砂錫若ハ砂鐵ノ出願ノ場合ニ於テハ鑛床說明書又ハ鑛物標品ノ添附ヲ要セス

樣式第三號

何鑛鑛區增減區（增區）（減區）願

鑛業權登錄第何號
何道何郡何鑛區何坪（何川筋延長何里）
增區　何郡何面何坪（延長何里）
減區　何郡何面何坪（延長何里）
差引（合計）何坪（延長何里）

右鑛區增減區（增區）（減區）許可相成度圖面竝鑛床說明書（鑛物標品）相添此段相願候也

年　月　日
住所
鑛業權者　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　願書ハ一通トシ圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ニハ共同鑛業權者ノ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
三　手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
四　抵當權ノ設定アル鑛區ノ減少ノ場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
五　減區出願又ハ砂金、砂錫若ハ砂鐵ノ出願ノ場合ニ於テハ鑛床說明書又ハ鑛物標品ノ添附ヲ要セス

樣式第四號

何鑛鑛業出願地（何鑛鑛區）訂正願

何年何月何日出願（鑛業權登錄第何號）
何道何郡何面何鑛出願地（何鑛鑛區）何坪（何川筋延長何里）
增區　何郡何面何坪（延長何里）
減區　何郡何面何坪（延長何里）
差引（合計）何坪（延長何里）

右鑛業出願地（鑛區）訂正許可相成度圖面竝理由書相添此段相願候也

年　月　日
住所
出願人（鑛業權者）　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　願書ハ一通トシ圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ニハ共同鑛業出願人若ハ共同鑛業權者ノ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
三　朝鮮總督ノ命令ニ依リ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ヲ出願スル場合ニハ（二）ノ書面及理由書ノ添附ヲ要セス此ノ場合ニ於テハ命令何號ニ依ルモノナルコトヲ記載スヘシ
四　手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

樣式第五號

鑛業出願人名義變更屆

何年何月何日出願
何道何郡何面何鑛鑛業出願地何坪（何川筋延長何里）

右鑛業出願ニ付出願人名義ヲ何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段及屆出候也

年　月　日
住所
舊出願人　氏名（名稱）　印
住所
新出願人　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　屆書ハ一通トシ名義變更ニ依リ出願人二人以上トナリタル場合ニハ屆書ト共ニ代表者屆ヲ差出スカ又ハ屆書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フヘシ
二　朝鮮內ニ住所ヲ有セサル新出願人又ハ代表者ハ屆書ト共ニ假住所屆ヲ差出スカ又ハ屆書ニ假住所ヲ表示シテ屆出ニ代フヘシ
三　舊共同出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
四　手數料ハ收入印紙ヲ屆書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

樣式第六號

鑛業出願相續屆

何年何月何日出願
何道何郡何面鑛業出願地何坪（何川筋延長何里）

右鑛業出願人何某死亡（其ノ他相續開始ノ原因ヲ記載ス）ニ因リ相續致候間戶籍謄本（民籍謄本其ノ他相續ニ關スル證明書）相添此段及御屆候也

年　月　日
住所
相續人　氏名　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　屆書ハ一通トシ戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ屆出ノ日ヨリ三十日內ニ屆出ツヘシ
二　同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人ノ名義ト爲サムトスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スヘシ
三　手數料ハ收入印紙ヲ屆書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

樣式第七號

何鑛鑛區合併願

一　鑛業權登錄第何號
何道何郡何面何鑛鑛區何坪（何川筋延長何里）
一　鑛業權登錄第何號
何道何郡何面何鑛鑛區何坪（何川筋延長何里）
合計何坪（延長何里）

右鑛區合併許可相成度圖面竝理由書相添此段相願候也

年　月　日
住所
鑛業權者　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　願書ハ一通トシ圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ニハ抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
三　代表者ニテ出願スル場合ニハ共同鑛業權者ノ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
四　手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

樣式第八號

何鑛鑛區分割願

鑛業權登錄第何號
何道何郡何面何鑛鑛區何坪（何川筋延長何里）
此ノ分割
何道何郡何面何坪（何川筋延長何里）
何道何郡何面何坪（何川筋延長何里）

右鑛區分割許可相成度圖面竝理由書相添此段相願候也

年　月　日
住所
鑛業權者　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意
一　願書ハ一通トシ圖面ハ分割區域每ニ各五葉ヲ添附シテ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ニハ抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
三　代表者ニテ出願スル場合ニハ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ
四　手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

樣式第九號

鑛種名更正願

鑛業權登錄第何號

右鑛業權ノ鑛種ハ何鑛トシテ登錄相成候處何鑛ト更正許可相成度理由書相添此段相願候也

年　月　日
住所
鑛業權者　氏名（名稱）　印
朝鮮總督　氏名殿

注意　願書ハ一通トシ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ添附スヘシ

樣式第十號

何鑛鑛區圖　　縮尺何分ノ一　　何年何月何日出願

住所

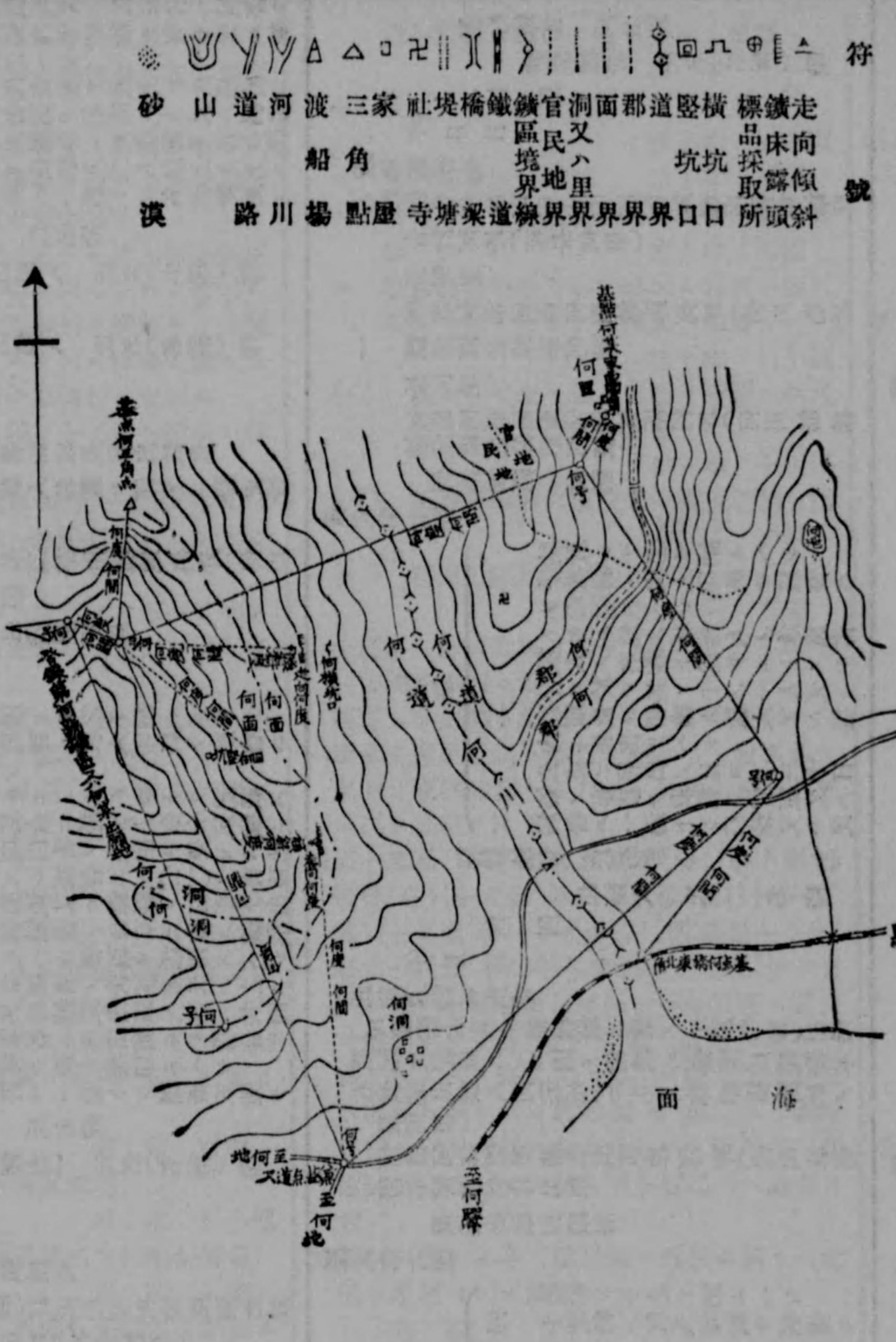
出願人　氏　名（名稱）印

何道何郡何面

何洞（里）國有地又ハ民有地地目

何洞（里）國有地又ハ民有地地目

何坪


符號
走向傾斜
鑛床露頭
標品採取所
横坑口
竪坑口
道界
郡界
面界
洞又ハ里界
官民地界
鑛區境界線
鐵道
橋梁
堤塘
社寺
家屋
三角點
渡船場
河川
道路
山
砂漠
基點何某家屋角點
何里
何洞
何面
至何驛
至何地
海
面

注意

一　圖面用紙ハ美濃紙ヲ用ウヘシ

二　鉛筆又ハインキヲ使用スヘカラス

三　縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一トスヘシ

四　圖面ハ左ノ色別ヲ爲スヘシ

山林（淡綠色）　畓（淡藍色）　田（黃色）　垈（褐色）　水（濃藍色）　原野（淡鼠色）

五　面積ハ坪ヲ單位トシ坪以下ハ四捨五入スヘシ

六　基點ハ橋梁、家屋、辻、川股、標石其ノ他顯著ニシテ容易ニ移動シ難キ物體ニ箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定シ且其ノ物體ノ特徵及名稱ヲ附記スヘシ

七　基點及測點附近ノ地形及地物ハ特ニ詳細ニ之ヲ圖示スヘシ

八　他人ノ鑛區ト重複スルトキ、五十間内ニ他ノ鑛區アルトキハ之トノ關係ヲ圖示スヘシ

九　區域内及其ノ附近ニ在ル鑛床ノ露頭及其ノ走向傾斜ハ之ヲ圖示スヘシ

十　朝鮮鑛業令第四條及第五條ニ記載シタルモノニシテ區域内及其ノ附近ニ在ルモノハ之ヲ圖示スヘシ

十一　鑛業出願地又ハ鑛區ノ增減、訂正若ハ鑛區ノ分合ノ圖面ニハ增減、訂正又ハ分合スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ

樣式第十一號

砂金（砂錫）（砂鐵）鑛區圖　　縮尺何分ノ一　　何年何月何日出願

何道何郡何面何洞（里）　何川筋

住所

出願人　氏　名（名稱）印

延長何里何町何間

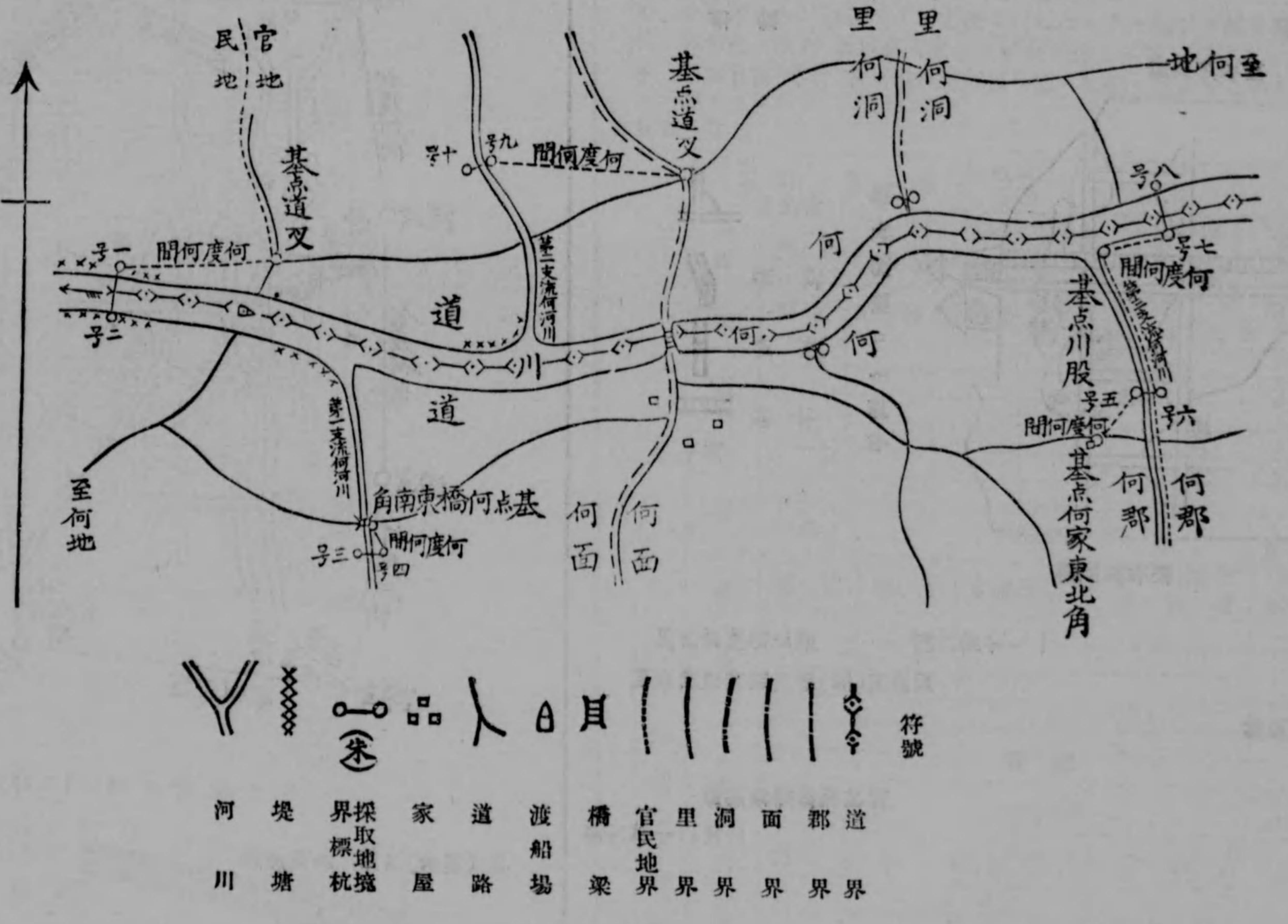
内

幹流　何川何里何町何間

第一支流　何川何里何町何間

第二支流　何川何里何町何間

第三支流　何川何里何町何間


至何地
何里
何洞
官地
民地
基点道又
何度何間
一号
二号
三号
四号
五号
六号
七号
八号
九号
十号
道
何
何面
至何地
基点何橋東南角
第一支流何河川
基点川股
基点何家東北角
何郡
符號
道界
郡界
面界
洞界
里界
官民地界
橋梁
渡船場
道路
家屋
採取地境界標杭
堤塘
河川

注意

一　圖面用紙ハ美濃紙ヲ用ウヘシ

二　鉛筆又ハインキヲ使用スヘカラス

三　縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一トスヘシ

四　幹流支流トモ限界測點附近ニ各一箇所ツツ基點ヲ設ケ測點ニ連結スヘシ

五　基點ハ橋梁、家屋、辻、川股、標石其ノ他近傍ニ在ル顯著ニシテ容易ニ移動シ難キ物體ヲ選定シ且其ノ特徵及名稱ヲ附記スヘシ

六　基點及測點附近ノ地形及地物ハ特ニ詳細ニ之ヲ圖示スヘシ

七　五十間内ニ他ノ鑛區アルトキハ之トノ關係ヲ圖示スヘシ

八　朝鮮鑛業令第四條及第五條ニ記載シタルモノニシテ區域内及其ノ附近ニ在ルモノハ之ヲ圖示スヘシ

九　鑛業出願地又ハ鑛區ノ增減、訂正若ハ鑛區ノ分合ノ圖面ニハ增減、訂正又ハ分合スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ

十　肩書ニハ河川ノ兩岸ニ接スル道郡面洞（里）名ヲ記載スヘシ

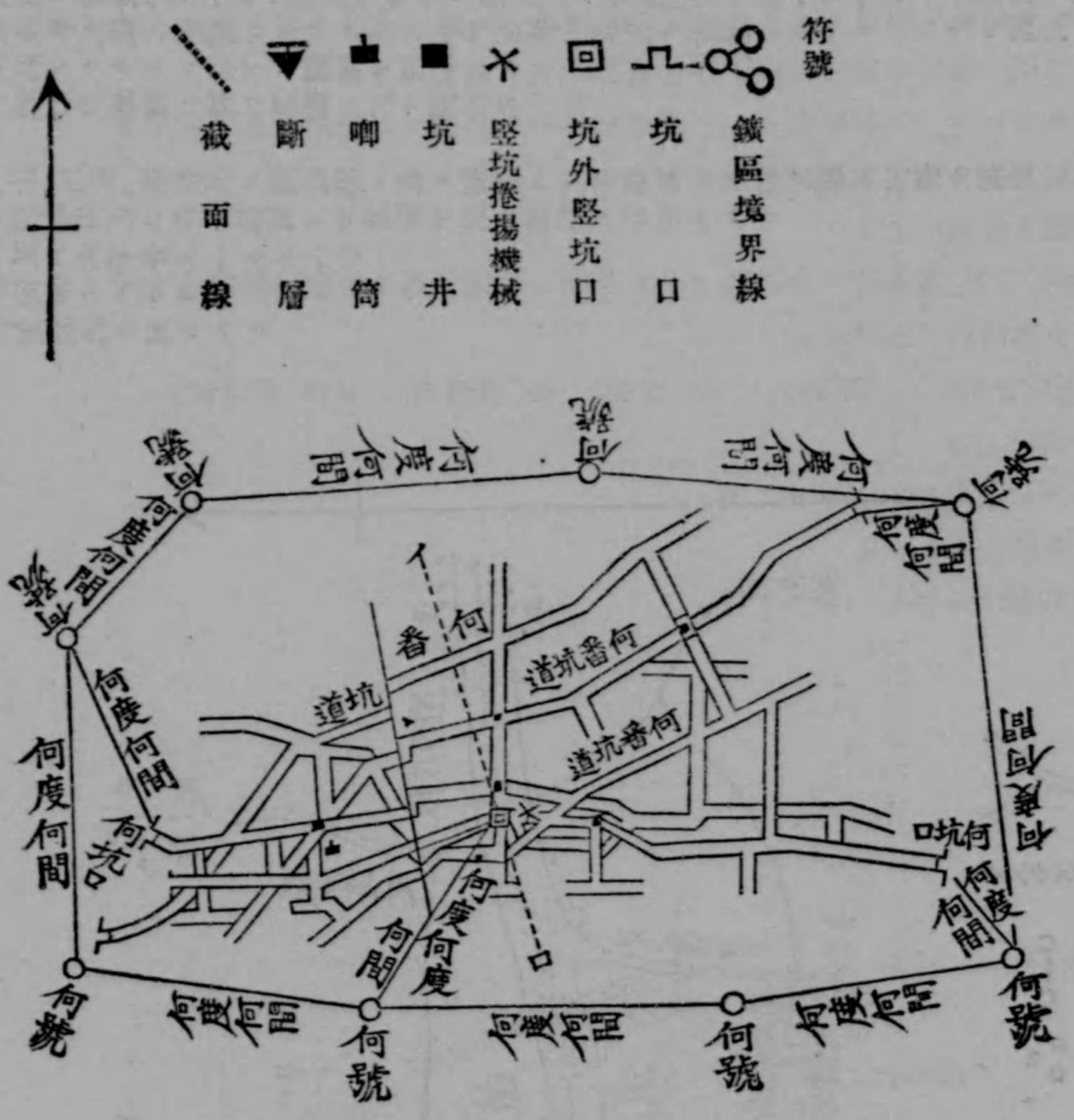
様式第十二號甲

鑛業權登錄第何號

何道何郡何面何洞（里）何鑛區
坑內實測平面圖　　縮尺何分ノ一

住所

鑛業權者　氏名（名稱）印


符號
鑛區境界線
坑口
坑外竪坑口
竪坑捲揚機械
坑井
喞筒
斷層
截面線
何號
何度何間
何番坑道
何坑口
何坑口
イ
ロ

注意

一　坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區別スヘシ

二　圖面縮尺ハ千二百分ノ一トスヘシ但シ軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ此ノ尺度ニテ圖上ニ顯ハシ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ウヘシ

三　木造堰ハ黄色、煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

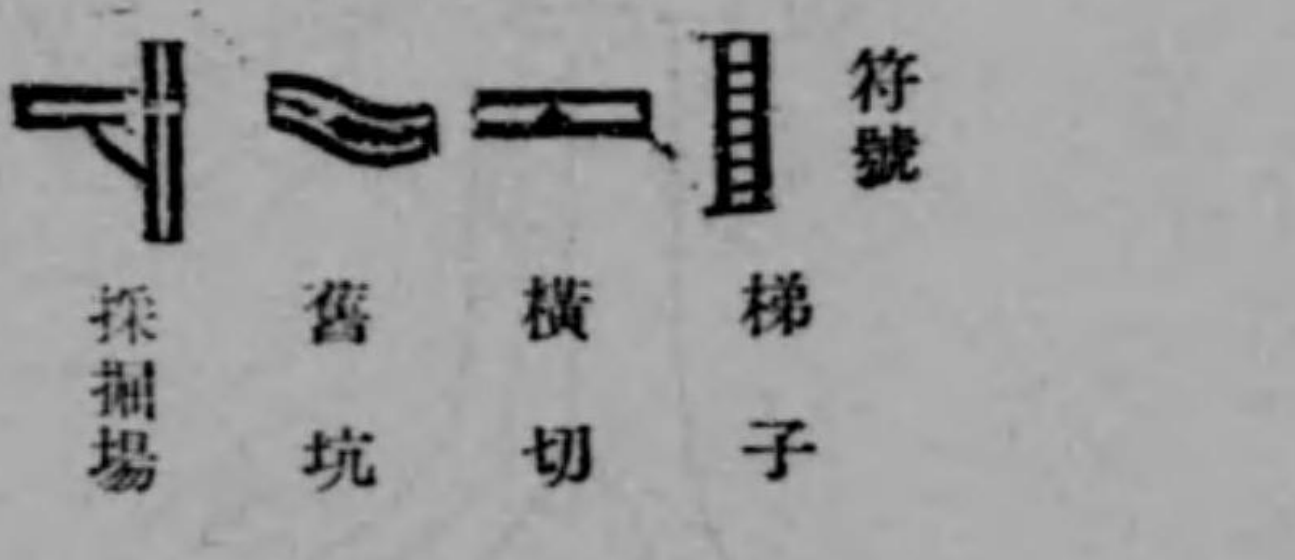
様式第十二號乙

鑛業權登錄第何號

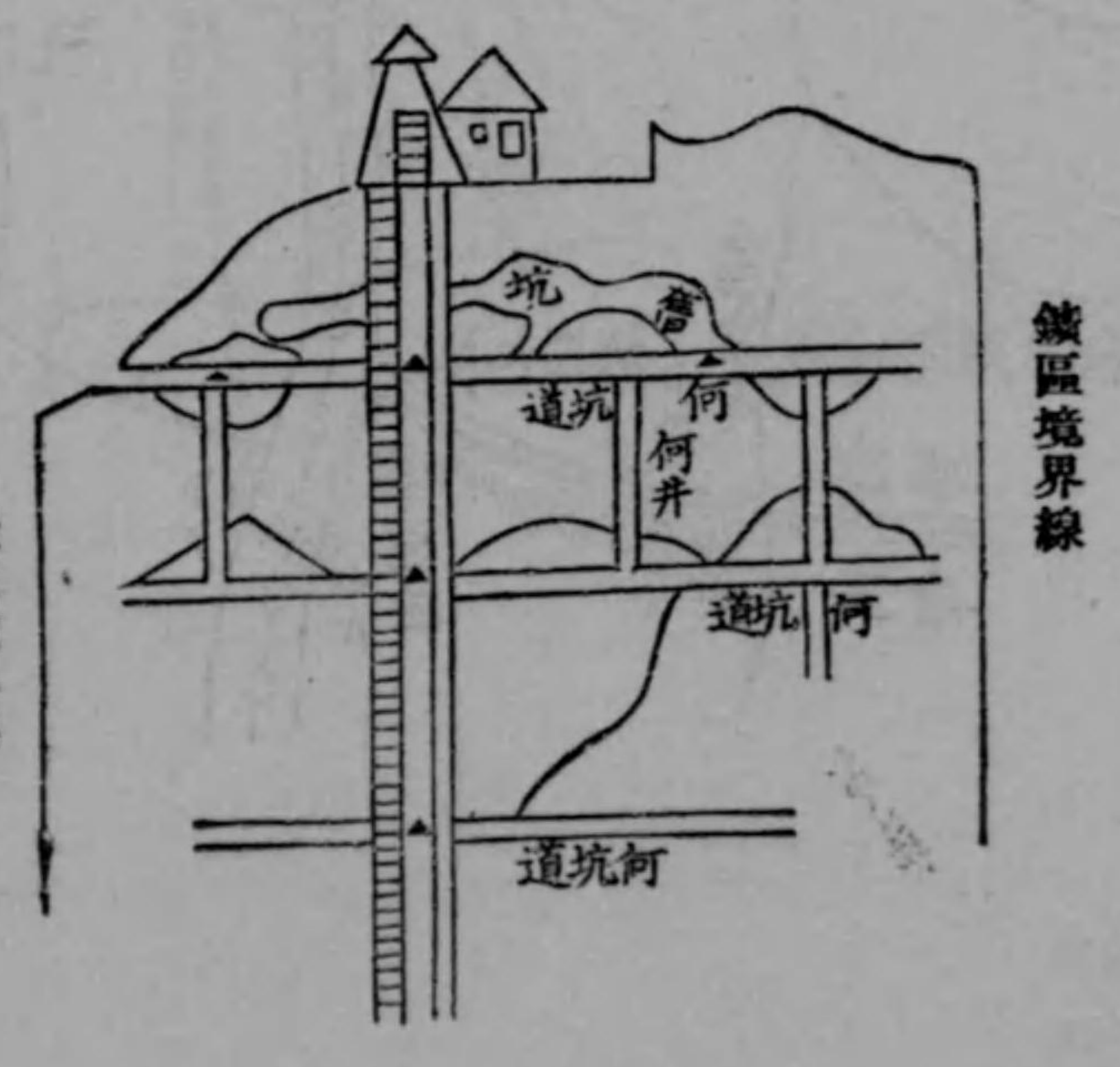
何道何郡何面何洞（里）何鑛區
坑內實測截面圖　　縮尺何分ノ一

住所

鑛業權者　氏名（名稱）印


符號
梯子
横切
舊坑
採掘場

甲圖イロ線截面圖


鑛區境界線
鑛區境界線
舊坑
何坑道
何井
何坑道
何坑道

注意

一　坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區別スヘシ

二　圖面縮尺ハ千二百分ノ一トスヘシ但シ軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ此ノ尺度ニテ圖上ニ顯ハシ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ウヘシ

三　木造堰ハ黄色、煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

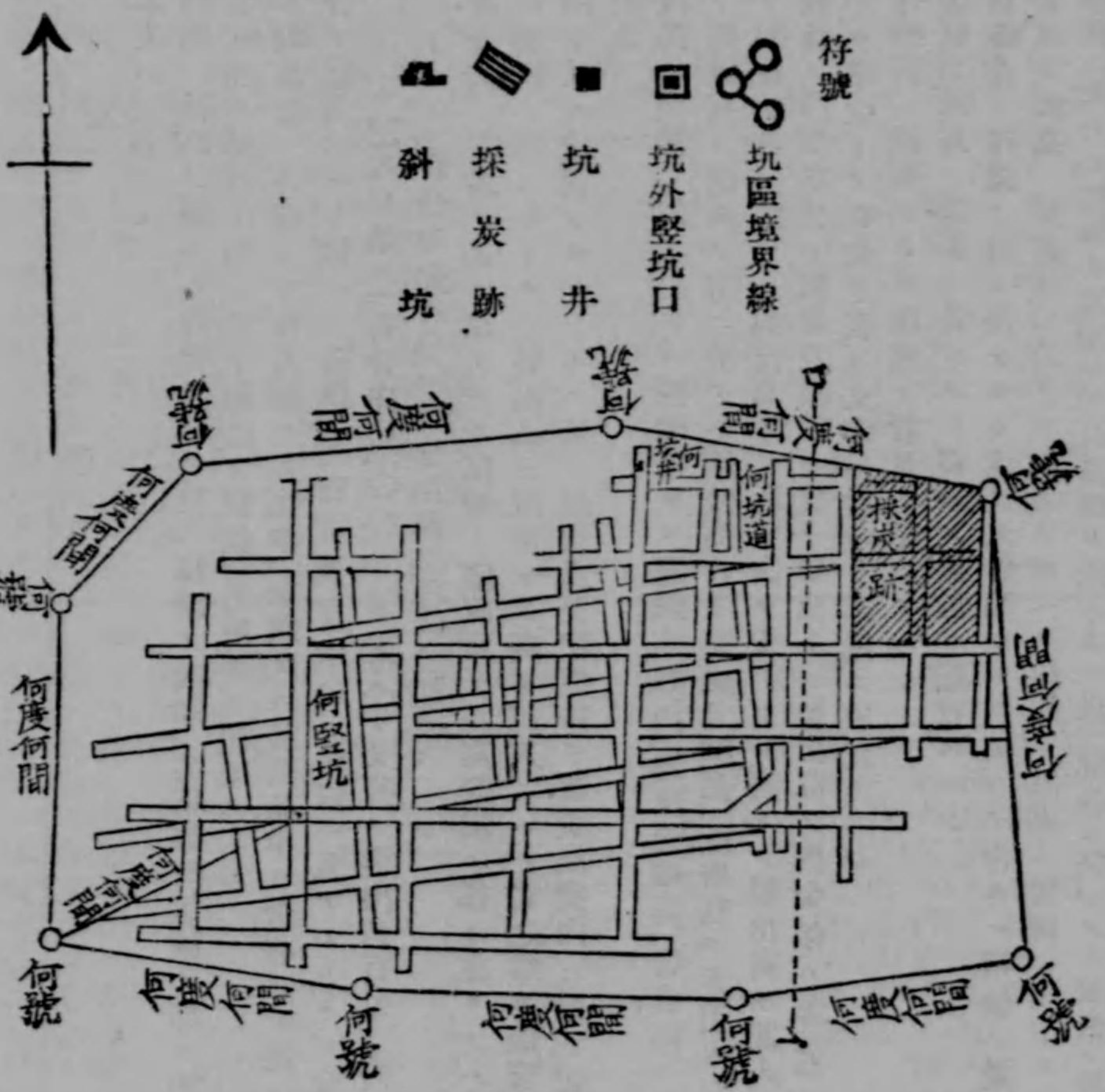
様式第十三號

鑛業權登錄第何號

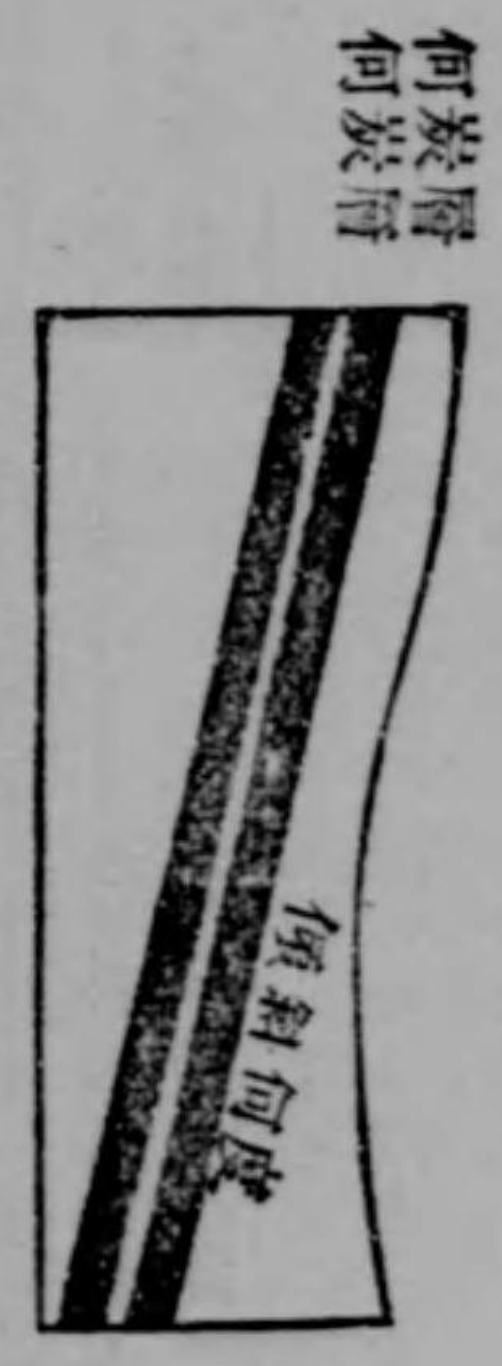
何道何郡何面何洞（里）石炭鑛區
坑內實測圖　　縮尺何分ノ一

住所

鑛業權者　氏名（名稱）印


符號
坑區境界線
坑外竪坑口
坑井
採炭跡
斜坑
何號
何度何間
何坑道
何井坑
採炭跡
何竪坑
イ
ロ

圖面截線ロイ


何炭層
何炭層
傾斜何度

炭層柱狀圖縮尺　何分一

注意

一　石炭鑛區ニ限リ本様式ニ依ルヘシ

二　平面圖ニハ坑道ヲ著色シテ各炭層ヲ區別スヘシ

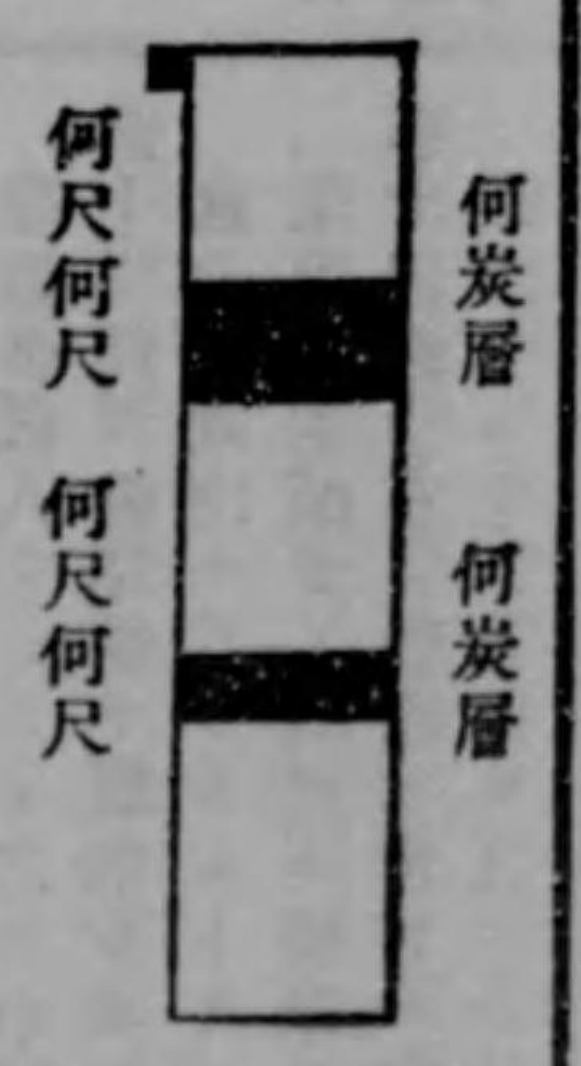
三　採掘セシ部分ハ坑道ト同色ノ平行線ヲ以テ顯スヘシ

四　炭層中ニ挾物アラハ柱狀圖ニ之ヲ顯スヘシ

五　平面圖ハ千二百分ノ一柱狀圖ハ二百分ノ一ノ縮尺ニ依リ調製スヘシ

六　木造堰ハ黄色煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

七　捲揚機械、喞筒、煽風器及軌道其ノ他ノ設備ヲ爲シタルトキハ適宜ノ符號ヲ用ヰテ之ヲ顯スヘシ


何炭層
何炭層
何尺何尺
何尺何尺

様式第十四號

鑛業權登錄	第何號	面積又ハ延長	何坪（延長何里）
鑛種	何鑛	位置名稱	何道何郡何面 何鑛山
鑛業權者又ハ代表者	住所 何某㊞		

何年鑛業明細表

採鑛ノ部

種別	越高	採鑛高	選鑛元鑛高	製錬元鑛高	販賣高 數量	販賣高 價格	平均品位	殘高

工數	
工業日數	
六月三十日現在使役人員	

選鑛ノ部

種別	越高	精鑛高	平均品位	製錬元鑛高	販賣高 數量	販賣高 價格	殘高

工數	
工業日數	
六月三十日現在使役人員	

製錬ノ部

種別	越高	製出高	平均品位	販賣高 數量	販賣高 價格	殘高

部	記事
工數	
工業日數	
六月三十日現在使役人員	

注意

一 本表ハ三通トス

二 種別 種別ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テ粗鑛ノ種類、名稱等ヲ選鑛ノ部ニ於テ精鑛ノ種類、名稱等ヲ製鍊ノ部ニ於テ製品ノ種類、名稱等ヲ記載スヘシ

三 平均品位 各部トモ相當欄ニ各粗鑛、精鑛又ハ製出品中ニ含有スル純成分ノ百分率割合ヲ記入スヘシ例ヘハ金銀鑛石百貫目中金三匁銀一匁アルトキハ金ハ「百分中〇、〇〇三」ト記入シ銀ハ「百分中〇、〇〇一」ト記入シ又其ノ製出品百匁ノ内金八十銀二十アルトキハ「百分中金八〇」「百分中銀二〇」ト記入スヘシ

四 販賣高 採鑛ノ部ニ在リテハ粗鑛ノ儘販賣セシ高選鑛ノ部ニ在リテハ精鑛ヲ販賣セシ高製鍊ノ部ニ在リテハ製出品ヲ販賣セシ高ヲ記入スヘシ若之等ヲ販賣セスシテ自ラ使用シ又ハ消費シタルトキハ其ノ數量及見積價格ヲ販賣高欄內ニ掲ケ記事欄ニ其ノ旨ヲ記述スヘシ

五 殘高 採鑛ノ部ニ於テハ採鑛高ヨリ選鑛元鑛高、製鍊元鑛高、販賣高ヲ差引キタル殘リノ採鑛高ヲ選鑛ノ部ニ於テハ精鑛高ヨリ製鍊元鑛高、販賣高ヲ差引タル殘リノ精鑛高ヲ製鍊ノ部ニ於テハ製出高ヨリ販賣高ヲ差引タル殘リノ製出高ヲ記入スヘシ

六 數量ノ計算單位 粗鑛及精鑛ハ貫ヲ單位トシ製出品ノ內金銀ハ匁、石油ハ升其ノ他ハ斤ヲ單位トス單位ヲ表ス文字ハ數字ノ末尾ニ附記スヘシ

七 採鑛高 採掘シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

八 選鑛元鑛高 選鑛ニ供シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

九 精鑛高 選鑛ノ部ニ掲ケタル選鑛元鑛高ヨリ選鑛シテ得タル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

十 製鍊元鑛高 採鑛部ニ於テハ選鑛ヲ加ヘス粗鑛ノ儘直ニ製鍊ニ供シタル鑛石ノ數量選鑛部ニ於テハ粗鑛ヲ選鑛シ一旦精鑛ト爲シタル後ニ製鍊ニ供シタル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

十一 買入鑛石 鑛石ヲ買入レ自己掘採ノ鑛物ト合併處理シタルトキハ各該當欄ニ區別シテ朱書シ其ノ買入先ヲ記事欄ニ記載スヘシ

●朝鮮鑛業登錄規則

（大正五年二月二十九日朝鮮總督府令第十號）

朝鮮鑛業登錄規則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 鑛業ニ關スル登錄ハ朝鮮總督府ニ於テ之ヲ爲ス

第二條 同一ノ鑛業權ニ關シテ登錄シタル權利ノ順位ニ付法令ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第三條 附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依ル但シ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登錄ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第二章 登錄ニ關スル帳簿

第四條 鑛業原簿ハ第一號樣式ニ依リ之ヲ調製シ一鑛區ニ付一用紙ヲ備フヘシ

鑛區圖ニ付テハ鑛區圖綴込帳ヲ設ケ鑛業原簿ノ一部トス

第五條 鑛區圖綴込帳ハ登錄番號ノ順序ニ依リ之ヲ編綴シ鑛區圖ニ登錄番號及登錄年月日ヲ記載シ丁數ヲ附スヘシ

第六條 登錄受附簿ハ第二號樣式ニ依リ每年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第七條 登錄ニ關シテハ鑛業原簿、鑛區圖綴込帳及登錄受附簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 申請書囑託書附屬書類綴込帳
二 通知簿
三 印鑑簿
四 請求書綴込帳

第八條 何人ト雖手數料ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖ノ謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ鑛區圖綴込帳ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ

一 請求者ノ氏名又ハ名稱及住所
二 鑛區所在地及登錄番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
三 請求ノ範圍
四 年月日

第一項ノ手數料ハ左ノ區分ニ依ル

一 鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付 用紙每一枚 一圓
二 鑛區圖謄本ノ交付 鑛區每十萬坪又ハ每二里 三圓
三 鑛業原簿又ハ鑛區圖綴込帳ノ閲覽 每鑛區每一時間 五十錢

紙數、面積、延長又ハ時間ニ依リ手數料ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、十萬坪、二里又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖一枚、十萬坪、二里又ハ一時間トシテ計算ス

手數料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

官吏又ハ公吏政府ノ利益ノ爲其ノ職務ヲ以テ第一項ノ請求ヲ爲ス場合ニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第九條 鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ朝鮮總督府【農商工部長官】之ニ年月日ヲ記載シ記名捺印スヘシ

此ノ謄本ハ鑛業原簿ニ依リ之ヲ作リ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 登錄手續

第一節 通則

第十條 登錄ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請又ハ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ因ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 登錄ハ登錄權利者及登錄義務者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ申請スヘシ

書留郵便ヲ以テ登錄申請ヲ爲ス場合ニ於テハ郵便物ノ表面ニ鑛業登錄申請ナルコトヲ朱書スヘシ

第十二條 判決又ハ相續ニ因ル登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得鑛業權ノ表示ノ變更ノ登錄ノ申請ニ付亦同シ

登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十三條 鑛業權ヲ取消シタルトキ又ハ取消處分ノ取消ヲ爲シタルトキハ職權ヲ以テ鑛業權ノ消滅又ハ回復ノ登錄ヲ爲スヘシ

第十四條 左ノ登錄ニ付テハ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ囑託スヘシ

一 處分ノ制限ノ登錄
二 公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄

第十五條 登錄ヲ申請スルニハ左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 申請書
二 登錄原因ヲ證スル書面
三 登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面
四 代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

鑛業權ノ設定若ハ變更、鑛業權ノ表示ノ變更若ハ更正又ハ廢業ノ登錄ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

登錄原因ヲ證スル書面ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ提出スルコトヲ要セサルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且申請書ノ副本ヲ添附スヘシ

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號ニ掲クル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第一項第三號ノ書面ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其ノ書面ニ代フルコトヲ得

登錄申請人國ナルトキハ第一項第四號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第十六條 鑛業權設定ノ登錄申請書ニハ登錄申請人ノ住所地、本籍地又ハ寄留地ノ府尹、面長又ハ市區町村長若ハ之ニ準スル者ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ添附スヘシ鑛業權移轉ノ登錄申請ノ場合ニ於テ鑛業權ヲ承繼シタル者ニ付亦同シ

前項ノ登錄申請人法人ナルトキハ其ノ代表者ハ登錄申請書ニ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑、會社令第十九條第二項又ハ第二十條ニ規定スル會社ニシテ登記ヲ爲ササルモノニ在リテハ朝鮮ニ駐在スル其ノ本國領事官ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ添附スヘシ

鑛業權者又ハ前項ニ規定スル法人ノ代表者改印ヲ爲シタルトキハ前二項ニ規定スル官廳又ハ公署ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ提出スヘシ

印鑑ハ第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

前各項ノ規定ハ抵當權者ニ之ヲ準用ス

前各項ノ規定ハ官廳及公署ニハ之ヲ適用セス

第十七條 登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ登錄申請人、代理人又ハ代表者之ニ署名捺印スヘシ

一 鑛區所在地
二 鑛業權ノ登錄番號
三 登錄申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
四 代理人又ハ代表者ニ依リテ申請スルトキハ其ノ氏名及住所
五 登錄原因及其ノ日附
六 登錄ノ目的
七 年月日

鑛業權設定ノ登錄又ハ第四十三條第二項ノ規定ニ依ル抵當權設定ノ登錄ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ記載ヲ要セス

第十五條第二項ノ申請ニ付テハ第一項第五號ノ記載ヲ要セス

第十八條 債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スルニハ第十五條第一項ニ掲クル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ提出シ且申請書ニ前條第一項ニ掲クル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載シ債權者之ニ署名捺印スヘシ

第十九條 相續ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ相續開始ノ事實ヲ證スル戶籍若ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏若ハ公吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人ニ於テ相續ヲ爲シタルトキハ他ノ相續人ノ承諾書又ハ相續ノ拋棄ヲ證スル書面ヲモ添附スヘシ

左ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戶籍若ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏若ハ公吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ但シ住所若ハ假住所ノ變更又ハ更正ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 申請人カ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人ナルトキ
二 登錄名義人カ其ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ヲ申請スルトキ
三 死亡ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ヲ申請スルトキ

第二十條 數箇ノ鑛區ニ關シ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 登錄申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受附簿ニ登錄ノ目的、登錄申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ

前項ノ受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第一項ニ依リ登錄申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ受理セス

一 事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ又ハ第四十三條第二項ノ期限內ニ申請ヲ爲ササルトキ
二 申請書カ方式ニ適合セサルトキ
三 申請書ニ掲ケタル鑛業權又ハ抵當權ノ表示カ鑛業原簿ト牴觸スルトキ
四 第十九條第二項第一號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄申請人ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ
五 申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ
六 申請ニ必要ナル書面ヲ提出セサルトキ
七 登錄稅ヲ納付セサルトキ
八 鑛業權者若ハ抵當權者又ハ法人ノ代表者ノ捺印カ印鑑ト符合セサルトキ
九 登錄申請人若ハ其ノ代理人出頭セス又ハ申請書ヲ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

第二十三條 登錄ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 鑛業原簿ノ登錄番號欄ニハ各鑛區ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示、變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

事項欄ハ甲區乙區ニ之ヲ分チ鑛業權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事項ハ甲區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ハ乙區事項欄ニ之ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第二十五條 表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ登錄ノ目的、鑛業權ノ表示ニ關スル事項及登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當官吏捺印スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ登錄權利者ノ氏名又ハ名稱、住所、假住所、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他登錄スヘキ權利ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當官吏捺印スヘシ

第十八條ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ事項欄ニ前項ニ依ルノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載スヘシ

第二十六條 第二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第二十七條 表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第二十八條 附記登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ番號ヲ用井其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號チ記載スヘシ

第二十九條　登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄又ハ共同鑛業權者脫退若ハ其ノ代表者改定ノ登錄ハ附記ニ依リテ之チ爲スヘシ

第三十條　變更又ハ更正ノ登錄チ爲ストキハ其ノ登錄ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登錄事項チ朱抹スヘシ

第三十一條　行政區劃又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ鑛業原簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其ノ名稱ハ當然之チ變更シタルモノト看做ス

前項ノ變更アリタルトキハ鑛業權ノ表示ニ付テハ職權チ以テ其ノ變更チ登錄スヘシ

第三十二條　登錄チ完了シタルトキハ登錄原因チ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登錄番號、順位番號、登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨チ記載シ朝鮮總督府ノ印チ押捺シテ之チ登錄權利者ニ交付シ且登錄義務者ニハ其ノ登錄濟ノ旨チ通知スヘシ

鑛業權ノ設定若ハ變更又ハ鑛區圖ノ修正チ伴フ鑛業權ノ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ登錄權利者ニ交付スヘキ書面ニ鑛區圖チ添附スヘシ

職權チ以テ登錄チ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ場合チ除クノ外登錄濟ノ旨チ登錄權利者又ハ登錄義務者ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付シ又ハ通知スルチ以テ足ル

第十四條ノ場合ニ於テハ第一項ノ書面ハ登錄チ囑託シタル官廳又ハ公署ニ送付シ其ノ官廳又ハ公署ハ速ニ之チ登錄權利者ニ交付スヘシ強制執行又ハ抵當權ノ實行ニ因ル鑛業權ノ移轉ノ登錄チ完了シタルトキ亦同シ

第三十三條　第十八條ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄チ完了シタルトキハ前條第一項及第二項ニ掲クル書類チ債權者ニ交付シ且登錄濟ノ旨チ登錄權利者ニ通知スヘシ

第三十四條　登錄チ完了シタル後其ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトチ發見シタルトキハ其ノ旨チ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ第十八條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ亦通知チ爲スヘシ

錯誤又ハ遺漏カ鑛業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ職權チ以テ更正ノ登錄チ爲スヘシ

錯誤又ハ遺漏カ前項ニ規定スル登錄以外ノ登錄ニ係ルトキハ登錄更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係チ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係チ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトチ得ヘキ裁判ノ謄本チ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ更正ノ登錄チ爲スヘシ

第三十五條　抹消シタル登錄ノ回復チ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係チ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトチ得ヘキ裁判ノ謄本チ添附スヘシ

第三十六條　鑛業權消滅ノ登錄チ爲シタル後登錄回復ノ登錄チ爲スニハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號チ、其ノ左側ニ前登錄番號チ、表示欄ニ回復ノ原因チ記載シ其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄チ爲スヘシ

第三十七條　前條ニ規定スル場合チ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄チ回復スルトキハ回復ノ登錄チ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄チ爲シ若登錄事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項チ登錄スヘシ

第三十八條　登錄用紙中表示欄又ハ事項欄中ノ或區カ登錄チ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登錄番號欄ニ前用紙ノ登錄番號チ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙チ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨チ記載シ且前用紙ノ登錄番號ノ左側ニ新用紙チ編綴セル鑛業原簿ノ冊數及之ニ繼續スル旨チ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙チ設クル場合ニ之チ準用ス

第三十九條　鑛業原簿ニ金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號チ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字チ用ウヘシ

鑛業原簿ノ文字ハ之チ改竄スルコトチ得ス若訂正、挿入又ハ削除チ爲シタルトキハ其ノ字數チ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧チ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀得ヘキ爲字體チ存スヘシ

第二節　鑛業權ニ關スル登錄手續

第四十條　鑛業ノ出願又ハ鑛區ノ訂正、增減、合併若ハ分割ノ出願ノ許可ニ因ル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ノ申請ハ登錄權利者ニ於テ之チ爲シ申請書ニ鑛物ノ名稱及鑛區ノ面積チ記載シ且許可通知書チ添附スヘシ

他人ノ鑛區ト重複スル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄申請書ニハ前項ニ規定スルモノノ外重複スル鑛業權ノ登錄番號、鑛種名及之ト重複ノ關係チ有スル旨チ記載スヘシ

第一項ノ規定ハ鑛種名更正ノ出願ノ許可ニ因ル鑛業權ノ表示ノ更正ノ登錄ノ申請ニ付之チ準用ス

鑛業權ノ設定又ハ移轉ノ登錄チ申請スル場合ニ於テ登錄權利者朝鮮內ニ住所チ有セサルトキハ朝鮮內ニ假住所チ定メ之チ申請書ニ記載スヘシ登錄權利者多數ナル場合ニ於テ申請書ニ代表者ノ假住所チ記載シタルトキハ其ノ代表者ノ假住所チ記載スルチ以テ足ル

第四十一條　死亡、破產、禁治產又ハ朝鮮鑛業令第十八條第三項ノ規定ニ依ル除名ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ハ登錄權利者又ハ登錄義務者ノミニテ之チ申請スルコトチ得

第四十二條　鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル鑛業權設定又ハ鑛區ノ減少ニ因ル鑛業權變更ノ登錄チ申請スル場合ニ於テ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登錄上利害ノ關係チ有スル第三者アルトキハ第三十五條ノ規定チ準用ス但シ鑛區ノ合併、分割又ハ減少ノ願書ト共ニ承諾書チ差出シタルモノニ付テハ申請書ニ其ノ旨チ記載スルチ以テ足ル

第四十三條　抵當權ノ設定アル鑛區ノ合併及分割ニ因ル鑛業權設定ノ登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ旨チ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ抵當權者ハ其ノ通知チ受ケタル日ヨリ三十日內ニ抵當權設定ノ登錄チ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ抵當權ノ順位ハ協定ノ順位ニ依ル

前項ノ申請ニ付テハ最後ニ通知チ受ケタル者ニ對スル前項ノ期間滿了ノ日ノ翌日ニ於テ鑛業權設定ノ登錄ト共ニ其ノ登錄チ爲スヘシ

期間滿了前ト雖總抵當權者ノ申請アルトキハ直ニ前項ノ手續チ爲スヘシ

第四十四條　鑛業權ノ設定又ハ移轉ノ登錄チ爲ス場合ニ於テ登錄權利者多數ナルトキハ代表者氏名ノ上ニ代表者ナルコトチ記載スヘシ

共同鑛業代表者改定ノ屆出又ハ指定アリタルトキハ職權チ以テ其ノ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ代表者ナルコトチ登錄シタル後前ノ代表者ノ表示チ朱抹スヘシ

第四十五條　鑛業權チ設定、變更又ハ鑛區圖ノ修正チ伴フ鑛業權ノ表示ノ變更ノ登錄チ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數チ記載スヘシ

第四十六條　朝鮮鑛業令第三十一條ノ規定ニ依リ爲シタル競賣ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ニ準シ登錄チ爲シタル後移轉ノ登錄チ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄チ移シタル旨チ記載スヘシ

第四十七條　他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄チ爲ストキハ表示欄ニ他ノ鑛業權ノ登錄番號、鑛種名及之ト重複ノ關係チ有スル旨チ記載シ他ノ鑛業權ニ付テハ其ノ登錄用紙中表示欄ニ重複スル鑛業權ノ登錄番號及鑛種名チ記載シ之ト重複ノ關係チ有スル旨チ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一箇ノ鑛業權消滅シタルトキハ之ト重複ノ關係チ有スル他ノ鑛業權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ鑛業權ノ消滅シタル旨チ記載シ消滅ニ係ル事項チ朱抹スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ鑛區ノ合併又ハ分割ニ

因ル鑛業權消滅ノ登錄チ爲ストキハ前項ノ手續チ爲スノ外合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル新ナル鑛業權ノ登錄番號、鑛種名及之ト重複ノ關係アル旨チ記載スヘシ

第四十八條　朝鮮鑛業令第二十一條第二項ニ規定スル承諾及協定ニ因ル抵當權設定ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之チ申請スルコトチ得

第三節　抵當權ニ關スル登錄手續

第四十九條　抵當權設定ノ登錄チ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額チ記載シ若登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ債權ニ條件チ附シタルトキハ之チ記載スヘシ

追加抵當權設定ノ登錄チ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前抵當權ノ目的タル鑛業權ノ登錄番號及鑛區所在地チ記載スヘシ

第五十條　抵當權設定ノ登錄チ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ氏名又ハ名稱及住所チ記載スヘシ

抵當權移轉ノ登錄チ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否チ記載スヘシ

第五十一條　一定ノ金額チ目的トセサル債權ノ擔保タル抵當權設定ノ登錄チ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ目的タルモノノ價格チ記載スヘシ

第五十二條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル抵當權移轉ノ登錄チ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額チ記載スヘシ

第五十三條　抵當權變更ノ登錄ノ申請アリタル場合ニ於テハ第三十四條第三項ノ規定チ準用ス

第五十四條　抵當權ノ移轉、順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更及其ノ處分ノ制限ノ登錄ハ附記ニ依リテ之チ爲スヘシ

第五十五條　數箇ノ鑛業權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權ニ付抵當權設定ノ登錄チ爲ストキハ其ノ鑛業權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ他ノ鑛業權ノ登錄番號、鑛區所在地及其ノ鑛業權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨チ記載スヘシ

追加抵當權設定ノ登錄チ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ鑛業權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル鑛業權ノ登錄番號、鑛區所在地及其ノ鑛業權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨チ附記スヘシ

第五十六條　數箇ノ鑛業權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄チ爲シタルトキハ他ノ鑛業權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權ノ消滅シタル旨チ附記シ消滅ニ係ル事項チ朱抹スヘシ

前項ノ場合ニ於テ鑛業權ノ消滅カ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前項ノ手續チ爲スノ外第四十三條ニ依リ新ニ設定セラレタル鑛業權ノ登錄番號及鑛區所在地チ表示シ其ノ鑛業權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨チ記載スヘシ

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第五十七條　廢業ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之チ申請スルコトチ得

共同鑛業ノ廢業ノ場合ニ在リテハ申請書ニ共同鑛業權者ノ決議書又ハ之ニ代ルヘキ書面チ添附スヘシ

第五十八條　鑛區ノ合併又ハ分割ニ因リ鑛業權消滅シタルトキハ其ノ原因チ記載シテ職權チ以テ鑛業權消滅ノ登錄チ爲スヘシ

第五十九條　抵當權ノ登錄アル鑛業權ニ關シ廢業ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ登錄チ爲スト同時ニ競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スル旨チ記載スヘシ

抵當權者競賣ノ請求チ爲ササルトキ又ハ競賣申立ノ登錄アリタル場合ニ於テ囑託ニ依リ其ノ登錄チ抹消シタルトキハ存續ニ關スル記載チ朱抹スヘシ

前二項ノ規定ハ朝鮮鑛業令第二十八條及第二十九條第一號ノ規定ニ依ル場合チ除クノ外抵當權ノ登錄アル鑛業權ノ取消ニ因ル消滅ノ登錄ニ付之チ準用ス

第六十條　抵當權カ人ノ死亡ニ因リ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡チ證スル戶籍又ハ民籍ノ事務チ取扱フ官吏又ハ公吏ノ書面チ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消チ申請スルコトチ得

第六十一條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登錄ノ抹消チ申請スルコト能ハサルトキハ朝鮮民事令ノ規定ニ從ヒ公示催告ノ申立チ爲スコトチ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本チ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消チ申請スルコトチ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書、債權ノ受取證書竝民法第三百七十四條ノ規定ニ依リ抵當權チ行フコトチ得ル定期金及損害賠償ノ受取證書チ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ抵當權ニ關スル登錄ノ抹消チ申請スルコトチ得

第六十二條　廢業ニ因ル場合チ除クノ外登錄ノ抹消チ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登錄上利害ノ關係チ有スル第三者アルトキハ第三十五條ノ規定チ準用ス廢業ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄チ申請スル場合ニ於テ假登錄又ハ豫告登錄チ爲シタル第三者アルトキ亦同シ

第六十三條　第十四條ノ規定ニ依リ公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ職權チ以テ處分ノ制限ノ登錄チ抹消シ若抵當權ノ登錄アルトキハ其ノ登錄チ抹消スヘシ

第六十四條　登錄チ抹消スルニハ抹消ノ登錄チ爲シタル後抹消スヘキ登錄チ朱抹スヘシ

第六十五條　鑛業權消滅ノ登錄チ爲ストキハ表示欄ニ消滅ノ原因チ記載シ鑛業權ノ表示、表示番號及登錄番號チ朱抹シ其ノ登錄用紙チ閉鎖スヘシ但シ抵當權ノ設定アル場合ニ於テ廢業又ハ朝鮮鑛業令第二十九條第二號乃至第六號ノ規定ニ依ル取消ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄チ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ第四十六條ノ規定ニ依リ鑛業權移轉ノ登錄チ爲ストキ又ハ第五十九條第二項ニ依リ鑛業權存續ノ記載チ朱抹スルトキ前項ノ規定ニ準シ其ノ用紙チ閉鎖スヘシ

第六十六條　登錄チ完了シタル後其ノ登錄カ第二十二條第一號ニ該當スルモノナルコトチ發見シタルトキハ職權チ以テ其ノ登錄チ抹消シ登錄權利者、登錄義務者及登錄上利害關係チ有スル第三者ニ其ノ旨チ通知スヘシ

前項ノ通知ハ第十八條ノ場合ニ於テハ債權者ニモ亦之チ爲スヘシ

第四章　假登錄及豫告登錄

第六十七條　鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ニ關シ請求權チ保全セムトスル者ハ假登錄ノ申請チ爲スコトチ得

第六十八條　假登錄ハ次條ノ場合チ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在地チ管轄スル地方法院ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本チ添附シテ囑託スヘシ

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因チ疏明シタルトキハ地方法院之チ發スヘシ

申請チ却下シタル決定ニ對シテハ卽時抗告チ爲スコトチ得

前項ノ卽時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定チ準用ス

第六十九條　假登錄ハ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書チ添附シテ假登錄權利者ヨリ之チ申請スルコトチ得

第七十條　假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之チ爲シ事項欄ノミニ縱線チ劃シ其ノ左側ニ本登錄チ爲シ得ヘキ相當ノ餘白チ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線チ劃スヘシ

第七十一條　假登錄チ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄チ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第七十二條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ヨリ之チ申請スルコトチ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトチ得ヘキ裁判ノ謄本チ添附シタ

ルトキハ登錄上ノ利害關係人ヨリ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條　豫告登錄ハ登錄原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ登錄原因ノ無效又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第七十四條　豫告登錄ハ前條ニ揭クル訴訟ヲ受理シタル地方法院ヨリ囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託スヘシ

第七十五條　豫告登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第七十六條　第七十三條ニ揭クル訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ抛棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ抛棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

附　則

第七十七條　本令ハ朝鮮鑛業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十八條　本令施行前舊鑛業原簿、砂鑛採取業原簿及タングステン鑛、水鉛鑛、燐鑛、雲母、石綿ニ關シ土石採取業原簿ニ爲シタル登錄又ハ記載ハ本令ニ依リ爲シタル登錄ト看做シ其ノ登錄又ハ記載中抹消ニ係ラサル事項ハ本令施行後直ニ鑛業原簿ニ之ヲ移記スヘシ

第七十九條　前條ニ依リ移記ヲ爲スニハ舊鑛業原簿、砂鑛採取業原簿、土石採取業原簿ノ順序ニ依リ登錄番號欄ニハ舊鑛業原簿ヨリ移記シタルモノニ在リテハ舊番號ヲ記載シ其ノ他ノモノニ在リテハ舊簿ニ登錄又ハ記載シタル順序ニ依リ新ニ番號ヲ附シ第二十四條ノ區分ニ從ヒ相當欄ニ記載ヲ爲シ且舊原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ニ依リ表示欄及事項欄ニ記載ヲ爲ストキハ其ノ記載ノ順序ニ依リ新ニ表示番號及順位番號ヲ附スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ新ニ附シタル登錄番號ハ朝鮮總督府官報ニ公告シ且鑛業權者及抵當權者ニ通知スヘシ

第八十條　鑛業原簿ニ移記ヲ了リタルトキハ舊原簿ノ表示欄餘白ニ鑛業原簿第何册第何丁ニ移記シタル旨ヲ記載シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第八十一條　本令施行前登錄ニ關シ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八十二條　本令ニ依リ始メテ鑛業權設定ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於ケル登錄番號ハ第七十九條ニ依リ附シタル登錄番號ヲ追ヒテ之ヲ附スヘシ

第八十三條　朝鮮鑛業令第六十條及第六十二條ノ鑛業權カ期限ノ到來ニ因リ消滅シタルトキハ職權ヲ以テ鑛業權消滅ノ登錄ヲ爲スヘシ

第八十四條　朝鮮鑛業令第六十二條ニ規定スル高嶺土又ハ硅砂ノ鑛業權ヲ有スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日內ニ許可書及圖面ヲ添附シ鑛業權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ

第八十五條　鑛業權者又ハ抵當權者ハ本令施行後二月內ニ第十六條ニ規定スル印鑑ヲ提出スヘシ但シ印鑑提出前登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第一號樣式

表

鑛業原簿　第何册

朝鮮總督府

裏

紙數表紙ヲ除キ　　枚

朝鮮總督府【農商工部長官】

年　月　日　何　某　印

一

登錄番號

表示番號　表示欄

表示番號　表示欄

表示番號　表示欄

鑛業原簿　丁　朝鮮總督府

甲　區

順位番號　事項欄

順位番號　事項欄

順位番號　事項欄

區

鑛業原簿　丁　朝鮮總督府

乙　一

區

順位番號　事項欄

順位番號　事項欄

順位番號　事項欄

第二號樣式

表　紙

登錄受附簿　何年　第何册

朝鮮總督府

登錄受附簿　丁

受附ノ年月日	受附番號	登錄ノ目的	申請人ノ氏名	備考

第三號樣式

（用紙厚紙竪五寸橫一寸）

印鑑　住所

氏名

何年何月何日生

（注意）會社ノ代表者ナルトキハ氏名ノ肩ニ會社ノ營業所ノ所在地、會社ノ商號及代表者ノ資格ヲ記載スヘシ

●鑛業ニ關スル技術官派遣規則

大正十二年一月十八日
朝鮮總督府令第八號

鑛業ニ關スル技術官派遣規則左ノ通定ム

鑛業ニ關スル技術官派遣規則

第一條　鑛業技術ニ關スル調査、設計又ハ鑑定ヲ求ムル爲必要アルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ技術官ノ派遣ヲ申請スルコトヲ得但シ朝鮮鑛業令施行規則中別段ノ規定アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　技術官派遣ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　申請ノ目的タル事項
三　調査、設計又ハ鑑定スヘキ箇所
四　派遣ヲ受ケムトスル期間

前項ノ書面ハ地方官廳ヲ經由セス直ニ朝鮮總督府鑛務課ニ提出スヘシ

第三條　調査、設計又ハ鑑定ヲ爲スヘキ箇所カ他人ノ鑛區ナルトキ又ハ他人ノ鑛區ニ跨ルトキハ前條ノ申請書ニ關係鑛業權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第四條　技術官派遣ニ付テハ器具、機械費、通信運搬費、通辯費、人夫費、其ノ他事務遂行ニ直接必要ナル費用ハ申請人ノ負擔トス

前項ニ定ムル費用ノ外申請人ハ朝鮮總督府旅費規程ニ依ル派遣技術官ノ旅費ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第五條　第二條ノ申請ヲ許可スルトキハ政府ハ前條ノ費用概算額ヲ申請人ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ申請人ハ其ノ概算額ヲ政府ニ前納スヘシ但シ政府ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

申請ニ係ル調査、設計又ハ鑑定事務終了シタルトキハ其ノ費用ヲ精算シ前項概算額ニ對シ不足アルトキハ之ヲ追納セシメ過剩アルトキハ之ヲ返戾ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣鑛業規則

明治三十九年七月二十四日
律令第十號
改正　大正二年第三號、一五年第七號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣鑛業規則改正ノ件勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣鑛業規則

第一條　此ノ規則ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ採掘、採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　此ノ規則ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝靑、硫黃、砂金、砂錫、及砂鐵ヲ謂フ

第三條　鑛物ノ未タ採掘又ハ採取セサルモノハ國有トス

第四條　帝國ノ臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業人ト爲ルコトヲ得ス

第五條　此ノ規則ニ規定シタル鑛業人ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

此ノ規則ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業人、業主又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六條　鑛業ヲ爲サムトスル者ハ鑛物ノ種類及土地ノ區域ヲ定メ臺灣總督ニ出願スヘシ

鑛業ニ關シ出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手數料ヲ納ムヘシ其ノ金額ハ臺灣總督之ヲ定ム

第七條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ總代一人ヲ選定シテ屆出ヘシ其ノ屆出ナキトキハ初筆者ヲ以テ總代ト看做ス

總代ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ變更、分割、合併、出願人ノ名義變更、出願取消、廢業又ハ鑛業權ノ移轉若ハ擔保ニ關スルモノノ外ハ政府ニ對シ共同者ヲ代表ス

第八條　鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス

一鑛區ノ面積ハ三萬坪以上トス

第九條　軍港、要港、國防用防禦營造物區域第二區以內ノ地域及陸海軍所轄ノ兵器、彈丸、火藥ノ製造所又ハ倉庫ノ周圍三百間以內ノ地域ニ於テハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ臺灣總督ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　鐵道、軌道、道路、水道、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境內地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、業主及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ業主又ハ關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ承諾ヲ拒マレタルトキ及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ鑛業人ハ臺灣總督ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

第十一條　鑛業出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送日ノ先ナル者ヲ以テ優先者トス願書ノ發送日同一ナルトキハ臺灣總督ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ

此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以內ニ協議ヲ遂ケ其ノ結果ヲ屆出ヘシ協議調ハサルトキハ抽籤ニ依リ優先者ヲ定ム

前項ノ規定ハ第十二條第二項及第十五條第一項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十二條　鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ臺灣總督ハ之ヲ鑛業人ニ通知スヘシ

鑛業人ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ豫メ鑛業出願人ノ承諾ヲ得タル場合ニ之ヲ適用セス

第十三條　鑛利又ハ公安保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ臺灣總督ハ他人ノ鑛區ニ接近セル鑛業ノ出願ニ對シ中間ニ相當ノ距離ヲ置カシムルコトヲ得

第十四條　鑛業出願人又ハ鑛業人ハ其ノ鑛業出願地又ハ鑛區ノ測量其ノ他鑛業ニ關スル調査ノ爲立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會ヒ區域ヲ明示シ調査事項ニ關スル說明ヲ爲シ且測量調査ニ要スル人夫ヲ供スヘシ

第十五條　鑛業出願地又ハ鑛區カ鑛利ヲ損シ又ハ誤謬アリト認メタルトキハ臺灣總督ハ期日ヲ指定シテ訂正ノ出願ヲ命スルコトヲ得

鑛業出願人ハ前項ノ命令ニ依ルノ外出願區域ノ變更ヲ出願スルコトヲ得ス臺灣總督又ハ廳長ハ鑛業ニ關スル書面若ハ圖面ニ不備アリト認メタルトキハ期日ヲ指定シテ修正若ハ補充ヲ命シ又ハ必要ト認ムルトキハ鑛業ノ設備ニ關スル設計書其ノ他鑛業ニ關スル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十六條　左ノ場合ニ於テハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

一　鑛業出願地カ政府ニ於テ所要ノ場所ナルトキ又ハ鑛業ヲ營ムノ價値ナシト認ムヘキトキ
二　鑛業カ公益ニ害アリト認ムヘキトキ
三　鑛業出願地カ同一ノ鑛種ニ係ル他人ノ鑛區ト重複スルトキ
四　第十二條第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認ムヘキトキ

第十七條　此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ鑛業ニ關スル願書又ハ申請書ヲ却下スヘシ

第十八條　鑛業人又ハ利害關係人ハ正當ノ事由ニ因リ自他ノ鑛區及坑內ノ實地測定ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ出願人ハ派遣吏員ノ旅費日當及測定ニ要スル諸費ヲ負擔スヘシ

第十九條　鑛業人ハ鑛區ノ變更、分割又ハ合併ヲ出願スルコトヲ得

鑛業權カ債權ノ擔保ト爲リタル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ債權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第二十條　鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ出願スルコトヲ得

鑛業權ヲ相續シタルトキハ臺灣總督ニ屆出ヘシ

鑛業權ノ讓渡ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス之ヲ債權ノ擔保ニ供スルトキ亦同シ

債權ノ擔保ト爲シタル鑛業權ノ讓渡ノ許可ヲ出願セムトスルトキハ債權者ノ承諾ヲ經ヘシ

共同鑛業人ニ變更ヲ生スル場合ニ於テハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ臺灣總督ハ鑛業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一　正當ノ事由ナクシテ鑛業許可ノ日ヨリ一箇年以內ニ事業ニ著手セス又ハ一箇年以上休業ヲ爲シタルトキ若ハ臺灣總督ニ於テ相當ト認ムル鑛業ヲ爲ササルトキ

二　第十五條第一項又ハ第三十條第一項ノ命令ニ違反シタルトキ

三　納稅期限內ニ鑛區稅ヲ納メサルトキ

四　鑛業カ公益ヲ害スルモノト認ムヘキトキ

五　錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ

第二十二條　債權ノ擔保ト爲シタル鑛業權ノ消滅シタルトキハ臺灣總督ハ直ニ之ヲ債權者ニ通知スヘシ

債權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ鑛業權ノ繼承ヲ申請シ又ハ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ鑛業權ノ繼承ヲ申請セムトスル場合ニ於テハ之カ爲債權ノ消滅シ又ハ減少スヘキ債權額ニ付當事者ノ協定ヲ經且債權者二人以上アルトキハ相互ノ協定ヲモ經タルコトヲ屆出ルニ非サレハ之ヲ許可セス

前項ノ規定ハ第二十一條第四號及第五號ノ規定ニ依ル鑛業權消滅ノ場合ニハ之ヲ適用セス

鑛業權ハ第二項ノ期間內又ハ繼承若ハ競賣ノ手續完結ノ日迄繼承若ハ競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及債權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

鑛業權ノ繼承ヲ申請セル債權者又ハ競買人ハ鑛業權消滅ノトキニ於テ鑛業權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第二十三條　鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業人ハ廳長ノ許可ヲ得テ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

一　他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲スコト

二　測量又ハ調査ノ爲障碍アル物件ヲ除却スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ業主又ハ關係人ニ通知スヘシ

三　急迫ノ危險ヲ防ク爲他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコト

業主又ハ關係人ハ前項ノ行爲ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲ニ生シタル直接ノ損害ニ對シテハ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　鑛業人ハ鑛業上必要アルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

臺灣總督前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ業主及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業人ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲業主及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第二十五條　土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ業主ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條　土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ鑛業人ハ業主及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

前項補償金ノ拂渡ナキ間ハ業主及關係人ニ於テ土地ヲ使用スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ鑛業人ハ補償金ヲ拂渡スコト能ハサル場合ニ於テハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ土地ヲ用ウルコトヲ得

土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業人ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第二十七條　土地ノ使用、收用又ハ補償金ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業人ハ臺灣總督ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

補償金ニ付テハ業主又ハ關係人ヨリモ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　臺灣總督ノ裁定申請ニ要シタル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘシ

第二十九條　土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ鑛業人ハ業主權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業人之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　公害又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ臺灣總督ハ鑛業人ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ廳長ニ於テ前項ノ命令ヲ發スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ具申スヘシ

第三十一條　前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ臺灣總督ハ自ラ其ノ豫防ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及人夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ實費ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

前項ノ費用ハ臺灣國稅徵收規則中滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十二條　鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ臺灣總督ハ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ保安上必要ナル構造物ノ除却ヲ制限シ又ハ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍內ニ於テ鑛業人ト看做ス

第三十三條　鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業人ハ鑛夫又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

第三十四條　鑛業人ニハ鑛區稅ヲ課ス

鑛區稅ハ鑛區一千坪每ニ每年一圓トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

鑛區稅ノ納期ハ臺灣總督之ヲ定ム

共同鑛業人ノ納稅義務ハ連帶トス

第三十五條　臺灣總督又ハ廳長ヨリ發シタル書類ヲ送達シ能ハサルモノニ付テハ其ノ書類ノ全文又ハ其ノ要旨ヲ三日間府報ニ掲載シ其ノ最終ノ日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十六條　鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘若ハ採取シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ【重禁錮】又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル鑛業人ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シテ鑛業ノ爲土地ヲ使用シタル者

二　第十四條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者

三　第三十條又ハ第三十二條第一項ノ命令ニ從ハサル者

四　第三十一條ノ規定ニ違反シテ役員及人夫ヲ豫防ノ用ニ供スルコトヲ拒ミタル者

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十八條　第十五條第三項ノ命令ニ違反シタル鑛業人ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、【再犯加重及數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス

第四十條　鑛業人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　鑛業人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第四十二條　前二條ノ場合ニ於テハ【禁錮】又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四十三條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第四十四條　此ノ規則ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

此ノ規則ハ明治三十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

此ノ規則施行以前ノ出願、申請其ノ他ノ手續ニシテ此ノ規則施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ明治二十九年律令第六號臺灣鑛業規則ニ依リ處分ス

明治二十九年律令第六號臺灣鑛業規則ニ依リ許可シタル鑛區ニシテ此ノ規則ノ施行ニ依リ明治三十九年分鑛區稅ニ不足額ヲ生シタルモノハ施行ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

●臺灣鑛業規則施行細則

（明治三十九年七月三十一日　臺灣總督府令第四十九號）
（改正　明治四四年第一五號　大正一〇年第二七號、一二年第六二號）

臺灣鑛業規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣鑛業規則施行細則

第一條　願書、申請書、屆書及圖面ハ一件每ニ調製シ樣式ノ定アルモノニ付テハ其ノ樣式ニ準スヘシ

前項ノ書面又ハ圖面ハ直ニ臺灣總督府【民政部】ニ差出スヘシ

總督府ニ差出シタル書面又ハ圖面ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第二條　此ノ規則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業人、業主又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第三條　鑛業許可願、鑛業出願地ノ訂正願、鑛區ノ變更若ハ訂正願、廢業屆及臺灣總督ヨリ期日ヲ指定シテ修正若ハ補充ヲ命セラレタル書面又ハ圖面ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

第四條　書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局ノ消印記號ノ表示スル日ニ差出シタルモノト看做ス

消印記號ナキ場合若ハ其ノ不明ナル場合又ハ其ノ表示スル日付以外ノ日ニ差出シタル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日ヲ證明シタルトキハ其ノ日ニ差出シタルモノト看做ス

第五條　共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル總代選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ總代ヲ表示シテ屆書ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ハ出願人ノ名義變更、鑛業ノ許可又ハ鑛業權ノ移轉ニ因リ鑛業出願人又ハ鑛業人ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業人其ノ總代ヲ改定シタルトキハ遲滯ナク連署ヲ以テ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第六條　總代ニ依リテ鑛業出願地ノ訂正、出願人ノ名義變更、鑛區ノ變更、訂正、分割、合併、鑛業權ノ移轉若ハ擔保ニ關シ出願ヲ爲シ又ハ出願取消、廢業ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ屆書ニ共同者ノ承諾書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

第七條　臺灣鑛業規則第二十三條ノ規定ニ依リ測量、調査ヲ爲シ若ハ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、地目及其ノ目的ヲ記載シ又障碍物ヲ除却セムトスル者ハ障碍物ノ種類、名稱、存在ノ場所、業主及占有者ノ氏名又ハ名稱竝豫定價額ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

臺灣鑛業規則第二十三條第一項第三號ノ規定ニ依ル出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但シ電信ニ依リテ指令ヲ受ケムトスル者ハ其ノ土地ノ名稱、地目及其ノ目的ヲ記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第八條　鑛業ノ出願區域ハ成ルヘク方形ニ近キ形狀ニ區劃シ各隅角ニハ顯著ナル標識ヲ建設スヘシ

出願區域ノ兩端ニハ顯著ナル不動物體ヲ選定シ之ヲ基點ト爲シ隅角ニ對スル關係ヲ測定スヘシ若隅角カ其ノ不動物體ニ符合スルトキハ之ヲ基點ト爲スヘシ

第九條　鑛業許可願ハ第一號樣式ニ準シ正副二通ヲ調製シ第十二號樣式ニ依リ調製シタル實測圖三通ヲ添附スヘシ

鑛業出願地ノ訂正願又ハ鑛區ノ變更若ハ訂正願ニハ前項ニ準シ新舊區域ヲ明示シタル實測圖ヲ添附スヘシ

鑛區ノ合併又ハ分割願ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示シタル實測圖ヲ添附スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域每ニ之ヲ調製スヘシ

前二項ノ願書ニハ變更、訂正、合併又ハ分割ヲ要スル理由書ヲ添附スヘシ

第十條　同一區域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物每ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ理由書ヲ添附シテ出願スヘシ

第十一條　鑛業ニ關スル書面又ハ圖面ニ代印セシメ又ハ實地調査ノ立會ニ代理人ヲ差出ストキハ委任狀ノ正本ヲ交付スヘシ

法人カ鑛業ニ關スル書面又ハ圖面ヲ差出ストキハ其ノ印ヲ押捺シ且代表者之ニ署名スヘシ

第十二條　鑛業出願人又ハ鑛業人カ其ノ名義變更ヲ出願セムトスルトキハ新舊出願人又ハ鑛業人ノ連署ヲ以テ願出ヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ願書、申請書、屆書又ハ圖面ヲ受理セス

一　出願ノ鑛物カ臺灣鑛業規則第二條ノ規定ニ該當セサルトキ

二　手數料ヲ納付セサルトキ

三　第一條第一項ノ規定ニ違反シ書面又ハ圖面ヲ一件每ニ調製セサルトキ

四　第三條ノ規定ニ違反シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

五　第六條ノ規定ニ違反シ共同者ノ承諾書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ

六　第九條ノ規定ニ依ル圖面又ハ理由書ヲ添附セサルトキ

七　第十條第二項ノ規定ニ違反シ理由書ヲ添附セサルトキ

八　第十二條ノ規定ニ違反シ新舊出願人又ハ鑛業人連署セサルトキ

九　第二十四條ノ規定ニ違反シ鑛業許可證若ハ許可指令書及添屬鑛區圖ヲ添附セサルトキ

十　第二十五條ノ規定ニ違反シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ

十一　第二十八條第一項ノ規定ニ違反シ出願ノ目的及理由ノ詳記セサルトキ

第十四條　鑛業ノ出願ヲ受理シタルトキハ殖產局長ハ出願地ノ州知事又ハ廳長ニ其ノ願書ノ副本ヲ送付スヘシ

州知事又ハ廳長ハ地名ノ異同、官民有ノ區分及公益ニ害ナキヤ否ヤヲ調査シ特別ノ場合ヲ除ク外二十日以內ニ其ノ意見ヲ臺灣總督ニ稟申スヘシ

州知事又ハ廳長ハ臺灣鑛業規則第二十三條ノ規定ニ依ル願書ニ對シ處分ヲ爲シタルトキハ五日以內ニ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第十五條　鑛業出願人臺灣總督府管內ニ居住セサルトキハ管內居住者ヲ代理人ニ選定シ出願ノ日ヨリ十日以內ニ連署ヲ以テ屆出ヘシ

出願人又ハ其ノ代理人住所ヲ變更シタルトキハ前項ノ期間內ニ屆出ヘシ

第十六條　殖產局長又ハ州知事又ハ廳長ハ鑛業出願地又ハ鑛區ニ付實地調査ヲ必要ト認

ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業人ニ立會ヲ命スルコトヲ得若調査期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ

第十七條　臺灣鑛業規則第十一條第一項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係鑛業出願人立會ノ上殖産局長之ヲ行フ

殖産局長ハ抽籤日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關係鑛業出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出願セサルトキハ殖産局長ハ二名以上ノ局員立會ノ上之ヲ行フ

第十八條　鑛業ノ許可ヲ爲シタルトキハ鑛業許可證ヲ下付スヘシ

鑛業許可證ニハ總督府ニ保存スル鑛區圖ト契印シ許可番號ヲ記入シタル鑛區圖ヲ添附スヘシ

鑛業人ハ鑛業許可證又ハ鑛區圖ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ其ノ再下付ヲ出願スルコトヲ得

何人ト雖鑛業許可臺帳ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖ノ謄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業許可臺帳、鑛區圖若ハ鑛業出願圖ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　鑛業ノ許可ハ府報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十條　鑛業人鑛業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ十日以内ニ鑛區ノ番號、位置及著手ノ年月日竝鑛業事務所ノ位置、名稱ヲ記載シタル届書ヲ差出スヘシ鑛業事務所ヲ移轉シタルトキ亦同シ

第二十一條　相續ニ因リ鑛業人ト爲リ又ハ氏名若ハ住所ヲ變更シタル鑛業人ハ戸籍吏又ハ廳長ニ届出テタル日ヨリ十日以内ニ其ノ事實ヲ證スヘキ書面竝鑛業許可證若ハ許可指令書及添屬鑛區圖ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ヘシ

相續ニ因リ鑛業出願人ト爲リ又ハ氏名若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ前項ニ準シテ届出ヲ爲スヘシ

第二十二條　法人カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テ其ノ名稱又ハ代表者ヲ變更シ其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ法人ヲ解散シタルトキハ前條第一項ニ準シテ届出ヘシ

第二十三條　鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選定シ連署シタル届書ヲ差出スヘシ

前項ノ代理人ハ臺灣鑛業規則及同規則ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業人ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業人ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

第二十四條　鑛區ノ變更、訂正、合併、分割、鑛種名更正、鑛業權ノ移轉若ハ擔保ニ關スル願書又ハ廢業届ニハ鑛業許可證若ハ許可指令書及添屬鑛區圖ヲ添附スヘシ

第二十五條　擔保ト爲シタル鑛業權ノ移轉又ハ鑛區ノ變更、訂正ヲ出願セムトスルトキハ債權者ノ承諾書ヲ鑛區ノ合併若ハ分割ヲ出願セムトスルトキハ債權者ノ承諾書及債權ノ順位ニ關スル協定書ヲ願書ニ添附スヘシ

第二十六條　鑛業人ハ鑛業ノ許可又ハ鑛業權ノ移轉アリタル日ヨリ六箇月以内ニ事業ニ著手セス又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ事由ヲ詳記シテ之ヲ届出ヘシ

鑛業人一箇年以上休業セムトスルトキハ事由ヲ詳記シテ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

休業期間内ニ事業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

第二十七條　廢業ハ届書差出ノ日ニ於テ效力ヲ生ス但シ届書カ受理スヘカラサル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條　臺灣鑛業規則第十八條第一項ノ規定ニ依ル實地測定ノ願書ニハ鑛區ノ番號、位置、鑛業人ノ氏名又ハ名稱、測定區域及其ノ目的竝理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

臺灣總督ニ於テ測定ヲ要スルモノト認メタルトキハ殖産局長ハ出張吏員ノ氏名、測定日數、測定ニ要スル人夫竝物品ノ豫定書及旅費日當ノ概算書ヲ出願人ニ交付スヘシ

出願人ハ前項ノ書類到達ノ日ヨリ七日以内ニ旅費日當ノ概算額ヲ殖産局ニ前納シ指定ノ期日ニ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會スヘシ

出張吏員實地測定ヲ終ヘタル後旅費日當ノ精算ヲ爲シ過不足アルトキハ殖産局長ハ之ヲ出願人ニ通知シ超過額ヲ返付シ又ハ不足額ヲ追徵スヘシ

追徵スヘキ旅費日當ハ臺灣國稅徵收規則中滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

出願人概算金額ノ過剩通知ヲ受ケタルトキハ下戻請求書ヲ殖産局ニ差出スヘシ

旅費日當ノ計算ハ臺灣總督府旅費規則ニ依ル

第二十九條　臺灣總督ハ鑛區ノ境界又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ鑛區圖ノ修正ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

第三十條　同一地域内ニ於テ二箇以上ノ鑛業權ヲ設定シタル場合ニ於テ各自ニ許可ヲ得タル鑛床相交叉シタルトキハ互ニ鑛利ヲ損セサル樣掘採ノ協議ヲ爲スヘシ若協議調ハサルトキハ臺灣總督ノ指定スル所ニ依ルヘシ

第三十一條　鑛業人ハ坑内實測圖、鑛業簿及鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

坑内實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ毎月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ

鑛業簿ニハ鑛産物ノ數量、販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛夫名簿ハ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ調製シ鑛夫ノ氏名、生年月日、本籍、履歴ノ要領、業務ノ種類、賃金、雇傭及解雇傭年月日竝雇傭期間ヲ記載スヘシ其ノ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ記入スヘシ

第三十二條　鑛業人ハ毎年末日ノ坑況ヲ示シタル坑内實測圖ノ複本ヲ翌年二月限差出スヘシ

第三十三條　鑛業人ハ毎年一月七月ノ兩度ニ前六箇月間ニ於ケル鑛産物ノ數量、販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シタル鑛業明細表ヲ差出スヘシ

第三十四條　鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ消滅又ハ移轉ノ日ヨリ三十日以内ニ坑内實測圖及鑛業明細表ヲ差出スヘシ

第三十五條　坑内實測圖及鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ事由ヲ具シ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第三十六條　二箇以上ノ鑛區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前四條ノ規定ニ依リテ差出スヘキ書面又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ許可番號及鑛區ノ位置ヲ列記スヘシ

第三十七條　鑛業人ハ左ニ掲クル工作物ヲ設置シ又ハ變更セムトスルトキハ第一號ノモノニ付テハ其ノ設計書及圖面ヲ添ヘ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ、第二號ノモノニ付テハ使用ノ目的ヲ明記シ豫メ届出ヘシ

一　汽罐、捲揚機、選鑛場、燒鑛場、製煉場及煙突

二　汽機、瓦斯發動機、發電機、電動機、水車、喞筒、通風機

前項第一號ニ掲ケタルモノノ工事ヲ完成シタルトキハ其ノ旨ヲ届出テ使用ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第三十八條　鑛業地ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ第十七號樣式ニ基キ直ニ届出ヲ爲スヘシ

死傷者又ハ遺族ニ對スル扶助ヲ完了シタルトキハ扶助ノ日數及金額ヲ記載シ其ノ完了ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第三十九條　臺灣鑛業規則第三十三條ノ規定ニ依ル扶助ニ付テハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一　診察費及治療費ハ其ノ實額

二　療養ノ爲休業中ハ其ノ日數ニ相當スル賃金額ノ三分ノ一以上

三　葬祭料ハ十圓以上

四　遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル賃金五十日分以上ニ相當スル金額

五　不具、廢疾者扶助料ハ其ノ賃金ノ五十日分以上ニ相當スル金額

稼高ニ依リテ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ前項第二號第四號及第五號ニ記載シタル賃金ハ前三十日間ノ就業平均額ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

第四十條　臺灣鑛業規則第二十四條第一項ノ規定ニ依リ土地使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ鑛區ノ番號、位置、請求ニ係ル土地ノ名稱、地目、業主及關係人ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期、期間ヲ記載シタル願書ニ關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第四十一條　臺灣鑛業規則第十條第二項又ハ同第二十七條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ鑛區ノ番號、位置、請求ニ係ル土地ノ名稱、地目、申請人、業主及關係人ノ氏名又ハ名稱、住所、申請ノ目的及理由ヲ記載シ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖竝業主及關係人ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ對手人數人アルトキハ其ノ數ニ相當スル副本ヲ添附スヘシ

臺灣鑛業規則第二十七條第二項ノ規定ニ依ル申請書ハ第一項ニ準シテ調製シ鑛業人ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ

第四十二條　前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ殖産局長ハ其ノ副本ヲ業主及關係人又ハ鑛業人ニ交付スヘシ

業主及關係人又ハ鑛業人ハ其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ

業主及關係人又ハ鑛業人前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ臺灣總督ハ申請書ノミニ依リテ直ニ裁決スヘシ

裁決書ニハ理由ヲ附シテ之ヲ鑛業人、業主及關係人ニ交付スヘシ

第四十三條　鑛業人カ補償金ヲ拂渡スコト能ハサル場合ニ於テ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ土地ヲ用井ントスルトキハ臺灣總督ハ其ノ金額又ハ之ニ相當スル國債ノ供託ヲ命スルコトアルヘシ

第四十四條　鑛業人臺灣鑛業規則ノ規定ニ基キ他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ、使用ヲ終リタルトキ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ直ニ臺灣總督ニ届出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル届書ニハ土地ノ名稱、地目、面積、業主ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間竝補償金額ヲ記載スヘシ

第四十五條　鑛區稅ハ翌年分ヲ毎年十二月十五日限ニ前納スヘシ其ノ初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ計算シ鑛業許可ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第四十六條　第十五條第二十條乃至第二十三條第一項第二十六條第一項及第三項第三十一條乃至第三十五條第三十七條第三十八條及第四十四條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條第一項ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ選定シタル場合ニ於テ鑛業人、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ此ノ規則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス

附　則

本令ハ明治三十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年（九月）府令第三十三號臺灣鑛業規則施行細則、同三十一年（五月）府令第二十四號共同鑛業出願及共同鑛業總代規則及明治三十六年（一月）府令第七號ハ之ヲ廢止ス

明治二十九年律令第六號臺灣鑛業規則ノ施行ニ關スル府令及告示ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ臺灣鑛業規則及本令中ニ別段ノ定ナキモノニ付テハ明治二十九年律令第六號臺灣鑛業規則ノ施行ニ關スル府令及告示ノ規定ヲ適用ス

本令施行前鑛業ノ許可ヲ受ケタル者ニ付テハ第二十六條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一號樣式（正副二通）

鑛業許可願

何州（廳）何郡（市）（區）何街（庄）（番地）何々字何々ノ内

何鑛面積何坪

右ノ場所ニ於テ何鑛採掘致度候ニ付許可相成度實測圖相添此段相願候也

年　月　日

原籍、現住所

鑛業出願人　氏　名（名稱）印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　圖面三通ヲ添付シ適宜契印スヘシ
二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル總代選定ノ届書ヲ出スヘシ但シ願書ニ總代ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得

第二號樣式（正副二通）

增減區（增區、減區）ニ係ル鑛區變更願

何年何月何日許可鑛第何號

何州（廳）何郡（市）（區）何街（庄）（番地）内何鑛區何坪

增區　何郡何街（庄）（番地）何々字何々内

面積何坪

減區　何郡何街（庄）（番地）何々字何々内

面積何坪

合計（又ハ差引）何坪

右之通鑛區變更許可相成度實測圖竝理由書相添此段相願候也

年　月　日

原籍、現住所

鑛業人　氏　名（名稱）印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　圖面三通ヲ添付シ適宜契印スヘシ
二　圖面ニハ新舊區域ノ關係ヲ明示スヘシ
三　鑛業許可證（又ハ指令書）及添屬鑛區圖ヲ添付スヘシ
四　總代ニテ出願スル場合ハ共同者ノ承諾書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添付スヘシ

第三號樣式（正副二通）

鑛區（鑛業出願地）訂正願

何年何月何日許可鑛第何號（出願）

何州（廳）何郡（市）（區）何街（庄）（番地）何鑛區何坪

增區　何郡（市）（區）何街（庄）（番地）何々字何々内

面積何坪

減區　何郡（市）（區）何街（庄）（番地）何々字何々内

面積何坪

合計（又ハ差引）何坪

右鑛區（出願地）ニ關スル民殖第何號御命令ニ基キ鑛區（出願地）訂正致度實測圖相添此段相願候也

年　月　日

原籍、現住所

鑛業人（鑛業出願人）　氏　名（名稱）印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　圖面三通ヲ添付シ適宜契印スヘシ
二　鑛區訂正願ニハ鑛業許可證（又ハ指令書）及添屬鑛區圖ヲ添付スヘシ
三　其他ノ事項ハ樣式第二號ニ同シ

第四號樣式（正副二通）

鑛區合併願

何年何月何日許可鑛第何號

何州（廳）何郡（市）（區）何街（庄）（番地）内何鑛區何坪

何年何月何日許可鑛第何號

何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛區何坪
合計何坪

右鑛區合併許可相成度實測圖竝理由書相添此段相願候也

原籍、現住所
年　月　日　鑛業人　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　鑛業權カ債權ノ擔保ト爲リタル鑛區ニ對シテハ債權者ノ承諾書ヲ添付スヘシ
二　鑛業權カ二以上ノ債權ノ擔保ト爲リタル鑛區ニ對シテハ承諾書ノ外債權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添付スヘシ
三　其ノ他ノ事項ハ樣式第二號ニ同シ

第五號樣式

鑛區分割願

何年何月何日許可鑛第何號
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛區何坪
此分割
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)何々字何々內
面積何坪
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)何々字何々內
面積何坪

右鑛區分割許可相成度實測圖竝理由書相添此段相願候也

原籍、現住所
年　月　日　鑛業人　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　圖面ハ分割區域毎ニ各三通ヲ調製シ願書ニ添付シ適宜契印スヘシ
二　其ノ他ノ事項ハ樣式第四號ニ同シ

第六號樣式(正副二通)

鑛種名更正願

何年何月何日許可鑛第何號
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛區何坪

右鑛業權ノ鑛種ハ何鑛トシテ許可相成候處何鑛ト更正許可相成度別紙理由書相添此段相願候也

原籍、現住所
年　月　日　鑛業人　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

注意（鑛業許可證(又ハ指令書)及添屬鑛區圖ヲ添付スヘシ）

第七號樣式(正副二通)

鑛業出願人名義變更願

何年何月何日出願
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛出願地何坪

右出願人何某ニ變更致度候ニ付許可相成度新舊出願人連署此段相願候也

年　月　日
原籍、現住所　舊出願人　氏　名(名稱)印
原籍、現住所　新出願人　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　新出願人二人以上トナル場合ニハ願書ト共ニ連署シタル總代選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ總代ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得
二　舊出願人總代ニテ出願ヲ爲ストキハ共同者ノ承諾書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添フヘシ

第八號樣式(正副二通)

鑛業權讓渡願

何年何月何日許可鑛第何號
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛區何坪

右鑛業權何某ニ讓渡致度候ニ付御許可相成度新舊鑛業人連署此段相願候也

年　月　日
原籍、現住所　舊鑛業人　氏　名(名稱)印
原籍、現住所　新鑛業人　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

注意
一　債權ノ擔保ト爲リタル鑛業權ニ對シテハ債權者ノ承諾書ヲ添付スヘシ
二　鑛業許可證(又ハ指令書)及添屬鑛區圖ヲ添付スヘシ
三　其ノ他ノ事項ハ樣式第四號ニ準スヘシ

第九號樣式(正副二通)

鑛業出願(鑛業)相續屆

何年何月何日出願(許可鑛第何號)
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛出願地(何鑛區)何坪

右鑛業出願人(鑛業人)何某死亡(其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續致候間戶籍抄本(又ハ相續ニ關スル證明書)相添此段屆出候也

原籍、現住所
年　月　日　相續人　氏　名　印

臺灣總督爵氏名殿

注意（鑛業許可證(又ハ指令書)及添屬鑛區圖ヲ添付スヘシ）

第十號樣式(正副二通)

鑛業權ノ擔保願

何年何月何日許可鑛第何號
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛區何坪

右鑛業權今般何某ヘ金何圓ノ擔保ニ差入度候ニ付許可相成度契約書寫相添此段相願候也

年　月　日
原籍、現住所　鑛業人　氏　名(名稱)印
原籍、現住所　債權者　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

注意（鑛業許可證(又ハ指令書)及添屬鑛區圖ヲ添付スヘシ）

第十一號樣式

鑛業許可證(鑛區圖)再下付願

何年何月何日許可鑛第何號
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)內何鑛區何坪

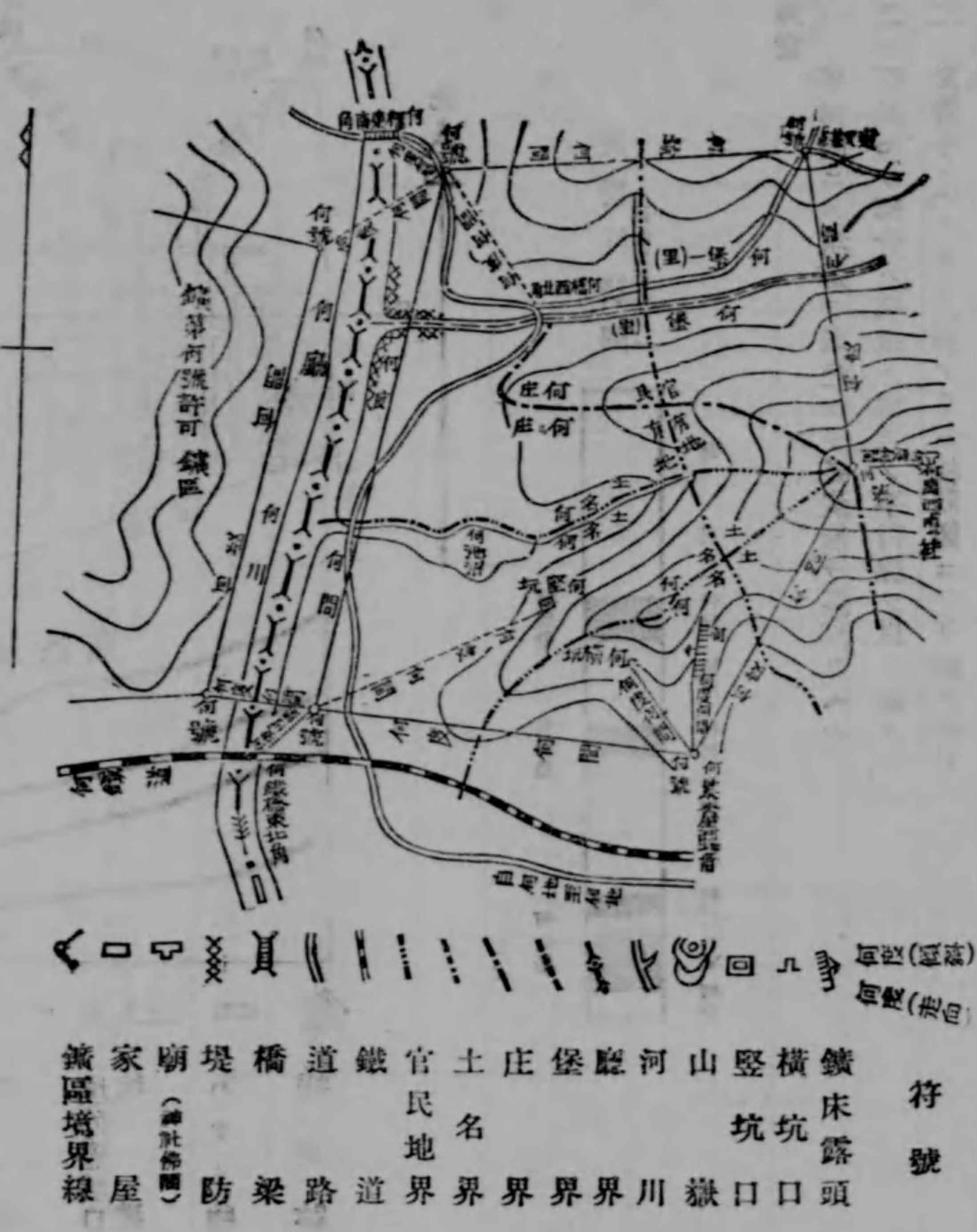
右鑛業許可證(鑛區圖、又ハ許可指令書)何々(事由)ノ爲毀損(亡失)致候ニ付再下付相成度此段相願候也

年　月　日
原籍、現住所　鑛業人　氏　名(名稱)印

臺灣總督爵氏名殿

第十二號樣式(三通)

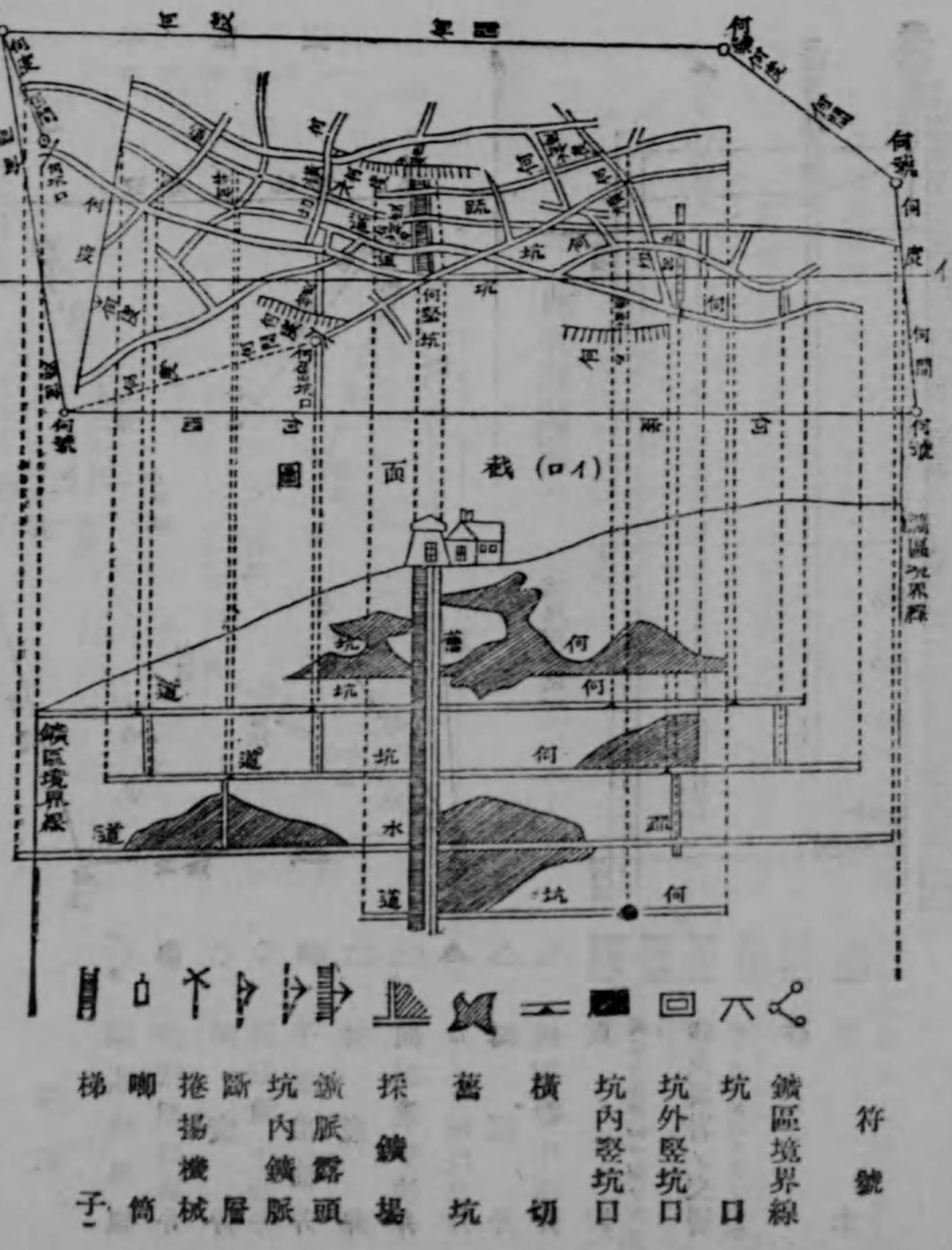
何鑛採掘(採取)鑛區圖　縮尺　何分之一　明治　年　月　日出願
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)　原籍
何々字何官地又ハ民地、地目　現住所
坪數　坪　出願人　氏　名(名稱)印



注意
一　圖面ハ出願地ノ位置、境界及地形ヲ明示スル目的ヲ以テ調製シ左ニ揭クル事項ヲ記入スヘシ
　一　出願地ノ名稱、地目、諸界線(地目ハ山林綠色、原野褐色、田淡藍色、畑黃色、宅地赤色ヲ以テ顯スヘシ)
　二　出願地ノ面積(坪ヲ單位トスヘシ)
　三　出願地ノ隅角點竝ニ其ノ番號(番號順ハ右廻リニ之ヲ附スヘシ)
　四　境界線竝ニ基點ト隅角點間ノ方位及間數
　五　不動基點竝其ノ名稱及特徵基點ハ廟(神社佛閣)、人家、橋梁、道辻、川股、大樹、大岩、土地調查局建設三角點竝圖根點國防用防禦營造物區域標其他顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
　六　南北線(三寸以上タルヘシ)
　七　縮尺(三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ウヘシ)
　八　出願地ヨリ五十間以內ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係
　九　出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向傾斜
　十　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他臺灣鑛業規則第九條及第十條ニ記載シタルモノ
二　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ウヘシ
三　圖面ハ鉛筆及「インキ」ヲ以テ調製スヘカラス

第十三號樣式ノ一

鑛第何號
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)
何鑛山何鑛區
坑內實測圖　明治　年　月　日現在
住所
鑛業人又ハ鑛業代理人　氏　名(名稱)印



注意
一　坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區別スヘシ
二　圖面ハ千二百分ノ一ノ縮尺ニテ調製スヘシ但シ軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ此ノ縮尺ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ縮尺ヲ用ウルコトヲ得
三　軌道、堰其ノ他特種ノモノヲ設置シタル場合ニハ適宜ノ符號ヲ用井テ顯スヘシ

第十三號樣式ノ二

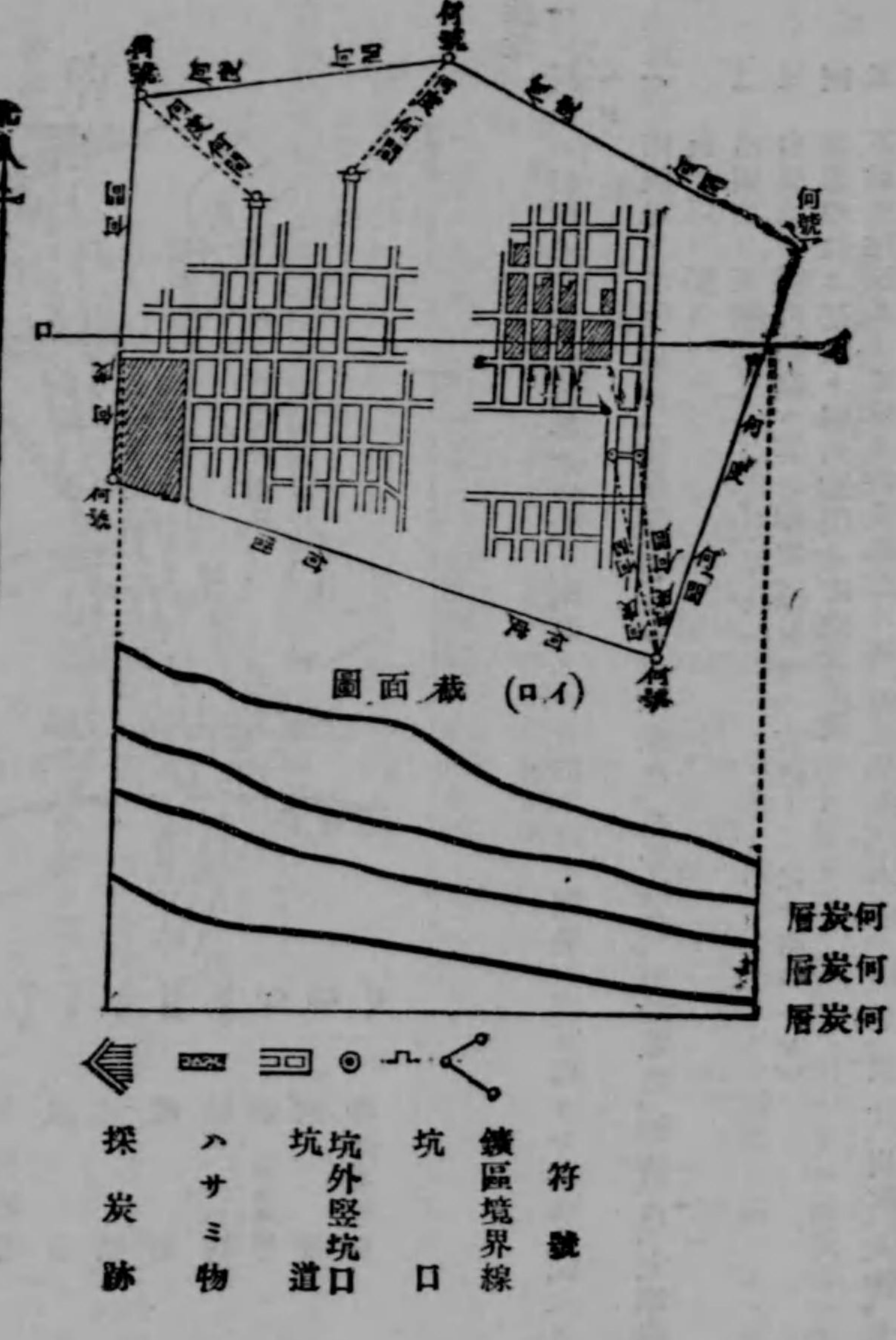
鑛第何號

何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)何炭鑛區

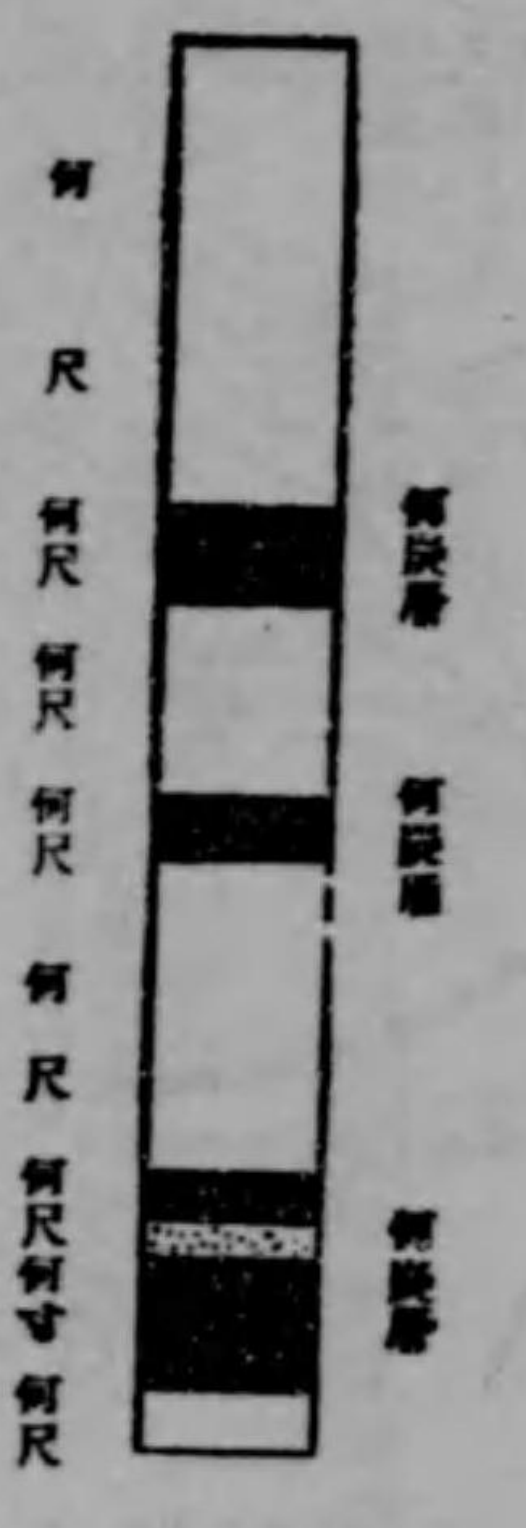
坑內實測圖　縮尺　何分之一

明治　年　月　日現在

鑛業人又ハ鑛業代理人　氏　名(名稱)印


何號
(ロイ)截面圖
何炭層
何炭層
何炭層
符號
鑛區境界線
坑口
坑外竪坑口
坑道
ハサミ物
採炭跡

炭層柱狀圖
尺度二百分ノ一


何尺
何尺
何尺
何尺
何尺何寸
何尺
何炭層
何炭層
何炭層

注意

一　平面圖ニハ坑道ヲ著色シテ各炭層ヲ區別スヘシ

二　採炭セシ部分ハ坑道ト同色ノ平行線ヲ以テ顯スヘシ

三　炭層中ニ「ハサミ」物アラハ柱狀圖ニ之ヲ顯スヘシ

四　平面圖ハ千二百分ノ一柱狀圖ハ二百分ノ一ノ縮尺ニテ調製スヘシ

五　截面圖ニハ平均傾斜ヲ附記スヘシ

六　捲揚機械、煽風器、喞筒、堰、軌道其ノ他特種ノモノヲ設置セル場合ニハ適宜ノ符號ヲ用ヰテ之ヲ顯スヘシ

第十三號樣式ノ三

鑛第何號

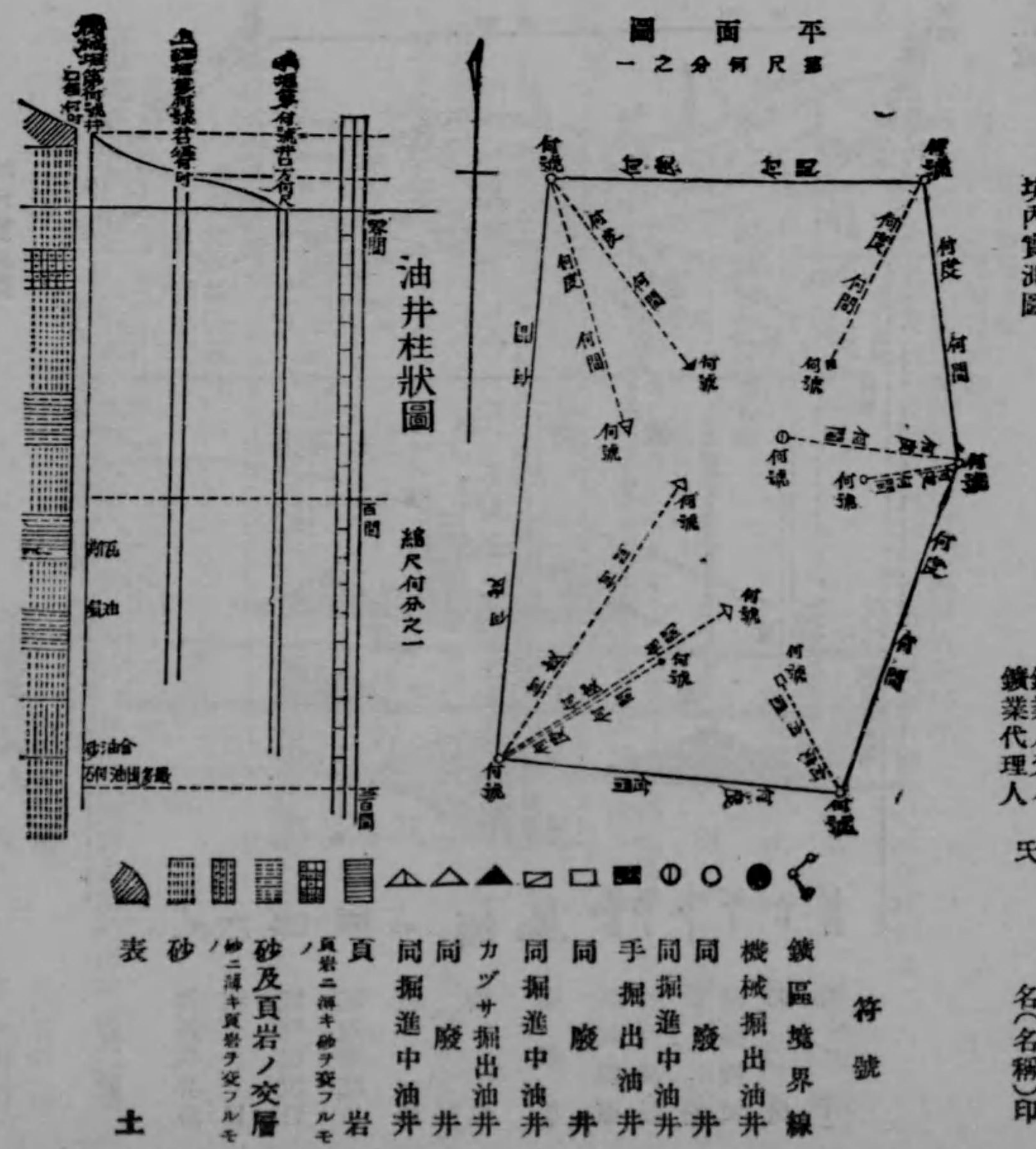
何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)石油鑛區

坑內實測圖

明治　年　月　日現在

住所

鑛業人又ハ鑛業代理人　氏　名(名稱)印


平面圖
縮尺何分之一
何號
何間
何度
油井柱狀圖
縮尺何分之一
符號
鑛區境界線
機械掘出油井
同　廢井
同　掘進中油井
手掘出油井
同　廢井
同　掘進中油井
カヅサ掘出油井
同　廢井
同　掘進中油井
頁岩
頁岩ニ薄キ砂ヲ交フルモノ
砂及頁岩ノ交層
砂ニ薄キ頁岩ヲ交フルモノ
砂
表土

注意

一　油井ノ位置ハ最近ノ鑛區標識若ハ基點ト結測シ其ノ方位、間數ヲ記載スヘシ

二　油井柱狀圖ニハ油井ノ深サ其ノ口徑及各井口高低ノ關係ヲ圖示スヘシ

三　油井中ノ地質ハ之ヲ柱狀圖ニ顯スヘシ

四　出油ノ箇所ハ油井柱狀圖ニ必ス明示スヘシ

五　出油量ハ最多量ノ時ノ一日分及現在ノ一日分ヲ記載スヘシ

六　平面圖ハ縮尺六千分ノ一又ハ三千分ノ一柱狀圖ハ縮尺三百分ノ一又ハ百二十万分ノ一ニ調製スヘシ
　但シ此縮尺ニテ顯シ難キモノハ適宜ノ縮尺ヲ用ウルコトヲ得

第十四號樣式

年　月　日

鑛業簿

粗鑛					
種別					
越高					
採鑛高					
平均品位					
選鑛元鑛高					
製煉元鑛高					
販賣高					
平均品位					
販賣代價					
殘高					

精鑛					
種別					
越高					
精鑛高					
平均品位					
製煉元鑛高					
販賣高					
平均品位					
販賣代價					
殘高					

鑛業簿

製品					
種別					
越高					
製出高					
平均品位					
販賣高					
販賣代價					
殘高					

工數	內地人	本島人	計
採鑛			
選鑛			
製煉			
工作			
運搬			
其他			
計			

記事

注意

一　種別ノ各欄ニハ粗鑛、精鑛、製品ノ種類、名稱等ヲ記載スヘシ但シ石炭ニ在テハ粗鑛ノ欄ニ於テ三尺炭、四尺炭等ノ如ク又選炭シタルトキハ精鑛ノ欄ニ更ニ塊炭、中炭、粉炭ヲ區別シ骸炭、煉炭等ヲ製造シタルトキハ製品ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

二　採鑛高ノ欄ニハ採掘粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

三　品位ハ金鑛其ノ他金屬鑛ニ關スルモノノ外之ヲ記載スルヲ要セス但シ石油ニ關シテハ「ボーメ」比重計ニ依ル比重ヲ記載スヘシ

四　選鑛元鑛高ノ欄ニハ選鑛ニ供シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

五　製煉元鑛高ノ欄ニハ粗鑛ノ欄ニ於テ製煉ニ供シタル粗鑛ノ數量精鑛ノ欄ニ於テ製煉ニ供シタル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

六　製品ノ欄ニ於テ粗金ヲ記載シタルトキハ別ニ其ノ品位ニ依リ換算シタル金銀數量ノ內譯ヲ朱記スヘシ又砂金モ其ノ品位判明シタルモノハ之ニ準スヘシ

七　粗鑛、精鑛ハ貫ヲ單位トシ製品ノ內金、砂金、銀ハ匁其ノ他ハ斤ヲ單位トス但シ石油ハ原油及製油ノ單位ハ升其他ハ斤トス

八　買入鑛アルトキハ其ノ相當スル越高ノ欄ニ朱記スヘシ

九　石炭、石油等ノ鑛山ニ於テ其ノ採掘採取ニ係ル鑛物ヲ自ラ使用消費シタルトキハ其ノ數量ヲ販賣高ノ欄內ニ朱記スヘシ

十　記事欄內ニハ販賣ニ係ル粗鑛、精鑛又ハ製品ノ受渡地名(假令ハ基隆港、淡水港、某停車場、坑口等)及塊炭、中炭、粉炭等大小區分ノ標準其他必用ナル事項ヲ記載シ買入鑛アルトキハ其ノ買入先ヲ記載スヘシ

十一　本表ニ準シ毎月前一箇月分ノ合計表ヲ調製スヘシ

第十五號樣式

鑛山	何鑛山
位置	何州(廳)何郡(市)(區)何街(庄)(番地)
鑛業人	住所　何　某印

鑛種	
鑛區面積	
許可番號	
鑛區稅	

粗鑛					計
種別					
越高					
採鑛高					
平均品位					
選鑛元鑛高					
製煉元鑛高					
販賣高					
平均品位					
販賣代價					
殘高					

精鑛	
種別	
越高	
精鑛高	
平均品位	
製煉元鑛高	
販賣高	
平均品位	
販賣代價	
殘高	

明治何年上（下）期鑛業明細表

	種別	越高	製出高	平均品位	販賣高	販賣代價	殘高
精鑛							
計							
製品							
計							

行業日數		
採鑛	選鑛	製煉

工數							
工種　人別	採鑛	選鑛	製煉	工作	運搬	其ノ他	計
內地人							
本島人							
計							

六月三十日（十二月三十一日）現在使役人員

人別　職種	內地人				本島人				合計
	男		女	計	男		女	計	計
	家族持	獨身			家族持	獨身			
鑛夫									
役員其他									
計									

記事

注意

一　鑛區面積ハ六月三十日（十二月三十一日）現在ニ依リテ記載スヘシ

二　鑛區稅ハ該年分ノ稅額ヲ記載スヘシ

三　採鑛若ハ試掘中ニ在テ未タ產額ナキモノハ鑛業日數、工數及使役人員ヲ記載シ記事欄內ニ產額ナキ事由及從來ノ經過、將來ノ見込ヲ記載スヘシ

四　家族持トハ鑛區內又ハ其ノ附近ニ於テ家族ヲ有スル者ヲ云フ內地又ハ遠隔ノ地ニ家族ヲ有スル者ハ之ヲ獨身者トシテ計上スヘシ

五　其他ノ事項ハ鑛業簿ノ注意ニ同シ

第十六號樣式

鑛夫名簿

本籍	履歷ノ要領	業務ノ種類	等級又ハ賃金	雇傭ノ年月日	解雇傭年月日	雇傭期間	氏名（生年月日）
記事							
記事							

鑛夫名簿

本籍	履歷ノ要領	業務ノ種類	等級又ハ賃金	雇傭ノ年月日	解雇傭年月日	雇傭期間	氏名（生年月日）
記事							
記事							

第十七號樣式

鑛山變災屆

許可番號	
鑛種	
鑛山名	
鑛業人	
鑛業代理人	
變災ノ年月日時	
變災ノ場所	
死傷者ノ氏名、年齡、男女ノ別及業務ノ種類	
變災ノ原因及被害ノ程度	
變災ニ對スル鑛業人ノ應急處置竝事後ノ方針	
死傷者又ハ遺族ニ對スル扶助方法及其ノ程度	

右及御屆候也

年　月　日

右　何　某　印

臺灣總督爵氏名殿

●鑛業ニ關スル出願及申請手數料

（明治三十九年七月三十一日臺灣總督府令第五十號）

改正　大正一二年第六三號

鑛業ニ關スル出願及申請手數料左ノ通相定ム

第一條　鑛業ニ關スル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一	鑛業許可願	每六十萬坪迄金五十圓
二	增區又ハ增減區ニ係ル鑛區變更願	增區每六十萬坪迄金三十圓
三	減區ニ係ル鑛區變更願	每一件金五圓
四	鑛業出願地又ハ鑛區訂正願	每一件金十圓
五	鑛區合併又ハ分割願	每一件金十圓
六	鑛區分合願	每一件金十五圓
七	鑛種名更正願	每一件金五圓
八	鑛業出願人名義變更願	每一件金十圓
九	鑛業權讓渡願	每一件金三十圓
十	共同鑛業人名義變更願	每一件金三十圓
十一	鑛業權擔保願	每一件金十圓
十二	鑛業權ノ繼承申請	每一件金二十圓
十三	鑛業許可證又ハ鑛區圖再下付願	每一件金五圓
十四	鑛區及坑內測定願	每一件金五圓
十五	測量調査願	每一件金五圓
十六	障碍物除去又ハ土地使用願	每一件金十圓
十七	鑛業用地使用願	每一件金十圓
十八	裁定申請	每一件金十圓
十九	鑛業許可臺帳ノ謄本、抄本交付ノ申請	用紙一枚金一圓
二十	鑛區圖謄本交付ノ申請	鑛區每十萬坪金三圓
二十一	鑛業許可臺帳又ハ鑛區圖ノ閲覽申請	每一鑛區每一時間金五十錢
二十二	鑛業出願圖ノ閲覽申請	每圖每一時間金二圓

紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料ヲ定ムル場合ニ一枚、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖一枚、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第二條　手數料ハ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●鑛業法施行細則

（大正元年八月樺太廳令第二號）

改正　大正二年第四二號、六年第二號、第一七號、八年第一〇號、一一年第一四號、第七二號

鑛業法施行細則

第一條　願書、申請書、屆書及圖面ハ一件每ニ之ヲ調製シ樣式ノ定アルモノニ付テハ其ノ樣式ニ準スヘシ

前項ノ書面又ハ圖面ハ樺太廳支廳長及町村長ヲ經由セス直ニ樺太廳長官ニ差出スヘシ

第二條　樺太廳長官ニ差出シタル書面圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第二條ノ二　鑛業出願人又ハ鑛業權者樺太內ニ住所ヲ有セサルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ假住所ノ選定ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ發スル場合ニ於テ受信人ノ住所假住所不分明ナルトキハ三日間其ノ要旨ヲ廳報又ハ廳報ヲ揭載スル新聞紙ニ廣告ス其ノ最終ノ日ヨリ十五日ヲ經過スルトキハ命令又ハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條　本則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條　本則中鑛業ノ出願ニ關スル規定ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出

願ニ付之ヲ準用ス

第六條　書面又ハ圖面不完備ナルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ消印記號ノ表示スル最終ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物受取證ニ依リテ前項ノ規定ニ依ル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ日付印ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第八條　同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物毎ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添付シテ差出スヘシ

第十條　共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ

共同鑛業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ届出ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ依リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス但シ鑛業權設定ノ場合ニ於テハ登錄稅納付書ニ代表者ヲ表示シタルトキハ之ヲ以テ代表者ノ届出ト看做ス

第十一條　共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ改定シタルトキハ遲滯ナク連署シテ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十二條　鑛業法第七條第一項ノ規定ニ依リ樺太廳長官代表者ヲ指定シタルトキハ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ之ヲ通知ス

第十三條　鑛業出願人ノ代表者ニ依リテ鑛業出願ノ取下、區域增減ノ出願又ハ出願人變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ其ノ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添付スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ依リテ鑛區ノ增減合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　鑛業ニ關スル出願ニシテ鑛利保護上又ハ鑛區分合上出願地及鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユル場合ニ於テハ願書ニ其ノ理由書ヲ添附スヘシ

第十五條　鑛業ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以內ニ所轄官廳ノ許可書若ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十六條　鑛業出願地カ實地調査ニ因リテ鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ前條ノ規定ニ拘ラス相當ノ期限ヲ附シ其ノ差出スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ錯誤ニ因リ其ノ書面ノ添附ヲ遺漏シタルモノト認メタルトキ亦同シ

第十七條　鑛業出願地ノ形狀鑛業ヲ爲スニ不適當ナリト認ムルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ增減ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條　鑛業出願人他人ノ鑛區ニ隣接シテ鑛區ヲ定メムトスルトキハ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ隣接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘鑛區ノ範圍內ニ於テ採掘ヲ出願スルトキ又ハ鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依リ鑛業ヲ出願スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項隣接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ願書ニ承諾書ヲ添附シテ差出スヘシ之ヲ添附セサルトキハ承諾ナキモノト看做ス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲前項ノ距離ノ延長又ハ減縮ヲ必要ナリト認ムルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ增減ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　鑛業願書ニハ鑛區圖ノ外位置圖ヲ添附スヘシ

第十九條ノ二　削除

第二十條　採掘出願人ハ其ノ願書ニ採掘セムトスル鑛物ノ鑛床ニ關スル說明書ヲ添附スヘシ

第二十一條　試掘又ハ採掘ノ願書及出願地又ハ鑛區ノ增減ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ受附ノ年月日及時刻ヲ記載シタル受取證ヲ請置クヘシ

第二十二條　樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シ出願人ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ命令ニ依リテ設計書ヲ提出シタル試掘出願人カ出願ノ許可後其ノ設計ヲ變更シテ作業セムトスルトキハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シ試掘權者ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命シ若ハ理由ヲ附シテ設計書ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

試掘權者カ前項ノ命令ニ依リテ提出シタル設計書ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條　樺太廳長官ハ鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ付實地調査ヲ必要ト認ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命スルコトアルヘシ若シ調査期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ

出張吏員カ確定期日ヲ指定スルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ但シ出願人又ハ鑛業權者ニ於テ異議ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　鑛業出願人變更ノ届書ニハ新舊出願人連署スヘシ

第二十六條　試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後出願人ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條　試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後試掘權ヲ移轉シタルトキハ出願人變更ノ届出アリタルモノト看做ス

第二十八條　相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ届出ヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條　共同鑛業出願人脫退シタルトキハ代表者、若シ代表者ナキニ至リタルトキハ共同出願人ハ脫退ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ原因ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ届出ヘシ

第三十條　採掘出願地ノ訂正願書ニハ訂正理由書ヲ添附スヘシ

第三十一條　採掘出願地ノ訂正又ハ鑛業出願地ノ增減ノ願書ニ添附スヘキ圖面ニハ新舊出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十二條　第四十條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ出願人ハ出願地ノ增減竝鑛種名ノ更正ヲ出願スルコトヲ得ス

第三十三條　鑛業法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係鑛業出願人立會ノ上樺太廳長官之ヲ行フ

樺太廳長官ハ抽籤ノ日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關係鑛業出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出頭セサルトキハ樺太廳長官ハ二名以上ノ樺太廳職員立會ノ上之ヲ行フ

第三十四條　鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域每ニ之ヲ調製スヘシ

鑛業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ハ合併又ハ分割ノ願書ニ之ヲ添付スヘシ

第三十五條　鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依ル鑛業ノ願書ニハ其ノ旨ヲ記載シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ新區域カ舊區域ト異ナルトキハ其ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十六條　鑛業法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル鑛區增區ノ願書ニハ鑛床圖ノ說明書隣接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

鑛業法第三十六條第二項ノ規定ニ依ル鑛區

訂正ノ願書ニハ鑛床圖ノ說明書、隣接鑛業權者ノ承諾書又ハ鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ願書ニ添付スヘキ鑛床圖ハ平面圖及截面圖ノ二種ニ分チ之ヲ調製スヘシ

第三十七條　鑛區訂正ノ願書ニ關シテハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第三十八條　鑛區ノ訂正增減又ハ改正ノ願書ニ關シテハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條　鑛業法第三十七條第三項ノ規定ニ依ル減區又ハ增減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第四十條　鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知ス

出願人ハ前項ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ登錄稅ヲ納付スヘシ此ノ期間內ニ登錄稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ在リテハ期間後ト雖モ更ニ登錄稅ヲ納付スルコトヲ得

登錄稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前項ノ登錄稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前四項ノ規定ハ第九條ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第四十一條　鑛區ノ合併、分割、減區又ハ增減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ登錄稅納付書ニ添附シテ差出スヘシ但シ鑛區ノ分合又ハ增減ノ願書ト共ニ承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ納付書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四十二條　鑛區所在地ノ名稱、種目、境界、基點又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

樺太廳長官カ鑛業權表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ要セサルモノト認メタルトキ又ハ前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖ヲ調査シ完備シタルモノト認メタルトキハ第四十條第一項ニ準シ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知ス

第四十條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ願書申請書又ハ届書ヲ受理セス

一　石炭鑛ノ試掘又ハ採掘出願地ノ全部カ明治四十五年法律第二十三號第一條ノ區域內ナルトキ
二　出願ノ鑛物カ鑛業法第二條ノ規定ニ該當セサルトキ
三　圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
四　手數料ヲ納付セサルトキ
五　第十三條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ
六　第二十一條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
七　第二十五條ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
八　第二十六條ノ規定ニ違背シ試掘權ノ移轉ヲ證明スル書面ヲ添附セサルトキ
九　第三十四條第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添付セサルトキ
十　第三十六條又ハ第三十九條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ

第四十四條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ登錄稅納付書ヲ受理セス

一　第四十條第四項又ハ第四十二條第三項ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ
二　第四十一條ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

第四十五條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ願書又ハ届書ヲ却下ス

一　實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ指定シタル調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ
二　願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
二ノ二　第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ假住所ノ選定ヲ爲ササルトキ
三　第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
四　第十五條ニ規定シタル期間內又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ
五　第十七條又ハ第十八條第三項ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ區域增減ノ願書ヲ差出ササルトキ
五ノ二　削除
六　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ設計書ヲ差出ササルトキ
七　第二十四條ノ規定ニ依リ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
八　第四十條ニ規定シタル期間內ニ登錄稅納付書ヲ提出セサルトキ

第四十六條　相續ニ因リテ鑛業權者若ハ抵當權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者若ハ抵當權者ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ登錄ヲ申請スヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ之ニ準シテ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第四十七條　鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ樺太廳長官ニ届出ヘシ

第四十八條　試掘權者ハ試掘鑛區圖及試掘工程表ヲ、採掘權者ハ坑內實測圖及鑛業簿ノ外採掘鑛區圖及鑛業施業案ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第四十九條　鑛業者ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ノ登錄アリタル日ヨリ六箇月以內ニ事業ニ著手セス又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ理由ヲ詳記シテ樺太廳長官ニ届出ヘシ

休業期間內事業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ届出ヘシ

第五十條　[illegible]圖面ヲ添ヘ[illegible]ニ差出スヘシ

鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノハ[illegible]記載事項[illegible]

第五十一條　[illegible]ニ依ル變更[illegible]理由ヲ詳記[illegible]

第五十二條　坑內實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ[illegible]況ヲ測定シ[illegible]

坑內實測[illegible]六月末日[illegible]及二月末日[illegible]月末日迄[illegible]シ鑛山ノ[illegible]太廳長官[illegible]提出ヲ命[illegible]變更ヲ命[illegible]

前項ノ規[illegible]實測圖複本[illegible]

第五十三條　[illegible]販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛業簿ノ[illegible]迄ノ分ヲ[illegible]ヘシ

第五十四條　[illegible]ハ差出ス[illegible]又ハ移轉[illegible]テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ[illegible]ハ差出スヘシ

第五十五條　鑛業明細表ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ差出スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ニ依リ差出スヘキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛

業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

第五十七條　前五條ノ規定ニ依リ坑内實測圖若ハ鑛業簿ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第五十八條　二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ第五十條乃至第五十六條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十九條　鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及鑛業法ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第六十條　試掘權者ハ試掘工程表ヲ調製シテ一箇月每ニ開坑ニ關スル狀況、鑛產物ノ數量、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

第六十一條　試掘ニ依リテ得タル鑛產物ヲ處分セムトスルトキハ其ノ方法及數量ヲ記載シ樺太廳長官ニ出願スヘシ

第六十二條　鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査ノ願書ニハ調査區域及其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

樺太廳長官調査ヲ要スルモノト認メタルトキハ調査日數並之ニ要スル人夫及物品ノ豫定書ヲ調製シ出願人ニ交付スヘシ

出願人ハ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會フヘシ

第六十三條　鑛業法第五十二條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲サムトスル者ハ土地ノ名稱、種目及其ノ目的ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十四條　鑛業法第五十三條ノ規定ニ依リテ障碍物ヲ除却セムトスル者ハ障碍物ノ種類、名稱、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱並豫定價格ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十五條　鑛業法第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及其ノ目的ヲ記載シテ出願スヘシ

前項ノ出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ出願ニ對シ電信ヲ以テ指令ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及立入リ又ハ使用ノ目的ヲ記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第六十六條　鑛業法第五十二條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ、之ヲ使用シ又ハ障碍物ヲ除却セムトスル者ハ樺太廳長官ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第六十七條　鑛業法第五十六條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ土地登記謄本、未登記ノ土地ニ付テハ所有者ニ關スル官廳ノ證明書、關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十八條　他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ、使用ノ終リタルトキ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ直ニ樺太廳長官ニ屆出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル屆書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間並補償金及擔保ヲ記載スヘシ

第六十九條　鑛業法第七十五條ノ規定ニ依リテ定ムヘキ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ニハ左ニ掲クル事項又ハ之ニ相當スヘキ事項ヲ定メ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出シテ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　業務ノ種類、等級
二　雇傭及解雇
三　各種類及各等級ニ於ケル賃金
四　賃金支拂期日
五　各種類ノ就業時間並其ノ交替ノ方法
六　休業日其ノ他休業ニ關スル事項
七　年齡及婦女、幼者ノ勞役ニ關スル制限
八　賞罰ノ定アルトキハ其ノ事項

第七十條　鑛夫名簿ハ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ調製シ鑛夫氏名、生年月日、本籍、履歷ノ要領、鑛務ノ種類、等級、雇傭及解雇ノ年月日並雇傭期間ヲ記載スヘシ

前項ノ事項ニ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ記入スヘシ

第七十一條　鑛業法第八十條ノ規定ニ依ル扶助ニ付テハ左ノ標準ニ依リ扶助規則ヲ定メ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ之ヲ差出シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　診察費及治療費ハ其ノ實額
二　療養ノ爲休業中ハ其ノ日數ニ相當スル賃金額ノ三分ノ一以上
三　葬祭料ハ十圓以上
四　遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル賃金百日分以上ニ相當スル金額
五　不具廢疾者扶助料ハ其ノ賃金ノ百日分以上ニ相當スル金額

稼高ニ依リテ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ前項第二號、第四號及第五號ニ記載シタル賃金ハ前三十日間ノ就業平均額ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

第七十二條　鑛業權者ハ便宜ノ方法ヲ以テ鑛業法中鑛夫ニ關スル規定、鑛夫ノ雇傭勞役ニ關スル規則及扶助規則ヲ鑛夫ニ告知スヘシ

第七十三條　鑛業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖並所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所
三　鑛業權ノ登錄番號
四　申請ノ目的及事由

樺太廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ニ交付ス

所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ

所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ樺太廳長官ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトアルヘシ申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

申請人第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ樺太廳長官之ヲ申請人、所有者及關係人、隣接鑛業權者ニ交付ス

第七十四條　鑛業法第九十條第二項又ハ第九十二條第二項ノ規定ニ依ル訴願ニハ樺太廳長官ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　鑛業法第八十九條、第九十條第二項、第九十一條及第九十二條第二項ノ規定ニ依リテ行政訴訟ヲ提起シタル者ハ七日以内ニ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ屆出ヘシ

第七十六條　鑛業法第九十三條第二項又ハ本令第四十五條ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ樺太廳公布式ヲ以テ之ヲ爲ス

第七十七條　第二十八條、第二十九條、第四十六條乃至第四十九條、第五十四條、第五十六條、第五十七條、第六十條、第六十六條、第六十八條、第七十二條、第七十五條ノ規定ニ違背シタル者、第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ假住所ノ選定ヲ爲ササル者、第二十三條第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ設計書ヲ差出ササルトキ若ハ第二十二條第一項及第二十三條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者、第二十四條ノ鑛區ニ關スル規定ニ基ク指定ノ定期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ說明ヲ爲ササル者、第四十二條第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ鑛區圖ヲ差出ササルトキ若ハ同條第三項ノ規定ニ違背シ期間内ニ登錄稅ヲ納メサル者又ハ第七十一條ノ規定ニ依ル扶助規則ヲ差出ササル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　第五十九條ノ規定ニヨリテ鑛業代理人ヲ定メタル場合ニハ鑛業權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　本則ハ第七十七條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

附　則

第八十條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十一條　明治四十年五月樺太廳令第五十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

樣式第一號

何鑛試掘許可願
樺太何郡何町、村大字何字何
面積何　坪
右箇所ニ於テ何鑛試掘許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住　所
出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆書ニ代フルコトヲ得

樣式第二號

何鑛試掘（採掘）出願地增減區（增區、減區）願
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘（採掘）出願地何坪
增區何郡何町村大字何字何
面積何坪
減區何郡何町村大字何字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪
右試掘（採掘）出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住　所
出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號

何鑛試掘（採掘）鑛區增減區（增區、減區）願
樺太廳試掘（採掘）權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘（採掘）鑛區何坪
增區何郡何町村大字何字何
面積何坪
減區何郡何町村大字何字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪
右試掘（採掘）鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住　所
試掘（採掘）權者氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿
注意事項（樣式第二號ニ同シ）

樣式第四號

何鑛試掘（採掘）鑛區改正願
樺太廳試掘（採掘）權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘（採掘）鑛區何坪
增區何郡何町村大字何字何
面積何坪
減區何郡何町村大字何字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪
右試掘（採掘）鑛區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住　所
試掘（採掘）權者氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

樣式第五號

試掘（採掘）鑛區名更正願
樺太廳試掘（採掘）權登錄第何號
右試掘（採掘）權ノ鑛種ハ何鑛トシテ登錄相成候處何鑛ト更正許可相成度別紙理由書相添ヘ此段相願候也
年　月　日
住　所
試掘（採掘）權者氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

樣式第六號

試掘（採掘）出願人變更屆
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘（採掘）出願地何坪
右試掘（採掘）出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也
年　月　日
住　所
舊出願人　氏名（名稱）印
住　所
新出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表示シテ屆書ニ代フルコトヲ得
二　舊出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第七號

試掘（採掘）出願相續屆
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
試掘（採掘）出願地何坪
右試掘（採掘）出願人何某死亡（其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス）ニ因リ相續致候間戸籍抄本（又ハ相續ニ關スル證明書）相添此段屆出候也
年　月　日
住　所
相續人　氏　名印
樺太廳長官氏名殿

樣式第八號

共同試掘（採掘）出願人脫退屆
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘（採掘）出願地何坪
右共同出願人何某何（脫退ノ原因ヲ記載ス）ノ爲脫退致候間別紙何（脫退ノ原因ヲ證スル書面）相添此段屆出候也
年　月　日
住　所
代表者　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

樣式第九號

何鑛採掘許可願
樺太何郡何町、村大字何字何
面積何坪
右箇所ニ於テ何鑛採掘許可相成度圖面並鑛床說明書相添此段相願候也
年　月　日
住　所
出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿
注意事項（樣式第一號ニ同シ）

樣式第十號

何鑛採掘出願地（鑛區）訂正願
何年何月何日出願（樺太廳採掘權登錄第何號）
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛採掘出願地（鑛區）何坪
增區何郡何町村大字何字何
面積何坪
減區何郡何町村大字何字何
面積何坪
合計（又ハ差引）何坪
右採掘出願地（鑛區）訂正許可相成度圖面並

訂正理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所

出願人（採掘權者）　氏名（名稱）印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　鑛業法第二十五條ニ依ル出願ノ場合ハ理由書ヲ要セス但シ此ノ場合ニ於テハ命令何號ニ依ルモノナルコトヲ記載スヘシ

様式第十一號

何鑛採掘鑛區合併願

一　樺太廳採掘權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛採掘鑛區何坪

一　樺太廳採掘權登錄第何號
樺太何郡何町村大字何字何
何鑛採掘鑛區何坪

合計何坪

右鑛區合併許可相成度圖面竝合併理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏名（名稱）印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

三　二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ニハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ

四　代表者ニテ出願スル場合ニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

様式第十二號

何鑛採掘鑛區分割願

樺太廳採掘權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛採掘鑛區何坪

此ノ分割
樺太何郡何町、村大字何字何
面積何坪
樺太何郡何町、村大字何字何
面積何坪

右鑛區分割許可相成度分割圖面竝分割理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏名（名稱）印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面ハ分割區域毎ニ各三葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ

二　其ノ他ノ注意事項ハ様式第十一號中二、三、四號ニ同シ

様式第十三號

鑛業法第三十六條ニ依ル何鑛採掘鑛區訂正願

樺太廳採掘權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛採掘鑛區何坪
增區　何郡何町村大字何字何
面積　何坪
合計　何坪

右鑛區ノ鑛床ハ樺太廳採（試）掘權登錄第何號何鑛採（試）掘鑛區ノ未採掘鑛床ト聯絡シ且該鑛區ノ目的タル鑛床ト異ナルニ依リ訂正許可相成度別紙圖面、鑛床圖、鑛床說明書及訂正區域內鑛業權者ノ承諾書（鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本）竝訂正理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏名（名稱）印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　鑛區圖、鑛床圖各三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　隣接鑛業權者ノ連署アルトキハ承諾書ノ提出ヲ要セス

様式第十四號

鑛業法第三十六條ニ依ル何鑛採掘鑛區增區願

樺太廳採掘權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛採掘鑛區何坪
增區　何郡何町村大字何字何
面積　何坪
合計　何坪

右鑛區ヨリ樺太廳採（試）掘權登錄第何號何鑛採（試）掘鑛區ヘ掘進致度ニ付增區許可相成度別紙圖面、鑛床圖、鑛床說明書竝隣接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏名（名稱）印

樺太廳長官氏名殿

注意事項（様式第十三號ニ同シ）

様式第十五號ノ甲

何鑛試掘（採掘）鑛區圖

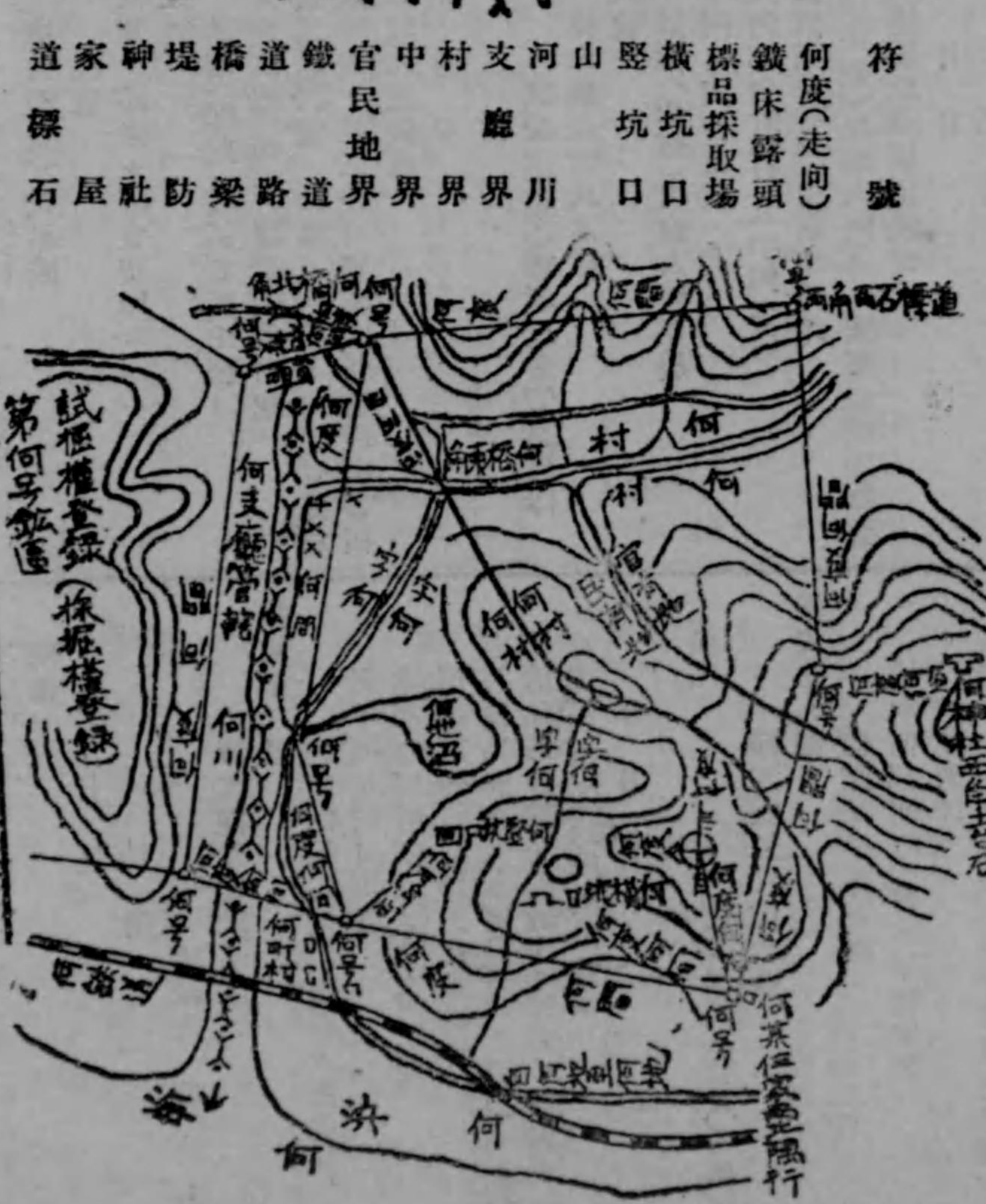
縮尺何分ノ一

大正年月日出願

樺太何郡何町、村大字何字何
何官地又ハ民地地種地目
何官地又ハ民地地種地目
面積　何坪

住所

出願人　氏　名（名稱）印



注意

一　本圖面ニハ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

イ　出願地ノ名稱及種目

ロ　出願地ノ面積

ハ　南北線

ニ　縮尺

ホ　二箇以上ノ不動基點竝其ノ名稱附特徵（基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其ノ他近傍ニアル顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定スヘシ）

ヘ　出願地ノ各隅トナルヘキ測點竝其ノ番號

ト　境界線竝基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數

チ　出願地ヨリ五十間以內ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係

リ　出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向、傾斜

ヌ　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條又ハ第十一條ニ記載シタルモノ

二　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ウヘシ

三　圖面ニ地目別ヲ顯スニハ左記ノ諸色ヲ用ウヘシ
山林（綠色）原野（鼠色）田（淡藍色）畑（黃色）宅地（褐色）水（濃藍色）

四　基點及測點附近ノ地形及地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル說明ヲ附記スヘシ

五　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス

六　縮尺ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ

様式第十五號ノ乙

何鑛試掘（採掘）鑛區位置圖

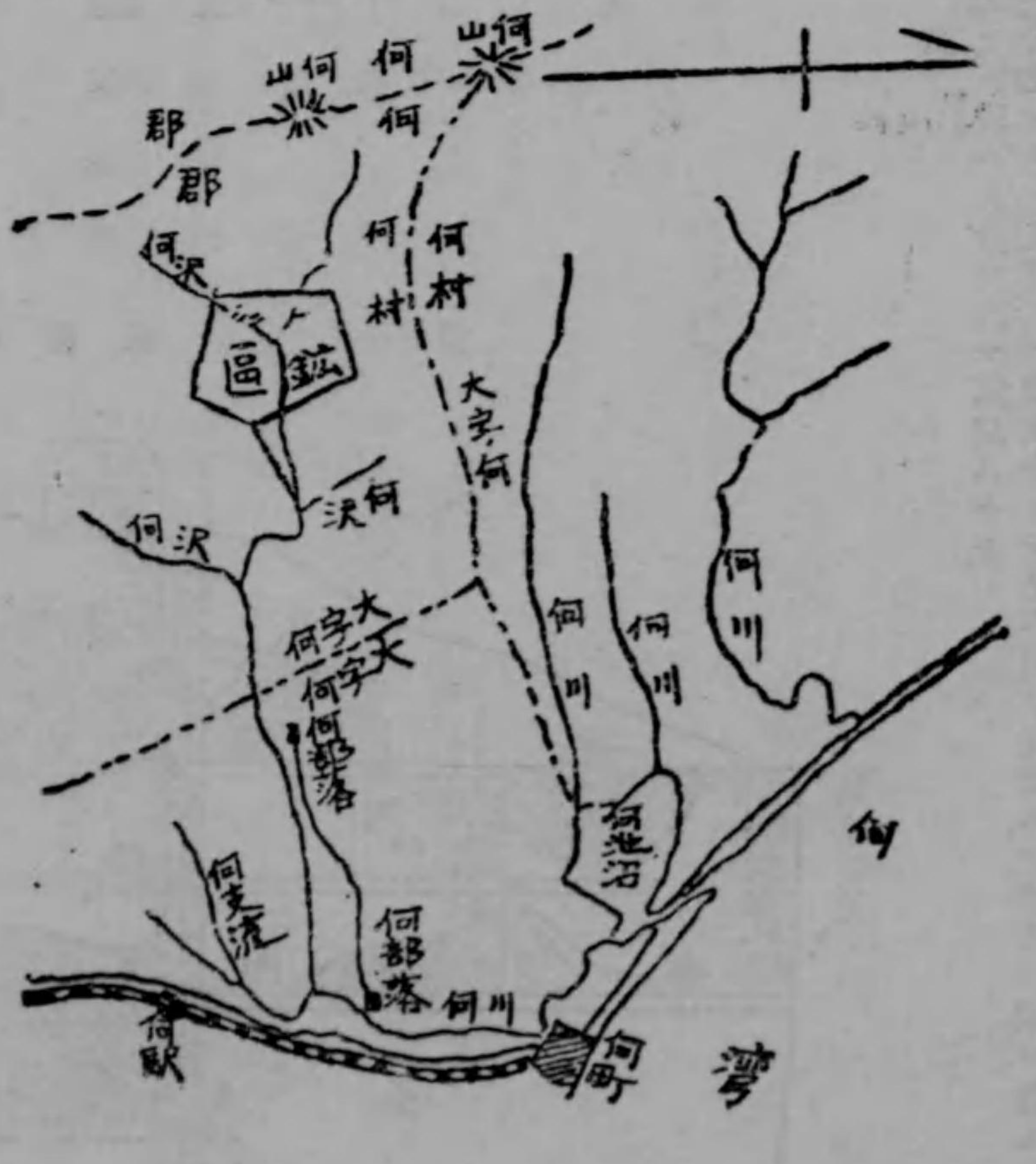
縮尺何分ノ一　大正　年　月　日出願

住所

出願人　氏　名（名稱）印

何郡何町何村大字何　地種地目

坪數



注意

一　本圖ハ一葉ヲ添附スヘシ

二　鑛區地域ト左記箇所トノ關係ヲ圖示スヘシ
河川口、池沼、鐵道驛、市街、部落

三　鑛區位置カ圖示ノミニテ不充分ナルトキハ欄外ニ於テ適當ナル說明ヲ附記スヘシ

四　縮尺ハ五萬分ノ一ニ調製スヘシ

五　符號其ノ他ハ様式第十五號ノ甲ニ準スヘシ

様式第十六號（甲）

樺太廳採掘權登錄第何號

何鑛山樺太何郡何町、村大字何字何

坑內實測平面圖　縮尺何分ノ一

符號

鑛區境界線

坑口

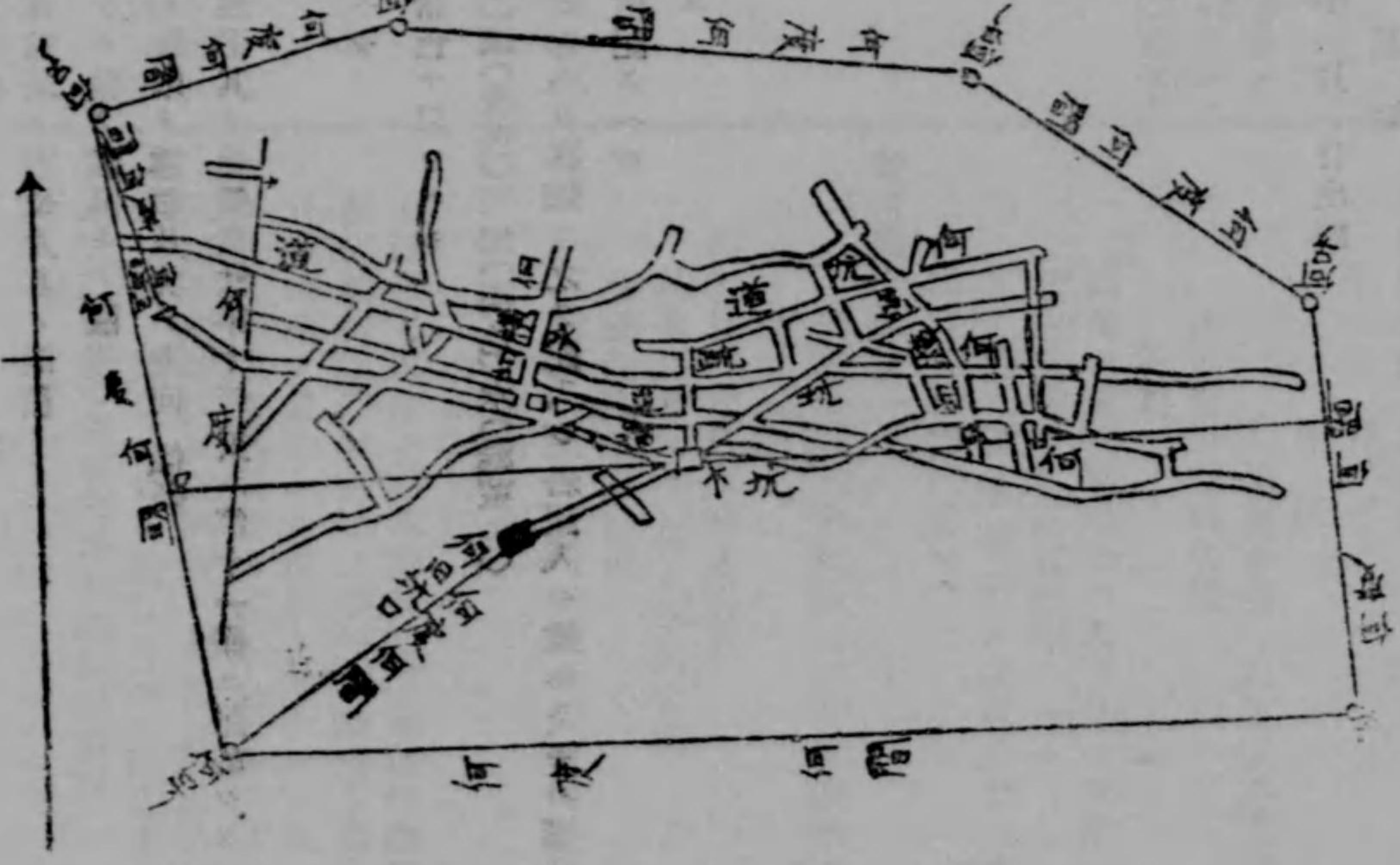
坑外竪坑口

坑井

竪坑捲揚機械

喞筒

何度斷層


何號
何度何間
道
坑
何
何號坑口
何度何間

注意

一　坑道ノ上下段ハ色別ヲ以テ區別スヘシ

二　軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ウヘシ

三　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

四　木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

様式第十六號(乙)

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛山

住所　採掘權者　氏　名(名稱)印

住所　測量者　氏　名印

坑內實測截面圖　縮尺何分ノ一

符號

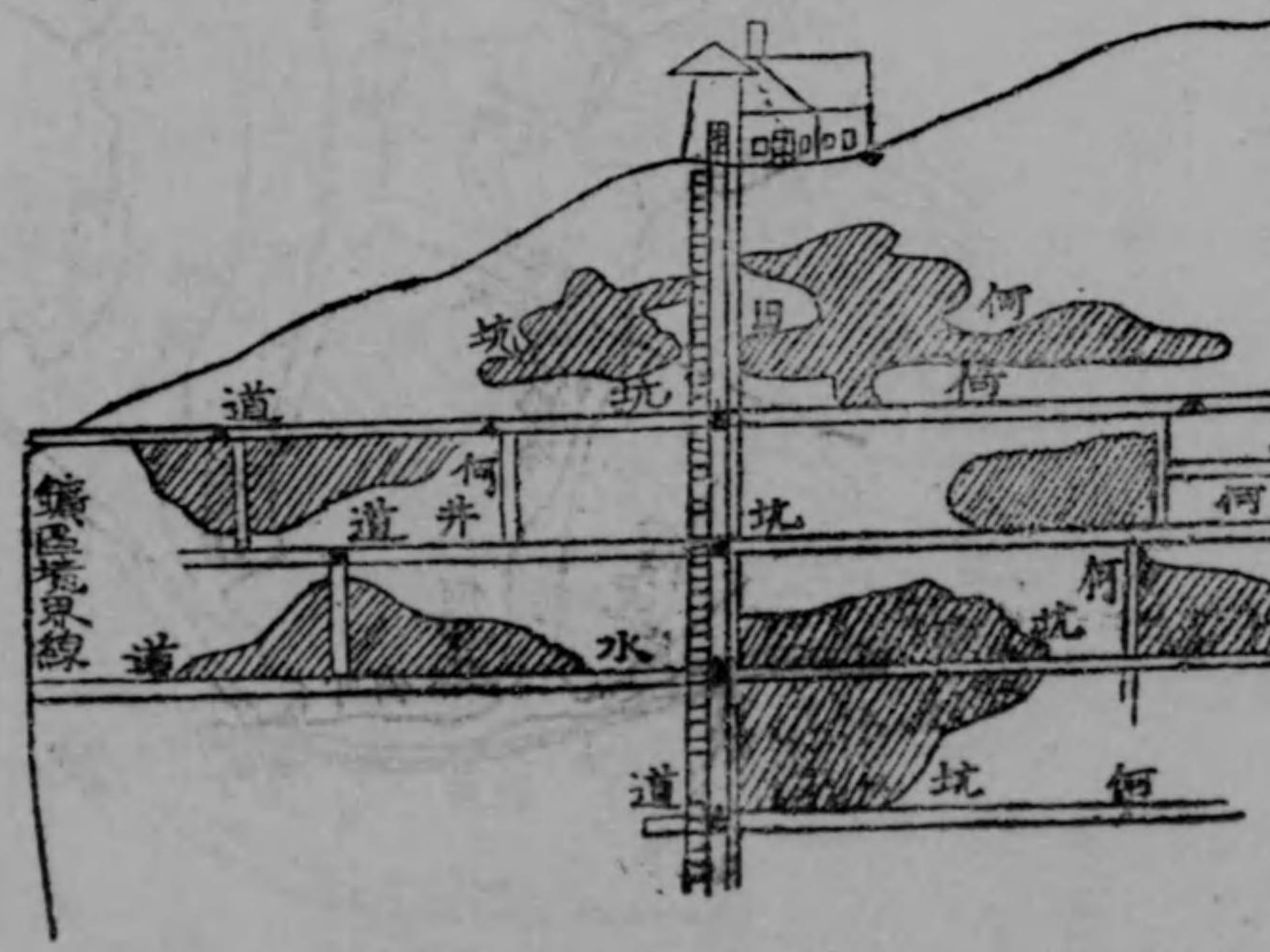
採鑛場

舊坑

横切

梯子

甲圖　(イ)(ロ)線截面


鑛區坑界線
鑛區境界線
坑
坑
何
何
道
何
井
道
坑
何
何
坑
水
道
道
坑
何

注意

一　坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區別スヘシ

二　軌道ヲ設置シタル坑道又ハ機械等ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ウヘシ

三　木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

様式第十七號(石炭鑛ノ分)

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何炭鑛

住所　採掘權者　氏　名(名稱)印

坑內實測圖　縮尺何分ノ一

住所　測量者　氏　名印

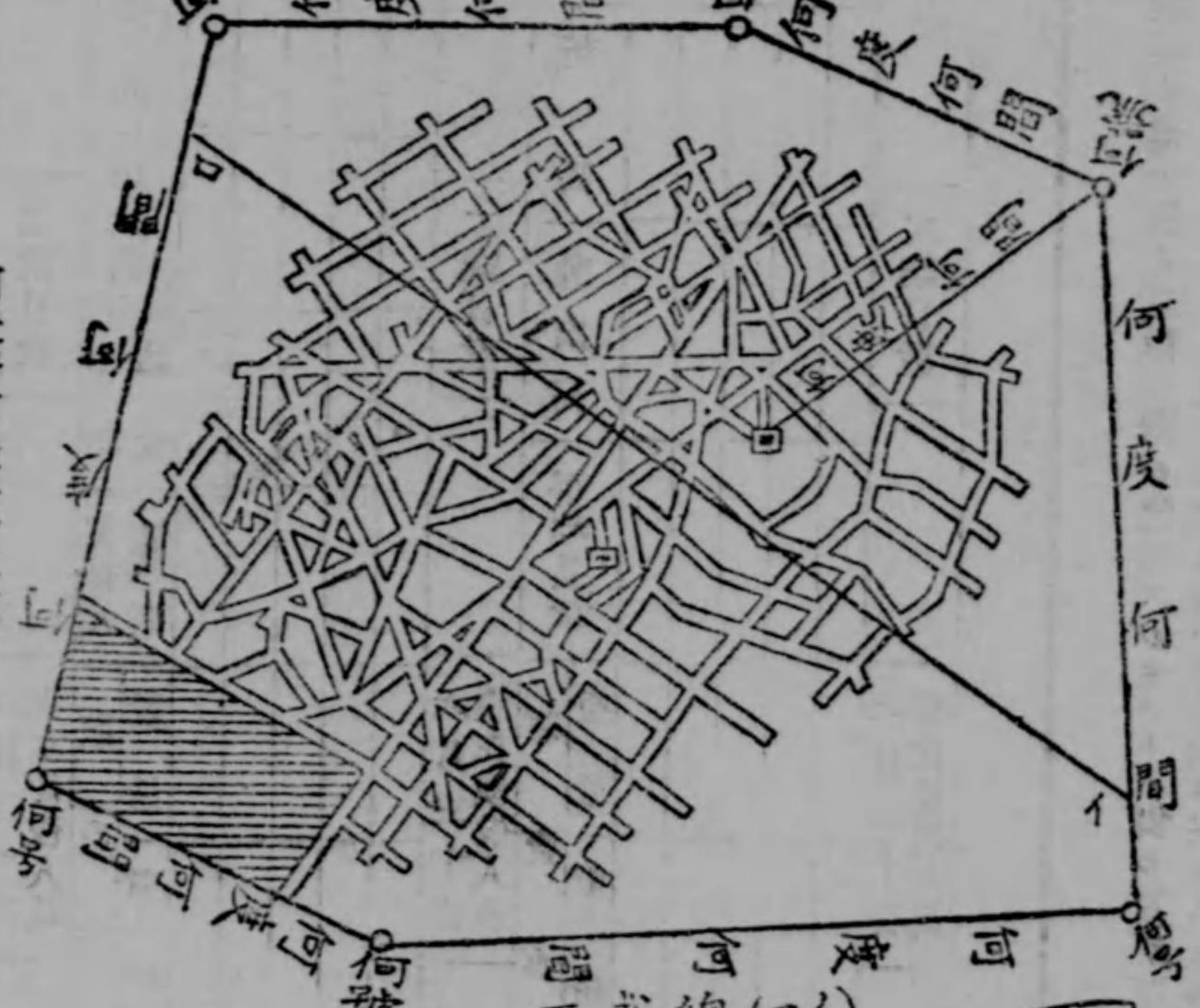
符號

鑛區境界線

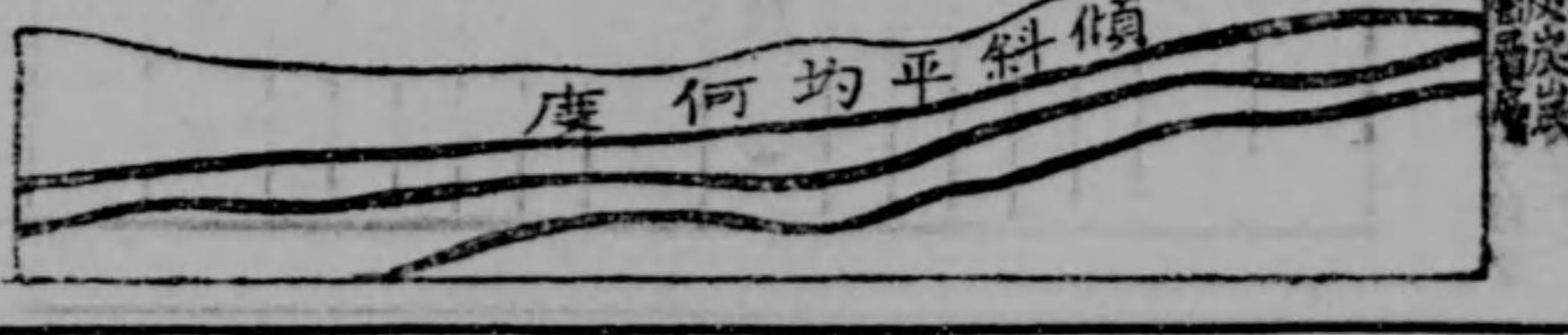
坑外竪坑口

坑井

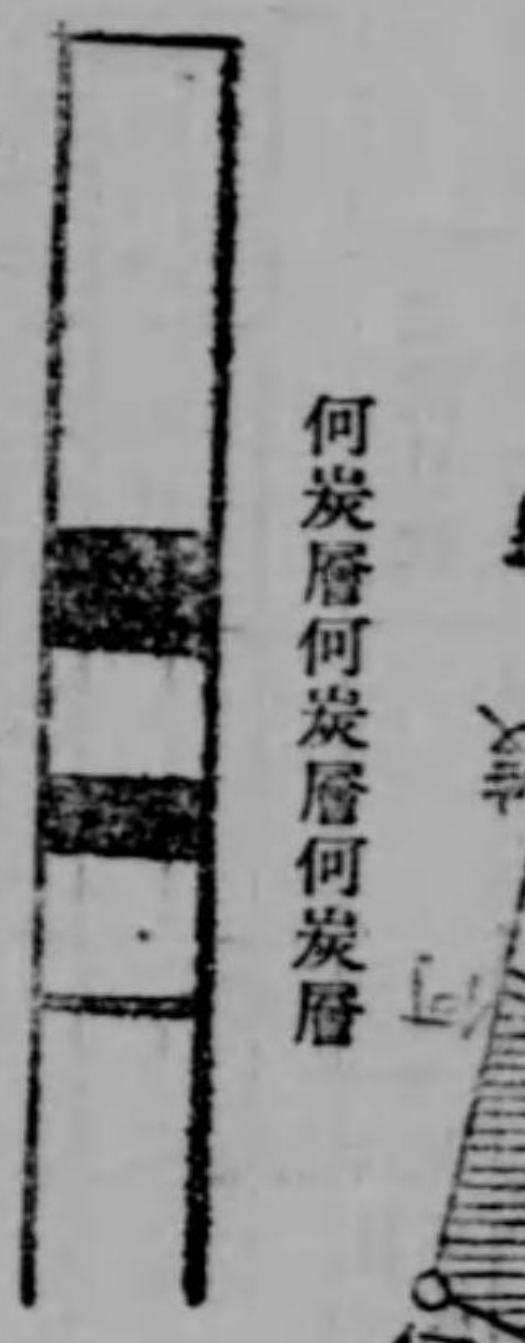
採炭跡


何號
何度何間
何號
何度何間
何號
何度何間
何號
何度何間
何號
何度何間
イ
ロ

(イ)(ロ)線截面


傾斜平均何度
何炭層
何炭層
何炭層

炭層柱狀圖　尺度二百分ノ一


何尺
何尺何尺何尺何尺何尺
何炭層何炭層何炭層

注意

一　平面圖ニハ坑道ヲ著色シテ各炭層ヲ區別スヘシ

二　採掘セシ部分ハ坑道ト同色ノ平行線ヲ以テ顯スヘシ

三　炭層中ニハサミ物アラハ柱狀圖ニ之ヲ顯スヘシ

四　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

五　木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲナスヘシ

六　捲揚機械、喞筒、煽風器及軌道其ノ他特種ノモノヲ設置セル場合ニハ適宜ノ符號ヲ用ヰテ之ヲ明示スヘシ

様式第十八號

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何石油鑛

住所　採掘權者　氏　名(名稱)印

坑內實測圖　縮尺何分ノ一

住所　測量者　氏　名印

符號

鑛區境界線

○　機械掘油井

●　同廢井

□　手掘油井

同廢井

△　カヅサ掘油井

▲　同廢井

火山岩

頁岩

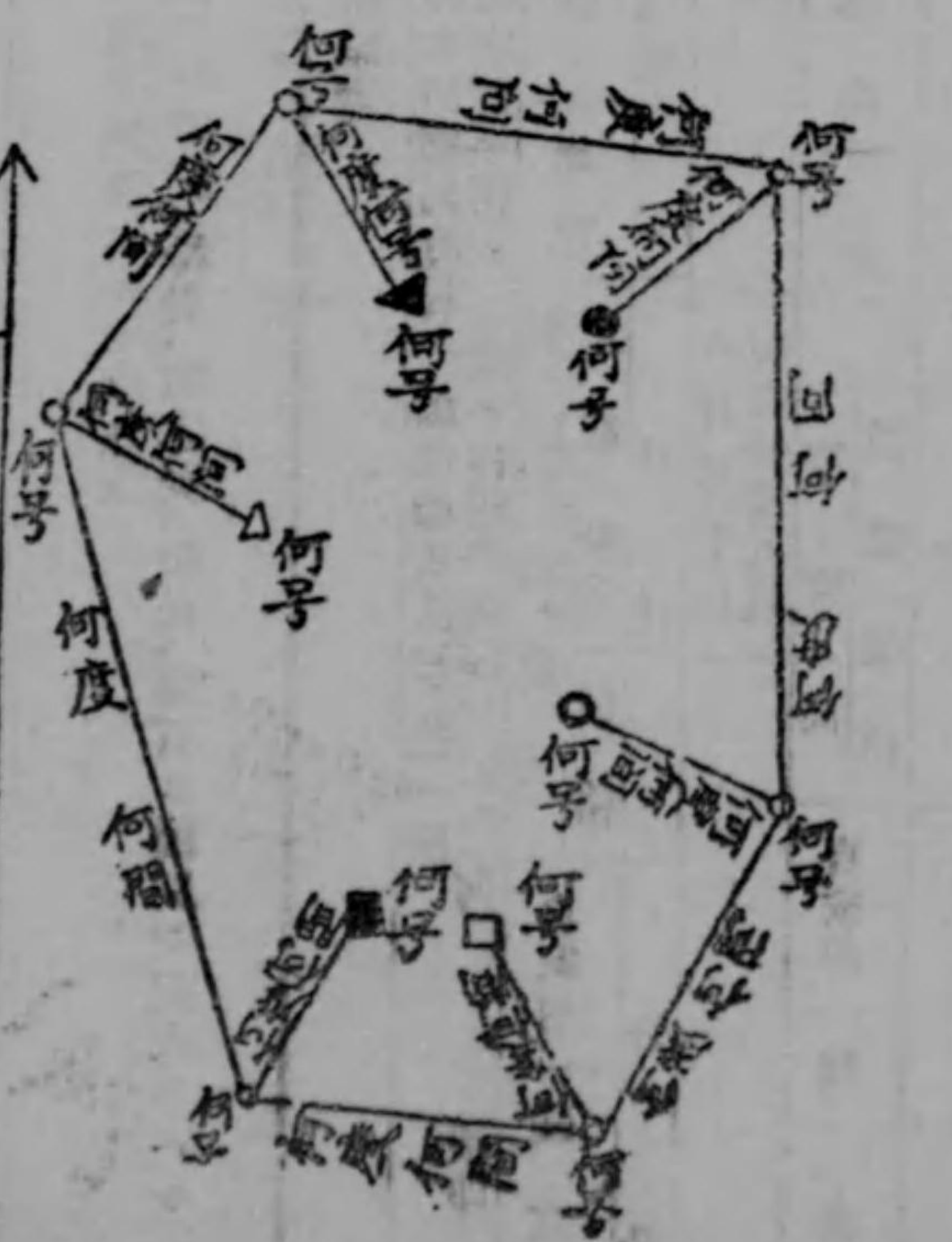
頁岩ニ薄キ砂ヲ交ユルモノ

砂及頁岩ノ交層

砂ニ薄キ頁岩ヲ交ユルモノ

砂

平面圖　縮尺一萬二千分ノ一

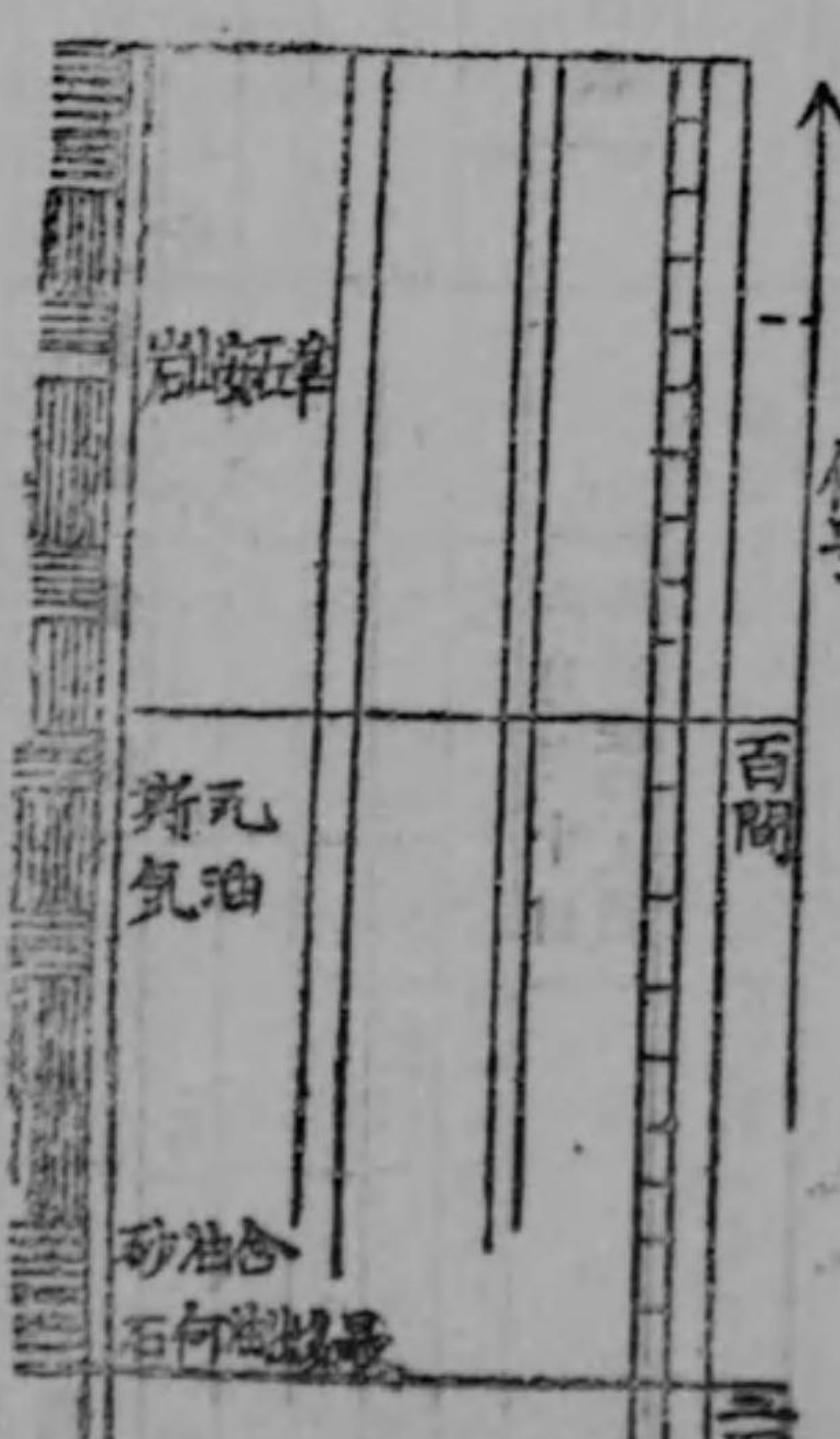

何號
何度何間
何號
何度何間
何號
何號
何號
何號
何度何間
何號
何號
何度何間
何號
何號
何度何間

油井柱狀圖　曲尺六萬分ノ一

何號井口　徑何吋

何號井口　徑何吋

何號井口　徑何吋


百間
二百間
新油
瓦氣
砂油
石何

注意

一　油井ノ位置ハ最近標杭若ハ基點ト結測シ其ノ方位間數ヲ記スヘシ

二　油井地質ハ之ヲ柱狀圖ニ記スヘシ

三　油井柱狀圖中出油ノ箇所ハ必ス明示スヘシ

四　出油量ハ最多量ノ時ノ一日分及現在ノ一日分ヲ記載スヘシ

五　本圖ノ縮尺ニテ顯シ難キモノハ適宜ノ縮尺ヲ用ヰテ調製スヘシ

樣式第十九號甲（二通）

大正　年鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

鑛種	位置名稱	鑛業權者又ハ代表者
	樺太何郡何町村大字何字何　何鑛山	住所　何　某印

採鑛部

種別	越高	採鑛高	選鑛元鑛高	製錬元鑛高	販賣高		平均品位	殘高
					數量	價格		

工數	工業日數	六月三十日現在使役人員

選鑛ノ部

種別	越高	精鑛高	平均品位	製錬元鑛高	販賣高		殘高
					數量	價格	

工數	工業日數	六月三十日現在使役人員

製錬ノ部

種別	越高	製出高	平均品位	販賣高		殘高
				數量	價格	

工數	工業日數	六月三十日現在使役人員

記事

備考

一　本表ハ金、銀、銅其ノ他一般ノ鑛物ニ關シ適用スルモノトス但シ石炭亞炭及石油ヲ除ク

二　種別ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ粗鑛ノ種類名稱（金屬鑛ニ在リテハ金鑛、銀鑛等ノ如シ）ヲ、選鑛ノ部ニ於テハ精鑛ノ種類、名稱ヲ製鑛ノ部ニ於テハ製品ノ種類名稱ヲ記載スヘシ

三　採鑛高ノ欄ニハ採掘粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

四　削除

五　選鑛元鑛高ノ欄ニハ選鑛ニ供シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

六　製錬元鑛高ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ製錬ニ供シタル粗鑛、選鑛ノ部ニ於テハ製錬ニ供シタル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

七　粗鑛、精鑛ハ貫ヲ單位トシ製品ノ內金銀ハ匁、鐵類ハ貫、其ノ他ハ斤ヲ單位トス

八　販賣セサル鑛物ニ付テハ記事欄ニ見積價格ヲ記載スヘシ

九　鑛物ヲ買入レ自己採掘ニ係ル鑛物ト合併精錬シタルモノハ該當欄ニ夫々區別シテ記載シ尙其ノ產出鑛山名、鑛山名不明ナルトキハ其ノ買入先、數量及平均品位ヲ記事欄ニ各別ニ記載スヘシ

樣式第十九號乙（二通）

大正　年鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

鑛種	位置名稱	鑛業權者又ハ代表者
石炭又ハ亞炭	樺太何郡何町村大字何字何　何炭鑛	住所　何　某印

種別	越高	產出高	計	販賣高		自家用	殘高
				數量	價格		
	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤
計							

工數	工業日數	六月三十日現在使役人員

記事

備考

一　本表ハ石炭又ハ亞炭ニ限リ適用スルモノトス

二　種別ノ欄ニハ石炭ニ付テハ塊炭、粉炭、切込炭、粗炭、燼石ニ種別シ記入スヘシ

樣式第十九號丙（二通）

大正　年鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

鑛種	位置名稱	鑛業權者又ハ代表者
石油	樺太何郡何町村大字何字何	住所　何　某印

原由

越高	產出高	計	比重	製油元高	販賣高		自家用	殘高
					數量	價格		
升	升	升		升	升		升	升

工數	六月三十日現在使役人員

製油

種別	製油越高	計	販賣高		自家用	殘高
			數量	價格		

工數	工業日數	六月三十日現在使役人員

記事

備考

一　本表ハ石油ニ限リ適用スルモノトス

二　比重欄內ニハ「ボーメ」比重計ニ依ル比重ヲ記入スヘシ

三　製品ノ種別欄內ニハ揮發油、燈油、重油、機械油等製品ノ普通名稱ニ區別シ記入スヘシ

四　原油ヲ買入レ自己採掘ニ係ル原油ト合併製油シタルモノハ該當欄ニ夫々區別シテ記載スヘシ

樣式第二十號甲

鑛業施業案

鑛業權者（又ハ鑛業代理人）　何　某㊞

登錄番號　樺太廳採掘權登錄第何號

鑛區ノ所在地　樺太何郡何町村大字何字何

鑛山ノ名稱　何々

鑛種名　金、（銀）（銅）（何）

一　採掘ニ關スル事項

（イ）主要ナル鑛床ノ位置、走向、傾斜及厚サ

（ロ）採掘方法

（ハ）一箇年間ニ於ケル粗鑛採掘豫定高

二　選鑛及製錬ニ關スル事項

（イ）選鑛及製錬ノ方法

（ロ）一箇年間ニ於ケル鑛產物產出豫定高

三　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項

（イ）捨石及鑛滓堆積場ノ位置

（ロ）捨石、鑛滓、坑水、廢水等ノ處置ニ關シ特別ノ設備ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ設備ニ關スル事項

（ハ）地表又ハ坑內ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

樣式第二十號乙

鑛業施業案

鑛業權者（又ハ鑛業代理人）　何　某㊞

登錄番號　樺太廳採掘權登錄第何號

鑛區ノ所在地　樺太何郡何町村大字何字何

鑛山ノ名稱　何々

鑛種名　石炭（又ハ亞炭）

一　採炭ニ關スル事項

（イ）主要ナル炭層ノ位置、名稱、走向、傾斜及厚サ

（ロ）採炭ノ方法

（ハ）一箇年間ニ於ケル豫定出炭高

二　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項

（イ）坑內ノ通氣ニ關スル方法又ハ設備

（ロ）地表又ハ坑內ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

樣式第二十號丙

鑛業施業案

鑛業權者（又ハ鑛業代理人）

登錄番號　樺太廳採掘權登錄第何號

鑛區ノ所在地　樺太何郡何町村大字何字何

鑛山ノ名稱　何々

鑛種名　石油

一　採油ニ關スル事項

（イ）鑿井方法

（ロ）原油ノ處分方法

二　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項

（イ）汲油又ハ製油ノ爲發生スル汚水又ハ廢物ノ處理方法

（ロ）前號ノ外危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設ニ關スル事項

備考

一　甲ハ金、銀、銅其ノ他一般ノ鑛物ニ關シ乙ハ石炭又ハ亞炭ニ關シ丙ハ石油ニ關シ適用スルモノトス

二　樺太廳長官ノ發シタル豫防命令ニ基キ施行スヘキ事項ハ施業案ニ記載スルコトヲ要セス

●砂鑛法施行細則（大正元年八月樺太廳令第三號）

改正　大正二年第四二號、六年第二號、八年第一一號、一一年第一三號

砂鑛法施行細則

第一條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ砂鑛願書ニ出願後三十日以內ニ土地所有者ノ承諾書若ハ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

第二條　土地所有者カ砂鑛權ノ出願ヲ承諾セサルトキハ樺太廳長官ハ土地所有者ニ砂鑛願書ノ提出ヲ命ス

土地所有者カ前項ノ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ砂鑛願書ヲ差出ササルトキハ砂鑛權ノ出願ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三條　砂鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定ム

但シ河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスルモノ又ハ河岸ニ沿フテ境界ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　直線ヲ以テ砂鑛區ノ境界ヲ定ムル場合ニ於テハ砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第九號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ揭クル事項ヲ明示スヘシ

一　出願地ノ名稱及種目

二　出願地ノ面積

三　南北線

四　縮尺

五　二箇以上ノ不動基點竝其ノ名稱及特徵

六　出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點竝其ノ番號

七　境界線竝基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數

八　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他

鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ

河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスル砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第十號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一　出願河川ノ名稱及河川ニ沿ヘル土地ノ名稱種目
二　出願區域ノ總延長竝幹流及支流ノ各延長
三　南北線
四　縮尺
五　出願區域ノ各端
六　各端ニ關スル不動基點竝其ノ特徴及名稱
七　基點ト各端ノ測點トノ間ノ間數及其ノ方位
八　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
九　河床ノ全幅ヲ出願區域ト爲サヽルモノニ付テハ河床中ノ境界線

第五條　砂鑛法第十一條第二項ノ規定ニ依ル減區又ハ增減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條　砂鑛出願地ノ實測ニ因リテ手數料ノ不足ヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ追納ヲ命スルコトアルヘシ

出願人ハ前項ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ手數料ヲ納付スヘシ

第七條　砂鑛出願地カ實地調査ニ因リテ他人ノ所有地ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シ第一條ノ規定ニ依リ添附スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ願書、申請書又ハ屆書ヲ受理セス

一　出願ノ砂鑛カ砂鑛法第一條ノ規定ニ該當セサルトキ
二　圖面ヲ添附スヘキ砂鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
三　手數料ヲ納付セサルトキ
四　鑛業法施行細則第十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ
五　鑛業法施行細則第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出サヽルトキ
六　鑛業法施行細則第二十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
七　鑛業法施行細則第三十四條第二項ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
八　第五條ノ規定ニ違背シ承諾書ヲ添附セサルトキ

第九條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ願書又ハ屆書ヲ却下ス

一　實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ鑛業法施行細則第二十四條第一項ノ規定ニ準シテ指定シタル調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ
二　願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
二ノ二　鑛業法施行細則第一條ノ二ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ假住所ノ選定ヲ爲サヽルトキ
三　鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲サヽルトキ
四　鑛業法施行細則第十五條若ハ第十六條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ期限內ニ承諾書又ハ證明書ヲ差出サヽルトキ又ハ第七條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面ヲ差出サヽルトキ
五　鑛業法施行細則第十七條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ區域增減ノ願書ヲ差出サヽルトキ
六　鑛業法施行細則第二十二條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ設計書ヲ差出サヽルトキ
七　鑛業法施行細則第二十四條ノ規定ニ準シテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲サヽルトキ
八　第六條ニ規定シタル期限內ニ手數料ヲ納付セサルトキ
九　鑛業法施行細則第四十條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ期間內ニ登錄稅納付書ヲ提出セス又ハ郵便ニ附セサルトキ
十　第一條ニ規定シタル期間內ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由書ヲ差出サヽルトキ

第十條　砂鑛權者其ノ砂鑛區內ニ於テ許可ヲ得タル砂鑛以外ノ砂鑛ヲ採出セムトスルトキハ豫メ砂鑛權ノ表示變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

第十一條　砂鑛權者ハ砂鑛區圖ヲ砂鑛業事務所ニ備置クヘシ

第十二條　砂鑛權者ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、工業日數及工數ヲ記載シタル砂鑛業明細表ヲ樺太廳長官ニ差出スヘシ砂鑛權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ砂鑛權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ砂鑛業明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ砂鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十三條　二箇以上ノ砂鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ砂鑛業明細表ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第十四條　砂鑛法第五條第二項ノ規定ニ依ル裁決申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル鑛床ノ關係圖及鑛業權者又ハ砂鑛權者ト交涉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交涉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　鑛業權者又ハ砂鑛權者ノ氏名又ハ名稱及住所
三　砂鑛權及鑛業權ノ登錄番號
四　申請ノ目的及理由

樺太廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ鑛業權者又ハ砂鑛權者ニ交付ス

鑛業權者又ハ砂鑛權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ答辯書ヲ差出スヘシ

鑛業權者又ハ砂鑛權者前項ノ期間內ニ答辯書ヲ差出サヽルトキハ樺太廳長官ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトアルヘシ申請書ヲ交付スルコト能ハサルトキ亦同シ

申請人鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲サヽルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ樺太廳長官之ヲ當事者雙方ニ交付ス

第十五條　砂鑛法第五條第三項ノ規定ニ依ル訴願ニハ樺太廳長官ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ於テ準用ス

第十六條　砂鑛法第十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　鑛業法第九十三條第二項又ハ本令第十條ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ樺太廳公布式ヲ以テ之ヲ爲ス

第十八條　第十條、第十一條、第十二條ノ規定ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第二十八條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第六十六條、第六十八條、第七十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第四十二條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ砂鑛區圖ヲ差出サヽルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ違背シ期間內ニ登錄稅ヲ納メサル者、鑛業法施行細則第二十二條及第二十三條ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者又ハ同則第二十三條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ設計書ヲ提出セサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　鑛業法施行細則第一條乃至第七條、第十條乃至第十三條、第十五條乃至第十七條、第二十一條乃至第二十五條、第二十八條、第三十一條乃至第三十四條、第三十八條、第四十條第一項乃至第四項、第四十一條、第四十二條、第四十四條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第五十九條、第六十二條乃至第六十八條、第七十三條乃至第七十五條、第七十八條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第二十條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條　明治四十二年樺太廳令第二十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

樣式第一號

砂（金、鐵、錫）採取願
樺太何郡何町、村大字何字何
面積何坪（延長何里）
右箇所ニ於テ砂（金、鐵、錫）存在候ニ付採取許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住所
出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

樣式第二號

砂鑛出願地增減區（增區、減區）願
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）採取出願地何坪（延長何里）
增區　何郡何町村大字何字何
面積何坪（延長何里）
減區　何郡何町村大字何字何
面積何坪（延長何里）
合計（又ハ差引）何坪（延長何里）
右砂鑛出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住所
出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號

砂鑛區增減區（增區、減區）願
樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
增區　何郡何町村大字何字何
面積何坪（延長何里）
減區　何郡何町村大字何字何
面積何坪（延長何里）
合計（又ハ差引）何坪（延長何里）
右砂鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意事項樣式第二號ニ同シ

樣式第四號

砂鑛區改正願
樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
增區　何郡何町村大字何字何
面積何坪（延長何里）
減區　何郡何町村大字何字何
面積何坪（延長何里）
合計（又ハ差引）何坪（延長何里）
右砂鑛區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

樣式第五號

砂鑛區合併願
一　樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
一　樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
合計何坪（延長何里）
右砂鑛區合併許可相成度圖面竝合併理由書相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
三　二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
四　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第六號

砂鑛區分割願
樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）鑛區何坪（延長何里）
此ノ分割
樺太何郡何町村大字何字何
面積　何坪（延長何里）
樺太何郡何町村大字何字何
面積　何坪（延長何里）
右砂鑛區分割許可相成度圖面竝分割理由書相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　圖面ハ分割區域毎ニ各三葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ
二　其ノ他ノ注意事項ハ樣式第五號中二、三、四號ニ同シ

樣式第七號

砂鑛出願人相續屆
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）採取出願地何坪（延長何里）
右採取出願人何某死亡（其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス）ニ因リ相續致候間戶籍謄本（又ハ相續ニ關スル證明書）相添此段屆出候也
年　月　日
住所
相續人　氏　名印
樺太廳長官氏名殿

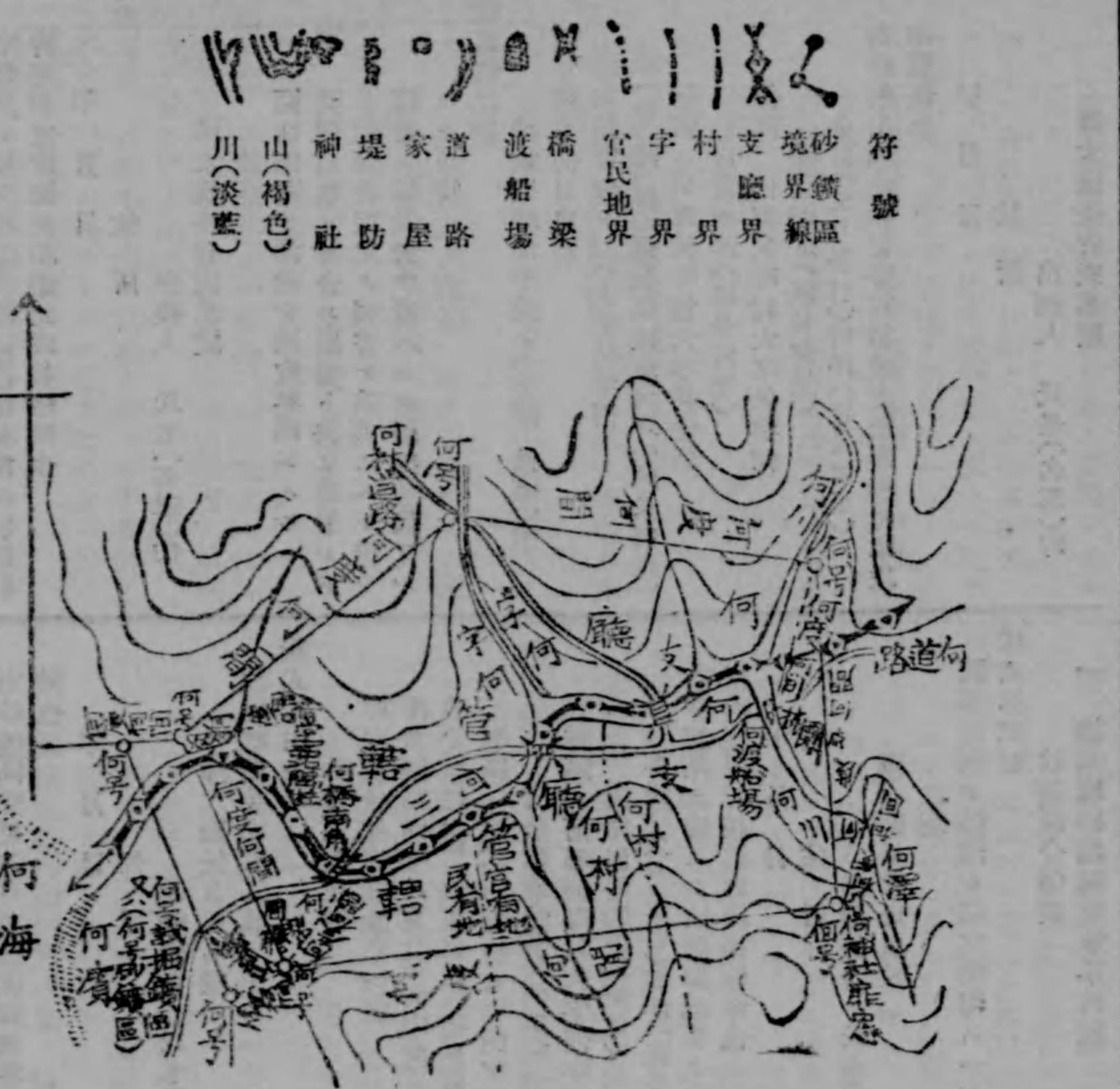
樣式第八號

砂鑛出願人變更屆
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
砂（金、鐵、錫）採取出願地何坪（延長何里）
右採取出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也
年　月　日
住所
舊出願人　氏名（名稱）印
住所
新出願人　氏名（名稱）印
樺太廳長官氏名殿

注意
一　新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得
二　舊出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第九號（四通）

砂（金、鐵、錫）鑛區圖　縮尺何分ノ一
大正　年　月　日出願
住所
氏名（名稱）印
樺太何郡何町、村大字何字何
何々官地又ハ民地地種目
何々官地又ハ民地地種目
何坪



注意

一　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ウヘシ

二　基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其ノ他近傍ニ在ル顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定スヘシ

三　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス

四　基點及測點附近ノ地形、地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若シ記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル説明ヲ附記スヘシ

五　縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一、又ハ六千分ノ一ヲ用ウヘシ

樣式第十號（四通）

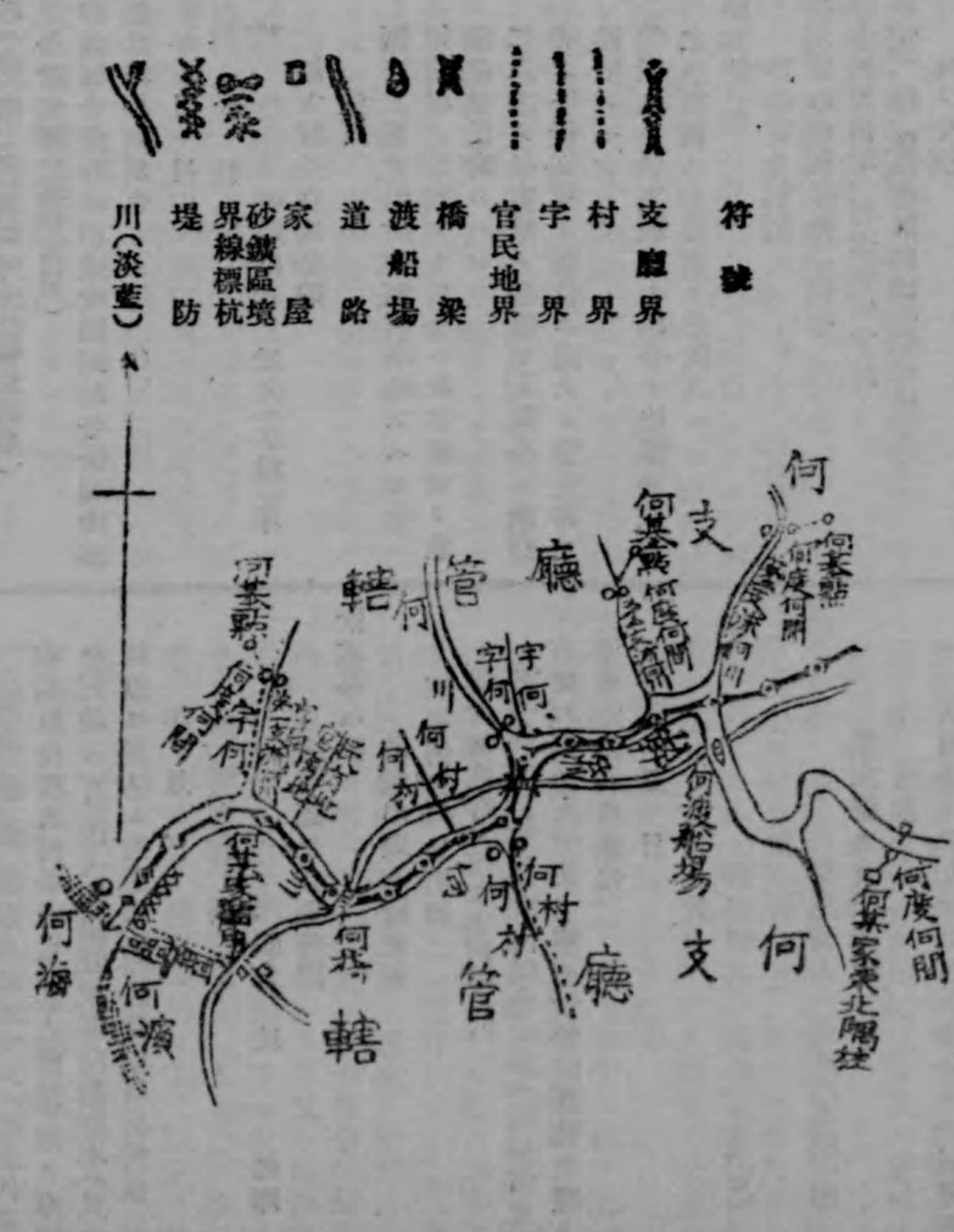
砂（金、鐵、錫）鑛區圖　縮尺何分ノ一

大正　年　月　日出願

住所

氏　名（名稱）印

樺太何郡何町、村大字何字何
樺太何郡何町、村大字何字何
延長何里何町何間
内
幹流何川何里何町何間
第一支流何川何里何町何間
第二支流何川何里何町何間
第三支流何川何里何町何間



注意

一　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ウヘシ

二　基點ハ幹流ノ上流下流及各支流ノ上流ニ各一箇所ツツ設ケ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其ノ他近傍ニ在ル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ

三　基點附近ノ地形及地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若シ記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル説明ヲ附記スヘシ

四　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス

五　縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ウヘシ

六　支流ノ番號ハ出願ニ係ルモノノミヲ掲クヘシ

七　圖面ニ肩書スル管轄支廳、村、字名ハ砂鑛區ノ兩岸ニ接スル分ヲ記載スヘシ

樣式第十一號

樺太廳登錄第何號

大正　年砂鑛業明細表

鑛種	
位置	樺太何郡何町、村大字何字何
砂鑛權者又ハ代表者	
住所	何　某　印

採取ノ部

種別	越高	採取高	平均品位	製錬元鑛高	販賣高 數量	販賣高 價額	殘高

工數	工業日數	月末日現在使役人員

製錬ノ部

種別	越高	製出高	平均品位	販賣高 數量	販賣高 價額	殘高

工數	工業日數	月末日現在使役人員

記事

注意

一　種別ノ欄ニハ採取ノ部ニ於テハ砂鑛ノ種類、製錬ノ部ニ於テハ製品ノ種類（例ヘハ金、錫、銑鐵、鋼鐵等ノ如シ）ヲ記載スヘシ

二　採取ノ部砂金ハ匁其ノ他ハ貫ヲ單位トシ製錬ノ部金ハ匁、錫ハ斤、鐵ハ貫ヲ單位トス

三　使役人員ハ十二月末日現在數土地ノ狀況ニ依リ冬季間事業ヲ休止スルモノニ在リテハ六月末日現在數ヲ記入スヘシ

●樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業及免許漁業ノ登錄ニ關スル件

（大正十年四月二十七日勅令第百七十二號）

朕樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業及免許漁業ノ登錄ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理大臣副署）

第一條　樺太ニ於ケル鑛業ニ關スル登錄ハ樺太廳ニ於テ鑛業原簿ニ、砂鑛業ニ關スル登錄ハ樺太廳ニ於テ砂鑛原簿ニ之ヲ爲ス

鑛業ノ登錄ニ關シテハ鑛業登錄令ヲ、砂鑛業ノ登錄ニ關シテハ鑛業登錄令第二條乃至第四條第五條第二項第六條乃至第二十七條第三十條乃至第三十七條第三十九條乃至第六十條ノ規定ヲ準用ス但シ同令中鑛務ニ關スル事項ヲ管掌スル官署ハ之ヲ樺太廳トシ當該官署ノ長ノ職務及第七條第十四條ニ規定スル農商務大臣ノ職務ハ樺太廳長官、第五十四條第五十五條第五十八條第六十條ニ規定スル農商務大臣ノ職務ハ內閣總理大臣之ヲ行フ

第二條　樺太ニ於ケル免許漁業ニ關スル登錄ハ樺太廳ニ於テ免許漁業原簿ニ之ヲ爲ス

前項ノ登錄ニ關シテハ漁業登錄令ヲ準用ス

但シ同令ニ規定スル主務大臣又ハ農商務大臣ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年勅令第三十四號、明治四十五年勅令第百三十八號及同年勅令第百三十九號ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル鑛業原簿、砂鑛原簿及免許漁業原簿ハ各之ヲ本令ニ依ル鑛業原簿、砂鑛原簿及免許漁業原簿ト看做ス

舊令ニ依リ爲シタル登錄ハ之ヲ本令ニ依リ爲シタル登錄ト看做ス

●鑛業登錄令施行細則

（明治四十五年七月樺太廳令第二十二號　改正　大正元年第四號）

鑛業登錄令施行細則左ノ通相定ム

鑛業登錄令施行細則

第一條　登錄事務ニ關シ左ノ帳簿ヲ備フヘシ
一　鑛業原簿
二　共同人名簿
三　鑛區圖綴込帳
四　登錄受附帳
五　申請書、囑託書附屬書類綴込帳
六　通知書綴込帳
七　通知簿
八　鑛業原簿謄本綴込帳
九　鑛業權、抵當權登錄濟通知簿
十　異議書類決定原本綴込帳
十一　謄本抄本交付閲覽申請事件簿
十二　謄本抄本交付閲覽申請書綴込帳

第二條　鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　鑛業原簿ハ一鑛區ニ付一用紙ヲ備フヘシ

第四條　共同人名簿ハ第三號及第四號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ登錄番號竝登錄年月日ヲ記載シ登錄番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第六條　登錄受附帳ハ第五號樣式ニ依リ每年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第七條　第一條第七號及第九號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第八條　鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ
一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　鑛區所在地及登錄番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
三　申請ノ範圍
四　年月日

第九條　前條ノ申請アリタルトキハ第一條第十一號ノ帳簿ニ請求ノ範圍、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十條　鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記

裁シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ樺太廳長官之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印ヲ爲ス

此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　鑛業原簿ノ謄本、抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第六條第七號ノ帳簿ニ交付ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

第十二條　登錄申請書カ數葉ニ渉ルトキハ申請人ハ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ

第十三條　申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受附帳ニ登錄ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱受附ノ年月日及受附番號ヲ、申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登錄申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限リ其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス

前項受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附ス但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第一項ニ依リ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

前三項ノ規定ハ登錄稅納付書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　登錄番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ採掘原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更消滅及鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ鑛區ノ重複シタル場合ニ於ケル鑛業權ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脱退ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ、採掘原簿ニ在リテハ甲區事項欄ニ採掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脱退ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第十五條　表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登錄ノ目的其ノ他鑛業權ノ表示ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱、住所、登錄原因及其ノ日附登錄ノ目的其ノ他登錄スヘキ權利ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ登錄シテ擔當職員捺印スヘシ

鑛業登錄令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ前項ニ依ルノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第十六條　表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第十七條　表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第十八條　附記登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ番號ヲ用ヰ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號ヲ記載スヘシ

第十九條　假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第二十條　假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第二十一條　假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第二十二條　豫告登錄ハ鑛業登錄令第五十一條第一號ニ關スルモノニ付テハ登錄用紙中相當區事項欄ニ、同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　變更又ハ更正ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ登錄ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第二十四條　登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、順位番號、登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ樺太廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付シ且登錄義務者ニハ登錄番號、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號、登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ樺太廳ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ交付スヘシ

法令ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ爲ス登錄又ハ申請ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ要セサルモノノ登錄ノ場合ニ於テハ前項ニ準シ作成シタル登錄濟通知書ニ樺太廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ但シ鑛業權ノ設定、變更又ハ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ鑛區圖ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交附スルヲ以テ足ル

第二十五條　鑛業登錄令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ揭ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且前條第一項ニ準シ作成シタル登錄濟通知書ニ樺太廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

第二十六條　鑛業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第二十七條　前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルトキハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シ若登錄事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登錄スヘシ

第二十八條　登錄用紙中部又ハ區カ登錄ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登錄番號欄ニ前用紙ノ登錄番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登錄番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　鑛業權ノ設定、變更又ハ表示ノ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄用紙中表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記入スヘシ

第三十條　鑛業權ノ設定又ハ移轉ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ登錄權利者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所竝其ノ代表者ナルコトヲ登錄用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ

共同鑛業代表者改定ノ屆出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登錄ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ朱抹スヘシ

第三十一條　前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ屆出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ、備考欄ニ登錄番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第三十二條　共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脱退ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第三十三條　前二條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前用紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛業原簿ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第三十五條　共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名欄ニ於ケル末尾ノ縦線ヲ番號欄、代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第三十六條　鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シテ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載シ他ノ鑛業權ニ付テハ其ノ登錄用紙中表示欄ニ鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權消滅シタルトキハ之ト重複ノ關係ヲ有スル他ノ鑛業權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ鑛業權ノ消滅シタル旨ヲ記載シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權消滅ノ登錄ヲ爲ストキハ前項ノ手續ヲ爲スノ外合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル新ナル鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係アルコトヲ記載スヘシ

第三十七條　數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權ニ付抵當權設定ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ他ノ採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第三十八條　追加抵當權設定ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第三十九條　數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第四十條　前條ノ場合ニ於テ採掘權ノ消滅カ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外鑛業登錄令第三十條ニ依リ新ニ設定セラレタル採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十一條　登錄ヲ抹消スルニハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル後抹消スヘキ登錄ヲ朱抹スヘシ

第四十二條　鑛業法第四十二條及第四十三條ノ規定ニ基キテ爲シタル競賣ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ準シ登錄ヲ爲シタル後移轉ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年勅令第百三十八號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年樺太廳令第八十號及同年樺太廳訓令第百四十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號樣式

試掘原簿

第何册

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日

樺太廳長官印

登錄番號	

表題部

表示番號	
表示欄	
表示番號	
表示欄	
表示番號	
表示欄	

試掘原簿　丁

事項區

順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

第二號樣式

採掘原簿

第何册

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日

樺太廳長官印

登錄番號	

表題部

表示番號	
表示欄	
表示番號	
表示欄	
表示番號	
表示欄	

採掘原簿　丁

甲

順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	
順位番號	
事項欄	

採掘原簿　丁

區	乙　區
	順位番號
	事項欄
	順位番號
	事項欄
	順位番號
	事項欄

第三號樣式

試掘共同人名簿　第何册

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年　月　日

樺太廳長官印

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

試掘共同人名簿　丁

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

第四號樣式

採掘共同人名簿　第何册

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年　月　日

樺太廳長官印

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

採掘共同人名簿　丁

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

第五號樣式

何年分登錄受附帳

樺太廳

受附ノ年月日	
受附番號	
登錄ノ目的	
申請人ノ氏名	
備考	

登錄受附簿　丁

受附ノ年月日	
受附番號	
登錄ノ目的	
申請人ノ氏名	
備考	

●砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則

（明治四十五年七月樺太廳令第二十三號）

第一條　砂鑛原簿ハ第一號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　砂鑛業共同人名簿ハ第二號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登錄番號欄ニハ各砂鑛區ニ付砂鑛原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ砂鑛權ノ表示ヲ爲シ並其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

甲區事項欄ニハ登錄權ノ設定、移轉、處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニハ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第四條　明治四十五年廳令第二十二號第一條第五號乃至第十二號、第三條、第五條、第六條乃至第十三條、第十五條乃至第三十五條、第三十七條乃至第四十二條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登錄ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十五年勅令第百三十九號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年廳令第十八號及同年廳訓第百四十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

砂鑛原簿　第何册

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年　月　日

樺太廳長官印

砂鑛原簿　丁

登錄番號	表題部	甲
表示番號		順位番號
表示欄		事項欄
表示番號		順位番號
表示欄		事項欄
表示番號		順位番號
表示欄		事項欄

砂鑛原簿　丁

區	乙　區
	順位番號
	事項欄
	順位番號
	事項欄
	順位番號
	事項欄

（第二號樣式）

砂鑛業共同人名簿　第何册

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年　月　日

樺太廳長官印

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

砂鑛業共同人名簿　丁

番號	
代表者欄	
共同人名欄	
備考	

●樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業又ハ漁業ニ關スル手數料ノ件

（大正九年八月十三日勅令第二百五十六號）

改正　大正一〇年第一七一號

朕明治四十五年勅令第百四十號樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業又ハ漁業ニ關スル手數料ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太ニ於テ鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納付スヘシ漁業ニ關スル出願又ハ申請ヲ爲ス者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ國ニ之ヲ適用セス

●鑛業及砂鑛業ノ出願申請及登錄手數料

（明治四十五年七月樺太廳令第十九號）

改正　大正九年第二二號、一〇年第二四號

第一條　鑛業ニ關スル出願申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　試掘願　毎一件　金五拾圓

二　試掘出願地ノ變更願

增區又ハ增減區　毎一件　金參拾圓

減區　毎一件　金五圓

三　試掘鑛區ノ變更願

增區又ハ增減區　毎一件　金參拾圓

減區　毎一件　金五圓

改正　毎一件　金五圓

四　試掘出願人ノ變更屆

相續　毎一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル變更　毎一件　金貳拾五圓

五　採掘願　毎一件　金七拾五圓

六　採掘出願地ノ變更願

增區又ハ增減區　毎一件　金五拾圓

減區　毎一件　金五圓

七　採掘鑛區變更願

增區又ハ減區　毎一件　金五拾圓

減區　毎一件　金五圓

鑛區訂正　毎一件　金參拾圓

改正　毎一件　金五圓

八　採掘鑛區ノ合併又ハ分割願　毎一件　金參拾圓

九　採掘鑛區ノ分合願　毎一件　金五拾圓

十　採掘出願人ノ變更屆

相續　毎一件　金五圓

相續以外原因ニ因ル變更　毎一件　金五拾圓

十一　共同鑛業出願人ノ脫退屆　毎一件　金五圓

十二　鑛種名更正願　毎一件　金拾圓

十三　鑛業法第四十九條ノ規定ニ因ル實地調査願　毎一件　金五拾圓

十四　鑛業法第五十一條ノ規定ニ因ル測量又ハ檢査願　毎一件　金拾圓

十五　鑛業法第五十三條ノ規程ニ因ル障碍物除却願　毎一件　金拾五圓

十六　鑛業法第五十六條ノ規定ニ因ル鑛業

用地使用願　每一件　金貳拾五圓

十七　裁決申請　每一件　金貳拾五圓

第二條　鑛業登錄令第六條ノ規定ニ依リテ鑛業原簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若クハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請
　用紙每一枚　金五拾錢
二　鑛區圖謄本交付ノ申請
　鑛區每十萬坪　金貳圓五拾錢
三　鑛業原簿又ハ附屬書類ノ閲覽申請
　每鑛區每一時間　金貳拾五錢

紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖モ一枚、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第三條　砂鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　砂鑛採取願　每一件　金拾圓
二　砂鑛出願地ノ增區又ハ增減區願　每一件　金拾圓
三　砂鑛出願地ノ減區願　每一件　金壹圓
四　砂鑛區ノ增區又ハ增減區願　每一件　金拾圓
五　砂鑛區ノ減區願　每一件　金壹圓
六　砂鑛區ノ合併又ハ分割願　每一件　金貳圓
七　砂鑛出願人ノ變更屆
　相續每一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル變更　每一件　金拾圓
八　砂鑛區實地調査願　每一件　金參拾圓
九　測量又ハ檢査許可願　每一件　金拾圓
十　障碍物除却許可願　每一件　金拾五圓
十一　砂鑛業用地使用許可願　每一件　金拾五圓
十二　裁決申請　每一件　金貳拾五圓

前項第一號ノ出願ニ付テハ河床ニ在リテハ二里每ニ、其ノ他ニ在リテハ十萬坪每ニ一件分ノ手數料ヲ納ムヘシ

第一項第二號及第四號ノ出願ニ付テハ其ノ增區部分ノミニ付前二項ニ依ル手數料ヲ納ムヘシ

第四條　砂鑛登錄令ニ依リテ砂鑛原簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ砂鑛原簿若クハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　砂鑛原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請
　用紙每一枚　金五拾錢
二　砂鑛區圖謄本交付ノ申請
　砂鑛區每二里又ハ每十萬坪　金貳圓五拾錢
三　砂鑛原簿又ハ附屬書類ノ閲覽申請
　每鑛區每一時間　金貳拾五錢

第五條　砂鑛業ニ關シ紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、二里、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖モ一枚、二里、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

附　則

本令ハ明治四十五年勅令第一四〇號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年樺太廳令第二五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●鑛業警察規則　（大正二年十一月樺太廳令第四十一號）

鑛業警察規則

第一條　採掘權者カ技術ニ關スル事項ヲ管理セシムル爲特別ノ管理者ヲ選任又ハ改任セムトスルトキハ其ノ履歷書ヲ添ヘ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　鑛業法第七十三條ニ依リ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命セラレタル者ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ之ヲ選定シ履歷書ヲ添ヘ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　帝國大學卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者
二　高等工業學校若ハ鑛山專門學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者
三　七箇年以上鑛業ニ從事シタル者

第三條　技術ニ關スル管理者ハ左ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ採掘權者カ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

一　本令ノ規定及本令ノ規定ニ依リテ發シタル命令ニ依リ技術ニ關スル採掘權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲
二　本令ノ規定ニ依ル係員ノ監督

第四條　鑛業權者ハ本令ノ規定ニ依ル係員ヲ選任又ハ改任シタル場合ニハ其ノ履歷書ヲ添ヘ直ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第五條　樺太廳長官ハ本令ノ規定ニ依ル係員ノ選任、改任又ハ其ノ增員ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　鑛業權者ハ本令ノ規定ニ依リ安全燈、火藥類及機關ノ取扱方法ヲ定メタルトキハ豫メ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ方法ニ關シ樺太廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　鑛業ヲ爲スニ當リ過失、變災等ニ依リ死者又ハ重傷者ヲ生シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ死傷者ヲ生セサル場合ト雖事業ノ全部又ハ一部ヲ休止スルヲ要スルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ官ノ命スル所ニ從ヒ變災ニ對スル處置、其ノ經過及結果ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第八條　鑛業權者ハ鑛業ヲ爲スニ當リ生シタル死傷者ニ付每一箇月其ノ事由及員數ヲ記載シタル書面ヲ作製シ翌月十日迄ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第九條　鑛業權者ハ本令中鑛夫ニ關スル規定ヲ鑛夫ニ周知スヘシ

第十條　鑛業權者ハ現ニ坑內ニ於テ操業スル鑛夫ノ員數及其ノ姓名ヲ知リ得ヘキ方法ヲ設ケ置クヘシ

第十一條　鑛業法又ハ本令ニ依リ命セラレタル豫防工事ニ著手シ又ハ之ヲ完成シタルトキハ遲滯ナク樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十二條　鑛業ノ全部又ハ一部ヲ廢止セムトスル者ハ豫メ危險ノ虞アル坑口ヲ後害ナキ樣閉塞スヘシ

第十三條　鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル坑內ニ於テハ其ノ奧部ニ於テ連結シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ

樺太廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ各坑口間ノ距離、連絡坑道ノ數、其ノ裝置及位置ヲ指定ス

樺太廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ鑛夫五十人以下ヲ入坑セシムル坑內ニ於テモ前二項ノ規定ヲ適用ス

第十四條　豎坑、坑井又ハ四十度以上ノ斜坑及坑道ノ之ト交叉スル場所ニハ蓋又ハ欄圍ヲ設クヘシ

第十五條　通行又ハ運搬ノ用ニ供スル豎坑及主要ノ坑道ニハ通信機ヲ設クヘシ

第十六條　豎坑ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以內トシ少クトモ三十尺每ニ踏棚ヲ設クヘシ

第十七條　人ヲ通行セシムル豎坑ニ於テ捲揚ノ裝置ヲ設クル場合ニハ板圍アル梯子道ヲ設クヘシ

第十八條　人ヲ昇降セシムル捲揚臺ニハ上蓋ヲ備ヘ且捲揚綱ノ切斷及捲揚超過ヨリ生スル危險ニ對スル豫防設備ヲ爲スヘシ

前項ノ捲揚臺ヲ支持スル綱索ハ少クトモ總重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ用ウヘシ

第十九條　人ヲ通行セシムル坑內ノ自動車道又ハ捲揚車道ニ於テハ軌道ノ一方ニ人道ヲ設クルカ又ハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ

第二十條　自動車道又ハ捲揚車道ニ使用スル車輛ニハ係鑛夫ノ外乘車スルコトヲ得ス但シ第十八條ノ規定ニ準シテ危險豫防ノ設備ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　通行又ハ運搬ノ用ニ供スル坑道ハ幅三尺以上高五尺以上ト爲スヘシ

第二十二條　坑內ニハ衞生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

第二十三條　石炭坑ニ於テハ變災ニ對スル應急ノ設備ヲ爲シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ設備ハ樺太廳長官ノ認可ヲ得附近ノ採掘權者ト共同シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　石炭坑內ニ於テハ特殊ノ安全燈ニ使用スル場合ノ外燈火用トシテ石油其ノ他揮發性燈油ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十五條　石炭坑內ニ於テ新ニ瓦斯ノ發生ヲ認メタルトキハ鑛業權者ハ直ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第二十六條　石炭坑ニ於テハ常ニ二十箇以上ノ安全燈ヲ備置クヘシ

第二十七條　石炭坑ニ於テ瓦斯ノ存在スル場所ニ在リテハ安全燈及電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十八條　瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ在リテハ指定ノ場所ノ外喫煙ヲ爲シ又ハ發火具ヲ携帶スルコトヲ得ス

第二十九條　石油坑口又ハ貯油場ノ周圍五間以內ノ場所ニ於テハ發火具、裸火其ノ他危險ナル燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十條　採掘權者ハ保安係員ヲ置キ作業ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ

保安係員ハ採掘ニ關スル場所ニ就キ每日危險ノ有無ヲ巡檢スヘシ但シ瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛夫ノ就業前及交替每ニ之ヲ爲スヘシ

保安係員ハ危險ノ虞アリト認メタル場所ニ於ケル作業ヲ中止セシメ且其ノ通行ヲ遮斷シ遲滯ナク之ヲ採掘權者ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ更ニ檢査ヲ爲シ完全ト認メタル後ニ非サレハ作業ヲ開始セシメ又ハ遮斷ヲ解クコトヲ得ス

保安係員ハ適當ナル施設ヲ以テ作業中止ノ場所ノ通行ヲ遮斷スヘシ

鑛夫ハ通行遮斷ノ場所ニ立入ルコトヲ得ス

保安係員ハ特別ノ帳簿ヲ設ケ巡檢每ニ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

第三十一條　鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル石炭坑ニ於テハ氣壓計及驗溫氣器ヲ通氣路ノ要所ニ備置クヘシ

氣流ノ通路及方向、通氣用構造物竝通氣觀測點ノ位置ハ之ヲ坑內實測圖又ハ特ニ調製シタル通氣圖ニ記入シ置クヘシ

保安係員ハ測風器、氣壓計、驗溫氣器及安全燈其ノ他ノ瓦斯檢定器ヲ以テ每日通氣ノ狀況及瓦斯ノ多少ヲ觀測シ特別ノ帳簿ヲ設ケ其ノ結果ヲ記載スヘシ若シ異常アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ採掘權者ニ報告スヘシ

樺太廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ第一項以外ノ鑛山ニ於テモ前三項ノ規定ヲ適用ス

第三十二條　安全燈ノ使用ヲ必要トスル石炭坑ニ付テハ左ノ規定ヲ適用ス

一　採掘權者ハ安全燈係員ヲ置キ安全燈ノ授受及檢査等ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ
二　安全燈係員ハ安全燈ノ檢査ヲ爲シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ之ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
三　鑛夫ハ安全燈ヲ開キ又ハ之ヲ開クニ用ウヘキ器具ヲ携帶スルコトヲ得ス
四　採掘權者ハ坑內ニ於テ安全燈ノ毀損シ若ハ燈火ノ消滅シタル場合ニ之ヲ交換シ又ハ一定ノ場所ニ於テ點火スルカ爲適當ナル方法ヲ設クヘシ
五　採掘權者ハ安全燈ノ取扱方法ヲ定メ且之ヲ鑛夫ニ周知スヘシ

第三十三條　鑛業ヲ爲スニ當リ火藥類ヲ使用スル場合ニ於テハ左ノ規定ヲ適用ス

一　鑛業權者ハ火藥係員ヲ置キ火藥類ノ授受及其ノ取締等ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ
二　火藥係員ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ火藥類ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
三　鑛夫ハ火藥類ヲ使用シタル後殘餘アルトキハ直ニ之ヲ火藥係員ニ還付スヘシ
四　鑛夫ハ鐵製込棒ヲ以テ裝藥スルコトヲ得ス
五　鑛夫ハ粘土其ノ他發火ヲ誘起スル虞ナキ物ノ外込物トシテ使用スルコトヲ得ス
六　鑛夫ハ導火線ニ點火シタル後爆發セサルトキハ少クトモ十五分間ハ其ノ場所ニ近寄ルコトヲ得ス且此ノ場合ニ於テ火藥類ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス
七　鑛業權者ハ火藥類ノ取扱方法ヲ定メ且之ヲ鑛夫ニ周知スヘシ
八　火藥係員ハ火藥類ノ使用ニ關シ特別ノ帳簿ヲ設ケ每日ノ渡高、使用高及還付高ヲ記載スヘシ

第三十四條　鑛業權者ハ左ニ揭クル工作物ヲ開設シ又ハ變更セムトスルトキハ其ノ位置、設計書及圖面竝使用ノ目的ヲ明記シ豫メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　汽罐、捲揚器械、選鑛場、製鍊場又ハ煙突
二　汽機、石油發動機、發電機、電動機、水車、喞筒、通風機
三　火藥類貯藏所

前項ニ揭クル工作物ノ工事ヲ完成シタルトキハ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ屆出テ使用ノ認可ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第一項ニ揭ケタルモノノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

樺太廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ部下ノ官吏ニ命シ隨時汽機汽罐ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十五條　警察官吏ハ必要アリト認ムルトキハ火藥類貯藏所又ハ火藥類ヲ收藏スル疑アリト認ムル場所ニ臨檢シ帳簿及物件ニ付檢査ヲ行フコトヲ得

第三十六條　鑛業權者ハ機關係員ヲ置キ特別ノ注意ヲ要スル機關及附屬スル裝置ヲ管守シ及保係鑛夫ヲ監督セシムヘシ

鑛業權者ハ機關ノ取扱方法ヲ定メ且之ヲ鑛夫ニ周知セシムヘシ

機關係員ハ每日其ノ管守ニ屬スル機關ヲ監視シ異常アルトキハ直ニ之ヲ鑛業權者ニ報告スヘシ

機關係員ハ特別ノ帳簿ヲ設ケ前項ニ揭ケタル事項其ノ他機關ノ修理又ハ休止等重要ナル事項ヲ記載スヘシ

第三十七條　鑛業權者ハ第三十條第三項、第三十一條第三項、又ハ前條第三項ノ場合ニ於テ係員ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ應急者ハ豫防ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十八條　從業者ハ私ニ火藥類ヲ所持シ又ハ銃砲刀劍類ヲ携帶スルコトヲ得ス

第三十九條　樺太廳長官ハ鑛業法第七十二條ニ基ク命令及本令ヲ執行スル爲又ハ坑口ノ開鑿、捨石、鑛滓、坑水若ハ廢水ノ處置ニ關

シ必要アリト認メタルトキハ鑛業權者ニ一定ノ行爲ヲ命シ又ハ禁止若ハ制限ヲ爲スコトアルヘシ

第四十條　樺太廳長官ハ鑛業ノ監督又ハ鑛業警察ノ爲必要アリト認メタルトキハ坑內ノ全部又ハ一部ヲ封鎖スルコトアルヘシ

第四十一條　本令ノ規定ニ違反シ又ハ本令ノ規定ニ依リテ發シタル命令ニ從ハサル者若ハ第三十五條ニ依ル檢査ヲ拒ミタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條　本令ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スヘキ場合ハ直接ノ監督者ヲ現ニ犯シタル者ト同一ノ罰ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ用ヒタルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　本令ノ規定ニ依リ技術ニ關スル管理者ヲ置キタル場合ニハ本令ノ規定ニ依リ採掘權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ技術ニ關スル管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律

（明治四十五年六月二十二日法律第二十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　樺太ニ於テハ主務大臣ノ指定シタル區域內ノ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收ス

前項ノ區域內ニ於ケル石炭ノ採掘ハ其ノ採掘料ヲ競爭入札ニ付シ落札者ニ之ヲ許可ス

競爭入札加入者ノ資格及競爭入札ノ方法ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル採掘ノ許可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ニ依リテ生スル鑛業權者ノ義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第三條　鑛業權者採掘料ヲ完納セス又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキハ行政官廳ハ其ノ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四條　採掘料ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法及明治四十年法律第三十四號ヲ準用ス但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際第一條ノ區域內ニ於ケル國ノ石炭採掘區域ニ付テハ國ハ其ノ鑛業權ヲ有ス

●明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ノ許可ニ關スル件

（明治四十五年六月二十二日勅令第百三十七號　改正　大正一〇年第六六號）

朕明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ノ許可ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ノ許可ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　競爭入札ニ加入セムトスル者ハ鑛業法ニ依リ鑛業權者ト爲ルコトヲ得ル者ニシテ直接國稅年額千圓以上ヲ納メ且一年五萬噸以上ノ石炭ヲ產出スル鑛區ヲ二年以上經營シタル者ニ限ル

前項ノ外樺太廳長官ハ必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ特ニ競爭入札加入者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第一項ノ直接國稅ノ種類ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第三條　樺太廳長官ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ハ爾後二年間競爭入札ニ加入スルコトヲ得ス

一　競爭ニ際シ入札金額ヲ低落スルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

二　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ落札者ノ義務履行ヲ妨害シタル者

三　自己ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ鑛業權取消ノ處分ヲ受ケタル者

第四條　競爭入札ハ指名競爭ノ場合ヲ除クノ外其ノ入札期日ヨリ少クトモ四月前ニ官報及新聞紙ニ公告シテ之ヲ行フヘシ

第五條　前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

一　採掘ヲ許可スヘキ區域及坪數

二　許可ニ條件ヲ付スルトキハ其ノ條件又ハ之ヲ示スヘキ方法

三　入札及開札ノ場所日時

四　入札保證金額

第六條　競爭入札ニ加入セムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ入札保證金ヲ納付スヘシ

第七條　入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　入札人競爭ニ際シ入札金額ヲ低落スルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタリト認ムルトキハ當該官吏ハ入札ヲ中止スヘシ既ニ入札後ナルトキハ其ノ入札全部ヲ無效トス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ入札ハ之ヲ無效トス

一　競爭入札ニ加入スルノ資格ナキ者

二　入札ニ關シ不正ノ所爲アリタル者

三　代理人ニ依リ入札スル場合ニ於テ其ノ代理權ヲ證明セサル者

四　入札保證金ヲ納付セサル者

五　自己ノ爲ニスルト他人ノ爲ニスルトヲ問ハス一人ニテ二以上ノ入札ヲ爲シタル者

六　入札書中必要ナル事項ヲ明確ニ記載セサル者

第十條　開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ入札人出席セサルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十一條　樺太廳長官ノ豫定シタル金額以上ノ最高額ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札者トス但シ同額ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定メ抽籤スヘキ者出席セサルトキハ立會官吏ヲシテ抽籤セシムヘシ

第十二條　開札ノ結果落札者ナキトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度入札セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ再度入札ニ付スルモ尙落札者ナキトキハ指名競爭ニ付スルコトヲ得

但シ之カ爲當初定メタル採掘區域、入札豫定金額及條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第十三條　落札者決定シタルトキハ樺太廳長官ハ期間ヲ指定シ石炭採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル願書又ハ圖面法令ノ規定ニ適合セス又ハ不備ナリト認ムルトキハ樺太廳長官ハ期間ヲ指定シ其ノ修正又ハ補充ヲ命スヘシ

第十四條　樺太廳長官ハ前條ノ出願ヲ許可スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證金ヲ徵スルコトヲ得

第十五條　落札者第十三條ノ命令ニ從ハサルトキハ其ノ落札ハ之ヲ無效トス此ノ場合ニ於テハ入札保證金ハ政府之ヲ取得ス

第六條ノ規定ハ前項ノ保證金ニ之ヲ準用ス

第十六條　落札無效ト爲リタル爲更ニ競爭入札ヲ行フ場合ニ於テハ第四條ノ公告期間ヲ四十日迄ニ短縮スルコトヲ得

第十二條ノ場合ニ於テ再度入札又ハ指名競爭ニ付セス更ニ競爭入札ヲ行フトキ亦前項ニ同シ

第十七條　入札保證金ハ政府ニ於テ之ヲ取得スル場合ヲ除クノ外開札終了後直ニ之ヲ還付ス但シ落札者ノ入札保證金ハ石炭ノ採掘ヲ許可シタル後之ヲ還付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件

（明治四十五年七月樺太廳令第二十四號　改正　大正四年第一三號、八年第二號、九年第一號、一〇年第一四號）

明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　明治四十五年法律第二十三號ノ施行ニ關シテハ同年勅令第百三十七號ニ依ルノ外本令ニ依ル

第二條　競爭入札加入者ノ資格ニ關スル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一　地租

二　所得稅

三　營業稅

四　鑛業稅

第三條　競爭入札ニ加入セムトスル者ハ官公署ノ認證アル書面ヲ以テ其ノ資格ヲ有スルコトヲ證明スヘシ

入札人代理人ナルトキハ前項ノ外尙其ノ代理權ヲ證明スヘシ

第四條　削除

第五條　現金ヲ以テ入札保證金ヲ納付セムトスル者ハ第一號書式ノ納付書ヲ添ヘ主務官吏ニ納付シ其ノ預證書ヲ受クヘシ

第六條　無記名國債證券ヲ以テ入札保證金ヲ納付セムトスル者ハ第二號書式ノ質權設定書ヲ添ヘ主務官吏ヘ納付シ登錄國債ヲ以テ入札保證金ヲ納付スルトキハ明治三十九年大藏省令第二十三號國債規則ニ定ムル質權登錄請求書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條　入札書ハ第三號書式ニ依リ調製シ封緘ノ上之ヲ提出スヘシ

第八條　入札金額ヲ表示スル數字ハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ヰヘシ

第九條　石炭ノ採掘ヲ許可スル場合ニ於テ保證金ヲ徵收スルトキハ其ノ保證金ノ納付ニ關シテハ第十條乃至第十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條　削除

第十一條　現金ヲ以テ保證金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ納付書ヲ主務官吏ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケ指定ノ金庫ニ現金ヲ納付シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ

前項ノ納付書ハ第一號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第十二條　無記名國債證券ヲ以テ保證金ヲ納付セムトスル者ハ質權設定證書ヲ主務官吏ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケ指定ノ金庫ニ當該有價證券ヲ納付シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ

前項ノ質權設定證書ハ第二號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第十三條　登錄國債ヲ以テ保證金ヲ納付セムトスル者ハ質權ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ寄託シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ

第十四條　削除

第十五條　第十一條乃至第十三條ノ金庫保管證書ハ指定ノ期間內ニ主務官吏ニ差出シ其ノ預證書ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年廳令第二十號ハ之ヲ廢止ス

第一號書式

入札保證金納付書

一金「何程」

但シ外金「何程」國債證券ヲ以テ納付

右明治四十五年ニ法律第二十三號ニ依ル石炭採掘料ノ競爭入札保證金トシテ納付候也

年　月　日

住　所　　氏　名印

樺太廳長官宛

備　考

現金ノミニテ保證金ヲ納付スルトキハ但書ノ記載ヲ要セス

第二號書式

質權設定證書

一「何」公債證書　記番號額面「何」圓「何」枚

此擔保價格金「何程」

右ハ拙者所有ノ有價證券ニ有之候處（何某ノ）明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘料ノ競爭入札保證金トシテ質權設定候也

年　月　日

住　所

質權設定者　氏　名印

質權者

樺太廳長官宛

備　考

（何某ノ）ハ第三者カ入札人ノ爲ニ其ノ所有ニ係ル國債證券ニ付質權ヲ設定シタル場合ニ限リ之ヲ記載スヘシ

第三號書式

入　札　書

一金「何程」

石炭一英噸採掘料

右入札候也

年　月　日

住　所

入札　氏　名印

樺太廳長官宛

●樺太ニ於テ石炭採掘ニ付採掘料徵收區域

（明治四十五年六月二十二日閣令第二號）

明治四十五年法律第二十三號ニ依リ樺太ニ於テ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收スヘキ區域左ノ通定ム

一　雨龍川及吐鯤保川流域以南能登呂半島一圓

二　泊居川流域一圓

三　東ハ分水嶺ヲ界トシ北ハ泊居川流域ヨリ南追手川流域ニ至ル間一圓

四　內淵川流域一圓但シ第一支流落合基點ヨリ下流ヲ除ク

五　川上川流域一圓但シ第一支流落合基點ヨリ下流ヲ除ク

六　內路川以北國境ニ至ル間ノ幹線道路ト其ノ西方分水嶺トノ間一圓

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州鑛業取締規則

（大正二年十一月九日關東都督府令第三十四號　改正　大正七年第二二號）

關東州鑛業取締規則左ノ通定ム

關東州鑛業取締規則

第一條　本令ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ採掘、採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

前項鑛物ノ種類ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　鑛物ノ未タ掘採又ハ採取セサルモノハ政府ノ所有トス

第三條　鑛業ヲ爲サムトスル者ハ鑛物ノ種類ヲ明記シ左ノ事項ヲ具シタル鑛區圖ヲ添附シテ關東【都督】ニ出願スヘシ

一　地域及其ノ種目

二　面積

三　南北線

四　縮尺

五　二箇以上ノ不動基點竝其ノ名稱及特徵

六　地域ノ各隅トナルヘキ測點竝其ノ番號

七　境界線並基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數

八　地域及附近ニ於ケル他ノ鑛業トノ關係

九　地域及其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭並其ノ走向、傾斜

十　地域及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他第四條第五條ニ記載シタルモノ

第四條　防禦營造物地帶第一區、第二區及火藥庫若ハ彈藥庫ノ周圍三百間以內ノ地域ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲シ又ハ鑛業ノ爲使用スルコトヲ得ス

第五條　鐵道、軌道、社寺境內地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ地域ハ各其ノ所有者其ノ他ノ關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區（砂鑛區ヲ除ク）ト爲シ又ハ鑛業（砂鑛業ヲ除ク）ノ爲使用スルコトヲ得ス但シ所有者其ノ他ノ關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

土地ノ所有者ハ自ラ砂鑛業ノ出願ヲ爲ストキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　前二條ノ承諾ヲ拒マレタルトキ又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ出願者ノ請求ニ依リ民政署長又ハ支署長之ヲ裁定ス

第八條　鑛業許可ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ所轄民政署長又ハ支署長ノ許可ヲ得テ測量又ハ調査ノ爲他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ民政署長又ハ支署長ハ之ヲ土地ノ占有者ニ通知スヘシ

第九條　同一地域ニ付鑛業出願人數人アルトキハ適當ト認ムル一人又ハ數人ニ之ヲ許可スルコトヲ得

第十條　鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ關東【都督】ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知アリタル日ヨリ三十日以內ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第一項及第二項ノ規定ハ豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニ之ヲ適用セス

第十條ノ二　鑛業出願者ハ其ノ鑛業出願地ノ變更ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ願書ニハ其ノ理由書並新舊出願地ノ關係ヲ明示セル圖面ヲ添附スヘシ

第十一條　共同出願人ハ願書ト共ニ連署シタル總代選定ノ届書ヲ差出スヘシ總代ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ願書ニ總代ヲ表示シテ届書ニ代フルコトヲ得

總代ハ政府ニ對シ共同出願人ヲ代表ス但シ出願ノ取下、區域增減ノ願出又ハ出願人名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ名義變更其ノ他ノ事由ニ依リ鑛業權者二人以上トナリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選定シ連署シタル届書ヲ差出スヘシ鑛業代理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十三條　鑛業權者ハ其ノ鑛區ノ增減分割若ハ合併ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ願書ニハ其ノ理由書並地域ノ關係ヲ明示セル圖面ヲ添附スヘシ

第十四條　鑛業權ハ許可ヲ得テ之ヲ相續又ハ讓渡スル場合ノ外權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第十五條　鑛業權者ハ鑛業上必要アルトキハ所轄民政署長又ハ支署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ民政署長又ハ支署長ハ之ヲ土地ノ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地ノ權利者ニ協議スヘシ

前三項ノ規定ハ豫メ土地ノ權利者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第十六條　土地ノ使用二年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ土地ノ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

前二項ノ規定ハ第六條ノ土地ノ所有者ニ之ヲ準用ス

第十七條　土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ鑛業權者ハ土地ノ權利者ニ補償金ヲ支拂フヘシ他人ノ所有地ニ於テ砂鑛ヲ採取スルトキ亦同シ

第十八條　土地ノ使用若ハ收用又ハ補償金額ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者又ハ土地ノ權利者ノ請求ニ依リ民政署長又ハ支署長之ヲ裁定ス

第十八條ノ二　鑛業ニ關シテ出願ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　鑛業出願手數料	毎一件	二十圓
二　鑛業出願地變更願手數料		
增區又ハ增減區	毎一件	十圓
減區	毎一件	五圓
三　鑛區變更願手數料		
增區、增減區、分割、合併	毎一件	十圓
減區	毎一件	五圓
四　鑛業權者名義變更願手數料		
相續	毎一件	三圓
讓渡	毎一件	十圓

前各號ノ手數料ハ砂鑛ノ場合ニ於テハ總テ半額トス

第十九條　鑛業權者ニハ鑛區使用料ヲ課ス

鑛區使用料ハ鑛區一千坪毎ニ毎年金拾錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

鑛區使用料ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

鑛業ノ許可アリタル年ニ係ル鑛區使用料及鑛區ノ增加ニ依リ新ニ賦課スル鑛區使用料ニシテ增加アリタル年ニ係ルモノハ之ヲ卽納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區使用料ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業許可期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

鑛業權ノ讓渡ハ鑛區使用料ノ關係ニ付テハ相續ト看做ス

本條ニ基ク共同鑛業權者ノ義務ハ連帶トス

第二十條　削除

第二十一條　鑛業ニ著手シタルトキ又ハ六十日以上鑛業ヲ休止セムトスルトキハ關東【都督】ニ届出ツヘシ休業期間內ニ事業ニ著手シタルトキ亦同シ

第二十二條　鑛業公益ニ害アリ又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ關東【都督】ハ鑛業ノ許可ヲ取消シ又ハ鑛業ノ停止、改良若ハ危險ノ豫防ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ關東都督ハ鑛業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　許可ヲ受ケタル日ヨリ正當ノ理由ナクシテ一年以內ニ鑛業ニ著手セサルトキ若ハ一年以上休業シタルトキ

二　本令又ハ本令ニ基キ發シタル命令ニ違反シタルトキ

三　詐欺又ハ錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ

第二十四條　鑛業許可ノ取消又ハ鑛業廢止ノ後ト雖モ一箇年以內ニ限リ關東【都督】ハ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シ保安ノ爲必要ト認ムル措置ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ其ノ命令ノ範圍內ニ於テ之ヲ鑛業權者ト看做ス

第二十五條　許可ヲ得スシテ鑛業ヲ爲シタル者、鑛區外ニ侵掘シタル者又ハ詐欺ニ因リ鑛業ノ許可ヲ得タル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第四條若ハ第五條ノ規定ニ違反シ又ハ第二十二條若ハ第二十四條ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第十一條、第十二條及第二十一條ニ依ル届出ヲ怠リタル者又ハ第八條及第十五條ニ依ル許可ヲ得スシテ他人ノ土地ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條　鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ其法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　鑛業權者ハ其ノ從業者カ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第三十一條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス但シ同法中三百圓以下ノ罰金トアルハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料トス

附則

第三十二條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條　本令公布前關東【都督】ニ於テ許可シタル鑛業ハ本令公布ノ日ニ於テ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

第三十四條　露曆一九〇一年六月十八日發布ノ露國關東州長官命令第三十九號臨時關東州鑛業規則ニ基キ關東州鑛區分界確定證書登錄簿又ハ發見届（假試掘終了届）登錄簿ニ登錄セラレ日本政府ヨリ其ノ權利ヲ確認セラレタル者ハ證憑書類ヲ添附シ本令施行ノ日ヨリ一年以內ニ關東【都督】ニ届出ツヘシ但シ發見届（假試掘終了届）登錄簿ニ登錄セラレタル者ニ在リテハ第三條ノ規定ニ準據スルコトヲ要ス

前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ鑛區カ第四條乃至第六條ニ規定セル地域內ニ在ルトキハ所轄官廳ノ許可又ハ所有者其ノ他ノ關係人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス但シ砂鑛區カ第五條ニ規定セル地域內ニ在ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　本令公布前ニ私有地ニ於テ鑛業ニ從事シタル者ハ第三條ノ規定ニ準據シ本令施行ノ日ヨリ一年以內ニ關東【都督】ニ届出ツヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　前二條ノ手續ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ノ日ニ於テ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

第三十七條　臨時關東州鑛業規則ニ基キ關東州鑛區分界確定證書登錄簿ニ登錄セラレタル者、發見届（假試掘終了届）登錄簿ニ登錄セラレタル者ニシテ日本政府ヨリ未タ其ノ權利ヲ確認セラレサル者及搜索ノ爲露國關東州長官ヨリ土地ノ貸下ヲ受ケタル者ハ其ノ證憑書類ヲ添附シ本令施行ノ日ヨリ一年以內ニ鑛業ノ許可ヲ願出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ許可ノ願出ヲ爲シタル權利者ハ其ノ地域ニ付他人ニ優先ス

第三十八條　第三十四條若ハ第三十五條ニ依ル届出又ハ第三十七條ニ依ル願出ヲ爲ササル者ハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

大正二年十一月九日
關東都督府告示第百三十一號
改正　大正四年第一二四號

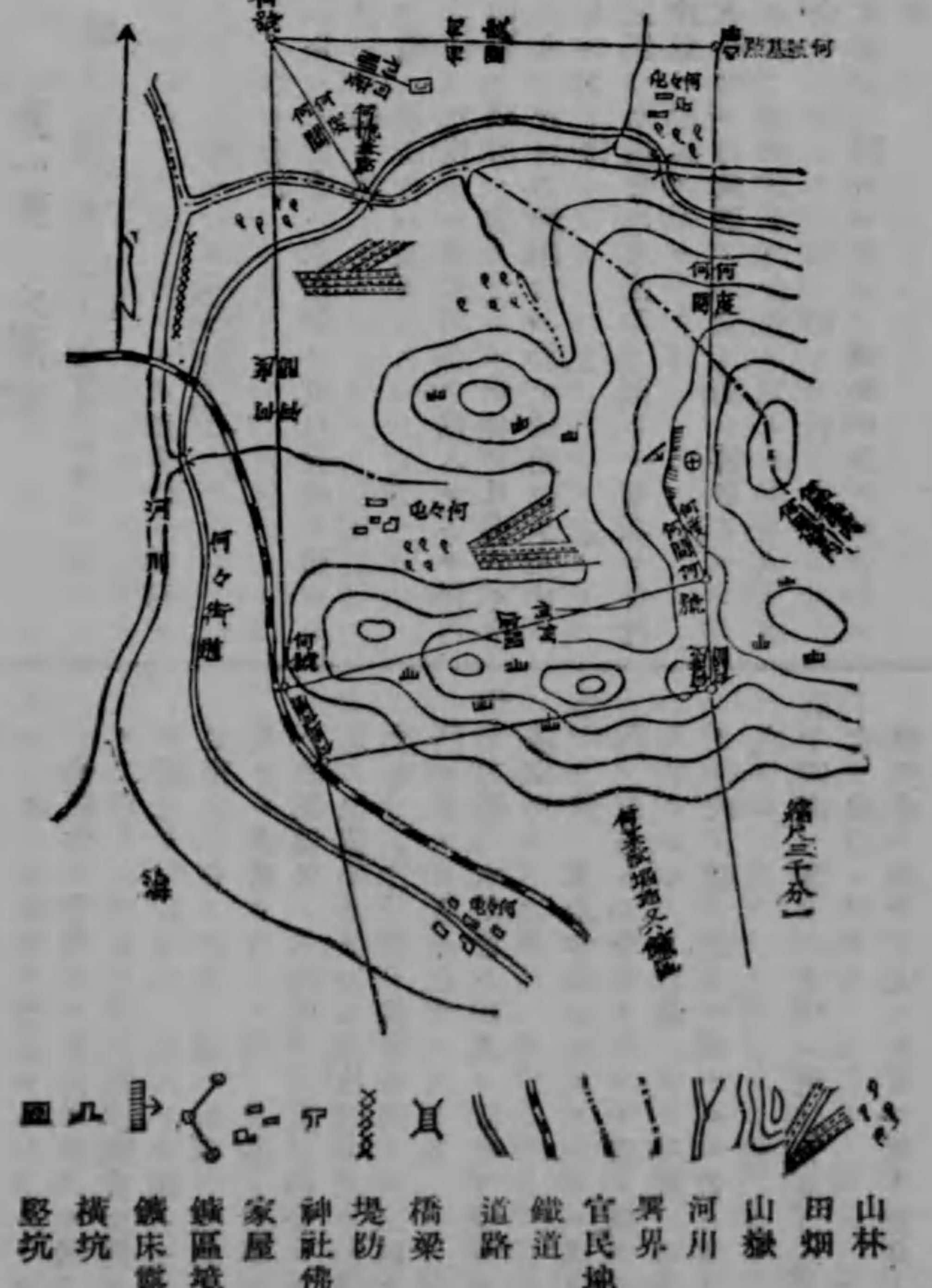
關東州鑛業取締規則ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛（砂金ヲ含ム）、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛（砂錫ヲ含ム）、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛（砂鐵ヲ含ム）、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青、硫黃、石綿、雲母、苦灰石、滑石重晶石及貴重ナル玉石類ヲ謂フ

大正二年十一月十三日
關東都督府告示第百三十三號

關東州鑛業取締規則ニ依ル願届書及願書ニ添付スヘキ鑛區圖ノ件左ノ通定ム

一　願届書ハ正副二通差出スヘシ

一　願書ニ添付スヘキ鑛區圖樣式左ノ通



注意

一　圖面ハ出願地ノ位置、境界及地形ヲ明示スル目的ヲ以テ調製シ左ニ掲クル事項ヲ記入スヘシ

　一　出願地ノ名稱、地目、諸界線（地目ハ山林綠色、原野褐色、田淡藍色、畑黃色、宅地赤色ヲ以テ顯スヘシ）

　二　出願地ノ面積（坪ヲ單位トスヘシ）

　三　出願地隅角點並其ノ番號（番號順ハ右廻リニ之ヲ附スヘシ）

　四　境界線並基點ト隅角點間ノ方位及間數

　五　不動基點並其ノ名稱及特徵基點ハ廟（神社佛閣）人家、橋梁、道辻、川股、大樹、大岩、土地調査局建設三角點並圖根點、國防用防禦營造物區域標其ノ他顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ

　六　南北線（三寸以上タルヘシ）

　七　縮尺（三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ウヘシ）

　八　出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向傾斜

　九　出願地ヨリ五十間以內ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係

　十　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形

二　圖面用紙、礬水引美濃紙ヲ用ウヘシ

三　圖面ハ鉛筆及「インキ」ヲ以テ調製スヘカラス

四　圖面ハ三通提出スヘシ

●關東州石材採掘規則

（明治四十年十月十二日 關東都督府令第五十六號）

改正　大正四年第二〇號、六年第一一號

關東州石材採掘規則左ノ通相定ム

關東州石材採掘規則

第一條　關東州內ニ於テ石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ本令ニ依リ所轄民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ其ノ本人又ハ代理人カ關東州內ニ住居スルコトヲ要ス但シ法人ニ在テハ關東州內ニ事務所ヲ有シ又ハ代表者カ住所ヲ有スルコトヲ要ス

第三條　營業ノ爲メ石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ別記書式ニ準シタル書面ニ各事業設計明細書、借區ノ位置、形狀及坪數ヲ記載セル圖面ヲ添ヘ所轄民政署長又ハ民政支署長ニ願出ツヘシ

借區地カ他人ノ採掘地ト鄰接セルトキハ六間以上ノ間隔ヲ存スヘシ

第四條　城堡、軍港、要港、火藥庫、火藥製造所及彈藥庫ノ周圍三百間以內ノ場所竝要塞地帶內ハ石材ノ採掘ヲ爲シ又ハ使用スルコトヲ得ス但所轄官憲ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　鐵道、公道、社寺境內、公園及墓地內ニ於テ石材ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ官ノ許可及關係人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　官有地ニ於テ石材採掘ヲ爲ス者ハ土地使用料トシテ百坪ニ付一箇年金五圓ヲ納ムヘシ但シ百坪ニ滿タサルモノハ百坪トシテ之ヲ計算ス

採掘ノ材質ニシテ前項ノ使用料ニ依ルヲ不適當ト認ムルモノアルトキハ所轄民政署長又ハ民政支署長ハ關東【都督】ノ認可ヲ受ケ特ニ其ノ額ヲ增減スルコトヲ得

公用又ハ公益事業ノ爲ニ要スル石材ノ採掘ニ付テハ所轄民政署長又ハ民政支署長ハ關東都督ノ認可ヲ受ケ土地使用料ヲ減免スルコトヲ得

土地使用料ハ事業設計書ニ依リ豫定採掘坪數ニ對スル一箇年分ノ金額ヲ納付スヘシ

第七條　土地使用料ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ其ノ初年ニ係ルモノハ許可アリタルトキ之ヲ即納スヘシ

許可期間一年ニ滿タサルモノニ付テハ土地使用料ハ月割ヲ以テ計算ス

第十三條第一號又ハ第六號ニ依リ許可ヲ取消シタルトキハ土地使用料ハ月割ヲ以テ之ヲ還付ス

第八條　官有地借區ノ面積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　營業ヲ目的トスルモノ　五萬坪以內
一　自家ノ使用ヲ目的トスルモノ　百坪以內

第九條　石材ノ採掘ヲ營業トスル者ハ毎年六月、十二月ノ兩期ニ前月迄ノ事業ノ經過、採掘高、販路及販賣高ヲ記載シタル書面ヲ作リ所轄民政署長又ハ民政支署長ニ屆出ツヘシ

第十條　官ノ許可ヲ得スシテ採掘ノ權利ヲ債權ノ擔保トナシ又ハ賣買、讓與其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　石材採掘ノ許可ヲ得タル官有地ハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十二條　石材採掘者ニシテ六十日以上休業セムトスルトキハ所轄民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ民政署長又ハ民政支署長ハ石材採掘ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　危險又ハ公益ニ害アリト認メタルトキ
二　官ノ命令ニ從ハサルトキ
三　許可ノ日ヨリ三箇月以內ニ着手セス又ハ一箇年以上休業シタルトキ
四　期限內ニ料金ヲ納入セサルトキ
五　第二條ノ要件ヲ缺キタルトキ
六　其ノ他官ニ於テ必要ト認メタルトキ

第十四條　許可ヲ得スシテ石材ヲ採掘シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　本令公布前ニ石材採掘ノ許可ヲ受ケ仍引續キ採掘スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以內ニ所轄民政署長ニ屆出ツヘシ

第十七條　土砂ノ採取ニ付テハ本令ヲ準用ス

（別記書式）　用紙美濃罫紙

石材採掘許可願

一　何會何屯
坪數何坪　官有地　何坪
　　　　　民有地　何坪

右之地內ニ於テ營業（又ハ自家用）ノ爲メ石材採掘致度候ニ付御許可被成下度別紙事業設計明細書竝圖面相添ヘ此段奉願候也

原籍
住所
月　日　出願人　氏　名㊞
民政署長又ハ民政支署長宛

第五章　水産業

第一款　水産會

●水産會法

（大正十年四月十一日 法律第六十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水産會法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

水産會法

第一條　水産會ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　水産會ハ法人トス

第三條　水産會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水産會ニ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス

第五條　水産會ハ水産業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

水産會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水産會ニ對シ水産業ニ關スル報告書ノ提出及水産業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條　水産會ハ郡市水産會、道府縣水産會及帝國水産會トス

第八條　水産會ノ地區ハ郡市水産會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外郡市、道府縣水産會ニ在リテハ道府縣、帝國水産會ニ在リテハ內地ノ區域ニ依ル

第九條　水産會ノ名稱ニハ郡若ハ市水産會、道、府若ハ縣水産會又ハ帝國水産會ナル文字ヲ用ヰルヘシ但シ郡市水産會ノ地區カ郡市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用ヰサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第十條　水産會ハ郡市水産會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區內ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水産會ニ在リテハ其ノ地區內ノ郡市水産會、帝國水産會ニ在リテハ道府縣水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　水産會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ

郡市水産會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ揭クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條　水産會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條　水産會成立シタルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　郡市水産會ニ總代會、其ノ他ノ水産會ニ總會ヲ置ク

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル水産會ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水産會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　左ニ揭クル事項ハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一　收支豫算
二　經費ノ分賦收入方法
三　事業報告及收支決算ノ承認
四　豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲
五　基金ノ造成、管理及處分
六　不動産ニ關スル權利ノ得喪及變更
七　會則ノ變更
八　役員及特別議員ノ選任及解任
九　訴願、訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ揭クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條　總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水産會成立シタルトキ遲滯ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以內ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條　總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條　會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水産會ノ會則ノ變更カ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域內ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　水産會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一人
副會長　一人又ハ二人
評議員　數人

役員ハ郡市水産會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ總會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條　會長ハ水産會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ竝會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十三條　總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會又ハ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ揭クル者ヲ以テ委員トス

一　會長
二　副會長
三　會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條　委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

郡市水産會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水産會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　帝國水産會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水産會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳ハ水産會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政官廳ハ水産會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ委員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水産會ノ事業ヲ停止シ又ハ水産會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十條　水産會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ尙分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水産會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　水産會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水産會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ又ハ地區ノ增減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水産會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル水産會ハ第三十條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十三條　水産會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十四條　水産會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十五條　清算人ハ水産會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算ノ方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算ノ方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條　本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル水産組合及水産組合聯合會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水産會ト爲スコトヲ得

（大正十年勅令第二百六十號ヲ以テ同年六月十五日ヨリ施行）

●水産會法施行規則

（大正十年六月四日 農商務省令第十七號）
（改正 大正一一年第一二號）

水産會法施行規則左ノ通定ム

水産會法施行規則

第一條　左ニ掲クル者ハ郡市水産會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體
二　鹽業者
三　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者
四　水産物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

前項ニ掲クル者ノ外地方長官ニ於テ特ニ郡市水産會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　水産會ヲ設立セムトスルトキハ郡市水産會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者三十人以上、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル水産會二以上發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區、事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算竝經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ帝國水産會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

郡市水産會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出ヘシ

第十六條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第五條　水産會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ水産會法又ハ本則ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　郡市ノ區域ニ依ラサル郡市水産會ニ在リテハ其ノ地區
四　役員ノ定數及任期ニ關スル規定
五　議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定
六　會議ニ關スル規定
七　會計ニ關スル規定

第八條　水産會成立シタルトキハ行政官廳ハ其ノ名稱、地區、事務所及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　郡市水産會及道府縣水産會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ三十人ヲ超ユルコトヲ得ス

帝國水産會ノ議員ノ定數ハ其ノ會員ノ數トス

帝國水産會ノ會員ハ前項ノ議員事故アルトキ之ニ代ルヘキ豫備議員各一人ヲ選任スヘシ

第十條　郡市水産會ノ議員ハ其ノ會員中ヨリ投票ニ依リ之ヲ選任ス

道府縣水産會ノ議員ハ郡市水産會ノ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

帝國水産會ノ議員及豫備議員ハ道府縣水産會ノ總會ニ於テ之ヲ組織スル郡市水産會ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

前項ノ規定ハ水産會法第二十七條ノ規定ニ依リ帝國水産會ノ會員ト爲リタル法人其ノ他ノ團體ヨリ選任スヘキ議員及豫備議員ニ付之ヲ準用ス

第十一條　郡市水産會ノ議員ヲ選任スルノ權利ハ一人一個トス但シ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做ス

前項ノ權利ハ會員自ラ之ヲ行フヘシ但シ未成年者及禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條　郡市水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ區域又ハ業種ニ分チ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十三條　郡市水産會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十四條　總代會又ハ總會ヲ招集セムトスルトキハ帝國水産會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十五條　總代會又ハ總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　總代會又ハ總會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ掲クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　議員及特別議員ノ定數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項及賛否ノ數

第十七條　水産會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十八條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第十九條　事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度內ニ總代會又ハ總會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第二十條　役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ倘會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ役員ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十一條　水産會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技師其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ屆出ツヘシ

第二十二條　水産會ノ解散、合併若ハ分割又ハ地區增減ニ關スル會則變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面及水産會法第三十一條ニ規定スル事項ヲ證スル書面ヲ添附シ倘合併ノ場合ニ於テハ合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立スル水産會ノ會則ヲ、分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會則及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　水産會ノ解散又ハ合併若ハ分割アリタルトキハ行政官廳ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二十四條　清算結了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨行政官廳ニ屆出ツヘシ

第二十五條　左ノ場合ニ於テハ水産會ハ遲滯ナク其ノ旨行政官廳ニ屆出ツヘシ

一　事務所ヲ移轉シタルトキ
二　會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
三　役員ノ退任アリタルトキ
四　清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第二十六條　郡市水産會及道府縣水産會ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農商務大臣ニ報告スヘシ

一　郡市水産會ノ設立ヲ認可シタルトキ
二　郡市水産會ノ會則ノ變更ヲ認可シタルトキ
三　水産會法第二十八條ノ規定ニ依リ郡市水産會ノ會則ノ變更ヲ命シ又ハ同法第二十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ會則ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二十八條　水産會法第十一條、第十三條及本則第八條、第二十三條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ郡市水産會ニ在リテハ地方長官、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ農商務大臣トス水産會法第十六條第一項第七號ニ掲クル事項及役員ノ選任、解任ノ認可竝本則第二十五條第一號ノ屆出ニ付亦同シ

水産會法第十五條、第十七條、第三十四條乃至第三十六條及本則第十九條、第二十一條、第二十四條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ帝國水産會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ地方長官トス水産會法第十六條第一項第一號、第二號、第四號ニ掲クル事項及特別議員ノ選任、解任ノ認可竝本則第二十五條第二號乃至第四號ノ屆出ニ付亦同シ

水産會法第二十八條及第二十九條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ帝國水産會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ農商務大臣及地方長官トス但シ郡市水産會ノ解散竝道府縣水産會ノ解散及會則ノ變更ニ付テハ農商務大臣トス

附　則

本則ハ水産會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水産組合ヲ郡市水産會ト爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ水産會ノ會員タル資格ヲ有スル者ニシテ水産組合ニ加入セサルモノアルトキハ尚其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

水産組合聯合會ヲ道府縣水産會ト爲サムトスルトキハ加入組合全部ノ同意ヲ得テ其ノ認可ヲ申請スヘシ

前二項ノ認可申請ノ手續ニ付テハ第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

●水産會補助金交付規則

（大正十年六月四日 農商務省令第十八號）

水産會補助金交付規則左ノ通定ム

水産會補助金交付規則

第一條　水産會法第四條ニ規定スル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　補助金ハ帝國水産會及道府縣水産會ニ之ヲ交付ス但シ農商務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ郡市水産會ニ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條　水産會補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ二月末日迄ニ申請書及左ノ書類ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　補助ヲ受ケムトスル年度ノ收支豫算書及事業方法書
二　申請ノ理由ヲ明ニスヘキ書類

新ニ設立シタル水産會ニシテ補助金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ設立後遲滯ナク前項ノ書類ヲ差出スヘシ

第四條　水産會補助ノ條件ニ違反シタルトキハ農商務大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ、補助金額ヲ減少シ又ハ補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

第五條　水産會解散シタルトキハ農商務大臣ハ補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

附　則

本則ハ水産會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●水産會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件

（大正十年六月四日 勅令第二百六十一號）
（改正 昭和二年第一六二號）

朕水産會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務大臣副署）

第一條　水産會ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ水産會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ水産會ノ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滯ナク決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スヘシ

第二條　郡市水産會又ハ道府縣水産會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ農商務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ當該ノ郡市水産會又ハ道府縣水産會ノ會長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

帝國水産會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ農商務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條　前條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セムトスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル水産會ヲ經由スヘシ前條第三項ノ規定ニ依リ訴願セムトスルトキ亦同シ

第四條　水産會法第二十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五條　異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第六條　異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

本令ノ樺太ニ於ケル適用ニ付テハ農商務大臣トアルハ內閣總理大臣、地方長官トアルハ樺太廳長官トス

附　則

本令ハ水産會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮水産會令

（大正十二年一月十三日 制令第一號）

朝鮮水産會令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮水産會令

第一條　水産會ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外水産會法ニ依ル但シ同法第七條乃至第十條、第二十條第二項及第三項、第二十六條第二項乃至第四項、第二十七條、第三十條乃至第三十二條竝第三十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

水産會法中郡市水産會トアルハ道水産會トス

第二條　水産會ハ道水産會及朝鮮水産會トス

水産會ノ地區ハ道水産會ニ在リテハ道、朝鮮水産會ニ在リテハ朝鮮ノ區域ニ依ル

第三條　水産會ノ名稱ニハ道水産會又ハ朝鮮水産會ナル文字ヲ用ヰルヘシ

本令ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第四條　水産會ハ道水産會ニ在リテハ別ニ朝鮮總督ノ定ムル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區內ニ於ケル漁業權ヲ有スル者、朝鮮水産會ニ在リテハ道水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　水産會ハ經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ府面ニ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ水産會ハ府面ノ徵收シタル金額ノ百分ノ五ヲ其ノ府面ニ交付スヘシ

避クヘカラサル災害ニ因リ府面既收ノ前項ニ規定スル經費又ハ過怠金ヲ失ヒタルトキハ水産會ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府面ニ對シ其ノ納入ノ義務ヲ免除スヘシ

第六條　經費又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條　經費及過怠金ノ督促、滯納處分、追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ府面ノ徵收金ニ次クモノトス

第八條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條　水産會解散ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員ノ員數ノ計算ニ付テハ水産會法第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ存スル朝鮮水産組合各道支部ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ之ヲ本令ニ依ル道水産會ト爲スコトヲ得

朝鮮水産會令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ

施行ス（大正十二年朝鮮總督府令第二十六號）

●朝鮮水產會令施行規則（大正十二年二月二十六日 朝鮮總督府令第二十七號）

朝鮮水產會令施行規則左ノ通定ム

第一條　左ニ掲クル者ハ道水產會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體
二　鹽業者
三　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者
四　水產物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

前項ニ掲クル者ノ外道知事ニ於テ特ニ道水產會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ道水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者三十人以上、朝鮮水產會ニ在リテハ二以上ノ道水產會發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算竝經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ朝鮮水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、道水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

道水產會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十五條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第五條　水產會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ朝鮮水產會令又ハ本令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　主タル事務所ノ所在地
四　役員ノ定數及任期ニ關スル規定
五　議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定
六　會議ニ關スル規定
七　會計ニ關スル規定

第八條　水產會成立シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　水產會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ道水產會ニ在リテハ二十人、朝鮮水產會ニ在リテハ三十五人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　道水產會ノ議員ハ會員中ヨリ道知事ノ任命シタル選擧人ノ投票ニ依リ之ヲ選任ス但シ選擧人ノ定數ハ議員定數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ選擧人ノ住所氏名及職業ハ少クトモ投票期日三十日前ニ道知事之ヲ公示スヘシ

朝鮮水產會ノ議員ハ道水產會ノ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第十一條　道水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ業種及區域ニ分チ各別ニ所定ノ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十二條　水產會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ行政官廳ニ届出ツヘシ

第十三條　總代會又ハ總會ヲ招集セムトスルトキハ朝鮮水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、道水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十四條　總代會又ハ總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　總代會又ハ總會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ掲クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　議員及特別議員ノ定數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項及贊否ノ數

第十六條　水產會ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ毎事業年度開始三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第十八條　事業報告及收支決算ハ毎事業年度經過後一年內ニ總代會又ハ總會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第十九條　役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ尙會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ役員ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十條　水產會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技師、水產製品檢查員其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

水產製品檢查員ノ命免ニ關シテハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　道水產會ハ總代會ノ決議ヲ經テ會員ノ製造ニ係ル水產製品ノ檢查ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規程ニハ檢查スヘキ製品ノ種類、檢查ノ方法、檢查手數料竝製品ニ附スヘキ水產會ノ證票及檢查證ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第一項ノ規程ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　經費ヲ徵收セムトスルトキハ會長ハ納入義務者ニ對シ納金額、納期限及納付ノ場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スヘシ

第二十三條　經費ヲ滯納シタル者アルトキハ會長ハ更ニ期間ヲ指定シテ其ノ納入ヲ催告スルコトヲ得

第二十四條　經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ府面ニ囑託セムトスルトキハ會長ハ各納入義務者ノ納金額及納期限ヲ記載シタル書面ヲ府面ニ交付スヘシ

第二十五條　第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル府面ニ之ヲ準用ス

府面ニ於テ徵收シタル金額ハ其ノ月分ヲ翌月中ニ之ヲ道水產會ニ送納スヘシ

第二十六條　朝鮮水產會令第五條第二項ニ依ル收入金納入義務ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ府面ハ其ノ事由ヲ詳具シ道水產會ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ道水產會ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ免除ヲ爲ササルトキハ府面ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條　經費及過怠金ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ會長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ニ對シ會長ノ爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ行政官廳ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢セムトスルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條　朝鮮水產會令又ハ本令ニ於テ行政官廳ト稱スルハ水產會法第六條ノ場合ヲ除クノ外朝鮮水產會ニ付テハ朝鮮總督道水產會ニ在リテハ道知事トス但シ水產會ノ設立及解散會則ノ變更竝役員ノ選任解任ニ關スル事項ニ在リテハ朝鮮總督トシ道水產會ニ關スル水產會法第二十八條及第二十九條中役員ノ解任及水產會ノ解散以外ノ事項ニ在リテハ朝鮮總督及道知事トス

第三十條　朝鮮水產會令及本令ノ規定ニ依リ道知事ニ於テ處分シタル事項ハ其ノ都度之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第三十一條　第二十一條ニ規定スル水產會ノ證票若ハ檢查證ヲ不正ニ使用シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢查證ヲ使用シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮水產會令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水產組合各道ノ支部ヲ道水產會ト爲サムトスルトキハ支部長ハ會則ヲ定メ其ノ區域內ニ於テ漁業ヲ營ム者及其ノ區域內ニ於ケル漁業權ヲ有スル者ヲ除クノ外道水產會ノ會員タル資格ヲ有スル者三分ノ一以上ノ同意ヲ得本令施行後六十日內ニ朝鮮總督ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アルコトヲ證スル書面及初年度經費收支豫算ヲ添付スヘシ

第二項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ハ道知事ノ認定ニ依ル

第二項ノ規定ニ依リ設立シタル道水產會ニ在リテハ第十二條ニ規定スル第一回ノ議員選任ニ關スル事務ハ支部長之ヲ管理ス

●水產會法施行規則（大正十三年一月十七日 臺灣總督府令第十二號）

水產會法施行規則左ノ通相定ム

水產會法施行規則

第一條　左ニ掲クル者ハ州廳水產會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體
二　鹽業者
三　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者
四　水產物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

臺灣總督ハ前項ニ掲クル者ノ外特別ノ事情アル者ヲ州廳水產會ノ會員ヨリ除外スルコトヲ得

第二條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ州廳水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者三十人以上、臺灣水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル水產會二以上發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區、事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算竝經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ臺灣水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、州廳水產會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

州廳水產會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十七條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第五條　水產會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ水產會法又ハ本令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　州廳ノ區域ニ依ラサル州廳水產會ニ在リテハ其ノ地區
四　役員ノ定數及任期ニ關スル規定
五　議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定
六　會議ニ關スル規定
七　會計ニ關スル規定

第八條　水產會成立シタルトキハ臺灣總督ハ其ノ名稱、地區、事務所及認可ノ年月日ヲ告示ス其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　州廳水產會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ三十人ヲ超ユルコトヲ得ス

臺灣水產會ノ議員ノ定數ハ其ノ會員ノ數トス

臺灣水產會ノ會員ハ前項ノ議員事故アルトキ之ニ代ルヘキ豫備議員各一人ヲ選任スヘシ

第十條　州廳水產會ノ議員ハ其ノ會員中ヨリ投票ニ依リ之ヲ選任ス

臺灣水產會ノ議員及豫備議員ハ州廳水產會ノ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第十一條　州廳水產會ノ議員ヲ選任スルノ權利ハ一人一個トス但シ漁業權、入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做ス

前項ノ權利ハ會員自ラ之ヲ行フヘシ但シ未成年者及禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條　州廳水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ區域又ハ業種ニ分チ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十三條　州廳水產會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ臺灣總督ニ届出ツヘシ

第十四條　總代會又ハ總會ヲ招集セムトスルトキハ臺灣水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ、州廳水產會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十五條　總代會又ハ總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ特別ノ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　總代會又ハ總會ノ議長ハ第一回ノ總代會又ハ總會ニ在リテハ設立申請者中ノ一人、其ノ後ノ總代會又ハ總會ニ在リテハ會長之ニ當ル但シ會則ニ特別ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　總代會又ハ總會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ掲クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　議員及特別議員ノ定數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項及贊否ノ數

第十八條　水產會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十九條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ前事業年度三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第二十條　事業報告及收支決算ハ毎事業年度經過後六月內ニ總代會又ハ總會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第二十一條　役員及特別議員ノ選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ尙會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ役員ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十二條　水產會ニハ會則ノ定ムル處ニ依リ主事、技師其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

第二十三條　水產會ノ解散、合併若ハ分割又ハ地區增減ニ關スル會則ノ變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面及水產會法第三十一條ニ規定スル事項ヲ證スル書面ヲ添附シ尙合併ノ場合ニ於テハ

合併後存續スル水產會又ハ合併ニ因リテ設立スル水產會ノ會則ヲ、分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水產會ノ會則及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十四條　水產會ノ解散又ハ合併若ハ分割アリタルトキハ臺灣總督ハ其ノ旨告示スヘシ

第二十五條　清算結了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨行政官廳ニ屆出ツヘシ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ水產會ハ遲滯ナク其旨行政官廳ニ屆出ツヘシ

一　事務所ヲ移轉シタルトキ
二　會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
三　役員ノ退任アリタルトキ
四　清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第二十七條　水產會法第十一條、第十三條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ臺灣總督トス水產會法第十六條第一項第七號ニ掲クル事項及會長ノ選任、解任ノ認可竝本令第二十六條第一號ノ屆出ニ付亦同シ

水產會法第十五條、第十七條、第三十四條乃至第三十六條及本令第二十條、第二十二條、第二十五條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ臺灣水產會ニ在リテハ臺灣總督、州廳水產會ニ在リテハ知事又ハ廳長トス水產會法第十六條第一項第一號、第二號、第四號ニ掲クル事項及會長以外ノ役員、特別議員ノ選任、解任ノ認可竝本令第二十六條第二號、第三號、第四號ノ屆出ニ付亦同シ

水產會法第二十八條、第二十九條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ臺灣水產會ニ在リテハ臺灣總督、州廳水產會ニ在リテハ臺灣總督及知事又ハ廳長トス但シ州廳水產會ノ解散及會則ノ變更ニ付テハ臺灣總督トス

州廳水產會中其ノ地區カ二州廳以上ニ跨ル場合ニ於テハ前各項ノ行政官廳ハ總テ臺灣總督トス

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●水產會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立及訴願ニ關スル件

（大正十四年四月十日臺灣總督府令第二十六號）

水產會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立及訴願ニ關スル件左ノ通相定ム

水產會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立及訴願ニ關スル件

第一條　水產會ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ水產會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ水產會ノ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滯ナク決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スヘシ

第二條　州廳水產會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ知事又ハ廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ臺灣總督ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル知事又ハ廳長ノ裁決ニ付テハ當該ノ州廳水產會ノ會長ヨリモ訴願スルコトヲ得

臺灣水產會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ臺灣總督ニ訴願スルコトヲ得

第三條　前條第一項ノ規定ニ依リ知事又ハ廳長ニ訴願セムトスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル水產會ヲ經由スヘシ前條第三項ノ規定ニ依リ訴願セムトスルトキ亦同シ

第四條　水產會法第二十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ知事又ハ廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ臺灣總督ニ訴願スルコトヲ得

第五條　異議ノ申立又ハ訴願ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以內ニ之ヲ爲スヘシ異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州水產會令

（大正十五年五月十日勅令第百七號）

朕關東州水產會令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理大臣副署）

關東州水產會令

第一條　關東州水產會ハ關東州水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　關東州水產會ハ法人トス

第三條　關東州水產會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　關東州水產會ハ關東長官ノ定ムル者ヲ除クノ外關東州ニ於テ漁業又ハ水產物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　關東州水產會ヲ設立セムトスルトキハ會員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ創立委員會ヲ開キ會則ヲ議定シ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　關東州水產會ハ前條ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

關東州水產會成立シタルトキハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス

第七條　關東州水產會ニ總代會ヲ置ク

總代會ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選任シタル議員及關東長官ノ命シタル特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條　左ニ掲クル事項ハ總代會ノ議決ヲ經ヘシ

一　收支豫算
二　經費ノ賦課徵收方法
三　事業報告及收支決算ノ承認
四　豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲
五　基金ノ造成、管理及處分
六　不動產ニ關スル權利ノ得喪及變更
七　會則ノ變更
八　役員ノ選任及解任
九　訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲クル事項ノ決議ハ關東長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第九條　總代會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會ハ關東長官之ヲ招集ス

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以內ニ總代會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ關東長官ノ認可ヲ受ケ招集スルコトヲ得

第十條　議員及特別議員ハ總代會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十一條　總代會ノ議事ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十二條　會則ノ變更ハ總代會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

第十三條　關東州水產會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長
副會長　一人又ハ二人
評議員　數人

役員ハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第十四條　會長ハ關東州水產會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ竝會務ノ執行及財產ノ狀況ヲ監査ス

第十五條　總代會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第八條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十六條　關東州水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ賦課シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

經費及過怠金ノ督促、滯納處分、追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市又ハ會ノ徵收金ニ次クモノトス

經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十七條　關東州水產會ハ經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ市又ハ會ニ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ關東州水產會ハ市又ハ會ノ徵收シタル金額ノ百分ノ五ヲ其ノ市又ハ會ニ交付スヘシ

避クヘカラサル災害ニ因リ市又ハ會既收ノ前項ニ規定スル經費又ハ過怠金ヲ失ヒタルトキハ關東州水產會ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ市又ハ會ニ對シ其ノ納入ノ義務ヲ免除スヘシ

第十八條　關東長官ハ關東州水產會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ賦課徵收方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十九條　關東長官ハ關東州水產會ノ總代會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、特別議員及役員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ、關東州水產會ノ事業ヲ停止シ又ハ關東州水產會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第二十條　關東州水產會解散ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　關東州水產會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第二十二條　關東州水產會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ關東長官清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第二十三條　清算人ハ關東州水產會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算ノ方法及財產處分ニ付テハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條　關東長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算ノ方法及財產處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二十五條　本令ニ定ムルモノノ外關東州水產會ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム

（大正十五年關東廳令第二十五號ヲ以テ同年五月二十五日ヨリ施行）

●關東州水產會令施行規則

（大正十五年五月二十四日關東廳令第二十六號）

改正　大正一五年第三四號

關東州水產會令施行規則左ノ通定ム

關東州水產會令施行規則

第一條　左ニ掲クル者ハ關東州水產會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體
二　鑛業者
三　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者
四　水產物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者
五　關東長官ニ於テ特ニ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認メタル者

第二條　關東州水產會ヲ設立セムトスルトキハ會員タル資格ヲ有スル者五人以上發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ事業ノ概目、創立費用、收支ノ概算、經費ノ賦課徵收方法ノ概要及創立委員選任ノ方法ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

前項ノ創立委員ハ二十五人トス

第三條　發起人創立委員會ヲ招集セムトスルトキハ少クトモ十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ創立委員ニ通知スヘシ

第四條　創立委員會ノ議事ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

第五條　關東州水產會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立委員會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　第十六條ノ規定ハ之ヲ創立委員會ニ準用ス

第七條　創立委員會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ關東長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八條　關東州水產會成立シタルトキハ關東長官ハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示ス其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　議員ノ定數ハ日本人十八人、支那人十人トシ關東長官之ヲ各支部ニ配當ス

議員ハ支部會ニ於テ之ヲ選任ス

第十條　特別議員ノ定數ハ七人トス

特別議員ハ水產業ニ關スル學識、經驗又ハ功勞アル者及關東廳官吏中ヨリ關東長官之ヲ命ス

第十一條　議員及特別議員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三年トス但シ補闕ノ爲就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條　議員及特別議員其ノ任期中資格ヲ喪失シタルトキハ退任ス

第十三條　役員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ四年トス但シ補闕ノ爲就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フ

第十四條　總代會ヲ招集セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十五條　總代會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス但シ會則ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　總代會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所

二　議員及特別議員ノ定數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項及贊否ノ數

第十七條　關東州水產會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十八條　會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢セムトスルトキハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　收支豫算及經費ノ賦課徵收方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク差出スヘシ

第二十條　關東州水產會令第十六條第四項ニ依リ異議ノ申立ヲ爲サムトスル者ハ徵收書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ會長ニ之ヲ爲スヘシ

會長前項ノ異議ヲ受理シタルトキハ評議員會ノ意見ヲ徵シ遲滯ナク其ノ決定ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ關東長官ニ其ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

異議ノ申立又ハ裁決ノ申請ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

決定又ハ裁決ハ文書ヲ以テシ異議申立人又ハ裁決申請者ニ之ヲ通知スルモノトス

第二十一條　事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度內ニ總代會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ關東長官ニ差出スヘシ

第二十二條　役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第二十三條　關東州水產會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技師其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ關東長官ニ屆出ツヘシ

第二十四條　關東州水產會ノ解散ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十五條　關東州水產會ノ解散アリタルトキハ關東長官ハ其ノ旨ヲ告示ス

第二十六條　清算結了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ關東長官ニ屆出ツヘシ

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ關東州水產會ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ關東長官ニ屆出ツヘシ
一　事務所ヲ移轉シタルトキ
二　議員又ハ役員ノ退任アリタルトキ
三　清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第二十八條　關東州水產會ハ各民政署及民政支署管內ニ支部ヲ置ク

第二十九條　支部ニ支部長ヲ置ク

支部長ハ會長之ヲ委囑ス

支部長ハ當該管內ニ於ケル關東州水產會ノ事務ヲ執行ス

第三十條　支部ニ支部會ヲ置ク

支部會ハ當該管內ニ於ケル關東州水產會ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス

支部會ニ付議スヘキ事項左ノ如シ
一　總代會ニ於テ議決シタル事項ノ報告
二　支部事業計畫ノ通達
三　支部事業成績ノ報告
四　前各號ノ外支部長ニ於テ重要ト認ムル事項

支部會ハ支部長之ヲ招集ス但シ第一回ノ支部會ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ招集ス

第三十一條　第十四條乃至第十六條ノ規定ハ支部會ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ關東州水產會令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州水產會魚市場規則

（昭和元年十二月二十八日關東廳令第二號）

關東州水產會魚市場規則左ノ通定ム

關東州水產會魚市場規則

第一條　關東州水產會魚市場ヲ設ケムトスルトキハ業務規程ヲ定メ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
一　名稱
二　位置
三　取扱物件
四　當該區域內ニ於ケル取扱物件ノ集散及消費ノ狀況
五　一箇年取扱見込額
六　設備ノ概要、設計書及圖面
七　設備費支辨ノ方法
八　收支豫算
九　決濟會社ニ關スル事項

前項第一號乃至第三號、第六號及第九號ニ揭クル事項又ハ業務規程ヲ變更セムトスルトキハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　關東州水產會魚市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
一　取引物件ノ種類ニ關スル事項
二　取引開始時刻及休業ニ關スル事項
三　取引物件ノ取扱取引ノ方法及決濟ニ關スル事項
四　使用料ニ關スル事項
五　仲買人ニ關スル事項
六　決濟會社ニ關スル事項
七　場內取締ニ關スル事項
八　違約處分ニ關スル事項

第三條　關東州水產會魚市場設置ノ地及關東州水產會ノ指定シタル地ニ於テハ關東州水產會會員ハ關東州水產會魚市場以外ノ場所ニ於テ水產物ヲ賣買スルコトヲ得ス但シ關東州水產會ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

關東州水產會前項ノ指定ヲ爲サムトスルトキハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條　關東州水產會魚市場ノ仲買人ト爲ラムトスル者ハ履歷書ヲ添ヘ關東州水產會ヲ經由シ關東長官ニ願出テ免許ヲ受クヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ仲買人ト爲ルコトヲ得ス
一　免許ノ取消ヲ受ケ又ハ本令ニ依リ處罰ヲ受ケ二年ヲ經過セサル者
二　資產信用ノ不確實ナル者

第六條　關東州水產會魚市場ニ於ケル取引ハ關東長官ノ許可シタル會社ニ於テ其ノ決濟ヲ爲スヘシ

前項ノ決濟會社ハ關東州水產會會員ニ對シ水產資金ノ融通ヲ爲スヘシ

第七條　關東州水產會魚市場決濟會社ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ定款、業務規程及收支豫算書ヲ添ヘ關東州水產會ヲ經由シ關東長官ニ願出ツヘシ

前項ノ業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
一　荷主勘定決濟方法ニ關スル事項
二　仲買人勘定決濟方法ニ關スル事項
三　手數料ニ關スル事項
四　水產資金融通ニ關スル事項

第八條　關東州水產會魚市場決濟會社ハ第六條ニ揭クル以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ關東長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　左ノ場合ニ於テハ關東州水產會魚市場決濟會社ハ關東州水產會ヲ經由シ關東長官ニ願出テ認可ヲ受クヘシ
一　定款又ハ業務規程ヲ變更セムトスルトキ
二　役員就任若ハ辭任シ又ハ之ヲ解任セムトスルトキ
三　利益金ヲ處分セムトスルトキ

第十條　關東長官ハ隨時所屬職員ヲシテ關東州水產會魚市場仲買人又ハ決濟會社ノ業務、帳簿、財產其ノ他一切ノ物件ヲ檢查セシムルコトアルヘシ

第十一條　關東長官ハ關東州水產會魚市場仲買人又ハ決濟會社ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ仲買人ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條　關東州水產會魚市場決濟會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ業務ノ一部若ハ全部ヲ停止シ免許ヲ取消シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　荷主勘定ノ決濟ヲ怠リタルトキ
二　本令ノ規定若ハ本令ニ基キ發スル命令又ハ定款若ハ業務規程ニ違反シタルトキ

第十三條　關東州水產會ハ取引終了後遲滯ナク標準相場ヲ市場ニ揭示スヘシ

第十四條　關東州水產會ハ每月十日限リ前月ニ於ケル取扱物件、別相場取引數量及價額ヲ關東長官ニ報告スヘシ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ關東州水產會ハ遲滯ナク其ノ旨關東長官ニ屆出ツヘシ
一　仲買人ニ對シ取引ノ停止又ハ違約處分ヲ爲シタルトキ
二　仲買人又ハ決濟會社ニ對シ免許ノ取消其ノ他ノ處分ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ
三　第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者アリタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　水產試驗場及講習所

●府縣水產試驗場規程

（明治三十二年八月一日農商務省令第二十二號）
（改正　明治四〇年第一〇號　大正元年第一一號、九年第二三號　昭和二年農林省令第四號）

府縣水產試驗場規程左ノ通相定ム

府縣水產試驗場規程

第一條　本規程ニ於テ府縣水產試驗場ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル水產試驗場ヲ謂フ

第二條　府縣水產試驗場ハ一府縣ニ一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分場ヲ設クルコトヲ妨ケス

第二條ノ二　府縣水產試驗場ノ產業職員左ノ如シ
場長
技師
技手
主事補

場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條　府縣水產試驗場ハ其府縣內ノ水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ漁撈、製造、養殖等ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フモノトス

府縣水產試驗場ハ每年一回以上試驗ノ成績ニ關スル報告書ヲ發行スルコトヲ要ス

第四條　府縣水產試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得
一　水產ニ關スル講話、講習及傳習
二　魚兒、介苗等ノ配付
三　水產製品其他ノ分析及ヒ鑑定
四　水族ノ蕃殖及ヒ漁場等ニ關スル調査

第五條　府縣水產試驗場ハ農林大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス

第六條　削除

第七條　府縣水產試驗場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ
一　名稱及ヒ位置
二　業務ノ項目
三　試驗用地ノ種類及ヒ其面積
四　建物ノ種類及ヒ其坪數
五　職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額
六　收支豫算書

第八條　削除

第九條　府縣水產試驗場每年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ翌年度五月限リ之ヲ農林大臣ニ報告スルコトヲ要ス

府縣水產試驗場ノ試驗成績報告書ハ之ヲ發行スル每ニ地方長官ヨリ之ヲ農林大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十條　府縣水產試驗場又ハ其分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附　則

第十一條　本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本規程施行前ニ設立シタル府縣立水產試驗場ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第七條ニ揭ケタル事項ヲ屆出ルコトヲ要ス

●府縣水產講習所規程

（明治三十二年八月一日農商務省令第二十三號）
（改正　明治四〇年第一一號　大正元年第一一號、九年第二四號）

府縣水產講習所規程左ノ通相定ム

府縣水產講習所規程

第一條　本規程ニ於テ府縣水產講習所ト稱スルハ府縣勸業費ヲ以テ設立スル水產講習所ヲ謂フ

第二條　府縣水產講習所ハ一府縣ニ一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分所ヲ設クルコトヲ妨ケス

第二條ノ二　府縣水產講習所ノ產業職員左ノ如シ
所長
技師
技手
主手補

所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條　府縣水產講習所ハ漁撈、製造、蕃殖等ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣水產講習所ハ數學、物理、化學、動物、植物、氣象、地文、圖畫等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

府縣水產講習所ニ於テ遠洋漁業科ヲ設クル場合ニ於テハ航海ニ關スル補助科目ヲ加フヘシ

第四條　地方長官必要ト認ムルトキハ府縣水產講習所ノ職員ヲシテ水產ニ關スル巡回講話試驗又ハ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條　府縣水產講習所ノ修業年限ハ二年以內トス但遠洋漁業科ニ付テハ五年以內ト爲スコトヲ得

第六條　府縣水產講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分所ヲ設ケントスルトキ亦同シ
一　名稱及ヒ位置
二　講習所規則
三　實習用地ノ種類及ヒ其面積
四　建物ノ種類及ヒ其坪數
五　職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額
六　收支豫算書

第七條　削除

第八條　府縣水產講習所每年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ翌年度五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第九條　府縣水產講習所又ハ其分所ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附　則

第十條　本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　本規程施行前ニ設立シタル府縣立水產講習所ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第六條ニ揭ケタル事項ヲ農商務大臣ニ屆出ルコトヲ要ス

●北海道地方費ヲ以テ設立ノ水產試驗場及講習所規程

（明治三十五年五月十七日農商務省令第十號）

明治三十二年農商務省令第二十二號及第二十三號ハ北海道地方費ヲ以テ設立スル水產試驗場及水產講習所ニ之ヲ適用ス

●水產講習所試驗規則

（大正三年三月七日農商務省令第五號）
（改正　大正八年第二號）

水產講習所試驗規則左ノ通相定ム

水產講習所試驗規則

第一條　水產講習所ハ海洋調查、漁撈、養殖、製造、化學、漁船及機械ニ關スル事項ニ付試驗、鑑定、分析、檢定及設計ノ依賴ヲ受ケタルトキハ主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依リ依賴ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ依賴事項及目的ヲ明カナラシムヘキ詳細ナル說明書類竝必要ノ圖面及現品ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ水產製造品等ノ鑑定又ハ分析ノ依賴ヲ爲サムトスル者ノ差出スヘキ現品ハ左記ノ區別ニ依ルヘシ但シ必要ノ場合ニハ更ニ相當ノ數量ヲ差出サシムルコトアルヘシ

製造ニ關スル事項				
罐詰類	鑑定			三箇以上
	分析	普通成分 特別成分	一成分每ニ 一成分每ニ	三箇以上 三箇以上
鹽藏乾腊類	鑑定	形大ナルモノ 形小ナルモノ		二尾 一斤
	分析			二斤
節類	鑑定			一尾分
	分析	普通成分 特別成分	一成分每ニ	一尾分 一尾分
越幾斯類	鑑定			二箇以上
	分析	普通成分 特別成分	一成分每ニ	五十匁以上 五十匁以上
肉類	分析	普通成分 特別成分	一成分每ニ	一貫匁以上 五百匁以上
肥料	分析			三百匁以上
脂肪油及蠟	鑑定			三合又ハ一斤以上
	分析、檢定			六合又ハ二斤以上
食用油	鑑定			三合又ハ一斤以上
	分析、檢定			六合又ハ二斤以上
藥用肝油	鑑定			一封度又ハ二合以上
	分析、檢定			二封度又ハ四合以上
皮革	鑑定			一坪又ハ二枚以上
	檢定			同上
食用藻類	鑑定			八十匁以上
寒天及其ノ原藻	鑑定	製品 原藻		五本又ハ八十匁以上 五十匁以上
糊料及其ノ原藻	鑑定	製品 原藻		十匁又ハ二枚以上 十匁以上
沃度、沃度灰及其ノ原藻	鑑定 分析	沃度及灰 原藻		一封度以上 五十匁以上
罐詰用鐵葉	鑑定			二枚以上
	分析			二枚以上
硫酸紙其ノ他罐內被物	鑑定	紙類其ノ他ノモノ 罐材ニ加工シタルモノ		二枚以上 五箇以上
	分析	同上		同上
漁具材料等ニ關スル事項				
網地	鑑定			一間以上
網絲	鑑定			十間以上
綱	鑑定			十間以上
浮子	鑑定			五箇以上
釣鉤	鑑定			十本以上
塗料	鑑定			一貫匁ヲ染メ得ヘキ材料
	分析			百匁以上
養殖ニ關スル事項				
餌料	分析			二百匁以上
水質	分析	定性 定量		一升五合以上 三升以上 容器ハ充分洗滌シタルモノヲ使用スヘシ
土質	分析	定性 定量		百匁以上 五百匁以上

前項ニ掲ケサル事項ニ關シテハ前項ニ準シ適當ノ數量ヲ差出スヘシ

第三條　水産講習所試驗又ハ鑑定ノ必要ナシト認ムルトキハ其ノ依賴ニ應セス

第四條　差出シタル現品ハ依賴ニ應セサル場合又ハ出願ノ際依賴者ニ於テ豫メ返付ヲ申出テ其ノ承認ヲ得タル場合ノ外之ヲ返付セス

第五條　本規則ニ依リ依賴ヲ受ケタル事項ニ關シ必要アル場合ニ於テハ依賴者ヲシテ旅費ヲ負擔セシメ又ハ器具、機械、原料、消耗品又ハ人夫等ヲ提供セシムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年農商務省告示第四十三號水産講習所試驗規程及同年農商務省告示第六百六十三號試驗又ハ鑑定依賴者心得ハ之ヲ廢止ス

書式

試驗(調査、鑑定、分析、檢定、設計)願

一事項　何々
一添附書類　何通
一現品　何々

前記事項御試驗(調査、鑑定、分析、檢定、設計)依賴致度別紙說明書類(及現品)相添ヘ此段相願候也

年　月　日
住所
依賴人　何　某印
水産講習所長氏名殿

●水産講習所種苗拂下規則

（大正三年三月七日農商務省令第六號）

水産講習所種苗拂下規則左ノ通相定ム

水産講習所種苗拂下規則

第一條　水産動植物種苗ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ニ依ル願書ニ養殖ノ場所、面積及設備等ニ關スル設計書ヲ添ヘ水産講習所長ニ差出スヘシ

第二條　拂下クヘキ種苗ノ種類、數量及價格ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條　種苗ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　地方水産試驗場、水産講習所、學校、水産組合、漁業組合、産業組合
二　道、府縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體
三　一年以上養殖事業ニ從事シ相當ノ成績ヲ擧ケタル者

前項ニ該當セサル者ト雖水産講習所長ニ於テ適當ト認メタル者ニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　水産講習所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ水産動植物ノ養殖試驗ヲ爲ス者ニ對シ無償ニテ種苗ヲ下付スルコトヲ得

第一條ノ規定ハ前項ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ニ之ヲ準用ス

第五條　種苗拂下ノ許可ノ通知アリタルトキハ出願人ハ水産講習所長ノ指定シタル期限迄ニ其ノ價格ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ依ルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條　出願人種苗ノ送付ヲ受ケタルトキハ第二號樣式ノ領收證ヲ差出スヘシ

第七條　種苗ノ送付ニ要スル荷造費、運賃及其ノ送付中ニ生シタル種苗ノ斃死、損傷等ノ損害ハ出願者ノ負擔トス

第八條　種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ水産講習所長ノ指定シタル種苗ノ發育狀況等ニ關スル事項ヲ水産講習所長ニ報告スヘシ

第一號樣式

種苗拂下願

一何々　何尾(粒)

右養殖致度候ニ付拂下相成度御所種苗拂下規則ニ依リ此段相願候也

年　月　日
何縣何郡何町(村)
漁業組合理事(出願人資格)
何　某印
水産講習所長氏名殿

(受領者出頭スルコト能ハサルトキハ種苗屆先、取扱驛名及取扱運送店名ヲ附記スヘシ)

第二號樣式

種苗領收證

一何々　何尾(粒)

右領收候也

年　月　日
何縣何郡何町(村)

何　某印
水産講習所長氏名殿

●樺太廳水産試驗場傳習規則

（明治四十二年十二月樺太廳令第四十二號）

樺太廳水産試驗場傳習規則

第一條　樺太廳水産試驗場ニ於テ水産ニ關スル事項ヲ傳習セムトスルトキハ左ノ事項ヲ公布スヘシ

一　開催ノ場所
一　開催期間
一　傳習科目
一　傳習生ノ數

第二條　傳習生ハ年齡十六歲以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者タルヲ要ス

一　樺太ニ住所ヲ有スル水産業者若ハ其ノ子弟タルコト
一　品行方正ナルコト
一　簡易ナル筆記ノ心得アルコト但シ場長ノ承諾ヲ經タル者ハ此ノ限ニアラス

第三條　傳習志願者ハ別記書式ニ依リ所轄支廳長ヲ經由シ傳習願書竝履歷書ヲ場長ニ差出スヘシ

第四條　傳習志願者ノ數定員ニ超過シタルトキハ場長ハ志願者ノ履歷及地方ノ狀況ヲ參酌シテ之ヲ許否スルモノトス

第五條　傳習ノ許可ヲ得タル者疾病其ノ他已ヲ得サル事故ニ因リ傳習生タルコトヲ罷メムトスルトキハ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ場長ニ願出ツヘシ

第六條　傳習生ニシテ本規則ニ違反シ又ハ傳習生タルノ本分ニ背クノ行爲アリト認ムルトキハ場長ハ其ノ傳習許可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條　傳習志願者二十名以上ヨリ費用ヲ負擔シ連署シテ傳習開催ヲ出願スルトキハ場長ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ傳習開催地ノ所轄支廳長ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

一　開催場所
一　開催期間
一　傳習科目

第八條　傳習ヲ終了シ成績良好ナリト認ムル者ニハ修得證書ヲ授與スヘシ

附　則

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（書式）

傳習願書

私儀水産傳習志願ニ付御許可被成下度保證人連署此段相願候也

年　月　日
原籍
住所
何　某印
生年月日
原籍
住所
保證人　何　誰印
樺太廳水産試驗場長何某殿

第三款　漁業

●漁業法

（明治四十三年四月二十一日法律第五十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、農商務大臣副署）

漁業法

第一條　本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條　公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條　公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條　前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第八條　漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス

第九條　裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

第十條　漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條　漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條　入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場內ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條　入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條　入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條　漁業權ノ存續期間ハ二十年以內ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條　設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條　入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條　入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條　行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條　漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條　行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條　水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條　錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條　免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代

ハルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登錄シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

第二十八條　漁業權ハ登錄シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條　漁業者ハ左ニ揭クル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一　漁場ノ標識ノ建設
二　魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備
三　漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條　漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ支障木竹ヲ伐採シ又ハ障碍物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條　前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條　行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　地方長官ハ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一　水產動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止
二　水產動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止
三　漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止
四　漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限
五　水產動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止
六　水產動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收竝犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徵ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條　爆發物ヲ使用シテ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域內ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條　公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條　漁業ニ從事スル者ノ雇傭竝雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條　海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

第四十二條　一定ノ地區內ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村內ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條　漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍內ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十四條　漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス

第四十五條　漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第四十六條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條　行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消
二　役員ノ解職
三　組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條　本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條　漁業者又ハ水產動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水產業ノ改良發達及水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他水產業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水產組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條　水產組合成立シタルトキハ其ノ地區內ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　水產組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水產組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條　水產組合及水產組合聯合會ハ法人トシ重要物產同業組合法ヲ準用ス

第五十五條　漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條　漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者
二　免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者
三　專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五十九條　汽船「トロール」漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十條　漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條　漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條　第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條　營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十五條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

第六十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　本法ハ臘虎及膃肭獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條　本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條　舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條　本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十一條　舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限リ登錄ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條　本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條　舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限リ登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

（明治四十三年勅令第四百二十八號ヲ以テ明治四十四年四月一日ヨリ施行）

●漁業法施行規則

明治四十三年十一月十二日
農商務省令第二十五號
改正　大正一五年農林省令第一四號

漁業法施行規則左ノ通改正ス

漁業法施行規則

第一章　總則

第一條　漁業ニ關スル出願、申請及屆出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一　專用漁業ニ關スルトキ
二　入漁權ニ關スルトキ
三　二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
四　漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農林大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ

第二條　農林大臣ニ出願、申請又ハ屆出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條　漁業ニ關スル行政行爲ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第四條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ屆出ヲ爲シタル者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者、漁業權者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條　本則ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告

ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條　漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一　許可ヲ受ケムトスル事由書
二　占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面
三　許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面
四　漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第八條　前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第九條　地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第二章　漁業ノ免許

第十條　本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條　本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲クル漁業ヲ謂フ

第十二條　定置漁業ノ種類左ノ如シ

一　臺網類漁業　敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
二　落網類漁業　落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
三　枡網類漁業　側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
四　建網類漁業　曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
五　出網類漁業　垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
六　張網類漁業　囊網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ
七　魞簗類漁業　一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ

第十三條　區劃漁業ノ種類左ノ如シ

一　第一種　一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ篊ヲ建設シテ爲ス養殖業
二　第二種　土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
三　第三種　前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

第十四條　左ニ掲クル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

一　第一種　一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業
二　第二種　一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業
三　第三種　一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
四　第四種　一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業
五　第五種　一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業
六　第六種　一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
七　第七種　一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
八　第八種　一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鰡漁業
九　第九種　一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業

第十五條　前三條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農林大臣別ニ之ヲ告示ス

第十六條　左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

一　定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
二　區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
三　專用漁業ニ在リテハ專用スル區域
四　特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及第四種ニ在リテハ網ノ使用區域、第五種及第六種ニ在リテハ網場ノ區域、第七種ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域、第八種ニ在リテハ漬場ノ區域、第九種ニ在リテハ築磯ノ區域

第十七條　水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價値ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第十八條　漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣、竝沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス

第十九條　第十七條第一項及第二項ノ規定ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十條　從來ノ慣行ニ因ル專用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ增加シ又ハ漁場ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ス

第二十一條　地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願スルコトヲ得

第二十二條　漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
二　漁獲物ノ種類
三　漁業時期
四　漁業權存續期間

第二十三條　前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ

前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第二十四條　免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ免許ノ願書ニ添附スヘシ

第二十五條　二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ屆出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

前項ノ規定ニ依リ代表者ノ屆出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第二十六條　代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

代表者ノ變更ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十七條　前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條　代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス

第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看做ス

第二十九條　漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　免許ノ番號
二　免許ノ年月日
三　漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

四　漁場ノ位置
五　漁業ノ種類及名稱
六　漁獲物ノ種類
七　漁業時期
八　漁業權ノ存續期間
九　免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項

第三十條　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作リ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ若シ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尙其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第三十一條　漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作リ存續期間滿了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ慣行ニ因リ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第三十三條　漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且遲滯ナク登錄シタル權利者ニ通知スヘシ但シ地方長官ノ免許シタル漁業ニ關シ農林大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ地方長官之ヲ爲スヘシ

第三十四條　漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條　漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十六條　免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

休業認可ノ期間内漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第三十七條　漁業權ヲ拋棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ屆出アリタルトキハ行政官廳ハ之ヲ公告スヘシ

第三章　土地ノ使用

第三十八條　漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

一　土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、地番、種目及面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的、時期及期間
二　立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第三十九條　前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條　漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲メニモ效力ヲ有ス

第四十一條　漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、地番、種目、面積及現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十二條　第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス但シ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ト漁場トヲ管轄スル地方長官異ナルトキ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ農林大臣トス

前項但書ノ場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得

第四十三條　漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地又ハ支障木竹若ハ障碍物ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ出願スヘシ

第四十四條　漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障碍物ヲ除去セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第四章　蕃殖保護及漁業取締

第四十五條　漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ試驗ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス養殖、學術、研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十六條　水産動植物ヲ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十七條　漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動植物ハ之ヲ所持シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第四十八條　遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第四十九條　行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域ヲ設クルトキハ其ノ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ漁業ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十條　左ニ掲クル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　藻手繰網漁業
二　藻漕網漁業
三　藻打瀨網漁業
四　藻曳網漁業
五　潛水器漁業
六　空釣繩漁業

前項ノ漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ公示スヘシ

地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ

第五十一條　前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶スヘシ

第五十二條　地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建設スヘシ

第五十三條　漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第五十四條　臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章　裁決

第五十五條　漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又ハ漁業權者、入漁權者間ノ爭ニ關スルトキハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條　裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
二　申請ノ目的及理由
三　立證

申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ

第五十七條　申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第五十八條　行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第五十九條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章　罰則

第六十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四十六條又ハ第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者

二　禁漁區內ニ於テ其ノ禁止シタル水產動植物ヲ採捕シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者

二　禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者

第六十二條　第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第六十三條　本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條　本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス

第六十五條　本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十五年農林省令第十四號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ郡長又ハ島司ニ對シ爲シタル出願ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

（明治四十四年三月八日農商務省告示第百四十八號）
（改正　大正六年第三四五號）

明治四十三年農商務省令第二十五號漁業法施行規則第十二條第十三條及第十四條ニ該當スル漁業ノ名稱左ノ如シ

定置漁業

一　臺網類漁業

鯨大敷網
鰤大敷網
鰤臺網　一名麻苧臺網
鮪大敷網　一名鮪臺網
鰹大敷網
鮪鰹大網（靜岡縣下ノ名稱）
立網
鰮大敷網　一名鰮臺網（京都府下及兵庫縣下ノ越中網ヲ含ム）
鰤藁臺網
柔魚大敷網
前八種以外ノ大敷網（臺網ヲ含ム）
根拵網
小臺網　一名三艘張根拵網（小臺網ハ神奈川縣下ノ名稱ニシテ改良三艘張網ヲ含ム三艘張根拵網ハ靜岡縣下ノ名稱）
小敷網
待網　一名額網（鹿兒島縣下川邊郡地方ノ名稱）
大越網
小越網
取大敷網
鱅大敷網
四艘張網（神奈川縣下及靜岡縣下ノ名稱ニシテ神奈川縣下ノ三艘張網ヲ含ム）
二艘張網（靜岡縣下ノ名稱）
鰹張揚網
鮪大謀網　一名鮪大網（秋鮪建網及夏鮪建網ヲ含ム）
鰤大謀網
鮭大謀網
前三種以外ノ大謀網（和歌山縣下及三重縣外ノ八角網ヲ含ム）
筒伏網　一名鰮建網
鱰建網
鰊角網　一名鰊建網
鮭角網　別名鮭建網、鮭起網
鱒角網　一名鱒建網
鰤角網　一名鰤建網
鰮角網　一名鰮建網
鮪角網　一名鮪建網
鰆角網　一名鰆建網
玉筋魚角網　一名玉筋魚建網
鱰角網　一名鱰建網
柔魚角網　一名柔魚建網
前十種以外ノ角網
鰊行成網　一名鰊建網
鮭行成網　一名鮭建網
鱒行成網　一名鱒建網
鰤行成網　一名鰤建網
鰮行成網　一名鰮建網
鱅行成網
玉筋魚行成網　一名玉筋魚建網
柔魚行成網　一名柔魚建網
前八種以外ノ行成網
鮭金折網
によろ網（愛媛縣下及高知縣下ノ名稱）
鰮網戸網
鰕網戸網
鰆締網
鯵鯖締網
柔魚締網
前三種以外ノ締網
鰮守網
鱰網（石川縣下ノ名稱）
河豚てんこ網
天主張網
底入枡建網（大分縣下ニ於テ張網ト稱ス）

二　落網類漁業

鰊瓢網　一名鰊小臺網
鰮瓢網
鮭瓢網
鱒瓢網
鰆瓢網
鱸瓢網
鱰瓢網
柔魚瓢網
前八種以外ノ瓢網　別名猪口網
小臺網、もつたれ網（新潟縣下ノ小敷網ヲ含ム）
鰆落網（鳥取縣下ニテ鰆筌ト稱ス）
柔魚落網
前二種以外ノ落網（京都府下ノ落網附締網及福井縣下ノ地獄網ヲ含ム）
鮭器械網
鮭傘網

三　枡網類漁業

鯛枡網
鰆枡網
鯖枡網
鰊枡網
鰕鰡枡網
前五種以外ノ枡網
沖建網（福岡縣下及大分縣下ノ名稱）
角建網（愛知縣下ノ名稱）
あいご建網
壷網　一名底囊網
張網（兵庫縣下ノ名稱ニシテ三重縣下ノ戻網ヲ含ム）

四　建網類漁業

烏賊曲網
鰆曲網
鱅曲網
前三種以外ノ曲網
鰤建網
飯建網（京都府下ノ飯張網ヲ含ム）
鯖建網
いさき建網
鱚建網
にべ建網
鰹建網
めぢか建網　一名小前網
鰕建網
前九種以外ノ建網
鮭建網（竿ヲ張リタル刺網）
鰤刺網　一名鰤底打網
鰹刺網　一名鰹鮑網
鱵刺網　一名鱵ノ塔
やまとみづん切網

五　出網類漁業

鮪鰹出網
網代網
建切捕網（三重縣下及宮崎縣下ノ小鰹網ヲ含ム）
張切地曳網（鹿兒島縣下大島地方ノ待網ヲ含ム）
張切網

鰮折網

六　張網類漁業

鰤出網（福井縣下ノ鰤網ヲ含ム）
鱈沖建網
魚來籠網
鰤瓢網
樫木張網　一名樫木漁（長崎縣下ノばつしや網ヲ含ム）
藁網　一名越中網
無變網　一名劒先網
立藁網
伏網
鯛網
長藁網
鮭股引網
張網（滋賀縣下ノ名稱）
白魚間手網
鰕鰡建干網
建干網（熊本縣下ノ建網ヲ含ム）

七　魞簗類漁業

水晶形器械網
網魞（秋田縣下ノ毛繩ヲ含ム）
魞　別名簀建、簀圍、簀卷、ぐれ、八陣、簀網
藁羽瀨
簀卷羽瀨
筌羽瀨
海鯽簀
八重簀
八重床
八重簇
鮏干見
石干見　一名すくひ（沖繩縣下ノかきヲ含ム）
簀建持網（秋田縣下ノもつぱ及もつばかヲ含ム）
張切網
網代漁（千葉縣下及茨城縣下ノ名稱）
簗（靜岡縣下ノ落簀、神奈川縣下ノ鯛簗、長野縣下ノ牛瀨、切簗及新潟縣下ノ打切簗ヲ含ム）
かつとり簗
網簗（福井縣下ノ天ノ網ヲ含ム）
鮎簗
白魚簗
網戸漁（大分縣下ノ名稱）
鮭鱒瀨張網
鮎瀨張網（廣島縣下ノ切川、岡山縣下ノもんどり、東京府下及神奈川縣下ノしらヲ含ム）
鮭鱒留（茨城縣下ノ網留及竹留ヲ含ム）
鮭留地曳網
鮭鱒堰罩
鱒堰
瀨張堰（福井縣下ノ張網及長野縣下ノ鱒全瀨ノ切簗ヲ含ム）
張待網（島根縣下ノ柴手網ヲ含ム）
ちらす待網（大阪府下ノ名稱）
堰四手網（新潟縣下ノ持網及德島縣下ノ氷魚堰ヲ含ム）
魚堰（埼玉縣下ノ簀圍、德島縣下ノ漁魚堰、宮崎縣下ノ待堰、新潟縣下ノ待網、宮城縣下巖手縣下及福島縣下ノ簀留、秋田縣下ノ川留、石川縣下ノかわぎす網、山口縣下ノ網堰、簀堰、柴堰ヲ含ム）
鮎網掛
堰筌（大阪府下ノ竹もんどり、愛媛縣下ノうゑ、廣島縣下ノ筍、島根縣下及大分縣下ノ筌、石川縣下ノもじ、山口縣下ノもじ堰、靜岡縣下ノもじり、鳥取縣下ノ下リ筌、群馬縣下ノ鮭鱒瀨張筒、奈良縣下ノもんどり一名さがりヲ含ム）
鮎筧
樋落
いさざ落
鰌淀
石簾

區劃漁業

一　第一種漁業

海苔簀建養殖業
青苔簀建養殖業
牡蠣簀建養殖業
ぢめき簀建養殖業
牡蠣養殖業
眞珠介養殖業

二　第二種漁業

藻類養殖業
魚類養殖業
鼈類養殖業

三　第三種漁業

介類養殖業

特別漁業

一　第一種漁業

鯨漁業

二　第二種漁業

海豚漁業

三　第三種漁業

鰤地曳網
飯地曳網
鯛地曳網
鰮地曳網
鰊地曳網
鮪鰹地曳網
めぢか地曳網
鰆地曳網
鰡地曳網
鮭地曳網
鱒地曳網
鱅地曳網
鱸地曳網
鯛車曳網　一名高網地曳網
藻場地曳網
前十五種以外ノ地曳網
鮪待建網
灘網　一名小鰹待建網
鯛地漕網　一名地葛網

四　第四種漁業

鰮船曳網　一名鰮掛曳網
鯛船曳網
鰆船曳網
飯船曳網
鰡船曳網
鮭船曳網
前六種以外ノ船曳網
鰮瀨曳網
鰮中曳網
鯵鯖中曳網
鯛船曳葛網

五　第五種漁業

鰮鰕追込網　一名ふかせ網（高知縣下ニ於テ鰮縛網ト稱ス）
鰮待網

六　第六種漁業

鰆待網
受網
鰮敷網
鯖敷網（鯖四張網ヲ含ム）
鯵敷網（熊本縣下ノ打網ヲ含ム）
鯨敷網（高知縣下及鹿兒島縣下ノ八田網ヲ含ム）
鰮敷網（鰮四張網　一名鰮四艘張網ヲ含ム）
いさき敷網
鰕敷網
海鯽敷網
前八種以外ノ敷網
八艘張網
鯛葛網
鯵鯖八田網
鰮八田網
鰮持網（熊本縣下ノ名稱）
ゑいと網　一名四張網
鰕落網
鰡起網（青森縣下ノ鰡立網ヲ含ム）

七　第七種漁業

鰤飼付
鯛飼付
鰕鰡飼付
鮪飼付

八　第八種漁業

鱰漬

九　第九種漁業

簗瀨　一名松葉礁
こしようたひ簗礁　一名たもり礁
鯛埋

（明治四十四年三月十八日農商務省告示第百七十九號）

明治四十三年農商務省令第二十五號漁業法施行規則ニ依リ行政官廳ニ差出スヘキ免許漁業ニ關スル願書、申請書及屆書ノ書式左ノ通相定ム

書式

（注意）

一　書面數葉ニ涉ルトキハ毎葉ノ綴目ニ適宜契印スヘシ

二　關係書類ヲ提出スル場合ニハ本書竝其ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ公正謄本ヲ以テ本書ニ代フルトキハ其ノ謄本ヲ要セス

第一號　漁業免許願書式

（一）

收入印紙　專用漁業免許願　收入印紙何圓貼附

一漁場ノ位置及區域　別紙漁場圖ノ通

一漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法	漁獲物ノ種類	漁業時期
一何々	何々	自何月何日 至何月何日
一何々	何々	自何月何日 至何月何日

一漁業權存續期間　何箇年

前記ノ通專用漁業ノ免許相受度別紙漁場圖二通（及關係書類）相添此段相願候也

年　月　日

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺

農商務大臣氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

共同出願ノ場合ノ記名ハ左ノ例ニ依ルヘシ

（代表者ノ選定屆ヲ出シタルトキ）

住所
何々漁業組合外何組合
代表者
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺

（別ニ代表者ノ選定屆ヲ出ササルトキ）

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺

右代表者
何々漁業組合

（注意）
一漁業法第五條、第十六條、漁業法施行規則第一條、第二條、第十一條、第十六條、第十七條、第二十一條乃至第二十五條及第二十八條參看

（二）

收入印紙　定置（區劃）（特別）漁業免許願　收入印紙何圓貼附

一漁場ノ位置及區域　別紙漁場圖ノ通
一漁業ノ種類及名稱　何類漁業何々
一漁獲物ノ種類　何々
一漁業時期　自何月何日至何月何日
一漁業權存續期間　何箇年

前記ノ通定置（區劃）（特別）漁業ノ免許相受度別紙漁場圖二通（及關係書類）相添此段相願候也

年　月　日

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺
（氏　名　㊞）

地方長官（農商務大臣）氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

共同出願ノ場合ノ記名ハ書式第一號ノ（一）專用漁業共同出願ノ例ニ準ス

（注意）
一漁業法第四條、第十六條、漁業法施行規則第一條、第二條、第十一條乃至第十七條、第二十二條乃至第二十五條及第二十八條參看

第二號　代表者ニ關スル屆書式

（一）

代表者選定屆

住所
何々漁業組合
（氏　名）

前記ノ者代表者ニ選定候ニ付漁業法施行規則第二十五條（第二十七條）ニ依リ此段及御屆候也

年　月　日

住所
共同者連印

農商務大臣（地方長官）氏名殿

（注意）
一漁業法施行規則第二十五條、第二十七條及第二十八條參看

（二）

代表者變更屆

何年何月何日付何漁業免許願

住所
舊代表者　何々漁業組合
（氏　名）

住所
新代表者　何々漁業組合
（氏　名）

前記ノ通變更候ニ付漁業法施行規則第二十六條第二項（第二十七條）ニ依リ此段及御屆候也

年　月　日

住所
共同者連印

農商務大臣（地方長官）氏名殿

漁業法施行規則第二十七條ノ權利者ノ代表者ヲ變更スル場合ニ於テハ本屆書式中「何年何月何日付何漁業免許願」トアルヲ「免許番號第何號何漁業權」「入漁登錄番號第何號入漁權」「順位何番（賃借權）（抵當權）（先取特權）」ト記載スヘシ

（注意）
一漁業法施行規則第二十六條乃至第二十八條參看

第三號　漁業權變更願書式

（一）

收入印紙　專用漁業權變更願　收入印紙何圓貼附

免許番號第何號

一漁場區域ノ變更　別紙漁場圖ノ通

（一漁業種類ノ變更

增加

漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法	漁獲物ノ種類	漁業時期
一何々、	何々	自何月何日 至何月何日
一何何	何々	自何月何日 至何月何日

削減

漁業ノ種類
一何漁業
一何漁業）

（一漁獲物ノ種類ノ變更
一何漁業ノ漁獲物　何々ヲ何々ニ
一何漁業ノ漁獲物　何々ヲ何々ニ）

（一漁業時期ノ變更
一何漁業ノ漁業時期　自何月何日至何月何日ヲ自何月何日至何月何日ニ
一何漁業ノ漁業時期　自何月何日至何月何日ヲ自何月何日至何月何日ニ）

前記ノ通變更ノ許可相受度（別紙漁場圖二通及關係書類相添）此段相願候也

年　月　日

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺
（氏　名　㊞）

農商務大臣氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一漁業法第十條第一項、第二十八條、漁業法施行規則第二條、第二十條、第二十四條及第三十條參看

（二）

收入印紙　定置（區劃）（特別）漁業權變更願　收入印紙何圓貼附

免許番號第何號

一漁場區域ノ變更　別紙漁場圖ノ通
（一漁獲物ノ種類ノ變更　何々ヲ何々ニ）
（一漁業時期ノ變更　自何月何日至何月何日ヲ自何月何日至何月何日ニ）

前記ノ通變更ノ許可相受度（別紙漁場圖二通及關係書類相添）此段相願候也

年　月　日

住所
何々漁業組合
理事　氏　名　役印押捺
（氏　名　㊞）

地方長官（農商務大臣）氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一漁業法第十條第一項、第二十八條、漁業法施行規則第二條、第二十四條及第三十條參看

第四號　漁業權分割願書式

（一）

收入印紙　專用漁業權分割願　收入印紙何圓貼附

免許番號第何號
（漁場ノ分割ニ依ルモノ）

甲

一漁場區域　別紙甲號漁場圖ノ通

乙
一漁場區域　別紙乙號漁場圖ノ通

（漁業ノ種類ノ分割ニ依ルモノ）
甲
一何漁業
一何漁業
乙
一何漁業
一何漁業

（漁業時期ノ分割ニ依ルモノ）
甲
一何漁業　（自何月何日至何月何日）
一何漁業　（自何月何日至何月何日）
乙
一何漁業　（自何月何日至何月何日）
一何漁業　（自何月何日至何月何日）

前記ノ通分割ノ許可相受度別紙漁場圖何通（及關係書類）相添此段相願候也

年　月　日
住所
何々漁業組合
理事　氏名
（氏名㊞）　役印押捺

農商務大臣氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一　願書ニ添附スヘキ漁場圖ハ分割ノ數ニ應シ各二通トス
二　漁業法第十條第一項、第二十八條、漁業法施行規則第二條及第三十條參看

（二）

定置（區劃）（特別）漁業權分割願　收入印紙何圓貼附

收入印紙

免許番號第何號

（漁場ノ分割ニ依ルモノ）
甲
一漁場區域　別紙甲號漁場圖ノ通
乙
一漁場區域　別紙乙號漁場圖ノ通

（漁業時期ノ分割ニ依ルモノ）
甲
一漁業時期　（自何月何日至何月何日）
乙
一漁業時期　（自何月何日至何月何日）

前記ノ通分割ノ許可相受度別紙漁場圖何通（及關係書類）相添此段相願候也

年　月　日
住所
何々漁業組合
理事　氏名
（氏名㊞）　役印押捺

地方長官（農商務大臣）氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一　願書ニ添附スヘキ漁場圖ハ分割ノ數ニ應シ各二通トス
二　漁業法第十條第一項、第二十八條、漁業法施行規則第二條及第三十條參看

第五號　漁業權存續期間更新申請書式

專用（定置）（區劃）（特別）漁業權存續期間更新申請　收入印紙何圓貼附

收入印紙

免許番號第何號
一更新期間　何箇年

前記ノ通更新ノ免許相受度（別紙關係書類相添）此段申請候也

年　月　日
住所
何々漁業組合
理事　氏名
（氏名㊞）　役印押捺

農商務大臣（地方長官）氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一漁業法第十六條、漁業法施行規則第一條、第二條及第三十一條參看

第六號　漁業權處分認可申請書式

專用漁業權處分認可申請　收入印紙何圓貼附

收入印紙

一免許番號第何號

前記地先水面專用漁業權（漁業權ノ持分）ノ讓渡（共有）（拋棄）（抵當權設定）認可相受度別紙事由書（及關係書類）相添此段申請候也

年　月　日
住所
何々漁業組合
理事　氏名
役印押捺

農商務大臣氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一漁業法第十條第二項、漁業法施行規則第二條及第三十五條參看

第七號　休業認可申請書式

專用（定置）（區劃）（特別）漁業休業認可申請　收入印紙何圓貼附

收入印紙

免許番號第何號
一休業期間　（自何年何月何日至何年何月何日）

前記ノ通休業ノ認可相受度別紙事由書（及關係書類）相添此段申請候也

年　月　日
住所
氏名㊞

農商務大臣（地方長官）氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一漁業法施行規則第二條及第三十六條參看

第八號　就業屆書式

專用（定置）（區劃）（特別）漁業就業屆

免許番號第何號
何年何月何日認可
一休業期間　（自何年何月何日至何年何月何日）

前記ノ通休業ノ認可相受候處何年何月何日ヨリ就業候ニ付此段及御屆候也

年　月　日
住所
氏名㊞

農商務大臣（地方長官）氏名殿

（注意）
一漁業法施行規則第一條、第二條及第三十六條參看

第九號　漁業權拋棄屆書式

專用（定置）（區劃）（特別）漁業權拋棄屆

一免許番號第何號

前記ノ通漁業權拋棄候ニ付（別紙關係書類相添）此段及御屆候也

年　月　日
住所
何々漁業組合
理事　氏名
（氏名㊞）　役印押捺

農商務大臣（地方長官）氏名殿

關係書類ノ表示
一何々　何通
一何々　何通
以上何通

（注意）
一漁業法第十條第二項、第二十八條、漁業法施行規則第二條、第三十五條及第三十七條參看

漁業登錄令及明治四十三年農商務省令第二十五號漁業法施行規則ニ依リ行政官廳ニ差出スヘキ漁場圖調製心得及雛形左ノ通相定ム

（明治四十四年三月三十一日農商務省告示第二百十三號）

調製心得

一　基點ヲ定メ距離及方位ニ依リテ測量シタル漁場ノ位置ヲ示スニハ其ノ基點、距離及方位ヲ記入スヘシ

二　山見法（山立トモ言ヒ二箇ノ顯著ナル目標ノ見通線ト同一方法ニ依レル他ノ見通線トノ交叉ニ依リ其ノ位置ヲ定ムル方法ヲ謂フ）ニ依リテ測量シタル漁場ノ位置ヲ示スニハ目標及見通線ヲ記入シ見通狀態ヲ明示スル對景圖（見取圖）ヲ添附スヘシ

二見通線間ノ角度ハ可成九十度内外ニ取ルヘシ

二見通線間ノ角度百二十度以上ノ鈍角或ハ六十度以下ノ鋭角ナルトキハ更ニ前法ニ準シテ三箇以上ノ見通線交叉ヲ以テ測點ノ位置ヲ定ムヘシ

磁針ヲ併用シタルトキハ其ノ方位ヲ併記スヘシ

三　前二項以外ノ方法ニ依リ測量シタル漁場ノ位置ヲ示スニハ測量ニ用ヰタル目標、方位、角度及距離ヲ記入シ且測量器械ノ名稱ヲ附記スヘシ

四　基點ハ燈臺、井戸、橋梁、神社、佛閣、碑、岩石、島嶼、岬角、其ノ他顯著ナル不動物體ヲ撰フヘシ但シ顯著ナル不動物體ナキトキハ標木石ヲ建設スルカ若ハ附近ノ見取圖ヲ添附スヘシ

五　距離ハ間ヲ以テ計ルヘシ但シ水面ノ距離ハ海里ヲ用ウルコトヲ得

六　方位ハ磁針ニ取リ分度法（三百六十度）ニ依ルヘシ

眞方位ヲ用ヰタルトキハ其ノ眞方位ナル旨ヲ記スヘシ

七　面積ハ坪ヲ以テ計ルヘシ

八　水深ヲ記入スルトキハ尋（五尺）ヲ以テ計リ其ノ基準面ヲ明示スヘシ

九　海岸線ヲ定ムルニハ朔望滿潮時ヲ以テスヘシ

十　定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具敷設又ハ建設ノ要點ノ位置及名稱竝漁具敷設又ハ建設ノ間數ヲ記載スヘシ

十一　區劃漁業ノ漁場圖ニハ面積ノ算出ニ必要ナル事項ヲ記入スヘシ

十二　漁場圖ニハ其ノ漁場附近ノ地形、地名、府縣郡市町村大字字等ノ境界線、南北線及縮尺ノ定アルモノハ其ノ縮尺ヲ記入スヘシ

十三　漁場ノ區域線（海岸線ヲ除ク）ハ朱ノ實線トシ其ノ他ノ見通線、方位線ハ朱ノ點線トスヘシ

十四　用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ヰ描寫ニハ鉛筆又ハ「インキ」ヲ用ウヘカラス

網形

定置漁業漁場圖（例ノ一）

臺網類漁業何大敷網

漁場ノ位置（及名稱）

何縣何郡何村字何々ノ地先（何漁場）

點ノ位置

基點甲、何村何々何岩

イ、甲ヨリ何度何間ノ處

ロ、甲ヨリ何度何間ノ處

ハ、甲ヨリ何度何間ノ處

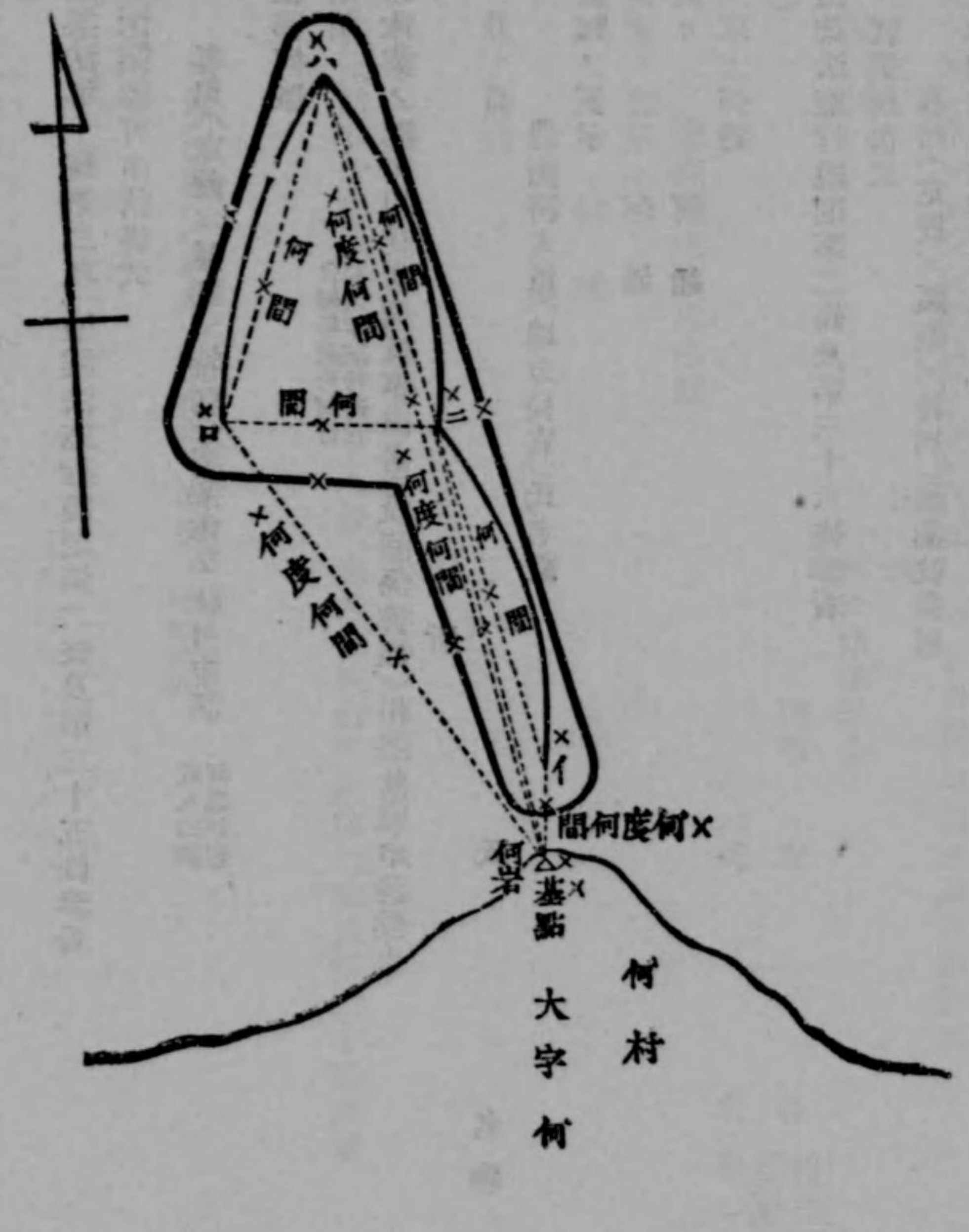
ニ、甲ヨリ何度何間ノ處

漁場區域

イニ、直線、及ロハニ、三角形ヨリ何間ノ連結線ニ依リテ圍マレタル水面

要點

ロ、沖ノはさき、（ハ、臺、ニ、地ノはさき）


ハ
ロ
ニ
イ
何間
何度何間
何間
何度何間
何度何間
何度何間
何岩
基點
大字何
何村

備考　×印チ附シタル實線、點線及文字ハ朱色

區劃漁業漁場圖（例ノ一）
（注意、第一種及第三種ニ準用スルコトヲ得）

第何種漁業何漁業

漁場ノ位置（及名稱）

何縣何郡何村字何々ノ沖合（何洲）

點ノ位置

基點甲、何村何川口ノ右角（木標チ建設ス）

イ、甲ヨリ何度何間ノ處

ロ、甲ヨリ何度何間ノ處

ハ、二ヨリ何度何間ノ處

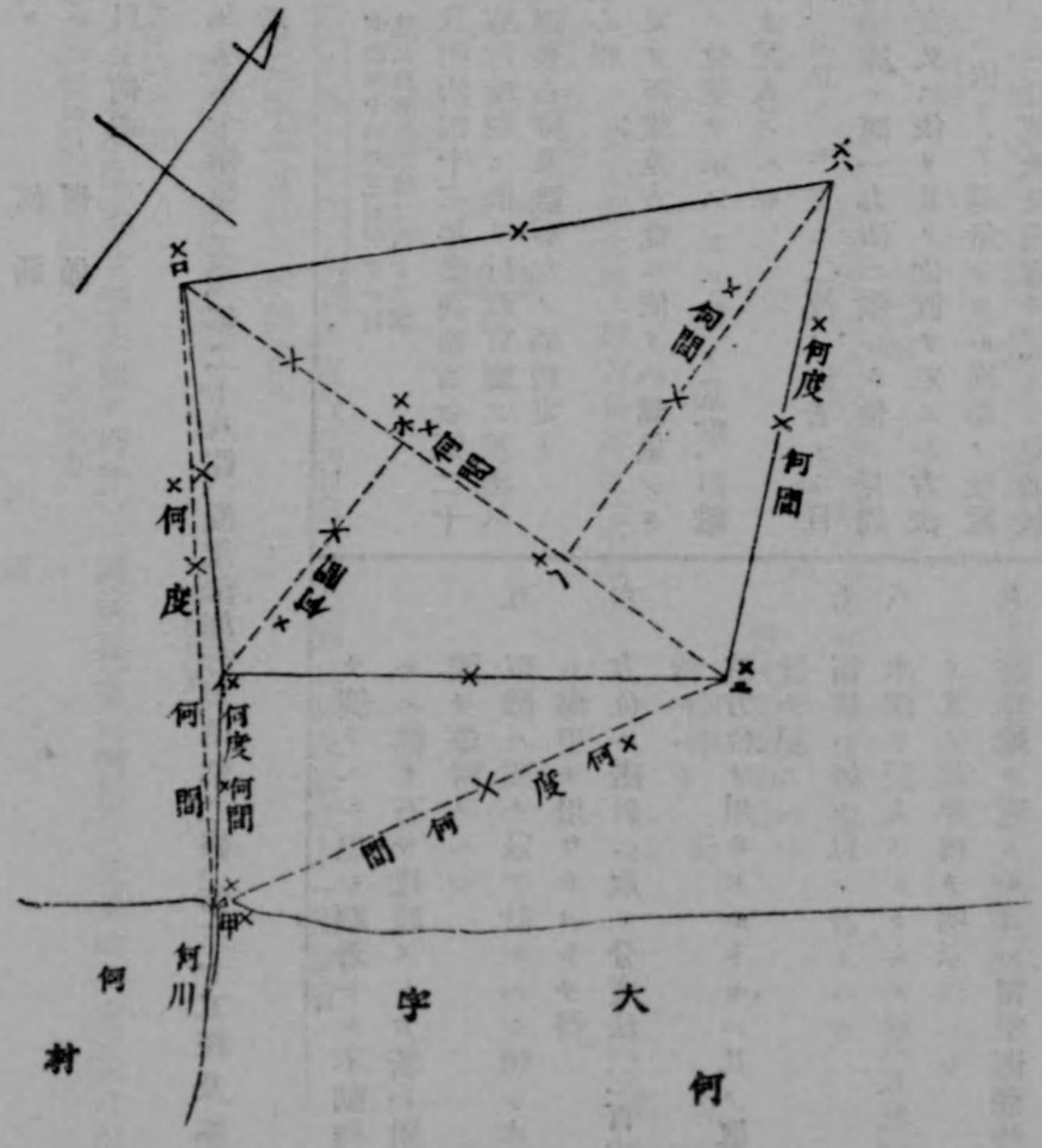
ニ、甲ヨリ何度何間ノ處

漁場區域

イロ、ロハ、ハニ、ニイ、ノ四直線ニ依リテ圍マレタル水面

漁場ノ面積

何坪何合何勺


ハ
ロ
イ
ニ
ホ
ヘ
甲
何度何間
何間
何度何間
何度
何間
何間
何度何間
何川
大字何
何村

面積算出線

ロ、ヨリニ、マテ何間

イ、ヨリホ、マテ何間

ハ、ヨリヘ、マテ何間

備考　×印チ附シタル實線、點線及文字ハ朱色

區劃漁業漁場圖（例ノ二）
（注意、專用漁業漁場圖ニ準用スルコトヲ得）

第何種漁業何漁業（專用漁業漁場圖ニ準用スルトキハ本項ハ不要）

漁場ノ位置

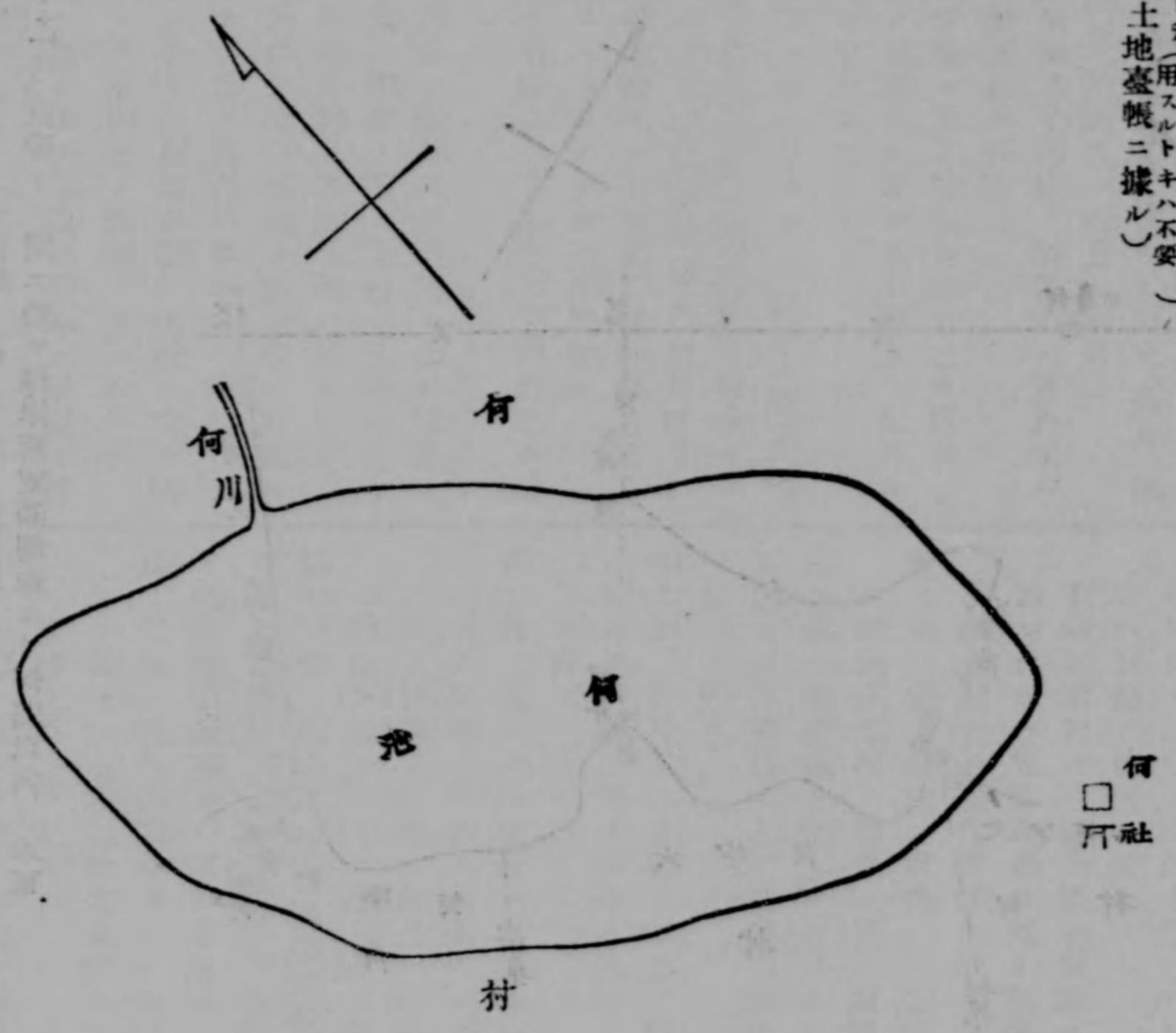
何縣何郡何村字何ノ地先

漁場區域

何池ノ全部

漁場ノ面積（專用漁業漁場圖ニ準用スルトキハ不要）

何歩（土地臺帳ニ據ル）



特別漁業漁場圖（例ノ一）
（注意、第六種、第七種、第八種、第九種ニ準用スルコトヲ得）

第何種漁業何漁業

漁場ノ位置（及名稱）

何縣何郡何村何々ノ沖合（何漁場）

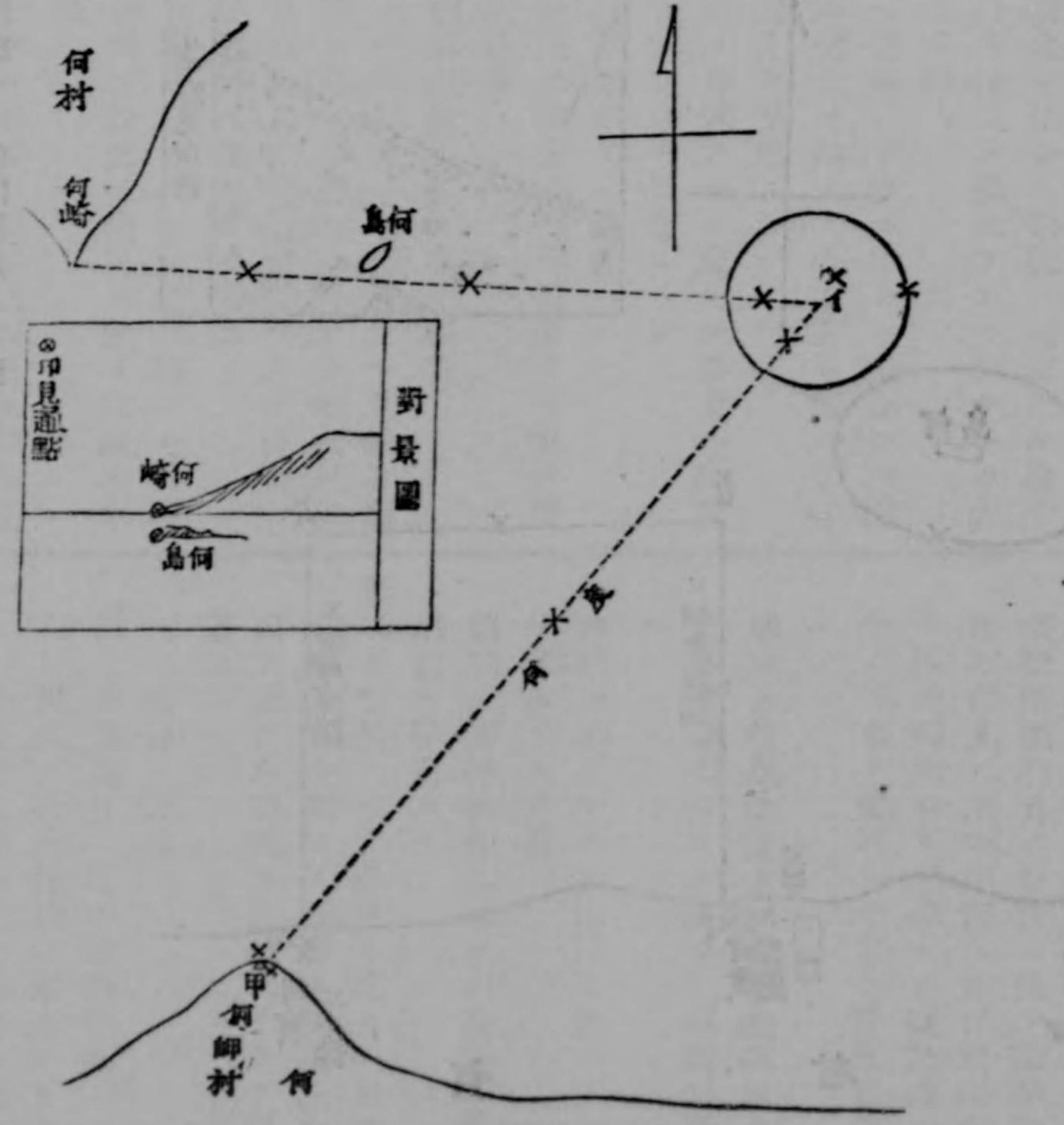
點ノ位置

基點甲、何村何岬

イ、甲ヨリ何度ノ線ト何村何崎ト何島南端見通線ノ交叉點

漁場區域

イ、ヨリ何間以内ノ水面


何村
何崎
何島
イ
度
何
甲
何岬
何村
見取圖
⊗印見通點
何崎
何島

備考　×印チ附シタル實線、點線及文字ハ朱色

縮尺何分ノ一

專用漁業漁場圖（例ノ一）

漁場ノ位置

何縣何郡何村何崎ヨリ何々ニ至ル間ノ地先

點ノ位置

基點甲、（何村何村）界何鼻

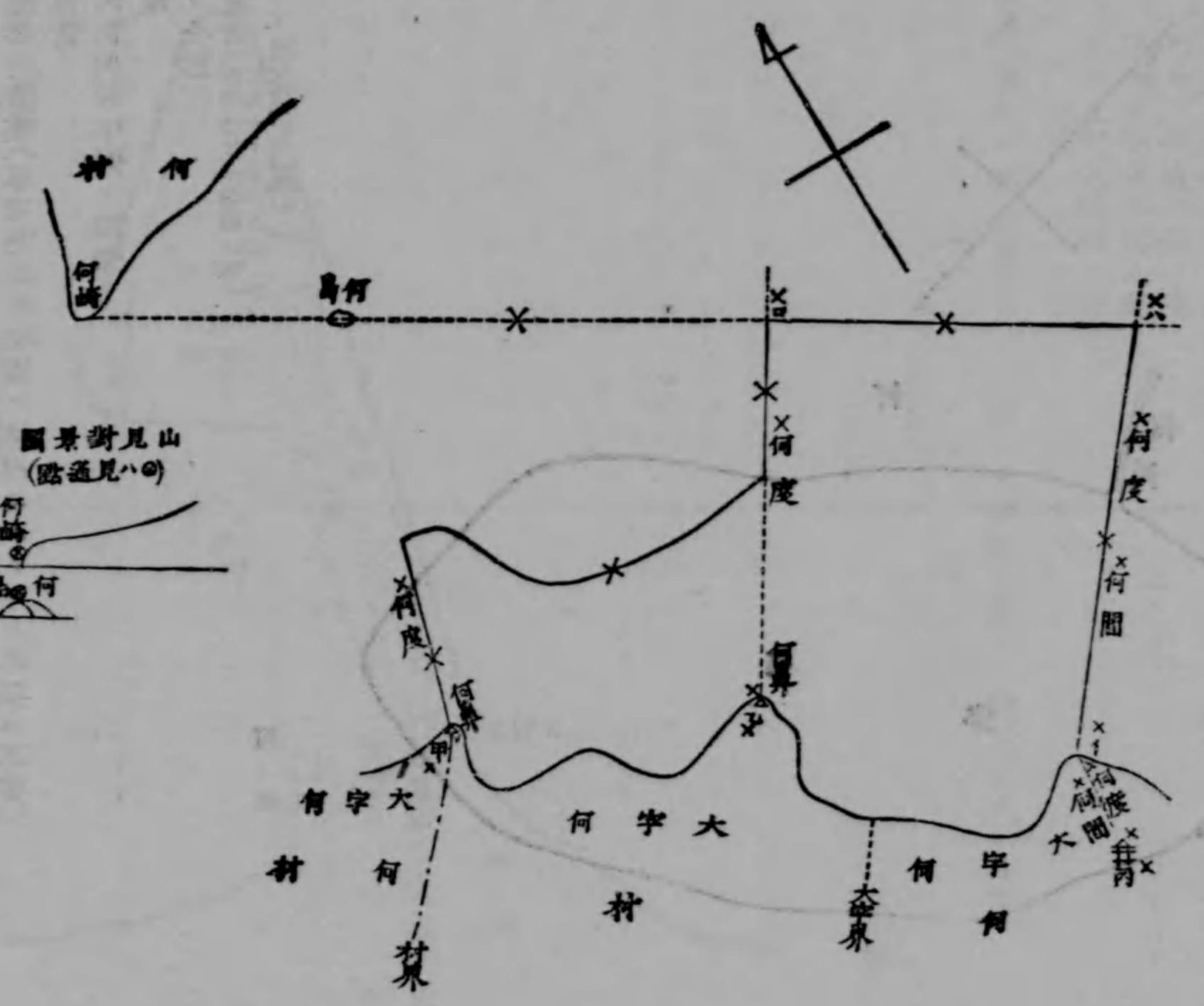
同　乙、何村大字何、何鼻

同　丙、何村大字何、何某井戸

イ、丙、ヨリ何度何間ノ處

ロ、乙、ヨリ何度ノ線ト何村何崎ト何島ノ頂上見通線トノ交叉點
ハ、イ、ヨリ何度何間ノ處

漁場區域
乙ロ、ロハ、ハイ、ノ三直線ト乙、イ、間ノ海岸線トニ依リテ圍マレタル水面及甲ヨリ何度ノ線ト乙ロ、直線トノ間ニ於テ海岸朔望滿潮線ヨリ何間以內ノ水面



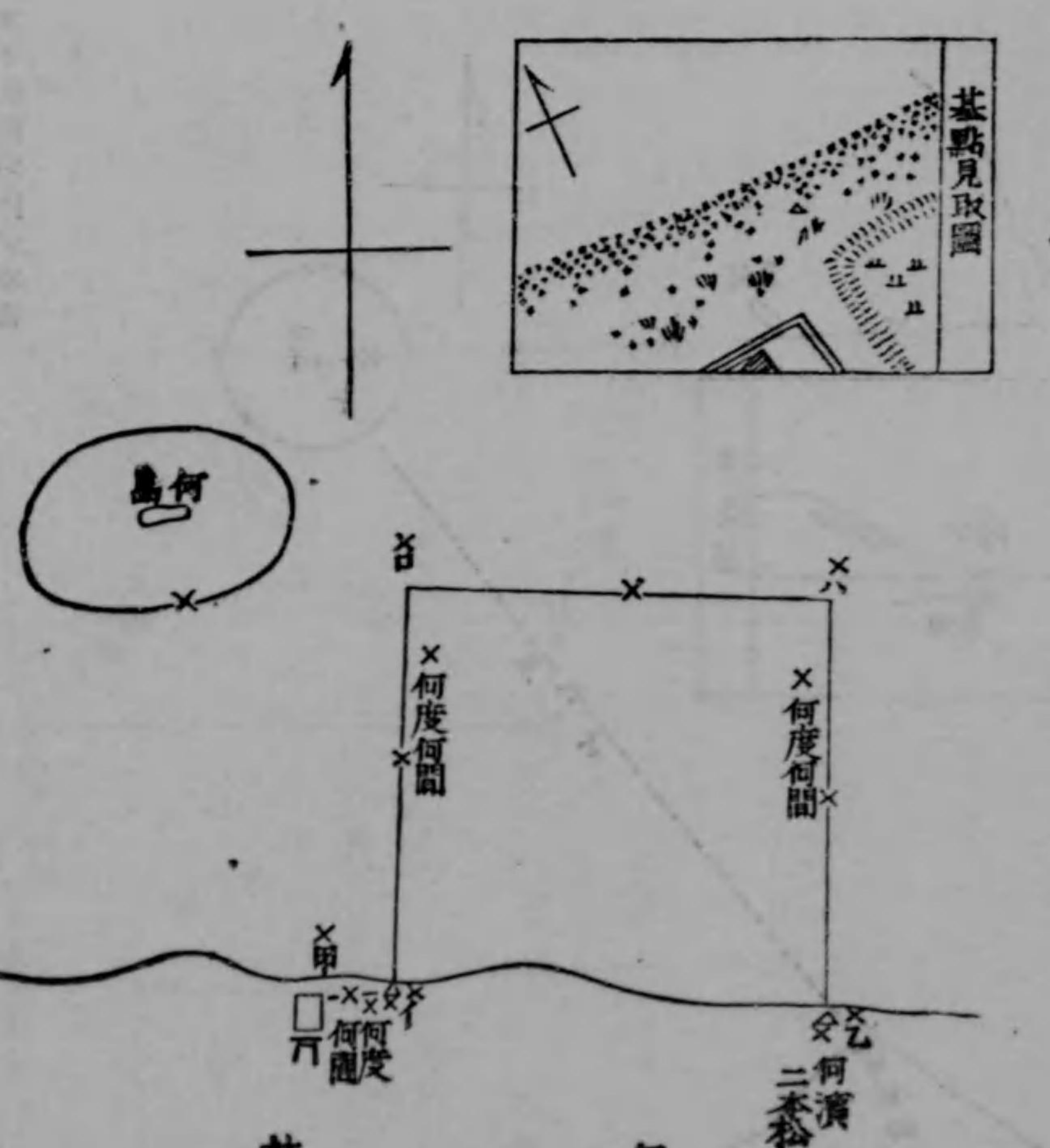
入漁漁場圖（例ノ一）
（注意、貸借權設定ノ漁場圖ニ準用スルコトヲ得）

備考 ×印ヲ附シタル實線、點線及文字ハ朱色

漁場ノ位置
何縣何郡何村字何、何々ヨリ何々ニ至ル間及何島ノ地先
免許番號第何號ノ漁場內

點ノ位置
基點甲、何村字何、何神社ノ拜殿北東隅
同 乙、何村字何、何濱ノ二本松
イ、甲、ヨリ何度何間ノ處
ロ、イ、ヨリ何度何間ノ處
ハ、乙、ヨリ何度何間ノ處

漁場區域
イロ、ロハ、ハ乙、ノ三直線トイ、乙、間ノ海岸線トニ依リテ圍マレタル水面及何島ノ海岸朔望滿潮線ヨリ何間以內ノ水面



備考 ×印ヲ附シタル實線、點線及文字ハ朱色

漁業權者 何々漁業組合（氏名）印

●漁業登錄令 （明治四十三年十一月十二日勅令第四百三十號）

改正 大正一一年第五一六號

朕漁業登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、司法大臣副署）

漁業登錄令

第一章 總則

第一條 免許漁業ニ關スル登錄ハ左ニ揭ケタル事項ニ付免許ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ免許漁業原簿ニ之ヲ爲ス

一 漁業權及之ヲ目的トスル抵當權、先取特權、貸借權竝入漁權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅又ハ處分ノ制限

二 漁業法第二十四條ノ制限若ハ停止又ハ其ノ變更若ハ解除

第二條 假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ

二 前條第一號ニ揭ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セムトスルトキ、其ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條 豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登錄原因ノ無效又ハ取消ニ依ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ取消ニ依ル訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

二 漁業免許又ハ期間更新ノ免許ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第四條 左ニ揭ケタル事項ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

一 登錄名義人ノ表示ノ變更

二 入漁權、抵當權及先取特權ノ移轉

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登錄ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ其ノ登錄ヲ爲ス

一 漁業權ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ變更

二 登錄ノ更正

三 一部抹消登錄ノ回復

第六條 同一漁業權ニ關シテ登錄シタル權利ノ順位ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外登錄ノ前後ニ依ル

登錄ノ前後ハ登錄用紙中同區ニ爲シタル登錄ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登錄ニ付テハ受付番號ニ依ル

第七條 附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依リ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第八條 假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第九條 詐欺又ハ脅迫ニ依リテ登錄ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第十條 他人ノ爲登錄ヲ申請スル義務アル者ハ其ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ登錄ノ原因カ自己ノ登錄ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 漁場圖、共同漁業權者名簿、共同入漁權者名簿、入漁登錄簿及漁業信託原簿ハ免許漁業原簿ノ一部ト看做ス

第十二條 免許漁業原簿其ノ他登錄ニ付必要ナル帳簿ノ種類、樣式及記入ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム

第十三條 何人ト雖手數料ヲ納付シテ免許漁業原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ免許漁業原簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵便料ヲ納付シテ免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 免許漁業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ回復ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム

第二章 登錄手續

第十五條 登錄ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外申請又ハ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ依ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外申請ニ依ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十六條 左ノ各號ノ一ニ關スル事項ハ行政官廳職權ヲ以テ之ヲ登錄スヘシ

一 漁業權ノ設定又ハ變更

二 漁業免許ノ取消又ハ期間滿了ニ依ル漁業權ノ消滅

三 第一條第二號ニ揭ケタル事項

四 國又ハ公共團體ノ起業ニシテ登錄官廳ノ主管ニ屬スル場合ニ於テ土地收用法ニ依リ收用シタル漁業權、之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ移轉

五 登錄官廳ノ爲シタル登錄ニ關スル異議ノ決定又ハ訴願ノ裁決ニ依リ登錄スヘキ事項

第十七條 登錄ノ申請ハ登錄權利者及登錄義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第十八條 相續、判決又ハ漁業法第五十六條ノ規定ニ依ル裁決若ハ判決ニ基ク登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル法人ノ權利承繼ノ登錄ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ職權又ハ囑託ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ヲ除クノ外土地收用法ニ依リ收用シタル漁業權、之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ移轉ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第十九條 登錄名義人ノ表示ノ變更ノ登錄申請ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條 假登錄ハ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條 假登錄ハ前條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ依リ漁業法第九條ノ市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スヘシ

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ卽時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 左ノ各號ニ關スル登錄ニ付テハ官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

一 處分ノ制限

二 公賣處分ニ依ル權利移轉

三 國又ハ公共團體ノ起業ニシテ登錄官廳ノ主管ニ屬セサル場合ニ於テ土地收用法ニ依リ收用シタル漁業權、之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ移轉

第二十三條 第三條ノ場合ニ於テ訴訟ヲ受理シタル司法裁判所又ハ行政裁判所ハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ其ノ豫告登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外第三條第二號ノ場合ニ於テハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ豫告登錄ヲ爲スヘシ

第二十四條　登錄ノ申請書ニハ本令中別ニ定メタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一　免許番號
二　入漁登錄番號アルトキハ入漁登錄番號
三　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
四　代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ氏名又ハ名稱及住所
五　登錄原因及其ノ日附
六　登錄ノ目的
七　年月日
八　登錄官廳ノ表示

入漁權保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ登錄原因カ慣行ニシテ日附不明ナルトキハ前項第五號ノ日附ノ記載ヲ要セス

第二十五條　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第二十六條　登錄原因ニ買戾ノ特約其ノ他登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十七條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ持分ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ持分ヲ記載スヘキ漁業權、之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ一部移轉ノ登錄ヲ申請スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依ル定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第二十八條　登錄ノ申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　登錄原因ヲ證スル書面但シ登錄官廳ノ許可書又ハ認可書ハ此ノ限ニ在ラス
二　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面
三　代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面但シ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ屆出ヲ爲シ又ハ指定セラレタル代表者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
四　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證

第二十九條　第二十五條ノ規定ニ依リ登錄ヲ申請スルトキハ前條ノ書面ノ外尙其ノ代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條　第二十八條第二號ノ書面ニ依リ證明スヘキ事項カ既ニ登錄ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十一條　登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第二十八條第二號及第四號ニ掲ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條　同一登錄官廳ニ數箇ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ添附スヘキ書面カ一箇ナルトキハ其ノ一ノ申請書ニ之ヲ添附シ他ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

一　登錄原因カ相續ナルトキ
二　申請人カ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人ナルトキ
三　登錄名義人ノ表示ノ變更ノ登錄ヲ申請スルトキ

第三十四條　第二十八條第二號ノ書面ハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメ之ニ代フルコトヲ得

第二十八條第四號ノ書面カ滅失シタルトキハ其ノ登錄名義人又ハ登錄義務者ノ本人タルコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十五條　左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

一　事件カ其ノ登錄官廳ノ管轄ニ屬セサルトキ
二　事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ
三　申請書カ方式ニ適合セサルトキ
四　申請書ニ掲ケタル漁業權、之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ表示カ免許漁業原簿ト牴觸スルトキ
五　第三十三條第二號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄義務者ノ表示カ免許漁業原簿ト符合セサルトキ
六　申請人カ登錄名義人タル場合ニ於テ其ノ表示カ免許漁業原簿ト符合セサルトキ
七　申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト牴觸スルトキ
八　申請書ニ必要ナル書面ヲ添附セサルトキ
九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第三十六條　行政區劃、大字、字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ免許漁業原簿ニ記載シタル行政區劃、大字、字又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第三十七條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ登錄官廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ第二十五條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者、登錄義務者又ハ債權者カ二人以上アルトキハ代表者ニ、代表者ナキトキハ其ノ一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第三十八條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十九條　入漁權ノ設定又ハ保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　入漁スヘキ區域
二　入漁スヘキ漁業ノ種類、漁獲物ノ種類及漁業時期
三　存續期間ノ定アルトキハ其ノ期間
四　入漁料ノ定アルトキハ其ノ事項
五　漁業ノ方法ニ付定アルトキハ其ノ事項
六　漁船、漁具又ハ漁業者ノ數ニ付定アルトキハ其ノ事項
七　入漁者ノ資格ニ付定アルトキハ其ノ事項
八　其ノ他權利義務ノ定アルトキハ其ノ事項

前項ノ申請書ニハ漁場圖二通ヲ添附スヘシ但シ入漁スヘキ區域カ專用漁業權ニ屬スル漁場ノ全部ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十條　漁業法第十四條但書ニ依ル入漁權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ慣行ヲ證スル書面ヲ添附シテ第二十八條第二號ノ書面ニ代フルコトヲ得

第四十一條　先取特權ノ保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之

ヲ記載スヘシ

第四十二條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四十三條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スヘシ

抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヲ記載スヘシ

第四十四條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スヘシ

第四十五條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル先取特權若ハ抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第四十六條　同一登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ先取特權又ハ抵當權ノ保存、設定又ハ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條　賃借權ノ設定又ハ賃借シタル漁業權ノ轉貸ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借賃ヲ記載シ登錄原因ニ存續期間若ハ借賃ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ轉貸若ハ賃借權ノ移轉ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ賃貸借ヲ爲ス者カ處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條ノ二　漁業權ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

第四十七條ノ三　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル漁業權ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財產ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條ノ四　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第二十五條及第二十九條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ何登錄ノ目的タル漁業權カ信託財產タルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條ノ五　信託ノ登錄ノ申請ハ信託ニ因ル漁業權ノ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ受益者又ハ委託者カ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條ノ六　受託者更迭ノ場合ニ於テ漁業權移轉ノ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第四十七條ノ七　受託者ノ任務カ死亡、破產、禁治產、準禁治產又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第四十七條ノ八　信託ノ登錄ノ申請書ニハ第二十四條第一項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　信託ノ目的
三　信託財產ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其ノ他信託ノ條項

前項ニ掲ケタル事項ハ職權ヲ以テ漁業信託原簿ニ之ヲ登錄スヘシ

第四十七條ノ九　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク漁業信託原簿ノ登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第四十七條ノ十　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條ノ十一　裁判所カ信託財產ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク漁業信託原簿ノ登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條ノ十二　前三條ノ場合ニ於テ主務官廳カ登錄官廳ナルトキハ職權ヲ以テ漁業信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十七條ノ十三　第四十七條ノ六又ハ第四十七條ノ七ノ場合ニ於テ免許漁業原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ漁業信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十七條ノ十四　第四十七條ノ六、第四十七條ノ七及第四十七條ノ九乃至第四十七條ノ十一ノ場合ヲ除クノ外第四十七條ノ八第一項ニ掲ケタル事項ノ變更ニ關スル漁業信託原簿ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二十五條及第二十九條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

第四十七條ノ十五　第四十七條ノ十又ハ第四十七條ノ十二ノ規定ニ依リ受託者ノ解任ニ付漁業信託原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ免許漁業原簿ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第四十七條ノ十六　第四十七條ノ二乃至前條ノ規定ハ漁業權ヲ目的トスル權利及入漁權ノ信託ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第四十八條　漁業權、之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ拋棄ニ依ル登錄ノ抹消ハ登錄名義人ノミニテ申請スルコトヲ得

第四十九條　先取特權及抵當權ノ登錄アル漁業權ノ取消アリタルトキハ抹消ノ登錄ヲ爲シ漁業法第二十四條第一項及第二十五條ノ範圍內ニ於テ仍存續スル旨及競落ノ決定確定シタルトキハ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス旨ヲ同時ニ記載スヘシ

先取特權者又ハ抵當權者競賣ノ請求ヲ爲ササルトキ又ハ競賣申立ノ登錄アリタル場合ニ於テ其ノ登錄抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登錄シタル後前項ノ規定ニ依ル記載ヲ抹消スヘシ

第五十條　登錄シタル權利カ或人ノ死亡ニ依リテ消滅シタル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戶籍ノ謄本、抄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ依リ之ト共ニ登錄ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十二條　前條第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書竝債權金額及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ先取特權又ハ抵當權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十三條　登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登錄上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五十四條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判又ハ裁決ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十五條　第三條第一號ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリ

タルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

第五十六條　第三條第二號ニ揭ケタル訴願若ハ行政訴訟ノ却下若ハ取下アリタルトキ又ハ請求否認ノ裁決若ハ判決アリタルトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ豫告登錄ヲ抹消シ行政裁判所ハ其ノ抹消ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

第五十六條ノ二　信託財產ニ屬スル漁業權カ移轉ニ因リ信託財產ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財產ニ屬スル漁業權カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ漁業權ヲ目的トスル權利及入漁權ノ信託登錄ノ抹消ノ申請ニ之ヲ準用ス

第三章　異議及訴願

第五十七條　登錄ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以內ニ登錄官廳ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第五十八條　異議ノ決定ハ理由ヲ附シテ之ヲ爲スヘシ

地方長官ノ爲シタル決定ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

附　則

第五十九條　本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十條　本令施行前ニ受理シタル申請又ハ屆出ニ付テハ舊漁業法施行規則ニ依リ舊免許漁業原簿ニ之ヲ登錄スヘキ事項ハ漁業法又ハ本令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第六十一條　本令施行前ニ登錄シタル入漁權及本令施行前ニ受理シタル入漁登錄申請又ハ舊漁業法施行前ノ契約若ハ慣行ニ依リテ入漁スル權利ヲ有スル者ノ專用漁業免許後一年內ニ爲シタル入漁登錄申請ニ基キ登錄シタル入漁權相互ノ間ニ於テハ第六條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ入漁權ハ他ノ入漁權ニ對シテ先順位ニ在ルモノト看做ス

第六十二條　舊免許漁業原簿ハ之ヲ免許漁業原簿ト看做ス

舊漁業法施行規則ニ依リ登錄セラレタル事項中契約書ヲ援用シタルモノニ付テハ該契約書ハ舊免許漁業原簿ノ一部ト看做ス舊漁業法施行規則ニ依ル入漁漁場圖亦同シ

第六十三條　舊漁業法施行規則ニ基キ下付シタル漁業免許狀又ハ入漁登錄證ハ登錄濟證ト看做ス

第六十四條　舊漁業法施行規則ニ依リ登錄セラレタル權利ニ關シ登錄ノ申請アリタル場合ニ於テハ抹消ヲ除クノ外新免許漁業原簿ニ舊免許漁業原簿中抹消ニ係ラサル登錄ヲ移シ舊免許漁業原簿中新免許漁業原簿ニ移シタル登錄ヲ抹消スヘシ

●漁業登錄令施行規則

（明治四十四年一月二十七日　農商務省令第一號）
（改正　大正一一年第二八號　昭和二年農林省令第一二號）

漁業登錄令施行規則左ノ通相定ム

漁業登錄令施行規則

第一章　登錄ニ關スル帳簿

第一條　免許漁業原簿ハ專用漁業權ニ關シテハ第一號樣式ニ依リ、其ノ他ノ漁業權ニ關シテハ第二號樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

共同漁業權者名簿ハ第三號樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二條　免許漁業原簿及共同漁業權者名簿ハ一漁業權ニ付一用紙ヲ備フ

前項ノ規定ハ入漁登錄簿、共同入漁權者名簿及漁業信託原簿ニ之ヲ準用ス

第三條　入漁登錄簿ハ第四號樣式ニ依リ、共同入漁權者名簿ハ第五號樣式ニ依リ、漁業信託原簿ハ第七號樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條　免許漁業ノ漁場圖ニハ免許番號ヲ、入漁ノ漁場圖ニハ入漁登錄番號ヲ記載シ各其ノ順序ニ依リ之ヲ綴込ミ丁數ヲ附スヘシ

賃借權設定ノ場合ニ申請書ニ漁場圖ノ添附アルトキハ別ニ之ヲ綴込ミ丁數ヲ附スヘシ

第五條　登錄受付簿ハ第六號樣式ニ依リ每年之ヲ作ルヘシ

第六條　登錄官廳ニハ免許漁業原簿、共同漁業權者名簿、入漁登錄簿、共同入漁權者名簿、漁業信託原簿、漁場圖綴込帳及登錄受付簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　通知簿
二　謄本抄本交付閱覽申請事件簿
三　代表者名簿
四　見出帳
五　異議ニ關スル書類綴込帳
六　登錄申請書囑託書附屬書類綴込帳
七　謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳
八　申請却下原議綴込帳
九　免許漁業原簿謄本綴込帳

第七條　通知簿ニハ漁業登錄令第三十七條ニ依ル通知事項、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第八條　謄本抄本交付閱覽申請事件簿ニハ事件名、申請人ノ氏名若ハ名稱、受付年月日、受付番號及交付年月日ヲ記載シ交付スル謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ免許漁業原簿ノ謄本ヲ他ノ登錄官廳ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　代表者名簿ニハ免許番號、代表者ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十條　漁業法施行規則ニ依ル代表者ハ漁業登錄令第二十八條第三號但書及第三十七條第三項ノ代表者ト看做ス

第十一條　見出帳ハ索出ニ便ナル方法ヲ以テ分類シ免許番號、漁業權者ノ氏名若ハ名稱及免許漁業原簿ノ冊數丁數ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ二人以上ナルトキハ其ノ筆頭人ノミノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十二條　免許漁業原簿ノ免許番號欄ニハ免許番號ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ漁業權ノ表示ヲ爲シ且其ノ變更、消滅竝漁業登錄令第一條第二號ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

甲區事項欄ニハ漁業權ノ設定、移轉及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

丙區事項欄ニハ先取特權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

戊區事項欄ニハ入漁權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第十三條　共同漁業權者名簿ノ免許番號欄ニハ免許番號ヲ記載スヘシ

持分欄ニハ持分ヲ記載スヘシ

甲區事項欄ニハ共同漁業權者ノ氏名若ハ名稱及住所竝持分ノ移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

乙區事項欄ニハ持分ノ抵當權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

丙區事項欄ニハ持分ノ先取特權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

丁區事項欄ニハ持分ノ賃借權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第十四條　入漁登錄簿ノ表示欄ニハ入漁權ノ表示ヲ爲シ且之ニ關スル義務ヲ記載スヘシ

入漁登錄番號欄ニハ入漁登錄簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載シ免許番號欄ニハ專用漁業權ノ免許番號ヲ記載スヘシ

第十五條　共同入漁權者名簿ノ免許番號欄ニハ專用漁業權ノ免許番號ヲ、入漁登錄番號欄ニハ入漁登錄番號ヲ記載スヘシ

持分欄ニハ持分ヲ記載スヘシ

事項欄ニハ共同入漁權者ノ氏名若ハ名稱及住所竝持分ノ移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第十五條ノ二　漁業信託原簿ノ免許番號欄ニハ免許番號ヲ記載スヘシ

信託財產種類欄ニハ信託財產ニ屬スル漁業權若ハ之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權及其ノ登錄番號又ハ順位番號ヲ記載スヘシ

事項欄ニハ漁業登錄令第四十七條ノ八第一項各號ニ揭ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十六條　免許漁業原簿ノ謄本ハ免許漁業原簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作製シ餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印シ登錄官廳名及年月日ヲ記載シ之ニ登錄官廳ノ印ヲ押捺スヘシ

此ノ謄本ハ免許漁業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ漁場圖ノ謄本其ノ他免許漁業原簿ノ抄本ヲ作製スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　漁業權カ他ノ行政官廳ノ管轄ニ轉屬シタル場合ニ於テ其ノ登錄カ免許漁業原簿ノ一冊又ハ數冊ノ全部ナルトキハ其ノ一冊又ハ數冊及其ノ附屬書類ヲ、一冊ノ一部ナルトキハ其ノ部分ノ謄本及其ノ附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ其ノ官廳ニ移送スヘシ

第二章　登錄手續

第一節　通則

第十八條　免許漁業原簿ノ表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第十九條　表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ、事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シ餘白ト分界スヘシ

第二十條　附記ニ依ル登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ順位番號ヲ用ヰ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號ヲ記載スヘシ

第二十一條　甲區事項欄又ハ戊區事項欄ニ登錄ヲ爲スヘキ場合ニ於テ漁業權者又ハ入漁權者カ二人以上ノ共同ナルトキハ免許漁業原簿ニハ漁業免許願書又ハ申請書ニ揭ケタル筆頭人ノミノ氏名若ハ名稱及住所竝他ノ人員ヲ記載シ共同者全員ノ氏名若ハ名稱及住所ハ共同漁業權者名簿又ハ共同入漁權者名簿ニ之ヲ記載スヘシ

第二十二條　漁業權ノ持分ノ移轉、消滅及處分ノ制限ノ登錄ヲ爲スニハ共同漁業權者名簿ニ之ヲ爲スヘシ持分ヲ目的トスル先取特權、抵當權及賃借權ノ保存、設定、移轉、變更、消滅竝處分ノ制限ノ登錄ニ付亦同シ

入漁權ノ持分ノ移轉、消滅及處分ノ制限ノ登錄ヲ爲スニハ共同入漁權者名簿ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ持分ノ移轉ニ依リ漁業權又ハ入漁權カ一人ニ歸屬シタル場合ニ之ヲ適用セス

第二十三條　表示欄又ハ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登錄年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第二十四條　登錄用紙中表示欄又ハ或事項欄カ登錄ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中免許番號欄ニ前用紙ノ免許番號ヲ轉寫シ前用紙ノ冊數丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙ニ新用紙ヲ編綴セル免許漁業原簿ノ冊數丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ新用紙中免許番號ノ左側ニ「第二」ヲ記載シ前用紙中免許番號ノ左側ニ「第一」ヲ記載スヘシ

前用紙中表示欄又ハ事項欄ニ餘白アルトキハ表示欄又ハ其ノ事項欄ニ登錄スヘキ事項ニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前三項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　共同漁業權者名簿ニ第二十一條ノ登錄ヲ爲スニハ免許番號欄ニ番號ヲ、甲區事項欄ニ共同漁業權者全員ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ記載シ持分ノ定アルトキハ持分欄ニ其ノ持分ヲ記載スヘシ

第二十三條ノ規定ハ持分欄ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　前條ノ規定ハ共同入漁權者名簿ニ第二十一條ノ登錄ヲ爲ス場合ニ之ニ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ入漁登錄番號欄ニ番號ヲ記載シ且其ノ餘白ニ入漁登錄簿ノ冊數丁數ヲ記載スヘシ

第二十七條　入漁登錄簿ニ登錄事項ヲ、共同入漁權者名簿ニ第二十一條ノ登錄事項ヲ記載シタルトキ又ハ漁場圖綴込帳ニ漁場圖ヲ綴込ミタルトキハ其ノ帳簿ノ冊數丁數ヲ免許漁業原簿ノ相當欄ニ記載スヘシ

第二十八條　免許漁業原簿ノ登錄用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印シ登錄用紙ニ記載シタル事項全部ヲ朱抹スヘシ

第二節　職權ニ依ル登錄手續

第二十九條　漁業權設定ノ登錄ハ免許番號ノ順序ニ、其ノ他ノ登錄ハ登錄事項發生ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第三十條　漁業權設定ノ登錄ヲ爲スニハ免許番號欄ニ番號ヲ、表示欄ニ漁場、免許年月日、存續期間、漁業ノ種類及名稱、漁獲物ノ種類、漁業時期竝條件又ハ制限アルトキハ其ノ事項ヲ、甲區事項欄ニ漁業權者ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第三十一條　分割ノ場合ヲ除クノ外漁業權變更ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ事項、許可年月日及變更アリタル旨ヲ記載シ變更セラレタル事項ヲ朱抹スヘシ但シ漁場ノ變更ニ因ル漁業權變更ノ場合ニ於テハ新漁場圖ヲ漁場圖綴込帳ノ末尾ニ綴込ミ原漁場圖ヲ朱抹シ之ニ變更ニ因リ第何冊何丁ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十二條　漁業權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ漁業權ト爲シタル場合ニ於テ分割ノ登錄ヲ爲スニハ乙漁業權ニ對シ新ニ登錄用紙ヲ起シ免許番號欄ニ前番號ヲ記載シ其ノ左側ニ「ノ二」ヲ記載シ表示欄ニ第三十條ノ規定ニ準シ乙漁業權ノ表示ヲ爲シ且甲漁業權ノ表示欄ニ記載セラレタル事項中抹消ニ係ラサルモノニシテ乙漁業權ニ關係アル事項ヲ轉寫シ其ノ末尾ニ分割許可年月日及分割ニ因リテ第何冊何丁ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原漁業權ノ登錄用紙中免許番號ノ左側ニ「ノ一」ヲ記載シ表示欄ニ記載セラレタル原漁業權ノ表示ヲ甲漁業權ノ表示ニ修正シ且分割許可年月日、乙漁業權ノ免許番號及分割ニ因リテ第何冊何丁ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十三條　前條第一項ノ場合ニ於テハ乙漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ原漁業權ノ登錄用紙ヨリ漁業權其ノ他ノ權利ニ關スル登錄ヲ轉寫シ且漁業權以外ノ權利ニ關スル登錄中ニ甲漁業權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨、分割許可年月日及分割ニ因リテ免許第何號順位何番ヨリ轉寫シタル旨ヲ記載スヘシ

原漁業權ノ登錄用紙ヨリ乙漁業權ノ登錄用紙ニ漁業權以外ノ權利ニ關スル登錄ヲ轉寫シタルトキハ甲漁業權ノ登錄用紙中其ノ權利ニ關スル登錄ニ分割許可年月日及分割ニ因リテ第何冊何丁ニ移シタル乙漁業權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

登錄名義人カ登錄上乙漁業權ニ關シ其ノ權利ナキトキ又ハ分割許可前ニ該名義人カ其ノ權利ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ甲漁業權ノ登錄用紙中其ノ權利ニ關スル登錄ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙漁業權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利ニ關スル登錄ヲ轉寫スルコトヲ要セス

第三十四條　漁業權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ漁業權ト爲シタル場合ニ於テ登錄上乙漁業權ノミカ漁業權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登錄ヲ移シ且分割許可年月日及分割ニ因リテ免許第何號順位何番ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲漁業權ノ登錄用紙中漁業權以外ノ權利ニ關スル登錄ニ乙漁業權ノ免許番號、分割許可年月日及分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタル旨ヲ附記シ其ノ登錄シタル事項ヲ朱抹スヘシ

分割許可前ニ漁業權以外ノ權利ノ登錄名義人カ其ノ權利ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ甲漁業權ノ登錄用紙中其ノ權利ニ關スル登錄ニ其ノ旨ヲ附記シ其ノ登錄シタル事項ヲ朱抹スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙漁業權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利ニ關スル登錄ヲ移スコトヲ要セス

第三十五條　二人以上共同シテ有スル漁業權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ漁業權ト爲シタル場合ニ於テハ前三條ノ手續ヲ爲ス外共同漁業權者名簿ニ記載シタル免許番號ノ左側ニ「ノ一」ヲ記載シ乙漁業權ノ爲ニ別ニ登錄用紙ヲ起シ免許番號欄ニ前番號ヲ記載シ其ノ左側ニ「ノ二」ヲ記載シ其ノ他ノ欄ニハ前番號ノ免許番號欄以外ノ欄ニ記載シタル事項ヲ記載スヘシ

第三十六條　前四條ノ手續ヲ完了シタルトキハ之ニ關係アル入漁登錄簿及共同入漁權者名簿ノ免許番號ヲ新免許番號ニ修正スヘシ

第三十七條　漁業權分割ノ場合ニ於ケル漁場圖ハ漁場圖綴込帳ノ末尾ニ之ヲ綴込ミ原漁場圖ヲ朱抹シ之ニ分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十八條　前六條ノ規定ハ漁業權カ三箇以上ニ分割セラレタル場合ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第三十九條　漁業登錄令第一條第二號ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ事項、原因、年月日及制限、停止又ハ其ノ變更若ハ解除アリタル旨竝停止期間アルトキハ其ノ期間ヲ記載スヘシ

第四十條　漁業免許ノ取消及期間滿了ニ基ク漁業權消滅ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ原因、年月日及漁業權ノ消滅シタル旨ヲ記載シ登錄用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十一條　漁業登錄令第二十三條第二項ノ豫告登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ訴願ノ提起アリタル旨ヲ記載スヘシ

第四十二條　漁業法第二十四條ノ處分ノ取消ノ登錄ヲ爲スニハ制限又ハ停止ニ關シテハ表示欄ニ取消ノ原因、年月日及其ノ取消アリタル旨ヲ記載シ取消サレタル事項ヲ朱抹シ、漁業免許ノ取消ニ關シテハ新ニ登錄用紙ヲ起シ之ニ原用紙ニ記載セラレタル事項ト同一ノ事項ヲ記載シ表示欄ニ回復ノ原因及年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條　漁業權ノ存續期間更新ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ更新ノ年月日、更新シタル存續期間及更新アリタル旨ヲ記載スヘシ

第四十四條　異議ノ決定又ハ登錄令第五十八條ノ訴願ノ裁決ニ因ル登錄ヲ爲スニハ表示欄又ハ相當區事項欄ニ其ノ事項、原因及年月日ヲ記載シ更正又ハ變更ノ登錄ニ在リテハ更正又ハ變更セラレタル事項ヲ朱抹スヘシ

第四十五條　行政裁判所ノ判決又ハ訴願ノ裁決ニ因ル漁業權變更ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ事項、原因、年月日及變更アリタル旨ヲ記載シ變更セラレタル事項ヲ朱抹スヘシ

前項ノ場合ニ於テ變更カ漁場ニ係ルトキハ變更後ノ漁場圖ヲ漁場圖綴込帳ノ末尾ニ綴込ミ原漁場圖ヲ朱抹シ之ニ變更ニ因リテ第何册何丁ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　漁業登錄令第十六條第四號ノ登錄ヲ爲スニハ相當區事項欄ニ其ノ原因、年月日、取得者及漁業權ノ移轉アリタル旨ヲ記載スヘシ

第四十七條　漁業權ノ設定若ハ變更又ハ存續期間更新ノ登錄ヲ完了シタルトキハ漁業免許若ハ漁業權變更ノ許可又ハ存續期間更新免許ノ指令書ニ登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シ之ニ願書及存續期間更新ノ場合ヲ除クノ外漁場圖一通ヲ添附シテ契印シ漁業權者ニ交付スヘシ

第三節　申請及囑託ニ依ル登錄手續

第四十八條　登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登錄ヲ申請スルニ必要ナル事項ヲ記載シ登錄稅法第十五條ノ二第一項第八號、第九號中抵當權設定及第十一號乃至第十四號ノ登錄ニ付テハ尙課稅標準ノ金額ヲ記載スヘシ

第四十九條　登錄原因ヲ證スル書面カ始ヨリ存在セス又ハ之ヲ添附スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ添附スヘシ

第五十條　登錄申請書カ數葉ニ渉ルトキハ申請人ハ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ノ契印ナキモノニ付テハ擔當職員契印スヘシ

第五十一條　數箇ノ登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ同一ノ登錄原因ニ因ル先取特權又ハ抵當權ノ保存若ハ設定又ハ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ最初ニ登錄ヲ申請スル登錄官廳ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ擔當職員ハ登錄ヲ申請スヘキ登錄官廳ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登錄官廳ニ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

前三項ノ規定ハ同一登錄原因ニ因ル漁業權又ハ漁業權以外ノ權利ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條ノ二　登錄稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ擔當職員ハ後ニ登記又ハ登錄ヲ申請スヘキ登記所又ハ登錄官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登錄稅法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ其ノ登記所又ハ登錄官廳ノ交付シタル受領證ヲ添附スヘシ

第五十二條　申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受付簿ニ登錄ノ目的、申請人ノ氏名若ハ名稱、受付年月日及受付番號ヲ記載シ申請書ニ受付年月日及受付番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登錄申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限リ其ノ到達ノ時ヲ以テ受付ノ時ト看做ス

前項ノ受付番號ハ受付ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ漁業權ニ關シ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受付番號ヲ附スヘシ

第五十三條　前條ノ規定ニ依リ登錄受付簿ニ申請人ノ氏名若ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者カ二人以上ナルトキハ其ノ筆頭人ノミノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第五十四條　受付番號ハ毎年之ヲ更新スヘシ

第五十五條　登錄ハ受付番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第五十六條　表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付年月日、受付番號、登錄原因、其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ漁業權ノ表示ニ關スルモノヲ記載スヘシ

第五十七條　事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付年月日、受付番號、登錄權利者ノ氏名若ハ名稱及住所、登錄原因、其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登錄スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載スヘシ

第五十七條ノ二　免許漁業原簿ニ信託ノ登錄ヲ爲ストキハ漁業信託原簿ノ册數丁數ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ三　漁業登錄令第四十七條ノ五又ハ第四十七條ノ十六ノ規定ニ依リ登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ登錄ハ免許漁業原簿ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ縱線ヲ以テ各登錄ト分界スヘシ

第五十八條　入漁權ノ設定又ハ保存ノ登錄ニ關シテハ前條ノ記載事項中入漁權ノ表示ハ入漁登錄簿ニ之ヲ記載スヘシ

入漁權ノ表示ニ付登錄ノ更正又ハ變更ノ登錄アリタルトキハ入漁登錄簿ノ備考欄ニ免許漁業原簿ニ爲シタル登錄ノ順位番號及册數丁數ヲ記載スヘシ

第五十九條　假登錄又ハ豫告登錄ハ登錄用紙中表示欄又ハ相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第六十條　假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第六十一條　假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第六十二條　登錄ノ更正、登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ漁業權以外ノ權利ノ變更ノ登錄ヲ爲シタルトキハ更正又ハ變更セラレタル事項ヲ朱抹スヘシ

第六十三條　登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ免許番號、申請書受付年月日、受付番號、順位番號、登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ入漁權ニ關スル登錄ニ付テハ尙登錄番號ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付スヘシ

申請書ニ添附シタル登錄濟證又ハ漁業登錄令第三十四條第二項ノ書面ニ申請書受付年月日、受付番號、順位番號、登錄權利者ノ氏名若ハ名稱及住所、登錄原因、其ノ日附、登錄ノ目的、登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄義務者ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登錄名義人多數ニシテ其ノ一部カ登錄義務者ナルトキハ尙登錄義務者ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭人ノミノ氏名若ハ名稱及住所竝他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

漁業登錄令第二十五條ノ申請ニ依ル登錄ヲ完了シタル場合ニ於テハ代位原因ヲ證スル書面ニ第一項ノ規定ニ準シ記載ヲ爲シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シテ第一項ノ規定ニ依リ登錄權利者ニ還付スヘキ書類ト共ニ之ヲ債權者ニ還付スヘシ

第六十四條　官廳又ハ公署カ登錄權利者ノ爲ニ登錄ヲ囑託シタル場合ニ於テ登錄官廳ヨリ登錄原因ヲ證スル書面ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

第六十五條　漁業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ登錄用紙中免許番號欄ニ番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因及年月日ヲ記載シ其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルニハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第六十六條　第十七條ノ規定ニ依リ免許漁業原簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ登錄官廳ハ其ノ謄本ニ依リ相當免許漁業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ免許漁業原簿ノ謄本ニ依リ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

他ノ免許漁業原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ前登錄用紙ニ他ノ登錄官廳ノ免許漁業原簿ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第六十七條　一箇ノ債權ヲ擔保スル爲數箇ノ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登錄ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ一箇ノ漁業權ニ付先取特權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ他ノ漁業權ノ免許番號ヲ記載シ其ノ漁業權ト共ニ先取特權又ハ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第六十八條　追加抵當權設定ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ漁業權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル漁業權ノ免許番號ヲ記載シ其ノ漁業權ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第六十九條　漁業登錄令第四十九條第一項ノ記載アル漁業權ニ付競賣ニ因ル漁業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタルトキハ第六十五條ノ規定ニ準シ登錄ヲ爲シタル後移轉ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第七十條　公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ若シ其ノ權利ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ノ登錄アルトキハ其ノ權利ノ登錄ヲ抹消スヘシ競賣法ノ規定ニ依ル競賣ニ基ク登錄ヲ爲ス場合亦同シ

漁業權ノ[illegible]又ハ囑託アリタル場合ニ於テハ其ノ漁業權以外ノ[illegible]ノ登錄ヲ[illegible]用シタル[illegible]

第七十一條　[illegible]ヲ爲シタ[illegible]シ

前項ノ場合ニ於テ[illegible]スル第三者ノ[illegible]登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登錄ヲ抹消スルニ因リ抹消スヘキ旨ヲ記載スヘシ

附　則

第七十二條　本則ハ漁業登錄令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十三條　漁業登錄令附則ノ規定ニ依リ舊免許漁業原簿ノ登錄ヲ[illegible]許漁業原簿第何册何丁ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊免許漁業原簿ニ新免許漁業原簿第何册何丁ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第一號樣式

表題部

免許番號欄

表示番號欄	漁場ノ位置	漁業ノ種類	漁獲物ノ種類	免許年月日	漁業時期	存續期間	條件又ハ制限	表示番號欄

第二號樣式

免許番號欄

表題部	表示番號欄
	表示欄
甲區	順位番號欄
	事項欄
乙區	順位番號欄
	事項欄
丙區	順位番號欄
	事項欄
丁區	順位番號欄
	事項欄

甲區	順位番號欄
	事項欄
乙區	順位番號欄
	事項欄
丙區	順位番號欄
	事項欄
丁區	順位番號欄
	事項欄
戊區	順位番號欄
	事項欄

第三號樣式

免許番號欄

持分欄	
甲區	順位番號欄
	事項欄
乙區	順位番號欄
	事項欄
丙區	順位番號欄
	事項欄
丁區	順位番號欄
	事項欄
備考欄	

第四號樣式

入漁登錄番號欄

免許番號欄

表示欄	入漁區域
	存續期間
	漁業ノ種類
	漁獲物ノ種類
	漁業時期
	其ノ他ノ權利義務
	備考欄

第五號樣式

免許番號欄

入漁登錄番號欄

持分欄
順位番號欄
事項欄
順位番號欄
事項欄
順位番號欄
事項欄
順位番號欄
事項欄
備考欄

第六號樣式

受付年月日
受付番號
登錄ノ目的
申請人ノ氏名又ハ名稱
備考

第七號樣式

免許番號

信託財產權番號欄

事項欄	順位番號欄
	委託者ノ氏名又ハ名稱、住所
	順位番號欄
	受託者ノ氏名又ハ名稱、住所
	順位番號欄
	受益者ノ氏名又ハ名稱、住所
	順位番號欄
	信託管理人ノ氏名又ハ名稱、住所

事項欄	信託條項
	信託條項
	信託條項
	信託條項

漁業登錄令ニ依ル登錄申請書書式左ノ通相定ム
（明治四十四年三月二十三日農商務省告示第百八十九號）

第一號

收入印紙　入漁權設定(保存)登錄申請

一免許番號
專用漁業權免許第何號
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日入漁權設定行爲(慣行)ニ因ル
一登錄ノ目的
入漁權ノ設定(保存)
一其ノ他ノ登錄事項
一入漁スヘキ區域
別紙漁場圖ノ通(專用漁場全部)
一漁業ノ種類　漁獲物ノ種類　漁業時間
何々漁業　何々　（自何月何日至何月何日）
(一存續期間　何箇年)
(一入漁料　何箇年何程)
(一其ノ他ノ權利義務　何々)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣氏名殿

關係書類ノ表示
一入漁權設定證書　一通
一登錄濟證　一通
(一漁場圖　二通)
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第二十六條、第二十七條及第三十九條

第二號

收入印紙　抵當權設定(先取特權保存)登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日抵當權設定行爲(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
抵當權ノ設定(先取特權ノ保存)
一其ノ他ノ登錄事項
一債權金額(債權價格)
金何圓
(一辨濟期　【明治】何年何月何日)
(一利息　年何割)
(一何　何々)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一抵當權設定證書　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第二十六條、第二十七條、第四十一條乃至第四十四條及第四十六條

第三號

收入印紙　賃借權設定登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日賃貸借契約ニ因ル
一登錄ノ目的
賃借權ノ設定
一其ノ他ノ登錄事項
一借賃
何箇年何程
(一存續期間　何箇年)
(一何　何々)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一賃貸借證書　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第二十六條、第二十七條及第四十七條

第四號

收入印紙　漁業權(何權)移轉登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
(一入漁登錄番號　第何號)
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日賣買契約(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
漁業權(何權)ノ移轉
一其ノ他ノ登錄事項
(一何　何々)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一賣買證書　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第四條、第二十六條、第二十七條、第四十條、第四十三條、第四十五條及第四十六條

第五號

收入印紙　漁業權轉貸登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日轉貸借契約ニ因ル
一登錄ノ目的
漁業權ノ轉貸
一其ノ他ノ登錄事項
一借賃
何箇年何程
(一存續期間　何箇年)
(一何　何々)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一轉貸借證書　一通
一登錄濟證　一通
(一賃貸人ノ承諾書　一通)
(一何々　一通)

(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第四十七條

第六號

收入印紙　入漁權(何權)變更登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
一入漁登錄番號
第何號
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日入漁權變更契約(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
入漁區域ヲ別紙漁場圖ノ通變更(何々ヲ何々ニ變更)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一契約書　一通
一登錄濟證　一通
一漁場圖　二通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第五條

第七號

收入印紙　漁業權(何權)抹消登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
(一入漁登錄番號　第何號)
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日拋棄(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
漁業權(順位何番何權)抹消ノ登錄

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄名義人　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一申請書副本　一通
一登錄濟證　一通
(一登錄シタル權利者ノ承諾書又ハ裁判ノ謄本　一通)
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第四十八條及第五十條乃至第五十三條

第八號

收入印紙　假登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
(一入漁登錄番號　第何號)
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日賣買豫約(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
漁業權移轉ノ請求權(何權ノ何々)ノ假登錄

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
假登錄權利者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一賣買豫約證書　一通
一假登錄義務者ノ承諾書　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第二條及第二十條

第九號

收入印紙　假登錄ノ抹消登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
(一入漁登錄番號　第何號)
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日拋棄(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
順位何番漁業權移轉ノ請求權(順位何番何權ノ何々)ノ假登錄ノ抹消登錄

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄名義人　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一申請書副本　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第五十三條及第五十四條

第十號

收入印紙　登錄名義人表示ノ變更登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
(一入漁登錄番號　第何號)
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日轉住(何々)ニ因ル
一登錄ノ目的
住所ヲ何縣何郡何村大字何何番地ニ變更
(何々ヲ何々ニ變更)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄名義人　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ表示變更ヲ證スルニ足ルヘキ書面　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第四條及第十九條

第十一號

收入印紙　登錄ノ更正登錄申請

一免許番號
專用漁業權(何漁業權)免許第何號
(一入漁登錄番號　第何號)
一登錄原因及其ノ日附
【明治】何年何月何日登錄ニ錯誤アリタルニ因ル
一登錄ノ目的
順位何番何々登錄中何々ヲ何々ニ更正

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日
住所
登錄權利者　何　某　印
住所
登錄義務者　何　某　印
農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示
一錯誤ニ關スル通知書　一通
一登錄濟證　一通
(一何々　一通)
(一何々　一通)
計　何通
參照　漁業登錄令第五條及第三十七條

第十二號

收入印紙　回復登錄申請

一免許番號

專用漁業權（何漁業權）免許第何號

（一入漁登錄番號　第何號）

一登錄原因及其ノ日附

【明治】何年何月何日何裁判所ノ登錄回復ヲ命スル判決（何々）ニ因ル

一登錄ノ目的

抹消ニ係ル登錄順位何番何々ノ回復登錄（順位何番ノ登錄中抹消ニ係ル何々トアル部分ノ回復登錄）

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年　月　日

住　所

登錄權利者　何　某印

農商務大臣（地方長官）氏名殿

關係書類ノ表示

一判決正本　一通

（一何々　一通）

（一何々　一通）

計　何通

參照　漁業登錄令第五條及第三十八條

一登錄申請書ヲ作成スルニハ漁業登錄令第一條、第十七條、第十八條、第二十四條、第二十五條、第二十八條乃至第三十四條、漁業登錄令施行規則第四十九條、第五十條、登錄稅法第十五條ノ二及各號書式ノ末尾ニ記載セル各條項ヲ參照スルコトヲ要ス

一本告示書式ニ據リ難キ場合ニ於テハ法令ニ從ヒ適宜申請書ヲ作ルコトヲ得

●滅失免許漁業原簿回復規則

（大正十二年十月二十三日農商務省令第五號）

漁業登錄令第十四條ノ規定ニ依リ滅失免許漁業原簿回復規則左ノ通定ム

滅失免許漁業原簿回復規則

第一條　免許漁業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ農商務大臣ハ三月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其ノ期間內ニ登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ仍其ノ免許漁業原簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示ス

第二條　地方長官ハ其ノ備付ケタル免許漁業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由、年月日、滅失シタル帳簿ノ種類其ノ他前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且登錄回復申請ノ期間ヲ豫定シ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條　第一條ノ場合ニ於テハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

第四條　登錄回復ノ申請書ニハ前登錄ノ順位番號、申請書ノ受付年月日、受付番號及登錄年月日ヲ記載シ之ニ前登錄ノ登錄濟證ヲ添附スヘシ

滅失、紛失其ノ他止ムヲ得サル事由ニ因リ登錄濟證ヲ添附スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及免許漁業原簿ノ謄本、抄本其ノ他證憑トナルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五條　第一條ノ規定ニ依ル登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ登錄用紙中免許番號欄ニ免許番號ヲ記載シ表示欄ニ漁業權ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號欄ニ前登錄ノ順位番號、事項欄ニ前登錄ノ申請書受付年月日、受付番號及登錄年月日ヲ記載スヘシ此ノ場合ニ於テ漁場ノ表示ヲ爲スコト能ハサルトキハ漁場ニ關スル記載ヲ省略スルコトヲ得

第六條　漁業登錄令第十六條第四號及第五號ニ揭ケタル事項竝第二十三條第二項ノ規定ニ依リ登錄スヘキ事項ニシテ滅失シタル免許漁業原簿ニ登錄アリタルコト明ナルニ至リタルモノハ職權ヲ以テ其ノ登錄ノ回復ヲ爲スヘシ

第七條　漁場圖、共同漁業權者名簿、共同入漁權者名簿、入漁登錄簿及漁業信託原簿滅失シタル場合ニ於テ其ノ登錄ノ回復アリタルトキハ免許漁業原簿ニ記載シタル當該帳簿ノ冊數丁數ニ關スル記載ヲ相當訂正シ餘白ニ訂正原因竝申請書受付年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第八條　登錄回復ノ申請ニ依ル登錄ノ完了セサル間ニ於テ滅失シタル免許漁業原簿ニ登錄アリタル漁業權若ハ之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ニ關シ新ニ登錄ヲ爲スヘキトキハ第五條ノ規定ニ準シ假設免許漁業原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ登錄濟證ニ假設免許漁業原簿ニ登錄ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

登錄回復ノ申請ニ依ル登錄完了シタルトキハ登錄官廳ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第九條　假設免許漁業原簿ニ爲シタル登錄ハ登錄回復ノ申請ニ依ル登錄完了後遲滯ナク之ヲ免許漁業原簿ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テ回復シタル登錄アルトキハ新登錄ノ順位番號欄ニハ回復シタル登錄ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニ假設免許漁業原簿ニ於ケル順位番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ假設免許漁業原簿第何冊何丁ヨリ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員之ニ捺印スヘシ

免許漁業原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ假設免許漁業原簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十條　假設免許漁業原簿ノ登錄ヲ免許漁業原簿ニ移シタルトキハ登錄權利者ニ對シ之ニ本登錄濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ回復シタル登錄ト假設免許漁業原簿ヨリ移シタル登錄ト牴觸スルトキハ當事者ニ對シ同時ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

登錄權利者カ本登錄濟證ヲ申請スル場合ニ於テハ假設免許漁業原簿ニ於ケル登錄ノ登錄濟證ヲ提出スヘシ

第十一條　漁業登錄令第十六條第一號ニ揭ケタル事項ニシテ滅失シタル免許漁業原簿ニ登錄ヲ受ケタルモノハ第一條ノ告示ニ依ル期間經過後其ノ登錄ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ滅失、紛失其ノ他止ムヲ得サル事由ニ因リ申請書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及免許漁業原簿ノ謄本、抄本其ノ他證憑ト爲ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第十二條　免許漁業原簿ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ本則ニ規定スルモノノ外漁業登錄令及漁業登錄令施行規則ニ依ル

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十二年十月二十三日及同月二十九日農商務省告示第二百四十二號及第二百五十一號參看）

●漁業ニ關スル手數料ノ件

（明治四十三年十一月十二日勅令第四百三十一號）

朕明治三十五年勅令第百六十號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　漁業ニ關シ左ニ揭クル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手數料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

一　漁業法第四條又ハ第六條ニ依ル漁業ノ免許願　毎一件　金三圓

二　漁業法第五條ニ依ル漁業ノ免許願　毎一件　金五圓

三　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可願　毎一件　金二圓

四　地先水面專用ノ漁業權ノ處分ノ認可申請　毎一件　金二圓

五　漁業權存續期間ノ更新申請　毎一件　金三圓

六　免許漁業ノ休業ノ認可申請　毎一件　金一圓

七　漁業法第五十六條ニ依ル裁決ノ申請　毎一件　金五圓

八　免許漁業原簿ノ閲覽ノ申請　毎一件　金十錢

九　免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下附ノ申請

　免許漁業原簿ノ謄本　毎一件　金一圓

　漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ全部ノ抄本　毎一件　金五十錢

　漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ一部ノ抄本　毎一件　金三十錢

　漁場圖ノ謄本　毎一件　金五十錢

第二條　手數料ハ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

第三條　本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　本令施行前ノ出願又ハ申請ノ手數料ニ關シテハ仍從前ノ金額ニ依ル

●漁業ニ關スル出願又ハ申請ニ付手數料納入手續

（明治三十五年十月二十七日農商務省令第二十號　改正　明治四十四年第三號）

漁業ニ關スル出願又ハ申請ニ付手數料ヲ納ムル者ハ願書又ハ申請書ニ其ノ貼附シタル收入印紙ノ額ヲ記入スヘシ

當該官廳ハ前項貼附印紙ノ手數料金額ニ相當ナルヲ確認シタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黑肉ヲ用キテ消印ヲ押捺スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

●汽船「トロール」漁業取締規則

（大正元年八月三十一日農商務省令第四號　改正　大正二年第九號、三年第二五號、四年第二七號、六年第一號、七年第三五號、一三年第二一號）

汽船「トロール」漁業取締規則左ノ通改正ス

汽船「トロール」漁業取締規則

第一條　汽船「トロール」漁業トハ螺旋推進器ヲ以テ船舶ヲ運航シ「チッタートロール」又ハ「ビームトロール」ヲ使用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條　汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ船舶毎ニ其ノ操業區域及漁獲物陸揚港ヲ記載シタル申請書一通ヲ作リ附屬樣式第四號ニ依ル船舶件名書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ起業ノ認可ヲ受クヘシ

農商務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船體及機關ノ構造又ハ設計ニ關スル書類若ハ圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第二條ノ二　前條ノ申請ヲ爲ス者ハ手數料トシテ金二十圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

第三條　第二條ノ認可ヲ受ケタル者汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ認可ノ日ヨリ一年內又ハ特ニ指定シタル期間內ニ船舶毎ニ願書一通ヲ作リ之ニ左ノ書類ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　船舶國籍證書寫

二　漁船檢查證書寫

三　族籍及住所ヲ記載シタル船長ノ履歷書

四　起業認可指令書寫

農商務大臣ニ於テ已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ延長ヲ認可スルコトアルヘシ

第三條ノ二　汽船「トロール」漁業ヲ許可スヘキ船數ハ七十隻以內トス

前項ノ規定ハ內地近海、東海及黃海以外ノ海面ニ於テノミ操業スル汽船「トロール」漁業ニ之ヲ適用セス

第三條ノ三　汽船「トロール」漁業ノ許可ノ期間ハ十年以內トス

第三條ノ四　第二條ノ規定ハ汽船「トロール」漁業許可ノ期間滿了後三月以內ニ汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ船舶毎ニ願書一通ヲ作リ之ニ漁船檢查證書寫、族籍及住所ヲ記載シタル船長ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第三條ノ五　農商務大臣ニ於テ第二條ノ認可又ハ第三條ノ許可ニ關シ必要アリト認ムルトキハ船體及機關ノ檢查ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　二人以上共同シテ汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ一人ノ代表者ヲ定メ之ヲ願書ニ記載スヘシ

第五條　農商務大臣汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ交付ス

第六條　汽船「トロール」漁業者操業區域又ハ漁獲物陸揚港ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

船舶國籍證書及漁船檢查證書ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ寫ヲ遲滯ナク農商務大臣ニ差出スヘシ但シ船長ノ變更ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　許可證ヲ亡失毀損シ又ハ許可證ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ許可證ノ再交付又ハ訂正ヲ受クヘシ

第八條　汽船「トロール」漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ其相續人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニシテ汽船「トロール」漁業ヲ繼續シテ營ムトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ相續又ハ合併ヲ證明スヘキ書類及相續人又ハ消滅シタル會社ノ有シタル許可證ヲ添ヘ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日以內ニ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第九條　削除

第十條　前條ノ規定ハ起業ノ認可ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十一條　「トロール」汽船沈沒シ又ハ之ヲ讓渡シ若ハ貸付シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

他人ノ船舶ヲ借入レ汽船「トロール」漁業ヲ營ム者其ノ船舶ヲ返還シタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ汽船「トロール」漁業者カ他ノ汽船「トロール」漁業者ヨリ「トロール」汽船ヲ讓受ケ若ハ借受ケ又ハ貸付シタル船舶ノ返還ヲ受ケテ汽船「トロール」漁業ヲ營マムトスル場合ニ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ讓受ケ、借受ケ又ハ返還ヲ受ケタルコトヲ證スル書類及許可證ヲ添ヘ讓受ケ、借受ケ又ハ返還ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第十二條　汽船「トロール」漁業ヲ廢止シ又ハ其ノ許可ヲ取消サレ若ハ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキハ直ニ許可證ヲ返納スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ之ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第八條ノ規定ニ依リ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキハ相續人又ハ淸算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　汽船「トロール」漁業ヲ營ム船舶ハ長、幅及深ノ相乘積數三萬以上、總噸數二百噸以上ノ鋼製ニシテ二千浬以上ノ航走ニ要スル專用石炭庫又ハ油槽ヲ備ヘ最强速力十一節以上タルコトヲ要ス

前項ノ船舶ハ特別ノ補强構造竝船型及壓載物ノ關係ニ依リ强力及復元力充分ナリト認ムルモノヲ除クノ外長深ノ一〇・五倍未滿、長幅ノ五・七倍未滿、幅深ノ一・七五倍以上タルコトヲ要ス

前二項ノ長、幅及深ハ呎ヲ以テ單位トシ造船規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ測定ス

前三項ノ外汽船「トロール」漁業ヲ營ム船舶ノ船體及機關ニ必要ナル構造竝寸法ハ之ヲ告示ス

第十三條ノ二　汽船「トロール」漁業ヲ營ム船舶ノ船體及機關ハ船舶檢查規程ノ定ムル所ニ依リ製造中ノ特別檢查ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス但シ外國ニ於テ製造スルモノニシテ農商務大臣ノ適當ト認ムル製造中ノ檢查ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　汽船「トロール」漁業ハ農商務大臣ノ告示シタル禁止區域內ニ於テハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第十五條　汽船「トロール」漁業ハ許可ヲ受ケタル操業區域內ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第十六條　「トロール」汽船ニ於テハ「チッタートロール」又ハ「ビームトロール」以外ノ漁具ヲ使用スルコトヲ得ス但シ禁止區域外ニ於テ農商務大臣ノ許可ヲ受ケテ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ許可ノ願書ニハ漁具ノ名稱竝使用ノ期間及場所ヲ記載スヘシ

第十六條ノ二　「トロール」汽船ハ漁獲物ノ運

撒ニ使用セムトスル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ノ願書ニハ其ノ使用ノ期間及場所ヲ記載シ且其ノ使用者カ借受人ナルトキハ貸借ノ關係ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十七條　汽船「トロール」漁業ノ漁獲物ハ許可ヲ受ケタル漁獲物陸揚港ニ非サレハ之ヲ陸揚スルコトヲ得ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ特別ノ事由アル場合ニ於テ農商務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　「トロール」汽船ノ船體ハ之ヲ黒色トシ船首部兩舷側上甲板直下錨鎖孔ノ後方ニ一呎ノ間隔ヲ保チ白色ノ文字ヲ以テ明瞭ニ横ニ船名ヲ表記スヘシ但シ文字ハ其ノ大サ一呎半平方以上タルコトヲ要ス

第十九條　「トロール」汽船ノ煙筒ハ其ノ上端ヨリ煙筒ノ直徑ニ等シキ距離以下十呎ノ間ヲ白色トシ其ノ以外ハ全部黒色トシ白色部ノ兩舷側及後側ニ附屬樣式第一號ニ依リ許可番號ヲ黒色二呎大ノ文字ヲ以テ明瞭ニ縦ニ表記スヘシ但シ文字ハ各字劃ノ大サヲ四吋トシ一呎ノ間隔ヲ保ツコトヲ要ス

第二十條　「オッターボールド」ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　「ボールド」ノ下部前後ノ彎曲ハ其ノ半徑十二吋以上タルヘシ

二　靴金ハ裂疵其ノ他破損アルヘカラス

三　靴金ハ鑄鐵ヲ用ヰタルトキハ鉸釘ニテ取附ケ鋼鐵又ハ鍛鐵ヲ用ヰタルトキハ其ノ取附ケ部ニハ堅材ヲ用ヰ鉸釘又ハ鋲釘ヲ以テ之ヲ取附クヘシ但シ總テ鉸釘又ハ鋲釘ノ頭ハ靴金ノ面ト凹凸アルヘカラス

四　「ボールド」下部ノ内外兩側ニ取附クヘキ鐵板ト靴金トノ接合部ハ靴金ノ下部ヨリ一吋以上上部タルヘク且靴金ノ兩側ト凹凸アルヘカラス

五　「ボールド」ノ内外面ニ於ケル前後兩端ノ鐵板ト靴金トノ接合部ハ凹凸アルヘカラス

六　「ボールド」ノ前端ノ木材面ト靴金面トハ凹凸ナク且其ノ接合部ハ厚十六分ノ三吋以下ノ鐵板ヲ以テ之ヲ蓋フヘシ

七　螺釘ノ頭ハ「ボールド」ノ内面ニ置キ且全部孔内ニ嵌入スヘシ但シ其ノ頭ノ半球狀ナルモノニ在リテハ之ヲ孔内ニ嵌入セサルモ妨ナシ

八　「ボールド」ノ内外面ニ於ケル前後兩端ニハ厚八分ノ三吋以上ノ鐵板ヲ當テ之ヲ螺釘ニテ締附クヘシ但シ鐵板面ト木材面トハ凹凸アルヘカラス

九　「ボールド」ノ外面ニハ縦横ニ幅四吋以上厚二吋以上ノ木材各二本ヲ取附クヘシ但シ横ニ取附クル木材ノ長ハ「ボールド」ノ前後兩端ノ鐵板間ノ距離以上ニシテ「ボールド」ノ全長以下タルヘク縦ニ取附クル木材ノ長ハ上端ハ「ボールド」ノ上端ト凹凸ナク下端ハ「ボールド」ノ下端ヨリ距離五吋以上十吋以下タルヘシ又木材取附ケニ用フル螺釘ノ母螺（ナット）ハ全部孔内ニ嵌入スヘシ

十　「オッターボールド」ト「アライドルチェイン」トノ取附ケニ用ウル「シヤックル」ノ串（ピン）又ハ螺釘ハ常ニ「オッターボールド」ノ側ニ向ヒ又「オッターボールド」ト漁網トノ取附ケニ用ウル「シヤックル」ノ串（ピン）又ハ螺釘ハ常ニ漁網ノ側ニ向ヒ取附ケ逆轉セサル樣ニ装置スヘシ

十一　「シヤックル」ニハ母螺ヲ用ウヘカラス

「トロールヘッド」ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　「トロールヘッド」ノ前端下部ノ彎曲ハ半徑十二吋以上タルヘシ

二　「トロールヘッド」ハ裂疵其ノ他破損アルヘカラス

三　「トロールヘッド」ノ靴金ハ之ヲ取附ケタルモノニ在リテハ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ

四　前號靴金ノ前部ノ端ハ「トロールヘッド」ノ底ヨリ十二吋以上ニ之ヲ置キ「トロールヘッド」ト凹凸アルヘカラス

新規ノ構造ニ係ル「オッターボールド」又ハ「トロールヘッド」ヲ使用セムトスル者ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　「オッターボールド」ニハ其ノ所屬船ノ名稱及許可番號ヲ表記スヘシ

第二十二條　削除

第二十三條　「トロール」汽船ノ船長ハ附屬樣式第三號ニ依ル操業日誌ヲ船舶内ニ備ヘ毎日之ニ記載ヲ爲スヘシ

第二十四條　汽船「トロール」漁業者ハ毎年十二月末日ヨリ、事業年度ノ定メアルトキハ其ノ終了ノ日ヨリ二月内ニ一年度又ハ一事業年度ノ事業報告書ヲ作リ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ報告書其ノ他ノ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　汽船「トロール」漁業者ハ毎月二十五日迄ニ其ノ前月分ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十六條　汽船「トロール」漁業者船長ヲ雇入レタルトキハ乗組マシムヘキ船舶ノ名稱、族籍及住所ヲ記載シタル履歴書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

船長ノ族籍、氏名若ハ住所又ハ乗組船舶ニ變更アリタルトキハ十五日内ニ之ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ船長ヲ解傭シタルトキ亦同シ

第二十七條　農商務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船長ノ下船ヲ命シ又ハ汽船「トロール」漁業者ニ對シ船長ノ解傭ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條ノ二　漁業法第四十一條ニ依リ漁業監督ノ權限ヲ有スル者左ニ掲クル信號ヲ爲シタルトキハ「トロール」汽船ハ直ニ停船スヘシ

一　晝間ニ在リテハ萬國船舶信號書ニ掲載スル停船信號ヲ掲ケ且約一秒時ノ間隙ヲ以テ汽角ノ長聲一發短聲四發ヲ連發ス

二　夜間ニ在リテハ探海燈ヲ照ラシ且前號ト同樣ノ音響信號ヲ爲ス

本條ニ於テ長聲トハ約四秒乃至六秒時ノ發聲ヲ謂ヒ短聲トハ約一秒時ノ發聲ヲ謂フ

第二十八條　農商務大臣ニ於テ水産動植物ノ蕃殖保護、漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ制限シ、停止シ又ハ取消スコトアルヘシ

第二十九條　汽船「トロール」漁業者漁業法若ハ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ制限シ、停止シ又ハ取消スコトアルヘシ

第三十條　前條ノ規定ニ依ル處分ハ當該汽船「トロール」漁業者ノ有スル全部ノ許可ニ付之ヲ爲スコトアルヘシ

第三十條ノ二　汽船「トロール」漁業者正當ノ事由ナクシテ引續キ一年以上許可ヲ受ケタル船舶ヲ使用シテ汽船「トロール」漁業ヲ營マス又ハ其ノ船體ニ著シキ變更ヲ加ヘタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十一條　農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽船「トロール」漁業者ニ對シ碇泊港ヲ指定シテ「トロール」汽船ノ碇泊ヲ命シ又ハ「トロール」汽船ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ「トロール」汽船船長ヲ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十四條ノ規定ニ依ル禁止區域内又ハ第十五條ノ規定ニ依ル操業區域外ニ於テ投網シタルトキ

二　第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　船名又ハ許可番號ノ表記ヲ隱蔽シタルトキ

四　正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ操業日誌ヲ船舶内ニ備ヘス又ハ毀棄シタルトキ

五　正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ操業日誌ノ記載ヲ爲サス又ハ不正若ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

六　海上衝突豫防法第九條第一項第四號ニ規定シタル燈火ヲ掲ケサルトキ

七　第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル汽船「トロール」漁業者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十八條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタル者

二　第三十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタル碇泊港ニ船舶ヲ碇泊セシメサル者

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル汽船「トロール」漁業者ハ科料ニ處ス

一　第六條第二項、第七條、第八條第二項、第十條、第十一條第四項、第十二條第一項、第二十四條第一項、第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタル者

二　第二十四條第二項又ハ第二十七條ノ命令ニ從ハサル者

第三十五條　許可ヲ受ケス又ハ第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ違反シテ營ミタル汽船「トロール」漁業ノ漁獲物ナルコトヲ知リテ販賣シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條ノ二第一項ノ規定ニ違反シタル者亦同シ

第三十六條　第十七條但書、第二十四條、第二十五條及第二十六條ノ場合ヲ除クノ外農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ住所地所轄ノ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

第三十七條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　本則施行前ノ出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十九條　舊規則ニ依リ汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十條　第三十九條ニ該當スル者ハ本則施行ノ日ヨリ一月内ニ船長ノ乗組船舶ノ名稱、族籍及住所ヲ記載シタル履歴書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四十一條　第十八條乃至第二十三條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ三月間舊規則ニ依リ許可ヲ受ケタル汽船「トロール」漁業ニ使用スル船舶ニ付之ヲ適用セス

第四十二條　第三十九條ニ該當スル者ハ本則施行ノ日ヨリ一月内ニ漁獲物陸揚港ヲ定メ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ其ノ許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間ハ第十七條ノ規定ハ「トロール」汽船ノ船長ニ之ヲ適用セス

第四十三條　第十三條ノ規定ハ本則施行前ヨリ汽船「トロール」漁業ニ使用スル船舶ニ之ヲ適用セス

附　則（大正六年農商務省令第一號）

第一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行前第二條ノ申請又ハ第三條ノ出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノノ船舶ノ噸數ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第三條　許可ヲ受ケ汽船「トロール」漁業ニ使用シタル船舶ヲ以テ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ第二條ノ申請ヲ爲シタルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ認可ス

第四條　第十三條ノ規定ハ本令施行ノ際汽船「トロール」漁業ニ使用スル船舶又ハ前二條ノ規定ニ依リ認可シタル船舶ニ之ヲ適用セス

第五條　本令施行ノ際現ニ汽船「トロール」漁業ノ許可ヲ受クル者ハ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ其ノ漁獲物陸揚港ニ於テ「トロール」汽船ノ檢査ヲ受クヘシ

農商務大臣ハ前項ノ檢査ヲ受ケタル者ニ對シ許可證ヲ引換ヘ交付ス

附　則（大正七年農商務省令第三十五號）

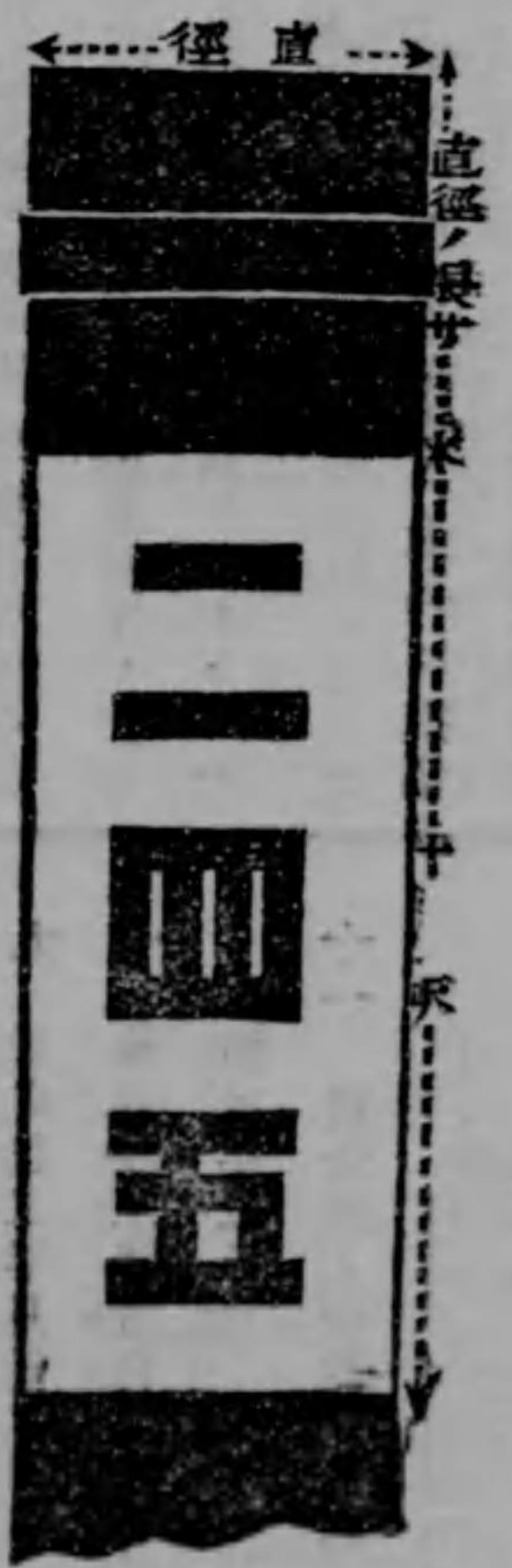
第一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　第十三條及第十三條ノ二ノ規定ハ本令施行ノ際汽船「トロール」漁業ニ使用スル船舶ニ付テハ其ノ許可ノ效力存續中之ヲ適用セス

前項ノ船舶ニ依リ許可ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ一年以内ニ第二條ノ申請ヲ爲ス場合、其ノ認可ヲ受ケ第三條ノ出願ヲ爲ス場合及第三條ノ四ノ出願ヲ爲ス場合亦前項ニ同シ

第三條　本令施行前汽船「トロール」漁業起業ノ認可ヲ申請シ未タ其ノ處分ヲ受ケサル者ハ第二條ニ規定シタル添附書類ヲ提出スヘシ

樣式第一號



樣式第二號　削除

樣式第三號

第（何）號　（何）丸

汽船「トロール」漁業

操業日誌

當直員	舵取見張人	時	航程		針路	自差	天候	風		晴雨計	温度		淦水ノ高	漁具使用ノ時		風壓	記事
			浬	分				方位	力		大氣	海水		始	終		
		1															午前
		2															
		3															
		4															
		5															
		6															
		7															
		8															
		9															
		10															
		11															
		正午															
		1															午後
		2															
		3															
		4															
		5															
		6															
		7															
		8															
		9															
		10															
		11															
		正子															
平均																	

正午所在	經度	實測		海流	方位	
		推測			速力	
	緯度	實測		羅針偏差	午前	
		推測			午後	
直航方位		實測		吃水	船首	
		推測			船尾	
直航距離		實測		錨鎖	右舷	
		推測			左舷	

漁場								漁獲物種類數量
位置		方向	距離	水深	底質	潮流		
經度	緯度					方向	速力	

一
記載心得

一、記事ノ欄內ニハ左、ノ事項ニ付記入スヘシ

一、發著ノ地名、時刻及推測起算點ノ地名、方位、距離

二、機關運轉ノ始働及停止時刻

三、船內執業及漁網使用ノ狀況竝漁網使用中ノ海況

四、岬角、燈臺、島嶼、礁、標等本船ノ位置ヲ確定スルニ適當ノ場所ヲ航行スルトキハ其ノ方位、距離、距離測定ノ方法及時刻

五、本船所在ノ實測ヲ爲シタルトキハ其ノ位置、實測種別及時刻

六、他船ニ邂逅シ又ハ他船ト通信ヲ爲シタルトキハ其ノ船名、時刻及ヒ通信ノ要旨、邂逅船カ「トロール」汽船ナルトキハ併セテ其ノ許可番號

七、燈光若ハ信號ヲ認メ又ハ砲聲其他ノ音響ヲ聞キタルトキハ其時刻及顚末

八、衝突、坐礁其ノ他海難ニ罹リタルトキハ其ノ時刻及顚末

九、海底電線又ハ他ノ漁業者ノ漁具ニ損傷ヲ與ヘタルトキハ其ノ位置、品名、數量等

十、根據地出發當時ノ氷、石炭等ノ積載數量

二　漁獲物及數量欄內ニハ漁獲物ノ種類別ニ目方ヲ以テ其ノ數量ヲ記載スヘシ但シまだひ、れんこだい、ちだい、まべ、ひらめ、ほうぼう等主要魚類ヲ除クノ外ハ一括總數量ヲ記載スルモ妨ナシ

三　漁場欄內ノ經度及緯度ハ投網場所ノ經緯度、方向及距離ハ漁網ノ引曳ノ直航方向及其ノ距離、水深及底質ハ投網場所ニ於ケルモノ、潮流ノ速力ハ一時間ノ平均ヲ記入スヘシ

樣式第四號

船舶件名書

一　船名（現在ノモノニ付テハ船名及船舶番號）

二　船體ノ長、幅及深

三　外板及船骨材料

四　機關ノ種類及數

五　總噸數（計畫又ハ現在）

六　實馬力（計畫又ハ現在）

七　最强速力（計畫又ハ現在）

八　專用石炭庫又ハ油槽ノ容積（計畫又ハ現在）

九　豫定起工年月日

十　豫定竣工年月日（現在ノモノニ付テハ進水年月日）

十一　製造所ノ位置及名稱

大正七年九月二日
農商務省告示第二百七十八號

汽船「トロール」漁業取締規則第十三條ノ規定ニ依リ汽船「トロール」漁業ヲ營ム船舶ノ船體及機關ニ必要ナル構造竝寸法ヲ定ムルコト左ノ如シ（遞信大臣連署）

一　船體及機關ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外造船規程ニ適合スルモノナルコト但シ同規程第一編第十九條、第三十五條第一項但書、第三十六條、第六十五條第二項、第九十二條但書及第百二十九條但書ハ之ヲ適用セス

二　肋骨ノ寸法ハ造船規程第三號甲表及乙表ノ一段上級ニ掲クルモノ以上ナルコト

三　外板ノ厚ハ造船規程第十四號表、第十五號表及第二十號表ニ掲クルモノ以上ナルコト但シ船側ニ在リテハ之ヨリ〇・〇四吋以上大ナルコト

四　龍骨異板ノ縱條、舷側厚板ヨリ船體ノ彎曲部ニ至ル間ノ外板ノ縱條及船首ヨリ船長ノ五分ノ一ノ間ニ於ケル外板ノ縱條ハ二列釘ニテ固著スルコト

五　上甲板ニ設クル機關室口ノ圍壁ハ甲板ノ上面ヨリ三呎六吋以上トシ其ノ兩側ニハ鋼甲板ヲ張リ詰メ圍壁ノ緣材ハ$4\frac{1}{2}'' \times 4\frac{1}{2}'' \times 0{,}36''$以上ノ山形材ヲ以テ鋼甲板ニ固著スルコト

六　上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ノ緣材ハ其ノ高甲板上面ヨリ一呎以上ナルコト但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノハ適當ナル高迄之ヲ減スルコトヲ妨ケス

七　「ガロース」ハ其ノ寸法溝形材ナルトキハ$8'' \times 3\frac{1}{2}'' \times 3\frac{1}{2}'' \times 0{,}5''$以上、I形材ナルトキハ$6'' \times 5'' \times 5'' \times 0{,}5''$以上ノ强力ヲ有スルモノトシ支柱竝肘板ニ依リ堅牢ニ取付クルコト

八　船體及機關ノ構造竝寸法ニシテ農商務大臣ニ於テ前各號ニ定ムルモノト同等以上ノ效力ヲ有スト認ムルモノハ前各號ニ依ラサルコトヲ妨ケス

●汽船「トロール」漁業禁止區域

大正元年八月三十一日
農商務省告示第二十七號
改正　大正二年第二六九號

汽船「トロール」漁業禁止區域左ノ通改正ス

汽船「トロール」漁業禁止區域

一　根室國知床埼ヨリ正北線及北見國宗谷岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線間ニ於ケル根室、北見兩國沿岸朔望滿潮線ヨリ十海里線內

二　北見國宗谷岬、同國野寒岬、同國禮文島金田埼同島カランナイ岬、天鹽國天賣島南西端、燒尻島南端、石狩國雄冬岬ヲ經テ後志國神威岬ニ至ル線內

三　渡島國矢越岬ヨリ同國汐首岬ニ至ル線內

四　渡島國出來澗埼ヨリ膽振國勇拂川口中央ニ至ル線內

五　十勝國十勝川口中央ヨリ釧路國尻羽埼ニ至ル線內

六　根室國「ノカマツプ」岬ヨリ志勃島ノ西北端、色丹島「ヒシネベツリ」岬及同島斜古丹埼ヲ經テ國後島安渡移矢岬ニ至ル線內及同島「ハツチヤウスバナ」ヨリ根室國良牛岳頂最高點ヲ見通シタル線以內ノ海面

七　陸中國三埼ヨリ陸奥國尻矢埼燈臺、大間埼、龍飛埼、權現埼、艫作埼、羽後國入道埼燈臺、飛島北端、同島南端、越後國粟生島北端、同島南端、佐渡國姬埼燈臺、澤埼及能登國舳倉島頂ヲ經テ丹後國經ケ岬ニ至ル線內、越前國越前岬ヨリ隱岐國白島埼、久見埼、長門國見島北端、對馬國三島燈臺、豆酘埼燈臺、肥前國五島列島嵯峨島頂、福江島大瀨埼燈臺、薩摩國下甑島野埼ノ鼻、坊ノ岬、大隅國佐多岬燈臺、屋久島御埼、谷埼、種子島大竹埼東南方十海里ノ點ヲ經テ伊豫國由良埼ニ至ル線內及日向國細島港口南端ヨリ土佐國足摺埼、室戶埼燈臺ヲ經テ紀伊國瀨戶埼ニ至ル線內竝阿波國大島ノ南端ヨリ紀伊國潮岬燈臺ニ至ル線內

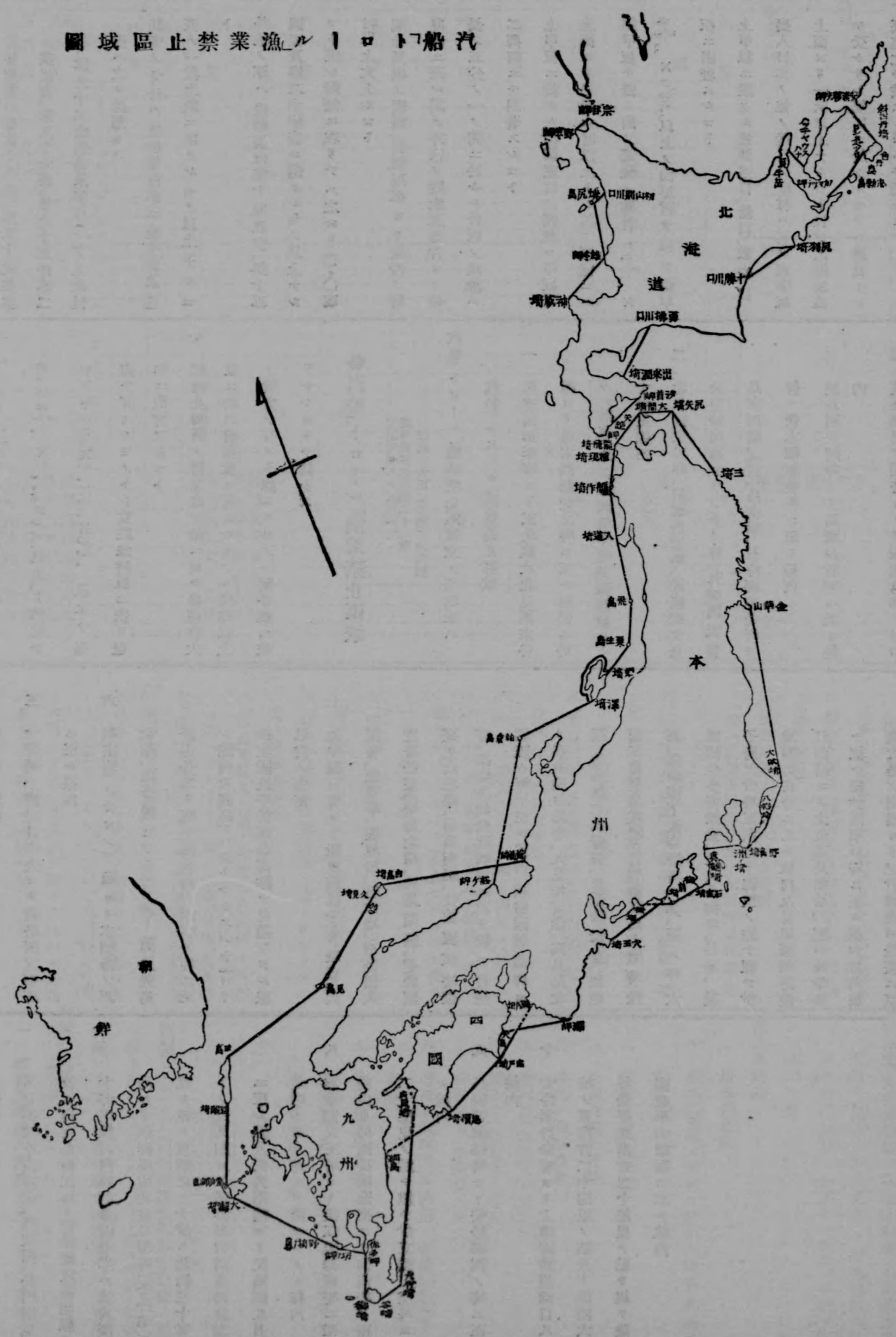
同上各線外佐渡國、隱岐國、長門國見島及五島列島福江島ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ十海里線以內竝對馬國沿岸ハ筑前國沖島ヨリ朝鮮慶尙北道長鬐岬（冬外串）ニ至ル線ト東經百三十度ト北緯三十五度トノ交叉點ヨリ朝鮮慶尙南道鴻島南端ニ至ル線及同島南端ヨリ肥前國生月島北端ニ至ル線ニテ圍マレタル線內

八　志摩國大王埼ヨリ遠江國御前埼ニ至ル線內及同國掛塚燈臺ヨリ御前埼ノ南方二十海里ノ點ヲ經テ伊豆國石室埼ニ至ル線內

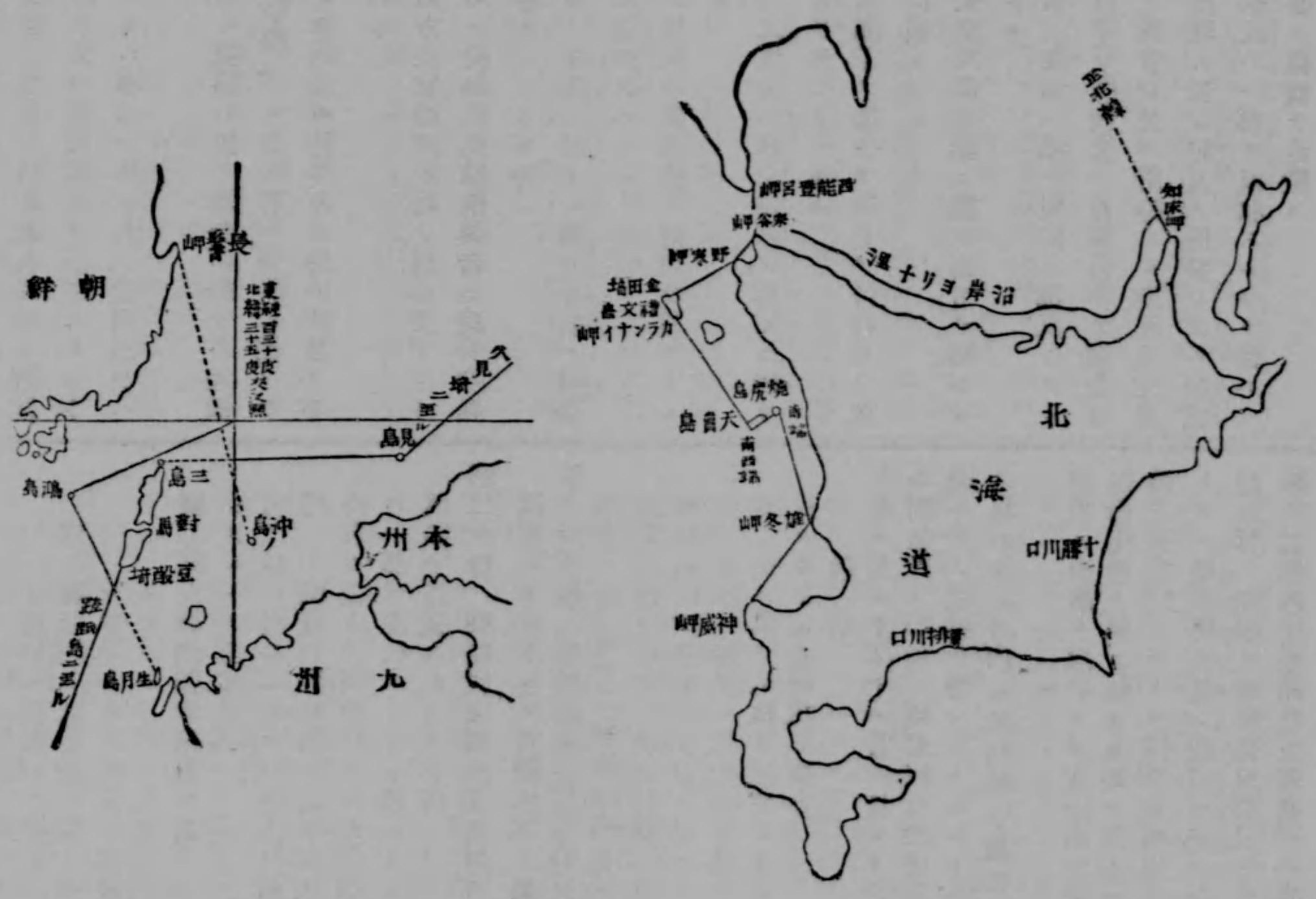
九　相模國眞鶴埼ヨリ安房國洲ノ埼ニ至ル線內

十　安房國野島埼ヨリ上總國勝浦灣口八幡埼ノ東南方二十海里ノ點及下總國犬吠埼燈臺東南方二十海里ノ點ヲ經テ陸前國金華山燈臺ニ至ル線內

汽船「トロール」漁業禁止區域圖



汽船「トロール」漁業追加禁止區域



●機船底曳網漁業取締規則

（大正十年九月二十二日農商務省令第三十一號）

機船底曳網漁業取締規則左ノ通定ム

機船底曳網漁業取締規則

第一條　本則ニ於テ機船底曳網漁業ト稱スルハ汽船「トロール」漁業ヲ除クノ外螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ依リ手繰網、打瀨網其ノ他ノ底曳網ヲ使用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條　機船底曳網漁業ハ其ノ漁業根據地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ許可ノ效力ハ第三條第一項ニ揭クル事項ニ付他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル水面ニモ及フ

第三條　前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ船舶每ニ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

一　漁業名稱

二　漁業根據地

三　操業區域

四　漁具ノ構造

五　船舶總噸數

六　機關ノ種類及馬力

前項ノ願書ニハ第一號樣式ニ依ル船舶件名書ヲ添附スヘシ

第四條　地方長官機船底曳網漁業ノ許可ヲ爲シタルトキハ第二號樣式ニ依ル漁業鑑札ヲ交付スヘシ

漁業鑑札ハ之ヲ船舶內ニ保持スヘシ

第五條　機船底曳網漁業者ハ許可ヲ受ケタル船舶ノ船首兩側及艫部ニ第三號樣式ニ依リ鑑札番號ヲ表記スヘシ

第六條　機船底曳網漁業ノ許可ノ期間ハ五年トス

第七條　機船底曳網漁業ハ農商務大臣ノ告示シタル禁止區域內ニ於テハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第八條　機船底曳網漁業者ハ許可ヲ受ケタル漁業根據地ニ非サレハ常時漁獲物ノ陸揚ヲ爲シ又ハ食料、燃料其ノ他操業上必要ナル物品ノ積込ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　機船底曳網漁業者第三條第一項ニ揭クル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ漁業鑑札ヲ書換ヘ交付スヘシ

第十條　機船底曳網漁業者其ノ氏名住所若ハ船舶ノ名稱ヲ變更シ又ハ漁業鑑札ヲ亡失毀損シタルトキハ漁業鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條　機船底曳網漁業者ハ船長ヲ定メ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ但シ漁業者自ラ船長ト爲ル場合ニ於テハ其ノ旨屆出ツヘシ

船長ヲ變更シタルトキ又ハ其ノ氏名住所ニ變更アリタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ機船底曳網漁業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社カ引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキハ此ノ限ニ在ラス

一　機船底曳網漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキ

二　許可ヲ受ケタル船舶滅失シ、沈沒シ、解撤シ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ

前項但書ノ場合ニ於テハ相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日內ニ漁業鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

第十三條　第二條ノ許可ヲ受ケタル後一年內ニ機船底曳網漁業ニ著手セス又ハ引續キ二年以上機船底曳網漁業ヲ營マサルトキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條　水産動植物ノ蕃殖保護、漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ農商務大臣又ハ地方長官ハ機船底曳網漁業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ制限シ若ハ取消スコトヲ得

機船底曳網漁業者本則ノ規定又ハ本則ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

前項ノ規定ニ依ル處分ハ當該機船底曳網漁業者ノ有スル全部ノ許可ニ付之ヲ爲スコトヲ得

第十五條　機船底曳網漁業ヲ廢止シ又ハ許可ノ效力消滅シタルトキハ直ニ漁業鑑札ヲ返納シ且第五條ノ規定ニ依ル鑑札番號ノ表記ヲ抹消スヘシ但シ漁業鑑札ヲ返納スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨屆出ツヘシ

第十二條第一項第一號ノ場合ニ於テハ相續人、合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ淸算人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條　地方長官漁業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ機船底曳網漁業者ニ對シ船長ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十七條　左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ關係地方長官ニ通知スヘシ

一　第二條又ハ第九條ノ許可ヲ爲シタルトキ

二　第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ

三　期間滿了ノ場合ヲ除クノ外許可ノ效力消滅シタルトキ

四　機船底曳網漁業ニ關シ命令ヲ發シタルトキ

第十八條　第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ハ之ヲ沒收ス若シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十九條　機船底曳網漁業ヲ爲ス船舶ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケタル漁業名稱、操業區域、漁具ノ構造又ハ許可ノ條件若ハ制限ニ違反シテ操業シタルトキ

二　禁止區域內ニ於テ操業シタルトキ

三　第十四條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シテ操業シタルトキ

四　機船底曳網漁業ニ關シ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニ違反シテ操業シタルトキ

機船底曳網漁業者前項ニ揭クル所爲ヲ指揮シタルトキ罰亦同シ

前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第二十條　機船底曳網漁業者第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第四條第二項、第五條、第十條、第十一條、第十二條第二項又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

機船底曳網漁業者許可ヲ受ケスシテ第三條第一項第五號又ハ第六號ニ揭クル事項ヲ變更シ又ハ第十六條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

附則

本則ハ大正十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ機船底曳網漁業ヲ營ム者引續キ其ノ漁業ヲ營マムトスルトキハ本則施行ノ日ヨリ二月內ニ第三條ノ願書ヲ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ爲シタル者ハ其ノ處分ヲ受クル迄仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ營ムコトヲ得

地方長官已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ本則施行ノ際現ニ機船底曳網漁業ヲ營ム船舶ニ限リ二年內ノ期間禁止區域ノ一部ニ於テ第七條ノ規定ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

明治四十二年農商務省令第五十六號中左ノ如ク改ム

第二條ノ二　削除

第七條中「第二條ノ二」ヲ削ル

第一號樣式

船舶件名書

一　船舶番號	第何號
二　船籍港	何々
三　船種及船名	何船何丸
四　船體ノ長、幅及深	長何呎、幅何呎、深何呎
五　總噸數	何噸
六　機關ノ種類及數	何々何個
七　純馬力又ハ實馬力若ハ公稱馬力	何馬力
八　速力	何浬
九　副漁具ノ種類及數	何々何個
十　竣工年月日	何年何月何日
十一　所有者ノ住所氏名	住所　氏名

備考　船舶ノ現在セサルモノニ在リテハ其ノ計畫ニ依リ記載スヘシ

第二號樣式

木製又ハ厚紙製

六寸五分

五寸

何第　號

漁業鑑札

住所　氏名

（船名）

一漁業名稱

一漁業根據地

一操業區域

一漁具ノ構造

一條件制限

年　月　日

道府縣名

備考　鑑札番號ニハ道府縣名ノ頭字ヲ冠スルモノトス但シ他ノ府縣名ト混同スヘキ虞アル場合ハ二字ヲ冠スヘシ

第三號樣式

何1234

備考

一　各文字ノ大サハ五寸大以上、文字ノ太サハ一寸以上、頭字ト數字トノ間隔ハ二寸以上、各數字ノ間隔ハ一寸五分以上トシ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

二　二以上ノ道府縣ニ於テ許可ヲ受ケタル場合ニハ其ノ最初ニ受ケタル鑑札番號ヲ表示スヘキモノトス

●機船底曳網漁業禁止區域

大正十年九月二十二日　農商務省告示第二百二十三號
改正　大正一一年第三二〇號、一三年第七三號

機船底曳網漁業禁止區域左ノ通定ム

機船底曳網漁業禁止區域

一　大隅國佐多岬ヨリ薩摩國坊ノ岬、野間岬、上甑島射手埼、肥後國天草島魚貫埼ヲ經テ五島列島中通島棹埼ニ至ル線內

二　肥前國伊王島頂上ヨリ五島列島福江島笠山埼ニ至ル線內

三　五島列島福江島大瀨埼ヨリ嵯峨島頂上、白瀨燈臺ヲ經テ壹岐國辰島頂上ニ至ル線內

四　肥前國宇久島頂上ヨリ壹岐國若宮燈臺ノ正北六海里ノ點ヲ經テ筑前國小呂島頂上ニ至ル線內

五　肥前國加唐島ノ北端ヨリ筑前國沖島西端ヨリ二百八十五度三千間ノ點、沖島東端ヨリ北東三千間ノ點ヲ經テ長門國蓋井島南端ニ至ル線內

六　筑前國志賀島東端殘島西端喰合見通線、沖島頂上ヨリ長門國見島頂上ニ至ル線及對馬國大星山頂上ヨリ長門國犬吠山頂上ニ至ル線ニ依リ圍マレタル海面

七　筑前國沖島頂上ヨリ石見國高島頂上ヲ經テ出雲國日ノ岬ニ至ル線內

八　出雲國日ノ岬ヨリ石見國高島頂上ニ至ル線上日ノ岬ヲ距ル五海里ノ點ヨリ同岬ノ正北五海里ノ點、多古鼻ノ正北五海里ノ點、沖御前島頂上、但馬國餘部埼ヲ經テ丹後國經ケ岬ニ至ル線內

九　但馬國猫埼ヨリ丹後國經ケ岬ノ正北三海里ノ點、沖ノ島ノ北端ヲ經テ若狹國常神埼ニ至ル線內

十　若狹國鋸埼ヨリ越前國安島埼ノ正西三海里ノ點ヲ經テ能登國海士埼ニ至ル線內

十一　加賀國小鹽埼ヨリ能登國五十洲埼ノ北西六海里ノ點、祿剛埼ノ北北東六海里ノ點、小泊鼻ノ正東六海里ノ點ヲ經テ越中國生地ノ鼻ニ至ル線內

十二　能登國大泊鼻ヨリ越後國鳥ケ首埼ニ至ル線內

十三　越中國生地ノ鼻ヨリ越後國椎谷鼻ニ至ル線內

十四　越後國鳥ケ首埼ヨリ角田埼ニ至ル線內

十五　越後國米山埼ヨリ羽前國飛島南端ニ至ル線ト佐渡國野埼鼻ヨリ越後國鷲ケ巢山頂上ニ至ル線トニ依リ圍マレタル海面

十六　越後國角田埼ヨリ羽前國大波渡鼻ニ至ル線內

十七　越後國鳥坂山頂上ヨリ粟生島南端ニ至ル線、粟生島北端ヨリ羽後國三埼ヨリ飛島南端ニ至ル線上三埼ヲ距ル五海里ノ點ヲ經テ鹽瀨埼ニ至ル線內

十七ノ二　羽後國觀音森頂上ヨリ塩瀨埼ノ南西四海里ノ點、白埼ノ正西四海里ノ點、入道埼ノ西北西四海里ノ點ヲ經テ能代川口中央ニ至ル線內

十八　羽後國入道埼ヨリ陸奧國艫作埼、權現埼、龍飛埼、大間埼、尻矢埼ヲ經テ鮫角ニ至ル線內

十九　陸奧國鮫角ヨリ尻矢埼ニ至ル線上鮫角ヲ距ル五海里ノ點ヨリ鮫角ノ正東五海里ノ點、陸中國辨天鼻ノ正東五海里ノ點、黑埼ノ正東三海里ノ點、魹埼ノ正東三海里ノ點、龜ケ埼ノ正東三海里ノ點、陸前國首埼ノ南東三海里ノ點、綾里埼ノ南東三海里ノ點、唐桑埼ノ正東三海里ノ點、金華山頂上ノ南東五海里ノ點、磐城國鵜ノ埼ノ正東十六海里ノ點、鹽屋埼ノ正東三海里ノ點、常陸國大洗埼ノ正東十三海里ノ點ヲ經テ下總國犬吠埼燈臺ニ至ル線內

二十　下總國犬吠埼燈臺ヨリ常陸國大洗埼ノ正東十三海里ノ點ニ至ル線上犬吠埼燈臺ヲ距ル十二海里ノ點ヨリ同燈臺ノ正東十二海里ノ點、上總國大東埼ノ南東十海里ノ點ヲ經テ安房國野島埼燈臺ニ至ル線內

二十一　安房國洲ノ埼ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ眞鶴埼ニ至ル線內

二十二　相模國眞鶴埼ヨリ同埼ヨリ伊豆國式根島頂上ニ至ル線ト相模國江ノ島ヨリ伊豆國神子元島燈臺ニ至ル線トノ交叉點、神子元島燈臺、石室埼ノ正南三海里ノ點、波勝埼ノ南西三海里ノ點ヲ經テ富士山頂上ニ至ル線內

二十三　伊豆國大瀨埼ヨリ駿河國富士川口中央、遠江國御前埼ヲ經テ三河國伊良湖埼ニ至ル線內

二十四　遠江國掛塚燈臺ヨリ志摩國神ノ島頂上ヲ經テ紀伊國佐波留島頂上ニ至ル線內

二十五　伊勢國志戶ノ鼻ヨリ紀伊國三木埼ヲ經テ梶取埼ニ至ル線內

二十六　紀伊國猪ノ鼻ヨリ梶取埼ノ南東三海里ノ點ヲ經テ樫野埼ニ至ル線內

二十七　紀伊國須江埼ヨリ出雲埼ニ至ル線內

二十八　紀伊國潮ノ岬ヨリ市江埼ノ南西三海里ノ點、日ノ御埼ヨリ阿波國伊島頂上ニ至ル線上日ノ御埼ヲ距ル三海里ノ點、阿波國大島頂上ノ南東三海里ノ點ヲ經テ土佐國室戶埼ニ至ル線內

二十九　土佐國室戶埼ヨリ烏帽子山頂上ニ至ル線內

三十　土佐國神ノ峯頂上ヨリ大森山頂上ニ至ル線內

三十一　土佐國龍埼、烏帽子山頂上見通線ト葛籠山頂上、今ノ山頂上見通線トニ依リ圍マレタル海面

三十二　土佐國與津埼ヨリ足摺埼、沖ノ島櫛ケ鼻、鵜來島西端ヲ經テ豐後國水之子島ニ至ル線內

三十三　伊豫國橫島南端ヨリ豐後國鶴見埼、深島頂上ノ正東三海里ノ點、日向國一ノ瀨川口中央ノ正東九海里ノ點、都井埼ノ正東七海里ノ點ヲ經テ大隅國觀音埼ニ至ル線內

三十四　琉球國沖繩本島喜屋武埼ヨリ渡嘉敷島南端、同島北端沖繩本島殘波岬、伊江島西端ヲ經テ沖繩本島邊戶埼ニ至ル線內

三十五　琉球國沖繩本島危難埼ヨリ久高島頂上ヲ經テ喜屋武埼ニ至ル線內

三十六　渡島國汐首岬ヨリ矢越岬ニ至ル線內

三十七　渡島國矢越岬ヨリ汐首岬ニ至ル線上矢越岬ヲ距ル三海里ノ點ヨリ白神埼ノ正南三海里ノ點、雨垂石岬ノ南西三海里ノ點、日方泊岬、洲根子岬、乙部鼻、後志國太田岬及持田岬、各岬ノ正西三海里ノ點、辨慶岬ノ正北三海里ノ點、雷電岬ノ北西三海里ノ點、川白岬ノ正西三海里ノ點、神威岬ノ北西三海里ノ點、積丹岬ノ正北三海里ノ點ヲ經テ忍路鼻ニ至ル線內

三十八　後志國丸山埼ヨリ石狩國石狩川口中央ニ至ル線內

三十九　後志國高島岬ヨリ石狩國雄冬岬ニ至ル線內

四十　石狩國愛冠岬ヨリ雄冬岬ノ正西三海里ノ點ヲ經テ天鹽國苫前埼ニ至ル線內

四十一　石狩國雄冬岬ヨリ天鹽國燒尻島東端ヲ經テ天鹽國風連別川口中央ニ至ル線內

四十二　天鹽國天鹽川口中央ヨリ北見國利尻島東端、野寒岬ノ正北三海里ノ點、宗谷岬ノ正北五海里ノ點、同岬ノ正東五海里ノ點、沙留岬ノ北東五海里ノ點、能登呂岬ヲ經テ根室國良牛岳頂上ニ至ル線內

四十三　北見國藻琴山頂上ヨリ北見、根室兩國界知床岬ノ正北五海里ノ點、同岬ノ正東五海里ノ點ヲ經テ千島國國後島ハツチャウス鼻ニ至ル線內

四十四　根室國標津川口中央ヨリ千島國國後島ルイ岬ノ正北五海里ノ點、アトイヤ岬ヲ經テ色丹島斜古丹埼ニ至ル線內

四十五　千島國色丹島斜古丹埼ヨリ國後島アトイヤ岬ニ至ル線上斜古丹埼ヲ距ル五海里ノ點ヨリシベトニタロ埼ノ正東五海里ノ點、コムプウス埼ノ正南五海里ノ點、根室國納沙布埼、落石埼、釧路國尻羽埼、各埼ノ正南五海里ノ點ヲ經テ尻別川口中央ニ至ル線內

四十六　釧路國釧路川口中央ヨリ十勝國歷舟川口中央ニ至ル線內

四十七　釧路國尺別川口中央ヨリ日高國襟裳岬ノ正南五海里ノ點ヲ經テ膽振國樽前山頂上ニ至ル線內

四十八　膽振國勇拂川口中央ヨリ渡島國出來澗埼ニ至ル線內

四十九　渡島國出來澗埼ヨリ膽振國勇拂川口中央ニ至ル線上出來澗埼ヲ距ル五海里ノ點ヨリ惠山岬ノ正東五海里ノ點、同岬ノ正南五海里ノ點ヲ經テ汐首岬ヨリ矢越岬ニ至ル線上汐首岬ヲ距ル五海里ノ點ニ至ル線內

五十　大隅國種子島、馬毛島、屋久島、奄美大島、薩摩國甑列島、長門國見島、隱岐國、能登國七ツ島、舳倉島、佐渡國、伊豆國大島、渡島國奧尻島、天鹽國燒尻島、天賣島、北見國利尻島、禮文島、千島國擇捉島、各島ノ周圍朔望滿潮線ヨリ三海里以內

五十一　對馬國ノ周圍朔望滿潮線ヨリ六海里以內

●工船蟹漁業取締規則

大正十二年三月十三日　農商務省令第五號

工船蟹漁業取締規則左ノ通定ム

工船蟹漁業取締規則

第一條　本則ニ於テ工船蟹漁業ト稱スルハ罐詰製造設備ヲ有スル船舶又ハ之ニ附屬スル漁船ニ依リテ爲ス蟹漁業ヲ謂フ

第二條　工船蟹漁業ヲ營マムトスル者ハ工船毎ニ願書一通ヲ作リ第一號樣式ニ依ル船舶件名書又ハ船舶國籍證書寫及船舶檢査證書寫並第二號樣式ニ依ル事業計畫書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　船舶件名書ヲ差出シ前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定期間內ニ船舶國籍證書寫及船舶檢査證書寫ヲ差出スヘシ

指定期間內ニ前項ノ書類ヲ差出サヽルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　農商務大臣第二條ノ許可ヲ爲シタルトキハ第三號樣式ニ依ル許可證ヲ交付ス但シ前條第一項ノ場合ニ於テハ當該書類ヲ差出シタル後之ヲ交付ス

第五條　許可證ハ之ヲ工船內ニ保持スヘシ

工船蟹漁業者ハ第四號樣式ニ依リ工船ノ兩舷及附屬漁船ノ見易キ場所ニ許可番號ヲ表記スヘシ

工船蟹漁業者ハ其ノ使用スル漁網ノ浮子ニ許可番號ヲ烙印スヘシ

第六條　工船蟹漁業ノ許可ノ期間ハ五年トス

前項ノ期間ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第七條　工船蟹漁業ハ農商務大臣ノ告示シタル禁止區域內ニ於テハ操業スルコトヲ得ス

第八條　網目一尺五寸以下ノ刺網ハ工船又ハ附屬漁船ニ於テ之ヲ所持シ又ハ使用スルコトヲ得ス

第九條　工船蟹漁業者許可證ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第十一條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

農商務大臣前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ書換交付ス

第十條　前條第一項ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外工船蟹漁業者其ノ事業計畫書ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第十一條　工船蟹漁業者其ノ氏名住所若ハ船舶ノ名稱ヲ變更シ又ハ許可證ヲ亡失毀損シタルトキハ許可證ノ書換又ハ再交付ヲ申請スヘシ

第十二條　工船蟹漁業者ハ每年十二月末日迄ニ其ノ年ノ事業報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

農商務大臣必要アリト認ムルトキハ臨時事業報告ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ工船蟹漁業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社カ引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキハ此ノ限ニ在ラス

一　工船蟹漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキ

二　許可ヲ受ケタル船舶滅失シ、沈沒シ、解撤シ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ

前項但書ノ場合ニ於テハ相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日內ニ許可證ノ書換ヲ申請スヘシ

第十四條　許可證ノ交付ヲ受ケタル後一年內ニ工船蟹漁業ニ著手セス又ハ引續キ二年以上工船蟹漁業ヲ營マサルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條　蟹ノ蕃殖保護、漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ハ工船蟹漁業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ制限スルコトアルヘシ

第十六條　工船蟹漁業者本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタルトキハ農商務大臣ハ工船蟹漁業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ制限シ若ハ取消スコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依ル處分ハ當該工船蟹漁業者ノ有スル全部ノ許可ニ付之ヲ爲スコトアルヘシ

第十七條　各工船ニ付工船蟹漁業ヲ廢止シ又ハ許可ノ效力消滅シタルトキハ直ニ當該工船ニ對スル許可證ヲ返納スヘシ但シ許可證ヲ返納スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨屆出ツヘシ

第十三條第一項第一號ノ場合ニ於テハ相續人合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ清算人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　工船ノ船長ノ所爲第二十條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ハ工船蟹漁業者ニ對シ船長ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　第二條ノ許可ヲ受ケスシテ工船蟹漁業ヲ營ミタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ハ之ヲ沒收ス若シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十條　工船ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケタル操業區域、漁具ノ種類又ハ許可ノ條件若ハ制限ニ違反シテ操業シタルトキ

二　禁止區域內ニ於テ操業シタルトキ

三　工船又ハ附屬漁船ニ於テ網目一尺五寸以下ノ刺網ヲ所持シ又ハ使用シタルトキ

四　第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シテ操業シタルトキ

工船蟹漁業者前項ニ揭クル所爲ヲ指揮シタルトキ罰亦同シ

前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第二十一條　工船蟹漁業者第四條第二項、第五條、第十條、第十一條、第十三條第二項又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ大正十二年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前ヨリ工船蟹漁業ヲ營ム者ハ當該工船ニ付本則施行後一年內ニ限リ第二條ノ許可ヲ受ケサルモ其ノ漁業ヲ營ムコトヲ得

前項ノ漁業者カ前項ノ期間內ニ第二條ノ許可ヲ出願シタルトキハ其ノ許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間亦前項ニ同シ

第一號樣式

船舶件名書（計畫又ハ現在）

一　船種及船名
二　船體ノ長、幅及深
三　總噸數
四　機關ノ種類及數
五　純馬力又ハ實馬力若ハ公稱馬力
六　速力
七　竣工年月日
八　所有者ノ住所氏名又ハ名稱

第二號樣式

事業計畫書

一　主ナル繫船港
二　操業區域及時期
三　附屬漁船ノ種類、數及大サ
四　漁具及副漁具ノ種類、構造及箇數
五　罐詰製造ニ關スル設備（配置圖添付ヲ要ス）
六　罐詰製造最高豫定數
七　乘組員職務別人員表

第三號樣式

第　　號

工船蟹漁業許可證

住所

氏名又ハ名稱

船種及船名	
總噸數	
操業區域	
漁具ノ種類	
罐詰製造最高豫定數	
條件又ハ制限	

年　月　日

農商務大臣

第四號樣式

１２

備考

一、各文字ノ大サハ一尺五寸大以上、文字ノ太サハ三寸以上、各數字ノ間隔ハ一尺以上二尺以下、輪廓ノ太サハ三寸以上トシ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

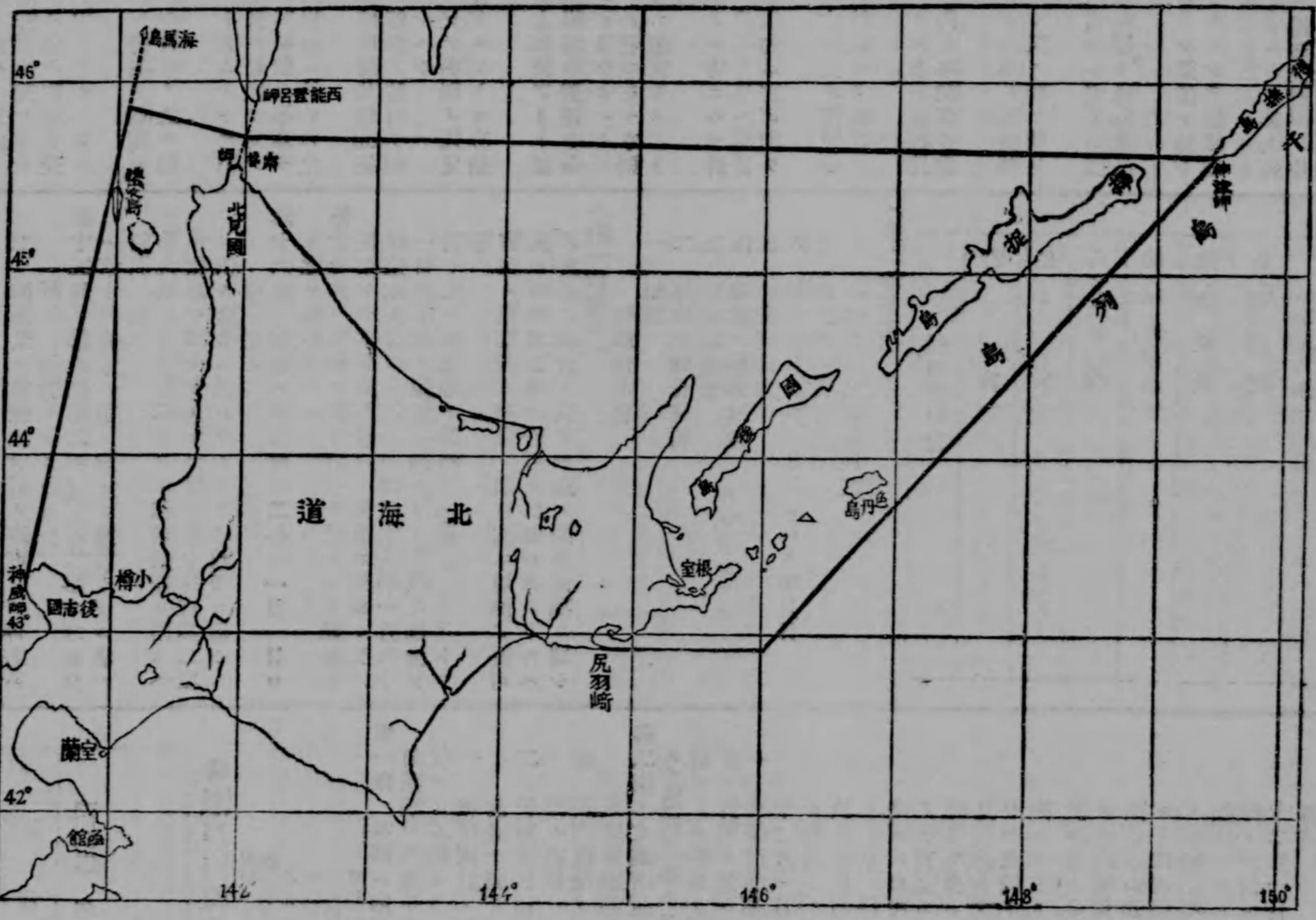
二、附屬漁船ニ在リテハ其ノ種類及大小ニ應シ前項ニ準シ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

（大正十二年三月二十六日農商務省告示第六十九號）

工船蟹漁業禁止區域左ノ通定ム

後志國神威岬ヨリ禮文島北端、禮文島北端ヨリ海馬島南端ニ至ル線ノ中點、北見國宗谷岬ヨリ樺太島西能登呂岬ニ至ル線ノ中點、得撫島仲津岬、釧路國尻羽崎ヲ通過スル緯線ト東經百四十六度ノ經線トノ交叉點ヲ經テ尻羽崎ニ至ル線內

工船蟹漁業禁止區域圖



●鯨漁取締規則

（明治四十二年十月二十一日農商務省令第四十二號）
（改正　明治四四年第六號）

鯨漁取締規則左ノ通相定ム

鯨漁取締規則

第一條　帆船ヲ使用シテ鯨漁ヲ爲サムトスル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　汽船捕鯨業又ハ前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ船舶每ニ願書一通ヲ作リ之ニ操業區域ヲ記載シ船舶國籍證書寫及船舶檢査證書寫ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船舶カ製造前若ハ製造中ナルトキハ第一號書式ノ船舶件名書ヲ添附スヘシ

第三條　鯨漁ノ根據地ヲ設ケムトスル者ハ一根據地每ニ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　根據地設置ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ設計圖、設計說明書、設置地及其附近ノ圖面ヲ添附シ根據地所轄地方長官ヲ經由シテ差出スヘシ

第五條　根據地ノ設備ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ根據地所轄地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

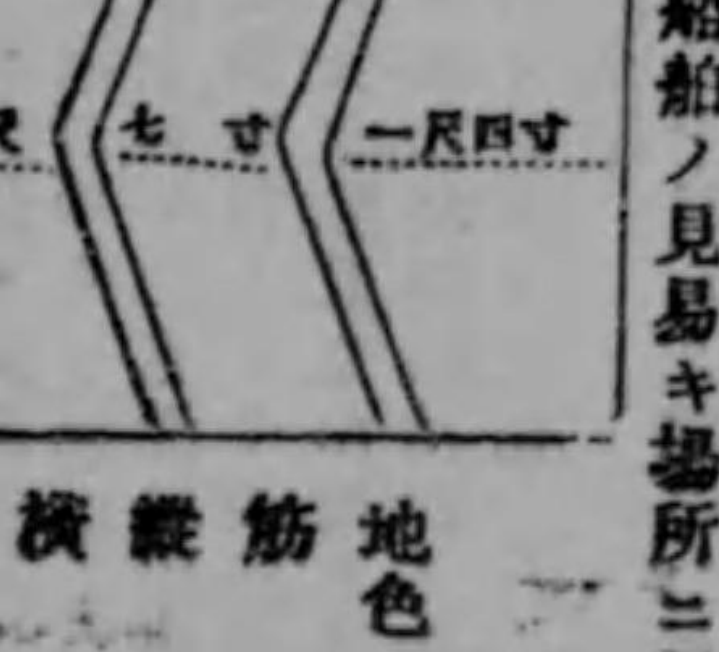
第六條　農商務大臣鯨漁ヲ許可シタルトキハ第二號書式ノ許可證ヲ交付ス

許可ノ期間ハ五年トス

許可證ハ之ヲ船舶內ニ保持スヘシ

許可證ヲ亡失毀損シ又ハ許可證ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ許可證ノ再交付又ハ訂正ノ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條　鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ハ左記雛形ノ旗章ヲ船舶ノ見易キ場所ニ揭揚スヘシ



地色	白
筋	紅
縱	二尺五寸
橫	四尺

第八條　鯨漁又ハ根據地設置ノ許可ハ正當ノ事由ナクシテ引續キ二年間許可ヲ受ケタル船舶ヲ使用シテ鯨漁ヲ爲サス又ハ許可ヲ受ケタル根據地ニ於テ業務ヲ爲ササルトキハ其效力ヲ失フモノトス

●第二條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ船舶國籍證書ノ交付アリタル日ヨリ之ヲ起算ス

第九條　農商務大臣必要アリト認ムルトキハ鯨ノ種類、鯨漁ノ時期、區域又ハ船數ヲ定メ鯨漁ヲ禁止若ハ制限シ又ハ其船舶ニ標章ヲ附セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ之ヲ告示スヘシ

第十條　農商務大臣ハ鯨ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキハ鯨漁ノ許可ヲ制限シ又ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十一條　農商務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ根據地設備ノ制限若ハ變更ヲ命シ又ハ設置ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

根據地設置ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條　鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ許可ヲ取消サレ、許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ業務ヲ廢止シタルトキハ一箇月以內ニ許可證ヲ返納スヘシ

鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ解散シタルトキハ其相續人又ハ淸算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ハ各事業年度終了ノ日ヨリ一箇月以內ニ事業報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

農商務大臣必要アリト認ムルトキハ隨時報告書其他ノ書類ノ提出ヲ命シ又ハ鯨ニ關スル調査ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ情狀ニ因リ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

一　第一條ノ許可ヲ受ケスシテ鯨漁ヲ爲シ又ハ第三條ノ許可ヲ受ケスシテ根據地ヲ設置シタルトキ

●二　汽船捕鯨業者ニ非サル者ニシテ第九條ニ依リ告示シタル鯨ノ種類、鯨漁ノ時期及區域ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルトキ

三　鯨漁又ハ根據地設置ノ許可ノ條件若ハ制限ニ違背シタルトキ

第十五條　第六條第三項、第七條、第十二條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第九條ニ依リ告示シタル鯨漁船舶ニ附スヘキ標章ヲ附セサルトキ又ハ第十三條第二項ニ依ル命令ニ從ハサルトキ亦前項ニ同シ

附　則

第十六條　本則ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　本則ニ依リ許可ヲ受クヘキ船舶ヲ使用シテ本則施行前ヨリ鯨漁ニ從事シ又ハ根據地ヲ有スル者ハ明治四十三年一月三十一日迄本則ノ規定ニ拘ハラス引續キ鯨漁ヲ爲シ又ハ根據地ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ漁業者カ前項ノ期日迄ニ鯨漁ノ許可又ハ根據地設置ノ許可ヲ出願シタルトキハ其許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間亦前項ニ同シ

（第一號書式）

船舶件名書

一　船種
二　外板及船骨材料
三　計畫總噸數
四　機關ノ種類及數
五　計畫實馬力
六　起工年月日又ハ起工スヘキ年月日
七　竣工スヘキ年月日
八　造船所ノ名稱及所在

（第二號書式）

鯨漁許可證

番號		
住所		
氏名又ハ名稱		
船種及船名		
操業區域		
許可期間		
條件	根據地	
	鯨漁時期又ハ制限	
	其他	

【明治】年　月　日

農商務省

●瀨戶內海漁業使用漁具制限

（明治四十二年十一月十五日農商務省令第五十六號）
（改正　明治四四年第七號　大正元年第一六號、九年第　五號、一〇年第三一號　昭和二年農林省令第一一號）

第一條　本則ハ瀨戶內海ニ之ヲ施行ス

前項瀨戶內海ト稱スルハ左ニ揭クル直線ニ依リテ區劃セラレタル內海ヲ謂フ

一　紀伊國日ノ御埼燈臺ヨリ阿波國伊島及前島ヲ經テ蒲生田埼ニ至ル直線

二　伊豫國佐田岬ヨリ豐後國地藏埼燈臺ニ至ル直線

三　長門國壇ノ浦燈臺ヨリ金伏瀨燈臺ヲ經テ豐前國部埼燈臺ニ至ル直線

第二條　文鎭漕、掛繩漕其ノ他ノ空釣漕ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ揭クル漁業ニシテ各其ノ期間及區域內ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　文鎭漕漁業及掛繩漕漁業

十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間

淡路國浦村浦川口中央、浦川口中央ヨリ正東ノ線ト攝津國一ノ谷頂上ヨリ淡路國由良町高埼見通線トノ交叉點、一ノ谷頂上ヨリ高埼見通線ト淡路國洲本町宮埼鼻ヨリ紀伊國友ケ島沖ノ島頂上見通線トノ交叉點及宮埼鼻ヲ連結シタル三直線ト宮埼鼻浦川口中央間ノ海岸線トニ依リテ圍マレタル水面

淡路國由良町高埼、攝津國一ノ谷頂上ヨリ高埼見通線ト紀伊國荒埼ヨリ阿波國佐古山頂上見通線トノ交叉點、荒埼ヨリ佐古山頂上見通線ト淡路國門埼ヨリ同國潮埼見通線トノ交叉點及潮埼ヲ連結シタル三直線ト潮埼高埼間ノ海岸線トニ依リテ圍マレタル水面

十二月一日ヨリ翌年四月三十日ニ至ル期間

淡路國松帆埼、松帆埼ヨリ播磨國男鹿島大埼見通線ト同國雄岡山頂上ヨリ同國二見港口中央見通線トノ交叉點、雄岡山頂上ヨリ二見港口中央見通線ト播磨國鞍掛島頂上ヨリ淡路國丸山埼見通線トノ交叉點及丸山埼ヲ連結シタル三直線ト丸山埼松帆埼間ノ海岸線トニ依リテ圍マレタル水面

二　文鎭漕漁業

十二月二十日ヨリ翌年二月末日ニ至ル期間

伊豫國小平市島頂上、小平市島頂上ヨリ伊豫國魚島東南端見通線ト伊豫國美濃島南端ヨリ伊豫讃岐兩國界余木埼見通線トノ交叉點、余木埼及余木埼ヨリ伊豫國大埼見通線ト伊豫國小比岐島頂上ヨリ小平市島頂上見通線トノ交叉點ヲ連結シタル四直線ニ依リテ圍マレタル水面

第三條　左ニ揭クル漁具ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ得ス但シ網目方五分以上ヲ有スル烏賊手繰網、海鯽（チヌ）漕網、烏賊漕網、鱸（スズキ）曳網、あいご曳網、鱮（タナゴ）曳網及藻烏賊曳網ハ此ノ限ニ在ラス

一　藻手繰網　一　藻打瀨網　一　藻漕網

一　藻曳網

地方長官ハ地方特別ノ情況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ農林大臣ノ認可ヲ得テ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ前項ノ漁業ヲ許可スルコトヲ得但シ六月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル期間內ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　八月十一日ヨリ九月二十日ニ至ル期間內打瀨網ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ得ス但シ網目方五分以上ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

地方長官ハ地方特別ノ情況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ農林大臣ノ認可ヲ得テ命令ヲ以テ前項期間ノ外更ニ制限ヲ爲スコトヲ得

第五條　前三條ニ規定スル漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ但シ漁業法施行規則第五十六條第二項ニ依リ地方長官ノ告示シタルモノハ其ノ告示ニ依ル

第六條　第三條第一項但書及第四條第一項但書ノ規定ハ地方長官ニ於テ地方特別ノ情況ニ依リ必要アリト認ムル場合ニ於テ漁業法第十三條ニ依リ必要ノ命令ヲ發スルコトヲ妨ケス

第七條　第二條第三條及第四條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

前項ノ漁獲物ナルコトヲ知リテ之ヲ販賣シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

第八條　本則ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　本則施行ノ際第三條第二項又ハ第四條第二項ノ命令ヲ必要トスルトキハ地方長官ハ本則施行前豫メ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十條　本則施行前ニ於テ地方長官ノ發シタル命令中第三條第一項但書及第四條但書ノ漁業ニ付爲シタル禁止又ハ制限ノ規定ハ本則施行後仍ホ其ノ效力ヲ有ス

●漁業共同施設奬勵規則

（大正十四年六月二十六日農林省令第二十一號）

漁業共同施設奬勵規則左ノ通定ム

漁業共同施設奬勵規則

第一條　農林大臣ハ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ左ニ揭クル設備ニ對シ奬勵金ヲ交付ス

一　船揚及船溜設備
二　水產物ノ販賣設備
三　水產物ノ製造、加工及處理設備
四　貯藏設備
五　漁船及漁具設備
六　水產物ノ運搬設備
七　水產物ノ養殖設備
八　漁船救難設備

第二條　奬勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　漁業組合又ハ漁業組合聯合會
二　水產會法ニ依リ設立シタル水產會
三　水產組合又ハ水產組合聯合會
四　產業組合又ハ產業組合聯合會
五　市町村又ハ之ニ準スヘキモノ
六　前各號ノ外農林大臣ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合

第三條　第一條第一號乃至第六號ニ揭クル設備ニ對スル奬勵金ノ額ハ左ノ費用ノ十分ノ四以內トス

一　船揚及船溜設備ニ在リテハ漁船ノ船揚場、船溜場又ハ其ノ附屬設備ノ新設、增設又ハ改設ニ要シタル費用

二　販賣設備ニ在リテハ水產物ノ共同販賣所又ハ其ノ附屬設備ノ新設、增設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

三　製造、加工又ハ處理設備ニ在リテハ水產物ノ製造場、加工場若ハ處理場又ハ水產物ノ製造、加工若ハ處理ノ爲使用スル機械器具ノ新設、增設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

四　貯藏設備ニ在リテハ水產倉庫其ノ他水產物ノ貯藏設備ノ新設、增設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

五　漁船及漁具設備ニ在リテハ漁船、漁具、副漁具、漁船ノ機關若ハ保藏設備又ハ染網場、網干場其ノ他漁具ノ保强設備ノ新造、改造又ハ買入ニ要シタル費用

六　運搬設備ニ在リテハ水產物ノ運搬ノ用ニ供スル船、車又ハ機械器具ノ新造、改造又ハ買入ニ要シタル費用

第一條第七號ニ揭クル設備ニ對スル奬勵金ノ額ハ水產物ノ蕃殖場、蓄養場、種場、人工孵化場、漁礁其ノ他ノ養殖設備ノ新設、增設、改設又ハ買入ニ要シタル費用ノ十分ノ五以內トス

第一條第八號ニ揭クル設備ニ對スル奬勵金ノ額ハ漁船遭難ノ救護又ハ豫防ノ用ニ供スル救護船、救護船格納庫、標識、信號標、無線電信裝置、無線電話裝置其ノ他ノ設備ノ新造、改造又ハ買入ニ要シタル費用ノ十分ノ六以內トス

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

一　設備ニ關スル事業計畫書
二　設計書
三　設備ニ關スル收支豫算書

奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

一　規約、會則、定款又ハ寄附行爲
二　代表者ノ氏名

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　奬勵金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル者第四條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ設備ヲ讓渡セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條ノ規定ハ奬勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ讓渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ讓受人ヲ以テ奬勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六條　農林大臣ハ其ノ指定シタル檢查員ヲシテ奬勵金ノ交付ヲ受クヘキ設備ニ付檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條　奬勵金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル者奬勵金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ設備完成又ハ物件買入終了後精算書ヲ添ヘ請求書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第八條　奬勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者解散シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ合併後存續スル法人若ハ合併又ハ分割ニ因リ設立シタル法人ニシテ奬勵金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル設備ニ付引續キ共同ノ施設ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ第四條第一項第一號ノ事業計畫書ニ定ムル目的及用途ニ從ヒ其ノ設備ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス但シ其ノ使用ニ支障ナキ限リ他ノ用途ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得

前項ノ目的又ハ用途ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ設備ヲ讓渡セムトスルトキ亦同シ

第十條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ每事業年度終了後二月內ニ其ノ共同施設事業ノ報告書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十一條　農林大臣及地方長官必要アリト認ムルトキハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ニ對シ何時ニテモ其ノ共同施設事業ニ關スル報告ヲ命シ書類、帳簿又ハ事務執行ノ狀況ヲ檢查シ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨農林大臣ニ屆出ツヘシ

一　名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ

二　規約、會則、定款又ハ寄附行爲ヲ變更シタルトキ

三　組合ニ在リテハ組合員ノ加入又ハ脫退アリタルトキ

四　代表者ヲ變更シタルトキ

五　設備滅失シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキ

第十三條　[illegible]

第十四條　[illegible]

第十五條　[illegible]

一　[illegible]

二　奬勵[illegible]

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ大正十四年度ニ限リ八月三十一日迄トス

●水產增殖奬勵規則

（大正十五年四月二十四日農林省令第六號）

水產增殖奬勵規則左ノ通定ム

水產增殖奬勵規則

第一條　[illegible]

一　鮭鱒類ノ採卵及孵化放流ニ要スル費用

二　鮭鱒類ノ孵化放流ニ要スル費用

三　[illegible]要スル費用

奬勵金ノ額ハ前項ノ費用ノ十分ノ七以內トス

第二條　奬勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　道府縣
二　水産會法ニ依リ設立シタル水産會
三　水産組合又ハ水産組合聯合會
四　前各號ノ外農林大臣ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合

第三條　奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ四月三十日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ
一　事業計畫
二　其ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル事項ニ付其ノ事業計畫ノ内容及收支豫算

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ事業ヲ讓渡セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ鮭鱒類ノ採卵又ハ孵化放流ニ關スル設備ヲ變更シ又ハ讓渡セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ事業讓渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ讓受人ヲ以テ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ト看做ス

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケテ施行シタル事業ノ收支決算ヲ翌年六月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第六條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者奬勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ次年度ニ於テ同一ノ事業ニ對シ支出スル義務アルモノトス

第七條　農林大臣必要ト認ムルトキハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニテモ其ノ事業ニ關スル報告ヲ命スルコトヲ得

第八條　第四條及第七條ノ規定ニ依ル義務ノ存續期間ハ奬勵金交付ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ農林大臣之ヲ定ム

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ奬勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
一　本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ
二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
四　奬勵金ノ支出額其ノ交付ヲ受ケタル事業ノ豫算ニ比シ著シク減少シタルトキ

第十條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中四月三十日迄トアルハ大正十五年度ニ限リ大正十五年六月三十日迄トス

●漁業用發動機檢査規則

（大正十五年六月二十五日　農林省令第十五號）

漁業用發動機檢査規則左ノ通定ム

漁業用發動機檢査規則

第一條　農林大臣ハ本則ニ依リ漁業用發動機ノ檢査ヲ行フ

第二條　前條ノ檢査ハ檢査官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

檢査官吏檢査ヲ行フ場合ニ於テハ證票ヲ携帶スヘシ

第三條　漁業用發動機ノ檢査ヲ依頼セムトスル者ハ樣式第一號ニ依ル依頼書ニ發動機仕樣書及樣式第二號ニ依ル檢査手數料納付書ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

檢査ヲ受ケムトスル發動機カ依頼者ノ所有ニ屬セサルトキハ其ノ所有者ノ檢査ニ關スル同意書ヲ添附スヘシ

第四條　農林大臣檢査ノ依頼ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢査手數料納付書ヲ依頼者ニ還付ス

農林大臣檢査ノ依頼ニ應スル場合ニ於テハ當該官吏ハ檢査手數料納付書ニ貼附セル收入印紙ニ消印ヲ押捺スヘシ

第五條　發動機ノ檢査ハ出力、燃料消費量、構造及强力ニ付之ヲ行フ

前項ノ檢査ハ其ノ發動機ノ製造工場ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ依頼者ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第六條　檢査ヲ受クル場合ニ於テハ依頼者ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲シ檢査ニ要スル設備費、消耗品費其ノ他ノ費用ヲ負擔スヘシ

第七條　檢査官吏檢査シタル發動機其ノ仕樣書ニ適合スルモノト認メタルトキハ極印及檢査番號ヲ其ノ發動機ニ打込ムヘシ

第八條　農林大臣檢査ヲ行ヒタル發動機其ノ仕樣書ニ適合スルモノト認メタルトキハ樣式第三號ニ依ル檢査成績書ヲ依頼者ニ交付ス

第九條　第二條ノ證票及第七條ノ極印竝其ノ使用方法ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

第一號

漁業用發動機檢査依頼書

一　發動機ノ種類及型式
一　發動機ノ計畫純馬力
一　發動機使用ノ目的
一　製造者ノ住所氏名（名稱）
一　檢査ヲ受クヘキ場所
一　檢査ヲ受クヘキ豫定年月日

右檢査及依頼候也

年　月　日

現住所
職業
氏　名（名稱）印

農林大臣　殿

備考
一　發動機使用ノ目的ハ成ヘク詳細ニ之ヲ記載スヘシ
二　檢査ヲ受クヘキ場所カ其ノ發動機ノ製造工場以外ナルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二號

此處ニ收入印紙ヲ貼附シ消印スヘカラス

漁業用發動機檢査手數料納付書

貼附セル收入印紙ノ額

何年何月何日附及依頼候漁業用發動機檢査手數料及納付候也

年　月　日

現住所
氏　名（名稱）印

農林大臣　殿

備考
本納付書ハ之ヲ檢査依頼書ト綴合セ其ノ間ニ契印スヘシ

第三號

漁業用發動機檢査成績書

檢査依頼者		檢査番號	
發動機製造者		檢査年月日	

		仕樣書	檢査成績
發動機型式			
純馬力			
燃料消費量			
燃料種類			
回轉數			
氣筩	數		
	徑		
	衝程		
曲拐軸徑			
吸鍔栓徑			
接續鋲徑			
螺旋推進器	螺距		
	直徑		
	翅數		
反轉裝置			

漁業用發動機檢査官吏　官　氏　名

檢査ノ結果仕樣書ニ適合スルモノト認メ之ヲ交付ス

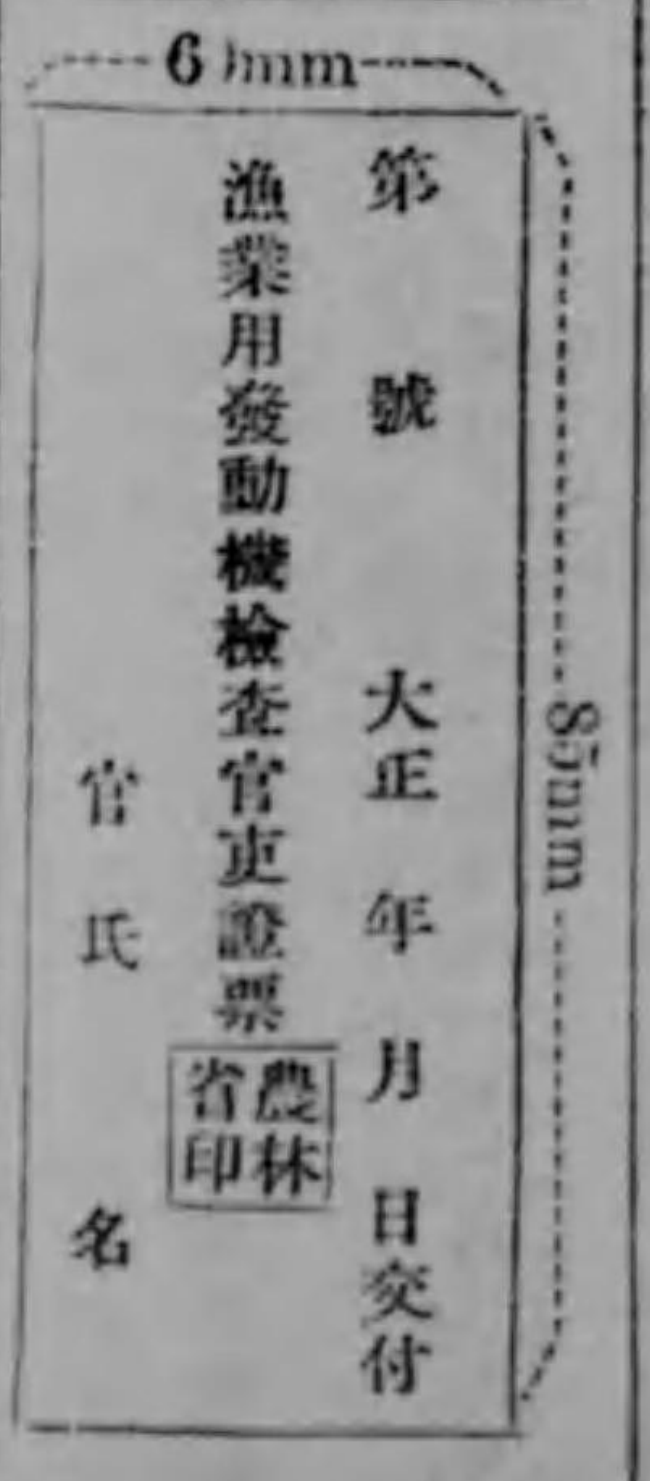
年　月　日

農林省印

（大正十五年六月二十九日　農林省告示第百七十七號）

漁業用發動機檢査規則第二條ノ證票及第七條ノ極印ノ樣式竝極印ノ使用方法左ノ通定ム

一　證票ノ樣式



第　號

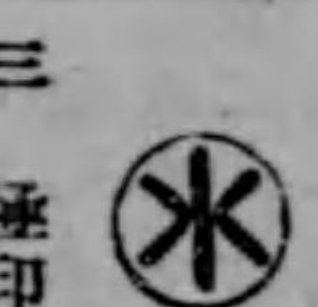
漁業用發動機檢査官吏證票

大正　年　月　日交付

官　氏　名

農林省印

二　極印ノ樣式



三　極印ノ使用方法

極印ハ檢査番號ト共ニ發動機ノ左ノ部分ニ之ヲ打込ムモノトス

氣筩上端　一箇所
吸鍔上端　一箇所
曲拐軸腕　一箇所
架構　一箇所
飛輪　一箇所

●漁業用發動機檢査手數料令

（大正十五年六月二十五日　勅令第二百二十五號）

朕漁業用發動機檢査手數料令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、農林大臣副署）

漁業用發動機檢査手數料令

第一條　農林省ニ漁業用發動機ノ檢査ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ
一　計畫純馬力五馬力以下ノモノ　毎一臺　三圓
二　計畫純馬力五馬力ヲ超エ十馬力以下ノモノ　毎一臺　五圓
三　計畫純馬力十馬力ヲ超エ五十馬力以下ノモノ　毎一臺　七圓
四　計畫純馬力五十馬力ヲ超ユルモノ　毎一臺　十圓

第二條　檢査ノ依頼ヲ爲ス者檢査成績書ノ複本ヲ請求スルトキハ一通毎ニ二十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●漁業監督吏員ニ關スル件

（明治四十四年三月二十四日　勅令第二十七號　改正　大正一〇年第一七號）

朕漁業監督吏員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務大臣副署）

第一條　漁業監督吏員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
一　農商務省及道廳府縣郡竝島廳ニ於テ漁業ニ關スル事務ヲ掌理スル官吏
二　漁業ニ關スル事務ヲ掌理スル地方産業職員

第二條　前條ノ漁業監督吏員ハ農商務省ノ官吏ニ付テハ農商務大臣、其ノ他ノ者ニ付テハ地方長官之ヲ命ス

第三條　北海道廳長官又ハ府縣知事ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ特ニ漁業監督吏員ヲ置クコトヲ得

附　則

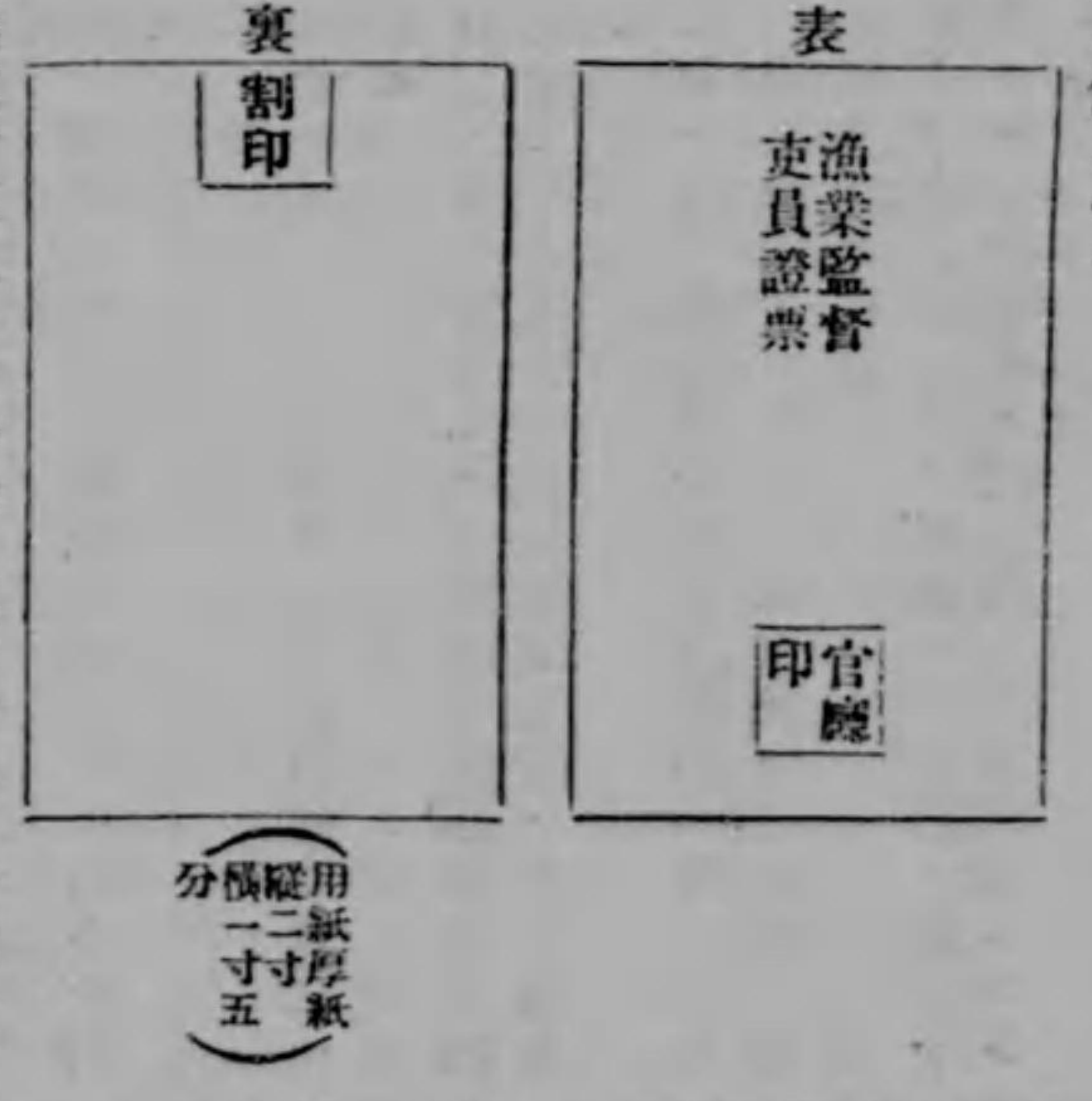
本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年三月二十四日　農商務省訓令第四號　改正　大正元年第六號）

道廳
府縣

明治四十四年勅令第二十七號ニ依リ漁業監督吏員ヲ命免シタルトキハ其ノ旨ヲ公示スヘシ

漁業監督吏員ニ携帶セシムヘキ證票ハ左ノ樣式ニ依ルヘシ



漁業監督吏員ニハ手帳ヲ交付シ之ニ實地臨檢ニ關スル要領ヲ記載セシムヘシ

●漁業令

（明治四十四年六月三日　制令第六號）

漁業令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

漁業令

第一條　本令ニ於テ漁業ト稱スルハ公共ノ用ニ供スル水面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ヲ採捕シ又ハ養殖スル業ヲ謂ヒ漁業權ト稱スルハ朝鮮總督ノ免許ヲ受ケ漁業ヲ爲スノ權利ヲ謂フ

本令ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁村ノ經營又ハ維持ノ爲必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ與ヘス

第四條　前二條ノ外免許ヲ受ケシムル必要アル漁業ノ種類ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五條　第三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル漁業權者ハ從來ノ慣行ニ依リ其ノ漁場ニ於テ漁業ヲ爲ス者ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ漁業權者ハ入漁者ニ對シ地方長官ノ認可ヲ受ケ入漁料ヲ徵收スルコトヲ得

第六條　漁業權ノ存續期間ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ十年以内トシ朝鮮總督之ヲ定ム但シ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十條ノ規定ニ依リ漁業ヲ停止シタル期間ハ漁業權ノ存續期間ニ之ヲ算入セス

第七條　朝鮮總督ハ水産動植物ノ蕃殖保護ノ爲保護區域ヲ設定スルコトヲ得

保護區域内ニ於テハ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ノ制限又ハ禁止ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第八條　漁業權ハ相續、讓渡、共有、抵當又ハ貸付ノ場合ニ於テハ[illegible]コトヲ得但シ相續ノ場合ヲ除クノ外朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ漁業ノ免許ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十條　左ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
一　水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他軍事上又ハ公益上必要アルトキ
二　所定ノ期間内ニ漁業税ヲ納付セサルトキ
三　前條ノ規定ニ依ル制限又ハ條件ニ違反シタルトキ
四　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ免許ヲ取消スコトヲ得
一　錯誤ニ因リ免許ヲ與ヘタルトキ
二　免許ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ漁業ニ著手セス又ハ著手後一年以上休業シタルトキ但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
三　第三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル漁業ニ付漁村ノ維持上水面專用ノ必要ナキニ至リタルトキ

第十二條　捕鯨業又ハ「トロール」漁業ハ特ニ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ付テハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　鯨ヲ處理スル爲根據地ヲ設定セムトスル者ハ一根據地毎ニ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　朝鮮總督ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ命令ニハ犯人ノ所有又ハ所持スル採捕物、製品及漁具ノ沒收竝其ノ沒收スヘキ物件ノ價格ニ相當スル金額ノ追徵ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條　海軍艦艇乘組將校、警察官吏、稅關官吏、稅務官吏又ハ朝鮮總督ノ特ニ指定シタル官吏ハ漁業監督上必要アリト認ムルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ官吏臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ捜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第十六條　一定ノ地區内ニ居住スル漁業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

第十七條　漁業組合ハ漁業權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ又ハ貸付ヲ受ケタル漁業權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十八條　漁業者又ハ水産物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達、水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ水産組合ヲ設クルコトヲ得

第十九條　漁業組合及水産組合ハ法人トス其ノ設立、管理、監督其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十條　漁業權ノ範圍、保護區域又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ノ申請ニ依リ朝鮮總督之ヲ裁決ス

第二十一條　朝鮮總督ハ本令ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　免許ニ依ラスシテ第二條又ハ第四條ノ漁業ヲ爲シタル者

二　漁業ノ條件又ハ漁業ノ制限ニ違反シタル者

三　漁業ノ停止中漁業ヲ爲シタル者

第二十三條　捕鯨業又ハ「トロール」漁業ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ漁業ヲ爲シタル者

二　許可ノ條件、漁業ノ制限又ハ漁業取締ニ關スル命令ニ違反シタル者

三　漁業ノ停止中漁業ヲ爲シタル者

四　第十三條ノ規定ニ違反シタル者

第二十四條　前二條ノ犯罪ニ係ル採捕物及漁具ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

前項ノ漁具犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ行政處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第二十五條　第五條第一項又ハ第八條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十六條　第十五條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢搜索ノ爲ニスル訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條　漁業權ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條　漁業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

附　則

第二十九條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十條　隆熙元年法律第七號捕鯨管理法及同二年法律第二十九號漁業法ハ之ヲ廢止ス

第三十一條　舊漁業法第十六條第一項ノ規定ニ依ル出願者ハ本令ニ依ル免許ノ出願ヲ爲シタル者ト看做ス

前項ノ出願者ハ其ノ出願ニ付許否ノ處分ヲ受クル迄仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　舊法ニ依リ漁業權ヲ有スル者ハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ漁業ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス但シ其ノ漁業權ノ存續期間ハ舊法ニ依リ免許ヲ受ケタル日ヨリ起算ス

第三十三條　舊法ニ依リ登錄ヲ經タル漁業權ノ擔保及貸付ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十四條　本令施行ノ際捕鯨業ヲ爲スノ權利ヲ有スル者ハ本令ニ依リ捕鯨業ノ許可ヲ受ケタル者ト看做シ之ニ關スル條件ハ許可ノ條件トシテ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十五條　外國領海水産組合法ニ依リ設立シタル水産組合ハ本令ニ依ル水産組合ト看做ス

（明治四十五年朝鮮總督府令第十五號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●漁業令施行規則

（明治四十四年六月三日朝鮮總督府令第六十七號）
改正　大正三年第八號、第一五二號、六年第八三號、一〇年第一二號、一四年第一一號

漁業令施行規則左ノ通定ム

漁業令施行規則

第一章　總則

第一條　左ニ掲クル事項ハ地方長官之ヲ行フ

一　漁業令第二條ノ漁業ノ免許（藻類養殖業以外ノ第二種免許漁業ニ關スルモノヲ除ク）

二　漁業令第四條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケシムル漁業ノ免許

三　前二號ノ漁業ニ關スル漁業令第六條、第八條乃至第十一條及第二十條ノ處分（關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳二以上アル場合ニ於ケル漁業令第二十條ノ處分ヲ除ク）

前項第一號及第二號ノ漁業ニシテ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケルモノ及漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルモノニ在リテハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ管轄地方長官ヲ指定ス

漁業令第十一條第一號ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第一條ノ二　本令ニ於テ免許漁業ト稱スルハ漁業令第二條乃至第四條ニ依リ免許ヲ受クヘキ漁業ヲ謂ヒ許可漁業ト稱スルハ同令第十二條及本令ニ依リ許可ヲ受クヘキ漁業ヲ謂ヒ屆出漁業ト稱スルハ免許漁業及許可漁業ニ屬セサル漁業ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ行政官廳ト稱スルハ朝鮮總督ノ免許又ハ許可ヲ受クヘキ漁業ニ付テハ朝鮮總督、地方長官ノ免許又ハ許可ヲ受クヘキ漁業ニ付テハ地方長官、屆出漁業ニ付テハ府尹、郡守又ハ島司ヲ謂フ

第三條　漁業ニ關シ朝鮮總督ニ爲スヘキ出願、申請又ハ屆出ハ其ノ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ其ノ漁場カ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ跨カリ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ其ノ漁場ニ關係最モ多キ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ爲スヘキ出願、申請又ハ屆出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　行政官廳ハ出願、申請若ハ屆出ヲ爲シタル者、漁業者又ハ利害關係人ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條　地方長官ハ漁業者ニ漁場標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第六條　漁業令又ハ本令ニ依ル書類ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ朝鮮總督府官報又ハ行政官廳ノ公布式ニ依リ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル日ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　二人以上共同シテ漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ屆出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

代表者ハ出願及漁業權若ハ漁業ニ付行政官廳ニ對シ其ノ共同者ヲ代表ス

代表者ノ變更アリタルトキハ遲滯ナク行政官廳ニ屆出ツヘシ其ノ屆書ニハ免許狀又ハ許可狀アルトキハ之ヲ添附スヘシ

第八條　行政官廳ハ代表者ノ變更ヲ命シ又ハ之ヲ指定スルコトヲ得

第九條　漁業ノ免許ヲ與フルトキハ免許狀ヲ、漁業ノ許可ヲ與フルトキハ許可狀及鑑札ヲ、漁業ノ屆出ヲ受理シタルトキハ鑑札ヲ下付ス

許可狀又ハ鑑札ノ有效期間ハ許可狀又ハ鑑札ノ日附ヨリ五年以内トシ行政官廳之ヲ定ム

許可狀又ハ鑑札ハ漁業ニ從事スル間之ヲ漁船ニ備置キ又ハ携帶スヘシ

許可狀又ハ鑑札ハ之ヲ讓渡シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第十條　漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケタル者其ノ免許又ハ許可ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許狀又ハ許可狀竝免許漁業ノ漁場區域ヲ變更セムトスル場合ニ在リテハ變更ノ個所ヲ明示シタル漁場圖ヲ添附シ行政官廳ニ願出ツヘシ

第十一條　漁業著手ノ延期又ハ休業ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ期間ヲ定メ事由ヲ具シ免許狀又ハ許可狀ヲ添附シテ行政官廳ニ願出ツヘシ

第十二條　漁業著手ノ延期又ハ休業ノ許可ヲ受ケタル者許可ノ期間滿了前漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク行政官廳ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ許可ハ爾後其ノ效力ヲ失フ

第十三條　免許狀又ハ許可狀ニ記載セラレタル漁業者其ノ氏名、名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキハ免許狀又ハ許可狀ヲ添附シ行政官廳ニ其ノ訂正ヲ申請スヘシ

第十四條　免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ其ノ再下付ヲ申請スヘシ其ノ毀損ニ係ルトキハ免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ添附スヘシ

第十五條　免許狀若ハ許可狀無效ニ歸シ又ハ漁業權ヲ拋棄シ若ハ許可漁業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ免許狀又ハ許可狀ヲ返納スヘシ

漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキハ其ノ相續人又ハ清算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條　漁業令第二十條ニ依リ裁決ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ證據書類ヲ添附シテ行政官廳ニ申請ヲ爲スヘシ

一　申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所

二　申請ノ目的及理由

三　立證ノ方法

申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ申請書及證據書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第二章　免許漁業

第十七條　免許漁業ヲ分チテ左ノ六種トス

一　第一種免許漁業　一定ノ水面ニ漁具ヲ建設又ハ敷設シ一定ノ漁期間之ヲ定置シテ爲ス漁業

二　第二種免許漁業　一定ノ水面ヲ區劃シテ養殖ヲ爲ス漁業

三　第三種免許漁業　海濱一定ノ場所ニ於テ一定ノ漁期間繰返シ漁網ヲ曳揚ケ又ハ曳寄セテ爲ス漁業

四　第四種免許漁業　一定ノ水面ニ於テ一定ノ漁期間繰返シ漁網ヲ建設又ハ敷設シテ爲ス漁業

五　第五種免許漁業　一定ノ水面ニ魚類ヲ集合セシムル設備ヲ爲シ經營スル漁業

六　第六種免許漁業　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外水面ヲ專用シテ爲ス漁業

前項ノ種類ニ該當スル漁業ノ名稱ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第十八條　左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

一　第一種免許漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域

二　第二種免許漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域

三　第三種免許漁業ニ在リテハ漁網ヲ使用スル區域

四　第四種免許漁業ニ在リテハ漁網ヲ建設シ又ハ敷設スル區域

五　第五種免許漁業ニ在リテハ魚類ヲ集合セシムル區域

六　第六種免許漁業ニ在リテハ專用スル區域

第十九條　同一漁場ニ於テハ同一漁期間同種ノ漁業ヲ免許セス但シ第二種免許漁業乃至第四種免許漁業及第六種免許漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ第二種免許漁業、第五種免許漁業及第六種免許漁業ニ在リテハ漁場毎ニ其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ一漁具毎ニ左ノ事項ヲ具シタル願書ヲ作リ行政官廳ニ願出ツヘシ但シ同人カ同種ノ漁具二以上ヲ聯設セムトスル場合ニ於テハ一願書ヲ以テ出願スルコトヲ得

一　漁業ノ種類及名稱

二　漁場ノ位置及區域

三　採捕物又ハ養殖物ノ種類

四　漁業ノ時期

五　免許ヲ受ケムトスル期間

六　一年間ノ收獲物見込金額

同人カ同一ノ漁場ニ於テ同種ノ漁具二以上ヲ更替使用セムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ方法ヲ附記スヘシ

願書ニハ漁場圖二通ヲ添附シ且第二種免許漁業及第五種免許漁業ニ在リテハ事業計畫書ヲ、第六種免許漁業ニ在リテハ漁村ノ經營又ハ維持ニ關スル計畫書ヲ添附スヘシ

第二十一條　漁業令第五條第二項ニ依リ入漁料徵收ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ入漁料ノ額及徵收方法ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ申請ヲ爲スヘシ

第二十二條　漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ免許狀ヲ添附シ存續期間滿了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ行政官廳ニ申請スヘシ

第二十三條　漁業權ノ讓渡、共有、抵當又ハ貸付ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許狀ヲ添附シテ行政官廳ニ願出ツヘシ

漁業權ヲ相續シタルトキハ遲滯ナク免許狀ヲ添附シ其ノ旨ヲ行政官廳ニ屆出ツヘシ

第二十四條　第七條及第八條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ取得スル者ニ之ヲ準用ス

第二十五條　漁業ノ免許ハ戰時、事變若ハ演習ニ際シ爲シタル陸海軍ノ行動又ハ官廳ノ職務執行ニ因リテ生スル漁業ノ損害ハ漁業權者ノ負擔タルヘキ條件ヲ附セラレタルモノトス

第三章　許可漁業

第二十六條　許可漁業ヲ分チテ左ノ十一種トス

一　第一種許可漁業　捕鯨業

二　第二種許可漁業　「トロール」漁業

三　第三種許可漁業　潛水器漁業

四　第四種許可漁業　鯨族以外ノ海獸漁業

五　第五種許可漁業　[illegible]

六　第六種許可漁業　[illegible]推進機ヲ使用シ[illegible]引曳シテ爲ス漁業（「トロール」漁業ヲ除ク）

七　第七種許可漁業　[illegible]

八　第八種許可漁業　[illegible]桁網[illegible]

九　第九種許可漁業　[illegible]

十　第十種許可漁業　[illegible]

十一　第十一種許可漁業　[illegible]

第二十七條　[illegible]長官ノ許可[illegible]トヲ得ス

第二十七條ノ二　[illegible]キハ朝鮮總督[illegible]ヘキ漁業[illegible]

第二十八條　漁業ノ許可[illegible]毎ニ左ノ事[illegible]若ハ船舶[illegible]シ願出ツ[illegible]

[illegible]

皆ヲ附記スヘシ
一　漁業ノ種類
二　漁場ノ區域
三　漁具ノ名稱
四　漁船ノ種類、肩幅、隻數及其ノ一隻毎ノ乘組人員
五　採捕物ノ種類
六　漁業ノ時期
七　許可ヲ受ケムトスル期間

前項ノ外第六種許可漁業ニシテ肩幅十尺以上ノ漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ漁船ノ積量ヲ記載シ且漁具圖ヲ添附シ第十一種許可漁業ニ在リテハ漁具ノ大サヲ記載スヘシ

第三十一條　第一種許可漁業ハ漁船ノ數ヲ限リ許可シ第三種許可漁業ハ漁場ノ區域ヲ定メ毎區潜水器ノ數ヲ限リ之ヲ許可ス

前項ノ漁船及潜水器ノ定限數竝漁場區域ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第三十二條　漁業令第九條乃至第十一條ノ規定ハ之ヲ第三種許可漁業乃至第十一種許可漁業ニ準用ス

第四章　届出漁業

第三十三條　届出漁業ヲ分チテ左ノ三種トス
一　第一種届出漁業　一漁船三人以上乘組ミ漁網ヲ使用シテ爲ス漁業
二　第二種届出漁業　一漁船三人以上乘組ミ延繩其ノ他釣鈎具ヲ使用シテ爲ス漁業
三　第三種届出漁業　前二號ニ該當セサル漁業

第三十四條　届出漁業ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ府尹、郡守又ハ島司ニ届出テ鑑札ヲ受クヘシ
一　漁業ノ種類
二　漁具ノ名稱又ハ漁業ノ方法
三　採捕物ノ種類
四　漁業ヲ爲スヘキ期間
五　漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ乘組人員

届書ハ漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ漁業ノ種類及漁船毎ニ之ヲ作ルヘシ

第三十四條ノ二　届出漁業ノ鑑札ハ鑑札ヲ受ケタル府、郡又ハ島ヲ管轄スル地方長官ノ管轄區域ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス

第五章　罰則

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第二十七條ノ規定ニ違反シタル者
二　第三種許可漁業乃至第十一種許可漁業ノ許可ノ條件又ハ漁業ノ制限ニ違反シタル者
三　第三種許可漁業乃至第十一種許可漁業ノ停止中漁業ヲ爲シタル者

第三十六條　第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十七條　前二條ノ犯罪ニ係ル採捕物及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ既ニ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ漁具犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ行政處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第四條ニ依ル書類又ハ物件提出ノ命令ニ違反シタル者
二　漁場標識建設ノ命令ニ違反シタル者
三　濫リニ漁場標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者
四　代表者變更ノ届出ヲ爲サス又ハ其ノ代表者變更ノ命令ニ違反シタル者
五　第九條第三項、第四項、第十二條乃至第十五條又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ違反シタル者

附　則

第三十九條　本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十條　本令施行前漁業ニ關シ爲シタル出願、申請又ハ届出ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依リ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十一條　本令施行前ニ受ケタル漁業ノ許可狀又ハ鑑札ハ仍其ノ效力ヲ存續ス

附　則（大正六年朝鮮總督府令第八十三號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第三十三條第一項又ハ第三項ノ届出漁業ニシテ本令施行ノ日ニ於テ許可漁業ニ變更セラレタル漁業ノ鑑札ヲ有スル者ハ鑑札ノ有效期間內漁業ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ迎日灣內ニ於ケル鯨漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四種許可漁業及第十種許可漁業ニ在リテハ漁場ノ區域、第十一種許可漁業ニ在リテハ漁場ノ區域及漁具ノ大サヲ遲滯ナク行政官廳ニ届出ツヘシ

附　則（大正十年朝鮮總督府令第十二號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前漁業ニ關シ爲シタル出願、申請又ハ届出ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依リ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前ニ受ケタル漁業ノ許可狀又ハ鑑札ハ仍其ノ效力ヲ存續ス

●漁業ニ關スル手數料

（明治四十四年八月五日朝鮮總督府令第八十九號）

漁業ニ關スル手數料ノ件左ノ通定ム

第一條　漁業ニ關シ出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　漁業免許願	毎一件	二圓
二　漁業權存續期間更新ノ申請	毎一件	二圓
三　漁業權ノ讓渡、共有、抵當又ハ貸付ノ許可願	毎一件	二圓
四　免許漁業ノ著手延期又ハ休業ノ許可願	毎一件	二圓
五　漁業令第二十條ニ依ル裁決ノ申請	毎一件	五圓
六　漁業免許事項ノ變更許可願	毎一件	一圓
七　漁業免許狀ノ訂正又ハ再下付ノ申請	毎一件	五十錢
八　漁業令第五條第二項ニ依ル入漁料徵收ノ認可申請	毎一件	二圓

第二條　手數料ハ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●漁業取締規則

（明治四十四年六月三日朝鮮總督府令第六十八號　改正　大正元年第二七號、二年第八六號、三年第九號、第一五三號、六年第三一號、一〇年第七三號、一五年第四二號）

漁業取締規則左ノ通定ム

漁業取締規則

第一條　左ノ漁網ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ禁止ス但シ鰮、王筋魚、白魚、公魚、鱵、鰆、沙魚、鯖魚、蘇魚、拶雙魚、鮖、鰻、鱧、海鰻、鰕又ハ鮭等ノ類ノ漁業ニ關スル免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス
一　藻繰網、藻打瀨網、藻滑網、藻曳網、手繰網、打瀨網、漏斗網、鮟鱇網、石首魚繰網、建切網其ノ他之ニ準スヘキ構造ヲ有スル漁網ニシテ網目方五分以下ノモノ
二　綟子網地其ノ他ノ織網地ニシテ五寸ニ付二十六目ヲ超ユルモノ又ハ網目網地ニシテ五寸ニ付二十五節ヲ超ユルモノヲ用井テ構造シタル漁網

麗水海灣（全羅南道麗水郡斗南面海島山末ヨリ大島西端ヲ經テ同郡加引梢南端ニ至ル線、全羅南道光陽郡大斤洞南端ヨリ猫島西端及手將島西端ヲ經テ同郡馬水半島、土山里西北端ニ至ル線及麗水半島浦東端ヨリ梧桐島ヲ經テ慶尙南道南海島蜂山頂ニ至ル線ヲ以テ區劃シタル海面）ニ於テハ貝桁打瀨網ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ禁止ス

第二條　水產動植物ヲ採捕スル爲有毒物、爆發物又ハ電流ヲ使用スルコトヲ禁止ス但シ鯨族其ノ他海獸漁獵ノ爲爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第三條　汽船（石油發動機ヲ用ヒテ航行スル船舶ヲ含ム）「トロール」又ハ總噸數二十噸以上ノ帆船「トロール」ヲ使用スル漁業ハ左ノ區域內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ禁止ス

豆滿江口中央ヨリ慶尙北道鬱陵島東端、東經百三十度ト北緯三十五度トノ交叉點、慶尙南道統營郡鴻島南端、全羅南道濟州島來魚串（ドウカル角）南東十五海里ノ點、同島琴瑟浦角（ロネーリ角）南西十五海里ノ點、全羅南道務安郡黑山島西端、黃海道長淵郡白翎島西端及平安北道龍川郡薪島西端ヲ經テ鴨綠江口中央ニ至ル線內

第四條　汽船「トロール」又ハ總噸數二十噸以上ノ帆船「トロール」ヲ使用シテ得タル採捕物ハ乾製鹽藏其ノ他加工シタルモノヲ除クノ外朝鮮內ニ於テ之ヲ賣買スルコトヲ禁止ス但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ乾製鹽藏其ノ他加工ヲ爲サムトスル者ニ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ二　前條ニ規定スル採捕物ノ乾製鹽藏其ノ他加工ヲ爲サムトスル者ハ資本金額、加工ノ場所、加工品ノ種類及一年間ノ生產見込高ヲ記載シタル願書ヲ朝鮮總督ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第五條乃至第八條　削除

第九條　鯨ハ許可ヲ受ケタル根據地以外ノ場所ニ於テ之ヲ處理スルコトヲ禁ス

第九條ノ二　潜水器漁業ハ潜水器一臺ニ付同時ニ潜水夫二人以上ノ操業ヲ禁止ス

第九條ノ三　漁船ヲ使用シテ鮑、海鼠及蠑螺ヲ採捕スル裸潜漁業ハ漁船一艘ノ乘組員十五人ヲ超ユルコトヲ禁止ス

第十條　左ノ各號ニ揭クル免許漁業ハ各其ノ定ムル區域內ヲ以テ其ノ漁場ノ保護區域トス
一　大敷網漁業、大臺網漁業、角網漁業ノ類
甲　身網部ノ長サ（網持口ヨリ魚取部ニ至ル沖側浮子部ヲ謂フ以下同シ）百五十間以上ノモノニ在リテハ垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ三百間延長シタル線ノ前面千五百間、後面二百間ノ水面
乙　身網部ノ長サ百二十間以上百五十間未滿ノモノニ在リテハ垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ二百間延長シタル線ノ前面千二百間、後面二百間ノ水面
丙　身網部ノ長サ八十間以上百二十間未滿ノモノニ在リテハ垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ二百間延長シタル線ノ前面千間、後面二百間ノ水面
丁　身網部ノ長サ五十間以上八十間未滿ノモノニ在リテハ垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ百間延長シタル線ノ前面八百間、後面百間ノ水面
戊　身網部ノ長サ五十間未滿ノモノニ在リテハ垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ百間延長シタル線ノ前面六百間、後面百間ノ水面
二　小臺網漁業、小敷網漁業、淺矢漁業、杙矢漁業ノ類
甲　垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ百間延長シタル線ノ前面八百間、後面百間ノ水面
乙　單ニ袖垣網ノミヲ有スルモノニ在リテハ兩袖垣網外方各端ヲ連結シタル線及其ノ線ヲ各端ヨリ百間延長シタル線ノ前面五百間、後面身網部及垣網部ニ添フ百間ノ水面
三　防簾漁業、擧網漁業、落網漁業、枡網漁業ノ類
甲　垣網（簀、欄ノ類ヲ以テ網ニ代フルモノヲ含ム以下同シ）ノ地方末端ヨリ身網（簀、欄ノ類ヲ以テ網ニ代フルモノヲ含ム以下同シ）部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ八十間延長シタル線ノ前面三百間、後面五十間ノ水面
乙　單ニ袖垣網ノミヲ有スルモノニ在リテハ兩袖垣網ノ外方各端ヲ連結シタル線及其ノ線ヲ各端ヨリ五十間延長シタル線ノ前面二百間以內、後面身網部及垣網部ニ添フ五十間ノ水面
四　前三號ノ免許漁業ノ漁具ニシテ兩口（垣網ノ左右ニ網口ヲ備フルモノヲ謂フ）ノモノニ在リテハ垣網ノ地方末端ヨリ身網部ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ前各號ニ定ムル沖合ニ延長シタル線ノ左右兩面ニ於テ前各號ニ於テ定メタル兩面間數ヲ合計シ各其ノ二分ノ一ノ水面
五　羽瀨漁業、魚箭漁業、魞漁業ノ類
兩袖垣網ノ外方各端ヲ連結シタル線及其ノ線ヲ各端ヨリ三十間延長シタル線ノ前面二百間、後面身網部及垣網部ニ添フ三十間ノ水面
六　囊張網漁業、駐木網漁業、待網漁業ノ類
網口ノ兩端ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ各端ヨリ二十間延長シタル線ノ前面二百間、後面網ニ添フ二十間ノ水面
七　地曳網漁業、揮羅網漁業、船曳網漁業、鯛地漕網漁業、瀨曳網漁業、藻曳網漁業、防陣網漁業ノ類
漁場區域沖合線及其ノ線ヲ各端ヨリ百間延長シタル線ノ沖合三百間、漁場區域兩側線ノ側面各百間ノ水面
八　曲建網漁業、魴魚網漁業ノ類
漁網ノ地方末端ヨリ漁網ノ沖側中央ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ沖合ニ三十間延長シタル線ノ前面三百間、後面三十間ノ水面
九　敷網漁業ノ類
漁場區域ノ周圍二百間ノ水面
十　建干網漁業、掛網漁業、遮網漁業、遮簾漁業、簗漁業、魚堰漁業、設網漁業、旺網漁業、抹杖木絲網漁業ノ類
漁具ノ兩端ヲ見通シタル線及其ノ線ヲ各端ヨリ三十間延長シタル線ノ前面二百間、後面三十間ノ水面
十一　飼付漁業ノ類
鰤ノ飼付ニ在リテハ漁場區域ノ周圍五百間ノ水面、其ノ他ノ飼付ニ在リテハ漁場區域ノ周圍二百間ノ水面
十二　鰕漬漁業ノ類
漬木ノ周圍百五十間ノ水面
十三　築磯漁業ノ類
漁場區域ノ周圍五十間ノ水面

第十一條　前條ノ保護區域內ニ於テハ免許ニ依ル漁業者ノ就業中左ノ漁業ヲ爲スコトヲ禁止ス但シ他ノ漁業權ノ行使ヲ妨ケス
一　漁業權者ノ目的トスル漁獲物ト同一種類ノモノヲ漁獲スル漁業
二　魚道ヲ遮斷シテ爲ス漁業
三　火光ヲ利用シ其ノ他魚類ヲ誘集スル方法ニ依リテ爲ス漁業
四　音響其ノ他ノ方法ヲ用ヒ魚類ヲ追驅シテ爲ス漁業

前項ノ規定ハ漁業權者ノ承諾ヲ受ケ又ハ地方長官ノ認定シタル慣行ニ依リ漁業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セス

第十一條ノ二　漁業令第五條ニ依ル入漁者カ第六種免許漁業ノ制限、條件若ハ漁業權者カ水產動植物ノ蕃殖保護ノ爲定メタル漁業權ノ行使方法ニ抵觸シテ漁業ヲ爲シタルトキ又ハ漁業令第十條ニ依ル漁業ノ停止中漁業ヲ爲シタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

第十二條　漁撈又ハ養殖ノ調查又ハ試驗ヲ爲ス場合ニハ第十二條ノ二乃至第十二條ノ四ヲ除クノ外本令ノ規定ヲ適用セス

養殖業者カ養殖ニ必要ナル種苗ヲ採捕スル場合亦前項ニ同シ

第十二條ノ二　漁撈又ハ養殖ノ調查又ハ試驗ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル計畫書及漁撈場又ハ養殖場ノ圖面ヲ添附シ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ受クヘシ
一　調查又ハ試驗ヲ要スル事由
二　漁撈場又ハ養殖場ノ位置及區域
三　漁撈又ハ養殖ノ目的物ノ種類
四　調查又ハ試驗ノ期間
五　調查又ハ試驗ノ方法

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條ノ三　前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル漁撈場ニシテ漁具ヲ定置スルモノ又ハ養殖場ニ於テハ調查又ハ試驗ノ期間ニ限リ妨害ト爲ルヘキ漁業ヲ爲スコトヲ禁止ス調查又ハ試驗ノ爲國カ設定シタル漁撈場ニシテ漁具ヲ定置スルモノ又ハ養殖場ニ付亦同シ

第十二條ノ四　地方長官ハ本令ニ規定スルモノノ外朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十三條　左ニ揭クル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第二條ノ規定ニ違反シタル者
二　第三條ノ規定ニ違反シ漁業ヲ爲シタル「トロール」船ノ船長
三　第八條ノ規定ニ違反シ鯨ヲ捕獲シタル捕鯨船ノ砲手

左ニ揭クル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第一條、第九條ノ二、第九條ノ三、第十一條若ハ第十二條ノ三ノ規定ニ違反シタル者

二　「トロール」漁業者ニ非スシテ第四條ノ規定ニ違反シタル者

三　許可ヲ受ケスシテ第四條ニ規定スル採捕物ノ乾製、鹽藏其ノ他加工ヲ爲シタル者

四　第十一條ノ二ニ依リ入漁ヲ拒マレタルニ拘ラス入漁シタル者

五　本令ノ規定ニ違反シテ取得シタル採捕物ヲ情ヲ知リテ賣買、交換シ又ハ賣買、交換ノ委託ヲ受ケタル者

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十四條　前條ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル採捕物及漁具ハ之ヲ沒收シ仍同條第一項第一號ノ犯罪ニ係ルトキハ情狀ニ因リ漁船ヲ沒收スルコトアルヘシ

前項ノ物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

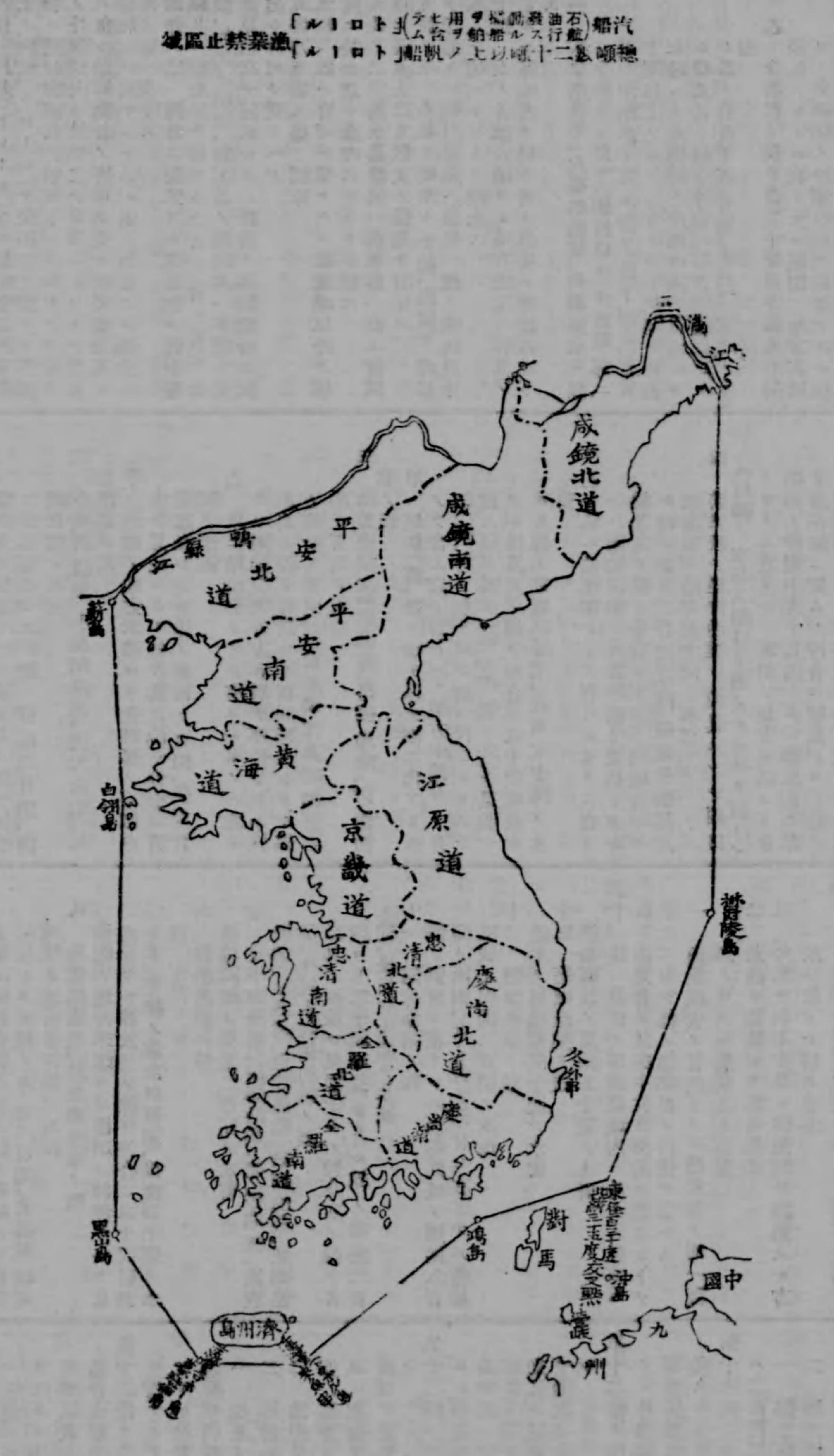
第十五條　水產動植物ノ採捕ニ供スルノ目的ヲ以テ有毒物又ハ爆發物ヲ製造シ所持シ又ハ販賣シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ第二條但書ニ依ル爆發物ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則

第十六條　本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　本令施行ノ際現ニ第一條ニ揭クル漁具ヲ使用シテ漁業ヲ爲ス者ニハ本令施行ノ日ヨリ一年間同條ノ規定ヲ適用セス



●朝鮮總督府及道府郡島ニ於ケル漁業監督官吏指定

（明治四十四年八月五日 朝鮮總督府告示第二百四十九號）
改正　大正一一年第二二三號

朝鮮總督府及道府郡島ニ於テ漁業ニ關スル事務ヲ掌理スル官吏ヲ以テ漁業令第十五條ニ依ル漁業監督官吏ニ指定ス

●漁業法施行規則

（大正十三年一月十七日 臺灣總督府令第十一號）

漁業法施行規則左ノ通相定ム

漁業法施行規則

第一章　總則

第一條　漁業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ハ其ノ漁場ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ臺灣總督ニ之ヲ爲スヘシ

一　專用漁業ニ關スルトキ
二　入漁權ニ關スルトキ
三　二州、廳以上ニ跨レル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
四　漁場ノ管轄官廳ノ明確ナラサル漁業ニ關スルトキ
五　第十五條第一號、第二號及第四號ノ漁業ニ關スルトキ
六　第三十五條第一項第四號及第八號乃至第十號ノ漁業ニ關スルトキ

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ臺灣總督ハ管轄官廳ヲ指定スルコトヲ得臺灣總督ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ

第二條　臺灣總督ニ出願、申請又ハ屆出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル知事又ハ廳長ヲ經由スヘシ但シ漁場カ二州、廳以上ニ跨リ又ハ漁場ノ管轄官廳明確ナラサルトキハ住所地ノ知事又ハ廳長ヲ經由スヘシ

第三條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ屆出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若クハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四條　住所又ハ居所ノ不分明其他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第五條　本令ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス

第六條　漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其水面又ハ敷地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ之ヲ出願スヘシ但シ現ニ漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業ヲ免許シタル行政官廳ニ之ヲ爲スヘシ

願書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添付スヘシ

一　許可ヲ受ケムトスル事由書
二　占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面
三　許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面
四　漁業權ノ設定アルトキハ其漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第七條　行政官廳前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ之ヲ公告シ若漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第八條　行政官廳ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第九條　二人以上共同シテ漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケムトスルトキハ內一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ屆出又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

前項ノ規定ニ依リ代表者ノ屆出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第十條　代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

代表者ノ變更ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條　代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス

前二條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許ヲ受ケタル漁業權又ハ許可ヲ受ケタル漁業ニ付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看做ス

第十二條　第九條、第十條及前條第一項ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第十三條　漁業法及本令ニ依リ差出スヘキ書類ハ別記書式ニ依ルヘシ

第二章　免許漁業

第十四條　免許漁業ヲ分チテ左ノ四種トス

一　定置漁業　漁具ヲ定置シテ爲ス漁業
二　區劃漁業　水面ヲ區劃シテ爲ス漁業
三　特別漁業　第十七條各號ニ揭クル漁業
四　專用漁業　他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業

第十五條　定置漁業ノ種類左ノ如シ

一　臺網類漁業　敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
二　落網類漁業　落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
三　建網類漁業　曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
四　出網類漁業　垣網ヲ土俵若クハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
五　張網類漁業　嚢網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ
六　魞簗類漁業　一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ

第十六條　區劃漁業ノ種類左ノ如シ

一　第一種　一定ノ區域內ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ篊ヲ建設シテ爲ス養殖業
二　第二種　土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域內ニ於テ爲ス養殖業
三　第三種　前二號ノ外一定ノ區域內ニ於テ爲ス養殖業

第十七條　左ニ揭クル漁業ハ知事又ハ廳長ノ免許ヲ受クヘシ

一　第一種　一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業
二　第二種　一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
三　第三種　一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
四　第四種　一定ノ網場ヲ有スル嚢待網漁業
五　第五種　一定ノ水面ニ於テ餌付ヲ爲ス漁業
六　第六種　一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鰡漁業
七　第七種　一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業
八　第八種　一定ノ水面ニ石堤ヲ築キテ爲ス漁業

第十八條　左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

一　定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
二　區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
三　專用漁業ニ在リテハ專用スル區域
四　特別漁業中第一種ニ在リテハ追込場ノ區域第二種ニ在リテハ網ノ使用區域、第三種又ハ第四種ニ在リテハ網揚ノ區域、第五種ニ在リテハ餌付ヲ爲ス區域、第六種ニ在リテハ漬場ノ區域、第七種ニ在リテハ築磯ノ區域、第八種ニ在リテハ石堤ニ依リ圍マレタル區域

第十九條　水產動植物ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價値ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第二十條　漁業ノ免許ハ市街庄及市街庄組合ニ之ヲ與ヘス

第二十一條　第十九條第一項及第二項ノ規定

ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十二條　地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願スルコトヲ得

第二十三條　漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
二　漁獲物ノ種類
三　漁業ノ時期
四　漁業權ノ存續期間

第二十四條　前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ

前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第二十五條　免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ免許ノ願書ニ添附スヘシ

第二十六條　漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　免許番號
二　免許ノ年月日
三　漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
四　漁業ノ位置
五　漁業ノ種類及名稱
六　漁獲物ノ種類
七　漁業ノ時期
八　漁業權ノ存續期間
九　免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項

第二十七條　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作リ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ若登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尚其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第二十八條　漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作リ存續期間滿了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第三十條　漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且遲滯ナク登錄シタル權利者ニ通知スヘシ但シ知事又ハ廳長ノ免許シタル漁業ニ關シ臺灣總督ノ爲シタル處分ノ通知ハ知事又ハ廳長之ヲ爲スヘシ

第三十一條　漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ知事又ハ廳長漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條　漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ臺灣總督ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、抛棄ヲ爲ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十三條　免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

休業認可ノ期間內漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第三十四條　漁業權ヲ抛棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ届出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ届出アリタルトキハ行政官廳ハ之ヲ公告スヘシ

第三章　許可漁業

第三十五條　左ニ揭クル漁業ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　捕鯨業
二　「トロール」漁業
三　潜水器漁業
四　珊瑚漁業
五　穴釣漁業
六　鰹釣漁業
七　連子鯛漁業
八　機船旋網漁業
九　機船底曳網漁業
十　機船流網漁業

前項許可期間ハ第一號及第二號ノ漁業ニ在リテハ許可ノ日ヨリ十年內、第三號乃至第十號ノ漁業ニ在リテハ五年內トシ行政官廳之ヲ定ム

第三十六條　本令ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ行政官廳ニ出願スヘシ第二號、第五號及第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由書竝許可狀ヲ添附シ其ノ訂正ヲ受クヘシ

一　漁業ノ名稱
二　操業ノ區域
三　漁船ノ種類及名稱
四　漁獲物ノ種類
五　漁業ノ時期
六　許可ノ期間
七　漁獲物陸揚港及根據地
八　漁船ノ外板及船骨材料、機關ノ種類及數（十五噸未滿ノ機船ニ限ル）、實馬力、最强速力、船用石炭庫又ハ油槽ノ容積

前項第七號及第八號ノ事項ハ前條第一項第一號、第二號及第九號ノ漁業許可出願ニ限リ記載スヘシ

第三十七條　漁業ノ許可ヲ與フルトキハ別記書式ニ依リ許可狀ヲ下付ス

許可狀ハ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ス

漁業者ニシテ其ノ氏名、名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ船舶件名書記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ許可狀ヲ添ヘ行政官廳ニ其ノ訂正ヲ申請スヘシ

船舶件名書記載事項ニ變更ヲ生シ許可狀ノ訂正ヲ申請スルトキ又ハ第三十五條第一項第一號、第二號又ハ第六號乃至第十號ノ漁業許可ヲ出願スルトキハ船舶國籍證書若ハ船舶檢查證書又ハ船鑑札アルトキハ各其ノ寫ヲ添附スヘシ

許可狀ハ漁業ニ從事スル間漁船ニ備ヘ置キ又ハ携帶スヘシ但シ訂正若ハ其他ノ事由ニ依リ官廳ニ提出シタル場合ハ所轄郡守、市尹又ハ支廳長ノ證明ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十八條　許可狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政官廳ニ再下付ヲ申請スヘシ其ノ毀損ニ係ルトキハ許可狀ヲ添附スヘシ

第三十九條　許可狀無效ニ歸シ又ハ許可漁業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ許可狀ヲ返納スヘシ

漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキハ其ノ相續人又ハ清算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條　漁業法第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ第三十五條ノ漁業ニ之ヲ準用ス

第四章　土地ノ使用

第四十一條　漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

一　土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、地番、地目及面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的、時期及期間
二　立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第四十二條　前條ノ出願ヲ許可シタル行政官廳ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告ス

第四十三條　漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲ニモ效力ヲ有ス

第四十四條　漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、地番、地目、面積及現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十五條　第四十一條及第四十四條ノ行政官廳ハ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル知事又ハ廳長トス但シ土地又ハ立木竹若ハ土地ノ所在地ト漁場トヲ管轄スル知事又ハ廳長異ナルトキ又ハ漁場ヲ管轄スル知事又ハ廳長明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ臺灣總督トス

前項但書ノ場合ニ於テハ臺灣總督ハ管轄知事又ハ廳長ヲ指定スルコトヲ得

第四十六條　漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地又ハ支障木竹若ハ障碍物ノ所在地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ之ヲ出願スヘシ

第四十七條　漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障碍物ヲ除去セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第五章　蕃殖保護及漁業取締

第四十八條　漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ試驗ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス養殖、學術研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十九條　水產動植物ヲ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第五十條　漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水產動植物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

第五十一條　遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ行政官廳ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十二條　行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域ヲ設ケタルトキハ其ノ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ漁業ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十三條　知事又ハ廳長禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建設スヘシ

第五十四條　漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第五十五條　臨檢、搜索及差押ニ關シテハ大正十二年府令第十三號ノ規程ヲ準用ス

第六章　裁決

第五十六號　漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ臺灣總督ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又ハ漁業權者入漁權者間ノ爭ニ關スルトキハ臺灣總督ニ之ヲ爲スヘシ

第五十七條　裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
二　申請ノ目的及理由
三　立證

申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ

第五十八條　申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第五十九條　行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第六十條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第七章　罰則

第六十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役、禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ第三十五條第一項第三號乃至第十號ノ漁業ヲ爲シタル者
二　第四十九條又ハ第五十條ノ規定ニ違反シタル者
三　禁漁區內ニ於テ其ノ禁止シタル水產動植物ヲ採捕シタル者

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三十一條ノ規定ニ違反シタル者
二　第三十五條第一項第三號乃至第八號又ハ第十號ノ漁業許可ニ當リ附シタル條件又ハ制限ニ違反シタル者
三　同上漁業ニ付漁業ノ停止中漁業ヲ爲シタル者
四　禁漁區又ハ第八條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者

第六十三條　漁業法第五十八條第二項ノ規定ハ第六十一條竝前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三十三條第一項、第二項、第三十四條第一項、第三十七條第二項、第三項、第五項、第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ違反シタル者
二　第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依リ申請ヲ爲シタルモノト看做ス

臺灣漁業規則施行規則ハ之ヲ廢止ス

（別記書式略ス）

●臺灣漁業登錄規則

（大正十三年一月十七日臺灣總督府令第十三號）

臺灣漁業登錄規則左ノ通相定ム

臺灣漁業登錄規則

第一條　臺灣ニ於ケル漁業登錄ニ關シテハ漁業登錄令竝漁業登錄令施行規則ニ依ル但シ同令中行政訴訟及漁業權ノ信託ノ登錄ニ關スル規定ヲ除ク

第二條　前條ノ規定中土地收用法トアルハ臺灣土地收用規則、區裁判所トアルハ地方法院單獨判官又ハ地方法院支部單獨判官、主務大臣又ハ農商務大臣トアルハ臺灣總督、市町村トアルハ市街庄、市町村長トアルハ市尹街庄長トス

第三條　本令ニ依リ差出スヘキ書類ハ別記書式ニ依ルヘシ

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記書式略ス）

●漁業ニ關スル出願申請手數料

（大正十三年一月十七日臺灣總督府令第十四號）

漁業ニ關スル出願申請手數料左ノ通相定ム

漁業ニ關スル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　漁業法第四條又ハ第六條ニ依ル漁業ノ免許願	毎一件	金三圓
二　漁業法第五條ニ依ル漁業ノ免許願	毎一件	金五圓
三　漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可願	毎一件	金二圓
四　地先水面專用ノ漁業權ノ處分ノ認可申請	毎一件	金二圓
五　漁業權存續期間ノ更新申請	毎一件	金三圓
六　免許漁業ノ休業ノ認可申請	毎一件	金一圓
七　漁業法第三十九條乃至第三十一條ニ依ル許可願	毎一件	金二圓
八　漁業法第三十五條ノ許可願	毎一件	金二十圓
九　漁業法第五十六條ニ依ル裁決ノ申請	毎一件	金五圓
十　漁業法施行規則第三十五條第一項第三號乃至第八號及第十號ノ許可願	毎一件	金二圓
十一　漁業法施行規則第三十五條第一項第九號ノ許可願	毎一件	金十圓
十二　漁業法施行規則第三十六條第二號、第五號、第七號變更ノ許可願	毎一件	金一圓
十三　漁業法施行規則第三十七條第三項ニ依ル訂正申請	毎一件	金五十錢
十四　漁業法施行規則第三十八條ニ依ル再下付ノ申請	毎一件	金一圓
十五　免許漁業原簿閲覽ノ申請	毎一件	金十錢
十六　免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下付ノ申請		
免許漁業原簿ノ謄本	毎一件	金一圓
漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ全部ノ抄本	毎一件	金五十錢
漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ一部ノ抄本	毎一件	金三十錢
漁場圖ノ謄本	毎一件	金五十錢

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ出願又ハ申請ノ手數料ニ關シテハ仍從前ノ金額ニ依ル

大正元年府令第四十五號ハ之ヲ廢止ス

●トロール漁業、機船底曳網漁業及捕鯨業取締規則

（大正十五年三月五日臺灣總督府令第十二號）

トロール漁業、機船底曳網漁業及捕鯨業取締規則左ノ通相定ム

トロール漁業、機船底曳網漁業及捕鯨業取締規則

第一條　本令ニ於テトロール漁業トハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ依リオツタートロール又ハビームトロールヲ使用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ機船底曳網漁業トハトロール漁業ヲ除クノ外螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ依リ手繰網、打瀬網其ノ他ノ底曳網ヲ使用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ捕鯨業トハ爆發物ヲ使用シテ捕鯨ヲ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條　前條ノ漁業ニ使用セムトスル船舶カ建造前又ハ建造中ナルトキハ漁業法施行規則第三十六條第一項第一號乃至第七號ノ事項ヲ記載シタル願書ニ別記第五號樣式ニ依

ル船舶調書ヲ添ヘ豫メ起業ノ認可ヲ受クルコトヲ得

前項ノ認可ヲ受ケタル者認可ノ日ヨリ六月內又ハ特ニ指定シタル期間內ニ起業認可書寫ヲ添ヘ漁業法施行規則第三十六條ノ手續ヲ爲ササルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ巳ムヲ得サル事由ニ依リ延期ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　鯨處理場ヲ設ケムトスル者ハ願書ニ設計圖、設計説明書、設置地及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ其ノ設備ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四條　臺灣總督ニ於テ第一條ノ漁業ノ許可又ハ第二條ノ起業認可ニ關シ必要アリト認ムルトキハ船體及機關ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第五條　第一條ノ漁業ヲ許可シタルトキハ臺灣總督ハ左ノ事項ヲ公告ス其ノ事項ニ付變更ヲ許可シタルトキ亦同シ

一　許可番號
二　許可年月日
三　許可ヲ受ケタル者ノ氏名若ハ名稱及住所
四　操業ノ區域
五　漁業ノ名稱
六　漁獲物ノ種類
七　漁業ノ時期
八　許可期間
九　漁獲物陸揚港及根據地
十　條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項

第六條　臺灣總督必要アリト認ムルトキハ第一條ノ漁業ニ付許可スヘキ船數ヲ制限スルコトアルヘシ

前項ノ制限ハ之ヲ告示ス

第七條　第一條ノ漁業ノ許可ヲ受ケタル者死亡又ハ解散シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ其ノ相續人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ依リテ設立シタル會社カ相續又ハ合併ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日以內ニ許可ノ狀書換ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ起業ノ認可ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第八條　第一條ノ漁業ニ使用スル船舶沈沒又ハ之ヲ讓渡、貸付シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

他人ノ船舶ヲ借入レ第一條ノ漁業ヲ爲ス者其ノ船舶ヲ返還シタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ第一條ノ漁業ヲ爲ス者カ他ノ同一ノ漁業ヲ爲ス者ヨリ其ノ漁業ニ使用スル船舶ヲ讓受ケ若ハ借受ケ又ハ貸付シタル船舶ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テ讓受ケ、借受ケ又ハ返還ヲ受ケタルコトヲ證スル書類及許可狀ヲ添ヘ其ノ日ヨリ三十日以內ニ許可狀ノ書換ヲ申請シタルトキハ之ヲ適用セス

第九條　機船底曳網業者其ノ使用スル船舶一時的故障ノ爲他ノ許可ヲ受ケタル船舶ト組合セ操業セムトスルトキハ期間ヲ定メ臺灣總督ニ屆出ツヘシ但シ組合セ期間二月以上ニ亘ル場合ハ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第十條　トロール漁業ヲ營ム船舶ハ長、幅及深ノ相乘積三萬以上、總噸數二百噸以上ノ鋼製ニシテ三千七百四キロメートル（二千浬）以上ノ航走ニ要スル專用石炭庫又ハ油槽ヲ備ヘ最强速力二十キロメートル三七二（十一節）以上タルコトヲ要ス

前項船舶ハ特別ノ補强構造並船型ノ關係ニ依リ强力及復元力充分ナリト認ムルモノヲ除クノ外長深ノ一〇・五倍未滿、長幅ノ五・七倍未滿、幅深ノ一・七五倍以上タルコトヲ要ス

機船底曳網漁業ヲ營ム船舶ハ總噸數三十噸以上タルコトヲ要ス但シ白沙岬、東犬島ヲ連結スル線ノ西南海面ヲ操業區域トシ且漁業根據地及漁獲物陸揚港ヲ新竹州下及臺中州下ニ置ク場合ニ限リ總噸數十五噸迄低下スルコトヲ得

前三項ノ測定ハ臺灣船舶測度規程ニ依ル

第十一條　トロール漁業及機船底曳網漁業ハ臺灣總督ノ告示シタル禁止區域內ニ於テ之ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　第一條ノ漁業ハ許可ヲ受ケタル操業區域內ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第十三條　第一條ノ漁業ニ依ル漁獲物ハ漁業根據地又ハ漁獲物陸揚港ニ非サレハ之ヲ陸揚スルコトヲ得ス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ又ハ特別ノ事由アル場合ニ於テ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　トロール船ノ船體ハ之ヲ黑色トシ船首部兩舷側上甲板直下錨鎖孔ノ後方ニ三十センチメートルノ間隔ヲ保チ白色ノ文字ヲ以テ明瞭ニ横ニ船名ヲ表記スヘシ但シ文字ハ其ノ大サ五十センチメートル平方以上タルコトヲ要ス

機船底曳網漁業ニ使用スル船舶ハ船首兩側及艫部ニ別記第二號樣式ニ依リ許可番號ヲ表記スヘシ

第十五條　トロール船ノ煙筒ハ其ノ上端ヨリ煙筒ノ直徑ニ等シキ距離以下三メートルノ間ヲ白色トシ其ノ以外ハ全部黑色トシ白色部ノ兩舷側ニ別記第一號樣式ニ依リ許可番號ヲ黑色六十センチメートル大ノ文字ヲ以テ明瞭ニ縱ニ表記スヘシ但シ文字ハ各字割ノ大サヲ十センチメートルトシ三十センチメートルノ間隔ヲ保ツコトヲ要ス

第十六條　オツターボールド及トロールヘツドノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

オツターボールド

一　ボールドノ下部前後ノ彎曲ハ其ノ半徑三十センチメートル以上タルヘシ
二　靴金ハ裂疵其ノ他破損アルヘカラス
三　靴金ハ鑄鐵ヲ用ヰタルトキハ〇釘ニテ取附ケ鋼鐵又ハ鍛鐵ヲ用ヰタルトキハ其ノ取附部ニハ堅材ヲ用ヰ〇釘ヲ以テ之ヲ取附クヘシ但シ總テ〇釘又ハ鋲釘ノ頭ハ靴金ノ面ト凹凸アルヘカラス
四　ボールドノ下部內外兩側ニ取附クヘキ鐵板ハ靴金ト接合セシメ其ノ接合部ハ靴金ノ下部ヨリ三センチメートル以上上部タルヘシ但シ靴金ノ兩側ト凹凸アルヘカラス
五　ボールドノ內外面ニ於ケル前後兩端ノ鐵板ハ靴金ト接合セシメ其ノ接合部ハ凹凸アルヘカラス
六　ボールドノ前端ノ木材面ト靴金面トハ凹凸ナク且其ノ接合部ハ厚五ミリメートル以下ノ鐵板ヲ以テ之ヲ蓋フヘシ
七　螺釘ノ頭ハボールドノ內面ニ置キ且全部孔內ニ嵌入スヘシ但シ其ノ頭ノ半球狀ナルモノニ在リテハ之ヲ孔內ニ嵌入セサルモ妨ナシ
八　ボールドノ內外面ニ於ケル前後兩端ニハ厚十ミリメートル以上ノ鐵板ヲ當テ之ヲ螺釘ニテ締附クヘシ但シ鐵板面ト木材面トハ凹凸アルヘカラス
九　ボールドノ外面ニハ縱横ニ幅十センチメートル以上厚五センチメートル以上ノ木材各二本ヲボールド面ニ取附ケ各木材ノ先端ハ彎曲タルヘシ但シ横ニ取附クル木材ノ長ハボールドノ前後兩端ノ鐵板間ノ距離以上ニシテボールドノ全長以下タルヘク縱ニ取附クル木材ノ長ハ上端ハボールドノ上端ト凹凸ナク下端ハボールドノ下端ヨリ距離十三センチメートル以上二十五センチメートル以下タルヘシ又木材取附ケニ用ウル螺釘ノ母螺ハ全部孔內ニ嵌入スヘシ
十　ボールドブライドルチエイントノ取附ケニ用ウルシヤツクルノ串又ハ螺釘ハ常ニボールドノ側ニ向ヒ又ボールドト漁網トノ取附ケニ用ウルシヤツクルノ串又ハ螺釘ハ常ニ漁網ノ側ニ向ヒ取附ケ逆轉セサル樣ニ裝置スヘシ
十一　シヤツクルニハ母螺ヲ用ウヘカラス

トロールヘツド

一　トロールヘツドノ前端下部ノ彎曲ハ半徑三十センチメートル以上タルヘシ
二　トロールヘツドハ裂疵其ノ他破損アルヘカラス
三　トロールヘツドノ靴金ハ之ヲ取附ケタルモノニ在リテハ鋲釘ヲ以テ固著スヘシ
四　前號靴金ノ前部ノ端ハトロールヘツドノ底ヨリ三十センチメートル以上ニ之ヲ置キトロールヘツドト凹凸アルヘカラス

前項ニ規定スル構造以外ノオツターボールド又ハトロールヘツドハ臺灣總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條　オツターボールドニハ其ノ所屬船ノ名稱及許可番號ヲ表記スヘシ

第十八條　第一條ノ漁業ヲ爲ス者ハ船長ヲ定メ乘込ムヘキ船舶ノ名稱、族籍及住所ヲ記載シタル履歷書ヲ添ヘ臺灣總督ニ屆出ツヘシ

船長ノ族籍、氏名、住所若ハ乘組船舶ニ變更アリタルトキハ十五日以內ニ臺灣總督ニ屆出ツヘシ船長ヲ解傭シタルトキ亦同シ

第十九條　トロール船ノ船長ハ別記第三號樣式ニ依ル操業日誌ヲ、機船底曳網漁業ヲ爲ス船舶ノ船長ハ別記第四號樣式ニ依ル操業日誌ヲ船舶內ニ備ヘ毎日之ヲ記載スヘシ

第二十條　第一條ノ漁業ヲ爲ス者ハ毎年十二月末日ヨリ、事業年度ノ定メアルトキハ其ノ終了ノ日ヨリ二月內ニ一年度又ハ一事業年度ノ事業報告書ヲ作リ之ヲ臺灣總督ニ提出スヘシ

臺灣總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ報告書其ノ他ノ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條　トロール漁業者ハ毎月二十五日迄ニ其ノ前月分ノ成績ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第二十二條　臺灣總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ漁業ヲ爲ス者ニ對シテ船長ノ下船又ハ解傭ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條　漁業法第四十一條ニ依リ漁業監督ノ權限ヲ有スル者左ニ掲クル信號ヲ爲シタルトキハ第一條ノ漁業ニ從事スル船舶ハ直ニ停船スヘシ

一　晝間ニ在リテハ萬國船舶信號書ニ掲載スル停船信號ヲ掲ケ且約一秒時ノ間隙ヲ以テ汽笛ノ長聲一發短聲四發ヲ連發ス
二　夜間ニ在リテハ前號ト同樣ノ音響信號ヲ爲ス

本條ニ於テ長聲トハ約四秒乃至六秒時ノ發聲ヲ謂ヒ短聲トハ約一秒時ノ發聲ヲ謂フ

第二十四條　臺灣總督ニ於テ水產動植物ノ蕃殖保護、漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ漁業ノ許可ヲ制限、停止又ハ取消スコトアルヘシ

第二十五條　第一條ノ漁業ヲ爲ス者漁業法、漁業法施行規則若ハ本令ノ規定又ハ本令ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタルトキハ臺灣總督ハ其ノ許可ヲ制限、停止又ハ取消スコトアルヘシ

第二十六條　前條ノ規定ニ依ル處分ハ當該漁業者ノ有スル全部ノ許可ニ付之ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條　第一條ノ漁業ヲ爲ス者引續キ一年以上許可ヲ受ケタル船舶ヲ使用シテ漁業ヲ營マス又ハ其ノ船體ニ著シキ變更ヲ加ヘタルトキハ臺總總督ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十八條　臺灣總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ漁業ヲ爲ス者ニ對シ船舶ノ碇泊港ヲ指定シテ碇泊ヲ命シ又ハ船舶ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第二十九條　許可ヲ受ケスシテ汽船ニ依ラサル捕鯨業ヲ營ミタル者ハ六月以下ノ懲役、禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十條　第一條ノ漁業ヲ爲ス船舶ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　禁止區域內又ハ操業區域外ニ於テ投網シタルトキ
二　第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ
三　船名又ハ許可番號ノ表記ヲ隱蔽シタルトキ
四　正當ノ事由ナクシテ操業日誌ヲ船內ニ備ヘス又ハ毀棄シタルトキ
五　正當ノ事由ナクシテ操業日誌ノ記載ヲ爲サス又ハ不正若ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ
六　海上衝突豫防法第九條第一項第四號ニ規定シタル燈火ヲ掲ケサルトキ
七　第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ
八　許可ノ條件又ハ制限ニ違反シタルトキ
九　第二十四條乃至第二十六條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シテ操業シタルトキ

第一條ノ漁業ヲ爲ス者前項ノ所爲ヲ指揮シタルトキ罰亦同シ但シ汽船トロール漁業者及汽船捕鯨業者ニ對シテハ漁業法ノ定ムル處ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ犯人ノ所有又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十一條　第一條ノ漁業ヲ爲ス者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十四條乃至第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ
二　第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ鯨處理場ヲ設ケタルトキ又ハ其ノ設備ヲ變更シタルトキ
三　第二十八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ檢査ヲ拒ミタルトキ
四　第二十條第二項、第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第三十二條　許可ヲ受ケス又ハ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ違反シテ營ミタル漁業ノ漁獲ナルコトヲ知リテ販賣シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　第一條ノ漁業ヲ爲ス者第九條、第十八條、第二十條、第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

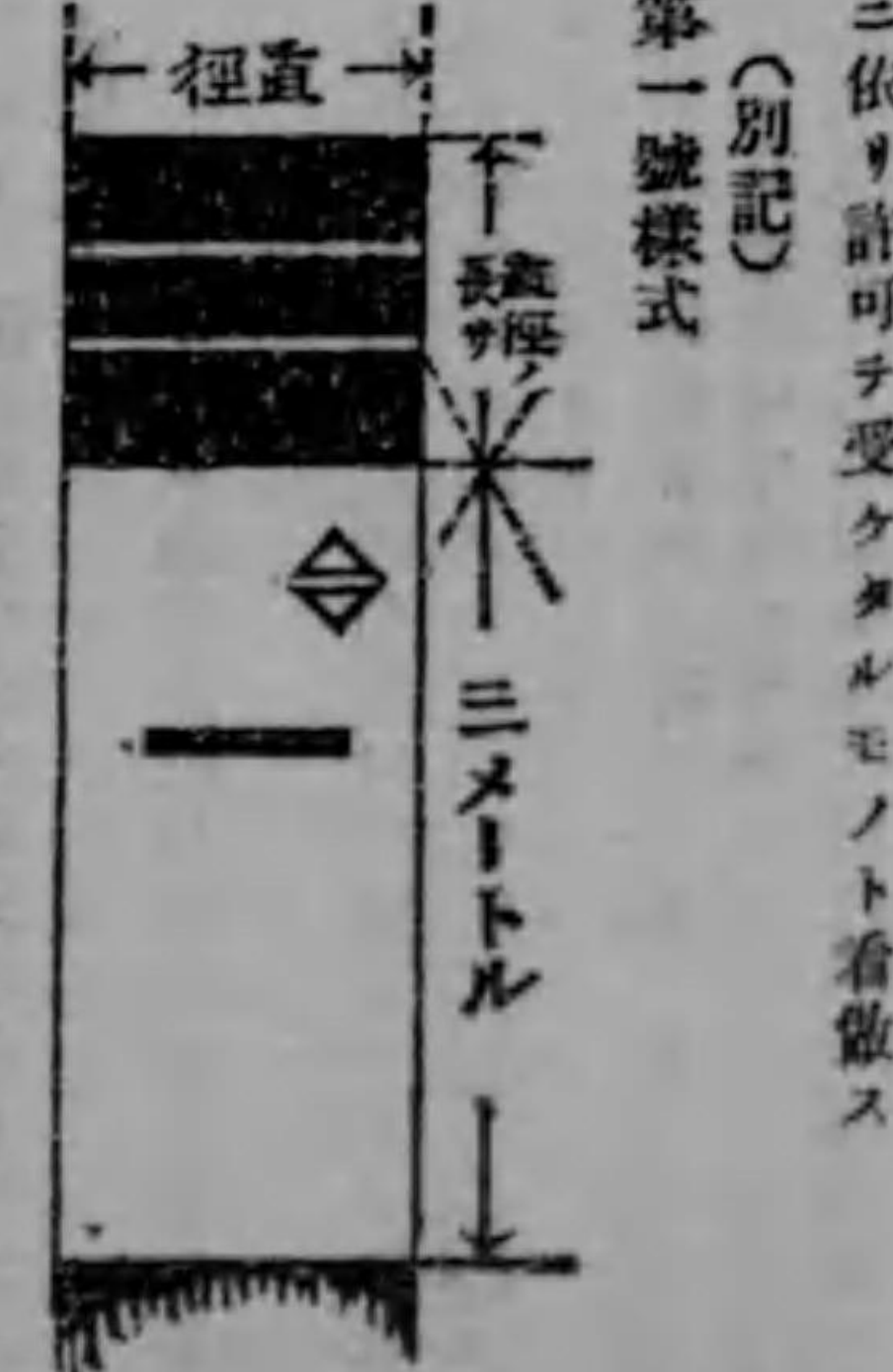
大正元年府令第四十三號ハ之ヲ廢止ス

第十條ノ規定ハ本令施行前ヨリ臺灣總督ノ許可ヲ受ケトロール漁業ニ使用スル船舶ニ之ヲ適用セス

本令施行ノ際現ニ鯨處理場ヲ有スル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

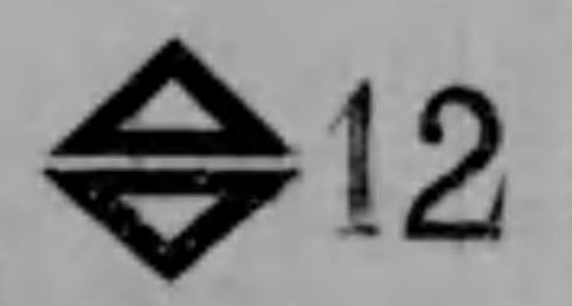
（別記）

第一號樣式



⊜ノ大サハ黑色五センチメートル平方以上
太サハ十センチメートル以上

第二號樣式



備考　符號及各文字ノ大サハ十五センチメートル平方以上文字ノ太サハ三センチメートル以上頭字ト數字トノ間隔ハ六センチメートル以上各數字ノ間隔ハ五センチメートル以上トシ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

記載心得

一　記事ノ欄內ニハ左ノ事項ニ付記入スヘシ

一　發著ノ地名、時刻及推測起算點ノ地名、方位、距離
二　機關運轉ノ始動及停止時刻
三　船內執業及漁網使用ノ狀況並漁網使用中ノ海況
四　岬角燈臺、島嶼、礁、標等本船ノ位置ヲ推定スルニ適當ノ場所ヲ航行スルトキハ其ノ方位、距離、距離測定ノ方法及時刻
五　本船所在ノ實測ヲ爲シタルトキハ其ノ位置、實測種別及時刻
六　他船ニ邂逅シ又ハ他船ノ通信ヲ受ケタルトキハ其ノ船、各時刻及通信ノ要旨、邂逅船カ「トロール」汽船ナルトキハ併セテ其ノ許可番號
七　燈光若ハ信號ヲ認メ又ハ砲聲其ノ他ノ音響ヲ聞キタルトキハ其ノ時刻及顚末
八　衝突、座礁其ノ他海難ニ罹リタルトキハ其ノ時刻及顚末
九　海底電線又ハ他ノ漁業者ノ漁具ニ損

傷ヲ與ヘタルトキハ其ノ位置ノ品名、數量等

十　根據地出發當時ノ氷、石炭等ノ積載數量

二　漁獲物及數量欄內ニハ漁獲物ノ種類別ニ目方ヲ以テ其ノ數量ヲ記載スヘシ

三　漁場欄內ノ經度及緯度ハ投網場所ノ經緯度方向及距離ハ漁網ノ引曳ノ直航方向及其ノ距離、水深及底質ハ投網場所ニ於ケルモノ潮流ノ速力ハ一時間ノ平均ヲ記入スヘシ

第三號樣式

第（何）號（何）丸

トロール漁業

操業日誌

時	航程		針路	自差	天候	風		晴雨計	温度		涘ノ	漁具ノ使用時		風壓	記事
	キロメートル（浬）					方位	力		大氣	海水	水高	終	始		
1															午前
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
正午															
1															午後
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
正午															
均															

				漁場								漁獲物種類數量
				位置		方向	距離	水深	底質	潮流		
				經度	緯度					方向	速力	
	海流	方位										
		速力										
	羅針偏差	午前										
		午後										
	吃水	船首										
		船尾										
	錨鎖	右舷										
		左舷										

舵取 見張人	當直員
平	

正午所在	經度	實測
		推測
	緯度	實測
		推測
直航方位		實測
		推測
直航距離		實測
		推測

第四號樣式

出港　年　月　日
入港　年　月　日

機船底曳網操業日誌

（何丸）

目次	回數	位置	海深	底質	風向	風力	流向	流速	水温	氣温	漁獲物種類及量

第五號樣式

船舶調書

一　船名
二　船體ノ長幅及深
三　外板及船骨材料
四　機關ノ種類及數
五　計畫總噸數
六　實馬力又ハ純馬力若ハ公稱馬力
七　計畫最强速力
八　豫定起工年月日（建造中ノモノハ起工年月日）
九　豫定竣工年月日
十　製造所ノ位置及名稱
十一　漁具ノ構造（機船底曳網漁業ニ限ル）

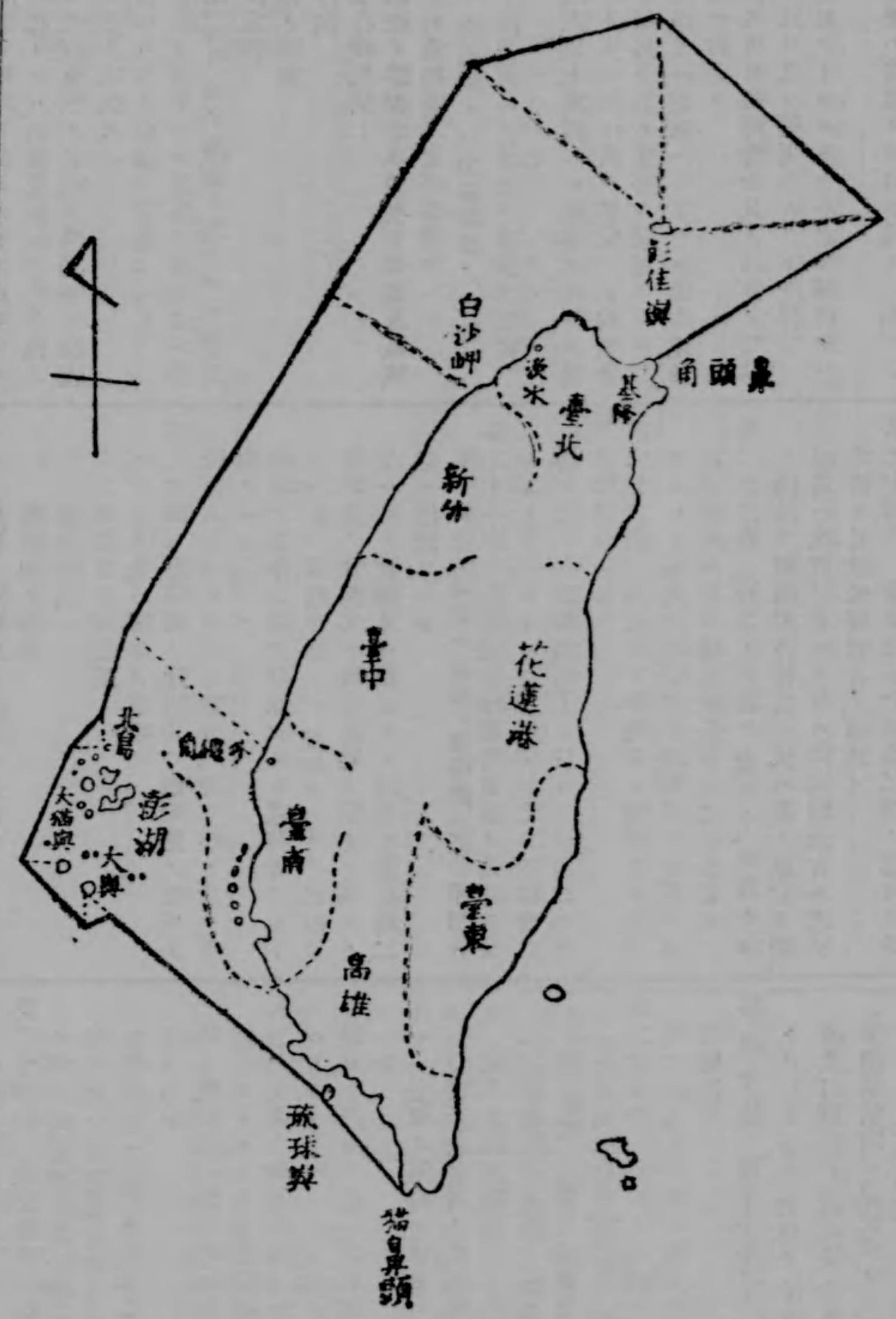
（大正十五年三月五日　臺灣總督府告示第二十六號）

トロール漁業及機船底曳網漁業禁止區域左ノ通相定ム

トロール漁業及機船底曳網漁業禁止區域

トロール漁業及機船底曳網漁業ハ左ノ順次ニヨリ各點ヲ連結スル線內（別記圖面ノ通）ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　高雄州猫鼻頭南端
二　高雄州琉球嶼西南端
三　高雄州大嶼南端ヨリ琉球嶼ノ西南端ヲ見通シ十八キロメートル五二（十海里）ノ點
四　高雄州大嶼ノ南端ヨリ正南ヘ十八キロメートル五二（十海里）ノ點
五　北島燈臺ヨリ正西ヘ十八キロメートル五二（十海里）ノ點
六　北島燈臺ヨリ正北ヘ十八キロメートル五二（十海里）ノ點
七　臺南州海口厝外繩角ヨリ西北ヘ七十四キロメートル〇八（四十海里）ノ點
八　白沙岬燈臺ヨリ西北ヘ七十四キロメートル〇八（四十海里）ノ點
九　彭佳嶼燈臺ヨリ西北ヘ百十一キロメートル一二（六十海里）ノ點
十　彭佳嶼燈臺ヨリ正北ヘ八十二キロメートル六（五十海里）ノ點
十一　彭佳嶼燈臺ヨリ正東ヘ八十二キロメートル六（五十海里）ノ點
十二　鼻頭角燈臺



●樺太ニ於ケル漁業法施行規則

（大正十五年五月二十七日　樺太廳令第十二號）

樺太ニ於ケル漁業法施行規則左ノ通改正ス

樺太ニ於ケル漁業法施行規則

第一條　本令ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業及專用漁業ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第三條　免許漁業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ハ樺太廳長官ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ屆出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正、補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ五十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條　本令ニ依リ行政官廳ニ於テ爲ス公告ハ一定ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條　左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

一　定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ敷設スル區域
二　區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
三　專用漁業ニ在リテハ專用スル區域

第八條　水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價値ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ漁業權變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　鰊及鱒鮭ノ定置漁業又ハ專用漁業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ之カ免許ヲ與ヘス

一　漁業法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ漁業ノ免許ヲ取消サレタル者又ハ其ノ取消ヲ受ケサル前行政官廳ノ指示ニ從ヒ漁業權ヲ拋棄シタル者ニ於テ樺太廳長官ノ指定スル所ニ從ヒ漁業ノ免許ヲ出願シタルトキ

二　漁業組合ニ於テ樺太廳長官ノ指定スル所ニ從ヒ漁業ノ免許ヲ出願シタルトキ

漁業ノ種類カ定置漁業ニ係ルトキハ其ノ漁場ノ位置ハ隣接スル同種漁業ノ漁場ト鰊ニ在リテハ六百間、鱒鮭ニ在リテハ千二百間以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル漁場間ノ距離ハ漁場區域ノ中心ヲ縱斷スル直線間ノ最短距離ニ依リ之ヲ算出ス

漁業ノ種類カ專用漁業ニ係ルトキハ其ノ漁具ノ種類ハ鰊ニ在リテハ刺網及小建網、鱒鮭ニ在リテハ小建網ニ限ル但シ漁場ノ狀況ニ依リ小建網ヲ地曳網ニ變フルコトヲ得

第十條　第八條第二項及前條第二項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第十一條　鰊及鱒鮭ノ免許漁業ノ漁業時期ハ

地方別ニ依リ鰊ト鱒鮭ト重複セサル範圍内ニ於テ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　定置漁業ノ漁場區域ハ鰊ニ在リテハ幅百間沖出五百間以内、鱒鮭ニ在リテハ幅百五十間沖出八百間以内トシ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル但シ樺太廳長官ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル場合ハ沖出ニ限リ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十三條　漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ一漁業毎ニ、其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
二　漁獲物ノ種類
三　漁業時期
四　漁業權存續期間

第十四條　前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ

定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第十五條　二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ屆出テ又ハ願書ニ記載スヘシ

代表者ノ屆出又ハ記載ナキトキハ樺太廳長官ハ代表者ヲ指定ス

第十六條　代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

代表者ニ變更アリタルトキハ之ヲ屆出ツヘシ

代表者ノ變更ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條　前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス第十五條及第十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スルモノト看做ス

第十九條　漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ樺太廳長官ハ左ノ事項ヲ公告ス

一　免許番號
二　免許年月日
三　漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
四　漁場ノ位置
五　漁業ノ種類及名稱（專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法）
六　漁獲物ノ種類
七　漁業時期
八　漁業權存續期間
九　條件又ハ制限ノ事項

第二十條　漁業權ノ分割其ノ他變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第十四條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第二十一條　漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作リ存續期間滿了ノ日ヨリ一月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十二條　漁業權ノ分割其ノ他變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ樺太廳長官ハ之ヲ公告ス

第二十三條　漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ樺太廳長官ハ之ヲ公告シ且登錄權利者ニ通知ス

第二十四條　漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第二十五條　免許漁業ノ休業認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

休業認可ノ期間内ニ漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第二十六條　漁業權ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條　漁業權者ハ定置漁業ノ漁場ニ在リテハ別記雛形第一號、區劃漁業ノ漁場ニ在リテハ別記雛形第二號、專用漁業ノ漁場ニ在リテハ別記雛形第三號ノ漁場標識ヲ建設スヘシ

樺太廳長官ニ於テ漁場標識ノ建設方法ニ付指示シタルトキハ漁業權者ハ之ニ從フヘシ

第二十八條　漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲タル事項ヲ具シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ之ヲ樺太廳長官ニ願出ツヘシ

一　土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間
二　立木又ハ土石ノ除去ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第二十九條　前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ樺太廳長官ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告ス

第三十條　漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、面積、現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ之ヲ樺太廳長官ニ願出ツヘシ

第三十一條　漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ願出ツヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者支障木ヲ伐採シ又ハ障害物ヲ除去スルトキハ許可證ヲ携帶スヘシ

第三十二條　漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可、其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲ニモ亦效力ヲ有ス

第三十三條　臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條　漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ樺太廳長官ニ之ヲ爲スヘシ

第三十五條　裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ且證據書類ヲ添附スヘシ

一　申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
二　申請ノ目的及理由
三　立證

申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前項書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第三十六條　樺太廳長官ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ答辯書提出期限ヲ指定ス

第三十七條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附ス裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

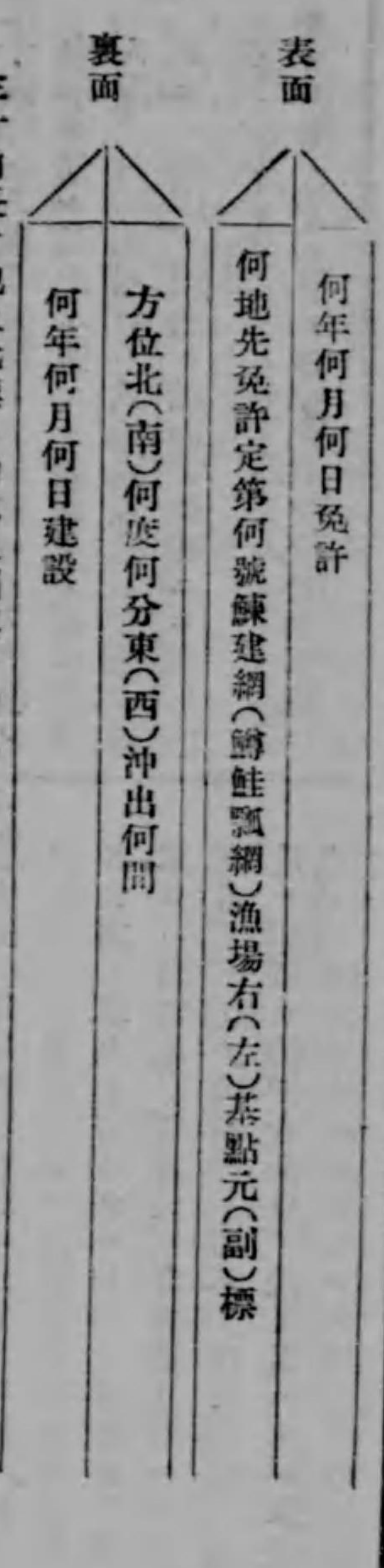
本令施行ノ際現ニ定置漁業權ヲ有スル者ニシテ大正十五年十月三十一日迄ニ漁業區域ニ付漁業權變更ノ許可ヲ出願シタル場合ニ於テハ第八條第二項ノ規定ニ拘ラス之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願スルコトヲ得ル漁業ノ漁場區域ハ基點方位線ヲ中心トスルコトヲ要ス

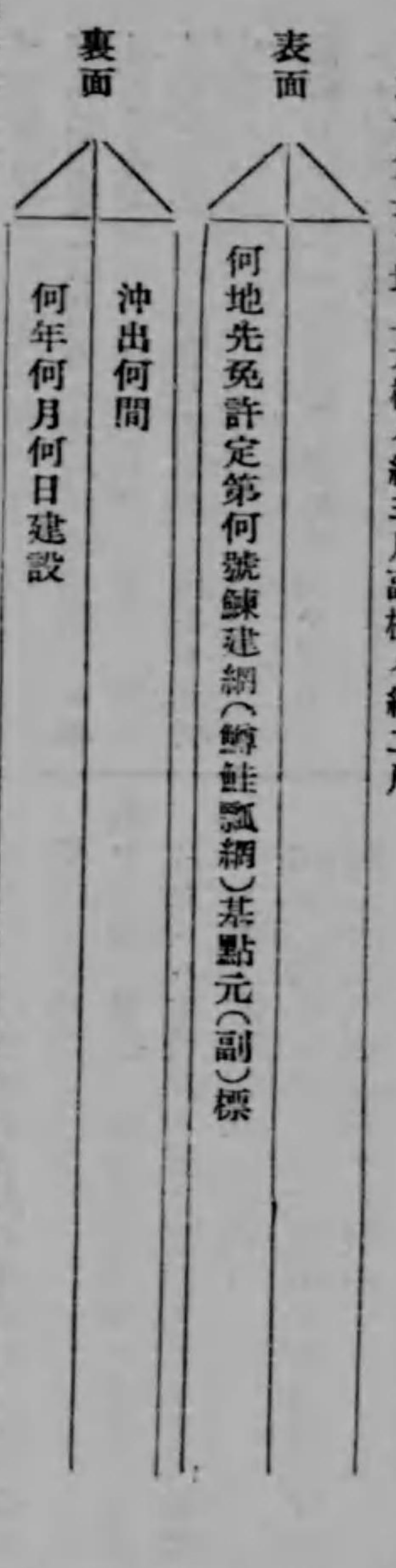
本令施行ノ際現存スル專用漁業ニシテ其ノ漁具ノ種類カ鱒鮭船曳網ノモノニ付テハ大正十五年十月三十一日迄仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得

（別記）

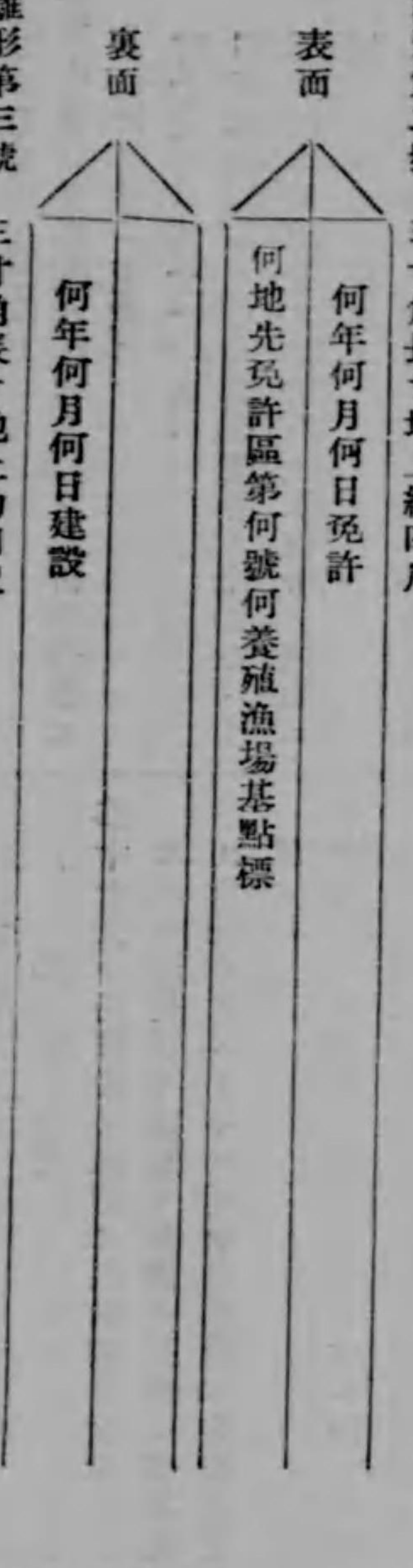
雛形第一號　三寸角長サ地上元標ハ約四尺副標ハ約二尺


表面
何年何月何日免許
何地先免許定第何號鰊建網（鱒鮭瓢網）漁場右（左）基點元（副）標
裏面
方位北（南）何度何分東（西）沖出何間
何年何月何日建設

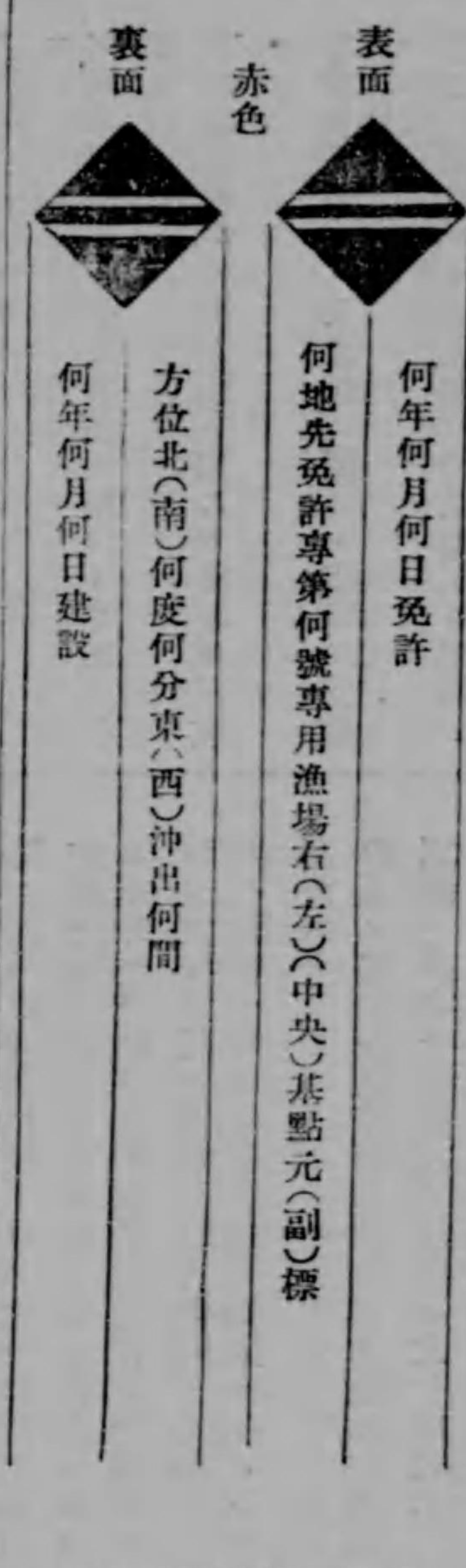
三寸角長サ地上元標ハ約三尺副標ハ約二尺



雛形第二號　三寸角長サ地上約四尺



雛形第三號　三寸角長サ地上約四尺


表面
何年何月何日免許
何地先免許專第何號專用漁場右（左）（中央）基點元（副）標
赤色
裏面
方位北（南）何度何分東（西）沖出何間
何年何月何日建設

●漁業法第四條ニ依リ樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類

（明治四十四年三月二十八日閣令第三號）
（改正　大正九年第五號、一五年第三號）

漁業法第四條ニ依リ樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類左ノ通定ム

第一條　樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類左ノ如シ

漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ノ種類

一　臺網類漁業　敷網及垣網ヲ土俵ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
二　落網類漁業　落網、上網及垣網ヲ土俵ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ノ種類

一　第一種　一定ノ區域内ニ於テ瓦石竹木等ヲ沈設シ又ハ濱ヲ建設シテ爲ス養殖業
二　第二種　土石竹木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
三　第三種　前二號ヲ除クノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

第二條　前條ノ規定ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律

（明治四十四年三月二十九日法律第四十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

樺太ニ於テ漁業ノ免許ヲ受ケタル者漁業料ノ納付ヲ怠リタルトキハ樺太廳長官ハ免許ヲ取消スコトヲ得

樺太ニ於ケル漁業料ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法及明治四十年法律第三十四號ヲ準用ス但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル漁業登錄令施行規則

（明治四十四年四月樺太廳令第五號）

樺太ニ於ケル漁業登錄令施行規則

第一章　登錄ニ關スル帳簿

第一條　免許漁業原簿ハ專用漁業權ニ關シテハ第一號樣式ニ定置漁業權ニ關シテハ第二號樣式ニ其ノ他ノ漁業權ニ關シテハ第三號樣式ニ依リ之ヲ作ル

共同漁業權者名簿ハ第四號樣式ニ依ル

第二條　免許漁業原簿及共同漁業權者名簿ハ一漁業權毎ニ一用紙ヲ備フ

前項ノ規定ハ入漁登錄簿及共同入漁權者名簿ニ之ヲ準用ス

第三條　入漁登錄簿ハ第五號樣式ニ共同入漁權者名簿ハ第六號樣式ニ依リ之ヲ作ル

第四條　免許漁業ノ漁場圖ニハ免許番號ヲ入漁ノ漁場圖ニハ入漁登錄番號ヲ記載シ各其ノ順序ニ依リ之ヲ綴込ミ丁數ヲ附ス

賃借權設定ノ場合ニ申請書ニ漁場圖ノ添附アルトキハ別ニ之ヲ綴込ミ丁數ヲ附ス

第五條　登錄受付簿ハ第七號樣式ニ依リ毎年之ヲ作ル

第六條　登錄ニ關シテハ免許漁業原簿共同漁業權者名簿入漁登錄簿共同入漁權者名簿漁場圖綴込帳及登錄受付簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　通知簿
二　謄本抄本交付閱覽申請事件簿
三　代表者名簿
四　見出帳
五　異議ニ關スル書類綴込帳
六　登錄申請書囑託書附屬書類綴込帳
七　謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳
八　申請却下原議綴込帳

第七條　通知簿ニハ漁業登錄令第三十七條ニ依ル通知事項、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印ス

第八條　謄本抄本交付閱覽申請事件簿ニハ事件名、申請人ノ氏名若ハ名稱、受付年、月日、受付番號及交付年月日ヲ記載シ交付スル謄本又ハ抄本ト契印ス

第九條　代表者名簿ニハ免許番號代表者ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ記載ス

第十條　漁業法施行規則ニ依ル代表者ハ漁業登錄令第二十八條第三號但書及第三十七條第三項ノ代表者ト看做ス

第十一條　見出帳ハ索出ニ便ナル方法ヲ以テ分類シ免許番號漁業權者ノ氏名若ハ名稱及免許漁業原簿ノ册數丁數ヲ記載ス

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ二人以上ナルトキハ其ノ筆頭人ノミノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十二條　免許漁業原簿ノ免許番號欄ニハ免許番號ヲ記載ス